昭和歌謡職業作曲家ガイド

監修＝馬飼野元宏

SHINKO MUSIC ENTERTAINMENT CO.,LTD.

CamScannerでスキャン

目次

4 はじめに／凡例

5 PART 1
フリー作曲家たちの登場

8 中村八大
16 浜口庫之助
21 宮川泰
26 いずみたく
34 鈴木道明
36 平岡精二
38 吉田正
42 小川寛興

45 PART 2
グループ・サウンズ黄金期を支えた作曲家

48 鈴木邦彦
68 平尾昌晃
74 東海林修
76 筒美京平
106 村井邦彦
116 すぎやまこういち
118 萩原哲晶
120 渋谷毅
122 中島安敏
124 川口真

129 PART 3
歌謡ポップスから演歌まで

132 中村泰士
140 鈴木淳
142 三木たかし
150 船村徹
154 猪俣公章
158 遠藤実
162 浜圭介
164 藤本卓也
166 ベンチャーズ

169 PART 4
戦後世代の作曲家たち

172 都倉俊一
182 森田公一
188 佐々木勉
190 大野雄二
192 馬飼野康二
196 馬飼野俊一
200 加瀬邦彦
203 井上大輔
208 大野克夫
212 樋口雄右

CamScannerでスキャン

221 PART3
シンガー・ソングライターたちの隆盛

224 宇崎竜童
226 大瀧詠一
228 細野晴臣
236 谷村新司
238 加藤和彦
240 吉田拓郎
242 松任谷由実
244 中島みゆき
246 尾崎亜美
248 来生たかお
250 ミッキー吉野
258 林哲司
262 佐瀬寿一
264 芹澤廣明
266 織田哲郎
268 長戸大幸
270 宮下智
272 小田裕一郎
274 鈴木キサブロー
276 NOBODY
278 山川恵津子
280 小室哲哉

特選シンガー

12 坂本九
28 ザ・ピーナッツ
32 ピンキーとキラーズ
44 中村晃子
58 西城秀樹
102 平山三紀
122 南沙織
126 郷ひろみ
128 岩崎宏美
142 赤い鳥
158 ちあきなおみ
181 山本リンダ
217 キャンディーズ
250 山口百恵

名曲解説

18 上を向いて歩こう
65 恋のハレルヤ
90 真夏の出来事
115 美しい星
147 津軽海峡・冬景色
218 春一番
231 横須賀ストーリー

コラム

137 作曲家を支えたアレンジャー名鑑
198 GS出身の作曲家

285 索引

287 著者プロフィール

CamScannerでスキャン

はじめに

本書は、歌謡曲に数多くの作品を発表してきた作曲家を主軸にした、歌謡曲のディスク・ガイドです。2015年に発売した「昭和歌謡ポップスアルバムガイド1959-1979」の姉妹編にあたるものです。

本書で紹介しているのは、歌謡曲シーンが活発になりはじめた1950年代後半に頭角を現した作曲家から、アナログ盤シングルの生産が終了する80年代末頃までにシーンに登場してきた作曲家までで、そのプロフィールと作家性を解析しつつ、その作曲家が世に送り出したヒット曲や隠れた名曲などを紹介しています。また、昭和歌謡と銘打っているだけに、中心となるのは60年代~80年代の歌謡曲ですが、作曲家のキャリアや本質を知る上で必要と思われる、90年代以降の諸作品も一部、紹介しています。

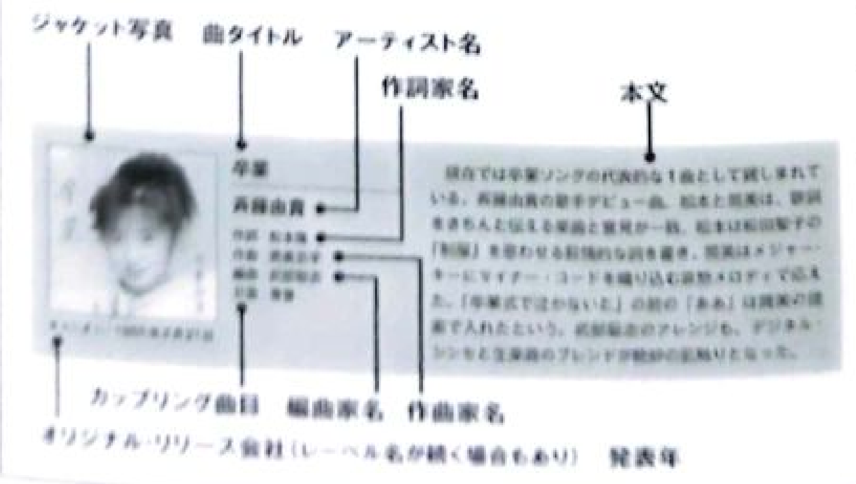
「職業作曲家」とは、歌謡曲シーンでは普通に使われる言葉ですが、歌謡曲というものが、ヒットを目的として、レコード会社の主導により、専業の作詞家、作曲家、アレンジャーを集めいちから作り上げる商業音楽であるという点から、それらを作り出してきた作曲家を「職業作曲家」と呼んでいます。本書ではそういった作曲家たちの肖像と生み出してきた作品を紹介していますが、一部、自作自演者でありながら継続して他者に作品を提供してきた作曲家たちも掲載しています。また、紹介される楽曲は、ポップスの範疇に入るものがほとんどですが、一部、演歌を中心とする作曲家も掲載しました。これは、ポップスの作家も演歌を書き、演歌が多い作曲家もポップスを発表している、歌謡曲全盛時代特有の、職業作曲家のあり方を鑑みてのものです。その意味では自作自演者の他者提供作も同じ意味合いです。

歌謡曲は基本的に「他作自演」の世界で、歌手と作曲家はフィックスで、継続して楽曲提供を受けることが多いため、その作曲家に数多くの楽曲提供を受けた歌手、つまり作曲家と歌手のコラボレーションの代表的な人たちを紹介しています。楽曲紹介の項においては、その作曲家と数多くコンビを組んだ作詞家とのコラボレーションを中心に、楽曲を分類しました。また、一部の楽曲には譜面を掲載し、作曲家がどのような発想で楽曲を組み立てているのかを分析しています。

アナログ・レコードが再び脚光を集め、DJたちが巷で和モノをプレイする時代になり、動画サイトで気軽に昭和の音楽に触れる事が可能になった現在、あらためて昭和の職業作曲家たちが作り上げてきた楽曲のクオリティの高さに注目が集まっています。歌謡曲の広い裾野、深い海のほんの一部ではありますが、本書を手に取ってくださった皆様に、その黄金時代を支えてきた作曲家たちの仕事ぶりを楽しんでいただければ幸いです。

2018年3月6日　監修者

本書の見方



・アーティスト名、タイトルなどは、基本的にディスクの表記に準じている。
・ジャケット写真、曲目、レコード会社名は、一部を除き基本的にオリジナル・リリース時のものを掲載。
・以下のレコード会社名は、キャプション中では省略して掲載。
東芝音楽工業、東芝EMI→東芝
日本ビクター、ビクターエンタテインメント→ビクター
キングレコード→キング
日本クラウン、クラウンレコード→クラウン

CamScannerでスキャン

PART 1

フリー作曲家たちの登場

日劇ウエスタン・カーニバルの成功以降、音楽シーンに新たな風が吹いた。専属制度の縛りを離れ作曲家たちが次々と現れ、後世に残る名曲を生み出していく。新しい歌謡曲の礎を築いたのは彼らである。

CamScannerでスキャン

PART 1

フリー作曲家たちの登場

text：馬飼野元宏

1958年、第1回の「日劇ウエスタン・カーニバル」が開催され、その同じ年の暮れに東京タワーが竣工。そして翌59年にはNET（現在のテレビ朝日）とフジテレビが開局し、エンターテインメントの新しい時代が始まった。ちょうどこの1959年には音楽シーンでもあらたな出来事が始まった。1つは古賀政男、服部良一ら戦前から活躍する、レコード会社所属の作曲家による親睦団体「日本作曲家協会」が設立されたことである。そしてもう1つは、その作曲家協会の主導により、その年を代表するポピュラー音楽を表彰しようという目的で、第1回の「日本レコード大賞」が開催されたことである。その第1回の大賞に選ばれたのが水原弘の「黒い花びら」。作曲者はジャズ・ピアニストとして成功を収めていた中村八大である。

中村八大は早稲田大学在学中にピアニストとして頭角を現し、ジャズはもとより、新たなポップ・ミュージックのトレンドであるロカビリー、そしてNHK『夢であいましょう』の音楽を手がけるなど、それまでの歌謡曲の作曲家とは異なるスタイルで、縦横無尽の活躍をみせた。

それまで、日本の歌謡曲の作り手である作曲家は、レコード会社の専属制度の中にあった。古賀政男はコロムビア・レコードの専属作曲家であり、同様に吉田正はビクターの専属である。古賀の曲を歌えるのはコロムビアに所属している歌手だけであり、こういったレコード会社の縛りには強固なものがあった。この制約の外側から最初に現れて活躍し始めた、いわばフリーの作曲家の第1号とも呼べる存在が中村八大である。彼の出世作となった「黒い花びら」は、東宝映画『青春を賭けろ』の音楽を制作する際に作られた1曲だった。

同様に、ミュージシャンから作曲家への転向では、浜口庫之助がいる。浜口はラテン・バンドのアフロ・クバーナのリーダーで、『紅白歌合戦』にも出演経験があるが、その後作曲家に転身、コロムビアの専属となる。だが、クラウン騒動（コロムビア所属のディレクターらが独立し、作曲家や歌手たちもこれに同調しクラウンレコードの設立に至った事件）を機にフリー作家になり、目覚ましい活躍をみせる。作詞と作曲の両方を手がける、

CamScannerでスキャン

いわばシンガー・ソングライター系作曲家の始祖とも呼べる作家だが、ハマクラ節といわれる、鼻歌のような言音一致のメロディ・ラインは、詞と曲を同時に作ることから生まれるものであり、そこに大きな必然性があるのだ。

さらに、ウエスタン・カーニバルで一躍、芸能界のトップに躍り出た渡辺プロダクションは、「ザ・ヒットパレード」「シャボン玉ホリデー」といった音楽番組を作り出すが、ここで活躍をスタートさせるのが宮川泰。宮川は渡辺プロダクション総帥・渡辺晋のバンド「シックス・ジョーズ」のピアニスト出身の作曲家である。渡辺プロの新人ザ・ピーナッツの教育係でもあり、幾多のピーナッツのヒット曲の生みの親でもある。

このようにジャズマン出身&渡辺プロダクションとの関係から生まれてきたフリーの作曲家たちが、新しい時代の歌謡曲の担い手となっていく。また、ロカビリーの隆盛と前後して、カヴァー・ポップスのブームが起こるが、このムーヴメントを先導する形になったのが、1960年に発足した新興のレコード会社、東芝音楽工業である。後発のレコード会社である東芝には、まだ看板作家と呼べる専属の作詞家、作曲家はおらず、作家の不足を補う意味でもカヴァー・ポップスを積極的に発売していった。東芝の草野浩二ディレクターは、兄が新興楽譜出版社（現シンコーミュージック・エンタテイメント）の月刊誌「ミュージック・ライフ」の編集長・草野昌一で、彼は漣健児のペンネームで、数多くの洋楽ナンバーの訳詞を手がけ、新しい時代の洋楽ポップスを日本の土壌に植え付けることに成功した。つまり、ロカビリーと並んでカヴァー・ポップスは、戦後最初の若者向け音楽であり、8ビートの概念を日本の音楽に定着させる役割を果たしたのだ。

コロムビア、ビクター、テイチク、ポリドール、キングのレコード会社5社の専属作家による制作体制は、まだゆるぎのないものであったが、新たなポップ・ミュージックのトレンドと足並みを揃えるようにフリーの作曲家の台頭が始まっていた。

60年代前半に入ると、宮川泰がザ・ピーナッツの「恋のバカンス」（63年）で、カヴァー・ポップスの模倣から脱却した、日本独自のオリジナルのポップスを誕生させる。同年に中村八大も梓みちよの「こんにちは赤ちゃん」や坂本九「明日があるさ」など、メロディからは洋楽の模倣を感じさせない、独自のポップスを誕生させている。また、やはり1963年に生まれた坂本九の「見上げてごらん夜の星を」も、その後現在に至るまで日本のスタンダード・ナンバーとして定着することとなった。この作曲者はやはりフリー作家のいずみたく。三木鶏郎の冗談工房に参加し、コマーシャル・ソングの作曲家としてまず世に出た。62年に自身のオール・スタッフ・プロダクションを設立し、歌謡曲の作曲を始めるのである。こうして少しずつフリー作曲家の楽曲が、世の中のニーズに対応するようになっていく。

CamScannerでスキャン

中村八大

ジャズのスター・プレイヤーから流行歌の作曲家への華麗なる転身

text 鈴木啓之

従来は歌手同様に作家もレコード会社の専属制が当たり前だった歌謡曲の世界に、新風を巻き起こした作曲家の筆頭に挙げられるのが中村八大である。1931（昭和6）年1月20日、青島生まれ。父親が日本人学校の校長を務めていた関係から、家にもピアノや蓄音機があったという。小学生の時に単身留学して新宿の国民学校へ転校し、東京音楽学校（現・東京芸術大学）付属の児童学園に通ってピアノや音楽理論の英才教育を受けた。戦後は引き揚げ先の福岡で旧制中学時代を過ごすが、そこでも音楽部を結成して活動に明け暮れたのだった。1949年に上京して早稲田大学高等学院に編入した頃からピアニストとしての活躍が始まり、早稲田大学進学後はクラリネット奏者として既に活躍していた兄・二大の紹介で、渡邊晋、松本英彦、南廣らと共に“シックス・ジョーズ”を結成。翌1951年には人気バンドとして雑誌「スイングジャーナル」の人気投票で2位の栄誉に浴し、八大自身もピアニストとして見事1位の座を獲得している。

その後、音楽のエンターテイメント性を重視するリーダー・渡邊との方向性の違いから松本と共にバンドを脱退した八大は、1953年にジョージ川口、松本英彦、小野満、中村八大によるジャズ・コンボ“ビッグ・フォア”を結成し、ジャズ・バンド・ブームに乗って大人気を博した。スター・プレイヤーとして熱狂的な支持を集めた彼らであったが、1950年代後半になるとジャズ・ブームも徐々に沈静化し、若者の音楽・ロカビリーの人気が主流となる。きっかけとなった「日劇ウエスタン・カーニバル」を仕掛けていたのが、所属アーティストの給料制など近代的システムを採り入れた芸能事務所、渡辺プロダクションを興していた渡邊晋だった。芸術性を追い求めるあまり一時期辛酸を舐めていた中村は、かつての仲間であった渡邊から、ロカビリーの人気者たちの出演による映画の音楽を依頼される。

東宝で作られた『檻の中の野郎たち』と『青春を賭けろ』の2作品における主題歌や挿入歌をいくつか手がけた中で、1959年7月に公開された『青春を賭けろ』の挿入歌「黒い花びら」のヒットが作曲家・中村八大の運命を決定づけた。映画の公開と同時に東芝レコードから発売されたシングル盤は水原弘のデビュー曲となり、その年にスタートした第1回日本レコード大賞のグランプリに選出されたのだった。発売元の東京芝浦電機レコード事業部（後の東芝EMI、現・ユニバーサルミュージック）がレコード会社としては新参であったことから、従来の専属作家制度に捉われずに若い才能を進んで採り入れた。その結果、フリー作家の活躍の場が見出され、和製ポップス発展の道が拓かれていったわけで、レコード業界に新風を巻き

CamScannerでスキャン

起こした功績は大きい。ロカビリー三人男のひとり、山下敬二郎の「ダイアナ」も東芝から発売されてヒットしている。そして「黒い花びら」の大ヒットでその後の人生が大きく変わったであろうもうひとりが、作詞した永六輔であった。

映画の曲作りを依頼された中村が作詞家に伝手がないため途方に暮れていたところ、たまたま街でばったり出くわしたことで急遽作詞を依頼されたという経緯で、永の本業は放送作家だった。その後も永が構成を担当したNHKの音楽ヴァラエティ『夢であいましょう』で中村は番組の音楽を担当すると共にピアニストとして出演もし、永もまた画面に登場する。そして番組の1コーナー(今月のうた)から永と中村の"六・八コンビ"による作品が毎月送り出されることとなる。そこで紹介されてヒットに至ったのが、世界的なヒットへと至る坂本九の「上を向いて歩こう」であり、ほかにも多くの傑作が生まれ、歌謡曲のスタンダードとして定着してゆく。

ジャズのスター・プレイヤーから、流行歌の人気作曲家&編曲家へ転身して揺るぎない地位を築いた中村八大であったが、1960年代後半になり、永が作詞の仕事から遠ざかる様になった頃からは、交響曲への取り組みに力を入れた。ほかにも映画や舞台の音楽、テレビ番組の曲やCMソングから、企業の社歌に至るまで約1,500曲に及ぶという作品には、日本人であれば誰もが知るメロディが溢れている。中でも、1970年に大阪で開催された日本万国博覧会のテーマ・ソングで三波春夫ほかの競作となった「世界の国からこんにちは」や、西田佐知子らが歌った日本酒・菊正宗のCMソング「初めての街で」、今も使われている演芸番組『笑点』のテーマ曲などが有名。一方でピアニストとしての佇まいは生涯変わらず、テレビ番組やリサイタルなどの晴れの場では常にピアノと共にあった印象が強い。

晩年は闘病生活が続き、1992年に61歳で早逝したのは惜しまれてならないが、日本一のスタンダード・ナンバーといえる「上を向いて歩こう」をはじめ、八大メロディは今も巷に流れ、愛され続けている。「黒い花びら」と「こんにちは赤ちゃん」で2度の日本レコード大賞を受賞、シング・アウトの「涙をこえて」は第1回合歓ポピュラーフェスティバル・グランプリ、遺作となった「ぼく達はこの星で出会った」では第1回古関裕而記念音楽祭金賞を受賞している。永六輔との共同作詞で1959年に水原弘が歌った「黄昏のビギン」は、ずっと後の1991年にちあきなおみがカヴァーして新たな命が吹き込まれたことで不朽のスタンダードと化した稀有なナンバーである。時代を超越したヒット曲の典型であろう。

「HACHIDAI NAKAMURA」
中村八大

ジャズ・ピアニストとしての中村八大をフィーチャーしたアルバム。「[illegible]」「ベサメ・ムーチョ」「ブルー・ムーン」等を収録。キングからCD再発もされた。

永六輔×中村八大

東芝／1959年10月

黄昏のビギン

水原弘

作詞：永六輔、中村八大
作曲・編曲：中村八大
A面：黒い落葉

「黒い花びら」に続く「黒い」シリーズの第2弾として制作された「黒い落葉」のB面楽曲。作詞は永六輔と中村八大の連名だが、実質的には中村八大が行っており、永六輔は名前を貸しただけとのこと。現在は永六輔のみのクレジットで統一されている。ちあきなおみが91年に中村八大の編曲でカヴァーしたのをきっかけに、石川さゆり、アン・サリーなどのカヴァーが生まれ、ジャパニーズ・スタンダードとなった。

東芝／1961年10月15日

上を向いて歩こう

坂本九

作詞：永六輔
作曲・編曲：中村八大
B面：あの娘の名前はなんてんかな

元々は「第3回中村八大リサイタル」用の書き下ろし曲で、10月にレコードとして発売されると瞬く間に大ヒット、坂本九を代表する楽曲となった。62年にはヨーロッパで、「SUKIYAKI」や「忘れ得ぬ芸者ベイビー」のタイトルでリリースされてヒット、63年にはアメリカ・ビルボード・チャートでアジア圏歌手初の第1位を獲得、半世紀以上経った現在でもアジア圏歌手で第1位を獲得したのは彼だけだ。

東芝／1962年6月

遠くへ行きたい

ジェリー藤尾

作詞：永六輔
作曲・編曲：中村八大
B面：インディアン・ツイスト

「夢であいましょう」(61年)の「今月の歌」として作られ、高木智之(現：高木ブー)や仲本興喜(現：仲本工事)が在籍していたジェリー藤尾とパップ・コーンズのジェリー藤尾が歌った楽曲で、彼の代表作となった。レコーディングの際は、歌詞に合わせて、ハンド・マイクでレコーディング・スタジオ内を歩き回りながら歌ったという。第4回日本レコード大賞作曲賞を受賞。尾崎紀世彦、香西かおりなど多くのカヴァーが生まれた。

キング／1963年11月1日

こんにちは赤ちゃん

梓みちよ

作詞：永六輔
作曲・編曲：中村八大
B面：いつもの小道で

中村八大長男の誕生をきっかけに永六輔が作詞した楽曲。梓みちよが歌いレコードが発売されると、100万枚とも120万枚とも言われる売り上げを記録。第5回日本レコード大賞を受賞した。彼女はこの曲で国民的歌手となり、園遊会で天皇陛下の御前にて歌を披露した。64年には東宝にて松林宗恵監督で、日活にて井田探監督で映画化。若原一郎主演でテレビ・ドラマ化もされた。印象的なヴァイブは鈴木邦彦によるもの。

東芝／1963年

夢であいましょう

坂本スミ子

作詞：永六輔
作曲・編曲：中村八大
B面：ブルー・ナイト・イン・ヨコハマ

テレビ「夢であいましょう」(61年)の主題歌で、オープニングでは東京混声合唱団が、エンディングでは坂本スミ子が歌を担当。その後、坂本スミ子の歌に人気が集まりレコード化された。3拍子のドリーミーな楽曲で、冒頭と終わりに表題を乗せたメロディ・ラインを置き番組名を印象付けた、主題歌として計算された構成。05年にハナレグミがカヴァーしたのをきっかけに若い世代にも広がり、村上ゆきや中山うりなどがカヴァーした。

text カモウユウイチ

CamScannerでスキャン

東芝／1961年1月

じんじろげ

森山加代子

作詞：渡舟人
作曲：中村八大
編曲：高見弘
B面：恋の汽車ポッポ

マナセプロ社長の曲直瀬正雄がうろ覚えだった民謡を、口伝えに中村八大に教えメロディを追記して完成させた楽曲。その元歌は、来日していたインド人が歌っていたインド民謡「ヒラミルパニア」といわれ、旧制高校の三校の寮歌として定着していた。歌詞を、彼女の多くのカヴァー・ポップスを手がけてきた渡舟人（ホセ・しばさき）が担当して、ヒットを記録。同年には同指向のオリジナル曲「パイのパイのパイ」も制作された。

東芝／1963年12月1日

明日があるさ

坂本九

作詞：青島幸男
作曲・編曲：中村八大
B面：夢を育てよう

坂本九司会による音楽番組「夢をそだてよう」主題歌としてリリース。瞬く間に大ヒットを記録して、番組名も「明日があるさ」へと変更された。ダイアトニック・コード中心ながら、さり気ない4度マイナーの使用など、コード進行にセンスを感じさせる。01年には、吉本興業所属のお笑いタレントで結成されたRe:Japanと、ウルフルズがカヴァー。Re:Japanヴァージョンはオリコン・シングル・チャート第1位を獲得する大ヒット。

ビクター／1964年11月

若い涙

ジャニーズ

作詞：永六輔
作曲：中村八大
B面：ぼくの手袋破れてる

NHK「夢であいましょう」での64年8月の歌。飯野おさみ、あおい輝彦、真家ひろみ、中谷良による、ジャニーズ事務所最初のグループのデビュー・シングル。ドラム・ロールをバックにした口笛のメロディから始まる牧歌的な楽曲で、リズムも現代ではほとんど用いられないマーチ。ホーム・ソング風の健全歌謡で、キャッチーな「ホーイホイ」のフレーズが印象的だ。コーラス・グループ風のコーラス・ワークがお見事。

テイチク／1967年

世界の国からこんにちは

三波春夫

作詞：島田陽子
作曲：中村八大
編曲：福島正二
B面：万国博覧会音頭

70年に開催予定だった日本万国博覧会 EXPO'70のテーマ・ソングとして、制作されたナンバー。全国から歌詞を公募、詩人の島田陽子の歌詞が採用され、三波春夫、坂本九、吉永小百合、山本リンダ、叶修二、弘田三枝子、西郷輝彦／倍賞千恵子、ボニー・ジャックスと、レコード会社各社から競作としてリリースされた。中でも、マーチ風のアレンジを施した三波春夫ヴァージョンが、覚えやすいメロディとマッチして最も売り上げた。

RCA／1969年11月5日

涙をこえて

シング・アウト

作詞：かぜ耕士
作曲・編曲：中村八大
B面：朝日の中でさようなら

NHK「ステージ101」から生まれた楽曲で、[illegible]や樋口康雄が在籍していたシング・アウトのデビュー曲となった。番組でも毎回歌われ、オリコン・チャート最高第53位を記録。平行調の同主調への転調を繰り返すフィフス・ディメンション・タイプのソフト・ロック・サウンドは、90年代にサバービア界隈でも再評価された。近年では「めちゃ×2イケてるッ！」でも使用されており、小・中学校の合唱曲としても知られている。

CamScannerでスキャン

text：鈴木啓之

作家とシンガー

坂本九

エルヴィス・プレスリーに憧れて歌手の道を志した坂本九は、高校在学中にバンド・ボーイとなり、1958年にロカビリー・バンド時代のドリフターズに加入。8月に開催された第3回日劇ウエスタン・カーニバルの舞台を踏んだ。12月には水原弘の抜けたダニー飯田とパラダイス・キングへ移籍して、翌1959年に「題名のない唄だけど」でビクターからレコード・デビューを果たすもヒットには至らなかった。しかし翌1960年に東芝から心機一転で出された「悲しき六十才」が初のヒットとなり、世間に認知されるここととなる。放送作家だった青島幸男の最初の作詞（名目上は訳詞）作品であり、草野浩二ディレクターのデビュー作という初めてづくしの一枚であった。

カヴァー・ヒットがいくつか続いた後、1961年10月発売の「上を向いて歩こう」で遂に作曲家・中村八大と出会う。これはそもそも同年7月に開催された「第3回中村八大リサイタル」で初披露された曲であったが、作詞の永六輔が構成を担当していたNHKのヴァラエティ番組「夢であいましょう」で紹介されて人気を呼び、それから約2年を経た63年には世界規模のヒットへ拡大する。「SUKIYAKI」のタイトルで、なんとビルボード誌とキャッシュボックス誌の全米チャート1位を獲得したのだ。世界各国でもレコードが発売されてヒットを記録し、その後、日本人が世界で歓待を受ける際に欠かせないメロディとなった。いずれも名前に数字が入っていることから作詞・作曲の二人は"六・八コンビ"と呼ばれ、さらに坂本が加わることで"六・八・九トリオ"とも呼ばれた。もはや国民的スターとなった坂本九の屈託のない笑顔に誰もが魅了されることとなった。

その後も「一人ぼっちの二人」や「明日があるさ」といった中村八大からの楽曲提供が続く一方で、「見上げてごらん夜の星を」や「ともだち」など、永六輔が作曲家・いずみたくと組んだ作品でも、坂本の人気は増幅されてゆく。どちらかというとドライな八大メロディと、ウェットないずみメロディ、それぞれに魅力に溢れた両者の恩恵を蒙ったことで、歌手・坂本九の世界が築かれていったことは間違いない。それ以外にも「九ちゃんのズンタタッタ」や「九ちゃん音頭」といったコミカルな作品、「幸せなら手をたたこう」や「レットキス(ジェンカ)」などのレクリエーションに欠かせなかった曲、そして東京オリンピックの「東京五輪音頭」、大阪万博の「世界の国からこんにちは」と、昭和の2大イベントのテーマ・ソングを歌ったのは、三波春夫と坂本九だけ。どちらも国民的歌手と呼ばれる所以である。六・八・九トリオが久々に復活した1979年の作品「あの時の約束」は、坂本が永に呼びかけて中村も同意手話で歌うことを前提に作られた歌であった。

1985年に不慮の事故で帰らぬ人となってしまった坂本だが、そんなことがなければトリオの作品はもう少し作られていたのかもしれない。中村八大の遺作となった「ぼく達はこの星で出会った」も、出来ることなら坂本九の歌声で聴いてみたかった。永も2016年にこの世を去り、六・八・九トリオは今ごろ天国で再結成されているに違いない。

「689コンプリート」
坂本九
「あの時の約束」を収録したアルバム「689」に、六・八・九トリオの全作品を追加収録した完全盤。

CamScannerでスキャン

text：ガモウユウイチ

上を向いて歩こう

1961年　坂本 九

作詞：永六輔
作曲・編曲：中村八大

元々は「第3回中村八大リサイタル」用の書き下ろし曲だったが､イギリスやアメリカで「SUKIYAKI」のタイトルで発売されて大ヒット､今でも世界中のどこかで演奏されていると言われているスタンダード・ナンバーだ。

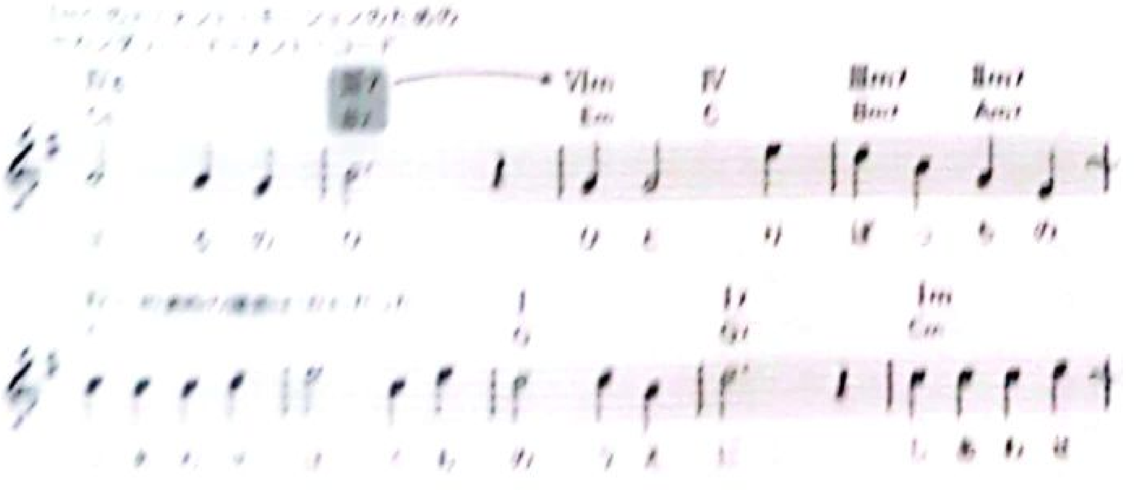
作曲と編曲はジャズ・ピアニストの中村八大が担当。イントロには、初演時にはフルートとブラスが使用されていたが、坂本九のレコード版ではシロフォンをフィーチャー。軽快でリズミカルな楽器に変更されたことで、弾むような躍動感を生み出した。残念なことに、現在のJ-POPではフィーチャーされることがほとんど無くなってしまった楽器だ。

リズムは2ビートで、これも現在のJ-POPでは無くなってしまったリズムのひとつ。歌メロはスクエア（イーヴン）のリズムだが、バックの演奏はスウィングしている。ある意味複合リズムだが、60年代前後ではまだリズムに関する解釈がファジーで、スクエアとスウィングなリズムが同居するという楽曲が多々あった。現在の一般的なポピュラー音楽では、まず無いパターンだ。

楽曲構成は「A－A－B－A」で1コーラスという構成。初演時の譜面ではキーがFメジャー・キーとなっていたが、レコード版ではGメジャー・キーとなっている。以下コードの解説は初演時の譜面とレコード音源ではキーが違うので、コード・ネームでは無く、度数で表記する。Aメロは、ほぼGメジャー・キーのダイアトニックで構成されている。12小節目の「III7」は、次の「VIm」へのドミナント・モーションのためのセカンダリー・ドミナント・コード（譜例上段）。ルート・モーションによる強進行がドミナント・モーションのポイントとなっている。

Bメロパート部分は、サブドミナント「IV」から始まるが、初演時の譜面では「IV6」になっていた（譜例下段）。前半部3小節はGメジャー・キーのダイアトニックで、4小節目の「I7」は次の「IVm」へのドミナント・モーションとして､「I」をドミナント・コードに変化させて「I7」にしている。この「I7」もセカンダリー・ドミナント・コードだ。5小節目の「IVm」はGメジャー・キーのノン・ダイアトニック・コードで、同主調のGマイナー・キーからコードを借用したモーダル・インターチェンジという手法。

現在のJ-POPではほとんど使用することの無いビートや楽器がフィーチャーされた楽曲が、世界で一番知られている日本の楽曲というのもなんとも皮肉だ。



CamScannerでスキャン

浜口庫之助

誰もが自然に口ずさめる 偉大なる鼻唄ソングライター

偉大なる鼻唄ソングライター。昭和を代表する大作曲家の浜口庫之助を、ハナウタなどと呼んでいいのかと思われるかもしれないが、凝ったコード進行を使うわけでもなく、ギミックなメロディ・ラインで驚かすわけでもない。自然で誰もが口ずさめる旋律、それでいて心にしっかりと残る。こんな理想的な歌が作れるのはハマクラさんしかいない。

鼻唄系のソングライターの系譜を簡単に書くと、戦前の灰田勝彦&晴彦の兄弟、数多くのCMソングを作った三木鶏郎、さらには、浜口庫之助、平岡精二、佐々木勉、平尾昌晃、加山雄三、荒木一郎と続いている。共通しているのは、自作自演を得意としていたところだ。浜口庫之助も元々が歌手であり、自作曲を歌うのはお手のもの。実際に、弾き語りのアルバムも発表している。

鼻唄と書いたが、音楽に疎いわけでは決してない。父親が貿易会社や建築会社を経営しており、幼い頃からいつも音楽が流れるハイカラな家に育った。家族にも音楽の才能があるものが多く、ピアニストである姉は山田耕筰の弟子になったとか。

東京に引っ越してからは、ダンス・ホールのバンド・ボーイになり、そのままプロのミュージシャンになっていく。学生時代からギターの講師や、スタジオ・ミュージシャンをして、かなりの大金を稼いでいたという。戦後は進駐軍のキャンプ回りをしたり、浜口庫之助とアフロ・クバーノを率いてNHKの紅白歌合戦にも出演した。がしかし、40歳になったのを期にバンドをやめ作曲家を志す。きっかけは、日本のオリジナル・ソングを創作したかったから。

最初に世に出たのはスリー・キャッツが歌う「黄色いさくらんぼ」(59年)。ゴールデンハーフによるカヴァー・ヴァージョンで覚えているかたもいるかと思うが、ノヴェルティな雰囲気のある艶っぽい歌で、曲の合間に出てくる「ウッフーン」がお色気過剰ではないかと論議を巻き起こしたほど。ともあれこの曲は大いに売れまくり、25万枚を超える大ヒットとなった。まだレコード・プレイヤーがあまり普及していない時代のこと、今に換算すればミリオン・ヒット以上になるだろう。

続いて同年、守屋浩「僕は泣いちっち」が大ヒット。この曲も「黄色いさくらんぼ」もそうなのだが、日本語の歌詞とリズムとのマッチングが素晴らしい。これは浜口がラテン系の楽団を率いていたことと関係があると思う。ある意味ではリズム歌謡の開祖だと言ってもいいだろう。和田弘とマヒナスターズが田代美代子をフィーチャーして吹き込んだ「愛して愛して愛しちゃったのよ」(65年)や、

text 小川真一

CamScannerでスキャン

西郷輝彦の「星娘」(65年)、小林旭「恋の山手線」(64年)、藤ユキ（後のアン真理子)「ミニ・ミニ・デート」(67年)など一連のハマクラ・ヒットを聞いていると、どの曲も小気味の良い節まわしが曲のフックになっているのがよく判る。

その時代の流行に乗るのが上手いのも、浜口庫之助の特徴だ。グループ・サウンズの全盛期には、ザ・スパイダースのために「夕陽が泣いている」や「風が泣いている」を書き下ろした。この曲はザ・スパイダースのターニング・ポイントになった曲としても知られている。余談ながら「夕陽が…」のB面曲で井上順がリード・ヴォーカルをとった「チビのジュリー」がこれまた名曲なのだ。

またカレッジ・フォークの時代には、マイク真木のデビューのために「バラが咲いた」を提供している。マイクが作ったわけではないのに、まるで彼のオリジナル・ソングに聞こえるところが面白い。この「バラが咲いた」と、西郷輝彦の「星のフラメンコ」のヒットにより、66年におこなわれた第8回日本レコード大賞では作曲賞を受賞している。

他にも、青江三奈「恍惚のブルース」(66年)、伊東きよ子「花と小父さん」(67年)、高田恭子「みんな夢の中」(69年)、にしきのあきら「空に太陽がある限り」(71年)、天地真理「ちいさな恋」(72年)、リッキー&960ポンド「ゴンドラまかせ」など、様々なタイプの曲をヒットさせている。

あえてベスト・ソングを選ぶのなら、68年に島倉千代子が歌った「愛のさざなみ」だろうか。なかにし礼の無常観ただよう歌詞も、海外録音したバック・トラックも素晴らしいのだが、それまでの歌謡曲とはまったく違った地平が、浜口庫之助によって作り出されたのだと思う。

歌謡曲でありながらも、どこか都会的でポップな感性が潜んでいる。いえばこれはシティ・ポップの開祖であるともいえる。石原裕次郎の「夜霧よ今夜も有難う」(67年）のように、ムード歌謡然とした曲もあるのだが、作者の自演ヴァージョンを聞くと、ジェントルなソウル・バラードに聞こえてくるから面白い。

『歌えば天国』『ハマクラ女の五線譜～浜口庫之助 大いに歌う～』『雨のピエロ』など、自作自演集のアルバムも数枚だしているが、どれも秀逸。けっして上手い歌ではないのだが、実に味わいが深く、その説得力は作者ならではのものだ。メロディと歌詞が自然に湧き出てくる、そんな雰囲気に包まれている。これはもう、元祖・鼻唄ソングライターの真骨頂。ただひたすらに聞き惚れてしまう。

『僕だって歌いたい』
浜口庫之助

1967年にリリースされた自身による「マシュ・ケ・ナダ」「イエスタデイ」などの粋なカヴァー集。ラストは「愛して愛して愛しちゃったのよ」をセルフ・カヴァー

CamScannerでスキャン

浜口庫之助作曲作品

コロムビア／1959年

黄色いさくらんぼ

スリー・キャッツ

作詞：星野哲郎
作曲：浜口庫之助
B面：ピンク・ムーン

映画「体当たりすれすれ娘」の主題歌が急遽必要ということになり、1日で書き上げたというナンバー。スリー・キャッツも、本楽曲のため急遽結成されたグループで、当初は小沢桂子、梅田和代、上原由里江の3人で結成されたが、60年には、小沢桂子、佐伯みち子、堀田直江という編成になった。当時としては刺激的とも思える歌詞で、放送禁止を検討されるほどの要注意曲になり逆に大きな注目を浴び、初のヒット曲となった。

コロムビア／1959年

僕は泣いちっち

守屋浩

作詞・作曲：浜口庫之助
B面：夜空の笛

コロムビア専属作曲家となった浜口庫之助が「黄色いさくらんぼ」に続いて放ったヒット曲で、ロカビリー出身で、三人ひろしとも称された守屋浩が歌った。彼のヴァージョンが正式にリリースされる以前に勝新太郎、青木光一などがレコーディングを行ったが、ディレクターの判断でオクラ入りになっていたという。ほぼ4つのコードで構成されたシンプルなサウンドと哀愁美に溢れるメロディで人気を博し、守屋浩の代表曲となった。

フィリップス／1966年4月5日

バラが咲いた

マイク真木

作詞・作曲：浜口庫之助
編曲：小杉仁三
B面：歌おうよ　叫ぼうよ

サン＝テグジュペリの『星の王子さま』の薔薇をテーマにした一節から、ギターを弾いて即興で作詞・作曲したというナンバー。当初はジョニー・ティロットソンの新曲として制作されたというが、急遽マイク真木のデビュー曲としてリリース、大ヒットを記録した。遅れてジョニー・ティロットソンもリリースしたが、ヒットには至らなかった。本楽曲をきっかけに、日本にフォーク・ソング・ブームが訪れ、多くのグループがデビューした。

ビクター／1965年6月

愛して愛して愛しちゃったのよ

和田弘とマヒナスターズ&田代美代子

作詞・作曲：浜口庫之助
編曲：寺岡真三
B面：泣き曜日

当時としては破格の約300万枚を売り上げたともいわれる「お座敷小唄」（64年）路線のお座敷ハワイアン。デュエットのパートナーはシャンソンやジャズを歌っていた田代美代子が担当。軽快なメロディとシンプルなサウンドで瞬く間に大ヒット、2年連続ミリオン・セラーを記録した。66年には、浜田光夫主演で同名の映画も製作。90年には、原由子&稲村オーケストラ名義で、小林武史と桑田佳祐のプロデュースによりリメイク。

ポリドール／1965年9月

涙くんさよなら

ジョニー・ティロットソン

作詞・作曲：浜口庫之助
訳詞：ジョニー・ティロットソン
編曲：林一
B面：涙くんさよなら（日本語）

坂本九が65年5月にリリースしたのを皮切りに、9月にジョニー・ティロットソン、12月に和田弘とマヒナスターズ、翌年にジャニーズがリリースしたナンバー。ダイアトニック・コードを中心としたシンプルなサウンドで、親しみやすいメロディ・ラインと相まってヒット。66年には、映画化もされた。その後も、91年に川越美和が、98年に安達祐実が、00年にBlue-Eye-Land（a.k.a.島谷ひとみ）がシングルでリリースした。

text：ガモウユウイチ

CamScannerでスキャン

クラウン／1966年7月1日

星のフラメンコ

西郷輝彦

作詞・作曲：浜口庫之助
編曲：小杉仁三
B面：湖にゆこうよ

60年代はリズムをテーマにした楽曲が多く生まれたが、本楽曲もそのひとつ。12拍を1単位としてリズム(コンパスという）が進んでいく楽曲が多い本来のフラメンコに対して、本楽曲は一般的な8ビートのフラメンコ風のマイナー・ナンバー。とはいえ、シンプルながらキャッチーなメロディと、ドミナント・モーション以外にも「V7」コードを多用したコード進行が浜口庫之助らしい。リリース約2ヵ月後には同名の映画も公開された。

フィリップス／1966年9月15日

夕陽が泣いている

ザ・スパイダース

作詞・作曲：浜口庫之助
編曲：ザ・スパイダース、チャーリー脇野
B面：チビのジュリー

もともとは映画「涙くんさよなら」の挿入歌。それまではメンバーのかまやつひろし作曲の楽曲が多かったザ・スパイダースだが、「青春ア・ゴー・ゴー」(66年)に続いて2曲目の外部発注シングルとなった。堺正章がリード・ヴォーカルを担当する、シンプルなマイナー・フォーク・バラード風の楽曲でありながらも、「Ⅱ♭7」や「Ⅶaug」など、ダイアトニック・コード以外のコードがちりばめられた個性的なサウンドとなっている。

コロムビア／1967年

花と小父さん

伊東きよ子

作詞・作曲・編曲：浜口庫之助
B面：愛のかけら

66年に渡米してニュー・クリスティー・ミンストレルズに参加。ビザが切れるまで在籍して、帰国後に本楽曲でソロ・デビューした伊東きよ子の代表曲。もともとは植木等のソロ・アルバム『ハイおよびです!!』(67年）のために書かれた曲で、シャッフルのリズムを持つフォーク・タッチのマイナー・ナンバー。「Ⅱ」にあたるコードを「Ⅱm7（♭5)」と「Ⅱ7」で使い分けているのが、浜口庫之助らしい繊細なこだわりを感じさせる。

テイチク／1967年2月

夜霧よ今夜も有難う

石原裕次郎

作詞・作曲：浜口庫之助
編曲：山倉たかし
B面：粋な別れ

67年に公開された石原裕次郎主演のアクション映画「夜霧よ今夜も有難う」の主題歌。ゴルフ場で浜口庫之助が石原裕次郎とたまたま出会い、その後に一杯やりながら石原裕次郎から依頼されたという。浜口庫之助は二つ返事で引き受け早速作り上げた。イントロと間奏のサックスは稲垣次郎によるもの。「Ⅲ」度にあたるコードを、通常の「Ⅲm」では無く、「Ⅲaug」で当てはめており、独特のムーディな雰囲気を生み出している。

コロムビア／1968年7月1日

愛のさざなみ

島倉千代子

作詞：なかにし礼
作曲：浜口庫之助
編曲：ボビー・サマーズ
B面：月のためいき

島倉千代子のデビュー15周年記念盤で、浜口庫之助の提案でロサンゼルスでレコーディングされた。演奏は、クレジットはボビー・サマーズと彼のグループ名義だが、実際には、ハル・ブレインほか、レッキング・クルーのミュージシャンたちが担当している。ママス&パパスなどのリアル・アメリカンなサウンドをバックに、ドメスティックな節回しを持つ島倉千代子が歌うという異色作ながら、オリコン調べで約22万枚のヒットを記録した。

CamScannerでスキャン

キング／1969年3月1日

みんな夢の中

高田恭子

作詞・作曲：浜口庫之助
編曲：小谷充
B面：耳のうしろで

マイク眞木率いるザ・マイクスの2代目ヴォーカリストとして活躍後独立した高田恭子のソロ・デビュー曲。フォーク・ソング・タイプのシンプルなメロディを感じさせながらも、1拍3連を多用して個性的なメロディに仕上げているのはさすが。シンプルながら個性的なメロディンのベースは江藤勲によるもの。オリコン最高第17位を記録、約18万枚を売り上げ、彼女最大のヒット曲となり、日本レコード大賞新人賞も受賞した。

東芝／1970年9月5日

へんな女

水原弘

作詞・作曲：浜口庫之助
編曲：小谷充
B面：泣くときゃひとり

同年にリリースされた左ト全「老人と子供のポルカ」路線のコミック・ソング。歌詞のインパクトで気づかれにくいが、江藤勲によるベースがリズムを牽引するR&Bテイストたっぷりのゴーゴー・ナンバー。実は「老人と子供のポルカ」も、江藤勲によるベースという共通点がある。コミカルでありながらもサウンドは本格的という、浜口庫之助のセンスを垣間見ることが出来る。約1年ぶりにオリコン・シングル・チャート最高第41位。

CBS・ソニー／1971年2月10日

空に太陽がある限り

にしきのあきら

作詞・作曲：浜口庫之助
編曲：小杉仁三
B面：恋の旅路

住み込みの運転手をしながら浜口庫之助に師事して、彼の作詞・作曲による「もう恋なのか」でデビューしたにしきのあきら（現：錦野旦）の第3弾シングル。イントロから江藤勲のオレンジー・ベースが炸裂するグルーヴ歌謡ナンバーで、オリコン・シングル・チャート最高第4位、約31万枚の大ヒットを記録。にしきのあきらの代表曲となった。また、現時点で彼の唯一のオリコン・シングル・ベスト10ランク・イン曲でもある。

CBS・ソニー／1973年

奪われたいの

渚まゆみ

作詞・作曲：浜口庫之助
編曲：小杉仁三
B面：女の一生

68年に大映レコードより「アイ・ラブ・ユー」でデビューした渚まゆみのCBS・ソニー移籍第2弾シングル。前作「タスコ慕情」に続いて浜口庫之助が作曲を担当。本楽曲では作詞も彼が担当した。グリスによるオクターヴを効果的に使用したベース・ラインが印象的なグルーヴ歌謡ナンバーで、語りかけるような歌唱が印象的。オリコン・シングル・チャート最高第70位を記録。彼女にとって最初で最後のチャート・イン楽曲となった。

コロムビア／1987年1月23日

人生いろいろ

島倉千代子

作詞：中山大三郎
作曲：浜口庫之助
編曲：竜崎孝路
B面：花ごよみ

ドラマ「三どしま」の主題歌として日音に依頼して制作された楽曲で、原曲は浜口庫之助が函館の街をイメージして作った「坂のある町」。当初はB面の予定で、中山大三郎が書いたタイトルは「笑いばなしにして」だったが、日音の村上司とプロデューサーの山田廣作の判断により「人生いろいろ」に改題。A面曲としてリリースされた。結果、日本レコード大賞の最優秀歌唱賞を受賞、彼女の代表曲のひとつとなった。

CamScannerでスキャン

宮川 泰

ザ・ピーナッツの育ての親にして
ナベプロ全盛時代を支えたポップ・マエストロ

text：鈴木啓之

中村八大や浜口庫之助と並ぶ和製ポップスの開拓者のひとり、宮川泰は1931（昭和6）年3月18日生まれ。奇しくも中村八大と同い年である。父親の仕事の赴任先であった北海道留萌市で生まれた後に北海道の紋別や大分の日田など各地を転居し、大阪府富田林市で高校を卒業。大阪学芸大学（現・大阪教育大学）音楽科に入学した。小学校の時に接したオルガンがきっかけとなり、中学校ではアコーディオンを、さらに進駐軍のラジオ放送、WVTR（後のFEN、現AFN）から流れるジャズが音楽への想いを決定的にしたという。大学在学中に自らのバンドを結成し、そこで一生の伴侶となる禮子夫人との出逢いもあった。そんな中、大阪へ演奏旅行に来ていたヴィブラフォン奏者の平岡精二を訪ねたことから、上京して氏の率いる"平岡精二クインテット"に参加することに。その後、中村八大が脱退した後の"渡辺晋とシックス・ジョーズ"にピアニスト兼アレンジャーとして参加。後に作曲家&編曲家として独立する布石となる。

ミュージシャンから渡辺プロダクションの社長業務へと移行しつつあった渡邊晋から、新しく売りだす双子の新人歌手の教育係を委任されたのは1958年のことであった。名古屋から上京して渡邊宅に寄宿し、宮川の下でレッスンに励んだ双子の姉妹は、翌1959年2月に日劇のステージでザ・ピーナッツとしてお披露目された後、4月にキングレコードから「可愛い花」でレコード・デビューする。デビュー曲をヒットさせてスターの仲間入りを果たしたふたりは、続けて「情熱の花」「悲しき16才」などのカヴァー曲でヒットを連ねた。と同時に育ての親の宮川もアレンジャーとしての手腕を揮い、ザ・ピーナッツのみならず渡辺プロの他の歌手なども担当して活躍を示した。そんな宮川のさらなる転機となったのは、ニッポン放送でザ・ピーナッツが出演していたラジオ番組『ザ・ピーナッツ』から誕生した「ふりむかないで」のヒットである。番組内の〈今月の歌〉コーナーのために書き下ろされたたくさんのオリジナル曲の中から1962年にレコード化されて大ヒットした「ふりむかないで」が、作曲家・宮川泰の本格的なスタートとなった。

中村八大と同様、レコード会社の専属ではない、新世代の和製ポップスの作・編曲家として一気に脚光を浴びることとなった宮川が次に送り出した大きなヒットが、「ふりむかないで」を共作した作詞家・岩谷時子とのコンビによる1963年の「恋のバカンス」で、やはりザ・ピーナッツの歌。彼女たちの代表作のひとつとなる。突き抜けて明るいアメリカン・ポップスとは一味違う、ラテン風味の味付けがな

CamScannerでスキャン

されたオリジナル歌謡の傑作は、宮川の秀でたポップス・センスを証明する重要な一曲である。1964年には、やはり渡辺プロの所属歌手だった園まりの「何も云わないで」がヒット。それまでカヴァー・ポップスが主流だった彼女が歌謡曲シンガーへと転向する、ターニング・ポイントの一曲となった。園まりでは、1965年の暮れに出された「逢いたくて逢いたくて」もさらなる大ヒットを記録する。これはもともとザ・ピーナッツに書かれた「手編みの靴下」の詞とタイトルを改編して出されたもの。何より森岡賢一郎によるムーディなアレンジが施されたことで、まったく印象の異なる作品となった。園まりが最初にレコーディングしたヴァージョンは歌声がセクシーすぎて、再吹き込みが行われたというエピソードもある。その新たな録音にしても充分に大人の色気が発散されているだけに、最初のヴァージョンも聴いてみたかった気がする。発売して間もなく出演したその年の『NHK紅白歌合戦』でも早速歌われ、それを見た宮川はその表現力の素晴らしさに感激して、すぐに電話で園まりに称賛のメッセージを送ったそうである。

作品を生み出す上での最高のパートナーだった岩谷時子とは、沢田研二がソロに転向しての第1弾「君をのせて」も大傑作として挙げておかねばならない。1960年代後半以降は、槇みちるが歌った「若いってすばらしい」を作詞した安井かずみ、ザ・ピーナッツ「恋のオフェリア」を作詞したなかにし礼と組む機会が多かった。その他大勢の才能豊かな作詞家たちとの出逢いも多くの傑作が生みだされる原動力となったことだろう。天地真理やキャンディーズといったアイドルのほか、茶目っ気ある性格が反映されたとおぼしいユニークな楽曲にも定評があり、ハナ肇とクレージー・キャッツの楽曲をはじめとするそれらのノヴェルティ・ソングは本人も非常に気に入って愛着を持っていたそう。

歌謡曲以外にも、『ザ・ヒット・パレード』や『シャボン玉ホリデイ』『巨泉×前武 ゲバゲバ90分！』などテレビの人気番組や、クレージー・キャッツが主演した映画や舞台の音楽も大いに才能を発揮する場となった。いくつか手がけたアニメーション音楽における代表作はなんといっても『宇宙戦艦ヤマト』である。現在も続くその最新作の音楽も含め、自らテレビやラジオに出演して軽妙なトークと愛すべき人柄でお茶の間の人気者だった宮川泰のパーソナリティーを、長男である作曲家・宮川彬良がしっかりと継承しているのは宮川メロディのファンにとって何より嬉しく心強いことである。

「YAMATO SOUND ALMANAC 1977-1 交響組曲 宇宙戦艦ヤマト」
宮川泰

1977年12月発売のアルバム。2012年に「宇宙戦艦ヤマト」の新CDシリーズの第1弾としてリリースされた

CamScannerでスキャン

キング／1962年2月

ふりむかないで

ザ・ピーナッツ

作詞：岩谷時子
作曲・編曲：宮川泰
B面：アテネの恋唄

ザ・ピーナッツ初期の大ヒットで、ジャパニーズ・ポップス最初期のヒット・ソングでもある。彼女たちがレギュラー出演していた「ザ・ヒットパレード」でピアノと外国曲のアレンジを担当していた宮川は、「ダイアナ」のイントロのエッセンスを借りてこの曲を作ってみたという。「ふりむかなっははっはいいで」という歌い方で言葉のアタックを強く表現、「イエイエ」の部分は「上を向いて歩こう」の坂本九の歌い方を応用したそう。

キング／1963年3月20日

恋のバカンス

ザ・ピーナッツ

作詞：岩谷時子
作曲・編曲：宮川泰
B面：チャオ

宮川泰自身もフェイバリット・ソングの1つに挙げていたという代表曲であり、ジャズの4ビートをポップスに応用、歌い出しのEmからサビでメジャーのGに鮮やかに変化する構成は、宮川と渡辺普が2人で話し合って決めたという。こうして、当時の歌謡曲としては異例のスウィング感にあふれたナンバーが誕生した。岩谷の「裸で恋をしよう」という革新的な詞、宮川自身の編曲による、オリエンタル・ムードに満ちた演奏も聞きもの。

ポリドール／1966年1月5日

逢いたくて逢いたくて

園まり

作詞：岩谷時子
作曲：宮川泰
編曲：森岡賢一郎
B面：あんたなんか

カヴァー・ポップスの歌い手だった園まりは、宮川作品「何も云わないで」で歌謡曲歌手に転向、これはその代表作といえる大ヒットである。原曲は62年にザ・ピーナッツに提供した「手編みの靴下」で、岩谷が違う詞を載せ、森岡賢一郎の瀟洒なアレンジを得て、ムーディーな歌謡ポップスとして生まれ変わった。なお植木等とのデュエットによるB面「あんたなんか」も、宮川の別系統の路線でもある楽しいノベルティ・ソング。

ポリドール／1971年11月1日

君をのせて

沢田研二

作詞：岩谷時子
作曲：宮川泰
編曲：青木望
B面：恋から愛へ

沢田研二の初ソロ・シングル。リリース時は大きなヒットに至らず、沢田自身もあまり気に入っていなかったというが、名バラードとして長く愛されている1曲である。厭世感と決意表明が入り混じったような岩谷の詞に、宮川のメロディは前半が淡々と進みながらも、サビを経てのラララ……のスキャット部分でのダイナミックな転調、そして「あーあ君をのせて」の箇所で、まさにジュリー節を展開しているところが傑作たる所以。

テイチク／1971年10月10日

恋をするとき

吉沢京子

作詞：岩谷時子
作曲・編曲：宮川泰
B面：星へ行く汽車

女優・吉沢京子のシングル5作目。吉沢は70年のデビュー以来、作詞を岩谷が、作曲は元タイガースの森本太郎と宮川が手がけてきたが、この曲は彼女が主演するドラマ「さぼてんとマシュマロ」の主題歌。曲調は青春歌謡風でA-A'・サビ-A'のシンプルな構成ながら、かなりテンポを上げた8ビートで、軽い歌唱をスタッカート気味に処理している。アレンジもティファナ・ブラス風のブラスが印象的なハーブ・アルバート歌謡。

text 馬飼野元宏

CamScannerでスキャン

東芝　1966年3月15日

シビレ節

植木等

作詞：青島幸男
作曲・編曲：宮川泰
B面：何が何だかわからないのよ

クレイジーキャッツといえば萩原哲晶作品が頭に浮かぶが、宮川泰も多くの曲を書いており、植木等がソロで発表した本作はその代表的な1作。当時の世相をユーモアたっぷりに描いた青島の詞に対し、言葉のノリを最優先したかのような調子の良いメロディと音頭風のアレンジで応えた宮川の職人芸もさすがの一言。これを軽快にしれっと歌う植木もまた見事で、映画「日本一のゴリガン男」では宴会場でこの曲を歌い踊っている。

ポリドール　1967年12月27日

涙のかわくまで

西田佐知子

作詞：塚田茂
作曲：宮川泰
編曲：森岡賢一郎
B面：嘘は罪よ

西田佐知子の通算81作目。「アカシアの雨がやむとき」に代表される、ムーディでジャジーなヴォーカリストであるが、時代のトレンドであるビート歌謡的なサウンドを取り入れ、歌い方もややポップに変わっている。宮川のメロディ自体はマイナーの濡れた曲調ながら、ダン・ダダンというリズム・セクションが通底音として全編に響きビート感を演出。意外なことにカンボジアを初めアジア各国でカヴァーされる人気曲となっている。

ビクター　1966年4月

若いってすばらしい

槇みちる

作詞：安井かずみ
作曲・編曲：宮川泰
B面：消えた涙

宮川メロディの真骨頂とも呼べる、希望に満ち明るく突き抜けた作風。NHKの若者向け番組「若い十代」の今月のテーマ・ソングとして、渡辺プロの実力派若手シンガー槇みちるが歌い評判を呼んだ。宮川は敬愛する中村八大が坂本九に書いた「明日があるさ」に触発して作ったと語っており、結果として60年代の高度成長期の世相を象徴する、屈託のない前向きな青春賛歌となった。現在までに数多くの歌手にカヴァーされている。

コロムビア　1974年11月10日

宇宙戦艦ヤマト

ささきいさお、ロイヤルナイツ

作詞：阿久悠
作曲・編曲：宮川泰
B面：真赤なスカーフ

70年代を代表するSFアニメの主題歌。宮川はプロデューサー西崎義展から「鉄」をイメージする曲をと依頼され、困惑しつつ完成させた。Aメロの低域は海底に沈む戦艦大和のイメージ、Bメロは軍歌調、サビ以降は宇宙に飛び立つイメージでキーを高くし曲を完成させたという。Aメロ、サビそれぞれの歌終わりの部分に「パッパラー」と勇壮なホーンのメロディが被さるダイナミックな曲構成で、宮川畢生の名作にふさわしい。

ビクター　1980年8月5日

銀河伝説

岩崎宏美

作詞：阿久悠
作曲：宮川泰
編曲：川口真
A面：愛の生命

岩崎宏美の通算21作目のシングルで、アニメ映画「ヤマトよ永遠に」、TVアニメ「宇宙戦艦ヤマトIII」のエンディング・テーマとして使用された。アニメの主人公である古代進と森雪の愛の物語を描く阿久悠の詞に対し、宮川はAメロで3連を多用するしっとりしたメロディ、サビでは雄大に歌い上げるスケールの大きなバラードで応えている。岩崎の清廉なヴォーカルと確かな歌唱力を信じた、哀感に満ちた名曲である。

TEXT：馬飼野元宏

CamScannerでスキャン

text：鈴木啓之

ザ・ピーナッツ

不世出の姉妹デュオ、ザ・ピーナッツの魅力と凄さはとても文章だけで伝えられるものではないが、殊に関係の深い作曲家・宮川泰と共に歩んだ栄光の歴史は綴っておく必要がある。巷間伝わっている通り、ザ・ピーナッツの才能に着目してデビューに至らせた当時の渡辺プロダクション社長・渡邊晋と、当時副社長だった渡邊美佐の夫妻が果たした役割は非常に大きい。共演の機会が多く、ふたりが兄や父親のように慕ったクレージー・キャッツのリーダー、ハナ肇もまた然り。

しかし実際に彼女たちが持つ音楽的才能を最大限に引き伸ばすことに執心した師・宮川泰は育ての親と呼ぶべき面々の中でも特別な存在であったろう。宮川は渡辺プロ3人娘の中尾ミエ・園まり・伊東ゆかりにもそれぞれ多くの楽曲を提供したが、その3人が束になっても、宮川がザ・ピーナッツに書き下ろした曲の数には敵わない。

日本テレビ・井原高忠プロデューサーの命名により、1959年にザ・ピーナッツとしての活動をスタートさせたふたりは、キングレコードから出された「可愛い花」でデビュー・ヒットを飾った。しばらくはカヴァー作品が続き、それらはほぼ宮川のアレンジで占められている。そして宮川の作曲による初のオリジナルが1961年8月に出された「あれは十五の夏祭り」で、作詞は岩谷時子。ニッポン放送『ザ・ピーナッツ』の〈今月の歌〉で紹介された曲であった。

そして同じく岩谷×宮川のコンビで1962年3月に発売されたシングル「ふりむかないで」がいよいよヒットへと至る。カヴァー・ポップス全盛の折、チャートを賑わしていた洋楽のカヴァーと並べても全く遜色のない洗練されたリズムとメロディ。後に宮川が語ったところによれば、ポール・アンカが歌って人気を博していた「ダイアナ」のコード進行をヒントにして作られたのだという。

翌1963年夏には流行語となった“バカンス”を逸早く採り入れた「恋のバカンス」がヒットし、さらには秋に出された「東京たそがれ」が「ウナ・セラ・ディ東京」と改題されて、1964年のヒット曲となる。和田弘とマヒナ・スターズや坂本スミ子らとの競作盤だった。1960年代後半になるとオリジナル路線が主流となり、作曲陣にも複数の名が並ぶ中、「銀色の道」や「愛のフィナーレ」などの宮川作品はやはり重要な位置を占めている。1967年に出された「恋のフーガ」はなかにし礼の作詞、すぎやまこういちの作曲でありながら、宮川の斬新なアレンジが曲の魅力を増幅させた。そのことは誰よりすぎやまが認めており、ことある毎に「恋のバカンス」のヒットは自分よりも宮川アレンジの力だったと語っている。

1970年代には、「さよならは突然に」を鈴木邦彦、「指輪のあとに」「情熱の砂漠」を加瀬邦彦が手がけるなど、宮川の出番は減っていたが、ザ・ピーナッツが引退を発表した後、1975年3月に出されたラスト・シングル「浮気なあいつ」は宮川の作曲で原点回帰となり、有終の美が飾られた。ブギウギ・リズムの賑やかな曲調に別れの気配はあまり感じられないが、それもその筈で、曲が作られたのは引退が決まる前であった。宮川は共に出演したサヨナラ公演とTBSの特別番組でふたりのラスト・ステージを見送った後、しばらくは腑抜けの様になってしまったという。歌謡界でザ・ピーナッツの抜けた穴はそれほど大きかったのだ。

CamScannerでスキャン

いずみたく

CMソング、アニメ、ミュージカル その裾野は限りなく広い

text カモウユウイチ

1930年1月20日東京都荒川区生まれ。本名は今泉隆雄。両親が芝居や宝塚好きということもあって、幼い頃から定期的に東京宝塚劇場や歌舞伎座に足を運ぶ。46年に鎌倉アカデミア演劇科に入学。同級生の前田武彦にジャズの魅力を聞き、ジャズに魅せられるようになり、果てには彼の提案により劇団小熊座を創設する。脚本と演出がいずみたく、主演が前田武彦で、各地を上演して回った。その頃、鎌倉アカデミアは財政難で継続が不安定になったため、48年には中央演劇学校舞台芸術学院演劇学科に入学、声楽、発声法、アコーディオンなどを学ぶ。50年に同学院を卒業後、共産党支持色の強い演団劇座を、続いて劇団喜劇座を結成する。その間は、タクシーやトラックの運転手をしながら生計を立て、独学で作曲と管弦楽法を学んだ。そんな中、ワルシャワ青年平和祭の作曲コンクールに応募、審査員だった芥川也寸志に評価され、彼に師事するようになった。57年には、朝日放送ホームソングコンクールで「ぶどうの歌」がグランプリを受賞。それをきっかけに、三木鶏郎が率いる冗談工房に参加、野坂昭如と出会う。そして、彼と多くのCMソングを作曲するも冗談工房を退社。新たに国際芸術協会を立ち上げて再びCMソングを生み出す。

同社を解散後、62年にはオール・スタッフ・プロダクションを設立。CMソングを初め、歌謡曲、ドラマ・映画音楽、アニメ・ソング、童謡、ミュージカルなどジャンルを問わず多くの仕事をこなした。主な歌謡曲作品に、坂本九「ともだち」(65年)、岸洋子「夜明けのうた」(64年)、沢たまき「ベッドで煙草を吸わないで」(66年)、寺内タケシとバニーズ「太陽野郎」(67年)、ピンキーとキラーズ「涙の季節」(69年)、「七色のしあわせ」(69年)、「土曜日はいちばん」(70年)、佐良直美「世界は二人のために」(67年)、由紀さおり「夜明けのスキャット」(69年)、フォー・セインツ「希望」(69年)、フォーリーブス「若者は旅をつづける」(70年)、「人生は一度きりだから」(70年)などがあり、坂本九「見上げてごらん夜の星を」(63年)は第5回日本レコード大賞作曲賞を、ピンキーとキラーズ「恋の季節」(68年)は第10回日本レコード大賞作曲賞新人賞を、佐良直美「いいじゃないの幸せならば」(69年)は第11回日本レコード大賞を受賞した。永六輔とデューク・エイセスと組んだ「にほんのうた」シリーズは全52曲にも及び、「女ひとり」(65年)、「いい湯だな」(66年)、「筑波山麓合唱団」(70年)などのヒットが生まれ、第7回日本レコード大賞企画賞と第11回日本レコード大賞特別賞を受賞した。

ドラマ作品では、『青春とはなんだ』(65年)、『これが青春だ』(66

CamScannerでスキャン

年）、『でっかい青春』（67年）、『オレと彼女』（68年）、『青空にとび出せ！』（69年）、『飛び出せ！青春』（72年）、『青春家族』（73年）、『われら青春！』（74年）、『江戸を斬る』（76年）などを担当。アニメ作品では、『宇宙少年ソラン』（65年）、『さすらいの太陽』（71年）、『魔法少女ララベル』（80年）などを担当。『それいけ！アンパンマン』（88年）でも、「クリスマスの宿」や「森は枯れても」などの挿入歌を担当している。中でも、『ゲゲゲの鬼太郎』（68年、71年、85年、96年、07年）は5度のアニメ化の際、全ていずみたく作曲の「ゲゲゲの鬼太郎」が主題歌として採用された。

映画作品では、『宇宙大怪獣ギララ』（67年）、『恋の大冒険』（70年）、『非情学園ワル』（73年）、『寂しい気分でジョーク』（85年）などがある。その他、童謡の「手のひらを太陽に」、CMソング「日産自動車 愛のスカイライン」「明治製菓 チョコレートは明治」「伊東温泉ハトヤホテル 伊東に行くならハトヤ」「ハウス食品 バーモントカレーの歌」など、枚挙にいとまがない。

数々のヒット曲を生み出す傍ら、69年にフォンテイーヌ・レコードkkを設立。ガーリック・レーベルを立ち上げ、自らのアルバム『このままでいいのだろうか』（71年）などをリリース。72年からはテイチク・レコードのブラック・レーベルで実験的な作品を次々と制作した。75年には、いずみたくミュージカルアカデミーを設立。そのメンバーでいずみたくフォーリーズを結成、藤田敏雄などとミュージカル創作に意欲を燃やし、多くの舞台公演を手がけた。舞台関連でも、82年に『洪水の前』で芸術祭賞大衆芸能部門優秀賞、85年に『歌麿』で文化庁芸術祭演劇部門芸術祭賞、同年に『洪水の前』『歌麿』などの成果により紀伊国屋演劇賞特別賞など、幾多の賞を受賞しており、演劇界への貢献も著しい。そのミュージカル『歌麿』は、88年に海外に渡り、全米6都市でも公演が行われた。晩年は『それいけ！アンパンマン』シリーズの舞台も毎年手がけていたが、92年に62歳で急逝。遺作は、ミュージカル『アンパンマンと勇気の花』挿入歌「すすめ！アンパンマン号」だった。

生涯15,000曲余を作曲。誰にでも口ずさめるようなシンプルなメロディ・ラインで、60年代〜70年代前半は中村八大と並ぶ日本を代表する作曲家だった。歌謡曲作品はもちろん、アニメ主題歌やCM音楽でもスタンダードになった楽曲も多い。いつ聴いても古びないいずみたくメロディは、これからも子供から老年代まで幅広く聴かれ続けていくだろう。

『このままでいいのだろうか』
いずみたく

ガーリック・レコードから71年に発売された自作自演集。

CamScannerでスキャン

キング／1964年9月

夜明けのうた

岸洋子

作詞：岩谷時子
作曲・編曲：いずみたく
B面：スウェーデンの城

第6回日本レコード大賞歌唱賞と作詩賞を受賞した岸洋子の代表作。元々は、62年のテレビ・ミュージカル「霧淡く」のテーマ曲で、63年にはドラマ「ぼうや」で主演の坂本九が歌っていた。岸洋子版リリースと前後して、坂本九、ダーク・ダックスなどもリリース。各社競作となったが、最もヒットしたのは岸洋子版だった。それまでのシャンソン歌手のイメージから、歌謡曲も歌える歌手という認識を広めた楽曲だ。

キング／1966年12月10日

これが青春だ

布施明

作詞：岩谷時子
作曲・編曲：いずみたく
B面：貴様と俺

竜雷太のブレイクのきっかけとなったドラマ「これが青春だ」（66年）の主題歌。芸名は、役名の大岩雷太にちなんで名づけられた。布施明にとっては、「青春とはなんだ」主題歌「若い明日」（65年）に続くドラマ主題歌で、9枚目のシングルとなる。サビでの「Cm」へのドミナント・モーション など、明るさと切なさを同居させたコード進行と、荒々しさを感じさせる布施明の歌唱に、青春を感じさせてくれるナンバーだ。

ビクター／1966年4月15日

ベッドで煙草を吸わないで

沢たまき

作詞：岩谷時子
作曲・編曲：いずみたく
A面：教えて頂だい

テイチクから日本ビクターへ移籍した沢たまきの移籍第1弾シングル「教えて頂だい」のB面曲で、のちにA面B面を差し替えて発売された。タイトルがペギー・リーが歌ったウィラード・ロビソンの楽曲「ベッドで煙草は良くないわ」に似ていることもあり、歌謡曲風でありながらもラテン・ジャズの雰囲気も感じられる。71年には篠ヒロコ（篠ひろ子）が、78年にはリリィもシングルでリリースしている。

ビクター／1966年

ともだち

鰐淵晴子

作詞：岩谷時子
作曲・編曲：いずみたく
B面：涙はあとで

ドラマ「ともだち」（66年）主題歌で、坂本九の同名楽曲とは別曲。歌は同ドラマの主演の鰐淵晴子で、ヴァイオリニストの鰐淵賢舟を父に持ち、少女時は天才少女ヴァイオリニストと称されただけあって、正確な音程と正統派の歌唱が素晴らしい。1コーラスの最後では音程が1オクターヴ飛ぶが、不安定な様は微塵も無い。その後、ザ・シャデラックスが「友よ」に改題、コンサートで歌い始め、歌声喫茶などで歌い継がれた。

キング／セブンシーズ
1967年11月20日

太陽野郎

寺内タケシとバニーズ

作詞：岩谷時子
作曲：いずみたく
編曲：寺内タケシ
B面：ワールドボーイ

夏木陽介の主演ドラマ「太陽野郎」（67年）主題歌で、前シングルの「津軽じょんがら節」の発売の僅か20日後にもかかわらず、オリコン・シングル・チャート最高第16位、約10万枚の売り上げを記録。寺内タケシのリーダー・シングルとしては、約12万枚を売り上げた「太陽の花」（68年）に次ぐ記録となっている。間奏ではいきなり半音上に転調して、ドラムスの井上正の叫びがリズム楽器として使用される。

text：ガモウユウイチ

CamScannerでスキャン

キング／1968年7月20日

恋の季節

ピンキーとキラーズ

作詞：岩谷時子
作曲・編曲：いずみたく
B面：つめたい雨

ソロで活動していた今陽子をリード・ヴォーカルに配したグループ、ピンキーとキラーズのデビュー曲。当初は「恋の五月」というタイトルだったが、リリース直前に岩谷時子によって変更された。セルジオ・メンデス＆ブラジル'66のサウンドを手本に、ブラジル音楽の要素と、純歌謡曲をブレンドしたスタイル。オリコン・シングル・チャートで17週間第1位を記録、約208万枚を売り上げる大ヒットとなった。

キング／1969年10月1日

涙の季節

ピンキーとキラーズ

作詞：岩谷時子
作曲・編曲：いずみたく
B面：涙のバラード

ピンキーとキラーズの4枚目のシングルで、「恋の季節」以来のオリコン・シングル・チャート第1位を記録、約52万枚を売り上げた。ブラジル音楽色は希薄になり、演歌にも通じるような純歌謡曲路線。今陽子の歌唱力の高さを際立たせるサビのロング・トーンを活かしたメロディ・ラインがさすがだ。間奏ではチェンバロを導入、今陽子のヴォカリーズとのユニゾンでクラシカルな雰囲気も感じさせてくれる。

ビクター／1969年7月15日

いいじゃないの幸せならば

佐良直美

作詞：岩谷時子
作曲・編曲：いずみたく
B面：涙のおさけ

レコードの世界で初めてモノ・セックスをテーマにした楽曲で、オリコン・シングル・チャート最高第2位ながら約44万枚を売り上げ、オリコン史上では佐良直美リリース作品中最も多い売り上げを記録した。第11回日本レコード大賞を受賞したが、いずみたくは「作詩のおもしろさがバツグンだから」と述べている。Aメロとサビというシンプルな構成ながら、クリシェを導入したコード進行は当時としては新鮮に響いただろう。

CBSソニー／1970年2月1日

若者は旅をつづける

フォーリーブス

作詞：岩谷時子
作曲：いずみたく
編曲：大柿隆
B面：愛の鐘が鳴る

フォーリーブスの7枚目のシングルで、オリコン・シングル・チャート最高第29位で9万枚の売り上げを記録。メロディはフォーク・タッチだが、ヴァイブやストリングスの導入でフォーク色は薄められている。セールス的には大ヒットとはいかなかったが、解散直前の78年にNHKで放送された『ビッグショー フォーリーブス最初で最後の夜』で最後を飾るなど、数多いレパートリーの中でも重要な楽曲のひとつ。

サンリオ／1971年

いちご娘

アイリーン

作詞：岩谷時子
作曲：いずみたく
B面：いちごの恋

アグネス・チャンの長姉で、60年代から香港の映画に出演を開始。71年にはアグネスとジョニ・ミッチェル「サークル・ゲーム」を歌い、香港で大ヒットした。山梨シルクセンター(現：サンリオ)によるサンリオレコードからリリースした日本デビュー作の本楽曲は、いずみたくらしいシンプルなメロディながら、ディミニッシュ・コードが独特でユニークなサウンドを持った楽曲。アイリーンも安定した歌唱力を聴かせている。

CamScannerでスキャン

東芝／1963年5月1日

見上げてごらん夜の星を

坂本九

作詞：永六輔
作曲：いずみたく
編曲：渋谷毅
B面：勉強のチャチャチャ

元々は、60年に初演されたミュージカル「見上げて ごらん夜の星を」の主題歌。63年5月に坂本九がシン グルとしてリリースすると大ヒットを記録、11月には 番匠義彰監督により映画化もされ、第5回日本レコード 大賞作曲賞を受賞した。Bメロでは属調の平行調に移動し 切なさを増加させている。73年にはフォーリーブスが 高田弘の編曲で、02年にはDEENがカヴァー。それぞ れ、チャート最高第24位と18位を記録した。

東芝／1965年3月5日

ともだち

坂本九

作詞：永六輔
作曲・編曲：いずみたく
B面：行ってみよう

永六輔の「身体の不自由な子供たちのための歌を作りたい」という思いに心を動かされ、いずみたくが無償で作曲を引き受けた楽曲。1番と2番はワン・コーラスが18小節だが、3番は2小節短い16小節になっている。その後、8小節の大サビが追加され、2小節短いまま元に戻る(16＋8＋16)。イレギュラーな構成ながら、全くそれを感じさせないのがユニークであり、いずみたくのセンスだろう。

東芝／1965年8月

女ひとり

デューク・エイセス

作詞：永六輔
作曲・編曲：いずみたく
片面：ぼた山

65年から70年にかけて、両A面シングルとして全52曲発売された「にほんのうた」シリーズの中の1曲。本楽曲は京都をテーマにしたナンバーで、カップリングの「ぼた山」は福岡をテーマにしている。6小節のAメロと4小節のBメロの2つのモチーフで、A−B−Aという全16小節の1コーラスのシンプルな構成。シンプルな構成の中に印象的なメロディ・ラインを作るいずみたくの真骨頂の楽曲だ。

東芝／1966年2月

いい湯だな

デューク・エイセス

作詞：永六輔
作曲・編曲：いずみたく
B面：銀杏並木

第8回日本レコード大賞企画賞を受賞した「にほんのうた」シリーズの中の1曲で、群馬県がテーマ。カップリングは「銀杏並木」。68年には、萩原哲晶の編曲により、ザ・ドリフターズが「いい湯だな（ビバノン・ロック)」のタイトルで「ズッコケちゃん」のB面としてリリース。テレビ「8時だョ！全員集合」や、「さよならするのはつらいけど」のタイトルで「ドリフ大爆笑」のエンディング・テーマとして使用された。

ビクター／1967年12月5日

私の好きなもの

佐良直美

作詞：永六輔
作曲・編曲：いずみたく
B面：涙がかわいたら

歌詞の元ネタは「私のお気に入り（マイ・フェイヴァリット・シングス)」で、リズムはボサノヴァ風。当初から当時最もモダンだったボサノヴァをコンセプトに作曲されており、永六輔の全く関係の無い言葉の羅列が独特の雰囲気を生み出している。オリコン・シングル・チャート最高第30位、約6万枚と売り上げを落としてしまったが、近年に小西康陽がリミックスを手がけるなど、和モノ・ソフト・ロックとして再評価が著しい。

text：ガモウユウイチ

キング／1965年5月

手のひらを太陽に

ボニー・ジャックス

作詞：やなせたかし
作曲：いずみたく
B面：私は誰でしょう
(中野慶子、ボニー・ジャックス)

61年に「木島則夫モーニング・ショー」の今月の歌として制作された。バイヨンのリズムを取り入れた楽曲で、全国から譜面の問い合わせが殺到したという。62年にはNHK「みんなのうた」で放送され、宮城まり子とビクター児童合唱団の歌唱で、10吋版「NHKみんなのうた 第2集」が63年にリリースされた。65年にはボニー・ジャックスがシングルでリリース、その後音楽の教科書にも掲載された。

ビクター／1967年5月15日

世界は二人のために

佐良直美

作詞：山上路夫
作曲・編曲：いずみたく
B面：愛は哀しく

佐良直美のデビュー・シングルであり、第9回日本レコード大賞で新人賞を受賞した大ヒット曲。当初、明治製菓アルファチョコレートのCMソングとして書かれた楽曲だった。基本的には3つのコードと、2つのモチーフだけで構成された楽曲は、佐良直美も最初は「童謡みたいな曲」と思ったという。オリコン・シングル・チャートが公式に開始された翌年まで売り上げを伸ばし、最高第2位のロング・ヒットを記録した。

東芝／エキスプレス
1969年3月10日

夜明けのスキャット

由紀さおり

作詞：山上路夫
作曲：いずみたく
編曲：渋谷毅
B面：バラのためいき

本名の安田章子で活動していた由紀さおりの同名義でのデビュー曲。1番に歌詞が登場せずにスキャット（正確にはヴォカリーズ）のみで歌われるという斬新なスタイルで、オリコン・シングル・チャート第1位、約109万枚の大ヒットを記録した。本作品が大ヒットしたため、ヴォカリーズのこともスキャットと呼ぶようになってしまった。本来の用語の意味を変えてしまうほど大きな影響を与えたナンバーだ。

東芝／エキスプレス
1969年5月1日

希望

フォー・セインツ

作詞：藤田敏雄
作曲：いずみたく
編曲：渋谷毅
B面：お前だけは、ギター

ダニー石尾や宮川昌浩（現：志賀正浩）が在籍していたフォー・セインツの2枚目のシングルで、オリコン・シングル・チャート最高第26位を記録。元々は藤田敏雄ともに作ったフォーク・ソングの中の1曲で、70年には岸洋子やザ・シャデラックスが競作でリリース。岸洋子版は最高第2位、約52万枚を売り上げ、彼女最大のヒット曲となった。フォー・セインツは、その後レコード会社を移籍してフォー・クローバーズへと改名した。

コロムビア／1971年3月10日

バラの革命

弘田三枝子

作詞：島村葉二
作曲：いずみたく
編曲：渋谷毅
B面：失われた月光

多くのシングルをリリースしている弘田三枝子だが、本作が唯一のいずみたく作品。アップ・テンポのマイナー歌謡で、ドラマティックに展開していく渋谷毅のアレンジが素晴らしい。5作続いていたオリコン・シングル・チャート・インを逃し、その後再びチャート・インすることは無かった。作詞の島村葉二は、東宝プロデューサーの酒井喜一郎の別名義で、ビートルズやディズニーの「星に願いを」の訳詞も担当している。

text：ガモウユウイチ

CamScannerでスキャン

東芝／1971年6月5日

鎖

藤山ジュンコ

作詞：山上路夫
作曲：いずみたく
編曲：大柿隆
B面：あなたに選ばれて

アニメ「さすらいの太陽」主題歌「心のうた」(70年) のソノシート版でプレ・デビューした藤山ジュンコの実質的なデビュー・シングルで、同アニメでも第18話で挿入歌として使用された。電子オルガンとファズ・ギター、細かくグルーヴするリズム隊、ナンシー・ウィルソンに影響された豪快なヴォーカル。当時はチャート・インならなかったが、サイケデリックの芳香を感じさせるサウンドで90年代に再評価された。

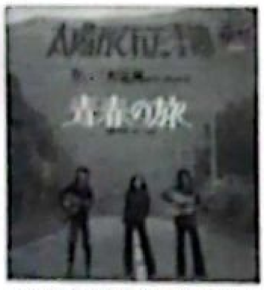
キング／1970年11月

悪い遊び

篠ヒロコ

作詞：山上路夫
作曲：いずみたく
編曲：大柿隆
B面：ふり返って

いずみたくに師事後、68年にクラウンレコードから「水色の風」でデビューした篠ヒロコ (篠ひろ子)。2枚リリースしたシングルがヒットには至らずキングレコードに移籍してリリースしたのが本作。Bメロ部分でリズムがシェイクになる正統派歌謡曲で、歌もかなりのものだが、本作もチャート・インには至らなかった。その後は、ドラマ「寺内貫太郎一家」(74年)、「金妻」(84年) シリーズなどで女優として人気を博した。



コロムビア／1972年2月25日

太陽がくれた季節

青い三角定規

作詞：山川啓介
作曲：いずみたく
編曲：松岡直也
B面：青春の旅

ピーター・ポール&マリーを雛形としたフォーク・グループの青い三角定規のデビュー曲であり、ドラマ「飛び出せ！青春」(72年) の主題歌。グループ名は、いずみたくのアイデアだったという。日本人好みのマイナー・キーで覚えやすいキャッチーなメロディ・ラインを持つナンバーで、オリコン・シングル・チャート第1位、約50万枚の大ヒットを記録した。編曲は、当時スタジオ・ミュージシャンとして活動していた松岡直也が担当。

ワーナー／1974年

帰らざる日のために

いずみたくシンガーズ

作詞：山川啓介
作曲：いずみたく
編曲：森岡賢一郎
B面：青春の0番地

ドラマ「われら青春！」(74年) の主題歌で、オリコン・シングル・チャート最高第13位、約23万枚を売り上げた。いずみたくらしいシンプルでキャッチーなメロディ・ラインだが、16ビートのファンキーなバッキングが新しい時代を感じさせる。いずみたくシンガーズは、歌って踊れるエンターテインメント・コーラス・グループだったが、本作品が唯一のオリコン・シングル・チャート・イン曲となった。

コロムビア／1974年7月1日

ふれあい

中村雅俊

作詞：山川啓介
作曲：いずみたく
編曲：大柿隆
B面：青春貴族

ドラマ「われら青春！」(74年) の挿入歌であり、主演の中村雅俊のデビュー曲。オリコン・シングル・チャート第1位を記録、約127万枚を売り上げた。このヒットに際して所属レコード会社の日本コロムビアからデンオン (現：デノン) のオーディオ・コンポが中村雅俊に贈呈されたが、家が小さすぎて入らなかったという。まだ四畳半のアパートに住んでいた彼は、本楽曲の大ヒットを期にスターへと成長していった。

作家とシンガー

ピンキーとキラーズ

text：ガモウユウイチ

15歳の時に地元の名古屋でスカウトされた今陽子は、いずみたく主宰のオールスタッフ・プロダクションへ所属するため上京した。上京後は、いずみたくの母親の家に下宿しながらレッスンを受けた。彼女の後に、佐良直美もいずみたくのレッスンを受けたが、佐良直美の方が「世界は二人のために」（67年）で早くデビューしてしまい、さらには大ヒットしてしまったため、今陽子は泣いて悔しがったという。ほか、ジャズ・ピアニストの松岡直也や世良譲などのレッスンを受け、67年に「甘ったれたいの」でデビューした。パンチのあるハスキーな声を持っていたが、当時流行していた山本リンダの人気にあやかったカマトトな楽曲でセールス的には芳しくなく、いずみたくのアイデアで今度は男女混声グループとしての再デビューが画策された。グループ名にはスパンキー＆アワー・ギャングからヒントを得て、ピンキーとキラーズ（以下、ピンキラ）と命名された。いずみたくの厳しいレッスンにより、デビュー前にすでに100曲のレパートリーを持っていたという。そして、68年にデビュー・シングル「恋の季節」をリリースする。元々は倍賞美津子のテレビ出演のために作られた「恋の五月」が原曲で、ピンキラはデビュー以前に、テレビでこの曲の倍賞美津子のバック・コーラスを担当していた。「甘ったれたいの」で失敗を経験していたいずみたくは、彼自身の目指した方向性であるセルジオ・メンデス＆ブラジル'66風のブラジル音楽色と、今陽子の個性を活かしたパワフルなメロディ・ラインを融合したサウンドを生み出した。ソロとコーラスが交互に登場するのは、黒人霊歌を意識して作られており、歌謡曲界では初めての試みだった。結果的には、オリコン・シングル・チャート第1位を記録、総売り上げ約208万枚（ほかの記録では約270万枚という記録も）の大ヒットを記録した。

デビュー曲のヒットを受け、ピンキラのメイン・ライターはその後もいずみたくが務め、ラスト・シングルの「ロマンス」（71年）まで20枚のシングルをリリースした。その数は、A面とB面を合わせた全40曲中、外国曲の「ジングル・ベル」（69年）などの外国曲を除いた31曲でいずみたくが作曲を担当している。ピンキラの成功を期に、ルートNo.1、NOVO、カサノヴァ7（セッテ）、三枝伸とデイ＆ナイツ、平田隆夫とセルスターズ、ナウ！など、セルジオ・メンデスのフォロワーの名を冠したピンキラ・フォロワーが多数デビューするも、平田隆夫とセルスターズを除いて成功したとは言いがたい。ピンキラでの絶妙なブラジル音楽と歌謡曲のブレンド具合があったからこそ、一般の人の耳にもブラジル音楽が自然に行き渡ったといえる。ソロ・デビューの失敗を分析して、自らの音楽嗜好を取り入れながらも売れる楽曲を作るという点では、いずみたくは天才的な才能を持っていた。彼の楽曲の魅力もあり、わずか4年間の活動ながら、国民に鮮烈な印象をつけたピンキーとキラーズ。彼らが記録したオリコン・シングル・チャート17週連続1位の記録は、未だに破られていない。

「恋の季節」
ピンキーとキラーズ

鈴木道明

ムーディな都会派スタンダードを数多く生み出したジャジーなメロディ

歌謡曲とテレビの歌番組が密接な関係にあった時代、テレビ局のディレクター、プロデューサーでありながら作曲の才能に恵まれ、幾多のヒットを世に送り出した人物がいる。すぎやまこういちと並んで知られるのが鈴木道明だろう。1920年東京生まれ。発足間もないラジオ東京（のちのTBS）に入社、ラジオ・テレビで数々の音楽番組を担当し、その後TBSでは編成局次長や第二演出部長の要職に就いた。ことにTBSが主催した大物外国人歌手のステージは鈴木の独壇場で、ハリー・ベラフォンテやナット・キング・コールらのステージを制作した。その傍らで作曲活動もはじめ、「ワン・レイニー・ナイト・イン・トーキョー」「夏の日の想い出」といった歌謡曲のスタンダードとなるナンバーを世に送り出している。

ジャズに関する素養と含蓄が抱負だったこともあり、そういったセンスと知識は自身の音楽番組制作に存分に活かされたほか、自身が作るメロディにも投影されている。また、数々の外来音楽家の番組を手がけるたびに、巨額の外貨を海外に持っていかれてしまうことに忸怩たる思いがあり、外貨が稼げる輸出用の日本製音楽を作ろうというのも作曲をはじめた動機のひとつであったという。

そういった作品の１つに「ワン・レイニー・ナイト・イン・トーキョー」がある。安倍寧『流行歌の世界』（音楽之友社）によれば、雨の夕暮れ時、表参道あたりを車で走っているとき、ふと浮かんだメロディであったという。当初はジャズ・シンガーの水島照子が鈴木の手がけた歌番組でこの曲を披露したところ、レコード会社から話が来て吹き込み、大きなヒットにはならなかったものの、その後越路吹雪や日野てる子、ブレンダ・リーまでが吹き込んで、世に知られるロングセラーとなったのだ。

鈴木道明メロディの、洋楽的な洗練のベースがジャズ・スタンダードにあることはその曲調やビート感からもよくわかるであろう。そして「ワン・レイニー・ナイト・イン・トーキョー」が代表的だが、60年代後半から70年代初頭にかけ、鈴木作品は歌謡曲歌手のアルバム曲として実に多くカヴァーされた。「赤坂の夜は更けて」にしても最も有名な西田佐知子版のほか、島倉千代子、マヒナスターズらの競作、さらにちあきなおみや藤圭子など幾多のカヴァーがある。東芝の草野浩二ディレクター曰く、「誰にでも歌えて、それでいていい曲。そんなに大ヒットというわけでもない」のでカヴァーには向いているのだそうである。鈴木道明メロディの本質を言い当てているといえるだろう。

text：馬飼野元宏

CamScannerでスキャン

ポリドール／1965年2月

ワン・レイニー・ナイト・イン・トーキョー

日野てる子

作詞・作曲：鈴木道明
編曲：前田憲男
B面：夏の日の想い出

日野てる子、越路吹雪、和田弘とマヒナスターズ、ブレンダ・リーなどと競作となった、ジャズの影響を受けたムード歌謡の名曲。本楽曲は2種類の歌詞が存在しており、日野てる子版はオリジナル・ヴァージョンの水島早苗版と同様の歌詞を歌っている。74年には、本楽曲のメロディ・ラインがハリー・ウォーレン作曲の「ムーラン・ルージュ」主題歌「夢破れし並木道」と類似しているとして裁判になったが、偶然の類似と認められた。

ポリドール／1965年2月

夏の日の想い出

日野てる子

作詞・作曲：鈴木道明
編曲：前田憲男
A面：ワン・レイニー・ナイト・イン・トーキョー

「ワン・レイニー・ナイト・イン・トーキョー」のB面に収録された楽曲で、のちにA面とB面を入れ替えて、ジャケットも差し替えられてリリースした。12/8拍子のロッカバラード・スタイルのマイナー・キーの楽曲で、「IVm」での「6th」の使用や、Bメロでの4度進行など、ジャズの影響を感じさせるモダンなサウンド。なお、和田弘とマヒナスターズもこの2曲のカップリングでシングルをリリースしている。

ポリドール／1965年12月

赤坂の夜は更けて

西田佐知子

作詞・作曲：鈴木道明
編曲：川上義彦
B面：女の意地

ムード歌謡の古典的名曲で、島倉千代子、和田弘とマヒナスターズ、三島敏夫、武井義明などと競作となったが、西田佐知子版が最もヒットした。A－B－A'の構成で、Bパートでの「IIIdim」や「IIdim」、「IVm－♭VII7－♭III」（「♭III」をトニックに置き換えた「IIm－V7－I」）など、ジャズの影響を感じさせるモダンなサウンド。のちに、ちあきなおみや藤圭子などもカヴァーした。

ポリドール／1965年12月

女の意地

西田佐知子

作詞・作曲：鈴木道明
編曲：川上義彦
A面：赤坂の夜は更けて

※ジャケットは再発時のもの

「赤坂の夜は更けて」のカップリング曲で、西田佐知子自身も好んで歌っていた楽曲。12/8拍子のロッカバラード・スタイルのマイナー・ナンバーだが、「IVm」での「6th」の使用や、「♭II」コードや「IIdim」コードの導入など、演歌とは一味違ったモダンなコード進行となっている。70年にはリバイバル・ヒットして、同年12月1日に再リリース。オリコン・シングル・チャート最高第7位を記録、約31万枚の大ヒットとなった。

東芝／エキスプレス
1977年11月20日

北国は寒いだろう

中山恵美子

作詞・作曲：鈴木道明
編曲：高田弘
A面：慕情のワルツ

10歳の頃からテレビやラジオに出演後、72年にミノルフォンから「白い波をのこして」でデビューした中山恵美子。東芝EMIに移籍後2枚目、通算9枚目のシングルが本作品。歌謡曲テイストの強い楽曲だが、Bメロでの平行調への移調など、暗さと明るさが同居した個性的なメロディ・ラインとなっている。本楽曲で、初のオリコン・シングル・チャート入りを果たし、最高第73位を記録した。82年に一風堂の見岳章と結婚して引退した。

text カモウユウイチ

平岡精二

退廃的でセンチメンタル 夜のムードを歌謡曲に持ち込んだ男

日本のチェット・ベイカーと呼べるのが、この平岡精二だと思う。本職はジャズメンなのだが、マイクの前に立つと、とろけるような美声を聞かせる。その声が少し高めの中性的なクルーナー・ヴォイスというところも、チェット・ベイカーによく似ている。ただひとつ違うところは、平岡には作詞作曲の才能があったことだ。

昭和6年生まれで、青山学院高等部に在学していたころから頭角を現し、レイモンド・コンデ率いるゲイ・セプテットに入団する。担当楽器はヴィブラフォンで、他にもトランペット、サックス、マリンバも演奏する。大学卒業後は、自己のグループを組んで活躍する。65年に始まった朝のワイド番組『奥さまスタジオ 小川宏ショー』にレギュラー出演し、毎日生演奏を繰り広げていた。余談ながら、同番組のテーマ曲は平岡精二が作曲した。

歌謡曲に関わったのも早く、森山加代子の60年のヒット曲「月影のナポリ」のB面曲「白鳥の恋」は、平岡精二の編曲。作曲家として最初のヒットはペギー葉山の「爪」（58年に最初に作られ、61年に再録音したヴァージョンがヒット）で、作曲だけでなく作詞も平岡が手掛けている。さらに同年に発表した「学生時代」の大ヒットで評価が決定づけられた。平岡の曲の面白さは、作詞も自身でおこなっていることからシンガー・ソングライター的要素が強いところにある。これは森田公一とトップギャランにも共通する要素だ。

平岡精二のもうひとつの特徴は、ジャズの雰囲気があることだ。夜のムードと言い換えてもいいのだが、どこか退廃的でセンチメンタル。それが昭和の歌謡曲のフィールとマッチしていた。他にも、旗照夫や越路吹雪、それに石原裕次郎も吹き込んだ「あいつ」、フランク永井の「男」、ロミ山田やちあきなおみが取りあげた「煙草のけむり」、珍しいところでは、美空ひばりが歌った「わかってね」がある。どの曲も4ビートが基調になっているところが面白い。松尾和子が76年に発表したアルバム『或る窓』は、平岡精二の作品集で、作詞作曲だけでなくアレンジも担当した。トータル・アルバム的な要素もあり、70年代歌謡曲の名盤のひとつと言っていいだろう。

「謎の女B」はキノコホテルがカヴァーしたことでも話題となったが、オリジナルは67年に発売された曽我町子版。曽我町子といえば「オバケのQ太郎」の声でおなじみだが、こんな歌手時代もあったのだ。実は作者の平岡精二のヴァージョンも69年にリリースされている。翌年の70年には、自作曲の「謎の女B」や「あいつ」を含んだヴォーカル・アルバム『平岡精二〜ナイトクラブの片隅で〜』がリリースされていて、魅惑のヴェルヴェット・ヴォイスが堪能できる。

text：小川真一

CamScannerでスキャン

キング／1958年

爪

ペギー葉山

作詞・作曲・編曲：平岡精二
A面：ラ・ノビア

当時、平岡精二の恋人であったペギー葉山の幼い頃の爪を噛む癖をヒントに書き上げ、彼女にプレゼントした楽曲。スウィングのバラードで、A－A'－B－Aというジャズ・スタンダード的な構成のジャズ・ナンバー。頭2小節の「Ⅰ・Ⅵ－Ⅱm・Ⅴ」というコード進行は、ビ・バップ時代で最も一般的なコード進行で、リズム・チェンジと呼ばれるもの。ジョージ・ガーシュウィンの「アイ・ガット・リズム」のコード進行に基づいた進行だ。

東芝／1958年

あいつ

旗照夫

作詞・作曲・編曲：平岡精二
B面：君の顔

日本人初の男性ファッションモデルとして知られる旗照夫に提供したナンバー。平岡精二の恋人だったペギー葉山と別れたあとに、よりを戻したいと思いこの楽曲に思いを込めたという。本楽曲もスウィングのバラードで、A－A'－B－Aというジャズ・スタンダード的な構成のジャズ・ナンバーということで、「爪」と対になる楽曲といえるだろう。Bパートでは、Fメジャー・キーからAマイナー・キーへ転調、当時としては斬新な転調だ。

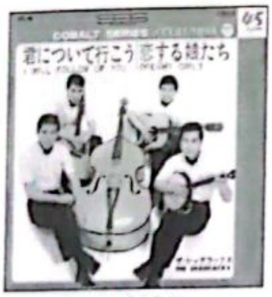
キング／1964年

学生時代

ペギー葉山

作詞・作曲・編曲：平岡精二
B面：鏡

平岡精二とペギー葉山の出身校である青山学院をモデルに「大学時代」のタイトルで制作されたが、ペギー葉山が「みんな大学に行く時代じゃないから」という理由で拒否反応をおこし、レコーディング・スタジオで大喧嘩に。結局「学生時代」と改題、アルバムの一曲として発表されることとなった。ハーモニック・マイナー・スケールを使用した、日本人の琴線に触れるメロディ・ラインで、時代を超えて愛される曲となった。



コロムビア／1966年

君について行こう

ザ・シャデラックス

作詞・作曲：平岡精二
編曲：和田昭治
B面：恋する娘たち

63年に大学男声合唱団の関西学院グリークラブのメンバーで結成されたザ・シャデラックスは、名門出身だけあって歌唱や演奏は他のカレッジ・フォーク・グループと比べても頭ひとつ抜けていた。そんな彼らのヒット曲のひとつである本楽曲も、「学生時代」同様にハーモニック・マイナー・スケールを使用した、日本人の琴線に触れるメロディ・ラインのナンバー。中でも、新宿のうたごえ喫茶「ともしび」で人気を博した。

クラウン／1967年9月1日

謎の女B

曽我町子

作詞・作曲：平岡精二
編曲：馬飼野俊一
B面：しっぽ

『スーパー戦隊シリーズ』や『メタルヒーローシリーズ』の多くの特撮作品に出演したほか、アニメ『オバケのQ太郎』のQ太郎など、声優としても活躍した曽我町子の怪唱によるナンバー。スパイ映画の主題歌のようなジャジーでミステリアスなサウンドで、69年には映画『華やかな女豹』の挿入歌として使用された。近年、にわかに本楽曲に注目があつまり、渚ようこ、キノコホテル、EGO-WRAPPIN'などがカヴァーした隠れた人気曲。

text：ガモウユウイチ

CamScannerでスキャン

吉田 正

青春歌謡からムード歌謡、リズム歌謡まで 戦後の日本ビクターを支えた偉大なる作曲家

text：原田和典

1921年1月20日、茨城県生まれ。浜口庫之助は4歳上、中田喜直は2歳下である。近所にレコード店があったことも理由のひとつなのか、幼いころより音楽に親しんだという。小学6年生のときには音楽の先生に命じられ、オルガンを弾きながら他の生徒に歌を教えたこともあるらしい。ハーモニカやマンドリンの演奏にも精を出し、日立工業専修学校在籍中にはギターも習得。自らリーダーを務めた学生バンド"吉田正楽団"では、ヴォーカルも披露していたと伝えられる。39年になると上京し、増成動力工業に就職。いっぽうで日本交響楽団（現在のNHK交響楽団）のトランペット奏者、風間滝一に師事して1年半ほどクラシック音楽の理論を学んだ。42年に召集され、日本敗戦と共にシベリアに抑留。48年8月に舞鶴港へ復員し、増成動力工業に復職した。

身に覚えのある歌が、帰国間もない吉田の耳を捉えた。タイトルは「異国の丘」、しかし旋律は自分が43年頃に作った「昨日も今日も」であることに間違いなかった。その曲がNHKのラジオ番組「のど自慢」で、やはり復員兵だった中村耕造の歌唱によって広まっていたのだ（この時点までに、吉田自身の書いた歌詞は増田幸治によって書き直されたと思しい）。さらに"作者不詳"のまま日本ビクターからレコードや楽譜が登場した。間もなく別の復員兵が"このメロディは、吉田正が書いたものである"と、楽譜を書き留めていた手帳をNHKに提出。晴れて作者と認められた吉田は、増田の歌詞を補作した佐伯孝夫の知己を得て49年4月1日付で日本ビクターの専属作曲家になった。

ところで日本ビクターは敗戦後、最も早く日本人によるジャズ・レコーディングを始めた会社である。ほとんど被災しなかったという日本コロムビアとは対照的に、会社が空襲で木っ端みじんとなり、海外の原盤は破壊しつくされ、かといって新たに輸入する経済的余裕もなかったので、自分たち日本人で"西洋音楽の商品"を作る必要に迫られた（自社スタジオ復旧前は、コロムビアのそれを借りたこともあるという）。しだいに、社にはジャズメンが集まるようになる。ジャズ・オーケストラ"ゲイ・スターズ"初代リーダーである多忠修、日系二世で我が国にモダン・ジャズを紹介したひとりといわれるジミー荒木もビクターとの縁が深かった。当時、ジャズはどこで聴かれていたか。どう考えても大都会だ。50年代の吉田サウンドには、ほぼ"都会の情景"を描く歌詞がついてくる。鶴田浩二「街のサンドイッチマン」（53年）のひそやかなスウィング感を経て、50年代後半になると二人のヴォーカリスト、フランク永井と松尾和

子が吉田の薫陶を受ける。永井はフランク・シナトラに憧れ、松尾はジャズ・クラリネット奏者レイモンド・コンデのバンドで頭角を現した。当時、おそらく日本津々浦々で親しまれていたのが三橋美智也や三波春夫らの歌唱だ。声を張り、バイブレーションを強め、アーシーな題材をとりあげる彼らの楽曲に対し、吉田サウンドは、低めの声域を用いて滑らかに、都会を描く。上りの夜汽車の寝台の窓、ティー・ルームやロード・ショー。語彙がいかにまばゆい、カタカナの似合うハイカラな質であったか。当時の吉田楽曲を聴けば追体験できる。

ところで吉田は61年にヨーロッパ、62年にアメリカを旅している。日本ビクターの専属である以上、各国のビクター社を回って現地のトレンドを吸収したり、場合によっては日本ビクターが推している歌謡レコードをプレゼンしたりもしただろう。イエ・イエに沸く欧州、ツイストで踊りあかす米国。その空気をたとえ短期間とはいえ吸っていたわけである。そして65年にはエレキ・ギターを編成に含むインスト・バンドが日本でブームを呼び（ビクターはアメリカの4人組“アストロノウツ”を売り出す）、66年にはビートルズが日本武道館に初めて音楽を響かせた。まだまだ、そうしたものが“不良の音楽”“ジャリ、ミーハー向け”と認識されていた時代だ。すでに不惑を過ぎていた大人・吉田正は主に、その前後、不良に向けてではなく都会派の大人に向けてでもなく、都会での慣れない新生活の中で必死に学び働く地方出身の十代に向けて楽曲を放っていた。三田明「美しい十代」（63年）を筆頭とする、いわゆる“青春歌謡”である。いっぽう、60年のデビュー曲「潮来笠」から手がけていた橋幸夫に、さまざまな新傾向のナンバーを歌わせてもいる。サーフィン／ホット・ロッド歌謡、アメリアッチ歌謡（アメリカのインスト・バンド“ハーブ・アルパート＆ティファナ・ブラス”が標榜していた“アメリカ風マリアッチ・サウンド”の和風解釈）、そして翌年のメキシコ・オリンピックを大いに意識した「恋のメキシカン・ロック」（67年）だ。ここではパーカッションを多用したメリハリのあるリズム、それとは対照的にスラーのかかったような橋の歌声、隠し味的に使われるエレキ・ギターが絡み合う。吉田流のグルーヴ歌謡、ここに極まるといっていい。70年代以降は日本音楽著作権協会理事、日本作曲家協会会長などの要職につき、92年には勲三等旭日中綬章を受章した。総作曲数は87年9月の時点で2,083曲に達している。98年6月10日、77歳で死去。翌月、国民栄誉賞に輝いた。同年、私たちはフランク・シナトラや黒澤明も失っている。

「オールスター・フェスティバル 吉田正傑作集」

橋幸夫、吉永小百合、そしてオックスまでが歌い、名曲を綴った吉田正トリビュート・アルバム。

参考資料：金子勇「吉田正 誰よりも君を愛す」ミネルヴァ書房

CamScannerでスキャン

ビクター／1957年11月

有楽町で逢いましょう

フランク永井

作詞：佐伯孝夫
作曲：吉田正
B面：夢みる乙女
（藤本二三代）

吉田とフランク永井の出会いは天の配剤だったというしかない。"魅惑の低音"と呼ばれた比類なきバリトン・ヴォイス、つややかでなまめかしい旋律。そこに風景が浮かんでくるような歌詞が乗る。洋風で都会的なムードにあふれつつも、少しもキザったらしくなく極上の大衆音楽として成立しているのがいい。ジャズ志向の青年フランクは、吉田メロディを通じて人々に親しまれる"語り部"となった。

ビクター／1959年7月

東京ナイト・クラブ

フランク永井&松尾和子

作詞：佐伯孝夫
作曲：吉田正
A面：グッド・ナイト
（松尾和子、マヒナスターズ）

"魅惑の低音"と"夜のハスキー"が出会った。松尾和子のデビュー作でもある。しかし二人の声が重なるのはタイトル部分だけで、あとはソロ・パートがかけあいのように繰り広げられるだけ。しかしそれでもこの都会調、大人男女のわけあり・隠微な雰囲気をしっかり伝えてくれる。1番はフランク、2番は松尾の歌い出し。控えめなマンボというべきテンポ設定、テナー・サックスをリズム楽器として用いるアイデアも興味深い。

ビクター／1960年7月5日

潮来笠

橋幸夫

作詞：佐伯孝夫
作・編曲：吉田正
B面：伊太郎旅唄

ビクター入社直後のアンケートで「ロカビリーもやってみたい」と書いている橋幸夫だが、デビュー曲はお聴きの通りの"股旅もの"。以後、彼は吉田メロディの土着的な一面を代表する表現者として躍進していく。いわゆる四七抜き音階を、鼻にかかったやわらかな声で軽やかに歌う。この曲と同じ佐伯・吉田コンビで制作されたアンサー・ソング「帰って来た潮来笠」(73年)もチャチャチャ風のリズムを取り入れた逸品だ。

ビクター／1962年4月20日

寒い朝

吉永小百合

作詞：佐伯孝夫
作・編曲：吉田正
B面：人の知らない花

"清純"という概念が、そのまま声になり、歌になっている。それがこの時期の吉永小百合だ。ストリングスが竜巻のような響きを立てるや否や聴覚上の寒さが増し、そこに吉永の汚れ知らずの寒さ、和田弘とマヒナスターズのコクのある寒さが加わって（吉永より高い音域で綴られるファルセットにも注目)。まさしくこれは「寒い朝」という標題音楽なのだ。吉田は「いつでも夢を」(吉永と橋幸夫のデュオ)より、こちらを気に入っていたとか。

ビクター／1967年5月1日

恋のメキシカン・ロック

橋幸夫

作詞：佐伯孝夫
作・編曲：吉田正
B面：若い渚

橋幸夫の長い歌手生活に咲く妖しい花、それはリズム歌謡である。この曲は翌68年のメキシコ・オリンピックを意識したのであろうラテン風歌謡。シンプルなモティーフを繰り返すかと思えば、BメロやCメロでは長調と短調を行ったり来たりして陰影を出す。さすがマエストロ・吉田だが、彼はこれを最後にリズム歌謡から離れる。グループ・サウンズの楽曲を聴いて、もう自分の出る幕ではないと思ったのだそうだ。

text 長田和典

ビクター／1948年9月

異国の丘
竹山逸郎／中村耕造

作詞：増田幸治
（佐伯孝夫補詞）
作曲：吉田正
B面：星ひとつわが胸に／平野愛子

もの悲しさと雄大さを兼ねた短調のメロディ。ここから作曲家・吉田正の伝説が始まった。とあるテレビ番組で彼は「作らざるを得なかった曲。あの日、あの時代に異国の地にあった戦友同胞の思いが、私に作らせたのです」と語っている。一番と三番では竹山のバリトン・ヴォイス（この頃から吉田はクルーナー唱法が好みだったのだろう）、二番ではヴィブラートを極めた中村の声と雄大な男性コーラスがフィーチャーされる。

ビクター／1963年10月10日

美しい十代
三田明

作詞：宮川哲夫
作曲：吉田正
B面：千羽鶴

その美貌は秋山庄太郎や三島由紀夫からも賞賛されたという。62年にテレビのオーディション番組で吉田に認められて弟子入り。翌年11月にリリースされたこのデビュー曲でたちまち人気歌手の仲間入りを果たした。短調のメロディ、柔らかな歌声、女性コーラスを導入したアレンジ、学校生活の輝きをちりばめた歌詞が一体となった。舟木一夫の「高校三年生」（同年6月、コロムビア）と並ぶ青春歌謡の金字塔である。

ビクター／1966年

おまえに
フランク永井

作詞：岩谷時子
作・編曲：吉田正
A面：大阪ろまん

吉田が妻に寄せる気持ちを、岩谷時子が歌詞にしたためたと伝えられる。66年に「大阪ろまん」のB面として初登場、72年にA面として発売したものの鳴かず飛ばずだったが、今度こそはと77年に再録音してリリースしたところ見事ヒットに結びついた。それほど吉田もフランクもこの曲に強い思い入れがあったのだ。流行歌史上、大作曲家と大歌手の最も濃密な魂のふれあいを記録した楽曲のひとつではあるまいか。

ビクター／1970年12月25日

傷だらけの人生
鶴田浩二

作詞：藤田まさと
作・編曲：吉田正
B面：嘘で男が泣くものか

歌手としてはなかなか芽が出なかった俳優・鶴田浩二だが、ビクターに移籍し吉田と出会ったことで遂にシンガーとしての天分を開花させた。スウィンギーな「街のサンドイッチマン」（53年）、ダンディズムが薫る「好きだった」（56年）など名曲名唱には事欠かないが、70年代前半という時代にこの曲が大ヒットしたという事実は重すぎるほど重い。鶴田と吉田、戦中派の情念が注ぎ込まれた渾身のワルツ。

コロムビア／1988年4月11日

人
美空ひばり

作詞：阿久悠
作曲：吉田正
編曲：京建輔
※アルバム「不死鳥」収録

コロムビアの歌姫に、ビクターの作曲家が書き下ろす。コ社のホームページには「常識では不可能であったにもかかわらず、本格復帰への餞として例外的に認められ実現した」と説明がある。そう、この吹き込みの前年までひばりは難病と闘い、ひとまず本作で"奇跡の復活"を果たしたのである。別にここまで演歌調にしなくても、と思うが、ひばりは途方もない抑揚をつけながら吉田メロディを歌い込む。

text：原田和典

CamScannerでスキャン

小川寛興

特撮ドラマから純音楽まで その作風は幅広い

1925年3月5日東京府東京市芝区（現：港区）生まれ。立松房子、薗田誠一に声楽を、服部良一に作曲や管弦楽法を、森正に指揮法を師事する。声楽家を志し、藤原歌劇団合唱部でドイツやイタリアのオペラを学ぶ。47年からは服部良一に師事。レッスンの際に、歌手より作曲の方が向いていると勧められ作曲に転向した。

50年に独立してからは、帝国劇場のミュージカルの作曲や専任指揮者に。57年にドラマ『ぽんぽこ物語』で初めて音楽を手がけたのをきっかけに、『月光仮面』（58年）、『七色仮面』（59年）、『鉄腕アトム（実写版）』（59年）、『豹（ジャガー）の眼』（59年）、『快傑ハリマオ』（60年）、『隠密剣士』（62年）、『忍者ハットリくん（実写版）』（66年）、『名探偵明智小五郎シリーズ怪人四十面相』（66年）、『仮面の忍者 赤影』（67年）など、多くの児童向けドラマの音楽を担当。児童ドラマ劇伴作曲家のパイオニアとなる。一般向けドラマでは、『おはなはん』（66年）、『遠山の金さん捕物帳』（70年）、『細うで繁盛記』（70年）、『ママはライバル』（72年）、『ありがとう』（74年）、『右門捕物帖』（82年）などの音楽を担当した。

また、60年からコロムビアレコードの専属作曲家となり、62年から73年まではキングレコードの専属作曲家となり、倍賞千恵子「私だけを愛して」（66年）、「悲しきウェディング・ベル」（67年）、中村晃子「虹色の湖」（67年）、「砂の十字架」（68年）、春日八郎「島のポンポン船」（74年）などの歌謡曲を提供。中でも、倍賞千恵子「さよならはダンスの後に」（65年）で、第7回日本レコード大賞作曲賞を受賞。それを記念して、『日本レコード大賞作曲賞受賞記念ー小川寛興作品集ーさよならはダンスの後に』（66年）もリリースされた。

さらには純音楽界でも活動、和楽器コンチェルトの交響曲「日本の城」、交響組曲「カラーによる幻想」、バレエ音楽「砂の城」などを作曲した。その他、テレビ『アフタヌーンショー』（66年）、『家族そろって歌合戦』（66年）などの音楽のほか、ミュージカル『連作〈みちのくがたり〉鹿吠えは谷にこだまする』で第25回芸術祭優秀賞を受賞。童謡「西部劇」では第2回日本童謡賞を受賞。

作曲法は、楽器を使用せずに楽譜へ直接メロディを書き込むという。これは服部良一に師事していたときに、スコア（総譜）を見せてもらいながら、自然に覚えた手法とのこと。ポピュラリティ溢れた親しみやすいメロディで、60年代に育った人々を小川寛興メロディの虜にした。

text：ガモウユウイチ

CamScannerでスキャン

キング／1965年3月10日

さよならは ダンスの後に

倍賞千恵子

作詞：横井弘
作曲・編曲：小川寛興
B面：妹よ

「下町の太陽」（62年）の印象が強すぎて大人の歌のムードに乗り切れなかった倍賞千恵子のイメージを一新した大ヒット曲で、第7回日本レコード大賞作曲賞を受賞。ルンバ風のリズムに日本人好みのマイナーなメロディで人気を博し、同年に映画化もされた。アニメ「美少女戦士セーラームーン」主題歌「ムーンライト伝説」（92年）のメロディが酷似したため、「ムーンライト伝説」の著作権使用料の一部が分配された。

キング／1966年

おはなはん

倍賞千恵子

作詞：横井弘
作曲・編曲：小川寛興
B面：「おはなはん」のテーマ

NHK連続テレビ小説「おはなはん」（66年）のイメージ・ソング。ドラマのオープニング・テーマはインストゥルメンタルだが、レコード版では歌詞が付けられて倍賞千恵子が歌を担当。ポピュラリティあふれるシンプルなメロディと、Bメロ部分での日本人が好む4度進行（枯葉進行）の導入など、良き時代の主題歌を感じさせる佳曲。エンディングでのモーダル・インターチェンジなど、さり気なく楽典的な手法も取り入れている。

キング／1967年10月10日

虹色の湖

中村晃子

作詞：横井弘
作曲：小川寛興
編曲：森岡賢一郎
B面：夢見ていたい

中村晃子の7枚目のシングルであり、オリコン・シングル・チャート最高第3位、約36枚の大ヒットを記録。マイナー・キーでBメロ部分で平行調に移調するスタイルは、当時の流行のコード進行の一つ。翌年公開され、挿入歌として使用された映画「進め！ジャガーズ 敵前上陸」（68年）ではザ・ジャガーズが演奏を担当していたが、レコード版では江藤勲（Bs）などによる津々美洋とオールスターズ・ワゴンが担当している。

キング／1969年

愛のくちづけ

松本めぐみ

作詞：西川ひとみ
作曲：小川寛興
編曲：森岡賢一郎
B面：スプーン一杯の恋

ドラマ「これが青春だ」（66年）などに出演しており、現在は加山雄三夫人の松本めぐみの唯一のシングル（ほかにオムニバス・アルバム「これが青春だ」での歌唱があり）。オルガンがフィーチャーされたグルーヴィなマイナー歌謡で、完全な一人GSサウンド。しゃくりあげなど、いかにも60年代な歌唱も素晴らしく、シングルがこの1枚きりなのが残念。演奏は、江藤勲（Bs）や穂口雄右（Org）などが担当。

東芝／1979年2月

じょっぱり

片平なぎさ

作詞：花登筐
作曲・編曲：小川寛興
B面：ノナ

淡谷のり子をモデルにしたドラマ「じょっぱり」（79年）主題歌で、主演の片平なぎさが歌を担当した。淡谷のり子自身は、「片平なぎさなんて知らない、私がモデルなら太地喜和子か桃井かおりにやってほしい」と話したという。とはいえ、丁寧な歌唱は曲の雰囲気にも合っており好感が持てる。和の雰囲気を持ちながらも現代的なサウンドの編曲も素晴らしい。本楽曲を最後に本格的な歌手活動を休止してしまったのは残念だ。

text：ガモウユウイチ

CamScannerでスキャン

text：馬飼野元宏

作家とシンガー

中村晃子

いわゆる「ひとりGS」と呼ばれる女性歌手たちの中でも、中村晃子は近年、再評価が高まる1人である。65年にはキングから「青い落葉」で歌手デビュー。代表作の「虹色の湖」は67年10月10日の発売で、実に7作目にして歌手としてブレイクを果たしたのだった。

中村晃子はキングで34枚のシングルを発表しているが、キャリア前半の楽曲のほとんどが、同社の専属作家である横井弘と小川寛興コンビの手によるもの。これらの楽曲をデビュー曲から順に聴いていくと、まさしく日本のポップス・シーンの激動期と歩調を合わせるように、小川寛興が作風を変化させて時代に呼応していった様子が手に取るようにわかる。

デビュー曲の「青い落葉」は、吉田正メロディをイメージさせるムード歌謡調の楽曲で、B面に回った「東京のイブ」のほうが、アップ・テンポでエレキ・ギターがフィーチャーされ、おおげさなバック・コーラスと派手なブラスも含め、エレキ歌謡前夜といった雰囲気。2作目の「霧情」はビギン風のリズムに、しっとりとしたメロディが乗り、中村晃子の歌い方も正統派な女優の歌い方で、同じキングの倍賞千恵子に小川が提供した「さよならはダンスの後に」との連続性を感じさせる。

6作目の「太陽に恋をして」は67年5月1日の発売で、このあたりからバックもバンド・サウンドになり、ホーンと歌がユニゾンになっているなど、メロディは明朗青春歌謡なのに曲全体はジャズ・ベース。B面の「フラワー東京」は橋幸夫&吉田正あたりのリズム歌謡を踏襲した雰囲気がある。

そしてついに「虹色の湖」が登場するが、この時期、黛ジュンが「恋のハレルヤ」で大ブレイクし、女性ポップス歌手の概念を一変させてしまった。黛ジュン＝鈴木邦彦の乾いたR&Bスタイルに比べ、中村晃子＝小川寛興チームは歌謡曲寄りにウェットでわかりやすい作風で、これ以降、ビート歌謡の女性歌手の楽曲に「虹色の湖」の模倣が大量発生することになるのも当然か。中村自身も「砂の十字架」「なげきの真珠」とまるっきり同じような曲を立て続けにリリースしていくのであるから、いかに小川寛興のメロディが凡用性が高かったかがわかる。「虹色」B面の「夢みていたい」はソフト・ロック調で、既に別の方向性を模索していたようだが、「砂の十字架」は出だしが「ブルー・シャトウ」で、歌い出し手前のインスト部分は「恋のハレルヤ」風。B面の「愛の願い」など、ドラムがまさにGS期のそれであり、歌い出し直前のストリングスは完全にヴィレッジ・シンガーズ「バラ色の雲」を意識している。

69年9月の「風とバラの荒野」になると、時代の趨勢かフォーキーなタッチに変化しているが、歌い方はひとりGS時代のままというアンビバレントなものになっている。レコード会社の専属作曲家は、本当に何でも書ける職人であり、流行に合わせてヒットを狙うという歌謡曲の使命に忠実であったことが、中村＝小川組の諸作からもよくわかるのだ。

「虹色の湖
中村晃子ヒット・アルバム」
中村晃子

「ブルー・シャトウ」などGSカヴァーも含むLP。

CamScannerでスキャン

PART 2

グループ・サウンズ黄金期を支えた作曲家

60年代後半、日本中を熱狂の渦に巻き込んだグループ・サウンズの大ブーム。日本のポップ・ミュージックに「ビート」の感覚を持ち込んだ新進気鋭のメロディ・メーカーたちは歌謡史の流れを大きく変えていく。

CamScannerでスキャン

PART 2

グループ・サウンズ黄金期を支えた作曲家

text：馬飼野元宏

エミー・ジャクソンの「涙の太陽」。ジョニー・ティロットソンの「ユー・アンド・ミー」。この2曲はどちらも1965年に発売されたヒット曲だが、前者はいわゆる「和製洋楽」、和製ポップスと呼ばれたもので、あたかも外国人作家が外国人の歌手に書いた洋楽にみせかけた、日本製のポップスなのである。英語のクレジット名になっているが、実は日本人。前者の作曲者は中島安敏、後者の「ハリー・ウィリアムス」とは鈴木邦彦である。

この時代、カヴァー・ポップスは下火になっていたが、代わりに隆盛を極めていたのが青春歌謡と呼ばれる、橋幸夫、舟木一夫、西郷輝彦、三田明といったシンガーたちによる若者向けの歌謡曲である。だが、洋楽的なものに憧れる若者層は、新たなムーヴメントである「エレキ・ブーム」に飛びついた。ビートルズの登場によるリヴァプール・サウンドの人気、そしてベンチャーズによるエレキ・インストの大流行を背景に生まれたのが「和製ポップス」と呼ばれる前述の楽曲群である。そして、それは1966年のビートルズ来日を1つの起爆剤として、日本にグループ・サウンズの大ブームを巻き起こした。

このムーヴメントの中から登場した作曲家に鈴木邦彦がいる、中村八大や宮川泰と同じく、ジャズ・ピアニスト出身で、1966年にシャープ・ホークスに「ついておいで」を提供するなど、GSブームの初期から作曲家として活躍をはじめているが、67年に入るとジャガーズ、ザ・ゴールデン・カップス、ザ・ダイナマイツなどに次々と楽曲提供しヒットに結びつけている。一方でこの年には黛ジュンの「恋のハレルヤ」で特大ヒットを飛ばした。

「恋のハレルヤ」は、エレキ・ブーム～ビートルズ来日～GSブームという流れで起きた、日本の音楽の一大変化に、いち早く対応した楽曲と呼べる。簡単に言えば、バンド・サウンドによるビート感覚を日本のポップスに植え付けた曲だった。ロック・バンド的な概念は、それ以前の日本の歌謡曲には存在しなかったもので、ジャズやクラシックの編成を応用した従来の歌謡曲のサウンドとは一線を画すものがあった。こういった曲やアレンジの発想は、レコード会社の専属作曲家と

CamScannerでスキャン

いった保守的な縛りの中からは生まれづらいものがあり、言い換えればGSブームが、フリー作家の台頭を促したのである。

こういった流れの中で登場してきたフリー作曲家には、フジテレビ「ザ・ヒットパレード」の制作者だったすぎやまこういち、そして日本グラモフォンの洋楽担当ディレクターだった渡辺栄吉こと筒美京平、そして鈴木邦彦と同じ慶応大学ライトミュージックソサエティ出身の村井邦彦などがいる。

筒美京平は、GSブームの中ではやや後発で、オックス、ザ・ジャガーズなどに楽曲提供してきたが、彼が大ブレイクを果たすのは1968年末にいしだあゆみがリリースした「ブルー・ライト・ヨコハマ」で、GSブームの衰退と入れ替わるように、新たな歌謡ポップスの地平を切り開いた。

筒美京平は80年代終盤まで数多くのヒット曲を世に送り出した、日本一のヒット・メーカーである。その歴史は到底このスペースで語れるものではないが、音楽面では作曲と編曲を同時に組み立て、バンド・サウンドとオーケストレーションの融合によってメロディとサウンドを一体化させた、新たな時代のポップスの担い手であったことは、この60年代後半の諸作品を聴けばよくわかる。バート・バカラックに代表されるソフィスティケートされた洋楽ポップス、フィラデルフィア・サウンドとその後のディスコ・ブーム、80年代のユーロビートやテクノ・ポップなど時代のトレンドに素早く対応し、歌謡曲化してしまう。これこそが筒美京平の作曲家としての最大の功績であった。

村井邦彦もまたGSブーム期に台頭してきたフリー作曲家で、ザ・タイガース「廃墟の鳩」やザ・テンプターズ「エメラルドの伝説」などをヒットさせ、さらに赤い鳥、トワ・エ・モワといったグループに楽曲提供、現在ではソフト・ロックと呼ばれる一連のソフィスティケートされた音楽で、日本のポップスに新風を吹き込んだ。

アレンジャーとして活躍後、弘田三枝子のイメージ・チェンジ作「人形の家」で作曲家デビューしいきなり大ヒットを放った川口真も、この流れの中にいる。日本人離れしたスケールの大きな楽曲を生み出す川口の活躍は、70年代に入って顕著になるが、「人形の家」や「片想い」「五月のバラ」などスタンダードになりうる名作を多く生み出す一方で、西郷輝彦「真夏のあらし」や夏木マリ「絹の靴下」など、グルーヴィでファンキーな音作りもまた川口作品の特性であり、こちらの黒っぽいフィーリングでは、鈴木邦彦と共通するものがある。

また、GSのムーヴメントとは接触しない形でブレイクしてきた作曲家もいる。平尾昌晃は元ロカビリー・シンガーとして一世を風靡したが、60年代には作曲家に転身し、渡辺プロダクションのシンガーを中心に楽曲提供をはじめ、伊東ゆかり、布施明、小柳ルミ子らの歌い手をブレイクさせた。

鈴木邦彦

GSブームを牽引し 歌謡曲にビートの概念を持ち込んだ

text ガモウユウイチ

グループ・サウンズ時代前夜に彗星のごとくシーンに登場。新進気鋭の作曲家として、ブームに多くのバンドの楽曲を手がけ、その後も多くの名曲を残した鈴木邦彦は、1938年3月1日 に東京で生まれた。幼少の頃は、母親に連れられていったホテルで聴いたヴァイオリンに目覚めて、自らも習い始める。その後、和田浩治の父である和田肇にピアノを習い、慶応中等部在学時には中村八大の元を尋ねて交流が生まれた。慶応義塾大学に進学後は、名門のライト・ミュージック・ソサエティに在籍。そこで頭角を現して、スマイリー小原とスカイライナーズにピアニスト兼アレンジャーとして参加した。また、中村八大トリオのトラとしてジャズ・クラブに出演したりリッキー中山と960ポンドに参加したりと、プロとして多忙な日々を送るようになった。

大学を卒業後には、ミッキー・カーチスとアイビー・ファイブに参加。その傍ら、65年にジョニー・ティロットソンの「ユー・アンド・ミー」を書き上げて作曲家としてもデビュー。その時の担当ディレクターは、渡辺栄吉（現：筒美京平）だった。その傍ら、66年には西ドイツ（現：ドイツ）・ドルトムントにおける世界体操選手権大会に日本代表選手のピアニストとして参加。その素晴らしい演奏で日本以外からも賞賛を受け、実際には関係なかったにもかかわらず、チェコ代表のベラ・チャスラフスカの恋人と書きたてられたこともあった。

67年には、東芝の草野浩二の紹介で黛ジュン「恋のハレルヤ」を提供。この曲は、なかにし礼と組んだ最初の作品で、「タブー」と「リンゴ追分」をイメージして作曲したという。その後も、「乙女の祈り」(68年)、「天使の誘惑」(68年)、「愛の奇蹟」(68年)、「雲にのりたい」(69年) などの楽曲を提供、ヒットを記録した。同時期には、シャープ・ホークス「ついておいで」(66年)、ザ・ジャガーズ「ダンシング・ロンリー・ナイト」(67年)、ザ・ダイナマイツ「トンネル天国」(68年)、ザ・リード「悪魔がくれた青いバラ」(68年)、ザ・ジェット・ブラザーズとザ・ファイターズ「愛の祈り」(68年) など、多くのグループ・サウンドのグループに楽曲を提供。中でも、ザ・ゴールデン・カップスには、「いとしのジザベル」(67年)、「銀色のグラス」(67年)、「長い髪の少女」(68年)、「愛する君に」(68年)、「蝶は飛ばない」(69年) など、多数のヒット曲を書き、彼らのイメージを決定付けた。また奥村チヨにも、「恋の奴隷」(69年)、「恋泥棒」(69年)、「恋狂い」(70年) などを提供、売れ行きが低迷していた彼女の復活の立役者とな った。橋幸夫「若者の子守唄」(67年)、西郷輝彦「ガラスの涙」(68年)、

[illegible]ス「オリビアの調べ」(68年)、永田英二「あこがれ」(69年)、JOHNNYS'ジュニア・スペシャル「ベルサイユのばら」(75年)など、男性アイドルへの楽曲提供も多い。中でも、西城秀樹には、「恋の約束」(72年)、「チャンスは一度」(72年)、「情熱の嵐」(73年)、「愛の十字架」(73年)、「薔薇の鎖」(74年)などを提供して、初期のロックテイスト溢れる秀樹サウンドを決定付けた。女性アイドルでは、山口いづみ「緑の季節」(72年)、五十嵐じゅん(現:五十嵐淳子)「幸せの行方」(72年)、安西マリア「愛のビーナス」(73年)、林寛子「ほほえみ」(74年)、片平なぎさ「愛のセレナーデ」(75年)、大場久美子「あこがれ」(77年)などを提供。

また、マジョリー・ノエル「好きなのに 好きなのに」(66年)、バエーナ「ゴーゴー・メキシコ」(67年)、ダニエル・ビダル「チャオ・ベラ・チャオ」(70年)、ジュンとシュク(パール・シスターズ)「月にぬれた花」(72年)、マリカ「ピンクの子猫」(72年)、王祥齢(ワン・シャーリン)「強い男が好き」(73年)、李木蘭(リー・ムーラン)「風よ」(73年)、ヤン・シスターズ「子供すぎる彼」(74年)、マギー・ミネンコ「燃えるブンブン」(74年)、リー・チンリン(李金鈴)「第二の誕生日」(74年)など、外国人歌手への提供も多い。それまでの日本人作曲家にはない洋楽センスにあふれたアレンジと洗練されたメロディ・ラインが好まれた故だろう。それらの作品以外にも、サウンド的に凝っていても繊細でキャッチーな旋律が、人々の心に訴えかけ、ザ・ピーナッツ「ガラスの城」(68年)、内山田洋とクールファイブ「恋唄」(72年)、朱里エイコ「北国行きで」(72年)、しばたはつみ「合鍵」(74年)、江利チエミ「酒場にて」(74年)など、今でもスタンダードとなっている楽曲も多い。

その他、『おれは男だ!』(71年)、『ガッツジュン』(71年)、『刑事くん』(71年)、『アイちゃんが行く!』(72年)、『正義のシンボル コンドールマン』(75年)、『フルーツケンちゃん』(76年)などのドラマ主題歌、『ウメ星デンカ』(69年)、『あしたのジョー』(劇場版、および再放送版/79年)などのアニメ、劇団四季『ファミリーミュージカル モモと時間泥棒』(78年)、『ファミリーミュージカル 人間になりたがった猫』(79年)、豊島園ミュージカル『まわれエルドラド!』(82年)などのミュージカルなど、幅広いジャンルの楽曲を手がけている。最近では、後進への育成のほか、自らが考案したミュージックベルの普及に尽力。ベル自動演奏システムを開発、販売して、特許を取得。日本ミュージックベル協会を設立して、ミュージックベル合奏コンテストを主催している。

「ゴー・ゴー・イン・ザ・ワールド」
鈴木邦彦とザ・ジョーカーズ

「枯葉」や「オー・ソレ・ミオ」といった名曲をロック化して演奏したインスト・アルバム。

CamScannerでスキャン

インタビュー
鈴木邦彦

聞き手：鈴木啓之、馬飼野元宏

すずき・くにひこ

1938年生まれ、東京都出身。ジャズ・ピアニストから作曲家になり、67年の黛ジュン「恋のハレルヤ」の大ヒットで、和製ポップスの旗手として以降、数多くの大ヒットを放つ。代表作に黛ジュン「天使の誘惑」、ゴールデン・カップス「長い髪の少女」、奥村チヨ「恋の奴隷」、西城秀樹「情熱の嵐」など。現在、オリジナル楽器「ベル自動演奏システム」を開発、普及につとめている。

高校生から
ジャズ・ピアニストとして活躍
そしてロカビリーの時代へ

—— ピアノは子どもの頃から習っていたんでしょうか。

鈴木　そうです。戦争中、我が家にピアノがあってそれを母が弾いていて、そんなところから少しずつ僕もピアノを弾き出していたんです。それで、慶応中等部のときに引っ越し先の茅ヶ崎で、同級生の友だちが、中村八大さんが茅ヶ崎に住んでいるから会いに行こう、ということで、それで彼が段取りを取って中村さんの御宅に連れて行ってくれたんです。僕は内気で、いつも人の影に隠れてるような子どもだったから、そいつが中村さんと喋ってるのをずっと側で聞いているだけで（笑）。僕はすっかり置き去りで30分くらい経って、中村さんがそろそろ旅に出なくちゃいけないと仰って、「ピアノが弾けるなら、何でも好きな曲を弾いてごらん」と言われたので「はい！」と答えたら「あ、君が鈴木くんだったの」と（笑）。

それで「バンブル・ブギー」か何かをパーッと弾いたら、中村さんがメモリーブックを破ってコードを書いて、確かＢｂの、ブルース・コードだったと思うけれど、「僕が旅から帰ってきたら、もう一度来なさい。そして、その際にこのコードに沿ったメロディを作ってそれを弾いてください」と言ってくれたんです。それで、ジャズの人たちはこうやってコードで弾いているんだな。みんなと合奏するにはコードが必要なんだな、と悟るんです。それで自分でいろいろ考えて。とにかくアドリブっていうのは自分で作曲しなきゃいけないし、それを即興で弾かなければならない。中村さんが帰ってきて聴かせたと思います。中村さんとのきっかけはそういったことでした。

—— 音楽業界に入ることになったのは、大学生の頃でしょうか。

鈴木　いえ、その前に高校生の頃、慶応の学生、

ンドに入って、夏休みにアルバイトでいろいろなホテルなどで演奏していました。

—— 大学では、ライトミュージックソサエティに入っていたんですね。

鈴木 ええ。でもその頃、ライトはどんなに僕が上手くても、上級生がいたらその人が（レギュラー）メンバーになっちゃってるから、チャンスがないんです。その頃、僕は「スマイリー小原とスカイライナーズ」にスカウトされて、ピアニスト兼アレンジをやらせてもらうようになったんです。さすがに4年の時は大学を休み過ぎたので辞めさせてもらって、卒業試験のために、バンド活動自体も一旦辞めたんです。

—— バンドを再開されるのは。

鈴木 卒業試験が終わった後、「リッキー中山と960ポンド」のメンバーとして、「慶応大学リズムキャンドル」と名乗って日本中に行きました。でも、慶応とは名ばかりで、立教と法政と、あと5人か6人のコンボ・バンドで慶応は僕だけ。三田会の人たちに呼ばれてご馳走になったりすると、「○○先生どうしてる？」みたいなことをメンバーが訊かれて窮していると僕が行って、「○○先生はもういらっしゃらないんですが」というようなことを間違いなく答えるという役目（笑）。それで卒業したらそのバンドのメンバーに出会って、まだジャズをやっているのかと思ったら、実は今ロックのバンドに入ってると。「ロックって何？」と訊いたら「ミッキー・カーチスって知ってるか？　ちょうどピアノがいないからお前、入れよ」と誘われ、それで「ミッキー・カーチスとアイビー・ファイブ」に入ったんです。

—— ジャズ喫茶などで演奏されていたんですか。

鈴木 ええ、ロカビリーですからACBに行ったり、銀座のジャズ喫茶に出たり、あとは日劇ウエスタンカーニバルに2回目から出たんです。その頃、日本はジャズよりヒルビリーが盛んだったのに、ミッキーのバンドにジャズのピアニストが入ったというので、平尾（昌晃）が負けるか、ということでスガチン（菅野邦彦）を入れたんじゃないかと思うんです。何が何でもピアノがいなくちゃいけない、みたいな風潮になって。その頃同じようなロカビリー・バンドで、有名だったのが田辺昭知とスパイダース、ブルー・コメッツ……それと相澤（秀禎）さん率いるウエスタンキャラバンかな。

—— 中村八大さんとご一緒されるのはその頃でしょうか。

鈴木 自分でバンドをやっていたときですね。清水万紀夫さんというアルトサックス奏者たちと5人組コンボ・ジャズ・バンドを一緒にやっていたんだけど、その前に中村八大トリオが銀座に出ていたんです。そのとき「邦ちゃん、悪いけど今日書く方が忙しいから、入って」ということでトラ（代役）をやったりしました。

—— 八大さんは一切弟子を取らない主義だったそうですが、鈴木さんはその中でも唯一というか。

鈴木 慶応大学に入ると三保敬太郎とか、もういろいろいるわけ。で、みんな八大さんの弟子になりたいと言うんだけど、あの人、先生って呼ばれるのが嫌いなんです。最後の頃、入院していたときも「先生なんて絶対言わないで」、と言っていました。

中村八大との出会い、そして黛ジュンのブレイクまで

—— 作曲家になるきっかけは何だったのでしょうか。

鈴木 最初に曲作りを勧めてくれたのは草野昌一さん、漣健児さんね。あの人に紹介されて初めて作ったのが、高崎一郎さん作詞で、僕の作曲家デビューとなった曲。「涙くんさよなら」のジョニー・ティロットソンに歌わせるというので僕が自由に作って、それに高崎さんが詞を付けるという形で。

—— それが「ユー・アンド・ミー」ですね。日本語

CamScannerでスキャン

版と英語版があるんですよね。

鈴木　そうですね、それが最初です。で、嬉しかったことに、今とは全く世の中が違ったので、作曲家と名乗る前の頃プライベートで千葉に旅行に行って、黄昏時に女学生とあぜ道ですれ違うと、みんな「ユー・アンド・ミー」を歌っていたんです。「おれが作ったんだぞ！」とはもちろん言えないんだけど（笑）。作曲すると、ラジオから流れた歌を世の中の人が歌ってくれる、ということが現実的にあるんだ、と実感しました。中村八大さんもその数年前から曲を作り始めていて、やっぱりジャズ・ピアニストが作る曲っていうのはちょっと違うんだろうな、と思っていたんです。

── どの辺りが、でしょうか。

鈴木　その頃の主流は詞先、たぶん作詞家の方が偉かったからじゃないかと思うけど、詞先で作ると、ジャンルとしてはみんな演歌のようになってしまう。サビに行くときは長2度か9度上という、同じパターン。なんで出だしがマイナーだろうとメジャーだろうとそうなってしまうのか。これは作曲家になってから演歌をやってる人に訊いたんだけど、そういうものじゃないと人々は歌ってくれないんだって。それを変えたのが洋楽の影響を受けた人たちじゃないかなあ。トニック・サブドミナント・ドミナントだけじゃなくて、いろんなものを作って成功させたのが中村さんじゃないかと思います。

── その「ユー・アンド・ミー」は、作曲の名義が「ハリー・ウィリアムス」になっています。これはどういったいきさつがあったのでしょうか。

鈴木　これはやはり外人が作ったみたいにしたいから、外人の名前にしてくれ、ということだったんじゃないでしょうか。

── 作詞の高崎一郎さんも「ジョニー・ウッドマン」になってます（笑）。

鈴木　でも、つくづく思うのが、長い人生の中で、この人とこのときに出会ったから良かったんだな、と思いますね。いろいろな道があるじゃない。その都度その都度ベストな人と出会ってんだな、と思います。

── まさにそれが作曲家デビューの時からベ な出会いがあったということですね。このと ディレクターはのちの筒美京平さんだったん ね。

鈴木　そうそう、渡辺栄吉さん。そのときま レンジはやっていなかったけれど。

── 作曲作品でまずお聞きしたいのが黛ジュン んの「恋のハレルヤ」ですが、これはどういう経 で作られたのでしょうか。

鈴木　東芝レコードの渋谷森久さんという、デ レクターになりたての人が、僕を普段から推し くれていたんですよ。それで、渋ちゃんの上司 日本体操協会の理事もやっていて、体操の世界 手権で、床運動に合わせてピアノが弾けるやつ 探していて、僕を推薦してくれたんです。それで 僕は海外の大会にピアニストとして行っていたん ですが、その頃、ちょうど東芝では女の子を1人、 石原裕次郎さんから預かっていて、その娘の曲を どうしてもヒットさせたいと。

── それが渡辺順子さん、後の黛ジュンさんです ね。

鈴木　ええ、それでなかにし礼さんが僕を推薦し てくれたようです。僕は礼さんとその前に出会っ ているんですが、礼さんはなんで僕が外国でピア ノ弾いてたか全然知らなくて、僕が慶応出でジャ ズ・ピアノが弾けることしか知らないんです。で も、石原裕次郎さんも慶応だし、この若手のピア ニストは絶対いいと思うって、頼みもしないのに 売り込んでくれたらしい。それで曲を作り始めた けど、書けども書けども、礼さんはNOとしか言 わない。僕は参っちゃって「別にお前とやらなく たっていいんだよ」と言うと「いやいやそれはダ メだ」と。コツを教えよう、ということで言われ たのが、「ここに100人の人間がいるとすると、 その中には音痴も、音楽嫌いなやつもいるだろう。 でもその100に一番近い数字の人たちが「い

[illegible]

[illegible]

鈴木　[illegible]ういう曲調ではなく、10人いたら9人が一回聴いても、どこかで聴いたことあるけど、いいな、と思える曲を書いて欲しいと。具体的には、2曲位に思い描いて欲しいと言われた。1つは「ター」でもう1つが「リンゴ追分」。

―― ああ、なるほど。

鈴木　僕もわかった、そんなのはすぐに作曲してやる、だけどこれで最後だから煮るなり焼くなり好きにしてくれ、ということで、翌日テープレコーダーに録音して渡したのが「恋のハレルヤ」だったの。それで、その預かっている娘、渡邉順子が黛ジュンとなって東芝レコードから発売になったんです。僕はレコーディングの時は呼ばれもしなかったけど、ある日、六本木の中華料理屋にあったテレビから流れてきて「あっ、あのとき書いた曲だ」となって。東芝の高嶋（弘之）さんに電話して「なんだい高嶋さん、知らせてもくれずに」と言ったら「いや、あなたが煮るなり焼くなり好きにしてくれ、と言ったでしょ。それが大ヒットしているんですよ」と。続けて「だからね、先生」と今度はいきなり先生にされちゃって（笑）。

―― では、あの詞が付けられたこともご存じなかった？

鈴木　そうです。黛ジュンがなんで「ハレルヤ」なのかなと思って、礼さんに訊こうと思ったんだけどやめた、なんてテレビで言っていたけれど、でも音とは合ってるんですよ。とにかく、僕が勝手にしてくれ、と投げた曲を、その世界で一日の長があるなかにし礼が、これこそヒットすると見[illegible]

―― [illegible]

鈴木　「[illegible]ハワイアンで行こう！」と言われて[illegible]「天使の誘惑」。コンセプトを聞いて、家に帰って、ハワイアンの「月の夜は」と、あとは[illegible]というあれね、それをごちゃ混ぜにして作って。

―― 「天使の誘惑」で黛ジュンさんはレコード大賞を受賞されます。

鈴木　黛ジュンのお兄さんが三木たかし。だから東芝レコードとしてはその年のレコード大賞は三木たかしが作曲した「夕月」に獲らせたかった。実の兄が作曲ということで話題にもなるし、ちょっと演歌っぽいけど名曲ですよ。レコード会社の宣伝担当も10人中9人がそちらに走ったんじゃないかな。でもその前は、なかにし礼と僕で彼女のヒット曲を作ってきたわけだから、いきなり実兄が出てきて、というのはおかしいんじゃないか、と誰かが言ったんでしょう。そんなことでレコード大賞が獲れたんだけど、それも1つボタン掛け違ったらダメだったから、やはり運というのはありますよね。

―― 黛ジュンさんは、当時としてはかなり革新的な歌手だったと思います。

鈴木　とても高い音を無理して出すので、それが魅力的な響きになるんですよ。今はさすがに出来なくなっちゃったけど、あの頃は彼女の真似しようとしても、できないものでしたね。

―― なかにし礼さんとのコンビでは、「恋の奴隷」に始まる奥村チヨさんの恋シリーズがありますが、あれは曲先ですか？

鈴木　そうです。あれは草野浩二さんがディレクターですが、東芝レコードってみんな仲がいいから、浩ちゃんがなかにし礼－鈴木邦彦コンビを使うと、俺にもやらせて、という風になるわけです。

―― 鈴木先生は詞のコンセプトに関してはご存じだったのですか。

CamScannerでスキャン

鈴木　全部礼さんの後付けです。それでチヨが、なんでこんなエゲツない詞ばかり歌わせるのって文句を言いに来たそうです。僕のところにもクレームが来たけど、詞を書いたのは僕じゃないから（笑）。

――「恋泥棒」は非常に洒落た編曲ですね。

鈴木　イントロのピアノは僕が弾いたんです。それでこの曲を「合歓の郷ミュージックフェスティバル」に出したら、僕はオリコンの小池（聰行）さんと凄く仲が良かったものだから邦ちゃんに、って言ってオリコン特別賞をくれたんですよ。

●

グループサウンズに傑作を連打

――同時期の、GSの諸作品に関してお伺いしますが、ゴールデン・カップスにはデビュー作「いとしのジザベル」から書かれていますね。

鈴木　僕は、ミッキー・カーチスのバンドでロカビリーをやっていたでしょう。でも、その連中は年をとってきて、若者音楽から離れ、ブルー・コメッツやスパイダースなど、GSと呼ばれるグループが出てきたんです。ゴールデン・カップスはその後を追う4番手か5番手でした。その前に、僕はキングレコードから頼まれて「ついておいで」という曲をシャープ・ホークスに書いて、あとはダイナマイツ「トンネル天国」とか、いくつかのグループに書きました。

――ザ・リードやジャガーズにも書かれています。

鈴木　そういうところを経て、築ジュンが夢中になっているグループがいる、というのでやることになったのがゴールデン・カップス。実際に横浜に行って、ローリング・ストーンズ以外はバンドじゃない、日本の作曲家なんてダメだ、みたいな尖った連中に会って。嫌がられながらも何曲か作って、ひょんなことで出来たのが非常に歌謡曲っぽい「長い髪の少女」。それでデイヴ（平尾）に「この曲は大ヒットすると思う。悪いけど、今回ソロは♪どうぞ～だけにしてくれ、あとはマモル（・マヌー）に歌わせるから」って言って。マモルはすごくいい声をしていたんです。デイヴも快諾してくれた。そのうち彼も慣れてきて、上のハーモニーを歌ったりするようになったけど、最初は♪どうぞ～だけ（笑）。

――演奏は彼ら自身ですか？

鈴木　違います。あの12弦ギターのイントロも僕が作りました。少なくとも「長い髪の少女」は彼ら自身ではないですね。その頃は江藤（勲）くんだとか、ドラムの石川（晶）さんとかが大活躍していましたし。

――そのあたりのミュージシャンは鈴木先生の指名によるものでしょうか？

鈴木　そうです。彼らがファーストコールで、ピアノは自分で弾いたり、僕が弾かないときは江草の啓ちゃん（江草啓介）だとか。

――「恋のハレルヤ」以降、あっという間に売れっ子作曲家となってしまわれたわけですが、どういうスケジュールで曲を作られていたんですか。

鈴木　当時は写譜屋さんというのがいて、その人がずっと僕に一年中ついて回って、レコーディングが終わってうちに帰ると、彼が来ていて、次の曲を待っているんだけど、こっちは寝てなくて何も用意していないから30分寝かせて、というと本当に30分で起こされて（笑）。それで急いで曲を作ってスコアを書いて、お願いしますといって渡す、という調子でした。

――スコアのアレンジに関して、管楽器や弦楽器のアレンジはいつ頃学ばれたのでしょうか……？

鈴木　たぶん中村八大さんのバンドにいた頃、八大さんが「夢で逢いましょう」とかを手がけていた時に、1回スコアを見てるんです。で、八大さんが僕に「このメロディを大事にするなら、ストリングスのアレンジを変えて他の楽器に置き換える。もしストリングスが気に入っているなら、メロディは同じコード内で別のものに変える。どっちにする？」って訊いてきて。こんな偉い先生が

CamScannerでスキャン

僕の意思を訊いてくるなんて凄いな、と思ってとても感謝したことがあるんですよ。だから断わったと言われればそこで断わったかもしれない。僕は普段から、歌だけ作れるやつは世の中に掃いて捨てるほどいるかもしれないけど、管楽器、特にホルンは何調で書くんだ、チェロは分かるかもしれないけどヴィオラは何調で書くのか、何記号で……というのがわからないのは作曲家じゃないと言ってるのね。

―― 楽器によって全部、調が違うから。

鈴木　メロディを書くのと、編曲というのは違うんです。大勢の人々にバカにされないように仕上げる。僕も最初はバカにされたけれども、そのうちにレコーディングの時「すみません、これ写譜ミスだと思うんですが」と言われ、飛んでいくとbが抜けてる。「ああ、これは僕のミスだ」といって書き足す。そうなって初めて自分もようやく認められたなあと思えるんです。全部の楽器をハ長調で書かれたら合奏しても合わないですからね。

―― あの忙しさの中でアレンジまで、というのは凄いと思っていたのですが……。

鈴木　だから康ちゃん（馬飼野康二）や俊ちゃん（馬飼野俊一）にはずいぶん助けられましたよ。

フォーリーブス、西城秀樹……70年代の男性シンガーをブレイクさせる

―― GSブームのあと、フォーリーブスにも曲提供を開始されますね。デビュー曲の「オリビアの調べ」から書かれています。

鈴木　ソニーの酒井政利さんがディレクターでした。ジャニー（喜多川）さんも必ず来ていましたね。酒井さんはポリシーを持った人だったから。「こういうのどう？」と弾くと「いや……」と渋い顔するけれど、別のものを弾くと「それがいい！」とパッと反応する、音楽的というより感覚の人なんですね。だからジャニーさんと合うんですよ。いいものはいいって分かる人ですね。

―― フォーリーブスは黒っぽくてアグレッシヴな曲が多いですよね。「夏の誘惑」もサンタナ風で。

鈴木　そうそう！（笑）。僕はサンタナが好きでね。

―― ある時期、ジャニーズ系の作品を一手に引き受けていらした時期がありましたね。JOHNNYS'ジュニア・スペシャルのデビュー曲「ベルサイユのばら」も作られています。作詞が山口洋子さんというのは珍しいですね。

鈴木　宝塚の男役みたいなやつでしょ？　山口洋子さんと組んだのはNHKの「あなたのメロディ」が最初じゃないかな。あれは神津善行さんが司会で、審査員が鈴木淳さんと山口洋子さんと僕と、あとは曽根幸明さんかな。その関係で山口さんにお願いする、ということになったんじゃないかな。洋子さんはどちらかというと猪俣公章さんや平尾昌晃さんとかと組む人だったよね。僕は阿久悠さんやなかにし礼さん、山上路夫さんとのコンビが多かったですね。

―― 阿久悠さんとのコンビも多いですね。

鈴木　内山田洋とクールファイブ「恋唄」と森田健作「さらば涙と言おう」。この2曲は僕がアレンジもしました。聞くところによると、前川清が「恋唄」を大好きらしいんです。自分の持ち馬にも同じ名前つけたそうで。それにしても僕の書いた歌がヒットしたからイヤでも歌う奥村チヨだとか（笑）、歌手によっていろんな受け取り方がありますよね。最初は嫌いだったけどヒットして好きになったというのもあれば、好きだけどヒットしなかったというのもあるね。

――「さらば涙と言おう」については。

鈴木　森田健作というのがサンミュージックにいて、彼が今度ドラマの主役をやるからドラマの音楽をやってくれ、ということで、それでドラマの音楽をやりはじめたんです。テーマ曲がないとおかしい、ということになって。その頃、たまたま

CamScannerでスキャン

阿久さんに会って、「今、ドラマの音楽やってるんだけど、主題歌作る？」と訊いたら「いいよ」と。ただ、「その場合、曲先になっちゃうけどいい？」といったらそれも「いいよ」。そこで、僕の先生は中村八大さんだから、「上を向いて歩こう」みたいな詞にして欲しいんだけど、阿久さん作れる？って聞いたら「もちろん」と。全部「もちろん」なの。ホントに？　おれの作った曲、この１音を２音にするとか、そういう変更はなしでもいい？と聞いても「いいよ」。それでできた詞が「さよならは誰に言う　さよならは悲しみに」だったんです。

―― とても阿久さんらしくていい詞だと思います。アレンジもハワイアン風で秀逸ですね。

鈴木　何でこういうアレンジにしたかは忘れてしまったな（笑）。

―― 森田健作さんと同じRCAでは、西城秀樹さんにデビュー２曲目から書いてらっしゃいますね。

鈴木　森田健作のディレクターは山田競生さんで、秀樹がロビー和田さん。僕は、いつも馬飼野康ちゃんを指名してアレンジをやってもらいました。でも馬飼野兄弟はいつも一歩引いちゃって、あまり表に出ないよね。出ればいいのにと思うんですが。

―― 非常に黒っぽいアレンジをされますよね。秀樹さんとのお仕事はいかがでしたか。

鈴木　秀樹はとにかく人気が出たので、出ていって歌ってもキャーキャー騒がれるだけで全然歌を聴いてくれない、と悩んでいたんです。どうにかできないですか、と言われたので、コール・アンド・レスポンス、あれを使おうと。つまり〇〇！と言ったらヒデキ！とレスポンスが来る、そういう風にメロディに間を作ろうということになったわけ。それで♪君が望むなら～（ヒデキ！）というのが出来た。それが良かったんじゃないかな。

―― 「情熱の嵐」ですね。歌謡曲でそういう試みは新しかったかと思います。

鈴木　アメリカだと、スティーヴィー・ワンダーの「フィンガーティップスpt.1」とかもっと前からあるけど、歌謡曲では最初だったかもわからないね。秀樹も広島でバンドをやっていたくらいだから音楽に凝る方で、じゃあ「青春に賭けよう」という曲をロック調で、フィンガー・スナップなんかも入れてやろう、なんて言ったらもう喜んでね。

●

いろいろな穴をスッと抜けたものがヒット曲になる

―― シングル曲を出す際、A面とB面のせめぎ合いのようなこともあるのでしょうか。

鈴木　僕らはつねに50%の確率で勝負してるんです。もちろんA面B面は合わせて出すんですが、どんなにいい曲でもB面だったら人の耳に届かない。50%の確率で出したものがA面であればヒットする、という話をよくするわけです。でも出る直前に「いや、こっちにしよう！」と言って入れ替えて、それで大ヒットする希有な曲もある。それが朱里エイコの「北国行きで」です。

―― あの曲はB面予定だったんですか。

鈴木　ええ、プロデューサーや作詞家が集まって苦労して、どうにか、まあまあのものになった「時の流れにのこされて」の後に「じゃあB面、軽く行こう！」と言って作った曲。ホーンのイントロから始まって♪次の～北国行きが～って歌い出して♪スーツケースをひとつ～ぐらいになったとき、みんながソワソワし始めるわけ。どうしたの？となったら誰かが「こっちがA面じゃないか」と言い始めたんです。作詞のガミさん（山上路夫）もみんなそう言い出して。レコーディングはあまり時間がかからなかった。だから、それが声質か歌唱力かはわからないけれど彼女には合っているんです。最初のままB面だったらどうなっていたかわからない。

―― 70年代の女性歌手では、山口いづみさんは

CamScannerでスキャン

いかがですか。

鈴木　いづみちゃんはよく覚えています。今でもライヴで「緑の季節」を歌ってくれていて、年賀状も頂くので。詞は安井かずみさんですね。あまり安井さんとはご一緒したことないんですが、才能はありましたね。

—— 異色のシンガーではマギー・ミネンコの「燃えるブンブン」がありますが。

鈴木　僕が作ったミュージックベルという楽器があるんですが、それのコンテストを毎年やるんです。それをバンドと一緒に、エントリーした人たち全員と「燃えるブンブン」を演奏するんです。生のバンドと一緒の演奏というのがどれくらい大変なことなのかというのをトライしてみるという意味で。最初は「キラキラ星」。バンドに全部1音ずつコードを変えてボサノバ風にやってもらって、でも、それだけで終わっちゃうとつまらないから、「燃えるブンブン」をやるんです。普通にやっても面白くないだろうから、途中にFのブルースを入れてくれって言って。ブルース・コードにも合う曲なんです。

—— ジュンとシュクという韓国の女性デュオも手がけていましたが。

鈴木　彼女たちは僕が韓国から連れてきたんだよ。パール・シスターズのメンバーだよね。すごく良かったんだけど、タイミングが悪かったのか、それとも与えた曲と合わなかったのか……韓国では大スターなんですが。だから曲がヒットするにはいろいろな要素があって、それはテクニカルな部分というより、さっきのA面／B面の話とか、世の中の100人のうち98人か99人か気に入るというのは、その時々によって違ったり、歌う人がその曲じゃなければもっと良かったり、といろんな穴がありながら、そこをスッと抜けたのがヒット曲になるんだと思う。それは曲が偉いとか、詞が偉いとか、編曲家やディレクターが偉いとかではなく、それらの要素よりもっと大きい何かが丸を付けてくれた曲しかヒットしないと思うんです。

—— 当時の職業作曲家の方々には、皆さんヒットを出すというのが使命感というようなところがあったと思うのですが。

鈴木　それはありました。それが、僕らの頃はレコード会社がプロの作曲家・作詞家とやっているうちに、だんだんと歌手の発言力が強くなって、最終的には歌手が歌うんだから、私が決めた曲じゃないと歌わないよ、という風潮になっていく。そうすると、世の中の多数の人たちに受ける、今の時期だったらこの人がこういう歌を歌えばいいんじゃないか、といったような勘が働くプロフェッショナルな人たちが減ってしまうんです。それでレコード会社がみんなダメになっていった。もう一つは、凄く有り難いことですが、カラオケが流行って、人の歌を聴くより自分が歌った方がいい、という人が増えたことでしょうか。日本だけでしょ？　この文化って。やはり凄い大きなファクターだと思う。僕たちもとても恩恵に浴してるわけだから、それが一概に悪いとは言いません。だけど歴史を語る上ではそういうことも無視してはいけないと思うんです。

—— カラオケで素人が歌えるように曲を書かなければいけない、ということもあったようですね。

鈴木　演歌の人たちに、なんでこんな型通りな曲ばかりなの？と訊いたら、やはりそうしないとカラオケに取り入れられないから、ということらしいです。つまり許容範囲が僕たち以上に狭い中で作らされている。だから、カラオケは歌謡曲の歴史の中で、30年以上にわたって大きな位置を占めているんです。

CMソングからミュージカルまで

—— 歌謡曲以外にも、テレビのテーマ・ソングやCMなどのお仕事でも、有名な作品が多いですが、NHK「のど自慢」の曲は鈴木先生ですね。

CamScannerでスキャン

鈴木　あのテーマ曲は本当に長く使ってもらっていますね。毎週日曜、必ず地方のどこかで歌手が2人ゲストで出て、手拍子しながら。

── NHKからは気持ちが高まるような曲調で……などと注文があったんでしょうか。

鈴木　いえ、特に注文はなかったです。でも「のど自慢」という番組自体は既にありましたし、あの審査の鐘の音もありましたから、それを思わせるようなイントロから作りました。

── コマーシャルではマクドナルドが。

鈴木　あれはマクドナルドがCMソングを新たに変えたいというのでいろいろな代理店に発注して、僕もマッキャンエリクソン博報堂という会社を通じて出したんですけど、創業者の藤田田さんのもとに届く前に落ちちゃったんです。ところが藤田社長が、届いたものを全部ダメだ、落ちたのを持って来いと言って、それで僕のボツになったテープも出したら「これだ！」ということになったらしくて。ただアレンジはこれじゃダメだ、公園で聴いても、大雨の日に聴いても、電車の中で聴いても、どのシチュエーションにも合う編曲をしてこいと言われ、それで組曲にして持っていったのが次のマクドナルドのコマーシャルになったんです。♪世界の言葉～マクドナルド～。たったそれだけだけど、そこに至るまでに長い組曲があるんです。そうやって曲が拾われて蘇ることがあるんだなあと思いました。

── コカ・コーラのCMも手がけられていましたね。

鈴木　これもそれまで使っていたのをやめて、コンペ形式でみんな出して、♪コカコーラ、うるおいの世界～というのになりました。それともう一つ、フィフス・ディメンション風の曲ね。僕としてはこの2つが思い出に残っています。歌謡曲も同じだけれど、どんないい曲でもその時に発言力のある人が決める、そこにピタッと当てはまるのがヒットしたり、コマーシャルに使われたりするわけで、計算ではどうにも出来ない要素が多いし、そう考えると僕は運が良かったのかなって思います。

── そこで選ばれたものがまた大衆に支持されるというハードルもありますからね。TV番組のお仕事で、何か印象に残っているものはありますか。

鈴木　劇場用アニメで、日本テレビじゃない方の『あしたのジョー』（80年）だね。音楽は僕が全部書いて、主題歌はおぼたけし。彼はうちの学校の生徒だったので、偶然にも歌わせたんだけど。たかたかしの詞も「男なら　闘う時が来る」っていいですよね。三浦知良と貴乃花がTVで、あの曲を聴いて自分のモチベーションを高めたって、言ったらしいんですね。そういうのを言ってくれる人もいるのは嬉しいことですね。

── ミュージカルの世界でもご活躍で、劇団四季の音楽も、長きに渡って手がけられています。

鈴木　劇団四季のファミリー・ミュージカルという家族向けのものを30年以上前から作ってるんです。ミュージカルは流行り歌と違って、ちゃんとランブルという決まりがある、つまり相対する軍団が向かい合うときの音楽、フィナーレ、あとは場所移動＝道行きというんですが、それぞれヒット曲とは違うジャンルの音楽を要求されるわけです。そういうことを知っている作曲家でないと向こうは依頼してこないんですね。僕は浅利慶太さんのそういった要求にすべて応えていたし、さっき言った東芝の渋ちゃんの推薦もあって、そういうことで浅利慶太さんと作ったミュージカルが5作か6作あるんです。劇団四季と僕のレーベル、ベル・ミュージックが折半してCDも出しました。役者はもちろん今現役の人たちです。加えて現在、中国全土で、中国人俳優が中国語で演じるファミリー・ミュージカルが上演されていて、そこで使われている音楽は日本の僕の作品とあって、長くミュージカル音楽に関わってきた僕は喜びを感じています。この劇団四季との共同作業が僕の人生の最後の仕事なんじゃないかな、と思ってるんです。

作家とシンガー

西城秀樹

text：馬飼野元宏

エモーショナルなヴォーカル・スタイルと、ロックンロールをベースにしたハードなナンバー、マイク・パフォーマンスや野外スタジアム公演など、西城秀樹は日本の歌謡曲に革新的なスタイルを持ち込んだパイオニアである。

秀樹のブレイクから黄金時代を支えた作曲家といえば、鈴木邦彦と馬飼野康二の2人で異論はないだろう。70年代中期には三木たかしもここに加わるが、基本的な秀樹の歌唱スタイル、方向性を決めたのは上記の2人である。

西城秀樹は広島で小学生ドラマーとして噂を呼んでいた洋楽小僧で、スカウトされて1972年3月25日、RCAから「恋する季節」で歌手デビューする。この「恋する季節」は筒美京平の作曲だが、当初、アイ高野用に作られた曲が回ってきたそうで、秀樹の個性を活かすべく生まれたのは、2作目の「恋の約束」が最初と言えるだろう。この曲はたかたかし作詞、鈴木邦彦作曲によるナンバーで、以後、このコンビが初期の秀樹を支えていくことになる。

3作目の「チャンスは一度」でアクティヴになった楽曲に呼応するかのようにダイナミックな振り付けが登場。編曲に馬飼野康二が初参加し、たか＝鈴木＝馬飼野の黄金トリオがスタートする。4作目「青春に賭けよう」は一転して爽快な青春歌謡であり、鈴木邦彦の手によってブレイクした、同じRCA所属の森田健作の楽曲を想起させるものがある。彼のライヴでは観客と一緒に、フィンガー・スナップで合唱することが定着した。

5作目「情熱の嵐」は初のベスト10入りを果たした楽曲だが、「君が望むなら」「ヒデキー！」という観客とのコール＆レスポンスを成立させたナンバーでもある。秀樹は当初、楽曲を受け取ったとき「何でメロディに隙間があるんだろう」と不思議に思ったそうだが、観客の「ヒデキ！」の歓声を聴いて得心したという。馬飼野康二のアレンジは常に鈴木邦彦が指名していたそうだが、「情熱の嵐」では洋楽のトレンドであったチェイスの「黒い炎」を思わせる、ブラス・ロックのアレンジが施されている。後年、激情型シンガーと呼ばれる西城秀樹のヴォーカル・スタイルの基盤はこの時期に作られたものだった。

続く「ちぎれた愛」では馬飼野康二が初の作曲も担当しチャート1位を獲得。これに続く「愛の十字架」では再び鈴木邦彦が登板し、ドラマティックでスケールの大きな激情型バラードを提供、連続して1位を獲得した。さらに8作目となる「薔薇の鎖」は軽快なロックンロール・ナンバーで、ロッド・スチュワートばりのスタンド・マイクによるパフォーマンスも話題を呼んだ。

60年代には黛ジュンやザ・ゴールデン・カップスの諸作で、ロックのビート感覚とR&Bのグルーヴ感を歌謡曲に持ち込んだ鈴木邦彦にとって、西城秀樹はうってつけの逸材であっただろう。そして秀樹にとってもその後の音楽的方向性の指針となる楽曲作りを施したのが鈴木邦彦であったことは間違いのないところだ。

『傷だらけのローラ』
西城秀樹

通算4作目のアルバム。鈴木邦彦と馬飼野康二のナンバーを中心に収録

CamScannerでスキャン

東芝／1967年6月15日

いとしのジザベル

ザ・ゴールデン・カップス

作詞：なかにし礼
作曲・編曲：鈴木邦彦
B面：陽はまた昇る

本牧でR&Bやブルース・ロックをプレイしていたグループ・アンド・アイがゴールデン・カップスと改名して放ったデビュー・シングル。コーラスはデイヴ平尾、エディ藩、ケネス伊東の3人が担当している。スローのヴァース・パートはDマイナー・キー、サビはFメジャー・キーと平行調の移調を導入。ヴァース・パートは歌謡曲風だが、テンポ・アップしてからのファズ・ギターに本来のロック・バンドのプライドが見える。

東芝／1968年5月1日

天使の誘惑

黛ジュン

作詞：なかにし礼
作曲・編曲：鈴木邦彦
B面：ブラック・ルーム

渡辺順子から黛ジュンに改名しての4枚目のシングル。オリコン・シングル・チャート最高第3位を記録、約47万枚を売り上げた。ペダル・スチール・ギターを使用したハワイアン風味のポップ・ナンバーで、演奏は後に結婚する江藤勲などが担当。本楽曲と同名の主演映画が松竹で製作され、年末には日本レコード大賞をも受賞した。B面も「ブラック・ルーム」の人気もあり、近年和モノDJたちの人気ヴァイナル。

東芝／1969年6月1日

恋の奴隷

奥村チヨ

作詞：なかにし礼
作曲：鈴木邦彦
編曲：川口真
B面：眠くなるまで

「北国の青い空」(67年) 以来ヒット曲から離れていた奥村チヨが久々に放ったヒット曲で、オリコン・シングル・チャート最高第2位を記録、約52万枚を売り上げた。演奏は、石川晶や江藤勲など、当時のトップ・スタジオ・ミュージシャンたちによるもので、小気味よいリズム隊はひとりGSのようなビート感を生み出している。イントロのピアノは鈴木邦彦自身がプレイしているそうだ。

キング／1970年7月10日

チャオ・ベラ・チャオ

ダニエル・ビダル

作詞：なかにし礼
作曲：鈴木邦彦
B面：見えない恋人

70年代初頭より日本に長期滞在していたモロッコ生まれのフレンチ・シンガーのダニエル・ビダル。ブロンドの髪に大きな瞳。フランス人形のような容姿で、日本でも大きな人気を得た。そんな彼女が日本で5枚目にリリースしたシングルが本作品。サビでの8分音符のリズム・アプローチはさり気ないながらも斬新で、鈴木邦彦のセンスが光る。カタコトでたどたどしい歌唱は日本人歌手には無い魅力で、リスナーの心に新鮮に響いた。

RCA／1970年7月5日

さすらいのブルース

和田アキ子

作詞：なかにし礼
作曲・編曲：鈴木邦彦
B面：男と女のロック

和田アキ子5枚目のシングル。タイトルに「ブルース」と付くがブルース進行では無く、シャッフル・リズムのカントリー風のナンバー。1コーラス16小節のシンプルな構成だが、4小節ごとの間に2分音符を配置して和田アキ子の豪快な歌唱力を際立たせている。彼女の主演映画「女番長 野良猫ロック」内でも、彼女が歌うシーンがある。オリコン・シングル・チャート最高第20位を記録、約11万枚を売り上げた。

text ホキウユウイチ

フォノグラム／1966年

ユー・アンド・ミー

ジョニー・ティロットソン

作詞：ジョニー・ウッドマン
作曲：ハリー・ウィリアムス
B面：ユー・アンド・ミー
（日本語）

ジョニー・ティロットソンの4枚目の日本制作シングル。作詞のジョニー・ウッドマンは高崎一郎の、作曲のハリー・ウィリアムスは鈴木邦彦のペンネーム。オールディーズ・スタイルのナンバーながら、Bメロでの同主調転調が斬新だ。翌66年には、映画「花嫁は十五才」などで共演していた山内賢と和泉雅子のデュエット盤もヒット。その後二人は「二人の銀座」や「東京ナイト」などのヒットを放った。

ビクター／1967年

恋の歓び

吉永小百合、スクール・メイツ

作詞：佐伯孝夫
作曲・編曲：鈴木邦彦
B面：オレンジの木の下で

この年、「青春の海」や「君が青春のとき」など、4本の主演映画に出演、多忙を極めていた時期にリリースされたひとりGS歌謡。そんなことは全く感じさせない吉永小百合の溌剌とした歌唱が心地よい。スクールメイツのコール・アンド・レスポンスもゴキゲンにハマっている。演奏は、津々美洋（Gt）、群正巳（Gt）、江藤勲（Bs）、菊地清明(Dr)などが担当。B面の「オレンジの木の下で」もひとりGSの人気楽曲。

ビクター／1967年8月15日

若者の子守唄

橋幸夫

作詞：サトウハチロー
作曲・編曲：鈴木邦彦
B面：郷愁

演歌系からポップスへと転身した橋幸夫の、鈴木邦彦作品第2弾。和洋折衷をテーマに、演奏は津々美洋とオールスターズ・ワゴンが、コーラスはスクールメイツが担当。浦川博のコンボ・オルガンと江藤勲の独特のトーンのベースが、リズムを牽引するマイナーひとりGS。ロック・フィーリングを感じさせる演奏に対して、こぶしを利かせた橋の歌唱がアンバランスで、ユニークな魅力を生み出している。

ップス／1967年10月5日

ダンシング・ロンリー・ナイト

ザ・ジャガーズ

作詞：漣健児
作曲：鈴木邦彦
B面：若いあした

東京や横浜のジャズ喫茶で活躍していた宮ユキオとザ・ブレイ・ファイブがザ・ジャガーズと改名、大ヒットした「君に会いたい」に続いてリリースしたセカンド・シングル。歌謡曲風のキャッチーなメロディ・ラインに反して、イントロからこれでもかとばかりに沖津ひさゆきがファズを響かせまくるエキサイティングなナンバーで、ジャパニーズ・ガレージの古典として海外でも高い人気を誇る。

1967年11月

トンネル天国

ザ・ダイナマイツ

作詞：橋本淳
作曲：鈴木邦彦
編曲：ザ・ダイナマイツ
B面：恋はもうたくさん

横田、立川、厚木などのキャンプに出演していたザ・モンスターズがメジャー・デビューに伴いザ・ダイナマイツと改名。そんな彼らのデビュー・シングルで、1コードだけでグルーヴ感たっぷりに疾走していく、彼らの本来のR&Bフィーリングを感じさせてくれるガレージかつパンキッシュなナンバー。なお、リード・ヴォーカルは、ヴォーカリストの瀬川洋ではなく、ギタリストの山口冨士夫が担当している。

ウユウイチ

CamScannerでスキャン

東芝／1968年4月1日

長い髪の少女

ザ・ゴールデン・カップス

作詞：橋本淳
作曲・編曲：鈴木邦彦
B面：ジス・バッド・ガール

3枚目のシングルで、オリコン・シングル・チャート最高第14位を記録。マイナーのダイアトニック・コード3つのみという潔いまでの歌謡曲。デイヴ平尾とマモル・マヌーのツイン・ヴォーカルで、サビでマモル・マヌーにリード・ヴォーカルを担当させ、アイドル的人気をも得た。演奏はスタジオ・ミュージシャンによるもので、当時のGSは石川晶、江藤勲、江草啓介、高見健三などが演奏することが多かったという。

東芝／エキスプレス　1968年

愛の祈り

ザ・ジェット・ブラザース

作詞：橋本淳
作曲・編曲：鈴木邦彦
B面：君はどこへ

「長い髪の少女」と同志向で作られたGS歌謡曲。エドヴァルド・グリーグの「ピアノ協奏曲イ短調作品16」の引用に続き、少女趣味を極めたようなロマンティックな世界が描かれる。ジェット・ブラザースは、瀬尾幸男と富永ジロー（富永正広）のヴォーカル・デュオで、富永は後にボルテイジやハリマオに参加。B面の「君はどこへ」バックのファイターズ弓おさむの作品。彼の実娘のmycoも、Changin' My Lifeでデビューした。

RCA／1968年10月

悪魔がくれた青いバラ

ザ・リード

作詞：尾中美千絵
作曲・編曲：鈴木邦彦
B面：沈黙の海

RCAビクターの第1回リリース・アーティストとしてリリースされた、在日米国人によるGSバンドのザ・リードのデビュー・シングル。ギターのマーク・エルダーは、日本にチョーキングを伝えたとも言われる。彼ら本来のブルース・フィーリングはどこへやら、「サウンド・オブ・サイレンス」を思わせるかのようなソフト・ロック・サウンド。とはいえ、キャッチーなサビのメロディが素晴らしく、今でもカルト的な人気を持つ楽曲だ。

CBS・ソニー／1968年9月5日

オリビアの調べ

フォーリーブス

作詞：北公次
作曲：鈴木邦彦
編曲：森岡賢一郎
B面：壁のむこうに

フォーリーブスのデビュー・シングルで、作詞はメンバーの北公次が担当。CBS・ソニーの第1回リリースの国内アーティストとして出された。あくまでヴォーカル・グループだが、そのサウンドは当時のGSグループ的な雰囲気。ベースのソロからドラムス、ギターと順に加わり、当時としてはロック・ナイズされたビートを提示。途中にはルバートをはさみドラマティックに展開。オリコン・チャート最高第15位を記録した。

RCA／1971年

さらば涙と言おう

森田健作

作詞：阿久悠
作曲・編曲：鈴木邦彦
B面：男なら気にしない

森田健作主演のドラマ「おれは男だ！」の主題歌。オリコン・シングル・チャート最高位は20位に留まったが、現在でもテレビ出演の際などで歌われる彼の代表曲。湘南を舞台にしたドラマのせいか、ペダル・スチール・ギターを効果的に使用。カレッジ・フォーク風のシンプルなメロディに彩りをつけている。同じく阿久悠と鈴木邦彦のコンビによる同ドラマの挿入歌「友達よ泣くんじゃない」は、最高第2位、約38万枚のヒットを記録。

CamScannerでスキャン

CBSソニー／1971年11月

ノックは無用

大信田礼子

作詞：阿久悠
作曲・編曲：鈴木邦彦
B面：かんこんロック

「女の学校」、「女はそれをがまんできない」と映画タイトル路線をリリースしてきた大信田礼子のサード・シングル。本作品もマリリン・モンロー主演映画タイトルから引用。メジャー・キーの頭サビに続いて、Aメロからは平行調のマイナー・キーへ移調。Bメロからはリズムがシェイクになりファンキーに。ラウンジ風で洒落た雰囲気のアレンジも含め、実は練りこまれているナンバー。ハスキーでセクシーな声も一層映えている。

ワーナー／1972年1月25日

北国行きで

朱里エイコ

作詞：山上路夫
作曲・編曲：鈴木邦彦
B面：時の流れにのこされて

田辺エイ子から朱里エイコに改名して9枚目のシングル。当初はB面用の楽曲として作られたが、初のチャート入り。オリコン・シングル・チャート最高第6位を記録。約36万枚を売り上げた。R&Bの影響が顕著なナンバーで、Aメロからドミナント・コードでのシャウトを経て平行調へ移調するパートは緊張感たっぷり。サビ途中では、モーダル・インターチェンジという同主調からのコードの借用を用いている。

東芝／1972年4月25日

ファースト・ラブ

岡崎友紀

作詞：有馬三恵子
作曲・編曲：鈴木邦彦
B面：青春の日

岡崎友紀の8枚目のシングルで、ドラマ「だから大好き！」の主題歌。ソフト・ロック風のカラフルなポップ・ナンバーで、メジャー・キーで始まるも、Bメロからは平行調のマイナー・キーへ移調。サビもマイナー・キーで始まるが、いつしか平行調のメジャー・キーへ解決しているというさり気ない構成。「だから大好き！」は僅か14話で打ち切られたが、後継番組の「小さな恋のものがたり」でも本楽曲が主題歌として使用された。

東芝／1972年4月5日

緑の季節

山口いづみ

作詞：安井かずみ
作曲：鈴木邦彦
編曲：川口真
B面：風の吹く街

72年にドラマ「続 大奥の女たち」で、本格的に芸能界デビューした山口いづみのデビュー曲。当時は、同じ渡辺プロ所属の小柳ルミ子、天地真理と、新ナベプロ三人娘と称されていた。トム・ジョーンズの「よくあることさ」の影響を感じられる希望に満ち溢れたメロディと、バート・バカラック風の洗練されたソフト・ロック・サウンド。オリコン・シングル・チャート最高第32位を記録した。現在はジャズ・シンガーとしても活躍中。

東芝／1973年9月20日

愛のビーナス

安西マリア

作詞：千家和也
作曲・編曲：鈴木邦彦
B面：泪にかえて

ミキシング・エンジニアの行方洋一自作のジェットマシーンを日本で初めて使用した「涙の太陽」でデビューした、安西マリアのセカンド・シングル。「恋のハレルヤ」にファンクネスを注入したかのようなナンバーで、ファンキーなAメロとメロディアスなBメロとの対比が秀逸。しかしながら、オリコン最高第56位と振るわず。この後「早いもの勝」まで3作連続千家和也と鈴木邦彦のコンビが続いたが、60位前後で留まった。

CamScannerでスキャン

RCA／1973年5月25日

情熱の嵐

西城秀樹

作詞：たかたかし
作曲：鈴木邦彦
編曲：馬飼野康二
B面：夏の日の出来事

西城秀樹の5枚目のシングルで、初のベスト10入り楽曲。ハードなギターがフィーチャーされたナンバーで、秀樹＝ロックのイメージを決定付けた。8ビートのメロディながら16ビートの激しいカッティングがアッパーなサウンドを生み出している。ステージで歌唱する際は、「君が望むなら」の部分でファンが「ヒデキ！」とコール・アンド・レスポンスするのがお約束で、ファンの声援もあらかじめ計算して作曲したとのこと。

[illegible]／1973年

野いちご

あさかまゆみ

作詞：千家和也
作曲：鈴木邦彦
編曲：馬飼野康二
B面：このごろ私は

73年にドラマ「ウルトラマンタロウ」でデビューしたあさかまゆみ（現：朝加真由美）が同年にリリースしたセカンド・シングル。ダイアトニック・コード中心のシンプルなメロディ・ラインに、全編にホーンがフィーチャーされたポップなブラス・サウンド。危うい音程のたどたどしい歌唱が逆に男心をくすぐり、彼女の魅力だった。76年まで6枚のシングルをリリース。80年代には、2枚のLPをリリースしている。

コロムビア／1974年9月1日

合鍵

しばたはつみ

作詞：岡田冨美子
作曲：鈴木邦彦
編曲：矢野誠
B面：人形の涙

68年にはつみかんな名義でデビュー。その後、浜まにかと改名。さらにしばたはつみと改名しての再デビュー曲が本作品。イントロからクロスオーヴァー・スタイルのファンキーなサウンド。Aメロ部分は8ビートのノリだが、根底には16ビートが潜んでいる。サビでは本格的に16ビートを提示。ダイアトニック・コードのみのシンプルな進行ながら、最先端のリズムを使用したことで、洗練されたトラックに。和モノDJにも人気。

キング／1974年9月25日

酒場にて

江利チエミ

作詞：山上路夫
作曲：鈴木邦彦
編曲：高田弘
B面：陽気なメーシー

オリジナル・ナンバーでは「新妻に捧げる歌」と並ぶヒット曲。74年9月にリリースされ、年末ごろから大阪で火が付き、全国的にヒット。オリコン最高位は22位に留まったが、75年にかけてロング・ヒットとなり、75年の日本有線大賞の優秀賞を受賞した。演歌で多用される3連のロッカバラード形式の楽曲だが、Aメロでのモーダル・インターチェンジというコードの使用など洗練されたコード・センスが垣間見られる。

キング／1975年[illegible]

私のベイビー・ボーイ

クリケッツ

作詞：うさみかつみ
作曲・編曲：鈴木邦彦
B面：6年生スーパースター

小学生4人と中学生1人で結成したクリケッツのデビュー・シングル。アナログ・シンセやクラヴィネットを効果的に使用したシャッフル・ブギで、キッズ・インアに人気の楽曲。カーリーヘアが特徴だったリード・シンガーの浅香百子の大人顔負けの歌唱力が凄い。彼女はその後、麻香ヨーコ名義で83年にソロ・デビュー。「オレたちひょうきん族」のエンディング・テーマ「グラマー・ボーイ」をリリースした後、現在はニューヨークで[illegible]

text：ガモウユウイチ

恋のハレルヤ

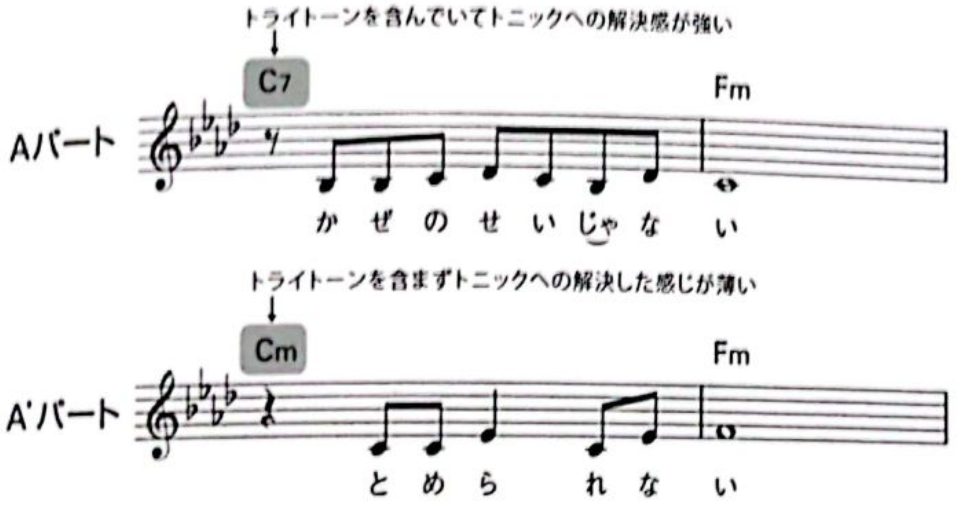
1967年 黛ジュン

作詞 なかにし礼
作曲・編曲 鈴木邦彦

64年にビクターレコード（現：ビクターエンタテインメント）から本名の渡辺順子名義で「ダンケ・シェン」でデビュー、3枚のシングルを残していた黛ジュン。67年に東芝音楽工業（現：ユニバーサルミュージック）に移籍して初のシングルが本作だ。

作曲と編曲は鈴木邦彦が担当。楽曲構成は、当時の多くの楽曲構成と同じで、「A－A'－B－A'」で1コーラス。Aメロ及びサビ後のAメロは、Fマイナー・キーの3コードのみで構成されている。細かく言えば、Aメロはハーモニック・マイナーのダイアトニック・コードの3コードで構成され、サビ後のAメロはナチュラル・マイナーのダイアトニック・コードの3コードで構成されている。2つのパートの違いは、「V」度の部分がハーモニック・マイナーでは「C7」に、ナチュラル・マイナーでは「Cm (7)」になっていることだ（なお、ここでは「7th」はつかずトライアドの3和音になっているため「7th」はカッコで表示した）。ドミナントがトニックに解決する重要な要素は、トライトーンという不協和音を含んでいることにあるが、「Cm (7)」というコードは、トニックの「Fm (7)」に対してトライトーンを含んでいない。「C7」は「Fm (7)」に対してトライトーンを含んでいるので、解決感が強く、「Cm (7)」は解決した感じが薄くなる。Aメロで「Cm (7)」を使用して、「もう1度同じパートが続く」というのを暗示させ、サビ後のAメロで「C7」を使用して、「このパートは終りました」という感じを出す方が一般的だと思うが、ここではあえて逆のコードを置いて個性を出している（譜例）。

サビ、またはBメロの部分では、「Ｂｂｍ－Ｅｂ７－Ａｂ」という進行から始まるので、このパート全体が平行調のＡｂメジャー・キーに移調しているとも解釈できるし、あくまでＦマイナー・キーの中で一時的な移調と解釈することも可能だ。歌メロは、コーラスが全面的に出てくるコール&レスポンス方式で、「B」パートの後半部では3度のハーモニーで盛り上げる。最後の2小節は「C7」を置き、元のFマイナー・キーへの移調を示唆している。ここでは「Cm (7)」では無く「C7」を使用して、解決感を強めに出している。エンディングは「Fm6」で終止。この「6th」コードで終止するのは、ザ・ベンチャーズが「キャラバン」(60年）などで流行させた手法で、60年代を象徴するエンディング方法の一つだ。



CamScannerでスキャン

平尾昌晃

歌いやすく実直な曲調をもった天性のメロディ・メーカー

text カモウユウイチ

作曲家としての活躍はもちろんのこと、音楽学校を開校して、狩人や森口博子など後進の育成にも積極的に携わり、日本のポピュラー音楽界の発展に大きな貢献をしてきた平尾昌晃。彼は1937年12月24日に東京府東京市に生まれた。本名は平尾勇。クラシックの作曲家の平尾貴四男は伯父。老舗の化粧品会社を営んでいた父の下で、恵まれた環境で育ち、終戦後に神奈川県茅ヶ崎市へと移住。その後、慶應義塾高等学校に入学。同期生には加山雄三や川口浩がいた。

54年に、ティーブ釜萢が校長を務めていた日本ジャズ学校の募集を新聞広告で目にして同校に入学。同校で、朝丘雪路やペギー葉山らと知り合った。半年ほど後に、第1期カントリー＆ウエスタン黄金期を築いた人気バンドのチャック・ワゴン・ボーイズに加入、平尾昌章の芸名で活動を開始する。55年には、チャック・ワゴン・ボーイズと、小坂一也や堀威夫などが在籍していたワゴン・マスターズを脱退したメンバーで、新たにオールスターズ・オブ・ワゴンを結成。じきにオールスターズ・ワゴンと改名、ロカビリー時代の到来により人気を博していく。当時の同バンドには、鈴木勲も参加していた。57年には、ステージを観た渡辺プロの渡辺美佐と映画監督の井上梅次に見初められて、映画『嵐を呼ぶ男』に出演して俳優デビュー。58年1月には、キングレコードより「リトル・ダーリン」でソロ・デビューした。翌月から第1回日劇ウエスタン・カーニバルが開催され、ミッキー・カーチス、山下敬二郎とならんで、“ロカビリー三人男”と称され、爆発的な大人気を博した。58年には、オリジナル楽曲の「星は何でも知っている」を、さらに60年には「ミヨチャン」を大ヒットさせて、作曲家としても評価も得た。

61年にリリースした「おもいで」は、北海道でじわじわと人気が出て、66年にはデビューしたばかりだった布施明の3枚目のシングルとして再レコーディングされてヒットを記録。これを期に、作曲家として渡辺音楽出版の専属となり、芸名も平尾昌晃へと改名した。続いて、布施明「霧の摩周湖」(66年)、「恋」(67年)、伊東ゆかり「ちいさな恋」(66年)、「恋のしずく」(67年)、梓みちよ「渚のセニョリーナ」(67年)、じゅん＆ネネ「愛するってこわい」(68年)など、ヒット作を立て続けに作曲。「ちいさな恋」では、平尾昌晃が以前参加していたオールスターズ・ワゴンがバックを担当している。「霧の摩周湖」と「渚のセニョリーナ」は、日本レコード大賞作曲賞を受賞、作曲家としての地位を確固たるものとした。

70年代に入っても、五木ひろし「よこはま・たそがれ」(71年)、「夜

空」(73年)、小柳ルミ子「わたしの城下町」(71年)、「瀬戸の花嫁」(72年)、アグネス・チャン「草原の輝き」(73年)、「星に願いを」(74年)、天地真理「ふたりの日曜日」、アン・ルイス「グッド・バイ・マイ・ラブ」(74年)、梓みちよ「二人でお酒を」(74年)、山口百恵「赤い絆(レッド・センセーション)」(77年)など、ヒット曲を多数提供している。そして74年には、平尾昌晃音楽学校(現:平尾昌晃ミュージックスクール)を創立。狩人、畑中葉子、川崎麻世、石野真子、川島なお美、松田聖子、大沢逸美、芳本美代子、森口博子、後藤真希、倖田來未など、多くの同校出身者がデビューした。78年には、畑中葉子とのデュエットで「カナダからの手紙」をリリース。久しぶりに自らも歌手としてヒットを記録。『第29回NHK紅白歌合戦』にも出演した。

ほかにも、ドラマやアニメなどの主題歌も多く手がけており、『星の子チョビン』(74年)、『熱中時代』(78年)、『熱中時代 刑事編』(79年)、『銀河鉄道999』(78年)、『宇宙海賊キャプテンハーロック』(78年)、『コメットさん』(78年)などの主題歌を提供した。中でも『必殺シリーズ』では、第1作目の『必殺仕掛人』(72年)から第11作目の『新 必殺からくり人』(77年)まで全作品の音楽を担当。第15作目の『必殺仕事人』(79年)からは復活、最終作となった第31作目の『必殺仕事人2009』(09年)まで長きに渡って担当した。80年代初頭からは宝塚歌劇団の舞台音楽も手掛けており、『ベルサイユのばら』の「愛の怯え」や「結ばれぬ愛」なども彼の手によるもの。

また、NHK『レッツゴーヤング』に司会者として出演する傍ら(同番組主題歌「ムーンライト・カーニバル」や、同番組の"ヤングヒットソング"として紹介された松田聖子「Eighteen」の作曲も担当)、日本テレビ系『ものまねバトル』の審査委員長、ラジオ・パーソナリティ、『二階の他人』などの作品で俳優としても活躍。NHK『紅白歌合戦』では、06年から16年まで「蛍の光」の3代目指揮者として藤山一郎と宮川泰の後を引き継いでいたが、17年7月21日に肺炎のため死去。生前最後のリリースは同年4月に発売された水井みゆき「蛇の目小紋の女」だった。没後には、日本レコード大賞特別功労賞が贈られた。

自らが歌手出身ということもあり、歌いやすく実直なメロディ・ラインと、表現者側の視点を持ったツボをついた作品が多い。そのため、当時だけではなく、現在でも歌われ続けている楽曲が多いのも特徴だ。多くの日本国民に愛されてきた楽曲は、彼亡き後でも色あせることは無い。

「平尾とロック」
平尾昌晃

ロカビリー・シンガー時代の

キング／1968年1月20日

恋のしずく

伊東ゆかり

作詞：安井かずみ
作曲：平尾昌晃
編曲：森岡賢一郎
B面：あなたの言った言葉

前年の「小指の想い出」に続く伊東ゆかりの大ヒット作。訳詞出身の安井かずみと元ロカビリー・シンガー平尾昌晃によるムード歌謡調のナンバーで、サビの「忘れないの」の「れ」でポーンと音が飛ぶメロディが平尾流のシャレた感性。当時20歳とは思えぬ伊東ゆかりの艶っぽい歌い方と相まって、オリコン・チャートの1位を記録。ポップスのビート感を残した森岡賢一郎の編曲も秀逸で、同年の日本レコード大賞編曲賞に輝いた。

ワーナー／1971年4月25日

わたしの城下町

小柳ルミ子

作詞：安井かずみ
作曲：平尾昌晃
編曲：森岡賢一郎
B面：木彫りの人形

ワーナー・パイオニアの邦楽部門の第1号歌手として期待を背負った小柳ルミ子のデビュー曲。曲想は平尾昌晃が安井かずみに、信州を舞台に「城と祭りの歌がいい」と提案したのがきっかけで、サビ前までは詞先、サビは曲先だそう。平尾のメロディも、明快で覚えやすさを第一義にしながらも、サビでは小柳の美しい高音域を強調した作りにしている。アンノン族的詩情はディスカヴァー・ジャパンのブームと相まって大ヒットとなった。

ポリドール／1972年6月25日

あなただけでいい

沢田研二

作詞：安井かずみ
作曲：平尾昌晃
編曲：東海林修
B面：別れのテーマ

沢田研二のソロ3作目で、宮川泰、加瀬邦彦、そして平尾と続く作家陣は当時の渡辺プロが重要視していたメンバーで、平尾への信頼の高さがわかる。加瀬の前作を継承したヘヴィでロマンティックなナンバーだが、三連を絶妙に配した構成で、「どこか遠く～」以降の1拍ごとにコードが目まぐるしく変化する過程はかなりスリリングである。6/8のモデラートがロッカバラードに聴こえるのはジュリーのタメが利いた歌唱のせいだろう。

ワーナー／[illegible]

草原の輝き

アグネス・チャン

作詞：安井かずみ
作曲：平尾昌晃
編曲：[illegible]
B面：[illegible]

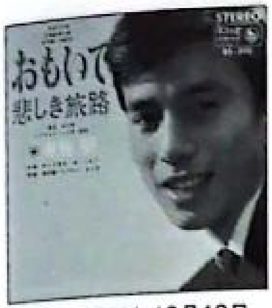
アグネス・チャンのデビュー3作目。デビュー曲「ひなげしの花」のような素っ頓狂な高音域強調ではなく、ナチュラルなメロディ・ラインでスタートしているが、彼女独特のスタッカート唱法を生かすフックも[illegible]し、サビで彼女の最大の魅力であるハイトーンを[illegible]ぽい聴かせる職人技はさすが。[illegible]から曲想を得たという安井かずみの詞も[illegible]レコード大賞[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

CamScannerでスキャン



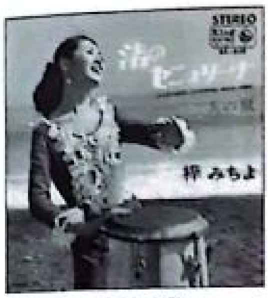
キング／1965年10月10日

おもいで

布施明

作詞：水島哲
作曲：平尾昌晃
編曲：森岡賢一郎
B面：悲しき旅路

もともとは歌手時代の平尾昌章が61年に自ら作曲して歌った作品。当時はヒットには至らなかったが、65年ごろに北海道のラジオ局で注目され、ローカル・ヒットとなった。その後、布施明のマネージャーから同曲を譲ってほしいとの申し出が来る。「私のマネをして歌ってほしい」ということを条件として、66年に布施明版がリリースされた。布施明版は全国的に大ヒット、平尾昌晃が作曲家として本格的に歩むきっかけとなった。



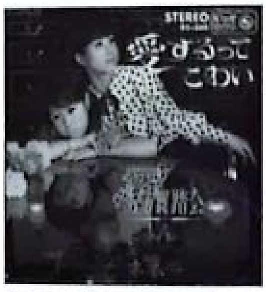
キング／1967年6月

渚のセニョリーナ

梓みちよ

作詞：山上路夫
作曲：平尾昌晃
編曲：森岡賢一郎
B面：二人の夏

66年4月にリリースしたハワイアン風の「ポカン・ポカン」がヒット。前年の好評を得て、この年はカリプソ風の「渚のセニョリーナ」が制作された。ラウンジーなシロフォンと軽快なガット・ギターが相まって、南国風味な雰囲気を生み出している。コーラスはフォー・メイツが担当。B面「二人の夏」は前年同様のハワイアン路線の楽曲。本楽曲と「霧の摩周湖」で、平尾は第9回日本レコード大賞作曲賞を受賞した。



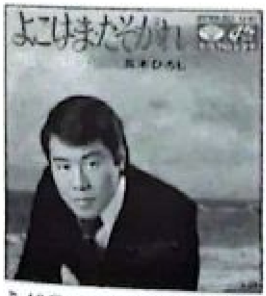
キング／1968年7月1日

愛するってこわい

じゅん&ネネ

作詞：山口あかり
作曲：平尾昌晃
編曲：小谷充
B面：星の舞踏会

66年にクッキーズとして「可愛い花」でデビュー。68年に平尾昌晃とコシノジュンコの命名によりじゅん&ネネに改名（実際には平尾昌晃の提案）、本楽曲で再デビューした。ダイアトニック・コード中心のシンプルなマイナー・チューンだが、「IVm」部分で「6th」を使用しているのがユニーク。オリコン最高第13位、約28万枚のヒット。本作品後も、平尾昌晃と組み「みずいろの世界」（69年）などのヒットを放った。



ミノルフォン／1971年3月1日

よこはま・たそがれ

五木ひろし

作詞：山口洋子
作曲・編曲：平尾昌晃
B面：男が泣くとき

65年に松山まさるとしてデビュー、その後に2度改名するもヒットに至らず。歌手生命を賭けて「全日本歌謡選手権」に出演。10週を勝ち抜き、五木ひろしと3度目の改名をしてのデビュー曲が本楽曲。単語を羅列したユニークな歌詞に、平尾昌晃が従来の演歌のイメージとは違う8ビートのモダンな雰囲気を持ったメロディをつけた。発売から2ヵ月後にはオリコン・シングル・チャート第1位を獲得。

ワーナー／1972年4月10日

瀬戸の花嫁

小柳ルミ子

作詞：山上路夫
作曲：平尾昌晃
編曲：森岡賢一郎
B面：それでも川は流れる

小柳ルミ子の4枚目のシングル。瀬戸内海をテーマに制作されたディスカバー・ジャパン路線の楽曲で、瀬戸内海での船で嫁入りに行く主人公のきめ細い心情を描いた山上路夫の歌詞に、カレッジ・フォーク・スタイルのキャッチーでシンプルなメロディを平尾昌晃がつけた。イントロなどのカモメの鳴き声風のSEは、スライド・バーによるもの。ディスカバー・ジャパン路線は、その後に藍美代子や野中小百合などに受け継がれた。

text：ガモウユウイチ

CamScannerでスキャン

徳間／1973年10月20日

夜空

五木ひろし

作詞：山口洋子
作曲：平尾昌晃
編曲：竜崎孝路
B面：テール・ランプ

五木ひろしの11枚目のシングルで、通算では21枚目。同コードを4小節続けたり、ブレイクを効果的に導入するなど、ユニークなサウンド・アプローチを感じさせる平尾昌晃らしい8ビートのモダンなナンバー。オリコン・シングル・チャートのベスト10からは遠ざかっていたが、最終的には「あなたの灯」（72年）から4作品ぶりにベスト10入り。最高第4位を記録、約45万枚を売り上げ、第15回日本レコード大賞を獲得した。

テイチク／1973年12月25日

修羅の花

梶芽衣子

作詞：小池一雄
作曲：平尾昌晃
編曲：竜崎孝路
B面：ほお やれほ……

梶芽衣子が主演した73年公開の映画『修羅雪姫』主題歌で、12/8拍子のロッカバラード・スタイルの楽曲。ダイアトニック・コード中心のマイナー・キーのナンバーで、演歌にも近い世界観。尺八とソプラノ・サックスを効果的に使用した竜崎孝路のアレンジがシンプルなメロディに彩りを加え、オリコン・シングル・チャート最高第77位を記録。03年公開の映画『キル・ビル Vol.1』の挿入歌にも使用されている。

キャニオン／1974年1月25日

うそ

中条きよし

作詞：山口洋子
作曲：平尾昌晃
編曲：竜崎孝路
B面：指輪をはずして

68年に高波明としてデビュー。71年には渥美健と改名して再デビューするもヒットに至らず。歌手生命を賭けて『全日本歌謡選手権』に出演、10週を勝ち抜き芸名を中条きよしに改名しての再々デビュー曲が本楽曲。マージャンをしながら作ったとは思えないキャッチーなメロディで、発売からジワジワと人気を博して、6週目にはオリコン・シングル・チャート第1位を獲得。約154万枚を売り上げる大ヒットとなった。

キング／1974年3月25日

二人でお酒を

梓みちよ

作詞：山上路夫
作曲：平尾昌晃
編曲：森岡賢一郎
B面：両手で愛して

「こんにちは赤ちゃん」（63年）が大ヒットした故に、そのイメージから抜け出せなかった梓みちよのイメージ・チェンジのきっかけとなったナンバー。ダイアトニック・コード中心のマイナー・キーの楽曲ながら、Aメロでは平行調のメジャー・キーへ一旦解決するなど、暗さのなかにもどこか光を感じさせるサウンド。オリコン・シングル・チャート最高第11位を記録、第16回日本レコード大賞大衆賞などを受賞した。

ビクター／1974年4月5日

グッド・バイ・マイ・ラブ

アン・ルイス

作詞：山上路夫
作曲：平尾昌晃
編曲：竜崎孝路
B面：暗くなるまで待って

71年にシングル「白い週末」でデビューしたアン・ルイスの6枚目のシングル。12/8拍子のロッカバラード・スタイルのナンバーで、ほぼダイアトニック・コード中心の潔いまでのシンプルなナンバー。75年にはテレサ・テンが「再見、我的愛人」のタイトルでカヴァー、アジア圏内では、テレサ・テンの歌声で広く知られている。オリコン・シングル・チャート最高第14位を記録。アン・ルイスにとって初のベスト20入りのシングル。

CamScannerでスキャン

ミノルフォン／1974年8月1日

旅愁

西崎みどり

作詞：片桐和子
作曲：平尾昌晃
編曲：竜崎孝路
B面：みかづき恋歌

少女時代から雑誌のモデルとして活躍。67年に西崎緑名義で「ちいさなプリンセス」でデビュー。74年に平尾昌晃と出会い、必殺シリーズ第4弾「暗闇仕留人」の主題歌に起用されたのが本楽曲。12/8拍子のロッカバラード・スタイルで、オリコン・シングル・チャート最高第2位、約58万の大ヒットを記録。ドラマにゲスト出演したのをきっかけに、「必殺仕舞人」（81年）、「必殺渡し人」（83年）など、必殺シリーズ10作にも出演。

キャニオン／1975年2月10日

さすらいの唄

小沢深雪

作詞：片桐和子
作曲：平尾昌晃
編曲：竜崎孝路
B面：夜空の慕情

高校1年生の時に平尾昌晃ミュージックスクールに第1期生として入学した小沢深雪のデビュー曲。必殺シリーズ第5弾「必殺必中仕事屋稼業」の主題歌で、マカロニ・ウエスタンの影響を感じさせるマイナー・チューン。オリコン・シングル・チャート最高第24位、約11万のヒットを記録した。同年に2作目「深雪の流し唄」をリリース後に引退。平尾昌晃と結婚して平尾勇気を生んだ。その後、離婚してニューヨークに移住している。

ビクター／1978年1月10日

カナダからの手紙

平尾昌晃・畑中葉子

作詞：橋本淳
作曲：平尾昌晃
編曲：森岡賢一郎
B面：揺れる二人

平尾昌晃ミュージックスクールに在学していた畑中葉子と平尾昌晃によるデュオのデビュー曲。もともとは、JALが主催した「空の音楽祭」に出品した作品で、海外旅行を歌で提案したいという企画で制作された楽曲だった。当初は、ミュージックスクールの生徒のみで歌う予定だったが、それでは弱いということになり平尾昌晃も歌うはめに。ひょんなことから生まれたデュオだったが、オリコン1位を記録、約66万枚の大ヒットとなった。

フォーライフ／1979年4月21日

カリフォルニア・コネクション

水谷豊

作詞：阿木燿子
作曲：平尾昌晃
編曲：鈴木茂
B面：僕らの時代

水谷豊主演ドラマ「熱中時代・刑事編」の主題歌。アコギやワウ・ギターなどを用いた鈴木茂のギタリストらしいこだわりを感じさせるアレンジと、ダイアトニック・コード中心のシンプルでキャッチーなメロディで、オリコン・シングル・チャート最高第3位を記録、約66万枚を売り上げた。08年には、約22年ぶりに音楽活動を再開。アルバム『TIME CAPSULE』をリリースして、鈴木茂の編曲により本楽曲をリメイクした。

ポリドール／1979年11月1日

自転車通学

壺井むつ美

作詞：山口洋子
作曲：平尾昌晃
編曲：斉藤恒夫
B面：女学生

79年に「君こそスターだ！」にて第24代グランドチャンピオンに輝き、札幌から上京。16歳で芸能界入りしたした壺井むつ美のデビュー曲。青春歌謡を思い起こさせるような端正な楽曲ながら、さり気ない平行調の移調が効果的に響く。抜群の歌唱力と、初々しいルックスを持っていたが、残念ながらチャート・インはならず。セカンド・シングル「高校野球」で坪井むつ美に改名するも、3枚目は発売されることが無く引退して帰郷した。

CamScannerでスキャン

東海林修

稀代の名アレンジャーが書いた
洗練の極みにある名曲群

作曲家というよりも編曲者として東海林修の名前を知っているかたも多いかと思う。実は作曲面でも素晴らしい作品を残しているのだが、この話は後でするとして、まずは経歴を眺めていこう。

1932年生まれで、中学時代にハワイアン・バンドに加わり人前に立つようになる。その後ジャズ・ピアニストとなり、ヘレン・メリルの伴奏などもおこなう。その音楽的な才能を認められ、編曲を手掛けるようになったのはカヴァー・ポップスの全盛期。ほり・まさゆき「サスピション」、園まり「花はどこへ行った」、梓みちよ「渚のデイト」、紀本ヨシオ「ひとりぼっちのバースデイ」などがあるが、その中には、中尾ミエの大ヒット曲「可愛いベビー」も含まれている。

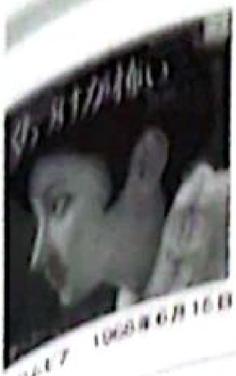
この流れで歌謡曲のアレンジも担当するが、ザ・ピーナッツ「東京たそがれ」を再アレンジし、「ウナ・セラ・ディ東京」として大ヒットさせたのは東海林修の功績だといえる。またGS期には、ザ・タイガース「嘆き」をはじめ、ザ・ワイルドワンズ「愛するアニタ」、ジ・アダムス「旧約聖書」など、数々の作品を手掛けた。

作曲家として脚光を浴びたのは、ザ・タイガースの映画のヒロイン役に抜擢された久美かおりのデビュー・シングル「くちづけが怖い」だ。この曲で彼女は日本レコード大賞の新人賞を受賞した。この時期から作曲家としての活動が忙しくなり、沢田研二「霧笛」(71年)、布施明「愛のカンツォーネ」(68年)、トワ・エ・モワ「地球は回るよ」(71年)、ペドロ&カプリシャス「恋するハニー」(74年)などを作曲。72年からはNHKの音楽番組「ステージ101」の音楽監督に就任し、ワカとヒロ、藤島新、西玲子などに楽曲を提供した。

東海林修らしさが前面に押し出されたのが、伊東ゆかりとの共同作業だ。伊東は11歳で歌手デビュー、中尾ミエ、園まりとのスパーク3人娘としてテレビなどで大活躍した。65年のサンレモ音楽祭に出場し「恋する瞳」を歌い入賞を果たすなど、実力をもった歌手としても知られている。その伊東ゆかりが71年に発表した『Love～ゆかりとニュー・サウンズ』は洋楽のカヴァーが中心となっていて、東海林修が全曲のアレンジを担当している。その東海林を含む、伊集加代子、岡崎広志の三人が、グリーン・ジンジャーの名義でコーラスを担当しているのが興味深い。まさにソフト・サウンディング・ミュージックと呼びたくなるような音作りだ。伊東ゆかり関連では「愛を知ったの」「宿命の祈り」「めぐり逢い」などの名曲を書き下ろしている。歌謡曲でありながらも優雅でジェントルな響きが感じられる。これが作曲家・東海林修の持ち味であったのだと思う。

text 小川真一

CamScannerでスキャン



コロムビア／1968年6月15日

くちづけが怖い

久美かおり

作詞：なかにし礼
作曲・編曲：東海林修
B面：夜明けの海

マーリ・三木や東海林修に師事していた久美かおりのデビュー曲。マイナー・キーのいわゆる歌謡曲路線だが、さり気ない「6th」コードの使用や洗練された楽器アンサンブルにより、同時代の歌謡曲とは一線を画している。年末には、第10回日本レコード大賞新人賞を受賞した。B面「夜明けの海」は、クリシェによるコード進行やテンション・コードを使用した。60年代とは思えない洗練されたサウンド・センスを味わえる。

東芝／エキスプレス
1972年4月25日

おさらば

オフ・コース

作詞・作曲・編曲：東海林修
B面：悲しきあこがれ

小田和正、鈴木康博、小林和行のトリオ編成だったジ・オフ・コースが、吉田浩二を加えカルテット編成になりオフ・コースと改称してリリースしたシングル。ザ・ビーチ・ボーイズ「グッド・ヴァイブレーション」(66年)や、ザ・カウシルズ「雨に消えた初恋」(67年)の影響を感じさせながらも、後半の4人編成のオフ・コースによるコーラス・ワークが圧巻。リリース1ヵ月後に、小田和正と鈴木康博のデュオ編成となった。

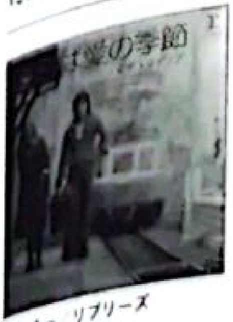
東芝／エキスプレス
1974年

にくい太陽

ワカとヒロ

作詞：増永直子
作曲・編曲：東海林修
B面：神と悪魔

WAKAやちのはじめ名義でも活動する若子内悦郎と、現在は作曲家の河内広明（現：芹澤廣明）によるデュオのデビュー曲。NHK「ステージ101」で生まれた楽曲で、メロディ・ラインはキャッチーだが、どこか浮遊感を感じさせる。ダイアトニック・コードの3コードを基本に、ノン・ダイアトニック・コードの「D」をブロック毎に巧みに交えるコード進行によるものだ。それまでの歌謡界には無かった斬新なコード感覚を感じさせる。



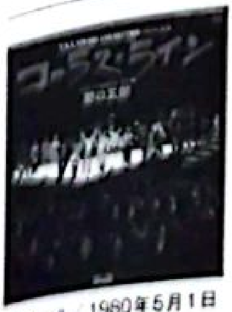
ワーナー／リプリーズ
1977年4月

さらば愛の季節

ヒデとロザンナ

作詞：橋本淳
作曲・編曲：東海林修
B面：思い出に鍵をかけて

出門英が以前参加していたユキとヒデ時代を彷彿とさせるナンバー。洗練されたコード進行や楽器アンサンブルは東海林修の真骨頂。残念ながらオリコン・シングル・チャート・インはできなかったが、もし70年代前半にリリースされていたら、「白い波」や「美しい星」(72年)などと並んで和製ソフト・ロックとして高く評価されていたのではと想像できる名曲。サーカスが81年にカヴァー、シングルとしてリリースした。



ポリドール／1980年5月1日

コーラス・ライン

野口五郎

作詞：麻生香太郎
作曲・編曲：東海林修
B面：CHARGE&GET IN

野口五郎に多くの楽曲を提供している東海林修だが、意外にもシングルA面曲といったら本楽曲が唯一。オリコン・シングル・チャートは最高24位に留まったが、「ザ・ベストテン」では最高9位にランク・イン。「女になって出直せよ」(79年)以来、3作品ぶりに出演した。Aメロとブメロのみによるスタンダード風の構成で、コンサートではオーディエンスと一緒にサビを歌って会場中一体となれるナンバーだ。

text：ガモウユウイチ

CamScannerでスキャン

筒美京平

50年に渡り名曲を量産し続けた日本最大のヒット・メーカー

昨年で作曲家生活50年を迎えた筒美京平。本名は渡辺栄吉で、
1940年5月28日に東京・神楽坂に生まれる。青山学院大学在学中
はジャズに傾倒し、卒業後の1963年に日本グラモフォンに入社、
洋楽担当のディレクターとして勤務する。また、青学の1年先輩で
もある作詞家・橋本淳の薦めもあって、すぎやまこういちに師事し
作曲とアレンジの勉強を始める。作曲家として最初に世に出た楽曲
は1966年8月15日、藤浩一（のちの子門真人）の「黄色いレモン」で、
この時は師匠のすぎやまこういちの名義で世に出た。同曲は望月浩、
ガス・パッカスらの競作として発売された。なお、ペンネームは当
初「鼓響平」を考えていたが、文字を左右対称にするために「筒美
京平」の名に決めたという。初のヒットは67年8月1日に発売され
たヴィレッジ・シンガーズの「バラ色の雲」。

デビュー直後の1960年代後半の主戦場となったのは当時フリー
作家の活躍の場でもあったグループ・サウンズとポップス系女性歌
手の世界。前者ではヴィレッジ・シンガーズ、ジャガーズ、オック
ス、後者では弘田三枝子といしだあゆみなどを手掛けている。パー
トナーとなった作詞家は学生時代からの盟友である橋本淳が中心で、
アレンジは一部をベテラン編曲家の森岡賢一郎に委ねた以外はとん
どを自ら担当した。

作風としては日本的な情感を湛えたメロディをロック・コンボ調
のリズムとゴージャスなオーケストレーションに載せたもので、女
性コーラスの効果的な使用もすでに確立されている。先端の洋楽ト
レンドを取り入れる試みにもすでに着手、その視界はビートルズか
らバート・バカラック、モータウンなどのソウル／R&Bからポール・
モーリアまでと実に幅広い。レコード会社のプロデューサーは洋楽
ディレクター時代からの知り合いが多いというのもこの時代の特徴
として興味深い。

また69年前後にはいわゆる演歌系歌手の作品も手掛けているが、
その一方で西田佐知子「くれないホテル」、ヒデとロザンナ「粋な
うわさ」、佐川満男「フランス人のように」など後世に語り継がれ
るようなマニアックでソフィスティケートされたポップスも世に問
うている。このようにブームの端境期ともいえる時代に面白い作品
を残しているのも京平先生らしいところで、この時期にデビューを
担当したブレッド&バターの試みなども着実に次へと繋がっている。

初めてのレコード大賞をもたらした71年の尾崎紀世彦「また逢
う日まで」は阿久悠とのコンビ、前年の朝丘雪路「雨がやんだら」
では同じ音楽出版社・日音の所属だったなかにし礼を迎えている。

text 榊ひろと

CamScannerでスキャン

1970年代の前半はこうしたアダルト系の歌手に加えて、空前のアイドル歌手ブームが到来、筒美京平の作・編曲家としての活動は質・量ともに最初のピークを迎えた。洋楽のエッセンスを取り入れながらメロディとアレンジを一体的に構築する京平サウンドの手腕にもますます磨きがかかっていく。

アイドル歌手としてはCBS・ソニーの酒井政利ディレクターの担当する南沙織と郷ひろみのシングルをほぼ全曲手掛けたが、作詞は各々有馬三恵子と岩谷時子が起用された。同時期に二人のライバルだった麻丘めぐみと野口五郎にも楽曲を提供しているが、こちらの方では多くのアレンジを高田弘に委ねた。橋本淳とのコンビでは東芝所属のアイドル岡崎友紀と小林麻美に傑作を提供したほか、コンビの秘蔵っ子たる平山三紀をはじめ堺正章などアダルトとアイドルの中間的な領域で多くの佳曲を残している。

新人アイドルの成功例は73年の浅田美代子あたりで一段落するが、74年にはテレサ・テン、優雅（ゆうや）、リンリン・ランランといった中国語圏の歌手を担当した。また72年頃から手掛けたフォーク系のチェリッシュ、ソウルフルなつなき&みどりなども次代への布石として興味深い存在である。

1970年代後半はニューミュージックとディスコ・サウンドの時代と言えるだろう。前者の代表格は太田裕美で新たな作詞のパートナーとして松本隆を起用したことが大きい。後者の主軸は「スター誕生」出身の岩崎宏美であり、番組審査員でもあった阿久悠とのコンビで連続ヒットを放っている。またこの頃から編曲に萩田光雄、船山基紀（ともにヤマハ出身）といった新世代のアレンジャーを抜擢するケースも増えていく。

その一方で郷ひろみや野口五郎などにも引き続き作品を提供しアイドルからの脱皮に貢献したほか、自ら“DR.ドラゴン&オリエンタル・エクスプレス”なるディスコ・ユニットを名乗ってインスト曲「セクシー・バスストップ」をヒットさせるなど八面六臂の活躍は続く。

70年代終盤には松本隆とのコンビで桑名正博を成功に導いたほか、庄野真代「飛んでイスタンブール」や中原理恵「東京ららばい」などエキゾティック路線のネオ歌謡曲をヒットさせた。この方向性を極めたのがポール・モーリア歌謡の集大成であり2度目のレコード大賞に輝いたジュディ・オング「魅せられて」であることは言うまでもない。

“第一次アイドル冬の時代”といわれた1977～80年頃にも高田みづえ、石野真子、榊原郁恵などにスマッシュ・ヒットを提供した

ほか、ニューミュージック勢では宮本典子、マナなどに隠れた名曲を授けている。アダルト系では梓みちよや小柳ルミ子の再ヒットに貢献、平山三紀の「マンダリンパレス」ではキーボードに坂本龍一を招いてテクノ・ポップ的なサウンドにトライしている。

1980年代前半は再びアイドル歌手の黄金時代が到来した。筒美京平は81年度には近藤真彦と沖田浩之、82年組では松本伊代をデビューから担当したが、以降も田原俊彦、小泉今日子、早見優、河合奈保子、柏原芳恵といった2〜4年目アイドルのテコ入れやブレイクに大きく寄与した。

この時代の特徴は自らアレンジを手掛けるケースがほとんどなくなり、若手の編曲家にアイデアを示した上で細部を委ねるようになった点にある。従来からの萩田／船山に加えて、大村雅朗、鷺巣詩郎、茂木由多加、佐久間正英、井上鑑といった新進気鋭の面々を起用して、テクノ以降のいわゆる“打ち込み”サウンドにも果敢にトライした。作詞家では松本隆を主軸に阿木燿子、三浦徳子、湯川れい子の女性陣、さらには伊達歩、売野雅勇、康珍化、秋元康らが加わった。

その秋元康と最初に組んだ稲垣潤一「ドラマティック・レイン」では都会派ニューミュージックの究極としてのAORサウンドを完成、野口五郎や森進一の新境地へとフィード・バックさせたほか、80年代後半の女性ポップスにも応用されている。また83年組マイナー・アイドル佐藤由梨に提供した「ロンリー・ガール」が2005年に加藤ミリヤによってカヴァーされたことも記憶に新しい。

1985年からは松本隆とのゴールデン・コンビがフル回転、斉藤由貴のデビューを担当して名曲「卒業」を残したほか、筒美の実弟である渡辺忠孝がプロデュースするC-C-Bをブレイクさせた。また同年の新人アイドルとして中山美穂や本田美奈子を手掛けたばかりか、薬師丸ひろ子にも楽曲を提供した。

この時代はデジタルな音作りとアコースティックな手触りを融合させたサウンドが特徴で、アレンジャーには武部聡志、新川博、山川恵津子などが陣営に加わった。さらに芳本美代子、西村知美、荻野目洋子といった2〜4年目のアイドルにも楽曲を提供するパターンは80年代前半と同様である。ジャニーズ系では少年隊をデビューから手掛けたほか、田原俊彦の再ブレイクにも大きく関与し、ユーロビート調のダンス・サウンドを完成の域にまで高めた。

空前のおニャン子ブーム以降の女性アイドルは、斉藤由貴や中山美穂に代表されるように歌手活動よりも女優業を拠点に展開す

CamScannerでスキャン

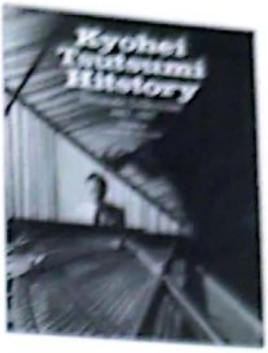
るケースが増えたが、筒美は美少女モデル出身の後藤久美子のデビュー曲も提供している。この時代の名曲としては今井美樹の「野生の風」や石井明美の「JOY」等が挙げられるが、ちあきなおみにはホイットニー・ヒューストンを思わせるバラード「色は匂へど」を残している。

"第二次アイドル冬の時代"とされた80年代終盤から90年代初頭にかけて、筒美がデビューから担当したのは田中律子と田村英里子くらいだが、後には西田ひかるや高橋由美子にスマッシュ・ヒットをもたらした。また新時代のアイドル像を提示した森高千里が南沙織の「17才」をユーロビート風のサウンドでカヴァー・ヒットさせたことも大きな話題を呼んだ。90年代中盤には裕木奈江、内田有紀、鈴木蘭々といった新人アイドルのデビューを手掛けている。

バンド・ブーム以降のいわゆる"J-POP"シーンでは自作自演アーティストの占める比重がますます高まり、筒美もそうした面々と積極的なコラボレーションを試みることとなった。元レベッカのNOKKOによる「人魚」が大ヒットしたほか、井上陽水、藤井フミヤ、山下久美子、中西圭三などがこれに続いた。こうした作品では作詞や音作りのイニシャティヴをアーティスト側が握っているケースも目立ち、筒美の音楽に対する柔軟な姿勢を反映したものと言える。とりわけ当時"渋谷系"と呼ばれた若いアーティストから一身にリスペクトを集めたことで氏のキャリアと実績に再び注目が集まり、小沢健二の「強い気持ち・強い愛」、ピチカート・ファイヴの「恋のルール・新しいルール」といった作品へと見事に結実している。

そのピチカートの新曲が初収録された97年の作曲家生活30周年記念CDボックス・セット『筒美京平HITSTORY』を契機として、それまで同氏が手掛けてきた"筒美系"とも呼ばれる主要なアーティストに再び楽曲を提供するケースも目立ってきた。太田裕美を皮切りに岩崎宏美、郷ひろみ、野口五郎と続いたが、中でもやはり平山みきに対しては久々に橋本淳とのコンビでシングル曲、アルバム曲のみならずライヴ用に書き下ろし曲まで提供する熱の入れようである。

その一方で新たなるジャンルの開拓にも積極的で、クラシック、ジャズ、R&B／ソウル系から、TV／映画のテーマや挿入歌あるいはアニメ声優やベテラン演歌系歌手に至るまで実に幅広い。さらに21世紀のアイドルとしては安倍麻美、仲間由紀恵、中川翔子などに楽曲を提供、ジャニーズ系ではKinki Kidsの「やめないで、PURE」とTOKIOの「AMBITIOUS JAPAN!」がチャートのNo.1に輝いている。



「筒美京平
Hitstory Ultimate
Collection
1967～1997
2013Edition」

97年に発売された作曲家生活30周年記念の「筒美京平HITSTORY」の2013年再発盤。9枚組

CamScannerでスキャン

橋本淳 × 筒美京平

コロムビア／1967年7月10日

渚のうわさ

弘田三枝子

作詞：橋本淳
作曲・編曲：筒美京平
B面：風とオトコのコ

カヴァー・ポップスから転向し方向性を模索していた弘田三枝子に、筒美京平が提供した最初の作品で、ロック・コンボのスタイルを歌謡曲に導入した最初期の楽曲といえる。リズム・セクションにピアノを加え、ストリングスや木管楽器によるアンサンブルは、メロディとアレンジを一体化させたサウンドを構築する筒美独自のもの。弘田もサビでは得意のシャウトを交えつつ、アクセントの効いた歌唱法で応えている。

CBSコロムビア／1967年8月1日

バラ色の雲

ヴィレッジ・シンガーズ

作詞：橋本淳
作曲：筒美京平
編曲：森岡賢一郎
B面：輝く星

筒美京平の実質的な最初のヒットが、ヴィレッジ・シンガーズの3作目となるこの曲。メンバー・チェンジしてフォークからGSスタイルへと変わった彼らは、旧メンバーでの録音は済んでいたが、新メンバーで再録音している。筒美はメンバーからの「ブルー・コメッツ風の曲を」という依頼に応え、冒頭のヴォーカル清水道夫とメンバーの掛け合いスタイル、サビでのハーモニーを構築、全体にスピード感溢れる楽曲となっている。

コロムビア／1968年6月10日

太陽は泣いている

いしだあゆみ

作詞：橋本淳
作曲・編曲：筒美京平
B面：夢でいいから

ビクターから移籍したいしだあゆみの第1弾。当時流行していたGSスタイルのリズム・セクションを用いているが、イントロでチェンバロが切迫感溢れるフレーズを聴かせ、さらにストリングスとエレキがユニゾンで盛り上げるテンションの高さはこの時代には驚くべき斬新さ。曲調はいわゆる和製ポップスで、既に筒美得意のメロディ・ラインが現れている。B面はバカラック風のドリーミーな楽曲で多くの歌手にカヴァーされた。

ビクター／1968年9月5日

ダンシング・セブンティーン

オックス

作詞：橋本淳
作曲・編曲：筒美京平
B面：僕のハートをどうぞ

失神で名高いGSのオックスに、筒美京平はデビューから連続して楽曲提供しているが、これはその第2弾。ウェットなデビュー曲「ガールフレンド」から一転、弾けるR&Bサウンドで彼らの持つロック・テイストを強めたグルーヴ感溢れる仕上がり。間奏にもテンプテーションズ「マイ・ガール」風のフレーズが顔をのぞかせる。彼らの魅力を最大限に引き出したナンバーで、郷ひろみ「男の子女の子」のプロトタイプでもある。

コロムビア／1968年9月15日

可愛い嘘

弘田三枝子

作詞：橋本淳
作曲・編曲：筒美京平
B面：砂に埋めた手紙

橋本＝筒美コンビが弘田三枝子に提供した5部作の最終作。筒美京平によるR&B、ことにモータウン・サウンドの歌謡曲化で、こちらもテンプテーションズ「マイ・ガール」を下敷きに、シャレたコード進行のソフィストケートされたメロディを提供。ゴリゴリの黒っぽさよりシュプリームスあたりのガール・ポップをイメージして作られている。弘田もパンチのミコちゃんから一転、キュートなウィスパー・ヴォイスを披露。

CamScannerでスキャン

東芝／1968年7月1日

赤毛のメリー

ザ・ガリバーズ

作詞：橋本淳
作曲・編曲：筒美京平
B面：ダークな瞳

北久保誠、小柴英樹らによる6人組GSのデビュー曲。演奏中にギターを壊す派手なパフォーマンスで人気となり、本作でデビューを飾る。ワウとファズが鳴り響くガレージ色の強いアレンジで、Aメロのもつビート感、サビでは歌謡曲的なメロディになるが部分転調を施し、エンディングには（神戸の港が舞台だけに）汽笛のSEまで入れた凝った作り。B面はさらにノリがよく、筒美京平のガレージGSとしては最高峰にあたる。

東芝／1968年6月

涙は春に

鍵山珠里

作詞：橋本淳
作曲・編曲：筒美京平
B面：星空の恋

ひとりGS系の中でも、筒美京平がかなり力を入れたと思しい1作。鍵山珠里はこの時代に数多く登場したハーフの女性歌手の1人で、本作が唯一のソロ・シングル。江美早苗「涙でかざりたい」や川奈ミキ「花は泣いている」などこの時期に特有の筒美流哀愁メロディとバンド・サウンドの融合によるビート歌謡だが、「私は辛い」の音の飛び方などはやや異色。その後も山本リンダ、安西マリア、山内えみこがカヴァーしている。

コロムビア／1968年12月25日

ブルー・ライト・ヨコハマ

いしだあゆみ

作詞：橋本淳
作曲・編曲：筒美京平
B面：明日より永遠に

筒美京平にとって初のチャート1位、レコード大賞作曲賞に輝いた記念すべき楽曲。橋本淳の感覚派の詞にムーディな歌謡ポップス、必須の哀愁メロディの決定版ともいうべき曲調で、特筆すべき点を挙げるなら、サビの「歩いても歩いても」と「私は揺れて」が字数は異なるが同じモチーフであること。Aメロが9小節なのも独特だが、全く不自然さを感じさせない。いしだあゆみの小唄調節回しも独特の和洋折衷感を高めている。

ポリドール／1969年4月5日

くれないホテル

西田佐知子

作詞：橋本淳
作曲・編曲：筒美京平
B面：通り過ぎた恋

エンゲルベルト・フンパーディンク「ラスト・ワルツ」の見事な歌謡曲的翻案。これにバカラック風のオーケストレーションを重ね、さらりと哀愁を感じさせるブルース・ハープの音色がメロディを引き立てる。歌パートの最後「ホ・テ・ル」でメジャー・セブンスを使うあたり、この時代の歌謡曲としては洗練されすぎていた感もある。西田佐知子のクールなヴォーカルともマッチ、若き日の細野晴臣や坂本龍一が絶賛した名曲だ。

コロムビア／1969年8月25日

真夜中のボサ・ノバ

ヒデとロザンナ

作詞：橋本淳
作曲・編曲：筒美京平
A面：ローマの奇跡

ヒデとロザンナの3作目。この時期の筒美は彼らの「粋なうわさ」や佐川満男「フランス人のように」など歌謡曲としてはかなり先を行くソフィストケートされた楽曲を生み出しているが、この曲もその典型。ヒデこと出門英の音楽キャリアに呼応した本格的なボサノバは前作のB面「愛のひととき」に続くもので、本作のほうがやや歌謡曲寄りのメロディ。2011年にピンク・マルティーニ&由紀さおりのカヴァーで脚光を浴びた。

CamScannerでスキャン

コロムビア／1971年5月25日

真夏の出来事

平山三紀

作詞：橋本淳
作曲・編曲：筒美京平
B面：ブン・ブン

橋本淳＝筒美京平コンビの秘蔵っ子・平山三紀のシングル2作目にして最大のヒット曲。平山はデビュー当初、橋本＝筒美の宝島音楽出版預かりの歌手で、70年代はキャリアのほぼ全曲がこのコンビの手による。最初からサウンド作りのコンセプトを立て、メロディとアレンジを一体化させる筒美流の作編曲の最初の成功例であり、当時の歌謡曲としては画期的であった。筒美が平山の独特の声に惚れ込んでいたことは言うまでもない。

ポリドール／1971年8月10日

青いリンゴ

野口五郎

作詞：橋本淳
作曲：筒美京平
編曲：高田弘
B面：君のためぼくのため

野口五郎は同年5月1日に演歌「博多みれん」でデビューしたが全く売れず、2作目にあたるこの曲でポップス歌手に転向、オリコン最高14位のスマッシュ・ヒットとなる。マイナー8ビートで青春歌謡風の曲調ながら、随所で五郎の歌唱力を活かした伸びやかなメロディを提示、少年版尾崎紀世彦的な匂いも感じさせる。これ以降、橋本＝筒美コンビは「好きなんだけど」「悲しみの日曜日」とシングルを連続して担当する。

東芝／1972年4月5日

恋の追跡（ラブ・チェイス）

欧陽菲菲

作詞：橋本淳
作曲・編曲：筒美京平
B面：水色の夜明け

台湾出身、ベンチャーズ歌謡「雨の御堂筋」の大ヒットを飛ばした欧陽菲菲の第3弾。オルガンのグリッサンドでスタートするイントロに始まり、激しい動きのベース・ラインと豪快に鳴り響くブラス・セクションといったサウンドは、当時流行していたブラス・ロックの雄チェイスを意識したもの。菲菲の歌唱力を活かし駆け上がるように歌うサビのメロディ展開は圧巻で、筒美作品で最もソウルフルなグルーヴを感じさせる。

東芝／1972年7月

恋のチャンス

BBS

作詞：橋本淳
作曲・編曲：筒美京平
B面：男はいいわ

ブラック・ビューティ・ストーンズ（BBS）はケリー宇佐見、キャサリン中根、倉持ゆりの3人組（結成時は4人組）で、赤坂ムゲンや米軍基地で本国顔負けのパフォーマンスをみせていた。HOTWAXレーベルで活躍したハニー・コーン辺りを参考にした、うねるような極太グルーヴとユニゾンで迫りくるソウルフルなヴォーカル、しかしメロディの随所に見え隠れする京平節といった歌謡ソウルの傑作。「にがい涙」よりはるかに黒い！

東芝／1972年10月5日

私は忘れない

岡崎友紀

作詞：橋本淳
作曲・編曲：筒美京平
B面：[illegible]

岡崎友紀のシングル10作目にして彼女の最大のヒット。メジャーとマイナーのコードをAメロとサビで使い分け、爽やかな哀愁を感じさせるメロディに仕上げている。ことにAメロでのペンタトニックスケールに加え、地声とファルセットを行き来する岡崎の魅力的な歌唱法を活かし、ファルセット部分に美メロを充て哀愁味を強調させる秀逸な曲作りが光る。フリューゲルホーンの起用も「明るい切なさ」を倍増させる効果が。

CamScannerでスキャン

東芝／1972年12月1日

愛の挽歌

つなき&みどり

作詞：橋本淳
作曲・編曲：筒美京平
B面：ミュージック・イズ・マイ・ライフ

元ブルー・コメッツのギタリスト三原綱木と、少女歌手として活躍した田代みどりが結婚を機に結成したデュオのデビュー曲。2人のパワーに満ちたヴォーカル、特に田代のファンキーな歌いっぷり（「いまさら」の箇所に顕著）を活かしたソウルフルなシャッフル・ビートのナンバーで、休符の効果的な使い方によるタメの利いた曲調も筒美作品には珍しい。以降も「愛の絆」「ふたり」など橋本＝筒美コンビは継続的に楽曲を提供した。

東芝／1973年4月5日

恋の十字路

欧陽菲菲

作詞：橋本淳
作曲・編曲：筒美京平
B面：嘆きの恋

橋本＝筒美コンビは欧陽菲菲に継続して楽曲提供してきたが、これは6作目にあたる傑作ロッカバラード。3/4拍子の3連、ほぼヨナ抜き音階で作られたメロディ。イントロに入る「I want you love me toni-ght」のコーラスが歌の締めに菲菲自身のヴォーカルで2回繰り返されるなど、スキのない完璧な構成。文節に合わせていないAメロの譜割の妙も、外国人シンガー独特のアクセントと相まって、かえって効果的に聴かせる。

CBS・ソニー／1975年7月21日

誘われてフラメンコ

郷ひろみ

作詞：橋本淳
作曲・編曲：筒美京平
B面：夏の一日

郷ひろみのシングル13作目で、橋本淳はシングル初起用となった。タイトルとは異なり曲調はフラメンコではないが、イントロなしにいきなり「アンアン、アアア」と始まる出だしや、Bメロ「素肌にこぼれて…」の箇所での8分音符畳み掛け、後半では2回の転調など、筒美作品にしては下世話なクドさがあるがテンポの速さで緩和されている模様。このロックンロール・スタイルは76年2月の「恋の弱味」でも試みられている。

CBS・ソニー／1975年8月1日

真夜中のエンジェル・ベイビー

作詞：橋本淳

作曲・編曲：筒美京平
B面：私に触れないで

ソニーに移籍した平山三紀が放った痛快なロックンロール歌謡。デビュー曲「ビューティフル・ヨコハマ」の不良少女が年齢を重ねてやさぐれ感を強めたかのようなキャラ設定。それに対応するように筒美のメロディ&サウンドもタイトでスピーディなものに。ソニーでの前2作がバリー・ホワイト流サウンドのミディアム・チューンだったことを思うと青天の霹靂である。近田春夫からキノコホテルまで数多くのカヴァーが存在する。

RCA／1976年4月25日

セクシー・バス・ストップ

浅野ゆう子

作詞：橋本淳
作曲：Jack Diamond
編曲：高田弘
B面：ブルー・ライト・ヨコハマ

もとは疑似洋楽ディスコの形で発売したインスト曲で、筒美は変名で作曲。これに詞をつけ歌物として発売することになり、筒美の希望で橋本が作詞を担当した。だが元のメロディと殆ど変更なく詞が乗っており、難なく筒美流ディスコ歌謡に化けている。ペンタトニック・スケールで書かれたメロディ、琴や尺八を導入したサウンドもオリエンタルな香りがあり、浅野ゆう子のクセのないヴォーカルもディスコ物と相性がいい。

CamScannerでスキャン

フィリップス／1971年3月5日

また逢う日まで

尾崎紀世彦

作詞：阿久悠
作曲・編曲：筒美京平
B面：帰郷

阿久悠と筒美京平の初コンビは、エアコンのCMソング用に書かれた曲に阿久が詞をつけズー・ニー・ヴーが歌った「ひとりの悲しみ」。ヒットには至らず、阿久悠が詞を書き換え尾崎紀世彦の歌唱で生まれ変わったのがこの曲である。CM曲ゆえ秒数合わせのため譜割が細かくなったそうで、16ビートでのシンコペーションを用い、スケールの大きなメロディにふさわしい、映画の1シーンのような別れが歌われた。レコード大賞受賞。

東芝／1971年6月25日

サンゴ礁の娘

マモル・マヌー

作詞：阿久悠
作曲・編曲：筒美京平
B面：少年時代

ゴールデン・カップスのドラマー&ヴォーカリストだったマモル・マヌーが69年に脱退、ソロ歌手としてリリースした3作目。哀しみを漂わせたマイナーのメロディで始まり、サビでメジャーに変わる展開で、アフターGS的な切なさと郷愁を感じさせ、マモルの哀感ある声質もよく活かされている。「涙は春に」や「夢でいいから」と並ぶ筒美作品の隠れ名曲の1つで、その後尾崎紀世彦、郷ひろみ、城みちるらによってカヴァーされた。

ビクター／1975年3月5日

ひとり歩き

桜田淳子

作詞：阿久悠
作曲・編曲：筒美京平
B面：涙のいいわけ

桜田淳子の9作目のシングルで、阿久悠はデビュー以来継続しての登板だが、筒美は初起用。8ビートの奇をてらわないシンプルな構成ながら、8分音符が並ぶAメロでスピード感を演出、また意外に広い音域で作られている。前作「はじめての出来事」がチャート1位獲得と、人気絶頂期だけにこの曲も最高4位を獲得。曲の良さもあり現在でもファンから支持されている。阿久＝筒美コンビは77年にも「もう戻れない」を提供した。

ビクター／1975年7月25日

ロマンス

岩崎宏美

作詞：阿久悠
作曲・編曲：筒美京平
B面：私たち

岩崎宏美のデビュー2作目で、チャート1位の大ヒットとなった彼女の代表作。もとはバラード曲だったものをディレクターの笹井一臣がアップ・テンポにするよう提案、ディスコ・サウンドを取り入れたアップ・ナンバーに作り変えた。終盤の「席を立たないで」の「た」が、一箇所だけ音程が上がる箇所は、岩崎が間違えて歌ったものがそのまま採用になったという。B面「私たち」も彼女の歌唱力を活かした正攻法のポップ・チューン。

ビクター／1978年7月25日

シンデレラ・ハネムーン

岩崎宏美

作詞：阿久悠
作曲・編曲：筒美京平
B面：南南西の風の中で

77年「想い出の樹の下で」以来6作ぶりに阿久＝筒美コンビが復活、当時のトレンドだったミュンヘン・ディスコ、ことにイントロはドナ・サマー「ワンス・アポン・ア・タイム」、リフ部分ではヴィレッジ・ピープル「サンフランシスコ」の引用がみられる。1年半ぶりの岩崎とのコラボにはかなり力が入っており、筒美流ディスコ歌謡の集大成的な作品となった。同時期に筒美が全作曲を手掛けたアルバム「パンドラの小箱」も秀逸な出来。

text：馬飼野元宏

CamScannerでスキャン

フィリップス／1978年8月5日

たそがれマイ・ラブ

大橋純子

作詞：阿久悠
作曲・編曲：筒美京平
B面：ラブ・マシーン

カーリー・サイモン「ユー・ビロング・ミー」の歌謡曲的翻案ともいえるAOR歌謡の傑作。日音の恒川光昭ディレクターが阿久悠にはドラマティックな詞を、筒美京平にはしっとりしたメロディを、と発注したのは有名だが、随所で大橋純子の歌唱力を活かす起伏の大きなメロディで、音符の動きが極端に激しい難曲に仕上がっている。大橋自身は歌謡色の強い楽曲に難色を示したそうだが、結果はオリコン2位の大ヒットとなった。

ビクター／1979年1月25日

日曜日はストレンジャー

石野真子

作詞：阿久悠
作曲・編曲：筒美京平
B面：悲しきエンゼルス

石野真子のシングル第4弾で、阿久悠はデビュー以来継続しての起用だが、筒美京平は初の楽曲提供となった。ディスコ・サウンドを取り入れながらもストリングスや女声コーラスが派手に盛り立てる、アイドル・ソングならではの魅力に溢れている。イントロはフォー・トップス「セイム・オールド・ソング」の応用で、Bメロに必殺の哀愁メロディを混ぜ込んでエンディングには初登場の別メロと、凝りに凝った作りが楽しい。

ポリドール／1979年4月21日

真夏の夜の夢

野口五郎

作詞：阿久悠
作曲・編曲：筒美京平
B面：ローリング・サマー

野口五郎が79年に阿久＝筒美と組んで発表した2枚のシングルは、フュージョン～AOR路線を極めた感がある。3連ビートのハードな曲調で、後半でヴォーカルとEVEのコーラスが別々のフレーズを同時に歌うスタイルは、岩崎宏美「センチメンタル」「媚薬」など筒美作品に時々見られるもの。歌番組ではギターを抱え歌っていたが、同じコンビの次作「女になって出直せよ」ではギター・ソロを弾きつつ歌うという妻技を披露した。

キャニオン／1985年7月21日

夏ざかりほの字組

Toshi&Naoko

作詞：阿久悠
作曲：筒美京平
編曲：新川博
B面：バカンス・ゲーム

各局のテレビ番組で共演の多かった田原俊彦と研ナオコによるデュエット・ソングで、田原から研への依頼で実現した。フリ付きの楽曲という意味でも、コンセプトとしては「林檎殺人事件」の郷ひろみ&樹木希林を意識したもの。筒美京平は田原には尖ったディスコ歌謡を断続的に提供してきたが、ここではラテン風味のミディアム・ディスコ調で、阿久悠のエロティックな詞も2人はさらりと歌い流す。シャバダ・ドゥワーのキメも楽しい。

ソニー／92年5月21日

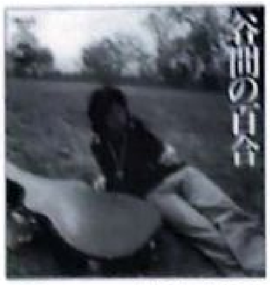
ファンレター
－SO GOOD SO NICE－

南沙織

作詞：阿久悠
作曲：筒美京平
編曲：萩田光雄
c/w：青空

91年末に「紅白歌合戦」に特別出演し、暫定的に歌手活動を再開した南沙織に、カムバック記念曲として筒美京平が書き下ろした新作。初出はベスト盤「Recall」への収録で、作詞は初起用の阿久悠が手がけた。有馬三恵子の世界をオマージュした、阿久悠から南沙織へのファンレター的内容で、サビの「NICE」の箇所でウワーンと声が広がる彼女独特の歌いまわしを活かすメロディは、歌手・南沙織を熟知した筒美ならではの離れ業であった。

CamScannerでスキャン



CBS・ソニー　1974年6月21日

谷間の百合

桑原一郎

作詞：松本隆
作曲：筒美京平
編曲：深町純
B面：ミルクティーの午後

松本隆が筒美京平と初めてのコンビを組んだのは、馬飼野康二らも在籍していた元ブルーシャルムのヴォーカル桑原一郎が歌ったこの曲。筒美はチューリップ「夏色のおもいで」を聴いて松本と組んでみたいと思ったそうである。当初はムード・コーラス・グループだったため、桑原のヴォーカルも柔らかさをもった上手さがあり、フォーク・タッチの曲想と合う。筒美は桑原にこの1曲前、「ここより永遠に」を阿久悠と組んで提供していた。

ビクター　1974年8月25日

夏しぐれ

アルフィー

作詞：松本隆
作曲・編曲：筒美京平
B面：危険なリンゴ

のちのTHE ALFEEのデビュー・シングル。この時期は現在の桜井賢、坂崎幸之助、高見沢俊彦に三宅康夫の4人組で、この曲のヴォーカルは高見沢。曲想は当時流行していたフォーク、それも井上陽水「心もよう」を意識したメロディで、筒美流の、フォークの歌謡曲的換骨奪胎がみてとれる1曲。同年末には早くも南沙織がアルバム『20才』でカヴァーしている。現在では彼らも「ネタ」としてステージで演奏することがあるという。

CBS・ソニー　1974年11月1日

雨だれ

太田裕美

作詞：松本隆
作曲：筒美京平
編曲：萩田光雄
B面：白い季節

太田裕美のデビュー曲。小坂明子をイメージしたピアノ弾き語りをコンセプトにしていただけあり、羽田健太郎のピアノをフィーチャーした3連のバラードが曲先で作られる。歌い出しの「ひとり」の後のピアノ・パートは筒美から編曲の萩田光雄に指定があったそう。太田の清楚でストレートな声質を活かしたメロディアスで繊細な、ニューミュージック風の楽曲は同時期の「夏しぐれ」やオフコースへの提供曲「忘れ雪」と共通する。

CBS・ソニー　1975年12月21日

木綿のハンカチーフ

太田裕美

作詞：松本隆
作曲：筒美京平
編曲：萩田光雄、筒美京平
B面：揺れる愛情

太田裕美の最大のヒット曲。男女の会話形式の詞はボブ・ディラン「スペイン革のブーツ」の影響も感じさせるが、ストーリー展開する長い詞に、筒美は見事な曲をつけた。Aメロは15小節と変則だが不自然さはない。「い・い・え」の箇所にキメを作り、言葉数に合わせモチーフを繰り返す形をとらず、言葉の意味や表情をメロディとして立たせたそうである。当初はアルバム曲だったが筒美が編曲に手を加えシングル化された。

CBS・ソニー　1977年9月1日

九月の雨

太田裕美

作詞：松本隆
作曲・編曲：筒美京平
B面：マニキュアの小瓶

アルバム「こけていっしゅ」からのシングル・カットで、同年末までチャート上位に残るロング・ヒットとなった。別の女性の影を見るという松本隆が好む失恋シチュエーションに、筒美は3コーラス目で太田にオクターヴ上のメロディを歌わせるという秀逸な曲作りで応え、切迫感と切なさを演出している。筒美自身のストリングスを多用したゴージャスなアレンジは、ABBA的な北欧ディスコ風のサウンドとも受け取れる。

text　馬飼野元宏

CamScannerでスキャン

RCA／1977年6月25日

哀愁トゥナイト

桑名正博

作詞：松本隆
作曲：筒美京平
編曲：萩田光雄
B面：さよならの[illegible]

ファニー・カンパニーのヴォーカル桑名正博の初ソロ・シングル。「哀愁」と「トゥナイト」をかけた松本の詞に、筒美は桑名の[illegible]声を活かす[illegible]なメロディを提示。曲の骨格は歌謡曲的なフックも随所に感じられるものの、バックの演奏は[illegible]曲想の良さ。リズム・セクションには[illegible]、[illegible]らティン・パン・アレー[illegible]が参加している。[illegible]にとっての歌謡曲とロックの[illegible]である。

コロムビア／1977年12月1日

ロマンチスト

伊東ゆかり

作詞：松本隆
作曲・編曲：筒美京平
B面：プレイボーイ・マガジン

セールス的には低迷期に入っていた伊東ゆかりの、隠れ名曲の1つで、エレガントな大人の女性の恋の駆け引きを歌う。ミュートするトランペットとエレピのリフが洒落たアーバン・ディスコの趣で、ラテン・フュージョン色もチラリ。中音域に特性がある伊東ゆかりの声質をうまく活かした、京平流ディスコ歌謡の傑作で、B面のジャジーな味も最高。さすがに筒美京平はアダルト系ポップス・シンガーの活かし方をよく知っている。

CBS・ソニー／1978年3月21日

東京ららばい

中原理恵

作詞：松本隆
作曲・編曲：筒美京平
B面：TOUCH ME

ファッション・モデル風の容姿で登場してきた中原理恵のデビュー・シングル。創作に行き詰まり気味だった筒美に、松本が「好きなことをやれば」と後押しし、当時好んでいたサンタ・エスメラルダ風の派手な楽曲を作り上げた。メロディの骨格は同年の庄野真代「飛んでイスタンブール」と同じく、70年前後によく見られた京平節そのもの。Bメロでの男女の会話を、見事にメロディで書き分けた技はこの2人のコンビならでは。

ビクター／1978年6月5日

リップスティック

桜田淳子

作詞：松本隆
作曲・編曲：筒美京平
B面：トロピカル・ランデブー

この時期中島みゆき作品を歌っていた桜田淳子に、夏らしくアップ・ナンバーをと松本＝筒美コンビに依頼が来た。松本の詞は「九月の雨」的なシチュエーションで大人の女性を描き、筒美はマイナーの中に妙にメジャー・コードが多いメロディで、バカラ「誘惑のブギー」風の、ディスコ・サウンドに仕上げた。エンディングのみ「紅く紅く…」と別メロを用意する凝った作りで、同時期の岩崎宏美「シンデレラ・ハネムーン」とは姉妹曲。

RCA／1979年7月21日

セクシャルバイオレットNO.1

桑名正博

作詞：松本隆
作曲：筒美京平
編曲：桑名正博＆ティアードロップス、戸塚修
B面：You're my baby

化粧品のキャンペーン・ソングに選ばれ、オリコン1位の大ヒットを記録した桑名正博の代表作。「哀愁トゥナイト」以降も松本＝筒美によるシングル曲をリリースしてきた桑名だが、バンド・サウンドと筒美作品との融合が高まる中で放った1作でもある。歌詞中にCMのキャッチ・コピーを入れ、その部分をフックにしたメロディ作りがなされた。この時期から筒美の曲は構成が複雑になるが、Cメロの登場などもその傾向の1つだろう。

コロムビア／1980年6月1日

ROBOT

榊原郁恵

作詞：松本隆
作曲：筒美京平
編曲：船山基紀
B面：恋はう・ら・は・ら

筒美京平は時代のトレンド音楽を歌謡曲に導入するという点で、どの職業作曲家よりも熱心であったが、当時一世を風靡していたテクノ・ポップを歌謡曲に最初に持ち込んだのがこの曲。サビの展開などはバグルス「ラジオ・スターの悲劇」を意識したもので、モチーフも多いが、ベースのメロディは京平節ともいえるシンプルな作風。船山基紀による打ち込み風のサウンドだが、すべての楽器を手弾きで演奏している。

RCA／1980年12月12日

スニーカーぶる〜す

近藤真彦

作詞：松本隆
作曲：筒美京平
編曲：馬飼野康二
B面：ホンモク・ラット

オリコンチャート史上初の「デビュー曲で初登場1位」を獲得した、近藤真彦のデビュー・シングル。A-A'-B-C-間奏-B-D-C-Cと、大サビにDメロまで登場する凝りまくった構成で、B部分の「ZIG ZAG ZAG」の部分は第2のサビになるようなインパクトのある言葉を、というディレクター小杉理宇造の依頼で松本が加えた。80年には大きなヒットがなかった筒美だが、この曲の成功により、再びヒット・メーカーに返り咲く。

CBS・ソニー／1983年4月1日

ロンリー・ガール

佐東由梨

作詞：松本隆
作曲：筒美京平
編曲：大村雅朗
B面：いかないで

ショートカットのボーイッシュなアイドル、佐東由梨のデビュー2曲目。まったりとしたミディアムのR&B風メロディで、リズムはマーヴィン・ゲイ「セクシャル・ヒーリング」を下敷きにしたと言われているが、メロディ自体に類似性はない。97年にECDが「ECDのロンリー・ガール」として2曲をサンプリングして発表、05年に加藤ミリヤがアンサー・ソングを発表しにわかに注目を集めた。佐東はシングル4作で芸能界を引退する。

ポリドール／1985年1月25日

Romantic が止まらない

C-C-B

作詞：松本隆
作曲：筒美京平
編曲：船山基紀、C-C-B
B面：I SAY,I LOVE YOU

ココナッツボーイズからC-C-Bに改名してのシングル第1弾。ディレクターは筒美の実弟である渡辺忠孝で、メイン・ヴォーカルとなったドラムの笠浩二の声質を意識したメロディを筒美が書いた。掛け合いや合いの手も作曲段階で決定していたという。アレンジは船山が打ち込みでサウンドを固め、メンバーがギターなどをダビングしていった。ドラマの主題歌に起用されたこともあり、オリコン2位と彼らの最大のヒット曲となる。

キャニオン／1985年2月21日

卒業

斉藤由貴

作詞：松本隆
作曲：筒美京平
編曲：武部聡志
B面：青春

現在では卒業ソングの代表的な1曲として親しまれている、斉藤由貴の歌手デビュー曲。松本と筒美は、歌詞をきちんと伝える楽曲と意見が一致、松本は松田聖子の「制服」を思わせる叙情的な詞を書き、筒美はメジャー・キーにマイナー・コードを織り込む哀愁メロディで応えた。「卒業式で泣かないと」の前の「ああ」は筒美の提案で入れたという。武部聡志のアレンジも、デジタル・シンセと生楽器のブレンドが絶妙の肌触りとなった。

東芝 / 1986年7月3日

あなたを・もっと・知りたくて

薬師丸ひろ子

作詞：松本隆
作曲：筒美京平
編曲：武部聡志
B面：天に星、地に花。

斉藤由貴「卒業」と同じトリオによる、薬師丸ひろ子の通算5作目で、映画の主題歌とは無関係にリリースされた、歌手としての勝負曲。軽やかに跳ねるメジャー・キーのポップスだが、Bメロでマイナー・コードに変わると、いきなり「もしもし、私」とセリフが加わるあたりは女優の歌を意識した仕掛け。サビで彼女の魅力的な高音域も活かされている。セリフ部分は実際に薬師丸が松本にかけた電話の内容がヒントになっているそうだ。

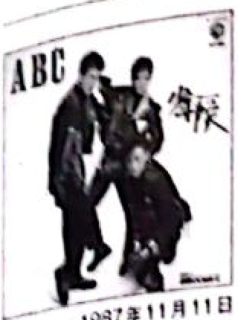
キング / 1986年11月21日

WAKU WAKUさせて

中山美穂

作詞：松本隆
作曲：筒美京平
編曲：船山基紀
B面：ハートのスイッチを押して

中山美穂の8作目。松本＝筒美コンビは中山のデビュー曲「C」から3作連続で手掛けた後、前作「ツイてるね　ノッてるね」で久しぶりに登板、サウンド指向のユーロビート歌謡路線となったその第2弾が本作。メロディの基本構造とサウンドのベースは「ピストル・イン・マイ・ポケット」で、前サビでノリのいいミディアム曲に仕上がった。「爆薬をしかけてよ」の箇所のフックが、単調なビートを飽きさせず聴かせる仕掛けになっている。



ワーナー / 1987年11月11日

ABC

少年隊

作詞：松本隆
作曲：筒美京平
編曲：船山基紀
B面：自然にKISSして

筒美京平は少年隊のデビュー以来継続して楽曲提供をしてきたが、基本線はユーロビートの歌謡曲への導入で、同時期の中山美穂と並びダンス・サウンドを構築してきた。その最高傑作ともいえるのがこの曲で、マイケル・フォーチュナティ「イントゥ・ザ・ナイト」を思わせるリズムの打ち込みサウンドだが、メロディ自体はスムースなコード進行で流れるように美しい。松本の「Angel Baby Cupid」と当てはめた詞も秀逸。

アンティノス / 2001年12月12日

絶望グッドバイ

藤井隆

作詞：松本隆
作曲：筒美京平
編曲：本間昭光
c/w：絶望グッドバイ（カラオケ）

お笑い芸人として人気を得た藤井隆が、音楽面でも活躍し始めた時期の作品。駅での別れという点では原田真二「てぃーんずぶるーす」以来松本が得意とするシチュエーションで、筒美のメロディはレトロタイプの、いわゆる「京平節」が全開しており、ことに「無理に笑っても」の下降旋律に、懐かしさすら感じさせる。全体のサウンドは田原俊彦の全盛期によく見られたラテン・ディスコ調。真摯な藤井のヴォーカルが切なさを倍加させる。

ソニー / 2008年10月22日

綺麗ア・ラ・モード

中川翔子

作詞：松本隆
作曲：筒美京平
編曲：本間昭光
c/w：カミツレ、約束

松本の詞は繊細かつ華麗な色彩に溢れた内容で、80年代の松田聖子を思わせるトーンを感じさせる。筒美のメロディも呉田軽穂（ユーミン）風のメロディで、サビでの「綺麗の……」が2回繰り返される箇所をつなぐ半音使いは力技だが高度な展開。しょこたんの綺麗な裏声を活かす箇所に良いメロディを持ってくる辺りも職人技の極致。筒美はしょこたんに「歌うたびにどんどん好きに、気持ちよくなっていくから」と伝えたそうである。

CamScannerでスキャン

コロムビア／1970年3月25日

あなたならどうする

いしだあゆみ

作詞：なかにし礼
作曲・編曲：筒美京平
B面：今夜は帰って

筒美京平にとっては橋本淳以外の作詞家と、下積アーティストのシングルA面で初めて組むことになったのがこの作品。いしだあゆみは大人のシンガーへ脱皮を図る時期にあり、筒美もよりドメスティックなメロディ・ラインを提供し、なかにし礼が描く大人の女性の情念を強調している。「泣くの歩くの死んじゃうの」という衝撃的なフレーズもあり、いしだあゆみとしては「ブルー・ライト・ヨコハマ」に次ぐセールスを記録した。

CBS・ソニー／1970年10月21日

雨がやんだら

朝丘雪路

作詞：なかにし礼
作曲・編曲：筒美京平
B面：大人の愛について

歌手としては低迷期にあった朝丘雪路の復活作。むせび泣くサックスの音色と女声コーラスなどムーディなアレンジだが曲調は譜割の細かいポップス仕様という、いわばムード歌謡のポップス化である。クセの強い朝丘の歌唱はやや抑え気味にして、サビの「濡れたコートで」の「で」を「でぃえぃ」と歌わせ彼女の個性を強調している。オリコン5位の大ヒットを記録、担当ディレクター酒井政利のベテラン女性歌手再生第1弾でもある。

CBS・ソニー／1971年10月21日

夜が明けて

坂本スミ子

作詞：なかにし礼
作曲・編曲：筒美京平
B面：待ちわびて

ラテン歌手として一時代を築いた坂本のソニー移籍第1弾で、朝丘雪路に続くベテラン歌手再生プロジェクト。メロディは同じラテンでもフォルクローレを用いて、サイモン&ガーファンクルの「コンドルは飛んでいく」にフォルクローレの名曲「花祭り」のモチーフを応用、哀愁ラテン歌謡に仕上げたが、坂本はさすがのノリで応えている。なかにし礼の詞も「雨がやんだら」ほどウェットでなく、別れの哀しみを客観的に描いている。

CBS・ソニー／1978年10月21日

青い地平線

Le Mistral

作詞：なかにし礼、
Linda Rhee
作曲・編曲：筒美京平
B面：SING A LONG

「ビューティフル・サンデー」などをヒットさせたTBS朝の情報番組「おはよう700」内の旅企画のテーマ・ソングで、ブレッド&バターが「ル・ミストラル」名義で歌った。「オリーブの首飾り」的なポール・モーリア調のメロディとリズムで、キメの部分で9thやメジャー7thを用いてシャレた清涼感を演出。2拍4拍のスネアに重点を置いたディスコ・サウンドでエキゾティックな色彩も。英語詞以外をなかにしが手がけている。

ユニバーサルJ／2003年10月1日

AMBITIOUS JAPAN！

TOKIO

作詞：なかにし礼
作曲：筒美京平
編曲：船山基紀
c/w：駅・ターミナル

TOKIOの通算23作目で、JR東海とのタイアップで制作された。「新たな鉄道唱歌を」と依頼されたなかにし礼は、筒美と組むことを決めた。シンプルな曲調と構成ながら、B♭m7の効果的な使い方による、世界が開けるような開放的なメロディ、サビ直前の「I got a true love」、リフ部分でストリングス・オンリーになり「FuFuFu」と挿入する小技まで凝りまくった作り。なかにしの詞もポジティヴでメッセージ性が強い。

text：馬飼野元宏

CamScannerでスキャン

CBS・ソニー／1971年6月1日

17才

南沙織

作詞：有馬三恵子
作曲・編曲：筒美京平
B面：島の伝説

アイドル・ポップスの幕開けを告げる南沙織のデビュー曲。リン・アンダースン「ローズ・ガーデン」が曲のベースにあることは有名だが、英語が日常会話だった南沙織の、言葉のアタックの強さを活かし、弱起で始まるインパクトの強い歌い出し、サビ頭でメジャーからマイナーにチェンジし、「好きなんだもの」で再びメジャーに戻しAメロを4小節だけ使うという圧巻の構成力。FOで1音だけメロを変える技も実に効果的だ。

CBS・ソニー／1972年9月21日

哀愁のページ

南沙織

作詞：有馬三恵子
作曲・編曲：筒美京平
B面：美しい娘たち

南沙織の通算5作目。冒頭の英語のセリフはシンシア自身が考えたもの。デビュー2年目を迎えて初のバラードとなったが、詞・曲ともアルバム『純潔』収録の「恋のフィーリング」の発展的作品。メジャー・セヴンスを多用したコード進行と、主音で終止しない形式など、この時代のアイドル・ポップスとしては群を抜いて洗練されたもの。有馬三恵子が描く主体的な意思を持つ女性像と相まって、現在でも通用する世界観をもつ。

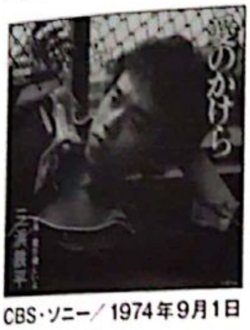
CBS・ソニー／1974年3月21日

処女航海

優雅

作詞：有馬三恵子
作曲・編曲：筒美京平
B面：叶えてください

台湾出身の歌姫・優雅の日本デビュー曲。アグネス・チャンの成功を機に登場してきた中華圏アイドルの1人だが、有馬＝筒美コンビによる楽曲は完全に南沙織フォロワー的な世界である。ファンキーな16ビートを強調したソウル歌謡で、ことにスティーヴィー・ワンダー「迷信」以降大流行したクラビネットとアコギの響きが印象深いイントロのフレーズが斬新。「荒野のならず者」を翻案？した2作目「胸さわぎ」も秀作。



CBS・ソニー／1974年9月1日

愛のかけら

三浜鉄平

作詞：有馬三恵子
作曲・編曲：筒美京平
B面：君が欲しいよ

北海道出身の新人・三浜鉄平のデビュー曲。有馬＝筒美コンビで男性歌手を手がけることは珍しいが、少年版布施明とも言えそうな、圧倒的な声の伸びと歌唱力を持つだけに、前サビの派手なナンバーを提供。2番の後にCメロを配し、ホーンが咆哮しワウ・ギターがビートを刻むアップテンポのブラス・ロック・サウンドは欧陽菲菲「恋の追跡」の頃に比べよりロック寄りに近づいている。有馬三恵子の男性観がうかがえる歌詞も興味深い。

フィリップス／1977年6月25日

インスピレーション

チェルシア・チャン

作詞：有馬三恵子
作曲・編曲：筒美京平
B面：太陽と私

香港のトップ・アイドルとして活躍していたチェルシア・チャンの日本デビュー作。南沙織、優雅に続く「南の国からやってきた女の子」シリーズで、安定した歌唱力を持つが舌足らずなところは太田裕美的でもある。滑らかに流れるメロディに、彼女のハイトーンを活かした音符の配置、アコースティック・ギターのバックにエレキを随所で利かせたフォーキーなサウンドが爽やかに響く。唯一のアルバムも筒美がプロデュースしている。

text：馬飼野元宏

CamScannerでスキャン

EPIC／CBS・ソニー
1973年4月21日

赤い風船

浅田美代子

作詞：安井かずみ
作曲・編曲：筒美京平
B面：いつかどこかで

ソニー・エンジェルのキャッチ・フレーズでデビューした浅田美代子のデビュー曲。彼女が出演していたドラマ「時間ですよ」の劇中で歌われオリコン1位の大ヒットとなった。現代童謡を作りたいというドラマ・プロデューサー久世光彦の意向に沿った、まさしく童謡的なメロディに、アコギやリコーダーなどを用いたフォーク風のサウンド。安井の素朴な詞に対し、語り掛けるような譜割で浅田の素朴な歌唱を活かしている。

フィリップス／1973年

燃える渚

小川みき

作詞：安井かずみ
作曲・編曲：筒美京平
B面：愛のキューピッド

歌謡曲マニアがこよなく愛する筒美作品の隠れ名曲。70年にデビュー、2度の改名を経て72年にフィリップスに移り、小川みきと名乗っての通算5作目で、もとはその1曲前のB面に収録された「小さな過去」の改題一部詞を変更したもの。曲調は伸びのあるヴォーカルを活かした軽快なイタリアン・ツイストで、イントロはオックス「オックス・クライ」の再利用と、随所にマニア心をくすぐる筒美流のツボが仕掛けられている。

CBS・ソニー
1974年9月21日

よろしく哀愁

郷ひろみ

作詞：安井かずみ
作曲：筒美京平
編曲：森岡賢一郎
B面：セーターに愛をこめて

郷ひろみを大人にしたいというディレクター酒井政利の意向に沿って、筒美京平が用いた奥の手はイタリアン・ツイスト。歌謡曲的でありながら大人に受け入れられる曲調である。「バラ色の雲」「燃える渚」など、GS歌謡風の匂いが出せる、筒美作品ではここ一番の必殺技で、同じ時期に大人の歌手へ路線変更を図った南沙織や麻丘めぐみにも応用している。狙い通り初のチャート1位に輝き、現在に至るまで郷ひろみの代表作となった。

東芝　1974年10月5日

ある事情

小林麻美

作詞：安井かずみ
作曲：筒美京平
編曲：萩田光雄
B面：あなたのネクタイ

1年間のアイドル歌手期間を経て一時休業していた小林麻美の復帰作。いささか意味深にも思えるタイトルと、交際していた男性との別れを描いた大人っぽい詞に対し、歌謡曲色を強めたマイナーのメロディとなっており、小林麻美をアイドルから早くも脱皮させる形が図られた。同時期の麻丘めぐみ「悲しみのシーズン」、南沙織「夜霧の街」と同じ傾向の楽曲で、安井＝筒美は続く「アパートの鍵」でも大人の歌謡曲を小林に歌わせた。

EPIC／CBS・ソニー
1975年2月1日

にがい涙

スリー・ディグリーズ

作詞：安井かずみ
作曲：筒美京平
編曲：深町純
B面：女の意地

フィラデルフィアのガール・グループ、スリー・ディグリーズは日本でも人気が高く、ソニー洋楽部は日本独自のシングルを制作することを決めた。彼女たちに日本語で歌わせる発想はディレクターの白川隆三。出来上がった曲は彼女たちの代表作「荒野のならず者」に通じるメロディで、来日した彼女たちが「ミテタ・ハズヨ」と片言の日本語で歌う姿は衝撃度が高く、似て非なるものを作る筒美京平の発想と、プロジェクトの勝利。

text/ 馬飼野元宏

CamScannerでスキャン

東芝／1970年5月5日

くやしいけれど幸せよ

奥村チヨ

作詞：山上路夫
作曲・編曲：筒美京平
B面：きめちゃったから

筒美京平は奥村チヨに初期から楽曲提供をしているが、「恋の奴隷」にはじまる恋三部作の後を受けて、3作連続でシングルを担当した。その第1弾が本作で、山上の詞はなかにし礼よりもお色気度は抑えめで、筒美メロディも、その後の「あなたならどうする」などに継承される和風情緒を感じさせるもの。だが、奥村チヨの小唄調お色気唱法は一層過剰になり、録音時に奥村が口をついて出たというサビでの「ウウン」の発声は悩殺必至。

フィリップス／1971年9月25日

お世話になりました

井上順之

作詞：山上路夫
作曲・編曲：筒美京平
B面：街はずれの家

スパイダース出身の井上順（この時期は順之）のソロ第2作。井上のほのぼのしたキャラクターを活かした楽曲で、山上の詞は「三丁目の夕日」の世界にも通じる、若者と市井の人との人情や触れ合いを描いたもの。筒美の楽曲も「サザエさん」主題歌に通じる親しみやすいメロディに、軽くR&B風のアレンジを加えている。オリコン最高17位という成績だが、後年に至るまで井上は頻繁にテレビで歌っていたこともあり、認知度は高い。

CBS・ソニー／1973年2月21日

あの場所から

朝倉理恵

作詞：山上路夫
作曲：筒美京平
編曲：高田弘
B面：ひとりの部屋

もとは1970年にKとブルンネンに提供した楽曲で、童謡歌手の桜井妙子が朝倉理恵と改名、歌謡曲歌手に転向したその第1弾としてカヴァーした。チェリッシュの松井悦子に似た美しいハイトーンの持ち主で、曲調も筒美がチェリッシュに提供した「ひまわりの小径」に近いマイナーのフォーク・タッチ。山上曰く舞台となったベンチは「日比谷公園かな」とのこと。82年には柏原よしえが再カヴァーしベスト・テン入りヒットとなった。

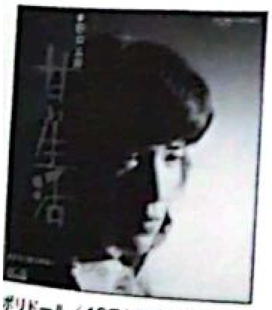
ポリドール／1974年3月1日

今夜かしら明日かしら

テレサ・テン

作詞：山上路夫
作曲：筒美京平
編曲：高田弘
B面：雨にぬれた花

アジアの歌姫、テレサ・テンの日本デビュー曲。といっても2作目の猪俣公章作「空港」や、80年代の「つぐない」にはじまる三木たかし作品のようなしっとりとしたムーディな楽曲ではなく、先行するアグネス・チャンを意識した、ハネた曲調のアイドル・ポップスとなっている。中華圏ではポップな楽曲も数多く歌っているものの、日本では不発に終わった。むしろ同じ筒美作品のB面「雨にぬれた花」がその後のテレサの曲調に近い。



ポリドール／1974年10月20日

甘い生活

野口五郎

作詞：山上路夫
作曲・編曲：筒美京平
B面：さよならは云わない

野口五郎のシングル14作目となる曲で、オリコン1位を獲得した自身最大のヒット曲である。それまで比較的アクティヴに歌い上げるタイプの作品が多かった五郎だが、フォーク隆盛の波を受け、言葉を強調するメロディアスな楽曲となっている。4分3連のリズムで、曲の構成自体はシンプルに、山上の美しい日本語を活かすメロディで、同棲生活の終わりを歌うシチュエーションは次作「私鉄沿線」と共通するものがある。

ext：馬飼野元宏

CamScannerでスキャン

東芝／1970年9月5日

嘘でもいいから

奥村チヨ

作詞：川内康範
作曲・編曲：筒美京平
B面：心は他人にならないで

独自のお色気歌謡路線が頂点を極めた1作。川内康範＝筒美京平という組み合わせも珍しいが、硬派で知られる作詞家が書いたとは思えぬ歌詞にも驚かされる。曲調そのものは「サザエさん」の主題歌や「お世話になりました」と同じ系統の、明るく爽やかなメロディ。これに奥村チヨのエスカレートした悩殺唱法が加わり、「撫で撫でしてぇんよ〜ん」とくるからたまらない。上品なメロディときわどい内容の融合という異例のケース。

コロムビア／1971年5月1日

さらば恋人

堺正章

作詞：北山修
作曲・編曲：筒美京平
B面：気らくに生きよう

ザ・スパイダース解散後、ソロ・シンガーとなっての第1弾で、堺正章自身の代表作ともなる楽曲。筒美作品ではその後もよく見られる、カントリー・ポップ・スタイルの爽やかな中にも哀愁を感じさせる曲調で、スパイダース時代とは異なる、堺の親しみやすいキャラクターを活かしたものといえる。作詞には元フォーク・クルセダーズの北山修が起用され、フォーク界の寵児と歌謡界のヒット・メーカーの組み合わせが新鮮であった。

コロムビア／1971年10月25日

誰も知らない

伊東ゆかり

作詞：岩谷時子
作曲・編曲：筒美京平
B面：よせばいいのに

伊東ゆかりにとって2年ぶりのトップ10入りヒットとなった、コロムビア時代の代表作。イタリアン・ツイストを隠し味にしたマイナーのアップ・ビートな曲調は、彼女には珍しいタイプの作品だが、筒美にとっても歌手のイメチェン時に有効な必殺技として、その後何度もこの曲調が使われるようになった。岩谷時子と筒美の組み合わせは、69年の加藤登紀子「つめたくすてて」が最初で、その後郷ひろみの一連の作品で本格的に組む。

ビクター／1972年5月25日

ひまわりの小径

チェリッシュ

作詞：林春生
作曲・編曲：筒美京平
B面：コスモス

5人組フォーク・グループだったチェリッシュが男女デュオとなっての、初シングル作。6ビートの小刻みなリズムと細かい譜割で、歌謡曲的なメロディだがアコギでフォークの香りを残し、アコーディオンやリコーダーの響きがノスタルジックな空気を作り上げている。デュエット曲だが、ハーモニーの付け方やキー設定など、女声ヴォーカルが立つような作り。作詞の林春生はフジテレビのディレクターで、作詞家としても活躍した。

CBS・ソニー／1972年8月1日

男の子女の子

郷ひろみ

作詞：岩谷時子
作曲・編曲：筒美京平
B面：夢をおいかけて

フォーリーブスの弟分としてジャニーズ事務所から登場した郷ひろみのデビュー曲。その中性的なイメージから、オックスのイメージを継承することが制作側の念頭にあり、実際に筒美の書いた曲も「ダンシング・セブンティーン」に似たタイプの曲調となった。作詞には岩谷時子が起用され、ここで描かれたポジティヴな未来像は、まるでジャニーズ・アイドルとファンとの理想的な関係性を歌っているかのようにピースフルな内容である。

text：馬飼野元宏

CamScannerでスキャン

東芝／1970年9月5日

嘘でもいいから

奥村チヨ

作詞：川内康範
作曲・編曲：筒美京平
B面：心は他人にならないで

独自のお色気歌謡路線が頂点を極めた1作。川内康範＝筒美京平という組み合わせも珍しいが、硬派で知られる作詞家が書いたとは思えぬ歌詞にも驚かされる。曲調そのものは「サザエさん」の主題歌や「お世話になりました」と同じ系統の、明るく爽やかなメロディ。これに奥村チヨのエスカレートした悩殺唱法が加わり、「撫で撫でしてぇんよ～ん」とくるからたまらない。上品なメロディときわどい内容の融合という異例のケース。

コロムビア／1971年5月1日

さらば恋人

堺正章

作詞：北山修
作曲・編曲：筒美京平
B面：気らくに生きよう

ザ・スパイダース解散後、ソロ・シンガーとなっての第1弾で、堺正章自身の代表作ともなる楽曲。筒美作品ではその後もよく見られる、カントリー・ポップ・スタイルの爽やかな中にも哀愁を感じさせる曲調で、スパイダース時代とは異なる、堺の親しみやすいキャラクターを活かしたものといえる。作詞には元フォーク・クルセダーズの北山修が起用され、フォーク界の寵児と歌謡界のヒット・メーカーの組み合わせが新鮮であった。

コロムビア／1971年10月25日

誰も知らない

伊東ゆかり

作詞：岩谷時子
作曲・編曲：筒美京平
B面：よせばいいのに

伊東ゆかりにとって2年ぶりのトップ10入りヒットとなった、コロムビア時代の代表作。イタリアン・ツイストを隠し味にしたマイナーのアップ・ビートな曲調は、彼女には珍しいタイプの作品だが、筒美にとっても歌手のイメチェン時に有効な必殺技として、その後何度もこの曲調が使われるようになった。岩谷時子と筒美の組み合わせは、69年の加藤登紀子「つめたくすてて」が最初で、その後郷ひろみの一連の作品で本格的に組む。

ビクター／1972年5月25日

ひまわりの小径

チェリッシュ

作詞：林春生
作曲・編曲：筒美京平
B面：コスモス

5人組フォーク・グループだったチェリッシュが男女デュオとなっての、初シングル作。6ビートの小刻みなリズムと細かい譜割で、歌謡曲的なメロディだがアコギでフォークの香りを残し、アコーディオンやリコーダーの響きがノスタルジックな空気を作り上げている。デュエット曲だが、ハーモニーの付け方やキー設定など、女声ヴォーカルが立つような作り。作詞の林春生はフジテレビのディレクターで、作詞家としても活躍した。

CBS・ソニー／1972年8月1日

男の子女の子

郷ひろみ

作詞：岩谷時子
作曲・編曲：筒美京平
B面：夢をおいかけて

フォーリーブスの弟分としてジャニーズ事務所から登場した郷ひろみのデビュー曲。その中性的なイメージから、オックスのイメージを継承することが制作側の念頭にあり、実際に筒美の書いた曲も「ダンシング・セブンティーン」に似たタイプの曲調となった。作詞には岩谷時子が起用され、ここで描かれたポジティヴな未来像は、まるでジャニーズ・アイドルとファンとの理想的な関係性を歌っているかのようにピースフルな内容である。

ext：馬飼野元宏

CamScannerでスキャン

ビクター／1973年7月5日

わたしの彼は左きき

麻丘めぐみ

作詞：千家和也
作曲・編曲：筒美京平
B面：ひとりの私

72年6月にデビューした麻丘めぐみの6枚目の作品にして最大のヒット曲。麻丘にはデビュー以来千家和也・筒美京平コンビが継続して楽曲を提供してきたが、ここでは4ビートシャッフル風のオールドスクールな曲調とビッグ・バンド風のアレンジで新機軸を打ち出し、ティーンにはかえって新鮮に聴こえた。千家が麻丘に提供する詞は、山口百恵の性典路線などと異なり、歌い手と同世代の男性ファンとの距離感が近いという特徴がある。

CBS・ソニー／1976年10月1日

やさしい都会

平山三紀

作詞：荒井由実
作曲・編曲：筒美京平
B面：あなたの家も店

ユーミンと筒美京平の初顔合わせは、75年の郷ひろみのアルバム『HIROMIC WORLD』の全曲が最初で、シングルではこれが初。平山三紀作品で初めて、橋本淳以外の作詞家起用である。都会暮らしの女の孤独が温かみをもって描かれ、筒美のメロディも優しさに溢れたおおらかなスロー・バラード。サビの展開はユーミンというより吉田拓郎風のメロディで、ストリングスの響きも美しい。B面も同じコンビによるディスコ歌謡。

コロムビア／1978年4月1日

飛んでイスタンブール

庄野真代

作詞：ちあき哲也
作曲：筒美京平
編曲：船山基紀
B面：潮風のサーファー

元々は野口五郎用に書き下ろしたメロディだったというから驚く。無国籍イメージの曲を依頼された筒美は、ストック作品だったこのメロディが庄野真代の声質に合うと提案。曲調は同時期の中原理恵「東京ららばい」とよく似た構造をもっているが、ちあき哲也の異常な語呂合わせを駆使した詞の斬新さもあり、オリコン最高3位の大ヒットとなった。この後、庄野は筒美作曲による「海外旅情シリーズ」を続けて歌っていく。

ビクター／1978年5月1日

銀河特急

松崎しげる

作詞：たかたかし
作曲・編曲：筒美京平
B面：こころは旅人

78～79年の筒美京平は、全世界的なディスコ・ブームの風もあり、ディスコの歌謡曲化に熱心に取り組んでいた。その中でも、ディスコ歌謡の傑作と呼ばれているのがこの1曲。70年代半ばから頻繁に応用してきたフィラデルフィア・サウンドをベースに、ボズ・スキャッグス「ハリウッド」のイントロを引用した、ミディアムの和製フィリー。大きなヒットにこそならなかったものの、現在では和モノDJの必須アイテムとなった。

RCA／1981年9月21日

ギンギラギンにさりげなく

近藤真彦

作詞：伊達歩
作曲：筒美京平
編曲：馬飼野康二
B面：恋のNON STOPツーリング・ロード

近藤真彦のシングル4作目で、作詞にはペンネーム伊達歩こと伊集院静が初起用された。前3作が桑名正博でトライした歌謡ロック的なアプローチだったのに比べると、こちらは「アイム・セクシー」+「愛のコリーダ」といったAORディスコ的なメロディとサウンドになっている。伊達歩は二音反復をよく用いる作風のため、こういったディスコ風の曲調にはよく合う。サビでのI GOT YOU BABYのフックもクドいくらい効果抜群。

CamScannerでスキャン

…ター／1981年10月21日

センチメンタル・ジャーニー

松本伊代

作詞：湯川れい子
作曲：筒美京平
編曲：鷺巣詩郎
B面：マイ・ブラザー

松本伊代の歌手デビュー曲。タイトルはシャネルズなどと同じ湯川れい子の「スタンダード・ナンバー」シリーズで、そのタイトルがAメロとサビの2回、キメのフレーズに用いられている。曲調もオールドタイミーで、歌い出しは太田裕美に提供した「恋愛遊戯」と同じ。アレンジは鷺巣詩郎で、イントロが平山三紀「熟れた果実」の再利用なので、筒美京平が指定したものと思しい。独特の声質も、間違いなく筒美好みの逸材。

東芝エキスプレス／1982年10月21日

ドラマティック・レイン

稲垣潤一

作詞：秋元康
作曲：筒美京平
編曲：船山基紀
B面：蒼い追憶

秋元康と筒美京平の初顔合わせにしていきなりの大ヒット。秋元にとっても歌い手の稲垣潤一にとっても出世作となった。ヴィブラートのない、少年のような声質を持つ稲垣の声質を活かした、ミディアムのAORで、タイトルのうち「ドラマティック」までがAメロの締めに使われ、「レイン」がサビに食い込みリピートされるという、後を引くような詞のはめ込み方が秀逸。80年代西海岸風シティ・ポップの筒美流解釈といえる1曲。

CBS・ソニー／1983年3月5日

美貌の都

郷ひろみ

作詞：中島みゆき
作曲：筒美京平
編曲：坂本龍一、筒美京平
B面：SCENE 21. 祭り街

郷ひろみの45作目で、中島と筒美はこれが初顔合わせ。この時期の郷ひろみは「哀愁のカサブランカ」など欧州系ポピュラーのカヴァーで新境地を開拓していたが、酒井政利ディレクターは中島の持つかげりと毒のニュアンスを加えたかったそうである。筒美の曲想もタンゴ風のノスタルジックなもの。これに坂本龍一がテクノ・アレンジを施し、レトロ・フューチャーな匂いと、沢田研二的なデカダンスが滲み出た楽曲となった。

…ーラス／1983年4月1日

夏色のナンシー

早見優

作詞：三浦徳子
作曲：筒美京平
編曲：茂木由多加
B面：可愛いサマータイム

82年組アイドル早見優のデビュー2年目、5作目のシングルで、筒美京平初起用にして、初のトップ10ヒットとなった。チアガール・ポップ的な溌溂としたナンバーで、前サビにあたる部分がコカ・コーラのCMソングにも使われた。メロディ自体はメジャーにサブドミナントを混ぜ込む、筒美が得意とするパターンながら、編曲に元四人囃子の茂木由多加を起用しデジタル・ポップ風のアレンジとなる。女声コーラスの使い方も上手い。

コロムビア／1983年6月1日

エスカレーション

河合奈保子

作詞：売野雅勇
作曲：筒美京平
編曲：売野雅勇
B面：恋のハレーション

デビュー4年目を迎え、大人っぽい方向に路線変更した河合奈保子の13作目。筒美京平は3連のシャッフル・ビートで、和製ジョルジオ・モロダー的な世界を構築。イメージ的にはブロンディの「コール・ミー」である。歌唱力のある清純派アイドルのイメチェンの際、中低域を強調する作風にするのは岩崎宏美「シンデレラ・ハネムーン」と同様で、歌い出しの女声コーラス・パートがサビのリフ部分で河合の歌メロと重なる構成は圧巻。

ビクター／1984年9月21日

ヤマトナデシコ七変化

小泉今日子

作詞：康珍化
作曲：筒美京平
編曲：若草恵
B面：ヨコハマ・スイート・レイン

小泉今日子の通算11作目で3度目のオリコン1位獲得。康＝筒美は小泉の5作目「真っ赤な女の子」以来の組み合わせで、キャッチ・コピー的なフレーズの連射で古さを感じさせない詞には、往年の橋本淳テイストも。メロディの骨格は70年代後半にも一度完成させた「[illegible]」だが、サンタ・エスメラルダ調のアレンジで「[illegible]」パニッシュ・ディスコに仕上げている。編曲に演歌系の仕事が多い若草恵を指名したのは筒美だったそう。

ワーナー／1985年12月12日

仮面舞踏会

少年隊

作詞：ちあき哲也
作曲：筒美京平
編曲：船山基紀
B面：春風にいいネ！（ほか）

少年隊のデビュー曲。歌い出しの「Tonight ya ya…」の掴みにはじまりA－A'－B－C－サビと[illegible]フの多さに比して流れるようなメロディ・ライン、イントロとサビでの掛け合い、効果的なフックとなるCメロなど、完成度の高い楽曲。トム・ジョーンズ「ラヴ・ミー・トゥナイト」をベースに、ダンス・グループが[illegible]に船山アレンジもヒップホップ要素を盛り込んだ70年代ディスコ・サウンドの再現となっている。

東芝／1986年2月25日

1986年のマリリン

本田美奈子

作詞：秋元康
作曲：筒美京平
編曲：新川博
B面：マリオネットの憂鬱

筒美京平は本田美奈子にデビュー以来、連続して楽曲提供を続けてきたが、デビュー2年目の勝負作となるこの曲で最大のヒットを放った。秋元康の扇情的かつ挑発的な歌詞に対し、メロディも後半のサビに向かってキーが高まっていく派手な盛り上がり。ダカダカと畳み掛けてくるシンセ・ドラムの響きに象徴されるPWL系ユーロ・サウンドのアレンジで、本田も山本リンダ以来のへそ出しルックでハードに腰を振り、歌い踊った。

ビクター／1987年6月21日

さよならの果実たち

荻野目洋子

作詞：売野雅勇
作曲：筒美京平
編曲：武部聡志
B面：ロフトサイド・グラフィティ

86年に「ダンシング・ヒーロー」でブレイクしたユーロビート歌謡の歌姫・荻野目洋子の通算11作目。チェッカーズの諸作でみられる80年代型の切ない青春像が描かれ、筒美の楽曲はミディアムのシャッフル・ビートにのせたマイナーの哀愁メロディで応えている。荻野目がダンス系からおとなしめの曲調で歌唱力を聴かせる方向へと舵を切った時期で、筒美の作風も、次作「北風のキャロル」と合わせ筒美流ブラコン的解釈ともとれる。

キャニオン／1988年4月21日

抱きしめてTONIGHT

田原俊彦

作詞：森浩美
作曲：筒美京平
編曲：船山基紀
B面：がんばれよナ先生

田原俊彦が主演した「教師びんびん物語」主題歌で、アダルト路線にイメージ・チェンジした後期の代表作。少年隊「仮面舞踏会」と同様に、「ラヴ・ミー・トゥナイト」をベースにしており、船山基紀によるPWL系ユーロビート・アレンジが功を奏し、抜群のダンス・パフォーマンスを誇る田原の「魅せる音楽」を前提に作られた傑作となった。作詞の森浩美はこの曲での成功が、SMAPの一連の作品への起用へ繋がっていく。

CamScannerでスキャン

text：ガモウユウイチ

真夏の出来事

1971年　平山三紀

作詞：橋本淳
作曲・編曲：筒美京平

平山三紀のセカンド・シングルで、作曲と編曲は筒美京平が担当している。

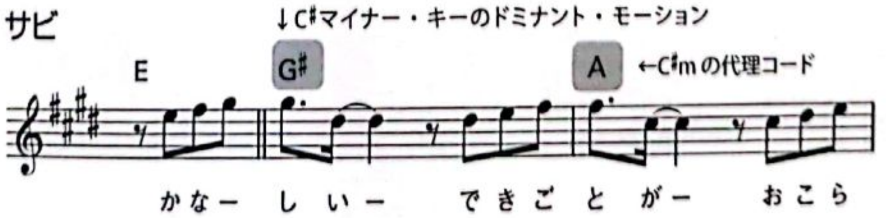
モータウン直系のサウンドで、お手本にされているのはスプリームス「恋はあせらず」(66年)。当時としてはモダンな16ビートで、イントロのでのストリングスやホーンのフレーズや、寺川正興によるグルーヴィなベース・ライン（譜例上段）にモータウンの芳香が窺える。リズムのリフを提示してからイントロ本編に入るスタイルも踏襲している。といっても、「恋はあせらず」はベースのみからはじまるが、「真夏の出来事」では、ベースや江草啓介による鍵盤などの各パートによる演奏から始まっている。この、「Root」と「5th」によるリフが楽曲全体を構成していて、サビにあたるBメロ部分と間奏以外で、リフのパターンが骨格をキープしている。また、当時は使用されることが多かった楽器、シロフォンも使用されている。現在のJ-POPではほとんど使用されなくなってしまった楽器のひとつで、シロフォンの使用が時代を感じさせるサウンドとなっている。また平山三紀の歌唱も、語尾に「ん」が入った独特のもので、筒美京平と橋本淳がレッスンが行なったという。

コード進行は、ダイアトニック・コードを基調としたナチュラルな和音展開。キーはEメジャー・キーだが、サビにあたるBメロ部分では「G#」が冒頭に置かれている。これはEメジャー・キーの平行調のC#マイナー・キーのトニックである「C#m」へのドミナント・モーションを生じるためのコードであり、一時的にC#マイナー・キーに移調していると考えられる。ところが、2小節目には「C#m」は置かれず、代理として「A」が置かれている（譜例下段）。「C#m」と「A」の構成音の違いは「G#」と「A」が違うだけであとは同じだが、3小節目でベース音が「B」になるため、ベース・ラインをダイアトニック・トーンで滑らかに動かすことを主眼に置いたコード進行にしたと考えられる。但し動きまくるベースの中でも特に動き回っている部分なので、滑らかさを感じられるかは聴く人によって感じ方が違うかもしれない。

間奏部分は、イントロでも歌メロでも登場しないこの部分のみのコード進行。ここでは「G#7」のあとに定石どおり「C#m7」へ進行している。ノン・ダイアトニック・コードの「E7」は、次の「A」をトニックと見立てたセカンダリー・ドミナント。2拍1フレーズの同形態のメロディ・パターンをダイアトニック・トーン（最後の2拍のみノン・ダイアトニック・トーン）で下降させていくという譜面的に見ても美しいメロディ・ラインだ。

イントロのリフ

サビ



text：ベラ氏

作家とシンガー

平山三紀

「ィヨッコハマ～」

1970年11月10日にリリースされた「ビューティフル・ヨコハマ」の歌い出しである。コロムビアの渥美章プロデューサーから平山三紀のテープを渡された筒美京平と橋本淳は一聴してその鼻にかかった声を気に入ってしまったらしい。「声というより楽器の一つ」と認識した二人の楽曲に対し平山も「言葉を音として歌う」ことで応えた。結果として前年の「ブルー・ライト・ヨコハマ」を意識したと思しきこのデビュー曲はその性格を大きく変え、また以後の路線を決定づけたと言える。

筒美にとって平山への提供曲は歌メロ前提でアレンジがなされるという従来の歌謡曲のセオリーを変革する試みの場であった。その成果は早くも次作「真夏の出来事」で萌芽を見ることとなる。ハイハット、マラカス、ベースが巧みに絡み合った16ビートのグルーヴは先立つ弘田三枝子への提供曲に見て取れるR&B的アプローチが初めて真のオリジナリティを確立したものだろう。71年は筒美にとって「また逢う日まで」「さらば恋人」等の相次ぐ大ヒットにより作曲家としての地位を確立した年であるが、のちの黒人音楽への傾倒を考えると本作の成功は抜きん出た重要性を持つと言える。

唄とアレンジを一体化させるという筒美の方針はその後も揺らぐことなく、意表を突く半音の動きが特徴的な「ノアの箱舟」、ラグタイム調「フレンズ」、フィフス・ディメンションの大胆な引用が見られる「いつか何処かで」(『希望の旅』B面)、2ビートと16ビートが共存するアルバム曲「愛よ永遠に」等に結実する。前述の通り、筒美による提供曲はそれまで模倣の域にとどまっていた洋楽、特にR&Bへのアプローチを日本的風土に溶け込ませたものであり、平山の独特の低音もそこでは器楽の一部として機能している。この時期のアルバムに収録された洋楽カヴァー（筒美の編曲による）がどこかトゥー・マッチに聞こえてしまうのは、それらオリジナル曲が「洋楽の代替品としての歌謡曲」の役割を完璧に果たしているからだろう。

74年に平山はCBS／ソニーに移籍するがこの方針は継続され、ロック・ギターから始まる人気曲「真夜中のエンジェル・ベイビー」、フィリー・ソウル風「愛の戯れ」、ディスコ・サウンドを取り入れた「あなたの来る店」(『やさしい都会』B面)など数々の名曲を生み出していくこととなる。

79年、結婚によるブランクから復帰した平山は全て筒美の楽曲からなるLA録音盤「魅嬉環劉嬲 -MIKI WORLD」をリリースする。流行のAOR／ディスコ・アレンジがなされた本作はどこか同時期に飛ぶ鳥落とす勢いだったサザンオールスターズを思わせる雰囲気に満ちているが、それは初期サザンの音楽性を「バタ臭い歌謡曲をさらに洋楽的感覚を持った日本人が再解釈する」ものだとすると腑に落ちる。筒美の試行錯誤と平山の「言葉を音として歌う」唱法は新たな世代に松明として受け継がれていたのだ。ぜひ再評価が望まれる1枚である。

『魅嬉環劉嬲 ～MIKI WORLD』
平山三紀

作家とシンガー

text：馬飼野元宏

南 沙織

「あなた、何が歌えるの？」

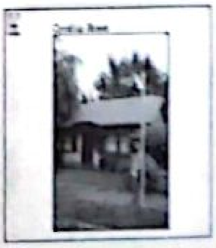
日本返還前の沖縄からやってきた少女に、筒美京平はレッスン室でそう聞いた。少女は「ローズ・ガーデン」と答え、それによって生まれた曲が「17才」である。

少女の名は内間明美。CBS・ソニーの社内公募で芸名を決めることになったが、当初「南陽子」に決まりかけていたところ、作詞を担当する有馬三恵子が「あの子は沙織でしょう」と提案したことで、南沙織に決定した。陽子というのはいかにも南国からやってきた、溌剌とした娘のイメージだが、有馬はむしろ彼女に繊細で文学的な匂いを感じ取ったのだろう。作曲の筒美京平も、そのニュアンスを大切にした楽曲作りで応えた。

初期の南沙織のメロディには、同じく筒美が手がけたいしだあゆみの諸作品に近い匂いがある。彼女特有の、英語の発音に近い日本語の発声法、言葉のアタックの強さを強調した作品が登場するのは4作目の「純潔」からだ。5作目のハイセンスなスロー曲「哀愁のページ」では冒頭に英語詞のセリフを導入、続く「早春の港／魚たちはどこへ」はA面がシンプルなフォーク調（とはいえ細かいリズムを刻むバックはポップスのそれである）、B面はヒデとロザンナや佐川満男に通じる和製ソフト・ロックと洗練の極みを聴かせ、さらに7作目「傷つく世代」では再びビートの強いロック的ナンバーをぶつけている。この「傷つく世代」の「ダメね」の発音など、南沙織でなければあり得ない歌いっぷりである。

筒美京平が南沙織で提示したのは、ビート・ナンバーとメロウ・サウンドのどちらであっても、歌謡曲に洋楽センスを注入することだった。日本語より英語が堪能だった彼女はそのうってつけの素材であった。純正歌謡曲メロディの「色づく街」にしても、シャッフル調＋ストリングスのピチカートが八ネたリズムを奏でており、同様に「バラのかげり」も伊東ゆかり「誰も知らない」、欧陽菲菲「夜汽車」などに見られる、筒美得意の哀愁マイナー調アップ・テンポだが、Cセヴンスの導入によりシャレた雰囲気を加えている。20歳を迎えた南沙織に、大人の歌手への脱皮を図って作られた正調歌謡曲の「夜霧の街」はむしろイレギュラーで、以降も、ストリングス使いに長けた高田弘を編曲に起用した「女性」などは筒美流A&Mサウンドといった完成度の高い楽曲に仕上がっており、さらに75年夏のロサンゼルス録音のアルバム「シンシア・ストリート」では片面5曲を作編曲（作詞は安井かずみ）、ソウル・フレイヴァー溢れるファンク・チューンからバカラック風の小品まで自身の洋楽センスを彼女に託し、歌謡曲的なウェットさを微塵も感じさせない乾いた世界を作り上げた。ほかにも「早春のハーモニー」「傷つく世代」「20才まえ」といったコンセプト・アルバムで、筒美は実質上のサウンド・プロデュースをつとめ、77年の「午後のシンシア」では待望の全曲オリジナル・アルバムを完成させている。

92年の一時復帰に際して、筒美京平は阿久悠と組んで「ファンレター」を提供。その際、筒美は「あのワーンと歌を拡げる声が帰ってきた」と喜びのコメントを残している。



「Cynthia Street」
南沙織

CamScannerでスキャン

text：真鍋新一

作家とシンガー

郷ひろみ

筒美京平が手がけた男性アイドルは数多くいるが、郷ひろみはヒットの数、プロジェクトの大きさ、その他あらゆる点でその代表格と言える存在だ。1972年のデビュー曲「男の子女の子」から1977年の「洪水の前」まで、臨時発売のドラマ主題歌「天使の詩」、フォー・シーズンズ（そしてベイ・シティ・ローラーズによるリメイク）のカヴァー「バイ・バイ・ベイビー」を除く20枚のシングルはすべて筒美京平の手によるもの。例えばマイケル・ジャクソンが最晩年にあっても少年時代の出世作「帰ってほしいの」を当時と変わらぬオーラのままで歌い続けたように、初期の楽曲を大切に歌う近年のライヴ映像を見ていると、デビューから40年以上が経った現在でも特異な存在であり続けるHIROMI GOにとって、筒美による最初の20枚がいかに強力な地盤になっているかを思わずにはいれない。彼の鼻にかかった声はいわゆる悪声と見る向きもあるが、モンキーズのデイビー・ジョーンズにも似たその声質は、世界的に見ればポップ・アイドルとしての素質は充分。デビューから5年間、ほぼ3ヵ月に1枚のペースでリリースされた楽曲群は、その特質を初めから見抜き、確固たる勝算を持って送り出されたものばかりだ。

「男の子女の子」に至るまでの前哨戦としては、オックスの「ダンシング・セブンティーン」（後に自身もアルバム『ひろみの旅』でカヴァー）や、フォーリーブスの「夏のふれあい」が挙げられる。モータウン、あるいはオズモンズを手本としたR&Bの歌謡曲化の延長線上にあった序盤から、パロディ的にバタ臭くイタリアン・ツイストを歌わせた「よろしく哀愁」の大ヒット以後は曲調のバリエーションが一気に開花。それは初期のイメージをエキセントリックに発展させた高速ポップ「誘われてフラメンコ」からのムード歌謡もどき「逢えるかもしれない」のギャップに顕著で、何を歌っても郷ひろみは郷ひろみなのだ、というある種の開き直りの元で、アーティストのイメージは守られたまま、宇崎竜童、穂口雄右、都倉俊一へと引き継がれ現在に至る。

筒美が全曲の作曲を担当したアルバムも名盤揃いだ。『ひろみの朝・昼・晩』は、朝起きてから夜寝るまでのひろみに密着するコンセプトで、初期のシングル曲のイメージのまま、どう歌わせればセクシーか、カッコいいかを追求。全曲の詞を荒井由実が書き下ろした『HIROMIC WORLD』はシングル曲が1曲もない、歌謡曲には珍しい作品主義を貫いた1枚で、大衆向けのシングルにあったわかりやすさを廃し、まるで曲までユーミンが書いたのではないかと錯覚させるその擬態ぶりは裏方に徹する筒美のポリシーそのもの。ひろみ自身にとっても、芸能の匂いをなるべく消そうと奮闘していた80年代の作品群の指針にもなっていた。

コラボレーションは70年代の終りにリリースされたアルバム『アポロンの恋人』をもって一区切りとなるが、83年のシングル「美貌の都」、2000年のアルバム『恋のハレルヤ大作戦 Mission Code is "G"』収録の3曲できちんとその時代にあったひろみ像を提案しているのは、やはり親心であろうか。

『HIROMIC WORLD』
郷ひろみ

CamScannerでスキャン

作家とシンガー

text：真鍋新一

岩崎宏美

岩崎宏美の近年のインタビューによると、筒美京平はデビュー時の彼女に、「君は高音の伸びが褒められるだろうけど、あなたの良さは中音域にあるから、それを忘れずに」と言ったそうだ。筒美が続けて作曲した1975年のデビュー曲「二重唱（デュエット）」から1977年の「想い出の樹の下で」までの8枚のシングルを聴きながらこの言葉を反芻してみよう。デビュー盤こそポップスとバラードの対照的な組み合わせで無難にまとめた感があるが、「ロマンス」「センチメンタル」が大ヒットしてからは、わかりやすく高音部を強調しつつも、中音域の艶やかな響きにも気を配る——を基本線として、ドメスティックな歌謡曲から逸脱を図る挑戦的な楽曲を立て続けに送り出しているのがわかる。B面曲「そうなのよ」などで聴かれる本人同士の掛け合いコーラスはその両方の特性を活かすための方策のひとつだろう。

アルバムでは1枚目の『あおぞら』から『ファンタジー』『飛行船』まで穂口雄右とのツートップ体制でディスコ歌謡を量産。どれをシングルにしても遜色ない全力投球の作品が続くが、筒美学校のディスコ・クイーンもなかなか楽ではない。6枚目のシングル「霧のめぐり逢い」のレコーディングで歌い出しに苦戦。初めての壁にぶつかってしまう。気持ちよく歌っているように聴こえるが、まさか歌い手本人が音を上げそうになるほど曲が複雑だったとは、ぼんやり聴いているだけではわからない。

翌77年は筒美がサウンド・プロデュースから一旦離れ、その時期に三木たかし作曲の「思秋期」で日本レコード大賞の歌唱賞を受賞。嫌というほど歌の上手さが発揮される正攻法のバラードをここまで温存していたこともすごいが、本当にすごいのは再び筒美を呼び戻して「シンデレラ・ハネムーン」を送り出したことだ（その年のレコ大でも金賞まで進んだ）。映画『サタデー・ナイト・フィーバー』の大ヒットでディスコがようやく日本に浸透した背景もあるのだろう。時代が追いついた形で、全曲筒美作品のディスコ・アルバム『パンドラの小箱』、曲の難しさはそのままに新たな展開を狙ったシングル「さよならの挽歌」をリリースし、彼女のディスコ期は一区切りとなる。

賞やセールスには結びつかなかったが、大人の落ち着きを放つようになった彼女と組んだ80年代の作品群では、早くも若かった過去を偲ぶかのようなリラックスしたAOR路線を開拓。筒美が全曲作曲したLA録音盤『WISH』と、玉置浩二作曲の3曲を除けばすべて筒美作品の『私・的・空・間』もその延長線上にあると見ていいだろう。これらのアルバムからは「女優」「素敵な気持ち」などのシングルが生まれている。どちらもディスコの香りを残しつつも、70年代特有のクドさが抜けた80's型の楽曲であった。

『パンドラの小箱』
岩崎宏美

村井邦彦

洗練されたソングライティングで数多くのスタンダードを生み出した

ガモウユウイチ

教科書にも掲載され、小学校や中学校の合唱曲としてもスタン
ダードになっている「翼をください」(71年)の作曲のほか、アルファ
レコードの創立者として、荒井由実、ティン・パン・アレー、イエロー
マジック・オーケストラ（YMO）を見出し、日本のポピュラー音
界に大きな影響を与えた村井邦彦。
1945年3月4日に東京都新宿区信濃町で生まれた。小学校1年生
のときにヴァイオリンを習い、中学校に入ってからはクラリネッ
を手にした。楽器店で吉本栄とバードランド・ファイブなどで活動
していた吉本栄が楽器を教えてくれる話を聞き、アルト・サック
を購入して彼から譜面の読み方や音楽の基礎などを学んだ。慶應義
塾高等学校に進学後は、学校の枠を越えて慶應ライト・ミュージック
ソサエティの高校部門のオーケストラでプレイする。その後、
の名門バンド・サークルのライト・ミュージック・ソサエティに所属
するために慶應義塾大学に進学、ピアノを担当した。学生時代はホ
テル・ニュージャパンのラウンジでピアノを弾いてピアニストとして
も活躍していたが、ピアニストとしての才能に見切りをつけ、大学
在学中は赤坂のホテル・ニュージャパンの隣のデパートにレコード
屋、ドレミ商会をオープン。また、TBSのラジオ・ディレクターと
知り合い、ラジオ番組のディスクジョッキーもやっていた。
その後、フィリップスレコードの本城和治と知り合い、67年に彼
の元で最初に書いたのが、ヴィッキーの「待ちくたびれた日曜日」
だった。同楽曲はいきなりのオリコン・シングル・チャート最高29位
約18万枚を売り上げヒットを記録。それをきっかけとして作曲家に
転身。68年にはGSブームの中登場してきたザ・テンプターズに「エ
メラルドの伝説」を提供、オリコン・シングル・チャート第1位、約
46万枚の売り上げを記録、一躍人気作曲家へと躍り出た。ほかに
も、ザ・スパイダース「あの虹をつかもう」(67年)、ザ・モップス
「朝まで待てない」(67年)、ザ・タイガース「美しき愛の掟」(69年)、
ザ・フィンガーズ「少女へのソナタ」(68年)、ザ・ブルー・インパル
ス「夜明けに消えた恋」(68年)、ザ・フローラル「さまよう船」(68
年)、アダムス「旧約聖書」(68年)、ザ・ゴールデン・カップス「本
牧ブルース」(69年)、ズー・ニーヴー「白い珊瑚礁」(69年)、ザ・
ヤンガーズ「告白」(69年)、ザ・ワイルド・ワンズ「若草萌える頃」
(70年)など多くの名曲を生み、GS期を代表する作曲家として活躍
した。

69年以降は、トワ・エ・モア「或る日突然」(69年)、ピーター「夜
と朝のあいだに」(69年)、辺見マリ「経験」(70年)、北原ミレイ「さ

人げの値打ちもない」(70年)など、歌謡曲作品でも多くのヒットを連発。その傍ら、森山良子「雨上がりのサンバ」(68年)、「美しい星」(72年)、フィフィ・ザ・フリー「栄光の朝」(69年)、ザ・ハーフ・ブリード「白い風を見る日」(70年)、赤い鳥「翼を下さい」(71年)、「忘れていた朝」(71年)、江利チエミ「旅立つ朝」(71年)、GARO「美しすぎて」(72年)などの、和製ソフト・ロックともいえるMOR作品の数々は90年以降再評価され、洗練されたソングライティングとサウンドで現在も高い人気を誇っている。現代ではあたりまえとなった、メジャー7thコード、モーダル・インターチェンジ、全音下へ平行移動したメジャー・コードなど、ジャズやブラジル音楽の影響をいち早くポピュラー音楽に取り入れた作曲家の一人だ。

また、69年にパリ・バークレー音楽出版社と「マイ・ウェイ」などの出版権利を契約、70年にはキャロル・キング、ニール・セダカ、バード・バカラックなどのカタログを持つスクリーン・ジェムズの日本における権利を獲得して、音楽出版社アルファ・ミュージックを設立。同年には日本コロムビア内にアルファ・レコードを設立した。翌71年にはマッシュルーム・レコードを設立。同レコードでは、GARO『GARO』(71年)、成田賢『眠りからさめて』(71年)、小坂忠『はうろう』(75年)などの現在でも名盤として何度も再発されているアルバムを制作した。72年にはスタジオAを設立して、荒井由実の『ひこうき雲』(73年)を手がける。77年にはマッシュルーム・レコードを母体としてアルファ・レコードを設立して、サーカス『サーカス1』(78年)、カシオペア『カシオペア』(79年)などの作品をリリース。中でも78年にデビュー・アルバム『イエロー・マジック・オーケストラ』で活動を開始したYMOは、国内だけでなく79年にはA&Mレコードから全米デビューをさせ、世界ツアーも成功させた。

映画音楽でも、『ハーイ!ロンドン』(69年)、『御用牙』(72年)、『野獣狩り』(73年)、『野獣死すべし 復讐のメカニック』(74年)、『悪魔の手毬唄』(77年)、『タンポポ』(86年)など印象的な仕事を残している。ほか、テレビ音楽では、『新・座頭市』(76年)、『あにき』(77年)などの音楽を担当した。92年に活動の拠点をアメリカに移し、現在はアメリカと日本を行き来しながら活動している。07年には、作曲家活動40周年を記念して、新作音源を含む彼の足跡を網羅できる5枚組CD BOX『The Melody Maker ～村井邦彦の世界～』がリリースされた。

『The Melody Maker ～村井邦彦の世界～』

ミュージカラー／1968年9月

さまよう船

ザ・フローラル

作詞：山上路夫
作曲：村井邦彦
B面：涙は花びら

イラストレーターの宇野亜喜良が作詞、グループ名の命名、デザインなど、全面的にバック・アップしていたバンド、ザ・フローラルの2枚目のシングル。[illegible]の電子オルガンがサイケデリックな雰囲気を漂わせる、[illegible]テー・キーのポップ・ナンバーで、キャッチーなメロディは村井邦彦の真骨頂。69年には細野晴臣と松本隆（[illegible]松本隆）が加入、バンド名をエイプリル・フールと改名しアルバム「エイプリル・フール」をリリースした。

コロムビア／1968年11月

水夫のなげき

ズー・ニー・ヴー

作詞：山上路夫
作曲・編曲：村井邦彦
B面：雨あがりのサンバ

町田義人が在籍していたGSバンド、ズー・ニー・ヴーのデビュー・シングル。オーティス・レディングの影響を感じさせるサウンドながらも、キャッチーなメロディ・ライン、町田義人のヴォーカルが本格的なため、マニアックになりすぎないポピュラリティー溢れる楽曲に仕上がっている。B面の「雨あがりのサンバ」（作詞：山上路夫／作曲・編曲：村井邦彦）は森山良子との競作で、78年にはやまがたすみこもカヴァー。

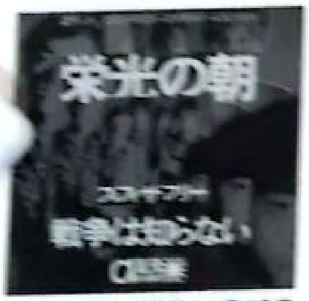
コロムビア／1969年8月1日

髪がゆれている

久美かおり

作詞：山上路夫
作曲・編曲：村井邦彦
B面：小さな鳩

映画「ザ・タイガース 世界はボクらを待っている」（68年）などに出演していた久美かおりのラスト作。本作は、映画「ザ・タイガース ハーイ！ロンドン」（69年）の挿入歌で、映画では主演の沢田研二がハミングしているという設定になってるが、実際にデュエットを担当しているのは作曲者の村井邦彦。印象的なピアノは前田憲男が担当。いち早く「メジャー7th」コードを取り入れた和ボッサとして、90年代に再評価された。



アルファ／1969年11月10日

栄光の朝

フィフィ・ザ・フリー

作詞：山上路夫
作曲：村井邦彦
編曲：川口真
B面：戦争は知らない

GSバンドでありながら、ソフト・ロックやサバービアの文脈で語られることが多いフィフィ・ザ・フリーのセカンド・シングル。洋楽のような洗練されたサウンドと優れた演奏が相まって和モノ・ソフト・ロックの金字塔として評価されている。演奏は、飯吉馨（Pf）、江藤勲（Bs）、石川晶（Dr）などのスタジオ・プレイヤーによるもの。メンバー3人は、のちにいずみたくシンガーズに加入した。

東芝／エキスプレス
1969年5月10日

或る日突然

トワ・エ・モア

作詞：山上路夫
作曲：村井邦彦
編曲：小谷充
B面：恋人のなぎさ

トワ・エ・モアのデビュー・シングルで、オリコン・シングル・チャート最高第4位、約35万枚の売り上げを記録した。後半部分のコード進行は、フレデリック・ロウ「恋をしたみたい」で使用されていたコード進行のヴァリエーションで、この進行を亀田誠治は小室哲哉コード進行と称した。90年代以降J-POPで大流行したこの進行が国内で使用された最初期の例で、村井邦彦の時代を先取りしたセンスが窺える佳曲。

text：ガモウユウイチ

CBS・ソニー／1968年12月

眠れる乙女

アダムス

作詞：山上路夫
作曲：村井邦彦
編曲：東海林修
B面：砂のお城

アウト・キャストの水谷公生などを中心に結成されたCBS・ソニーのGSグループ第1号、アダムスの2枚目のシングル。J・S・バッハの影響を感じさせるメロディラインと美麗なストリングス・アンサンブルで、クラシカルな雰囲気に包まれたポップ・ナンバー。後にスタジオ・ミュージシャンとして売れっ子になる千原秀明（武部秀明）が在籍していたが、本作品のベースは師である江藤勲がプレイしている。

東芝／1971年2月5日

翼をください

赤い鳥

作詞：山上路夫
作曲・編曲：村井邦彦
A面：竹田の子守唄

赤い鳥の4枚目のシングル「竹田の子守唄」のB面曲。70年代後半からは学校教科書に採用され、合唱曲として多くの現場で取り上げられたことにより、日本人の誰もが知るスタンダードとなった。72年には、アメリカMGMでボブ・アルシバーのプロデュースによりセルフ・カヴァーされて、初めてA面としてシングル化された。16ビートのMORポップスになっており、洋楽的フィーリングを際立たせたサウンドとなっている。

コロムビア／マッシュルーム
1972年6月20日

美しすぎて

GARO

作詞：山上路夫
作曲：村井邦彦
編曲：飯吉馨
B面：学生街の喫茶店

GARO3枚目のシングルで、後に「学生街の喫茶店」の人気が出たため、A面B面を入れ替えて5枚目のシングルとして発売された。アルバム「GARO 2」（72年）に収録された大野克夫アレンジ版が先にレコーディングされ、シングルには地味ということで、シングル用に飯吉馨がリアレンジを施した。赤い鳥「忘れていた朝」（71年）と並ぶ、「メジャー7th」コードを使用した最初期のヒット曲として、国内ポピュラー音楽史上重要曲。

フィリップス／1972年10月25日

美しい星

森山良子

作詞：山上路夫
作曲・編曲：村井邦彦
A面：「さようなら」の世界

「「さようなら」の世界」のB面曲で、グローバリズムをテーマにした和製ソフト・ロック・ナンバー。「メジャー7th」コードをさり気なく使用した、センスの塊りのような洗練されたサウンドが心地よい。72年の「第23回NHK紅白歌合戦」では、作曲の村井邦彦の指揮により歌った。ほか、赤い鳥（編曲：村井邦彦）、ジェリー伊藤&ミシェル伊藤（編曲：飯吉馨）、天地真理（編曲：馬飼野俊一）などがカヴァーした。

キング／1973年

愛を育てる

NOVO

作詞：山上路夫
作曲：村井邦彦
編曲：横倉裕
B面：YOU ARE THE SEA

近年はカルロス・"ユタカ"・デル・ロザイオとしてセルジオ・メンデスのバックを担っている横倉裕が結成したバンド、NOVOのデビュー・シングル。ブラジル色を感じさせる洗練されたソフト・ロック・ナンバーで、元々は旭化成のCMソングだった。なお、CMではトワ・エ・モアが歌を担当している。12年にNOVOがセルフ・カヴァーしたが、コードが幾つか変更され、よりブラジル色が増した。

CamScannerでスキャン

ビクター／1967年11月10日

朝まで待てない

ザ・モップス

作詞：阿久悠
作曲・編曲：村井邦彦
B面：ブラインド・バード

鈴木ヒロミツを中心とするザ・モップスのデビュー
シングル。「日本初のサイケデリック・サウンド」をキャッ
チにしながらも、実際にはサイケというよりガレージ
サウンドといった雰囲気。星勝のブルース・フィーリン
グ溢れるギター・ソロなど、67年という時代から想
像できないほどロック色溢れるサウンド。オリコン・シ
ングル・チャート最高第38位。4万枚を売り上げ、阿
久悠の出世作となった。

フィリップス／1968年6月15日

エメラルドの伝説

ザ・テンプターズ

作詞：なかにし礼
作曲：村井邦彦
編曲：川口真
B面：僕たちの天使

それまで松崎由治によるオリジナル楽曲だったが、
本作で外部ライターを起用したことから、ヴォーカルの
萩原健一はふてくされてレコーディングをしたという。
クラシカルなイントロからサビへ向けて徐々に盛り上げ
ていくドラマティックな構成と、スパニッシュを意識し
た松崎由治の効果的なギター・ソロなど、それまでの彼
らには無かった魅力を生み出した。結果的に、初のオリ
コン・シングル・チャート最高第1位を記録した。

CA／1968年10月

太陽の剣

ザ・ブルーインパルス

作詞：なかにし礼
作曲：村井邦彦
編曲：川口真
B面：夜明けに消えた恋

のちに猪俣猛とサウンド・リミテッドなどで活躍する
萩谷清が在籍していたGSバンドのデビュー曲。RCA
ビクターの邦楽部門の第1号して売り出され、オリコン・
シングル・チャート最高第54位を記録した。「太陽の剣」
は、ホーンやストリングスが使用されながらもメンバー
自身の演奏によるガレージ色を感じさせる佳曲。B面の
「夜明けに消えた恋」はよりガレージ色が強く、のちにザ・
ファントムギフトがカヴァーした。

ア／1969年11月10日

ダニエル・モナムール

辺見マリ

作詞：安井かずみ
作曲：村井邦彦
編曲：川口真
B面：ふりむかない季節

浜口庫之助門下でレッスン後、本楽曲でデビュー。「メ
ジャー7th」コード、「6th」コードなど、当時の歌謡
曲では余り用いられないコードを使用して洗練された
MORポップスに仕上げており、オリコン・シングル・
チャート最高第36位、売り上げ約6万枚のヒットを記
録した。Bメロ部分ではフランス語のセリフが導入され
ており、90年以降に和製フレンチ・ポップとしても再
評価された。16年には野宮真貴がカヴァー。

2月1日

本牧ブルース

ザ・ゴールデン・カップス

作詞：なかにし礼
作曲・編曲：村井邦彦
B面：4グラムの砂

本格的にブルースを追求した「ブルース・メッセージ
／アルバム第3集」(69年)の先行シングルとしてリリー
ス。タイトルに「ブルース」と付いているが正確にはブ
ルースではなく、ブルース・フィーリングのブルース・
ロック。ブリブリに歪んだルイズルイス加部（加部正義）
のベース、ファズでオブリガートを繰り出すエディ藩の
ギター、黒っぽいデイブ平尾の歌など、GSには珍しく
本格的なロック的要素が凝縮された楽曲。

ユウイチ

CamScannerでスキャン

CBSソニー／1969年10月1日

夜と朝のあいだに

ピーター

作詞：なかにし礼
作曲：村井邦彦
編曲：馬飼野俊一
B面：神々の黄昏

映画「薔薇の葬列」(69年)でセンセーショナルに俳優デビューしたピーターの歌手デビュー曲。耽美的な歌詞をGS的なマイナー・キーのメロディに乗せて独白のように歌う。ジャズ・フィーリングを感じさせるサウンドも相まって独特のムードを醸し出しており、オリコン・シングル・チャート最高第9位、約26万枚の売り上げを記録。第11回日本レコード大賞最優秀新人賞やゴールデンアロー賞を受賞した。

ポリドール／1969年8月5日

嘆き

ザ・タイガース

作詞：安井かずみ
作曲：村井邦彦
編曲：東海林修
B面：はだしで

タイガースの9枚目のシングル。前作の「美しき愛の掟」(69年)のレコーディングには加橋かつみが参加していたので、岸部シローを含む編成としては初レコード。マイナー・キーのロッカ・バラードで一歩間違えれば演歌の世界だが、ハネたリズムや、ノンダイアトニック・コードの使用などで、洗練された雰囲気を漂わせている。本楽曲では江藤勲(Bs)などのスタジオ・プレイヤーが演奏に参加している。

東芝／1970年10月

ざんげの値打ちもない

北原ミレイ

作詞：阿久悠
作曲：村井邦彦
編曲：馬飼野俊一
B面：その時花はアカシアだった

北原ミレイのデビュー・シングルで、オリコン・シングル・チャート最高第14位、約20万枚のヒットとなった。Aメロではシンプルな8ビートだが、サビで16ビート・フィールなリズムになるのは当時流行のパターン。当初は歌詞が5番まであったが、先進的という理由で4番はカットされた。この4番は映画「ずべ公番長～ざんげの値打ちもない」で歌唱されたほか、08年にはNHK「歌謡コンサート」にてテレビ初披露した。

キング／1971年5月

旅立つ朝

江利チエミ

作詞：保富康午
作曲：村井邦彦
編曲：ジミー・ハスケル
B面：明日に生きる女

編曲をジミー・ハスケル、ドラムをハル・ブレインが担当したロサンゼルス録音盤。「メジャー7th」コードを繰り返すイントロ、ツー・ファイヴを導入したスムースな進行のAメロ、「メジャー7th」コードの全音下の平行移動があるサビなど、ジャズ的和声がたっぷり盛り込んである洗練されたサウンド。リズムを牽引するベースはおそらくジョー・オズボーンだろう。演奏に負けない江利チエミの表現力溢れたヴォーカルも素晴らしい。

東芝／1971年8月25日

虹と雪のバラード

トワ・エ・モア

作詞：河邨文一郎
作曲：村井邦彦
編曲：小谷充
B面：トワ・エ・モワの子守唄

72年に開催された札幌オリンピックのテーマ・ソングで、当初はNHK「みんなのうた」でオンエアされ、レコードはオリコン・シングル・チャート最高第7位を記録した。「みんなのうた」版は川越守が編曲を担当、スクエアな8ビートだったが、レコード版では12／8拍子のロッカ・バラードに編曲された。競作として、ジャッキー吉川とブルー・コメッツ(編曲：川口真)、ピンキーとキラーズ(編曲：大柿隆)などもリリースした。

CamScannerでスキャン

作家とシンガー

赤い鳥

text：ガモウユウイチ

赤い鳥の結成は67年に後藤悦治郎が主催した定期コンサートがきっかけだった。そして後藤悦治郎が、谷村新司率いるヒルビリー・シンガーズにいた新居潤子（現：山本潤子）を引き抜き、平山泰代、山本俊彦、松田幸一で母体が結成された。そして、69年に松田幸一に代わって大川茂が参加してデビュー時のメンバーが揃った。同年10月にURCレコードより歌声運動を背景に生まれたシングル「お父帰れや」をリリース。直後の11月に開催された第3回ヤマハ・ライト・ミュージックコンテスト全国大会で伝承曲の「竹田の子守唄」を歌いグランプリを獲得したのをきっかけに、70年6月10日に村井邦彦のバック・アップを得てロンドン録音されたアルバム「フライ・ウィズ・ザ・レッド・バーズ」でメジャー・デビューした。村井邦彦の楽曲に加え、トニー・マコレイによる書き下ろし楽曲などが収録された。ジャズやブラジル音楽の影響を感じさせるコード進行による海外のソフト・ロックにも通じるようなサウンドで、伝承歌を歌っていたグループとは思えない洗練ぶりだった。とはいえ、半月後にシングル・カットされたファースト・シングル「人生」（70年）は、「竹田の子守唄」に山上路夫が別の詞をつけた楽曲で、アマチュア時代の彼らの姿に近い楽曲だ。そしてセカンド・シングルには村井邦彦の書き下ろし楽曲「誰のために」（70年）が選ばれた。3枚目のシングル「竹田の子守唄」（71年）に続いてリリースされた「美しい朝」（71年）、「忘れていた朝」（71年）も村井邦彦によるソフト・ロック路線。中でも「忘れていた朝」は、国内で最初期にメジャー7thコードをフィーチャーしてヒットに至った楽曲だ。赤い鳥は、フォーク・グループから、洗練されたサウンドの楽曲を、美麗なハーモニーで歌うという新しいスタイルのグループへと変化を遂げたのだった。その反面後藤悦治郎は、「「五木の子守唄」や「竹田の子守唄」は真に理解されないまま、伝承されずに終わる運命にあるのかなと思ってしまうのです」と当時語っており、当初の目指していた方向性とはズレが出てきたことを感じさせた。

その後の村井邦彦によるシングルA面楽曲は、9枚中「赤い屋根の家」（72年）と英語版「翼を下さい」の「I Would Give You Anything」（72年）の2枚のみ。大村憲司、村上秀一、渡辺としゆき（現：渡辺俊幸）の加入などもあり、洗練されたコーラス・グループから、ロック・バンドへとサウンドは移行して行き、村井邦彦の目指したい方向性ともズレが出てきたのかもしれない。赤い鳥と並行して、後藤悦治郎と平山泰代は当初の方向性だった伝承歌や誰でも歌える歌を歌うユニット、紙風船を始動させた。そして74年には4年間におよぶ活動に終止符を打ち、紙風船改め紙ふうせん、新居潤子と山本俊彦と大川茂によるハイ・ファイ・セット、渡辺としゆきと森田きょうこによるハミングバードの3つのグループに分かれていった。

「FLY WITH THE RED BIRDS」
赤い鳥

CamScannerでスキャン

text：カモウユウイチ

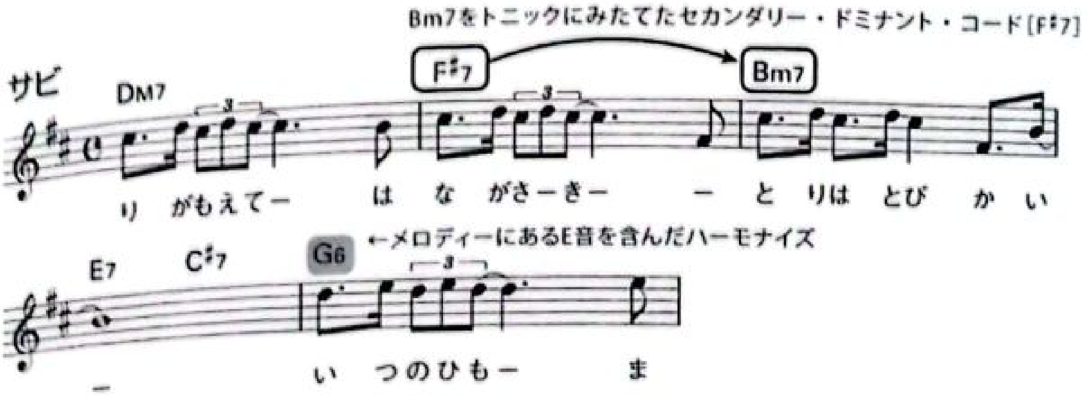
美しい星

1972年（B面曲） 赤い鳥

作詞　山上路夫
作曲・編曲　村井邦彦

村井邦彦の作曲による楽曲で、72年7月5日にリリースされたトワ・エ・モワのアルバム「ユートピア2～雨が降る日」に収録されていた（編曲：飯吉馨）。7月25日には森山良子がアルバム「旅立ち 森山良子1972～Ryoko Now」に収録（編曲：村井邦彦）。10月にはシングル「『さようなら』の世界」のB面としてシングル・カットされた。同年の「第23回NHK紅白歌合戦」では、森山良子が村井邦彦の指揮で歌唱した。同じ7月には、本田路津子もアルバム「耳をすましてごらん」に収録している（編曲：高田弘）。8月には、チェリッシュがアルバム「ひまわりの小径」に収録（編曲：青木望）。9月には、天地真理がアルバム「虹をわたって」に収録（編曲：馬飼野俊一）。12月にはベッツィ＆クリスがシングルでリリース（編曲：葵まさひこ）。なお、シングルA面でのリリースとしては彼女たちが初めて。赤い鳥版は、73年1月にアルバム「美しい星」に収録された。2月にシングル「まつり」のB面としてシングル・カットされた。また、6月から7月にかけては、NHK「みんなのうた」でジェリー伊藤とミッシェル伊藤が歌唱した（編曲：飯吉馨）。

イントロはトニック「DM7」とサブドミナント「GM7」の繰り返し。「メジャー7th」コードだけで構成されているイントロは、当時としては斬新だ。リズムはシャッフルの8ビートだが、メロディー・ラインは1拍3連を中心としたロッカ・バラード形式。2拍1フレーズの同形態のメロディー・パターンを連結させダイアトニック・トーンで1音ずつ下降しながら進行。譜面的に見ても美しいメロディー・ラインだ。サビでは再び「メジャー7th」コードを頭に置き、「7th」である「C#」音を中心としたメロディー・ラインが展開。洗練された雰囲気が漂う。2小節目では、1小節目と同形態のメロディー・ラインでありながらも、3小節目の「Bm7」をトニックに見立てての、ドミナント・モーションとしてセカンダリー・ドミナント・コード「F#7」が置かれている。5小節目では「GM7」では無く、「G6」が置かれている。これは、メロディー・ラインが「6th」の「E」音を含んでいるため。メロディー・ラインへの心遣いが窺える繊細なハーモナイズだ（譜例）。サビのラストはトニック「DM7」で解決しているが、メロディー・ラインは「3rd」音の「F#」音で終結。通常は「Root」音で終るのが定石だが、「3rd」で終えることにより終止感が希薄になり浮遊感を感じさせる。サビでのストリングス・パートや、イントロや間奏のみでの登場するホーンなど、アレンジもシンプルでありながら洗練された魅力に包まれている。



すぎやまこういち

ザ・タイガースから『ドラゴンクエスト』まで

ガモウユウイチ

ゲーム音楽『ドラゴンクエスト』(86年)シリーズの作曲家として、世界的に著名なすぎやまこういちは、1931年4月11日、東京府東京市下谷区（現：台東区）に生まれた。本名は椙山浩一。小学校の頃から作曲を始め、中学校時にはベートーヴェンのレコードや楽譜を元に独学でクラシックを学ぶ。進学は音大を希望するも、ピアノが弾けなかったため、やむなく東京大学理科II類に進学。卒業後は文化放送へ入社し、報道部から芸能部へ配属されて番組制作に携わる。58年には同社系列だったフジテレビに出向の形で移籍、ディレクターとなった。

フジテレビでは、『おとなの漫画』(59年)や『ザ・ヒットパレード』(59年)などの人気番組を手がける。『ザ・ヒットパレード』では自らオープニング・テーマの作曲も手がけた。60年代からはディレクターと並行してCMの作曲家としても活動を開始。それに伴い歌手へも楽曲を提供するようになり、65年にはフジテレビを退社しフリーランスに転進した。

当初はディレクターとして番組制作に携わっていたが、68年より作曲家に専念。GSグループやザ・ピーナッツなどに多くのヒット曲を提供した。中でもザ・ファニーズと名乗っていたバンドに自ら命名して、デビューから5作目までのシングル楽曲を提供したザ・タイガースの中心的作曲家として多くの楽曲を提供。デビュー曲「僕のマリー」(67年)は第1楽章アンダンテ・モデラート、以下第2楽章「シーサイド・バウンド」(67年)はアレグロ・ヴィヴァーチェ、第3楽章「モナリザの微笑」(67年)はアンダンテ・カンタービレ、第4楽章「君だけに愛を」(68年)はイントロがレント・アッサイで、中身はアレグロ・ヴィヴァーチェと、目先の一曲に捉われず、長期的に見た連作で組曲としての構想だったという。

70年代からは、『帰ってきたウルトラマン』(71年)、『マシンハヤブサ』(76年)、『科学忍者隊ガッチャマンII』(78年)、『伝説巨神イデオン』(80年)など、アニメ・特撮番組も多く手がけるようになる。また、ガロに提供した「学生街の喫茶店」(72年)は大ヒットを記録、彼らが一世を風靡するきっかけとなった。86年からはゲーム音楽『ドラゴンクエスト』を手がけ、歌謡曲やアニメ・特撮仕事を抑え、ゲーム音楽作曲家として活動。同シリーズでは現在も作曲のみならず、プロジェクト・チームの一員としても参加している。16年には、世界最高齢でゲーム音楽を作曲した作曲家としてギネス世界記録を受賞、国内はもとより世界的にも名声が轟いている。

CamScannerでスキャン

すぎやまこういち作曲作品　DISC GUIDE

キング／1966年12月1日

遠い渚

シャープ・ホークス

作詞：井荻麟
作曲：すぎやまこういち
編曲：古屋紀
B面：いつものところで

　安岡力也や小山真佐夫（現：アンディ小山）が在籍していたシャープ・ホークスの2枚目のシングルであり、すぎやまこういちの最初期のヒット曲。当時全盛を極めていたカレッジ・フォークの影響を感じさせるフォーク風のメロディの楽曲で、編曲を担当した井上宗孝とシャープ・ファイヴの古屋紀のオルガンが全編にフィーチャーされたラウンジ・テイストのナンバー。リード・ヴォーカルは小山真佐夫が担当した。

キング／1967年8月10日

恋のフーガ

ザ・ピーナッツ

作詞：なかにし礼
作曲：すぎやまこういち
編曲：宮川泰
B面：離れないで

　ティンパニーを印象的に配したザ・ピーナッツ中期のヒット曲。イントロからそのインパクトは大きく、「第18回NHK紅白歌合戦」では伊東ゆかりや園まりほかの女性出演者がティンパニー・アンサンブルで共演した。すぎやまこういちは、この楽曲のヒットに宮川泰の編曲の功績も大きいと認め、印税の一部を宮川泰に配分するという粋な計らいをみせた。なお、楽典的には同旋律が複数の声部に順次現れるフーガの形式ではない。

CBSコロムビア／1968年2月25日

亜麻色の髪の乙女

ヴィレッジ・シンガーズ

作詞：橋本淳
作曲：すぎやまこういち
（編曲クレジット無し）
B面：瞳をとじて

　オリコン・シングル・チャート最高第7位を記録した、ヴィレッジ・シンガーズ最大で唯一のベスト10入りヒット曲。バーズの影響を感じさせるフォーク・ロック・スタイルのナンバーで、カレッジ・フォーク的な芳香も感じられる。元々は、お蔵入りとなった青山ミチ「風吹く丘で」（66年）で、当時がカレッジ・フォーク全盛期だったことを考えると納得だ。タイトルの元ネタはドビュッシーの前奏曲集第1集のうちの第8曲目。

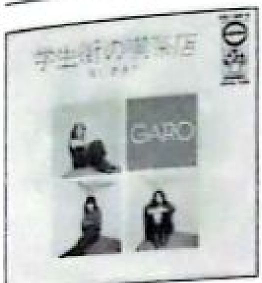
ポリドール／1967年5月5日

シーサイド・バウンド

ザ・タイガース

作詞：橋本淳
作曲・編曲：すぎやまこういち
B面：星のプリンス

　デビュー作に続き橋本淳とすぎやまこういちのコンビによるタイガース2枚目のシングルで、阿波踊りにヒントを得て作られたニュー・リズムのバウンドを用いた楽曲。楽曲構成はブルース進行の変形で前半が倍の小節数、後半が通常の小節数の1コーラス20小節で構成。シンプルなブルースを名曲に仕上げるすぎやまこういちのセンスが光る。その後、5枚目の「銀河のロマンス／花の首飾り」まで、2人のコンビによる楽曲が続く。



コロムビア／マッシュルーム
1972年6月20日

学生街の喫茶店

GARO

作詞：なかにし礼
作曲：すぎやまこういち
編曲：大野克夫
A面：美しすぎて

　当初はGAROの3枚目のシングル「美しすぎて」のB面としてリリース。その後、ラジオなどで「学生街の喫茶店」が人気を博し、4枚目のシングル「涙はいらない」を挟み、5枚目のシングルとしてA面B面を入れ替えて発売された。73年に入って売れ出し、オリコン・シングル・チャート第1位獲得は2月19日。それから7週に渡って1位を記録した。CM用に英語ヴァージョンも制作されたが、未音盤化。

text：ガモウユウイチ

CamScannerでスキャン

萩原哲晶

クレイジーキャッツの片腕
コミック・ソングの[illegible]

ジャズ・クラリネット奏者として将来を嘱望されながら、コミック・ソングの巨星になった。それが萩原哲晶だ。

1925年5月26日、北海道生まれ。東京音楽学校（現・東京藝術大学）を卒業後、陸軍戸山学校軍楽隊を経て、戦前から活動するジャズ・トランペッター南里文雄率いる"ホット・ペッパーズ"[illegible]やがて、自身のグループ"デューク・オクテット"（のち"デューク・セプテット"等に名称変更）を率い、55年にはドラマー[illegible]率いる"キューバン・キャッツ"に参加している。[illegible]操とリズム・キング"に加わった。池田バンドでの録音はキングレコードのLP『ミッドナイト・イン・トウキョウ 第2集』で聴ける（[illegible]萩原哲晶とクレジット）。

しばし別行動をとっていた萩原哲晶とハナ肇だが、ハナのグループ（57年にクレイジーキャッツと改名）の曲作りを依頼したことから交流が再び活発化。デビュー・シングル「スーダラ節」（61年）を筆頭に、黄金のナンバーが次々と生まれた。ほとんどの曲を自らアレンジしていたのも大きな特徴で、ダイナミクス（強弱）を思いっきり生かしたアンサンブルにはスタン・ケントン楽団との、ふだんあまり音楽には使われないような小道具を用いてユニークな響きを付け加えるところにはスパイク・ジョーンズ楽団やエディ・ソーター＝ビル・フィネガン楽団との共通点を個人的に感じる。クレイジーはもちろん、青島幸男、ザ・ドリフターズ、園まり、梅木マリ等への提供曲（アレンジのみのナンバーも含む）も収めた2枚組CD『ハイそれまでョ〜萩原哲晶作品集』は萩原のメロディ・メイカーぶりとオーケストレーションの冴えを満喫できる好セレクションだ。

82年夏には、萩原サウンドを敬愛する大瀧詠一のFM番組「スピーチバルーン」にゲスト出演。ここで彼の肉声を初めて聴いたリスナーも多かったのではなかろうか。その後も金沢明子「イエロー・サブマリン音頭」、山田邦子「ひょうきん絵書き歌」等のアレンジで健在を示したが、84年1月13日に亡くなった。戸井十月『植木等伝「わかっちゃいるけど、やめられない！」』によると、死の直前に他家の養子になったらしい。そのため、他界した時の本名は南沢哲晶であったという。

弟の萩原秀樹もジャズ・ミュージシャンで、54年7月、横浜のナイト・クラブ「モカンボ」で行なわれた歴史的ジャム・セッションでは守安祥太郎、秋吉敏子、ハンプトン・ホーズとピアノの椅子をわけあった。のちに"モーリス・ローラン"なる変名で、数々のイージー・リスニング作品を出している。

CamScannerでスキャン

東芝／1961年8月20日

スーダラ節

ハナ肇とクレージーキャッツ

作詞：青島幸男
作曲・編曲：萩原哲晶
B面：こりゃシャクだった

結成から約5年、ついに制作された初レコード。シャッフル風の軽快なAメロ+ラテン色を投影したサビに、植木等の軽妙洒脱な歌声が乗る。"スイスイ スーダララッタ"という、あまりにもスキャット的な歌詞のシンコペーションが1番と2番で異なるところにも、萩原やクレイジーの面々が持つジャズの素養が図らずとも反映されているようで興味深い。木管楽器の重用、シャッフル調のリズムにも注目！

東芝／1962年7月

ハイそれまでョ

ハナ肇とクレージーキャッツ

作詞：青島幸男
作曲・編曲：萩原哲晶
B面：無責任一代男

前半の狙いはフランク永井とロッカ・バラードの融合か。植木はクルーナー唱法で実力を発揮し、サックス・アンサンブルもむせび泣く。そして後半では雰囲気をがらりと変え、録音当時に流行しまくっていたであろう"ツイスト"をとりいれた展開に。植木もひたすらはじける。朗々たる歌い込みからコミカルな発声、そして後半のシャウトまで底力を全開にする植木もすごいが、こんな曲を書いてしまった萩原もすごすぎる。

東芝／1963年

エイトマン

克美しげる

作詞：前田武彦
作曲：萩原哲晶
B面：北京の55日

おそらく50代以下のひとにとって克美しげるは"「エイトマン」のひと"であろう。なぜなら1976年の某日以後、この曲以外の彼の吹き込みはこの世から消えたも同然になってしまったからだ。キャッチコピーのように明瞭な前田武彦の歌詞、アメリカのコンバットものにそのまま移植できそうな萩原の曲調、そして骨太な克美の歌唱。こんなエッジの利いたナンバーが、当時は子供向けテレビ番組の主題歌として流れていたのだ。

東芝／1963年

ソロバン節

古今亭志ん朝

作詞：東逸平
作曲：萩原哲晶
片面：ないないづくし

これまたツイスト調の作品。TVドラマ「若い季節」出演でも注目された江戸前落語の若きプリンスが、その余勢をかってリリースしたというところか。歯切れの良さは噺のときと変わらず。Aメロではヒーカップ唱法を意識したような歌を聴かせ、ラップ風のサビではリズミカルに"ご破算で願いましては〜"とたたみかける。歌い終えて会心の笑みを浮かべる志ん朝と、拍手を送る萩原の姿を想像せずにはいられない。

東芝／1966年1月

君にしびれて

望月浩

作詞：沢ノ井千江児
作曲：萩原哲晶
B面：あしたあさってしあさって

青春歌謡歌手が残した異色作。望月は66年に行われたザ・ビートルズ来日公演の数多い前座のひとりに選ばれ、日本武道館にこの曲を響かせた。たぶん「君にしびれて」=電気=エレキ・ギター=ザ・ビートルズ（エレキ・コーラス・バンド）という連想なのだろう。萩原は数あるエレキ・ナンバーを聴いて、自分なりにエレキ歌謡の決定版を作ろうとしたのではないかと僕は考える。テナー・サックスの導入には、ロカビリーの残り香も。

text：原田和典

CamScannerでスキャン

渋谷 毅

現役ジャズ・プレイヤーにして作曲家
その作風は極めてノーブル

青春を過ぎても現役のジャズ・ミュージシャンとして活躍中、日本の至宝ともいえる存在が、ピアニストの渋谷毅だ。東京芸大作曲科に在学中からプロのミュージシャンとなり、沢田駿吾のグループやジョージ川口とビッグ4などで活躍した。60年代には日本が誇る名門ビッグ・バンド、原信夫とシャープス&フラッツのアレンジャーに抜擢。渋さ知らズに参加したり、林栄一、松風鉱一、石渡明広、外山明といったミュージシャンと共演したり、自身のオーケストラを率いたり、今でもかなりの数のステージをこなしている。

この渋谷のもうひとつの顔が作曲家、編曲家としての顔だ。60年代から歌謡曲の仕事を始め、坂本九「見上げてごらん夜の星を」、パープルシャドウズ「別れても好きな人」、青江三奈「酒場人形」、由紀さおり「天使のスキャット」、浅丘ルリ子「節子」などの編曲を手掛けるようになる。

作曲家として最初に注目を集めたのは、由紀さおりの「生きがい」で、70年にリリースされスマッシュ・ヒットとなった。作法は奇をてらうことなく素直で、とても上品な印象を受ける。サビの展開は難しく、由紀さおりの絶対的な歌唱をもって成り立っているといってもいいだろう。71年には森山良子のリサイタルで編曲と指揮を担当、この縁もあり彼女の75年のアルバム『やすらぎ』の中では、「あやとり」「あなたのいない一日」を作曲した。「あやとり」は、渋谷が作曲し松本隆が作詞という顔合わせの名曲。渋谷毅が松本隆と組んだ作品には、アリス「突然炎の如く」(73年)、アン真理子「血とバラ」(74年)などがある。当時の渋谷毅の作曲作品を挙げると、伊東きよ子「青いシャツ」(71年)、本田路津子「ある朝生まれて」(71年)、松木さより「幸せのゆくえ」(72年)、佐良直美「小さな村の小さな出来事」(71年)、天地真理「白いバラの道」(72年)などがある。女性シンガーに集中しているのが興味深いが、渋谷のノーブルな作風がそうさせたのだと思う。

70年代後半から浅川マキのライヴに参加するようになり、85年には浅川とのデュオ作『ちょっと長い関係のブルース』などを発表したが、このアルバムの中で、「秋意」「Dark Change」などを提供した。蛇足ながら、浅川マキがライヴ先の名古屋で客死した際の同行者が、渋谷毅であったのだ。2000年代に入ってからも、中谷美紀「Happy Wednesday」(2006年)、二階堂和美「つるべおとし」(2007年)、木村カエラ「memories」(2008年)などを手掛け、ライヴでは小川美潮、金子マリ、平田王子などと共演している。いつも女性たちに囲まれているのは、渋谷毅の人徳であるのだと思う。

文：小川真一

CamScannerでスキャン

渋谷毅作曲作品

キング／1969年11月20日

恋人の讃歌

ピンキーとキラーズ

作詞：山上路夫
作曲・編曲：渋谷毅
B面：陽のあたる街

68年7月に「恋の季節」でデビューしたピンキラだが、「恋人の讃歌」で早くも9枚目のシングル。それまでオリジナル・シングルは全曲いずみたくが作・編曲を担当していたが、渋谷毅が初めて起用された。セルジオ・メンデスの影響が大きい彼らだが、本作品はトニー・ハッチの影響が感じられる万博前夜の雰囲気たっぷりのナンバー。渋谷毅の洗練されたセンスが眩しい佳曲だ。90年代には和モノ・ソフト・ロックとして再評価された。

東芝／エキスプレス
1970年11月5日

生きがい

由紀さおり

作詞：山上路夫
作曲・編曲：渋谷毅
B面：ずっと前から

由紀さおりの7枚目のシングルで、オリコン・シングル・チャート最高第6位を記録した。6thや9thといったテンション・コードの使用に加え、サビでの2/4拍子と3/4拍子の複合リズムによる変拍子と、それまでの歌謡曲とは一味違った洗練された楽曲となっている。93年には、渡辺真知子がシングルでリリース。13年には、ヒュー・ジャックマン主演によるハリウッド映画「ウルヴァリン：SAMURAI」の挿入歌として使用された。

東芝／エキスプレス
1971年11月1日

初恋の丘

由紀さおり

作詞：北山修
作曲・編曲：渋谷毅
B面：恋人に幸あり

由紀さおりの11枚目のシングルで、「生きがい」に続いて渋谷毅が作曲を担当したシングル。フォーク・ソング風のサウンド・アプローチながら、クリシェを使用したコード進行や、6thなどテンション・コードの多用など、従来の歌謡曲とは一味違った洗練されたサウンドとなっている。サビ後半4小節は、楽器が全て休み、アカペラになるという斬新なアレンジ。リズムすら無いため、正確なリズム感を持つ由紀さおりならではの楽曲だ。

コロムビア／2008年9月10日

memories (original version)

木村カエラ

作詞：木村カエラ
作曲：渋谷毅
編曲：二杉昌夫、Gabriele Roberto
c/w：マスタッシュ

12枚目のシングル「マスタッシュ」と両A面シングルとしてリリースされたナンバーで、役所広司とアヤカ・ウィルソン主演の映画「パコと魔法の絵本」の主題歌。バックは打ち込みによるトラックで、コードもほとんどがトライアド。シンプルなサウンドゆえに、キャッチーなメロディが浮き彫りに。渋谷毅と編曲を担当したガブリエル・ロベルトは、07年に映画「嫌われ松子の一生」の音楽で、日本アカデミー賞最優秀音楽賞を受賞した。

ビクター／2010年11月24日

いのちの木陰

佐良直美

作詞：山川啓介
作曲・編曲：渋谷毅
c/w：銀河の子守唄ほか

佐良直美が約27年ぶりにリリースした48枚目のシングル。それまでもたびたび復帰を勧められてきたが、「渋谷毅先生が作ってくださるなら」と答えたところ、実際に彼に依頼されてリリースすることになった。アコースティックなバラード・ナンバーで、美しい抒情的なメロディを、27年前と変わらぬ優しさ溢れる歌声で歌い紡ぐ。シングルにはMaggie Kim名義による英詞ヴァージョンも収録されている。

text：ガモウユウイチ

CamScannerでスキャン

中島安敏

エレキ・ブーム時代に花開いた和製ポップスの旗手

text：小川真一

和製ポップスと聞いて、真っ先に思い浮かべるのが65年にエミー・ジャクソンが歌った「涙の太陽」だ。当時はまだ和製ポップスという言葉もなかった。いやそれどころか、歌っているのが日本人であるかどうかすら判らなかった。それほど洋楽に近い作品であった。この曲がオール国産、メイド・イン・ジャパンであると判ったのは、ヒットして少し経ってから。エミー・ジャクソンの日本名は深津エミで、ラジオの音楽番組でアシスタントをしていた。その彼女の歌の才能を見出したのが湯川れい子で、自身の名前を湯川Hot RiverともじったR.H.Riversの名義で「涙の太陽」を作詞した。

作曲は中島安敏が担当した。中島はジャズ・シンガーの沢村美司子の兄で沖縄出身。高校中退後に渡米しアメリカでジャズの編曲を学んだ。帰国後に舞い込んできたのが、このエミー・ジャクソンのデビュー曲の仕事。この「涙の太陽」が洋楽テイストに溢れていたのは、既存のソングライターではなく、新進気鋭の作家を起用したところにもあったのだ。

中島安敏はその後エミー・ジャクソンのために、「涙のハート」「夢みるマイボーイ」「恋のエンジェル・フィッシュ」などを書き下ろした。どの曲も外国曲のカヴァーだと聞いても違和感がないほどにバタ臭い感覚に包まれている。和製ポップスといえば、「霧のカレリア」のヒットで知られる北欧のエレキ・インストゥルメンタル・バンドのザ・スプートニクスの「モスクワの灯」も彼の作品。これも外国曲だと思っている方が多いと思う。他に、「ハブ・アイ・ザ・ライト」でお馴染みのブリティッシュ・ビートのハニカムズの「恋の夜行列車」、ペギー・マーチの「ヤング・カップル」なども手掛けた。

グループ・サウンズの時代にも彼の洋楽センスが重宝され、ザ・ライオンズ「すてきなエルザ」、ブラックストーンズ「ヘイ・ミスター・ブルー・バード」、ザ・タックスマン「嘆きのキング」、叶修二がジ・ジ・アイドルスをバックに従えた「抱きしめて抱きしめて」などの佳曲を残している。どの曲もカルトな持ち味があり、今なお人気が高い。

中島安敏をさらに有名にしたのは、黛ジュンの「霧のかなたに」の大ヒットだ。67年に「恋のハレルヤ」で再デビューした黛のセカンド・シングルで、この曲も和製ポップスの傑作。ヴェンチャーズ歌謡にも通じる、哀愁にあふれたメロディ・ラインが印象的。洋楽テイストの曲だけでなく、愛田健二「京都の夜」、中川レオ「銀座かもめは何日帰る」、美空ひばり「恋の別れ道」といった、しっとりとしたムード歌謡的な名作も数多く残している。加藤登紀子の幻のデビュー曲「誰も誰も知らない」も、中島安敏のペンとなる作品だ

CBS／コロムビア
65年4月20日

涙の太陽

エミー・ジャクソン

作詞：R.H.Rivers
作曲：中島安敏
B面：とどかぬ想い

和製ポップスの夜明けを告げる画期的な1作。洋楽レーベルから発売され、英語詞の作詞も湯川れい子のペンネーム、さらにエミー自身も英国人歌手という触れ込みで売り出された。舶来の洋楽を装ったこの曲は、作家の専属制度による苦肉の作だったが、トレモロ・グリッサンドを用いた中島のメロディ&アレンジがまさしく「疑似洋楽」的なセンスに溢れていたことも成功の要因だろう。73年の安西マリアによるカヴァーも名高い。

CBS／コロムビア
1966年2月

涙のゴーゴー

エミー・ジャクソン

作詞：湯川れい子
作曲：中島安敏
B面：せつなくやるせない

エミー・ジャクソンのシングル第3作目。「涙の太陽」と同系統のテケテケ・サウンドのエレキ歌謡で、バックはレーベル・メイトのブルー・コメッツ。ブルコメのコーラスにはじまり、ファズ・ギターの響き、そして井上大輔のテナー・サックスも加わった。ビート感を強調した哀愁マイナー・メロディは中島安敏の最大特徴でもある。75年には小林美樹がなかにし礼の詞で「太陽の誘惑」としてカヴァーしている。

東芝／1967年7月5日

霧のかなたに

黛ジュン

作詞：なかにし礼
作曲：中島安敏
B面：恋のサルビア

大ブレイクした「恋のハレルヤ」に続く第2弾シングル。しっとりしたミディアム・テンポで、黛の低めのヴォーカルに男声コーラスがかぶり、全体に奥行きのあるエコーを掛けたサウンドも「霧」のイメージを表現している。この時代ならではのビート感を活かしたバンド・サウンドと、やや歌謡曲寄りのメロディの融合は見事で、彼女のウェットな「泣き」のヴォーカルを強調するものとなっている。前作に続き大ヒットを記録した。

東芝／キャピトル
1968年3月10日

すてきなエルザ

ザ・ライオンズ

作詞：藤間実
作曲・編曲：中島安敏
B面：信じておくれ

黒沢進氏曰く「素っ頓狂な合いの手」のおかげで、今やネタ曲扱いになっているが、当初は大きな期待をかけられたバンドのデビュー曲でもあり、曲そのものは素晴らしい。中島もAメロとサビの譜割りは同じままで、どちらもおいしいメロディを付けているあたり力の入れようがみてとれる。B面「信じていたい」は珍しく中島が作詞まで担当。カルトGSの代表的な1作となり、08年の映画「GSワンダーランド」でも用いられた。

キャニオン／1974年6月

泣いて泣いて

ヤン・シスターズ

作詞：片岡まどか
作曲：中島安敏
編曲：北野ひろし
B面：ルック・アット・ミー

「列島を揺さぶるピンク・ダイナマイツ」なる触れ込みで、台湾から登場してきた4人姉妹ヤン・シスターズのデビュー第2弾。いささかコミカルなイントロだが、サビの展開は完璧なソウル歌謡で、グルーヴ感の強さはやはり台湾出身の欧陽菲菲と似たところがある。この時代になると中島メロディはいささかノスタルジックに聴こえてくるが、ことにB面の鈴木邦彦による強烈なファンク歌謡と比べるとその差がわかる。

text：馬飼野元宏

CamScannerでスキャン

川口 真

ダイナミックでスケールの大きい曲調が幾多のスタンダードを生んだ

text：ガモウユウイチ

グループサウンズ・ブームが去り、本格的な歌謡曲
する直前、彗星のごとく現れてヒット曲を連発した作曲家
口真だ。彼は、1937年11月5日に兵庫県神戸市に生まれ
期は岡山県で育ち、岡山県立岡山操山高等学校を経て
大学音楽学部楽理科に入学。2年在籍ののち、作曲科へ転
中から、越路吹雪のバック・バンド、クレール・ド・シャン
ニストとして活動。その傍ら、いずみたくの事務所で編曲の
イトを始め、ミュージカル「見上げてごらん夜の星を」で編曲
ビュー。

66年には、ザ・ベンチャーズが作曲した和泉雅子・山内賢
の銀座」の編曲を担当。その後、奥村チヨ「北国の青い空」
「恋の奴隷」(69年)、ザ・テンプターズ「エメラルドの伝説」
ザ・ドリフターズ「ドリフのズンドコ節」(69年)、山口百恵
日旅立ち」(78年)、テレサ・テン「時の流れに身をまかせ」(86年
などの編曲を担当した。

69年には弘田三枝子「人形の家」で本格的に作曲家デビュー
きなりオリコン・シングル・チャート第1位に輝き、第11回日本レコー
ド大賞歌唱賞を受賞。70年には、由紀さおり「手紙」をヒット
せ、第12回日本レコード大賞歌唱賞を受賞した。その後、尾崎
紀世彦「さよならをもう一度」(71年)、布施明「積木の部屋」(74
年)、岩崎宏美「熱帯魚」(75年)、パッショナータ「卑弥呼」(7
年)、河合奈保子「愛してます」(80年) など、多数のヒット曲を
放つ。また、西郷輝彦「真夏のあらし」(70年)、夏木マリ「絹の靴下」
(73年)、金井克子「他人の関係」(74年)、内田あかり「浮世絵の街
(74年) など、歌手がイメージ・チェンジをした際、そのターニング
ポイントとなる楽曲に関わっていることも多い。その他、ドラマ『ウ
ルトラマンタロウ』主題歌「ウルトラマンタロウ」(73年)、アニメ『ろ
ぼっ子ビートン』主題歌「わたしのビートン」(76年) など、人気
子供向け番組の主題歌も担当。ダイナミックでスケール感の大きな
メロディと、クラシック的なオーケストレーションが融合した、オ
リジナリティにあふれた楽曲を多数世に放ってきた。また、作曲家
としてヒットを飛ばすようになってからも編曲家としても活躍して
いた稀有な存在だ。「真夏のあらし」では第12回日本レコード大賞
作曲賞、松原のぶえ「維新のおんな」(89年) では第31回日本レコー
ド大賞編曲賞を受賞。59回を数える日本レコード大賞の長い歴史
の中でも、作曲賞と編曲賞の2つを受賞したのは、宮川泰、川口真、
小室哲哉、若草恵の4名だけだ。

CamScannerでスキャン

クラウン／1970年8月1日

真夏のあらし

西郷輝彦

作詞：阿久悠
作曲・編曲：川口真
B面：こわれた風

御三家時代と比べて人気が低迷していた西郷輝彦がイメージ・チェンジを試みたナンバー。16ビートの激しいギター・カッティング、パワフルなホーン・セクションなど、ブラス・ロックの影響を感じさせる激しいサウンド。中間部でのシャウト、最後のアドリブでの掛け声など、彼の歌唱も今まで以上にロック色が強い。ロック的な要素を歌謡曲に導入した最初期の作品ということで、のちの西城秀樹のスタイルにも大きな影響を与えた。

東芝／Express
1970年12月21日

おんなの弱点教えます

ゴールデン・ハーフ

作詞：阿久悠
作曲・編曲：川口真
A面：ケ・セラ・セラ

70年に「黄色いサクランボ」でデビューした、エバ、マリア（森マリア）、ルナ（高村ルナ）、ユミ、エリーによるゴールデン・ハーフのセカンド・シングル「ケ・セラ・セラ」のB面曲。ジャケットにはエリーも写っているが、この時すでに脱退していた。カントリーの影響を感じさせるシャッフルのミディアム・ナンバーで、バックの演奏は江藤勲（Bs）などによるソフト・ロック・サウンド。のちにユミも脱退して3人組となった。

フィリップス／1971年7月25日

さよならをもう一度

尾崎紀世彦

作詞：阿久悠
作曲・編曲：川口真
B面：夕やけの誓い

大ヒットした「また逢う日まで」（71年）に続くシングルで、12/8拍子のロッカ・バラード・スタイルのナンバー。Aメロでは、四度進行を導入、Bメロではマイナー平行調に移調しながらも「IIm－V7－I－VI7」という循環コード進行で元のキーへ解決。まるで洋楽のスタンダードのようなスマートなコード進行と尾崎紀世彦のダイナミックな歌唱が相まって、本作品もオリコン・シングル・チャート最高第2位の大ヒットを記録。

CBS・ソニー／1971年

永遠にふたり

ビョルン・アンドレセン

作詞：阿久悠
作曲・編曲：川口真
B面：愛はここに

映画「ベニスに死す」（70年）の主演で人気だったスウェーデン・ストックホルム出身の俳優のビョルン・アンドレセン。71年に映画のキャンペーンと明治製菓エクセルのコマーシャル撮影の為に来日した際にレコーディングされたのが同コマーシャル用の本作品。マイナーの3/4拍子の楽曲で、端正なヴォーカルが哀しさを演出する。現在の北欧ポップスのイメージとは違い、英国トラッド・フォークのイメージに近い。

キング／1973年6月5日

絹の靴下

夏木マリ

作詞：阿久悠
作曲・編曲：川口真
B面：媚薬

71年に本名の中島淳子名義で「小さな恋（リトル・ラヴ）」でデビューするもヒットに恵まれずにいた彼女が、夏木マリと改名して放ったブレイク・スルー・ナンバー。ソフィア・ローレンをイメージしたコンセプトながら、サウンドはソウルフル。大胆なイメージ・チェンジが功を奏して、オリコン・シングル・チャート最高第15位を記録、約15万枚を売り上げた。その後も、「裸足の女王」（73年）など、川口真作品を歌った。

text：ガモウユウイチ

CamScannerでスキャン

コロムビア／1974年3月10日

円舞曲

ちあきなおみ

作詞：阿久悠
作曲・編曲：川口真
B面：女の旅

ちあきなおみの17枚目のシングルで、初めて川口真が担当。阿久悠は、吉村公三郎監督の映画「真昼の円舞曲」（49年）の「円舞曲」を「ワルツ」と読ませたことをヒントに本作品のタイトルを決めた。タイトル通り3/4拍子のワルツのリズムを持った楽曲で、中間部での同主調の移調がドラマティックに展開する。オリコン・シングル・チャート最高第29位ながら、約10万枚の売り上げを記録したロング・ヒットとなった。

コロムビア／1976年6月1日

嫁に来ないか

新沼謙治

作詞：阿久悠
作曲：川口真
編曲：あかのたちお
B面：女の旅

76年に「おもいで岬」でデビューした新沼謙治のセカンド・シングル。ロッカ・バラード・スタイルのシンプルなメロディに、田舎の素朴な青年の結婚観を歌った。Bメロでは平行調のマイナー・キーへ移調、そしてサビでは再び平行調のメジャー・キーへ移調して、主人公の心情を描いている。オリコン・シングル・チャート最高第31位ながら、約15万枚のヒット。第18回日本レコード大賞新人賞を受賞した。

ビクター／1977年10月5日

東京物語

森進一

作詞：阿久悠
作曲：川口真
編曲：馬飼野康二
B面：わる

森進一のシングルとしては、初めて作曲に川口真を迎えた楽曲。オーヴァードライヴのギター、クラヴィネットなど、ロック的なフィーリングを持ったマイナー8ビートのナンバーだが、森進一の個性の強い歌唱が、ドメスティックな雰囲気へと一気に引き寄せている。Bメロでは一時的に平行調のメジャー・キーへ移調している。オリコン・シングル・チャート最高第20位を記録。翌年も川口真作曲の「林檎抄」を歌った。

キング／1977年10月21日

薔薇とピストル

ギャル

作詞：阿久悠
作曲：川口真
編曲：馬飼野康二
B面：グループ

黒木真由美、目黒ひとみ、石江理世のアイドル3人が新たに結成したガールズ・コーラス・トリオ、ギャルのデビュー・シングル。キャンディーズにディスコ要素をさらに追加したようなサウンドの楽曲にパンチ力たっぷりの歌唱を融合。3人とも「スター誕生！」出身なだけあって、歌唱力とコーラス・ワークはお見事。のちに石江理世が脱退して、中世古明代が加入するが、79年に解散した。

フィリップス／1980年9月5日

毎日がバレンタイン

柏原よしえ

作詞：阿久悠
作曲：川口真
編曲：木森敏之
B面：100%のかなしみ

1980年6月にシングル「No.1」でデビューした柏原よしえ（現：柏原芳恵）のセカンド・シングル。60sオールディーズ・スタイルのナンバーで、バレンタインをオールディーズ・サウンドでというコンセプトは、のちに国生さゆり「バレンタイン・キッス」（86年）に受け継がれる。シンプルなコード進行ながら、「IV−I」という進行の間に「#IVm7（♭5）」を挟むなど、細かなところに配慮が行き届いたサウンドだ。

CamScannerでスキャン

その他の組み合わせ　DISC GUIDE

コロムビア／1969年7月1日

人形の家

弘田三枝子

作詞：なかにし礼
作曲・編曲：川口真
B面：あなたがいなくても

それまで筒美京平作品を歌ってきた弘田三枝子がイメージ・チェンジとして放ったナンバー。彼女の歌唱力を存分に活かしたロッカバラード・スタイルのスケール感満載の楽曲で、杉本喜代志（Gt）、江藤勲（Bs）、石川晶（Dr）などのバックの演奏もグルーヴ感たっぷり。オリコン・シングル・チャート第1位に輝き、第11回日本レコード大賞歌唱賞を受賞した。B面「あなたがいなくても」は、近年再評価された和モノR&B。

東芝／Express
1970年4月

五月のバラ

津川晃

作詞：なかにし礼
作曲・編曲：川口真
B面：愛の嵐

ドイツ出身で、ジャッキー吉川とブルー・コメッツの兄弟バンドのブルー・ファイアでも活動したフランツ・フリーデルが、津川晃と改名。ソロ第2弾としてリリースされたのが本楽曲。12/8拍子のロッカバラード形式のスケール感の大きいドラマティックなナンバーで、ブレンダ・リー、尾崎紀世彦、布施明、秋川雅史など、実力派シンガーたちがこぞってカヴァー。川口真作品の中でも最もカヴァーが多い楽曲となった。

東芝／Express
1970年7月5日

手紙

由紀さおり

作詞：なかにし礼
作曲・編曲：川口真
B面：女に生れて悲しくて

由紀さおり名義での5枚目のシングル。「A－B－A－C」という形態の構成で、「C」の部分では、枯葉進行とも呼ばれるいわゆる四度進行で構成されている。ダイアトニック・コード中心の進行の中大きく躍動するメロディ・ラインは、宮川泰に「よく出来ている、いい曲だ」とほめられたという。オリコン・シングル・チャート第1位に輝き、約68万枚を売り上げて、第12回日本レコード大賞歌唱賞を受賞した。

ビクター／1971年11月5日

片想い

中尾ミエ

作詞：安井かずみ
作曲・編曲：川口真
B面：それが何になる

もともとは、ヤマハのポプコン用に書かれた楽曲で、槇みちる（まきみちる）が69年11月にリリースした「鈴の音がきこえる」のB面に収録された。それを中尾ミエが71年にシングル曲としてカヴァー。ただし、その当時はヒットには結びつかず、ヒットしたのは6年後の77年。札幌の有線放送で人気に火が付き、77年6月に急きょ再発売。3度目の正直で、オリコン・シングル・チャート最高第28位、約18万枚を売り上げた。

CBS・ソニー／1973年3月21日

他人の関係

金井克子

作詞：有馬三恵子
作曲・編曲：川口真
B面：蜜の誘惑

印象的なコーラスと、個性的な振付けで一躍大ヒット。ちなみにテレビなどでは「パッパッパヤッパー」と歌われがちだが、レコードでは「パンパンパパンパン」と歌っている。動きの少ないメロディ・ラインは川口真作品の中では異質で、16音符を多用したメロディを繰り返しながら独自のグルーヴ感を生み出している。ウィスパー・ヴォイスのような歌唱で彼女の新境地を開き、オリコン・シングル・チャート最高第7位を記録した。

text：ガモウユウイチ

CamScannerでスキャン

CBS・ソニー／1973年8月1日

浮世絵の街

内田あかり

作詞：石坂まさを
作曲・編曲：川口真
B面：恋のさいはて

67年に東芝より本名の大形久仁子名義で「明日を愛に生きて」でデビュー。ソロとしてはヒットに恵まれず、73年に内田あかりに改名してリリースした第1弾が本作品。金井克子と同様のコンセプトで制作されたが、鼓、琵琶、琴など、和楽器を総動員したエキゾティックな雰囲気たっぷりの楽曲で、初のオリコン・シングル・チャート入りを果たした。最終的には、最高16位を記録。約17万枚を売り上げるヒットとなった。

CBS・ソニー／1974年2月21日

波止場エレジー

金井克子

作詞：有馬三恵子
作曲：川口真
B面：あなたしだい

「他人の関係」と同路線の「人間燈明」に続いて発売されたシングル。方向性を軌道修正、16ビートのノリをもった8ビートで、ニュー・ソウルの影響を感じさせるミディアム・バラード。とはいえ、ソウルフルな歌唱では無く、ここでもささやくようなウィスパー・ヴォイスによる歌唱で、小粋でクールな雰囲気を生み出している。オリコン・シングル・チャートでは最高65位を記録。B面の「あなたしだい」は「他人の関係」路線。

キング／1974年3月10日

積木の部屋

布施明

作詞：有馬三恵子
作曲・編曲：川口真
B面：愛の孤独

歌唱力に定評があった布施明へ初めて提供したシングル楽曲。当時、自らも歌唱力に自身があった彼は、上手すぎて書き譜の通りに歌わずフェイクして歌うことが多かった。それで、渡辺プロの渡辺晋社長から、「フェイクできない歌を作ってほしい」という提案があり、細かい音符で畳みかけるメロディとなった。オリコン・シングル・チャート最高第4位を記録、約58万枚を売り上げ、第16回日本レコード大賞で歌唱賞を受賞した。

RVC／1978年3月5日

コーラスガール

和田アキ子

作詞：竜真知子
作曲：川口真
編曲：馬飼野康二
B面：まどろみの夜風に

68年に「星空の孤独」でデビューした和田アキ子のデビュー10周年を記念した31枚目のシングル。「あの鐘を鳴らすのはあなた」路線のミディアム・バラードで、サビの最後のフレーズを2度繰り返す部分がフォークらしさを感じさせる。とはいえ、彼女の黒っぽい声とソウルフルな歌い回しで、個性的な楽曲に仕上がっており、彼女の隠れ名曲として人気も高い。翌年にも川口真作曲による「夢まであずけて」を歌った。

東芝／1978年11月5日

ラブ・ショック!!

マーガレット・ポー

作詞：森雪之丞
作曲：川口真
編曲：萩田光雄
B面：可愛い罠

台湾・台北出身で、現地で女優として活躍していたマーガレット・ポーは、78年に本楽曲で日本デビュー。アイドルらしいポップ・ナンバーで、パッシング・コードの「#IVdim」や、モーダル・インターチェンジの「IVm6」の使用など、音楽的にも洗練された楽曲に仕上がっている。絶妙なカタコトも魅力的だった。4枚のシングルを残して、台湾に帰国。歌手、女優として活動していたが、結婚して引退。現在は女優として復帰。

CamScannerでスキャン

PART 3

歌謡ポップスから演歌まで

演歌とポップスの境目はどこにあるのか？　ポップス隆盛期の60年代に登場してきた、演歌やムード歌謡のコンポーザーたちもまた、新たな日本の歌謡曲を作るため、斬新な作風の楽曲を数々世に送り出した。

CamScannerでスキャン

PART 3

歌謡ポップスから演歌まで

text：馬飼野元宏

職業作曲家の概念を考える上で、重要な点はその作曲家の作風にある。

そもそも職業作曲家とは、「ヒット曲を書く」というのが第一義であり、いわゆる自作自演者＝シンガー・ソングライターやバンド、グループの作家などに見られる、アーティストの音楽性を第一義と考える作曲法とは、そもそもの概念からして異なっているのである。平たく言えば、職業作曲家とは、基本どんなタイプの楽曲でも書けるというのが条件であり、その中に作曲家の作家性を見出すこともあるだろう。

一例を挙げれば「或る日突然」や「翼をください」など、ソフト・ロック的な洗練された音楽を多く生み出した村井邦彦は、いっぽうで勝新太郎主催の勝プロの映画作品に、ジャズ・ファンク的な映画音楽を書いたり、北原ミレイの「ざんげの値打ちもない」といった楽曲も生み出している。尖った作風のものから、ドメスティックな純歌謡曲まで、職業作曲家の作風は幅広い。筒美京平のように、トレンドの洋楽を歌謡曲に落とし込むことを長く続ける形で活躍した作曲家も、その根底にある独自のメロディ・ラインやコード進行の共通性があり、それが職業作曲家のベーシックな音楽性といえるだろう。

60年代後半から、歌謡曲の一翼を担うジャンルとして「演歌」が台頭してきた。四七抜き音階と呼ばれるスタイルに代表される「演歌調」の楽曲というものがあり、このジャンルで数多くのヒットを飛ばした職業作曲家も数多い。源流は古賀政男が生み出した「古賀メロディ」と呼ばれるスタイルの楽曲だが、これが50年代後半からまに地方の聴き手を対象とした幾多のヒット曲を生み出してきた。いわゆる「望郷演歌」と呼ばれるもので、春日八郎「別れの一本杉」や三橋美智也の「リンゴ村から」などがその代表。

演歌興隆期の歌い手としては民謡出身の三橋、浪曲出身の三波春夫や村田英雄、そして「柔」「悲しい酒」に代表される美空ひばりがいるが、もともと美空ひばりは都会的でモダンな楽曲を歌う先鋭的なシンガーであった。だが、抜群の吸収力と咀嚼力をもつひばりは、結果としてジャズから演歌まで幅広い音楽性を必然的に獲得してしまう。

CamScannerでスキャン

こういったひばりの演歌的側面で印象的な作品を作曲してきたのが、船村徹であった。

船村徹はキングの専属作曲家を経てコロムビアに移り、幾多の大ヒットを飛ばしている。代表作にはもちろん演歌が圧倒的に多い。だがその一方で、内藤洋子の「白馬のルンナ」や海堂はじめの「スナッキーで踊ろう」など、後年に和モノ好きの間で再評価される、全く独自の発想によるポップスも生み出しているのだ。ポップスの作曲家が演歌も書けるように、演歌の作曲家もポップスが書けるというのは、ある意味当然のことなのであるが。それは、千昌夫「北国の春」や渥美二郎「夢追い酒」など、わかりやすく誰でも歌える演歌の名曲を数多く書き、70年代後半からのカラオケ・ブームに多大な貢献をした遠藤実も同じである。遠藤の場合はやや特殊なケースで、日本マーキュリーの専属作曲家から、後にコロムビアの専属となり、65年3月には太平音響の設立に加わり、初代社長の死去に伴い、68年には自身の名を冠したレコード会社「ミノルフォン・レコード」に改名し、社長となる。いわば自分のレコード会社の専属作曲家になってしまったようなものだ。

このミノルフォン・レコードの最初の大ヒット曲が、遠藤が書いた山本リンダのデビュー曲「こまっちゃうナ」なのだ。ミノルフォンの屋台骨を支えたのは千昌夫「星影のワルツ」の大ヒットだといわれているが、同社最初のヒットが、軽快なロックンロールによるアメリカン・ポップス・スタイルの「こまっちゃうナ」であったことは、楽曲の即効性と持続性を考える上では面白い結果である。

66年には、猪俣公章が森進一「女のためいき」で作曲家デビュー。ビクターの演歌路線を担った森進一に幾多の傑作を書き下ろしたほか、水原弘を「君こそわが命」で再生させ、内山田洋とクール・ファイブや藤圭子など、革新的な演歌の歌い手にも楽曲提供、いっぽうでテレサ・テン「空港」など、ポップスと演歌の中間に位置する歌謡曲も数多く手がけている。船村徹は演歌系で初のフリー作曲家として成功を収めた人物であり、既にこの時代、演歌ジャンルでも専属作家制度は古い体質のものとされてきたことがよくわかる。

一方でポップス系の出自ながら、演歌、ムード歌謡寄りの、ややドメスティックな作風を得意とする作曲家も数多く現れた。ロカビリー出身の中村泰士、同じく歌謡曲歌手からの転向である浜圭介、船村徹に歌手志望で弟子入りしながら、作曲家となった三木たかしなどである。伊東ゆかり「小指の想い出」に代表される歌謡ポップスを得意とした鈴木淳もまた、この枠に入れてもいいだろう。彼らはまだ歌謡曲がアイドル・ポップスと演歌に二分される前の時代、「純歌謡曲」としか言いようのない楽曲と歌い手が主流であった70年代前半に幾多の名作を生み出した。中村泰士が書いたちあきなおみの「喝采」などは、歌謡曲以外の形容が思い浮かばないほどに歌謡曲なのである。彼らの書いたナンバーは、70年代歌謡曲シーンの中道に位置するものである。

CamScannerでスキャン

中村泰士

ドラマティックなメロディ作りの達人が放った傑作「喝采」

1939年5月21日、奈良県に6人兄弟の末っ子として生まれた。ロカビリー歌手として活動していた時期もある。平尾昌晃は2歳上、大野克夫は同い年、藤本卓也（柚木公一）は1歳下、井上忠夫（大輔）は2歳下にあたる。

中学1年生のときに吹奏楽部に入り、トロンボーンを担当。高校の頃はよく授業をサボって大阪ミナミのジャズ喫茶、ダンスホール、キャバレーなどに通って、さまざまな音楽を聴いた。その後、本格的な音楽活動を開始し、58年頃には“内田裕也とブルージーン・バップス”のバンド・ボーイ兼シンガーに。上京後は“三上貞雄とレッド・コースターズ”（中村退団後の63年、映画『現代っ子』に登場）の専属歌手を経て、62年4月、美川鯛二という芸名で東芝音楽工業から歌手デビューを果たした。「野良犬のブルース」「赤いヨットは死んでいた」「泣いていたのさ」などをリリース、別会社からソノシート「網走0番地」（「網走番外地」と同じメロディを持つ）も出しているが、ヒット・チャートをにぎわすことはなかった。66年9月には補作詞を手がけた園まり「夢は夜ひらく」が発売され、翌67年にはGS（グループ・サウンズ）路線に転換したスウィング・ウエストの「恋のジザベル」の作詞・作曲を担当。小畑ミキのひとりGS歌謡「ジェーン・ジェーン（愛してる？）」も、この年のナンバーだ。さらに68年、ナンバー・ワン・ヒット「今は幸せかい」を作詞・作曲。かつて中村と同じ芸能事務所に所属していた歌手仲間、佐川満男(旧芸名：佐川ミツオ）は、この曲で低迷を脱し、歌謡シーンの中央に返り咲いた。

そして中村も一躍、トップ・ソングライターの仲間入りを果たす。「また、このようなヒットが出せるだろうか？」と悩みながらも、浜口庫之助らの励ましを得て、メロディ・メイカーとしての才能をどんどん開花させ、いしだあゆみ、ザ・ピーナッツ、オックス、ヒデとロザンナ、ヴィレッジ・シンガーズ、奥村チヨ等に快作を次々と提供。ちあきなおみへの楽曲も「禁じられた恋の島」（72年5月リリース）から始まり、9月に発売された「喝采」は第14回レコード大賞を獲得した。1オクターヴ半もの広い音域を使ったスケールの大きなメロディ・ラインが、聴いているうちにありありと風景が浮かんでくるような吉田旺の歌詞、あまりにもきめ細かなちあきの歌唱とあいまって、まるで起伏に富んだ一本の映画を見切ったようなインパクトをもたらす。ちあきには「劇場」「夜間飛行」なども提供しているが、いずれも作詞家・作曲家・歌手が等分に才能をぶつけあった歌謡曲史上の傑作だ。

text 原田和典

CamScannerでスキャン

中村はまた、同時期からテレビ番組「スター誕生！」の審査員としても活躍。「天使も夢みる」「わたしの青い鳥」「花占い」などを獲得した桜田淳子だけではなく、しのづかまゆみ、森ちえ子、日高ひとみ、矢野良子など、やはり同番組に合格した女性アイドルに楽曲を寄せている。中森明菜も「スタ誕」出身者だが、78年と80年には本選出場をしたものの、そのときは残念ながら不合格に。しかし81年、3度目の本選で山口百恵の「夢先案内人」（作曲：宇崎竜童）を歌った彼女を中村は絶賛。個人審査員が持てる点数としては最高点の99点をつけるだけでなく、収録の休憩中に他の審査員にも必死に中森の才能をアピールした。結果、決戦大会に進出、11社のスカウトマンがプラカードをあげた。しかし中村が中森明菜に提供した楽曲は（本稿執筆時点では）ないようだ。カヴァー曲を集めた『歌姫』シリーズでもとりあげられた形跡がない。

演歌方面の楽曲では、細川たかしのデビュー作「心のこり」が印象深い。"いかにも民謡の演歌"というべきメロディと[illegible]の に、サビで突如ニール・セダカの「恋の日記」風のメロディになるところは、ロカビリー出身の戦後派・中村の面目躍如という感じだ。細川は82年に「北酒場」で第25回日本レコード大賞を受賞。中村に「喝采」以来、10年ぶり2度目のグランプリをもたらす（2012年の第54回では「功労賞」受賞）。85年には、五木ひろしに提供した「そして…めぐり逢い」が同大賞の金賞に選ばれた。都はるみのシングル「危険な関係／横須賀ラスト・ナイト」（83年リリース）も、すこぶる面白い。中村は彼女を大御所演歌歌手というよりは、ひとりのレディとして捉えたのではないか。これぞ都はるみイズムというべき"うなり"を封印、抑え気味の歌唱でメロディを綴らせている。前者はイントロ部分からスキャットが活躍し、中村とのデュエットによる後者ではサックスやヴィブラフォンもフィーチャーされる。アーバン演歌、という言葉が思い浮かぶ。

1995年には奈良県知事選、96年には第41回衆議院議員総選挙に大阪府第3区から立候補するが、いずれも落選。2003年、シングル「昭和時代のおやじ達」とアルバム『人生満喫』を同時リリースして歌手活動を再開した。2016年には盟友の佐川らを迎え、満77歳の誕生日である5月21日に喜寿記念公演「～大阪を歌謡曲の聖地に～中村泰士Kiju'77　コンサート」を大阪・難波千日前のイエスシアターで開催。トータル7時間07分をかけて、全79曲を届けた。

『人生満喫』
中村泰士
シンガー・ソングライターとして再デビューした2003年のアルバム

参考資料：『まがって、シャン！』遊タイム出版

CamScannerでスキャン

中村泰士作曲作品

テイチク／1967年7月10日

ジョーン・ジョーン（愛してるア）

小畑ミキ

作詞：小畑ミキ
作曲：中村泰士
編曲：[illegible]
B面：[illegible]

当時1年のしとおりファッション・モデルとなり、その後中村に師事して歌手デビューした。[illegible]シングルで、[illegible]ラストにパッタをつける。「ジョーン・ジョーン」が[illegible]は不明ながら、主人公の少女が[illegible]て、その誰かに自分を愛しているか[illegible]場面は浮かんでくる。間奏ではいきなり[illegible]化、ギター・ソロがフィーチャーされるのも斬新。

コロムビア／1968年10月10日

今は幸せかい

佐川満男

作詞・作曲：中村泰士
編曲：小林亜星
B面：甘い嘘

「[illegible]かったのかい」という歌い出しが何度も出てくるところでタイトルのフレーズが登場するのかなと思ったら、ラスト近くでやっと「今は幸せかい」と問い始める。これは主人公の胸の中での問いかけで、思いを寄せている人はもう他の男のところに行ってしまったのだ。やるせない男心をあえてサラッと描き、余白を聴き手にゆだねる。そのさじ加減が憎い。佐川は以後もこの曲を歌い続けており、年輪を加えた円熟も実にコクがある。

コロムビア／1970年5月25日

愛は傷つきやすく

ヒデとロザンナ

作詞：橋本淳
作曲：中村泰士
編曲：森岡賢一郎
B面：涙をうばって

70年代を風靡した男女デュオ、ヒデロザの代表曲。マカロニ・ウェスタン、という言葉が思い浮かぶ。短調で始まるがBメロで長調になり、2人の声が重なりあったり、ユニゾンになったり、起伏に富んだ展開でエンディングまでもつれこむ。随所で挿入されるマカロニ風のトランペットも秀逸だ。熱湯と冷水を交互に引っかけられているような気になるが、この曲は見事オリコン1位に輝き、紅白歌合戦初出場につながった。

…ング／1970年9月

大阪の女

ザ・ピーナッツ

作詞：橋本淳
作曲：中村泰士
編曲：森岡賢一郎
B面：青白いバラ

ザ・ピーナッツの通称"女（ひと）シリーズ"は、シングル盤では東京→大阪→サンフランシスコ→リオと続き、そこにアルバム収録曲「古都の女」が加わる。作曲は沢田研二が書いた「東京の女」以外、すべて中村が担当した。なかでも「大阪」は演歌テイストというか、この少し後に歌謡曲界をにぎわすディスカバー・ジャパン調の旋律とアレンジ。構成はABA形式で簡潔だが、ラストの「大阪を〜」でアカペラになるアイデアは卓抜。

…ビア／1971年5月10日

砂漠のような東京で

いしだあゆみ

作詞：橋本淳
作曲：中村泰士
編曲：森岡賢一郎
B面：24時間の恋

「ブルーライト・ヨコハマ」「あなたならどうする」に続く、日本コロムビア時代のヒット曲（オリコン3位）。内山田洋とクール・ファイブの「東京砂漠」（作曲も内山田）が世に出たのはこの5年後、76年のことである。オカリナ（リコーダーかもしれない）を使った前奏に続き、音を垂らしていくように歌ういしだの声はレイジーですらある。"尽くすのよ"という箇所、一度力を抜いて"よ"の箇所でスッと伸ばす。ああ、なまめかしい。

原田和典

コロムビア／1972年9月10日

喝采

ちあきなおみ

作詞：吉田旺
作曲：中村泰士
編曲：高田弘
B面：最後の電話

いろんなモティーフ（メロディ）が湧水のように湧き出て、それらが収斂されてひとつの大きな流れになり、巨大な渦を描いていく図が見える。歌詞も旋律も編曲も歌唱も破格のスケール感、この200秒余りをたとえば歌劇で表そうとするととても1時間では足りないだろうし、小説にしたら前後編ものになるかもしれない。レコーディングは2度通して歌っただけで終了、中村の著書によるとテイク1が採用されたという。神技だ！

コロムビア／1973年6月25日

夜間飛行

ちあきなおみ

作詞：吉田旺
作曲：中村泰士
編曲：高田弘
B面：二年前の秋

欧米のポピュラー・ソングによく登場する〝ヴァース〟的なものを導入したヒット歌謡はこれとザ・キングトーンズ「グッドナイト・ベイビー」が双璧だろう。「喝采」のスケールの大きさは残しつつも、ワン・コーラスをシンプルにまとめ、よりブラッシュ・アップした楽曲。すべての言葉がメロディの上昇下降と密着し、ちあきはうねるように歌い綴る。副題は「LE VOL DE NUIT」、フランス語のアナウンスも異国感を増幅する。

ビクター／1973年8月25日

わたしの青い鳥

桜田淳子

作詞：阿久悠
作曲：中村泰士
編曲：高田弘
B面：恋人になって!!

桜田淳子は、テレビ番組「スター誕生」グランドチャンピオンに輝いてデビューした。初期シングル5作品はすべて中村が作曲、中でも最も有名なのがこの曲だろう。ザ・ドリフターズ（アメリカのヴォーカル・グループ）のヒット曲「ラスト・ダンスは私に」風のラテン・リズムと豪華なオーケストレーションが、語りかけるような彼女の（決して技巧的ではない）歌を明るく盛り立てる。〝クックック〟という歌詞は中村の発案だそうだ。

コロムビア／1982年3月21日

北酒場

細川たかし

作詞：なかにし礼
作曲：中村泰士
編曲：馬飼野俊一
B面：幸子

「心のこり」と双璧をなす、細川＝中村のコラボレーション。発売当時、細川がテレビ番組「ザ・ベストテン」で松田聖子や田原俊彦と並んで脚光を浴びていた姿を思い出す。演歌の明るさ、乗りの良さ、楽しさを低年齢ファンに伝導した……といってもさほど間違いではないだろう。快調なリズムにのったメジャー・キーの楽曲で、構成はABCC' Aに感じられる。2度目のAで高音の男性ハモリが細川の声に薄くかぶるところも聴きもの。

コロムビア／1983年5月21日

横須賀ラスト・ナイト

都はるみ・中村泰士

作詞：吉岡治
作曲：中村泰士
編曲：高田弘
A面：危険な関係

アンコ椿、連絡船、北の宿、とルーラル寄りの題材を歌ってきた都はるみを、中村はアーバンなレディにした。ファンキーなギター・カッティングに始まり、あまり音程はよくないがテナー・サックスの音も聴こえる。コブシも力みも控えた都の歌唱と、中村自身の優しいテノール・ヴォイスが横須賀を舞台にした恋物語を演じる。「浪花恋しぐれ」に都の男女デュオ曲を集約させてはならない。ヴィブラフォンを生かした間奏も洒落ている。

CamScannerでスキャン

text：原田和典

ちあきなおみ

創造の神が、ひとしくみんなに降りてきた。

「喝采」を聴くたび、こう思う。作詞・吉田旺、作曲・中村泰士、編曲・高田弘、歌唱・ちあきなおみ。だれひとり何かにとりつかれていない者はいない、まさにこのときこの瞬間に、4者の芸術的美点が炸裂した。

あまりにも沁みる曲なので、「喝采」の魅力を吸い尽くしたいと思い、いろんなカヴァー・ヴァージョンにもCDや動画サイトを通じて触れた。そのなかには、名だたる実力派のものも、「無謀にも、ほどがある。恥を知れ」といいたくなるものもあった。が、どちらにせよ“ちあきなおみという歌い手は、不世出中の不世出であった”という結論に行きつく。

中村はテレビでたまたま、ちあきがデビュー曲「雨に濡れた慕情」(69年6月リリース、作曲:鈴木淳、オリコン23位）を歌っているのを見て感銘を受けた。そして日本コロムビアのディレクターのところに赴き、彼女に曲を提供したい意思を告げる。別項でも触れた著書『まがって、シャン！』によると、ディレクターと面談した時点で中村はコ社に「今は幸せかい」(佐川満男、68年10月リリース)、「喧嘩のあとでくちづけを」(いしだあゆみ、69年11月リリース）などのヒットをもたらしていたというから、そうなるとこれは69年末以降の話だ。

初提供曲「禁じられた恋の島」は72年5月に登場した。作詞は70年3月発売「モア・モア・ラヴ」以来のシングル登板となる吉田旺。だが、しかし。中村は著書で「ところが、これが全く売れない！！　私としては最良のメロディ、ドラマティックないい詞だと思ったのだが、売れなければマズい」と記している。

しかしコロムビアは吉田・中村コンビ続投を決めた。中村は曲を書きあげ、2行だけ詞を添えて、吉田に届けた。ということは、ほぼ“曲先”である。あまりにも起伏に富んだメロディ展開から、ぼくはてっきり詞先だと思っていたのだが（詞が長いので、そこに旋律をつけているうちに、あんな壮大な展開になったのだろうと推測していたのだ)、そうではなかった。

ではなんでこんなふうになってしまったのか。ぼくは勝手に推測する。中村には、ちあきに歌ってほしいメロディが山のようにあった。しかし今回の曲で成果を出さなければ自分はおろされ、ちあきの音楽に関わるチャンスを奪われてしまうかもしれない。それはいやだ。ヒットを出さなければ。そのためにはキャッチーであることは不可欠だ。しかしその箇所がひとつである必要はない。強いフックを持ついろんなタイプのメロディを、スムーズにつなげよう。それらが“ちあき節”で表現された時、何がもたらされるか？　感動である。

仮タイトル「幕が開く」は「喝采」と改題され、72年9月に発売される。オリコン・チャートでは意外にも最高2位。しかしこのとき首位だった曲が今、どのくらい親しまれているか。聴き継がれ、記憶に刻まれているのは明らかに「喝采」だ。中村は続いて「劇場」、「夜間飛行」「あいつと私」をちあきに提供する。曲の才人と歌の才人が互いを高め合っていく姿が見えるような傑作ばかりだ。しかし『ちあき・シングス・中村』的なアルバムは制作されずに終わった。彼女のレパートリーには、レコード会社の意向もあるのだろうか、しだいに演歌調のものが増えていく。

CamScannerでスキャン

COLUMN

歌謡曲黄金時代を彩ったアレンジャーたち

text：馬飼野元宏

「ソウル
これっきりですか」
マイナー・チューニング・バンド
編曲：ヒーロー・高田

「エトセトラ」
大場久美子
作詞：小林和子
作曲・編曲：萩田光雄

「恋人よ」
五輪真弓
作詞・作曲：五輪真弓
編曲：船山基紀

「Sweet Memories」
松田聖子
作詞：松本隆
作曲・編曲：大村雅朗

60年代までは作曲家がアレンジも兼任していたことがほとんどで、あるいは最初はアレンジャーとして先輩にあたる作曲家の楽曲を編曲し、そのうち曲も書き始めるというパターンが多かった。この時代は専属作家制度が存在していたが、「作曲家」としてレコード会社に所属していながら、編曲ばかりを数多くこなしているといった者も多かった。ここでは、60年代から80年代中期までの歌謡曲全盛時代を支えたアレンジャーたちの系譜を辿っていきたい。

フリーのアレンジャーの第1号が誰であったかは、今となっては不明であるが、最初に名を成したフリー・アレンジャーとしては**森岡賢一郎**がいる。森岡は1934年熊本県生まれ。團伊玖磨に作曲を師事し、初期は渡辺プロダクションの作品を多く手がけ、宮川泰とともに『ザ・ヒットパレード』の編曲を担当。1966年に加山雄三が大ヒットさせた「君といつまでも」の編曲で注目された。

森岡賢一郎のアレンジ技法は、リズム・セクションをベースにオーケストレーションやアンサンブルを自在に編んでいくスタイルで、それまで編曲というとビッグ・バンドやオーケストラの楽器編成にメロディを充てる形が一般的であったが、森岡の登場で歌謡曲における編曲の概念は一変する。和製ポップスの興隆期には数多くの名曲に鮮烈なアレンジを施しており、この時期の注目すべきアレンジの代表作には伊東ゆかり「小指の想い出」「恋のしずく」、小川知子「ゆうべの秘密」、ジャッキー吉川とブルー・コメッツ「ブルー・シャトウ」、布施明「霧の摩周湖」、ザ・ワイルドワンズ「想い出の渚」、中村晃子「虹色の湖」など枚挙に暇ない。また加山雄三には「お嫁においで」「夜空の星」「蒼い星くず」など幾多の名アレンジを施し、さらに70年代に入っても小柳ルミ子の作品をデビュー曲「わたしの城下町」から連続して手がけ、ステージのバンド・マスターでも活躍した。一方森進一ら演歌系にも鋭いアレンジを提供している。

作曲家としても数多くのヒット曲をもつ**川口真**は、1937年生まれ。いずみたくのオールスタッフで編曲を手がけてきたが、最初に注目されたのは、ベンチャーズのインスト曲に詞を乗せ和泉雅子と山内賢が歌った「二人の銀座」のアレンジである。インスト・ナンバーゆえの幅広い音域を歌物に変える際、鮮やかでかつ絶妙なアレンジ・

CamScannerでスキャン

ワークを施し、これを機にその後、奥村チヨ「北国の青い空」渚ゆう子「京都の恋」欧陽菲菲「雨の御堂筋」を立て続けに編曲し、ベンチャーズ歌謡は川口アレンジ、が定着した。

川口アレンジの特徴は、主に自身の作曲作品に顕著だが、西郷輝彦「真夏のあらし」や青木マリ「雨の降下」にみられるR&Bベースのファンキーなサウンド・メイクと、弘田三枝子「人形の家」や中尾ミエ「片想い」などに象徴される、ヨーロピアン・スタイルの日本人離れしたメロディとが合わさったスケールの大きな展開である。また、金井克子「他人の関係」のように、イントロが歌メロ以上に有名になった例もあり、これぞ川口アレンジの真骨頂と呼べるだろう。通常、作曲でヒットを飛ばすようになるとアレンジ仕事は減っていくのが常だが、川口の場合はヒット・メーカーとなって以降もアレンジ単体の仕事を多く引き受け、その代表的な作品に山口百恵の「いい日旅立ち」やテレサ・テンの「時の流れに身をまかせ」などがある。

ストリングス・アレンジに長けたアレンジャーには**高田弘**がいる。1934年生まれで、60年代にはキングの専属として主にムード歌謡系のアレンジを数多く手がけている。シンプルでリリカルな編曲が特徴で、ことに筒美京平との仕事では、麻丘めぐみのデビュー曲「芽ばえ」での流麗なストリングス使い、リズム・セクションとストリングスの動きでスケールの大きなサウンドを構築した南沙織の「女性」、AOR・フュージョン的なサウンドをきかせた野口五郎の「グッド・ラック」など随所で印象深い編曲を手がけている。また中村泰士とも多く組み、ちあきなおみの「喝采」に始まる3部作や、初期桜田淳子の「天使も夢みる」「わたしの青い鳥」などの楽曲でも、繊細なアレンジを施した。江利チエミの「酒場にて」など、演歌

になりそうでならない、[illegible]歌謡曲」的な作品に[illegible]アレンジ[illegible]な中、76年のヒット曲[illegible]仕立てたマイナー・チューニング[illegible]「これっきりですか」[illegible]レンジ仕事で、オリコン2位の[illegible]

ペドロ&カプリシャスの[illegible]た**竜崎孝路**は、19[illegible]年生まれ。[illegible]のアレンジでその名を知られる。[illegible]では「若葉のささやき」「思い出のセレナーデ」など絶頂期の天地真理作品や、こちらも人気のピークであった同期の桜田淳子の「はじめての出来事」「十七の夏」などの傑作、キャンディーズ「あなたに夢中」などがある。平尾作品で[illegible]言っても「必殺」シリーズの主題歌で、西崎みどり「旅愁」や鮎川いずみ「冬の花」などの歌唱に加え、同番組の音楽を一手に引き受けている。ほかに研ナオコ「愚図」や八代亜紀「舟唄」「雨の慕情」など、哀愁の旋律を活かすシンプルでしっとりとしたアレンジが特徴で、ことにダンチョネ節を挿入した「舟唄」の構成力の見事さは竜崎ならではの腕前だ。

ヤマハ音楽振興会出身の**萩田光雄**は、1946年生まれ。73年に高木麻早「ひとりぼっちの部屋」の編曲でデビューし、翌年には筒美京平に抜擢され小林麻美の「ある事情」と太田裕美の「雨だれ」で歌謡曲のアレンジを手がけた。太田裕美では数々の編曲を施し、76年の「白い約束」以降は山口百恵のアレンジでも活躍。ことに阿木燿子、宇崎竜童と組んだ一連の楽曲では「横須賀ストーリー」「プレイバックPART2」など、ギター・サウンドをベースにしたダイナミックなアレンジを手がける。その最高傑作は「曼珠沙華」であろう。一方ではフォーク、ニューミュージック系の作家が書いたナンバーにも萩田は重用され、布施

CamScannerでスキャン

明の「シクラメンのかほり」や梓みちよの「メランコリー」などがその代表作。75年、76年と2年連続でレコード大賞編曲賞を受賞している。また久保田早紀「異邦人」やあみん「待つわ」にみられる鮮烈なフレーズを持ったイントロも萩田アレンジの特徴といえるだろう。

萩田のヤマハでの後輩にあたる**船山基紀**は1951年生まれ。中島みゆきのデビュー曲「アザミ嬢のララバイ」で編曲家としてデビューし、77年には沢田研二の「勝手にしやがれ」の編曲で注目を浴びる。これ以降、阿久悠=大野克夫コンビの沢田作品には船山アレンジが欠かせないものとなり、「憎みきれないろくでなし」「サムライ」「ダーリング」など立て続けに放ったジュリーの大ヒットを支えていく。また庄野真代「飛んでイスタンブール」ではギリシャの民族楽器ブズーキを用いてエキゾティックなアレンジを施し、その後のエスニック歌謡ブームの先鞭をつけ、さらには77年デビューの渡辺真知子のサウンド・プロデューサーとしても腕を奮った。五輪真弓の「恋人よ」も船山作品である。

船山アレンジの特徴は、歌部分の主旋律からは想像もつかないような意表を突くイントロを作り上げることで、沢田研二「勝手にしやがれ」や渡辺真知子「迷い道」などの大胆かつダイナミックなイントロはその代表とも呼べる。筒美京平にも萩田光雄同様、たびたび起用され、ことにいち早くフェアライトを導入して以降は、柏原芳恵「ト・レ・モ・ロ」小泉今日子「迷宮のアンドローラ」など京平テクノ歌謡に欠かせないアレンジャーとなり、C-C-Bの一連のヒット曲や少年隊「仮面舞踏会」など80年代後半まで随所で起用された。80年代後半からはWinkに代表されるユーロビートのアレンジでも活躍。

97年に惜しくも早逝した**大村雅朗**も、やはりヤマハ出身のアレンジャーである。1951年生まれで、78年に八神純子「みずいろの雨」の編曲で一躍注目を集める。山口百恵「謝肉祭」のきらびやかな原色系のスパニッシュ・アレンジ、「青い珊瑚礁」「チェリーブラッサム」「夏の扉」といった松田聖子の初期作におけるTOTO／エアプレイ系サウンドの歌謡曲化など、歌謡曲がニューミュージックやシティ・ポップの作家陣によって一層サウンド面の変化が要求された80年代に、大村アレンジは最も有効であった。松田聖子の諸作ではその最大の成果が発揮されており、作曲までてがけた「SWEET MEMORIES」では4ビートのジャズ・スタンダード的なナンバーを聖子に歌わせ、当初はB面ながらCMに起用されてミリオン・ヒットにまでなる快挙を成し遂げた。いっぽうで佐野元春、大沢誉志幸、大江千里といった80年代に登場してきた新たなロック系アーティストのアレンジャーとしても活躍。吉川晃司の「モニカ」などはまさしく大村アレンジあっての世界であろう。

演歌寄りのアレンジでその名をよく見る**若草恵**は、1949年生まれ。ヤマハ音楽振興会でジャズ理論を学び、CM音楽の作曲などを手がけるが、中山大三郎に師事し歌謡曲の編曲をはじめた。出世作となったのは研ナオコが歌った中島みゆき作品「かもめはかもめ」のアレンジで、荘厳かつスケールの大きな若草アレンジは一躍注目を浴びた。坂本冬美のフィックス・アレンジャーとしての活躍など、演歌に強いアレンジャーに思われがちだが、郷ひろみの「哀愁のカサブランカ」での流麗でゴージャスな展開、小泉今日子「ヤマトナデシコ七変化」での意表をついたサンタ・エスメラルダ調アレンジなど随所で鋭いアレンジを聴かせている。中森明菜「難破船」は若草アレンジの真骨頂とも呼べるものだろう。

CamScannerでスキャン

鈴木 淳

日本人の琴線に触れるドメスティックなメロディ

日本人の琴線に触れる名曲を多く提供してきた鈴木淳は、1933年2月7日に山口県防府市で生まれた。早稲田大学教育学部国語国文学科卒業後、音楽之友社に入社したが、体調を崩して郷里に戻る。約2年間の療養生活を経て、国語科教諭として女子高等学校で2年間ほど勤務。その後、音楽之友社に復帰。音楽雑誌の編集に携わり、月刊誌『ポップス』の編集長に就任する。

その傍ら音楽の勉強を重ね、63年に西田佐知子に提供した「恋なんてしたくない」で作曲家デビュー。その後、テレビ番組のテーマやコマーシャル・ソングなどを中心に手がけていたが、67年に当時の妻だった有馬三恵子が作詞、鈴木淳が作曲した、伊東ゆかりの「小指の想い出」が大ヒット。作曲家としての名声を高める。69年には、女優の藤田佳子（現：悠木圭子）が作詞家としてはじめて手がけた小川知子「さよならがこわいの」の作曲を担当。有馬三恵子と離婚後は、悠木圭子と再婚。悠木圭子が作詞、鈴木淳が作曲を担当した八代亜紀「なみだ恋」（73年）は、八代亜紀のブレイクスルー作品となり、悠木圭子は本格的に作詞家へと転身した。

その他にも、黒木憲「霧にむせぶ夜」（66年）、ちあきなおみ「雨に濡れた慕情」（69年）、「四つのお願い」（70年）、小川知子「初恋のひと」（69年）、安倍律子（現：安倍里葎子）「愛のきずな」（70年）、内山田洋とクール・ファイブ「すべてを愛して」（71年）などのヒット曲を提供。中でも、ちあきなおみ、小川知子、安倍律子、八代亜紀など、ブレイクのきっかけとなった楽曲を手がけることが多い。演歌でありながら演歌色は強くなく、歌謡曲でありながらもドメスティックな雰囲気にあふれており、両ジャンルのおいしい所を同居させた作風は、多くの一般の人に広く愛される魅力を持っている。

また、長きに渡って歌手のプロデュースも手がけており、ちあきなおみ、八代亜紀、黒木憲、田川寿美、椎名佐千子など、鈴木淳の育成により人気となった歌手も多い。自らが手がける鈴木淳音楽学院や、音楽レーベル・クレオで後進の育成も精力的に行っている。近年では、自ら設立したエイベックス・グループのJ-moreからデビューした姉妹デュオのO's、O'sの小田聡美（現在は脱退）を中心とするグループのLuxis、看護師（防衛省技官）から歌手へ転身した異色の経歴を持つ入山アキ子などの育成に力を尽くしている。

意外なところでは、東京ヤクルトスワローズ球団歌である松岡弘「とびだせヤクルトスワローズ」（75年）も氏の作曲によるもの。音楽界への多大な貢献と功績が認められ、07年には旭日小綬章を受章した。

カモウユウイチ

CamScannerでスキャン

鈴木淳作曲作品

キング／1967年2月10日

小指の想い出

伊東ゆかり

作詞：有馬三恵子
作曲：鈴木淳
編曲：森岡賢一郎
B面：夜霧にかくれて

「ロコモーション」(62年) などのヒットで和製ポップス歌手として全盛を極めていた伊東ゆかりのターニング・ポイントとなった楽曲。表現力にあふれた歌唱は10代最後のレコーディングとは思えないほど。印象的な歌詞と、日本人好みのマイナー・キーのメロディで大ヒットを記録。彼女の代表曲となり、本格的な歌謡曲路線へ舵を切った一曲となった。年末には第9回日本レコード大賞歌唱賞を受賞した。

東芝／1969年1月21日

初恋のひと

小川知子

作詞：有馬三恵子
作曲：鈴木淳
編曲：川口真
B面：ふたりになりたい

小学校時代から子役として活躍。68年に東芝からシングル「ゆうべの秘密」でデビューするやいなや、オリコン・シングル・チャート第1位を獲得した小川知子の4枚目のシングル。ダイアトニック・コード中心のシンプルなマイナー・ナンバーだが、Bメロでのシェイク風のアプローチなど、GSの名残を感じさせるグルーヴ感たっぷりの演奏は、江藤勲 (Bs)、石川晶 (Dr) などが担当。最高第4位を記録、約33万枚を売り上げた。

コロムビア／1970年4月10日

四つのお願い

ちあきなおみ

作詞：白鳥朝詠
作曲：鈴木淳
編曲：川口真
B面：恋のめくら

鈴木淳の元で1年4ヵ月レッスンを受けて、69年にシングル「雨に濡れた慕情」でデビューしたちあきなおみの4枚目のシングル。8ビートのポップ・ナンバーで、分散和音をベースにした広い音域の難しいメロディ・ラインを、見事に歌いこなす。Bメロでのシェイク風のアプローチなど、躍動感たっぷりの演奏は、杉本喜代志 (Gt)、江藤勲 (Bs)、石川晶 (Dr) などが担当。オリコン・シングル・チャート最高第4位を記録した。

キング／1970年8月1日

愛のきずな

安倍律子

作詞：加茂亮二
作曲：鈴木淳
編曲：船木謙一
B面：誰れかの恋人

札幌の音楽喫茶で平尾昌晃にスカウトされた安倍律子のデビュー・シングル。ほぼダイアトニック・コード中心のマイナー・キーのナンバーで、デビュー曲とは思えない堂々とした歌唱を聴かせた。オリコン・シングル・チャート最高第4位を記録、約42万枚を売り上げ、年末には第12回日本レコード大賞新人賞を受賞した。75年には安倍理津子名義で活動。83年より安倍里葎子名義でデュエットの女王として活躍中。

テイチク／1973年2月5日

なみだ恋

八代亜紀

作詞：悠木圭子
作曲：鈴木淳
編曲：小谷充
B面：雨のカフェテラス

71年に「愛は死んでも」でデビューした八代亜紀のブレイクスルー・ナンバー。作詞を担当した悠木圭子は元女優で鈴木淳夫人。3/4拍子のメジャー・キーのナンバーで、「IV」での「6th」の使用など、小谷充のモダンなアレンジが小粋だ。オリコン・シングル・チャート最高第12位を記録、約60万枚を売り上げ、一躍人気歌手へと躍り出た。その後も、「おんなの夢」(75年)、「ともしび」(75年) などの鈴木淳作品をヒットさせた。

text：ガモウユウイチ

CamScannerでスキャン

三木たかし

奇をてらわぬ正攻法の叙情あふれる名曲たち

三木たかしは本名・渡邊匡。1945年1月に東京で生まれた。60年代半ばに、歌手を志して船村徹に弟子入りするが、船村から「作曲家のほうが向いている」といわれ、方向転換する。作曲家デビューは1967年10月、泉アキ「恋はハートで」。

この「恋はハートで」はいわゆるひとりGSの1曲に数えられるが、ハートを「ハ・ア・ト」と発音させるスタイルは、なるほど洋楽のビート感を歌謡曲に導入するのに効果的な歌の乗せ方である。実妹・黛ジュンに書いた「天使の誘惑」B面の「ブラック・ルーム」も、ファンキーで黒っぽいフィーリングに「八木節」的な民謡スタイルがブレンドされている。この時は渡辺たかし名義だが、次作「夕月」では遂に黛のA面を手がけることになった。

「夕月」は「船頭小唄」に似た、ドメスティックなマイナー調で、ビート歌謡の女王として時代の先端を走っていた黛にしては、日本調回帰へと後退した印象も受けた。だが、これが三木たかしの持ち味とも呼べる。フォークの世界で活躍していた森山良子に提供した歌謡曲「禁じられた恋」も同様で、従来のファンからの評判は芳しくなかったものの、オリコン1位の大ヒットとなり、三木たかしは「日本人の琴線に触れる秀逸な曲を作れる作曲家」として認知された。

70年代に入ると阿久悠との組み合わせが多くなり、73年にあべ静江、74年に伊藤咲子、77年に清水由貴子をデビューから連作して手がける。阿久悠と組んだ際に見られる、情緒溢れるスケールの大きなメロディが三木作品の特徴だが、西城秀樹の「君よ抱かれて熱くなれ」に始まる諸作、岩崎宏美に提供した「思秋期」など、アイドルが大人の歌手へ方向転換する際に、三木作品の起用が有効に働いた。その最大の成果は石川さゆり「津軽海峡・冬景色」に始まる旅情三部作である。なかにし礼と組んだキャンディーズ「哀愁のシンフォニー」もここに加えてもいいだろう。メロディ的にはシンコペーションを多用するものの、奇をてらったことはしない作風が、万人受けするメロディ・メーカーとして多くのヒット曲を飛ばした。

80年代には荒木とよひさと組んでテレサ・テンの「つぐない」「愛人」「時の流れに身をまかせ」の三部作を大ヒットに導く。これらはいずれも演歌になりそうでならない、あくまでポップスの範疇で書かれたメロディである。洋楽化、ポップス化が進行する歌謡曲の世界で、三木作品はややウェットで中庸な印象を与えるが、その叙情溢れる作風は長い年月を経てスタンダードに化けることが多い。また「めだかの兄妹」や「アンパンマンのマーチ」など、子どもにも親しまれるナンバーを数多く生み出したことも特筆すべき点だ。

text：馬飼野元宏

CamScannerでスキャン

阿久悠×三木たかし

キャニオン／1973年9月25日

みずいろの手紙

あべ静江

作詞：阿久悠
作曲・編曲：三木たかし
B面：恋人たちのいる舗道

東海地区の美人DJだったあべ静江の2作目。デビュー曲「コーヒーショップで」に続き阿久＝三木コンビの作品となった。清楚なあべのイメージを活かし、メロディもひねったところのない素直なコード進行。それは何より歌前の「お元気ですか…」のセリフを際立たせるためである。Bメロの「逢えなくなって…」からの流麗な展開はフランシス・レイを思わせ、三木たかしの持つ欧州風の美メロが確認できる。

コロムビア／1977年1月1日

津軽海峡・冬景色

石川さゆり

作詞：阿久悠
作曲・編曲：三木たかし
B面：野の花のように

前年に発売されたアルバム「365日恋もよう」に収録された曲で、1年間にわたるロング・セラーとなった。Aメロにもサビにも三連符を連続させているが、「青森駅は…」の部分は四分音符と八分音符の構成による三連。コードはナチュラルな和音進行で、サビへ向かってキーが高まっていく流れは圧巻の構成力。阿久悠の詞も日本語のアクセントと音符の高低がピタリと合っており、このコンビの技巧の高さに舌を巻く。

CBS・ソニー／1977年3月1日

お元気ですか

清水由貴子

作詞：阿久悠
作曲・編曲：三木たかし
B面：あじさい村から

『スター誕生！』出身の清水由貴子のデビュー作。歌い出しがサビと同じだけのインパクトを持つのが阿久＝三木作品の特徴だが、これは象徴的な1曲。フォーク・タッチのナチュラルなメロディ・ラインはほのぼのした清水のキャラクターとも合い、手紙形式の語りかけという点で「みずいろの手紙」の少女版ともとれる。阿久＝三木は5作目の「多感日記」まで清水のシングル曲を手がけ、多彩な楽曲を提供した。

RCA／1977年3月15日

ブーメランストリート

西城秀樹

作詞：阿久悠
作曲：三木たかし
編曲：萩田光雄
B面：はげしい雨の中へ

西城秀樹は76年2月の「君よ抱かれて熱くなれ」から継続して阿久＝三木コンビに楽曲提供を受けていたが、これはその5作目。前サビの「ブーメラン…」の部分のみ3/4拍子で、「きっとあなたは」以降4/4に戻るという変則的なメロディで、バックは16ビート。ダイナミックな振り付けとも相まって後々まで語られるインパクトの強い楽曲となった。歌い出しで聴き手を惹きつける、歌謡曲の極意がここにある。

ビクター／1977年9月5日

思秋期

岩崎宏美

作詞：阿久悠
作曲・編曲：三木たかし
B面：折れた口紅（ルージュ）

岩崎宏美のシングル11作目で三木たかしを初起用。それまでのディスコ歌謡路線から一転、持ち前の歌唱力を披露する初の大バラードである。A-A'-B-サビのオーソドックスな構成ながら、終盤に2度の転調があり再びA'を2回繰り返すという変則的なつくり。楽曲のスケールの大きさでは、このコンビが手がけた伊藤咲子「乙女のワルツ」に比肩するが、同コンビは岩崎に同様のワルツ「あざやかな場面」も提供している。

text：馬飼野元宏

CamScannerでスキャン

DISC GUIDE 荒木とよひさ × 三木たかし

フォーライフ　1982年12月21日

めだかの兄妹

わらべ

作詞：荒木とよひさ
作曲：三木たかし
編曲：坂本龍一
B面：春風の郵便屋さん

バラエティ番組「欽ちゃんのどこまでやるの!?」から誕生した高部知子、倉沢淳美、高橋真美の3人による「わらべ」のデビュー曲。3拍子の童謡的なメロディながら、「だけど大きく」の箇所のみ、詞を乗せる位置を1音前倒しにしてフックにしている点に注目。流行歌として爆発的にヒット、年間3位のセールスを記録し、荒木=三木コンビは次作「もしも明日が…」でうたごえ運動風のフォーク・ソングを手がける。

トーラス　1984年1月21日

つぐない

テレサ・テン

作詞：荒木とよひさ
作曲：三木たかし
編曲：川口真
B面：笑って乾杯

旅券法違反問題が尾を引き来日できずにいたテレサ・テンが、中国本土での人気拡大を受け、日本再デビュー曲「ふたたびの」に続く勝負曲として発表されたのがこの曲。三木はフリオ・イグレシアスの「33才」をモチーフに曲を完成させたが、調整を外れた半音使いの多い曲ながら、有線放送を通じて人気に火がつき、テレサにとって初のオリコン・チャートでトップ10入りを果たした。同年の日本有線大賞などを獲得。

トーラス　1986年2月21日

時の流れに身をまかせ

テレサ・テン

作詞：荒木とよひさ
作曲：三木たかし
編曲：川口真
B面：黄昏

「つぐない」「愛人」と続いた荒木=三木=川口トリオによる愛人歌謡路線の3作目で、初のメジャー・コードによる楽曲。Aメロはメジャー・ペンタトニックでナチュラルな流れだが、サビの「そばに置いてね」の「ね」一音だけ、テレサの音域を1度超える高さまで持っていくことで切々とした願いを表現している点が秀逸。彼女の日本での最大のヒットとなり、国内のみならずアジア各国でのカヴァーも数多い。

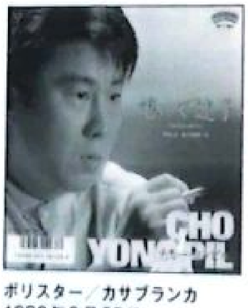
フィリップス　1985年4月3日

待ちくたびれてヨコハマ

柏原芳恵

作詞：荒木とよひさ
作曲：三木たかし
編曲：若草恵
B面：時間を下さい

柏原芳恵のデビュー6年目、通算23作目のシングル。三木作品は初起用ながら、しっとりした彼女の歌い方、湿度感のある声質とは良く合う。典型歌謡曲メロディだが、Aメロを2回続けた後サビに入り、一度Bメロを挟み展開を変え最後にサビ後半をもう一度繰り返すという珍しい構成。中島みゆきらニュー・ミュージック系の作家陣が多かった柏原はこの作品がターニング・ポイントとなり歌謡曲歌手へ転向していく。



ポリスター／カサブランカ
1986年9月25日

想いで迷子

チョー・ヨンピル

作詞：荒木とよひさ
作曲：三木たかし
編曲：馬飼野俊一
B面：泣かされたって

韓国の人気歌手チョー・ヨンピルの、日本での6作目。荒木=三木コンビはほとんど曲先で作られるそうで、この曲も典型三木メロディに荒木の繊細な詞を乗せた秀作で、外国人が歌っても違和感のない日本語の発音を意識した詞は、テレサ・テンの「つぐない」「愛人」と共通するものがある。メロディにはロッカ・バラード的な味もあり、同コンビは続いてまったく異なる曲調の「想いで迷子2」も提供している。

text：馬飼野元宏

CamScannerでスキャン

キャニオン／1967年12月10日

恋はハートで

泉アキ

作詞：なかにし礼
作曲・編曲：三木たかし
B面：燃える年頃

三木たかしの作曲家デビュー作で、インド系アメリカ人と日本人のハーフ歌手・泉アキのデビュー・シングルでもある。レインジャーズがバックをつとめた典型的なひとりGSで、ダイナミック・ボディから放たれるパンチの利いた歌唱もこの時代ならでは。メロディは日本人好みの哀愁マイナー調だが「ハート」を「ハ・ア・ト」と発声するスタッカート唱法が強調で、ビート歌謡全盛時代にマッチしたものとなっている。

東芝／1968年5月1日

ブラック・ルーム

黛ジュン

作詞：なかにし礼
作曲・編曲：渡辺たかし
A面：天使の誘惑

実妹・黛ジュンのために提供した楽曲（クレジットは本名の渡辺を名乗る）。ブイブイ唸るベースと鳴いオルガンの音色によるイントロで始まり、メロディは歌謡曲的だが、彼女独特の張ったヴォーカルとコブシ回しが、ライブで披露した「八木節」に近い歌い方で、タイトなロックンロールに黒っぽさを加えている。彼女の主演映画「天使の誘惑」では、ゴーゴークラブでオックスの演奏をバックに歌う姿も残されている。

フィリップス／1969年3月25日

禁じられた恋

森山良子

作詞：岩谷時子
作曲：三木たかし
編曲：高見弘
B面：心からあなたに

森山良子の通算9作目。それまで彼女を手がけていた本城和治ディレクターの制作ではなく、売れ線のシングルを作る目的で組まれたプロジェクトで、録音の現場ではグリス・ダウンのような歌い回しで中華メロディ風の旋律を歌うことに森山本人は困惑したという。清廉なフォーク・タッチの楽曲とは異なり、土俗風のアレンジに乗せた歌謡曲はチャート1位の大ヒットとなり森山は大衆人気を得ることに成功した。

テイチク／1969年8月5日

愛の化石

浅丘ルリ子

作詞：並木六郎
作曲：三木たかし
編曲：高見弘
B面：お願い帰って

女優・浅丘ルリ子は歌手としても人気があったが、その最大のセールスを記録したのがオリコン2位の大ヒットとなった本作。フランシス・レイ風のヨーロピアン・タッチのメロディで、浅丘のセリフと歌が交互に登場する構成。セリフ回しは当然のこと、歌も哀感のこもった表現力はさすがで、本作のヒットで同名の映画まで作られた。B面「お願い帰って」は作詞がジュディ・オング、作曲が寺尾聰という異色作。

ビクター／1974年7月25日

あなたにあげる

西川峰子

作詞：千家和也
作曲：三木たかし
編曲：森田はじめ
B面：おとめ港

やまびこ演歌のキャッチ・フレーズで登場した西川峰子のデビュー曲。三木作品に特徴的なA-B-サビの三部構成で、演歌の定番ともいえるマイナー・ペンタトニックだが、Bメロの「いやーよいやいや」と、サビの「あなたにあげる　私をあげる」とキメが2回登場するのが面白い。随所に入る細かいこぶし回しも特徴的な少女演歌で、際どい詞をあっけらかんと歌う西川は大きな人気を獲得。オリコン1位の大ヒットとなった。

text：馬飼野元宏

CamScannerでスキャン

DISC GUIDE

東芝／1975年1月20日

純愛

片平なぎさ

作詞：山上路夫
作曲・編曲：三木たかし
B面：甘いきまよい

現在も女優として活躍する片平なぎさのデビュー曲。「スター誕生」出身者はデビュー曲を同番組審査員が手がけることが多く、三木たかしもその形でデビューから連続して楽曲提供となった。A-B-B' の構成による所謂3連ロッカ・バラードで、長調からサビで短調を織り交ぜ、かなりグルーヴ感の強いリズム・セクションと、ハープやアコーディオンの効果的な使用でドラマティックに盛り上げる。片平の切ない歌唱も魅力的。

CBS・ソニー／1976年7月1日

水色の星

吉田真梨

作詞：麻生香太郎
作曲：三木たかし
編曲：高田弘
B面：あなたは帰る

76年3月に「もどり橋」でデビューした新人・吉田真梨の第2弾。メジャー・ペンタトニックの中華風メロディで、歌い出しが戦前の中国の流行歌「何日君再来」によく似た佳曲。軽いこぶしが回る吉田真梨の個性を活かし、全体をポップス演歌寄りに仕上げている。三木はデビュー曲「もどり橋」でフォーク調、3作目「真っ赤な耳たぶ」では8ビートのマイナー・ポップスと吉田に多彩な楽曲を提供している。

CBS・ソニー／1976年11月21日

哀愁のシンフォニー

キャンディーズ

作詞：なかにし礼
作曲：三木たかし
編曲：馬飼野康二
B面：別れても愛して

キャンディーズ12作目のシングルで、作詞のなかにし礼、作曲の三木たかしとも初起用。アダルト・イメージに路線変更した純歌謡曲調のメロディだが、短調―長調―短調の3部構成で、長調のBメロに入る箇所でのやや強引な転調もむしろ世界が開けるような効果をもたらしている。試作ヴァージョン「霧のわかれ」に比べるとナチュラルな展開で、サビの2声和音のほかソロ、ユニゾンを駆使した3人の歌唱も効果的。

CBS・ソニー／1977年3月21日

メンソール・シガレット

豊川誕

作詞：麻生香太郎
作曲：三木たかし
編曲：いしだかつのり
B面：飛ぶのが怖い

70年代後半の三木たかしは、西城秀樹の諸作やあいざき進也「ミッドナイト急行」などで、ロックンロールのセンスを押し出した作風が多くなっていたが、この曲などはまさにその典型。70年代中期ジャニーズ事務所で活躍した豊川誕の通算8作目で、マイナー8ビートのオールディーズ・スタイル。前作「たったひとりの君は」で三木と初めて組んだ豊川が、自身で三木に「こういう曲を歌いたい」と望んで完成したもの。

テイチク／1980年6月5日

恋の綱わたり

中村晃子

作詞：福田陽一郎
作曲：三木たかし
編曲：船山基紀
B面：夜ふかし気分

元は桃井かおりが78年にパルコ劇場で行った、歌と語りの1人芝居のライヴ盤『恋・女ひとり』に収録されていたステージ用のオリジナル曲。TBS系ドラマ『離婚ともだち』の挿入歌となり、中村晃子が劇中で歌い話題となりレコード化、中村にとって久々の大ヒットとなった。歌い出しはシャンソン風の語り口調だが、サビでのドラマティックな展開では女の情念が乗り移ったかのような中村の歌唱に圧倒される。

CamScannerでスキャン

text：カモウユウイチ

津軽海峡・冬景色

作詞：阿久悠
作曲・編曲：三木たかし

1977年　石川さゆり

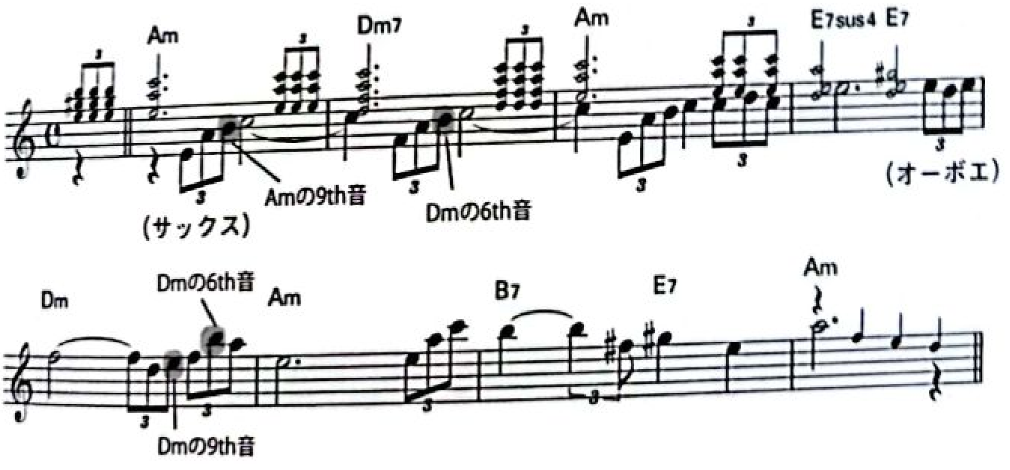
それまで約15万枚を売り上げた「あなたの私」(75年) が自身最高セールスだった石川さゆり。本作品は彼女が15枚目にリリースしたシングルで、自己最高の約73万枚を売り上げ、代表曲となった楽曲。作曲と編曲は三木たかしが担当。

いわゆる演歌ではスタンダードのロッカ・バラード形式のナンバーで、4/4拍子で1拍3連で表記されるか、または12/8拍子で表記される。ロッカ・バラードの代表的な楽曲に、トッド・ダンカン「アンチェインド・メロディ」(55年。65年のライチャス・ブラザーズのヴァージョンが有名)、パーシー・スレッジ「男が女を愛する時」(66年)、ザ・ビートルズ「オー！ダーリン」(69年) などがあり、比較的オールディーズ風の楽曲で良く用いられるリズムだが、日本では、水原弘「黒い花びら」(59年)、内山田洋とクール・ファイブ「長崎は今日も雨だった」(69年)、森進一「おふくろさん」(71年) など、演歌の定番リズムとなっている。

イントロはアルト・サックスによるリード・パート。コード進行は「Am－Dm7－Am－E7」とシンプルだが、「Am」の部分では「9th」、「Dm7」の部分では「6th」である「B」音を使用した書き譜になっており、暗さの中にも洗練を感じさせるリード・メロディだ。続いてフルートがリード・パートを引き継ぐ。ここでは、「Dm－Am－E7・B7－Am」という進行で、「Dm」の部分で「9th」と「6th」を使用した書き譜だ（譜例）。

Aメロ部分の最初のメロディは、「Am」の分散和音を中心としたメロディ。ほぼマイナー・コードで構成されており、演歌特有の陰影感を出している。「Bm7（♭5）・E7」はマイナー・ダイアトニックのツー・ファイヴ。また、70年代中盤という時代もあり、鍵盤はエレピが使用されているのもクールだ。

サビにあたるBメロ部分は、サブドミナントの「Dm」から。3小節目の「B7」は、セカンダリー・ドミナントに対するセカンダリー・ドミナントで、ダブル・ドミナントと呼ぶ。一番盛り上げる5小節目では、2拍1フレーズのメロディが2回続くが、コードを変化させ盛り上げている。コード的には6小節目の1、2拍目も同じメロディでも問題ないが、「Dm」の「6th」を中心としたメロディ・ラインにして一旦盛り上がりを落として緩急をつけている。間奏ではサックス・ソロのバックでコーラスがオブリガートを担当。2番の歌の導入前のさり気ないブレイクも効果的で、細かい部分まで配慮されたアレンジとなっている。



CamScannerでスキャン

船村 徹

演歌の代名詞ともいえる大作曲家は
その実、多彩な曲想を持っていた

text：原田和典

1932年6月12日、栃木県生まれ。ミシェル・ルグラン、フランシス・レイ、ラロ・シフリン、ジョン・ウィリアムス（『ジョーズ』のサントラ等）、遠藤実と同い年である。本名・福田博郎（ひろお）。眼科医の父親は大の音楽好きで、尺八は名取の腕前。レコードも洋楽から邦楽まで持っていた。母は家事をしながら時折「船頭小唄」を口ずさんでいたという。

尋常小学校時代に親に頼んで信号ラッパを買ってもらい、国民学校では3年生の時から吹奏楽部でトランペットを担当。旧制中学では3年間にわたってギターを学び、高校に入るとバンドを結成。ギターのほか自作のスティール・ギターも弾いた。レパートリーはハワイアン、ジャズ、タンゴ、ブルース等の洋楽。その演奏は占領軍にも大歓迎されたという。しかし船村が目指すのはあくまでも「演奏家」ではなく「作曲家」だった。49年、東洋音楽学校（現・東京音楽大学）に入学。作曲科がなかったのでクラシック・ピアノを専攻した。クラシック曲ではチャイコフスキーの作風が大好きで、「ロシア帝政時代の憬の深い叙情性に惹かれている」そうだ。詩人志望だが同学校の声楽科に通っていた高野公男（56年9月、肺結核で死去）と意気投合、彼の「大衆の喜ぶ歌を作るのが一番いいんだよ」という言葉に感銘を受け、以来、人の情、人の縁をテーマにした曲作りを一貫する。

高野の詩に船村が曲をつける作業は50年代初頭から本格化したが、無名の若手コンビへの注目はなかなか集まらなかった。高野はキャバレーのボーイ、船村はナイトクラブのバンドや「流し」（酒場などで、客の要望に応えて歌の伴奏をしたり、リクエストされた歌を歌う仕事）で糊口をしのぐ。53年、月刊誌「平凡」が、“サトウハチローの詩につけるメロディを公募する”という企画を行った。応募したところ、見事優勝。この曲「たそがれとあの人」（歌唱：山路えり子）が、レコード化された船村最初の作品であろう（名義は福田博郎）。そして55年、高野＝船村コンビによる「別れの一本杉」が、春日八郎の歌でリリースされて津々浦々に広まった。キングレコードからはヒット賞が贈られたが、同社との契約の話はうまくいかず、56年、日本コロムビアの専属作曲家に。58年からは刑務所の慰問活動もしている。

59年には、東映のアニメ映画『少年猿飛佐助』の音楽を担当。同作品は60年8月から9月にかけて開催されたヴェネツィア国際映画祭で聖マルコ獅子賞（グランプリ）を獲得した。流行歌の作曲家としてもますます脂が乗り、61年11月には村田英雄に提供した「王将」

CamScannerでスキャン

が大ヒット。ワルツ・テンポで綴られる悠々たる船村節、村田の魅力的な歌唱はアメリカ南部のソウル・ミュージックを愛するリスナーにも訴えるはずだ。このシングルは戦後初のミリオン・セラーに輝いたと伝えられる。しかし船村は「王将」の大好評をリアルタイムで感じてはいない。63年まで続くヨーロッパ留学に出たところだったからだ。ロンドンではEMIレコードのオーディションに立ち会い（EMIの国内盤は当時、日本コロムビアからリリースされていた）、汚らしい恰好をした4人組ロック・バンドにいち早く注目。なんとこれがのちの革命児、ザ・ビートルズなのである。パリでは「王将」の作詞を担当した西条八十と再会を喜び、まだ無名のジョルジュ・ムスタキと知り合った。78年にはコロムビアから独立し、フリーの作曲家に。79年からギター弾き語りで自作を歌うライフワーク、「演歌巡礼」の旅を始めた。

これまで手がけた作品数は5,000曲以上と伝えられる。船村と同じく「流し」の経験を持つ北島三郎を筆頭に数多くの愛弟子を育成し、船村宅に泊まりながら修業した、いわゆる「住み込み」の鳥羽一郎や香田晋には礼儀作法から教えた。紫綬褒章、NHK放送文化賞、旭日中綬章、文化勲章など無数の栄誉に輝き、日本作曲家協会会長（2005年まで）や日本音楽著作権協会名誉会長にも就任。曲想は臨機応変で、歌手の持つ底力をとことん引き出そうという野心すら感じられる。そしてその野心に卓越した歌い手が鮮やかに応えたとき、まぶしいほどの傑作が生まれる。最晩年の美空ひばりに提供した「みだれ髪」（87年）における、サディスティックなまでの音程の飛翔ときたらどうだろう。まるでひばりの口から限りなく透明な音の糸が四方八方に飛び出し、それが七色の光に照らされつつ空一杯に拡がっていく風景を仰ぎ見ているような気分におそわれる。

演歌の代名詞、昭和の大作曲家という認識が一般的なのかもしれない。ただデューク・エリントンをジャズの枠に閉じ込めることに無理があるように、船村も“ビヨンド・カテゴリー”という言葉がふさわしい作家であると、ぼくは声を大にして言いたい。まるでフリー・ジャズのような森本和子「ハイティーン・ゴーゴー」（66年）、当時のグループ・サウンズ熱を反映したロック～ポップス系の音作りを狙ったのかもしれないが、曲＋歌唱＋歌詞＋アレンジ＋ミキシングが一体となり孤高の世界を生み出したまま、その成果を今も音楽ファンに問いかけ続ける海道はじめ「スナッキーで踊ろう」（68年）は、船村の世界がいかに広がりをみせているかを示す格好のサンプルであろう。

参考資料：船村徹「魂の響き―のぞみ」潮出版社

王将

CamScannerでスキャン

ひばりの佐渡情話

美空ひばり

作詞：西沢爽
作・編曲：船村徹
主題：[illegible]

小林旭との結婚式の1ヵ月前、62年10月のリリース。同名映画の主題歌である。船村のオール・サイエンティストぶりの曲作りと、あり余るエモーションをテクニックでそれを歌いこなしてしまうひばり——このふたりのプライドと意地が結晶した1曲といえばいいだろうか。キーはなんなのか、ワン・コーラスがどのへんまでなのか、まるでつかめない。ただただメロディの奔流と、声の艶に翻弄されるばかりである。

スナッキーで踊ろう

海道はじめ

作詞：三浦康照
作・編曲：船村徹
B面：[illegible]

メロディ、歌詞、ミキシング、アレンジ、すべて奇妙で説明がない。あまりにも特異なので、この曲を特集したテレビ番組が作られたほどだ。グンゼの婦人パンティー「スナッキー」のタイアップとしてできた曲だが、あまりにも時代に先行しすぎていた。海道はじめは民謡で鍛えた豊かな声、確かな技術を持つ実力派。間奏はサビも含めてメリハリがあり、バンドの演奏も手堅い。なのになぜ、ここまで異次元に飛んだのか。

矢切の渡し

ちあきなおみ

作詞：石本美由起
作・編曲：船村徹
A面：酒場川

細川たかしの大ヒット・シングルでもある'83年「矢切の渡し」。もともとは、ちあきなおみへの提供曲。76年のシングル「酒場川」のB面として世に出、82年に同じテイクがA面として出し直された。ちあきは男性と女性の言葉（歌詞）を見事なヴォイス・コントロールで使い分け、うねるようなロング・トーンと消え入るようなピアニッシモを駆使しながら表現する。これだけ深く歌い込まれたら、作者としても本望だろう。

風雪ながれ旅

北島三郎

作詞：星野哲郎
作曲：船村徹
編曲：丸山雅仁
B面：[illegible]

北島三郎は船村同様、流しの出身。60年に知り合い、船村の門下生となった。初のヒット「なみだ船」も船村の提供曲である。80年リリースの「風雪ながれ旅」は三味線の高橋竹山をモデルにした楽曲。当時キャリアのピークを迎えていたであろう北島の声には一撃必殺の気迫がある。ワン・テイクで仕上がったに違いない。いくら百戦錬磨の北島とはいえ、これほどの熱唱を録音スタジオ内で何度も繰り返せるとは思えないのだ。

みだれ髪

美空ひばり

作詞：星野哲郎
作曲：船村徹
編曲：[illegible]
B面：塩屋崎

大病から"奇跡の復帰"をとげた美空ひばりの、記念すべきカムバック・シングル。ひばりは作曲家に「手加減しないでください。今まで通りの船村メロディを」と要望を伝えた。星野哲郎から詞が届いた後、この、はたを織るようなメロディを船村は星野とひばりに捧げる気持ちでつくりあげたという。「哀愁波止場」から四半世紀以上が経った。円熟味の加わったファルセット部分を聴くと、ぼくはいつも鳥肌が立つ。

猪俣公章

3連ロッカバラードの名手 演歌と歌謡曲の中間を行く

text：ガモウユウイチ

50年代半ば、美空ひばりが音楽性を変化させ、キングレコードから春日八郎や三橋美智也、ビクターレコードから鶴田浩二、テイチクレコードから三波春夫や石原裕次郎、コロムビアレコードから島倉千代子や村田英雄がデビューして、いわゆる音楽ジャンルとしての演歌が誕生した。古賀政男を源流とする演歌は、船村徹が北島三郎を育て、遠藤実が千昌夫を育て、市川昭介が都はるみを育て、平尾昌晃が五木ひろしを育て、猪俣公章が森進一を育てて、スター歌手が出揃い、演歌が歌謡曲の中心ジャンルとなった。そのうち、演歌のスター歌手のうち、千昌夫以外の4人に楽曲を提供していたのが猪俣公章だった。

猪俣公章は、1938年4月11日福島県河沼郡会津坂下町生まれ。本名は猪俣公章（いのまたきみあき）。小学校5年生のころに作曲に目覚め、中学時代に作曲家を志す。57年日本大学芸術学部音楽科へ進学、在学中はバンドでベースを担当。卒業後には作曲家を目指して古賀政男に師事、楽譜の整理を買って出て作曲法を独学し、バーテンダーやバンドマンをしながら、64年に鈴木やすし「僕の…でよかったら」で作曲家としてデビュー。

66年には、ビクターレコード専属となり、森進一のデビュー曲「女のためいき」を提供、約80万枚の売り上げの大ヒットを記録する。その後も、「女のためいき」(66年)、「女の波止場」(67年)、「港町の女」(68年)、「ひとり酒場で」(68年)、「恋ひとすじ」(70年)、「望郷」(70年)、「波止場町」(71年)、「放浪船」(71年)、「くちべに…歌」(72年)、「冬の旅」(72年)、「さらば友よ」(74年)、「北航路」(7…年)、「さざんか」(76年)、「命あたえて」(81年)、「女もよう」(85年)などのヒット曲を提供した。中でも、「港町ブルース」(69年)ではオリコン・シングル・チャート最高位第1位となり、約107万枚のミリオン・セラーを記録。第11回日本レコード大賞最優秀歌唱賞や第2回日本有線大賞を受賞した。「おふくろさん」(71年)では、第13回日本レコード大賞最優秀歌唱賞を受賞した。

67年にリリースされた「君こそわが命」では、「黒い花びら」(59年)以来不振だった水原弘を、見事再起させる。70年には、藤圭子に「女のブルース」を提供、彼女初のオリコン・シングル・チャート最高位第1位となり、約75万枚の大ヒットを記録した。同年には、内山田洋とクール・ファイブに提供した「噂の女」も約50万枚を超えるヒットとなり、第3回日本有線大賞を受賞した。

74年には、「今夜かしら明日かしら」(74年)で日本デビューを果たしながらも、セールス的に不調だったテレサ・テンに「空港」

を提供、約14万枚の売り上げのヒットを放ち、第16日本レコード大賞新人賞を受賞。日本での地位を確立させた。75年にリリースされた「千曲川」は、当初は星野哲郎の作詞に作曲されて川中美幸に提供予定だったが、曲を聴いた山口洋子の熱望により、五木ひろしへ提供された。結果、大ヒットを記録、第17日本レコード大賞最優秀歌唱賞を受賞した。

86年には、85年のTBS歌謡選手権ブラジル大会で準優勝して、東京で開催されるワールドチャンピオン大会に出場するために来日していたマルシアに出会い、レッスンを授けた。また、NHK勝ち抜き歌謡天国の和歌山大会で優勝した坂本冬美とも出会い、上京を勧めた。マルシアと坂本冬美を自宅に住まわせて育て上げ、87年には「あばれ太鼓」で坂本冬美をデビューさせ、約80万枚のヒットを放つ。マルシアには89年にデビュー曲「ふりむけばヨコハマ」を提供、約15万枚のヒットとなり、第31回日本レコード大賞最優秀新人賞や第9回日本作曲大賞を受賞した。歌手だけでなく、里村龍一や冬樹かずみなど、作詞・作曲家の育成にも尽力。

そのほかに、都はるみ「港町」(71年)、藤圭子「京都から博多まで」(72年)、「私は京都へ帰ります」(74年)、石川さゆり「かくれんぼ」(73年)、「青い月夜の散歩道」(73年)、「東京かくれんぼ」(83年)、五木ひろし「ふたりの旅路」(75年)、「愛の始発」(76年)、「旅人」(76年)、テレサ・テン「雪化粧」(74年)、「あなたといきる」(77年)、チャダ「面影の女」(75年)、増沢末夫「さらばハイセイコー」(75年)、海原千里・万里「大阪ラプソディー」(76年)、西川峰子「峰子のマドロスさん」(76年)、坂本冬美「祝い酒」(88年)、「男の情話」(89年)、「能登はいらんかいね」(90年)、「火の国の女」(91年)、「男惚れ」(92年)、「船で帰るあなた」(93年)、マルシア「抱きしめて」(90年)「待ちわびて哀愁」(91年)、伍代夏子「恋ざんげ」(93年)など、数々のヒット曲を放った。また、特撮ドラマ『シルバー仮面』(71年)や舞台劇『近松心中物語』(79年)などの主題歌や劇中歌なども担当した。

精力的に活動していた最中、93年に肺がんのため55歳で急逝。91年に19歳年下の一般女性と結婚して一子をもうけたばかりだった。同年末のNHK『紅白歌合戦』では、森進一が「さらば友よ」を、都はるみが「おんなの海峡」を歌い、急逝した師を偲んだ。12／8拍子のロッカ・バラード・スタイルの楽曲を得意とした猪俣メロディは、多くの歌手から親しまれており、その数は2,000曲を越えるという。

CamScannerでスキャン

東芝／1967年2月

君こそわが命

水原弘

作詞：川内康範
作曲・編曲：猪俣公章
B面：沈黙のブルース

「黒い花びら」で第1回日本レコード大賞を受賞しながらも、その後表舞台から遠ざかり低迷していた水原弘の復活作となった楽曲。川内康範が雑誌に連載していた同名小説をモチーフに歌詞が書かれ、猪俣公章が水原弘の声域を生かしたメロディ・ラインの、12/8拍子のロッカバラードのメロディを付けて大ヒット。06年には、杉良太郎が「杉良太郎の君こそわが命」としてリリースした。

ビクター／1969年4月15日

港町ブルース

森進一

作詞：深津武志
補作詞：なかにし礼
作曲：猪俣公章
編曲：森岡賢一郎
B面：女の四季

雑誌「平凡」で募集された歌詞になかにし礼が補作詞を施し、猪俣公章が12/8拍子のロッカ・バラード・スタイルのメロディを付けて大ヒット。一般的には演歌に分類されるが、楽曲構成は欧米の影響下にあるスタイルで、森進一の歌が一気にドメスティックな雰囲気に引きずり込む。彼初のオリコン・シングル・チャート最高第1位を獲得、約107万枚を売り上げ、第11回日本レコード大賞最優秀歌唱賞を受賞した。

RCA／1970年

一度だけなら

野村真樹

作詞：山口洋子
作曲・編曲：猪俣公章
B面：涙をかついで行こうよ

野村真樹（現:野村将希）のデビュー・シングル。元々は、内山田洋とクール・ファイブのために用意された楽曲だった。猪俣公章が得意とするロッカ・バラード・スタイルのリズムで、16小節で1コーラスが完結するシンプルな楽曲ながら、端整なルックスと抜群の歌唱力で、オリコン・シングル・チャート最高第10位、約25万枚の売り上げを記録。その後、野村真樹の「そして、神戸」を、逆にクール・ファイブがカヴァーした。

RCA／1970年7月5日

噂の女

内山田洋とクール・ファイブ

作詞：山口洋子
作曲・編曲：猪俣公章
B面：だまって行かないで

ロッカ・バラード・スタイルながらマイナー・キーに加え、前川清のねっとりとした歌により、一気に演歌の世界に引きずりこまれる。オリコン・シングル・チャート最高第2位、約50万枚の大ヒットで、人気もピークを迎えた。ヴァイブをフィーチャーしたアレンジにキャバレーの専属バンドの名残を感じさせる。本来楽器も演奏できるグループだが、レコードでは江藤勲（B）などのスタジオ・ミュージシャンがプレイしている。

RCA／1970年2月5日

女のブルース

藤圭子

作詞：石坂まさを
作曲：猪俣公章
編曲：成田征英
B面：あなた任せのブルース

「新宿の女」（69年）で彗星のごとくシーンに登場した藤圭子の2枚目のシングル。12/8拍子のロッカ・バラード・スタイルのリズムと、僅か11小節1コーラスのマイナー・キーのメロディ。まさに猪俣公章が持つパターンを凝縮したかのような楽曲。ドスの効いた歌唱で、感情豊かに歌い上げる様で、彼女初のオリコン・シングル・チャート第1位を記録、75万枚を売り上げた。なお、正確には音楽様式上のブルースではない。

text：カモウユウイチ

CamScannerでスキャン

ビクター／1971年5月5日

おふくろさん

森進一

作詞：川内康範
作曲・編曲：猪俣公章
B面：小鳥と少年

「大きな古時計」の作詞者でもある保富康午と猪俣公章が新たにヴァースを追加したところ、本曲の作詞者の川内康範が激怒した「おふくろさん」騒動で話題に。ジャズのスタンダードでは、後からヴァースが追加されることは一般的だが、本曲では最終的に森進一と川内康範が絶縁してしまうという結末となった。ともかく、本曲自体は1コーラス14小節でシンプルな構成の中にも、これぞ演歌というねっとりとしたメロディ・ラインが特徴。

ビクター／1972年

雨の日の花嫁

李木蘭

作詞：阿久悠
作曲：猪俣公章
編曲：小谷充
B面：赤い花が咲く時

中国人の父、日本人の母の家庭に生まれ、日本に渡って猪俣公章に師事。先にドラマ「待ってますワ」(69年)などで少女として活動していた李木蘭（リ・ムーラン）の歌手デビュー曲。のちのマルシアにも通じるような歌謡ポップス・スタイルの楽曲で、情熱的な歌も良く、売れてもおかしくない佳曲だった。その後、約3年の活動後に引退。北京中央音楽学院へ留学して、現在ではムーランをリライフ・バンドで活動中。

ポリドール／1974年4月1日

空港

テレサ・テン

作詞：山上路夫
作曲：猪俣公章
編曲：森岡賢一郎
B面：はぐれた小鳩

アイドル路線の「今夜かしら明日かしら」(74年)で鳴り物入りで日本デビューするも、オリコン・シングル・チャート最高第64位と成績が芳しくなかったテレサ・テンの起死回生の楽曲。作曲を猪俣公章に依頼し、新たに演歌路線での活動を開始した。オリコン・シングル・チャート最高第22位のヒットながら、半年以上に渡ってチャート・インというロング・セラーを記録。第16回日本レコード大賞新人賞を受賞した。

東芝／1987年3月4日

あばれ太鼓

坂本冬美

作詞：たかたかし
作曲：猪俣公章
編曲：京建輔
B面：あじさい酒場

猪俣公章の内弟子だった坂本冬美のデビュー曲。8曲の候補曲の中から選ばれたもので、選から漏れた楽曲はB面やアルバムに収録された。彼女のイメージを決定付けた男歌で、約30万枚のヒットを記録。第29回日本レコード大賞新人賞などを受賞した。和楽器を使用した編曲を得意とする京建輔の太鼓などを使用したスコアも素晴らしい。猪俣公章が坂本冬美に提供した全54曲中、31曲は京建輔が編曲を担当している。

コロムビア／1989年1月21日

ふりむけばヨコハマ

マルシア

作詞：たきのえいじ
作曲：猪俣公章
編曲：竜崎孝路
B面：やがて離愁

猪俣公章の内弟子であり、坂本冬美の妹弟子だったマルシアのデビュー曲。演歌というより、マイナー・フォーク・スタイルの楽曲で、根底に演歌がありながらも幅広い音楽性を感じさせる猪俣公章ならではのメロディだ。中でもサビの、コードを分割したメロディ・ラインは印象的だ。オリコン・シングル・チャート最高第18位、約18万枚の売り上げを記録。第31回日本レコード大賞最優秀新人賞など、数々の賞を受賞した。

遠藤 実

日本人の心に優しく寄り添う
メロディ・メーカーとしての才

日本音楽作家協会名誉会長、日本大衆音楽文化協会会長、日本音楽著作権協会会長、日本作曲家協会会長などを歴任。[illegible]

[illegible]

文 岸田和義

「からたち日記」を書く（米田信一名義）。同社の専属になるのはおそらく59年の下旬。こまどり姉妹、村田英雄、小林旭、五月みどり、舟木一夫らに数多くのナンバーを提供し、同じ32年生まれの船村徹と並ぶコロムビアきっての気鋭作曲家と目された。橋幸夫も日本ビクターと契約する前、コロムビアからのデビューを目指して遠藤のもとでレッスンを受けていたのは知る人ぞ知る事実だ。

63年、コロムビアの有力スタッフが幾人も独立し、新たにクラウンレコード（現・日本クラウン株式会社）を立ちあげた。遠藤も旧知のディレクターの依頼に応じ、作詞・作曲した「浪曲子守唄」を提供する。歌は内弟子(＝遠藤宅に住み込み)の一節太郎が歌ったが、作者名は契約上の問題で“越純平”とクレジットされた。65年3月にはコロムビアから独立し、太平住宅グループの中山幸市の誘いを受けてミノルフォン・レコードを設立(株式会社徳間ジャパンコミュニケーションズの前身)。いわゆる流行歌／演歌調楽曲からはうかがいにくかった独自のポップ・センスをも発揮した。大ヒットは山本リンダ「こまっちゃうナ」、千昌夫「星影のワルツ」、大木英夫と津山洋子「新宿そだち」。ジョニー広瀬「太陽に抱かれたい」も時代を先取りした逸品として忘れがたい。68年には中山の死去を受けて社長になり、70年5月に退職。デビィーズ「エルムの恋」などいくつかの楽曲に“ベン・ミラー”という筆名を使ったのもこの時期だ。伝えられる限り、遠藤は吉田正、船村徹に比べてはるかに洋楽体験が少ない。ただ橋本五郎・いではく・長田暁二が編纂した『不滅の遠藤実』（藤原書店）には、学生時代に行なわれたレコード・コンサートでドヴォルザーク作曲の「新世界より」第2楽章「家路」を聴き、涙があふれ出て止まらなかったというエピソードが記されている。

70年代に入ってからも森昌子「せんせい」、杉良太郎「すきま風」、渡哲也「くちなしの花」、千昌夫「北国の春」など、記憶に残るナンバーを連発。親しみやすく歌いやすいので、カラオケでも大いに好まれた。76年には初めて写経道場で講演、そのときに「摩訶般若波羅蜜多心経」の教本と菩提樹の実で作った数珠をもらったことがきっかけで般若心経の暗唱を始め、教本と数珠を持ち歩くようになったという。そして79年、いわゆる流行歌とは趣の異なる大作「合唱交響曲　般若心経の響き」を完成させた（川内康範、高僧の高田好胤らが詞を書く。東芝EMIからリリース）。2008年12月6日に死去。総作品数は5,000曲超と伝えられる。その前半生は1966年、『太陽に突っ走れ』(監督：鷹森立一、主演：千葉真一）として映画化された。

「歌は人生の友」
遠藤実

文化功労者受賞記念で、2004年に発売された遠藤実作品集。3部作になっており、1作目に収録されたものに貴重な楽曲が多い

参考資料 「涙の川を渉るとき：遠藤実自伝」 日本経済新聞出版社

コロムビア／1958年11月

からたち日記

島倉千代子

作詞：西沢爽
作曲：遠藤実
編曲：牧野昭一
B面：待ち呆けさん

日本マーキュリーとの専属契約が残っていた時期に作曲したので、リリースの際は米田信一名義となっている。テンポは4分の3拍子、メロディ・ラインも譜割りもトリッキーといってよいほどで、「よくもこんなにスムーズに歌いこなせるものだ」と、ぼくは改めて島倉の歌唱スキルに敬礼した。基本的に長調だが、セリフの部分で伴奏が短調になるのも芸が細かい。こんな凝った曲が130万枚も売れたというのだから、びっくりだ。

コロムビア／1959年11月15日

三味線姉妹

こまどり姉妹

作詞・作曲：遠藤実
B面：母恋馬子唄
（五月みどり）

ザ・ピーナッツと同じ59年にデビューした双生児デュオ。向こうが都会的な洋風でいくなら、こちらは人情味たっぷりの和風でいこうということか、とにかくメロディも歌唱も適度に湿っていて人懐っこい。"流し"出身ということで、遠藤も彼女たちに大いに親近感を覚え、その結果が本作や「ソーラン渡り鳥」など名曲の連発という形につながったのでは、と個人的には感じる。"こんばんは" という呼びかけが実にキュート。

コロムビア／1963年6月5日

高校三年生

舟木一夫

作詞：丘灯至夫
作曲：遠藤実
編曲：福田正
B面：水色のひと

高度成長期の男女学生を明るく照らした "青春歌謡"。それを象徴する1曲がこれだろう。女声コーラスのスキャット、ねっとりとした舟木の歌声、チューブラー・ベルズの音色、フレーズの長いのと短いのを絶妙に配合した旋律、「ぼくら」と「フォーク・ダンス」の間に突如入る休符（これが絶妙なグルーヴ感を生み出す）。それらが混然一体となったこの音響は、63年当時の流行歌愛好家には衝撃そのものだったのではないか。

クラウン／1963年12月

浪曲子守唄

一節太郎

作詞・作曲：越純平
編曲：福田正
B面：一発節

遠藤の内弟子第一号、一節太郎はコロムビアではなくクラウンレコードに所属した。よって遠藤はペンネームで楽曲を提供している。一節は当時22歳。この曲でデビューすることが決まり、レコーディング前の3か月で声をつぶすよう指示を受けた。夜中も外を駆けずり回って絶叫、努力が実って見事ハウリン・ウルフばりの声を手に入れた。この声があってこその名旋律、そして "逃げた女房にゃ未練はないが" である。

ミノルフォン／1966年3月24日

星影のワルツ

千昌夫

作詞：白鳥園枝
作曲：遠藤実
編曲：只野通泰
B面：君ひとり

もともとは「君ひとり」のB面だった。千昌夫は65年に青春歌謡路線でデビューしたものの、当初は鳴かず飛ばず。しかし67年頃からこの曲が有線放送で注目されはじめ、千も必死にリクエストしたという。そして68年にAB面を逆にして再リリースしたところ、オリコン1位に到達した。カントリー調のメロディとリズムが、千の土臭い歌唱と相性の良さを示す。千への提供楽曲では「北国の春」（79年大ヒット）も必聴。

text：原田和典

CamScannerでスキャン

ミノルフォン／1966年9月20日

こまっちゃうナ

山本リンダ

作詞・作曲・編曲：遠藤実
B面：海と山の歌

ポップス方面に振り切った遠藤実のセンスがいかにdopeなものだったかを示す好例。タイトルはリンダが遠藤との初対面時にやたら「困っちゃう」といっていたことからつけられたという。2番のあと14小節の間奏があり、3番に入っても前半の8小節はクラリネットがメロディを吹く。つまり、リンダは40秒もの間、歌わずに休んでいる。そんな曲が彼女の大ヒット曲になってしまったのだから愉快痛快ではないか。

ミノルフォン／1967年

太陽に抱かれたい

ジョニー広瀬

作詞・作曲：ベン・ミラー
B面：愛情ブルース

広瀬アリス・すず姉妹も素晴らしいけれど、ぼくにとっての"広瀬"はこの曲を歌っているジョニー広瀬に尽きる。一節太郎と同じダミ声系だが、こういうヴォイスの持ち主は遠藤好みなのだろう。女性コーラス、エロティックなボンゴなどが描く音の渦の中に、ルイ・アームストロングを彷彿とさせる広瀬のダミ声が飛び込んでいくさまは実にスリリング。曲名も実に詩的だ。もっとも実際に太陽に抱かれたら溶けてしまうだろうが。

ミノルフォン／1968年6月20日

フリ・フリ5

山本リンダ

作詞：幸田栄
作曲：遠藤実
B面：たそがれの渚

ザ・スパイダースの「フリフリ」は三三七拍子をベースにしていたが、こちらは5拍子。「このリズムは、作曲家の遠藤実氏が考案した4分の5拍子ロック調リズムで、竹部玲子さんの振り付けによる踊りは、ちょうど"阿波踊り"のように踊りやすい」という報道記事も残っている。リンダも発売イベントで踊りながらこれを歌ったらしく、ぜひ見てみたかった。歌詞はほとんど"フリフリ"、メロディもシンプルの極致をゆく。

ミノルフォン／1972年7月1日

せんせい

森昌子

作詞：阿久悠
作曲：遠藤実
編曲：只野通泰
B面：太陽の花嫁

テレビ番組「スター誕生」の初代チャンピオン、森昌子のデビュー・シングル。遠藤は"演歌はまだ年齢的に早い。舟木一夫「高校三年生」の女子中学生版を狙おう"と考え、この曲を大ヒットにつなげた。「せんせい　せんせい　それはせんせい」という阿久悠（作詞家になって5年ほどしか経っていなかった）の言葉に、フレーズごとに微妙に異なる、けれどシンプルで美しいメロディをつけた遠藤のセンスが冴えわたる。

CBS・ソニー／1980年1月21日

君は人のために死ねるか

杉良太郎

作詞：杉良太郎
作曲：遠藤実
編曲：斉藤恒夫
B面：いま愛のために

遠藤が杉良太郎に提供した「すきま風」（76年）は100万枚のセールスを記録したという。80年リリースの本曲は、それとまったくといっていいほど異なる曲調。熱く燃える歌詞は杉良太郎自身の手による。語りと歌を混ぜながら濃厚な世界を描く杉、4拍子・3拍子・2拍子を交差させた旋律をあてた遠藤。"ああこれで終わりか"とカタルシスを感じていたら、「許せない～」と杉の歌唱が、新たなメロディにのって再開される。

CamScannerでスキャン

浜 圭介

しっとりとした寂寥感は日本人の好むメロディだった

浜圭介は、1946年4月8日、旧満州の収容所で生まれた。1歳の時に日本に引き揚げ、青森、北海道と移住し、15才で高校を中退して歌手を目指し上京。同じ北海道出身の森山加代子の付き人となり、64年に牧宏次の芸名でビクターから「波止場のロック」で歌手デビュー、久保浩の「断崖のトランペット」とのカップリングであった。だが、ヒットに恵まれず一度青森に戻り、66年には大木賢の芸名で「これが愛さ」として再デビューを果たす。この曲は自身の作詞・作曲によるものだった。

当初は歌手志望だったが、68年に浜圭介のペンネームで作曲家としての活動をはじめる。同時に歌手としても再び世に出ることとなったのが68年に東芝からリリースされた「おんな道／ネオン花」であった。これも浜自身の作詞・作曲で、歌手としての芸名は浜真二。この曲はスマッシュ・ヒットしたものの、歌手としての限界を感じていた浜のもとに、新興楽譜出版社（現：シンコーミュージック・エンタテイメント）の草野昌一が声をかけ、シンコーの専属作曲家として迎えられた。ある時、草野に連れられアメリカ旅行に同伴した浜は、ニューヨークのビルの夜景を見ながら草野に「何か1曲つくってみないか」と促され、そして完成したのが奥村チヨの歌唱で発表された「終着駅」であった。お色気路線以降低迷していた奥村にとっても起死回生の大ヒットとなり、これが縁で浜と奥村は結婚に至る。

浜圭介のメロディで最も特徴的な点は、その寂寥感にあるのではないか。「終着駅」はもちろんのこと、堺正章の「街の灯り」やカントリー・タッチの佐良直美「ひとり旅」にいたるまで、紡ぎ出すメロディはどこか淋し気だが、それでいて湿度を感じさせないのは音楽の出自がポップスであったことと無縁ではないだろう。また、八分音符を重ねて語りのような歌にするのも浜作品の特徴で、千葉紘子の「折鶴」や八代亜紀の「舟唄」「雨の慕情」のAメロに典型だ。またスケールの大きさを感じさせるメロディも内山田洋とクール・ファイブ「そして、神戸」、森昌子「哀しみ本線日本海」など数々の傑作があり、なかでも土俗的な曲調で聴く者に衝撃を与えた北原ミレイ「石狩挽歌」は浜メロディの代表作のひとつと呼んでいいだろう。

80年代以降も森昌子「立待岬」、桂銀淑「すずめの涙」、高山厳「心凍らせて」島津ゆたか「ホテル」、内海みゆき「酔っぱらっちゃった」などのヒットを放ち、ポップス系演歌のラインで活躍。時代の流れに沿って魅力的なナンバーを提供している。

text：馬飼野元宏

CamScannerでスキャン

浜圭介作曲作品

東芝EMI／1971年12月25日

終着駅

奥村チヨ

作詞：千家和也
作曲：浜圭介
編曲：横内章次
B面：気ままぐらしの女

お色気歌謡に行き詰っていた奥村チヨはこの路線を拒否、ディレクター草野浩二から「こんな曲があるよ」と提案され、いい歌に巡り合えたと喜んだのが「終着駅」だった。Am-Dm-D7とオーソドックスなマイナーの進行で、細かい譜割りで語りかけるように歌うメロディ・ラインは浜作品の特徴のひとつ。三人称で歌われる歌詞、欧州ムードの世界観は奥村を従来のイメージから脱却させることに成功、浜圭介の出世作ともなった。

RCA／1972年11月15日

そして、神戸

内山田洋とクール・ファイブ

作詞：千家和也
作曲：浜圭介
編曲：森岡賢一郎
B面：君を恋うる唄

元は野村真樹のアルバム曲であったが、クール・ファイブの「一度だけなら」を野村のデビュー曲に採用したお返しに、今度は野村側が彼らに渡した。A-A'-B-Cのシンプルな構成ながら、三連符の連打、Bメロのトッカータ風の上下するメロディ、そして歌い出しのインパクトの強さ。分厚いヴィブラートを響かせる前川清の歌唱力が最大限に発揮されている。千家＝浜コンビのクール・ファイブ作品ではワルツの「出船」も傑作。

ビクター／1972年5月25日

雨

三善英史

作詞：千家和也
作曲：浜圭介
編曲：近藤進
B面：黄昏の街

三善英史のデビュー曲。端正な顔立ちとスレンダーな容姿で、演歌系ながらアイドル人気を獲得、男版藤圭子的な不幸系歌手としても注目を集めた。Emキーのシンプルなコード進行ながら「雨に」と「傘の」で同じメロディに違うコードをつけたりと要所で小技をきかせ、しっとりと寂寥感溢れる世界を演出した。オリコン2位の大ヒットとなり、浜圭介は以降もなど三善のメイン・ライターとして活躍する。

ワーナー／1975年6月25日

石狩挽歌

北原ミレイ

作詞：なかにし礼
作曲：浜圭介
編曲：馬飼野俊一
B面：別れのビギン

なかにし礼の幼少期の体験、実兄への複雑な心情を唄に盛り込んだ強烈なインパクトを持つ詞に、浜圭介は北海道らしい土俗的なメロディ・ラインで応えた。北原ミレイの突き放すような歌い方もまたこの世界観にふさわしく、さらにはイントロから鳴り響くトランペットの音色が大陸的なスケールのメロディに一層の拡がりを与えている。北原にとっては「ざんげの値打ちもない」に続く代表作となった。

テイチク／1979年5月25日

舟唄

八代亜紀

作詞：阿久悠
作曲：浜圭介
編曲：竜崎孝路
B面：長いプラットホーム

元は阿久悠が行っていた「実践的作詞講座」の教材として書かれた詞に、浜圭介が曲をつけた。大正時代に流行した「ダンチョネ節」を本歌取りしているが、この部分のスローなメロディを際立たせるため、浜圭介は前半部分のAメロを、八分音符を連ねた語り口調にして、切ない男の呟きを表現した。張りのある歌唱が特徴だった八代のイメージ・チェンジ作となり、演歌のスタンダードとして長く親しまれる楽曲となった。

text：馬飼野元宏

CamScannerでスキャン

藤本卓也

幽玄なムードと中毒性の高さ
夜のワーグナーの真髄

text：安田謙一

いわゆるヒット曲として、または懐メロ歌謡番組で現在も採り上げられる曲としては、矢吹健の「あなたのブルース」と五木ひろし「待っている女」の2曲に絞られるかもしれない。にも関わらず、作詞・作曲・編曲家、藤本卓也という存在は、一度でも作品を通じて彼の名前を意識したことがある人には、決して無視することが出来ない。

1940（昭15）年、北海道生まれ。本名の柚木公一の名で58年4月、岡田朝光とザ・キャラバンのリード歌手としてプロ・デビュー。62年、オムニバス盤『カッコイイ10人』に収録されたアッカー・ビルクのカヴァー「白い渚のブルース」を吹き込む。飯田久彦、高松秀晴とともに"スリービート"と呼ばれ、日劇ウエスタンカーニバルにも出演する、ロカビリー歌手だった。その後、作家に転身。65年、紀本ヨシオに「だから泣かないで」を提供する。

68年、弟子の矢吹健に書いた「あなたのブルース」はオリコン27位のヒットとなり、矢吹は同年の日本レコード大賞新人賞を受賞する。"ミスティ・ヴォイス"と銘打たれた矢吹の歌唱は、すでに2年前にデビューしていた森進一の強烈な個性をさらに凌駕するものだった。身も蓋もないほどの、えげつなさ。それこそが、藤本卓也の真骨頂である。同じく藤本の弟子だった勝彩也や佐久間浩二も、藤本が描く情念と情欲の世界を命がけで（実際に聴くと、この言葉が大袈裟ではないと気づくだろう）表現した。

藤本が歌謡曲の職業作家として作品を量産した60年代末から70年代中期にかけて、若者たちの文化に大きな比重を持つようになったロックを、誰よりも大胆に作品に取り込んだ。情念と情欲の世界はさらに奥行きを増すことになる。クイーカやジューズ・ハープといった楽器にまで人間の営みの息遣いを与えた。

93年、幻の名盤解放同盟が選曲、監修した作品集『幻の名盤解放歌集 真っ赤な夜のブルース』と『同 君が欲しいキング編』（いずれもPヴァインから）によって藤本卓也の魅力は「夜のワグナー」、「闇の帝王」さらには「歌謡界のカール・ゴッチ」という形容とともに白日のもとに晒されることとなった。96年に藤本が歌手としてはじめてリリースした『相棒』はかつて弟子たちに強いたハスキーな歌声とはまったく異なる甘い美声で、都会に生きる男と女を歌うソウル歌謡の名盤だ。その後、表立った活動はほぼないが、16年、『相棒』録音時の未発表曲と思しき数曲が本人によって動画サイトにアップされ、ファンの度肝を抜いた。

CamScannerでスキャン

テイチク／1968年6月5日

あなたのブルース

矢吹健

作詞・作曲・編曲：藤本卓也
B面：忘れないよ

基本的には水原弘「黒い花びら」あたりの流れを汲む3連バラード曲。矢吹の"ミスティ・ヴォイス"と絡みあう女性コーラスは幽霊のようだ。"あなた、あなた、あなた、あなた、あーなた"と畳み込むように歌ったあとで、ダメ押しのように"あなーたのブルース"と歌い切る。「真っ赤な夜のブルース」「蒸発のブルース」「負けるもんか」「休ませて」……と、藤本はさらに過剰な歌唱表現を求め、20歳そこそこの矢吹はそれに応えた。

キング／1968年7月

最後の人

佐々木早苗

作詞・作曲・編曲：藤本卓也
B面：私の宝

のちにテレビ・ドラマ「金メダルへのターン」の主題歌を歌う佐々木早苗、20歳のデビュー曲。ディープなリズム&ブルースに乗せて、矢吹の「あなたのブルース」の迫力に負けずとも劣らない、壮絶な歌唱を聴かせる。"最後の人なのよ"の"ひぃー"という高音で聴き手の背筋に冷水を浴びせる。渚ようこがアルバム「渚ストラット」（16年）でカヴァー。ヘヴィなブルース・ロック編曲で、本家に勝るとも劣らぬ、歌声を披露している。

テイチク／ユニオン
1969年

まぼろしのブルース

佐久間浩二

作詞・作曲・編曲：藤本卓也
B面：みれん

すべてのカヴァー・ヴァージョンが捨てがたい。ファズ・ギターが効いた佐久間浩二、ティンバレス打ち乱れる勝彩也、迫力満点のフラワーショウ（華ぼたん）と、これらにはすべて全編クイーカが鳴り響く。中川あつしとヨコハマ・セブンのヴァージョンもたまらない。男と女が生み出す「まぼろし」世界はすでにドラッグを凄ぐ悪夢だ。「地獄の底に落ちる私を何も言わずに微笑むあなた」。この一節を越える歌謡詞に出逢うことはない。

徳間／1972年5月10日

待っている女

五木ひろし

作詞：山口洋子
作・編曲：藤本卓也
B面：夕陽の恋

オリコン6位のヒット。作詞は山口洋子。イントロのオルガン、ベース・ラインなど曲想はまちがいなくポール・リヴィア&ザ・レイダース「嘆きのインディアン」である。よりグルーヴ感を加味して、どこか叙情なアーバン歌謡に仕立てあげた。ブラスと女性コーラスが切羽詰まった世界を見事に演出。五木の巧さも際立つ。アルバム「ラスベガス・オン・ステージ」のオープニングで聴けるライヴ・ヴァージョンも失禁モノの格好良さ。

クラウン／1973年6月20日

ローリング・ストーンズは来なかった

西郷輝彦

作詞・作曲・編曲：藤本卓也
B面：追憶

あまりにもサンタナ「ブラック・マジック・ウーマン」なイントロ。1番には、ジャニス（・ジョプリン）、キャロル（たぶんキング）、（ボブ・）ディラン、（マーク・）ボラン、さらにサビでは「ローリング・ストーンズ、ジョン・レノン、サンタナ、シカゴ」の名が出てくる。スーパースターを目指せ、と、若者たちを無闇矢鱈にけしかける。アナクロを嗤うことを咎める気もないが、「お前もやれ」にロックを感じる本気、あると思います。

text：安田謙一

ベンチャーズ

エレキ・ブームの立役者は異国情緒歌謡の作り手

text：岩切浩貴

“日本に影響を与えた海外のロック・バンド”といえばまずザ・ビートルズが思い浮かぶだろうが、それと同じくらい、いやそれ以上に影響を与えたバンド、それがザ・ベンチャーズだといえるだろう。

実際、彼らは“最も多く来日したバンド”であるし、今でも日本全国には彼らのカヴァー・バンドが多数存在する。それだけではない。日本の歌謡曲・ポップスの中に彼らの手によるヒッ曲が多数存在することからもそれは明らかだ。

ザ・ベンチャーズ（色々メンバーは変わっているが、日本で人気のあった時の基本メンバーはメル・テイラー＝ドラム、ボブ・ボーグル＝ベース・ギター、ドン・ウィルソン＝リズム・ギター、ノーキー・エドワーズorジェリー・マギー＝リード・ギター）というと、日本でしか人気のないバンドのように（未だに）思われている節もあるが、実は1960年に「ウォーク・ドント・ラン」を全米ヒットさせて以降、全米シングル・ヒット・チャート100に14曲、アルバム・ヒット・チャート200に38枚をチャート・インさせている。この功績から、2006年にグラミー賞の特別賞を受け、2008年にはロックの殿堂入りを果たしている。そういった実績から見て、世界一のエレキ・インスト・バンドと言ってもいいグループなのだ。

ベンチャーズが日本で人気が爆発するきっかけとなったのは、彼らの2回目（1965年）のライヴ以降とされている。この時はアストロノウツ等とのパッケージ・ツアーだった。そしてこれ以降日本でベンチャーズを中心としたエレキの大ブームが起きる訳だが（何せ最盛期には下駄屋までエレキ・ギターを作っていた）、何故ベンチャーズだけがその人気が突出し、そしてその人気が今までつづいているのか。日本人が経験したことのなかったビート感溢れるものだったこと等さまざまな理由があると思われるが、他のバンドと違ってリード・ギタリストのギター・スタイルがカントリーに基づいたもの（当然バンド・サウンドもロック的ではあるがカントリー色は強い）であることが、ザ・ベンチャーズが日本で人気を得た大きな要因の一つだと思われる。日本では、1940～50年代に米軍基地に勤めていた米兵の影響等もあってカントリー・ブームが起こり、小坂一也やジミー時田等が人気シンガーだったことは知られている。ここでカントリー・ミュージックに馴染んでいた日本人がザ・ベンチャーズのギター・スタイルにカントリーの匂いを感じたことがこの国でベンチャーズ・ブームが起きた要因の一つであることは想像に難くない（実際、のちにベンチャーズ・スタイルのギター・バンドで人気を博す寺内タケシも、元々はカントリー系のギタリストでい

かりや長介等とバンドを組んでいた)。

ところで、カントリーで多く使われるスケールの一つにメジャー・ペンタトニック(ヨナ抜き音階)がある。ベンチャーズがギターを弾く場合、基本的にメジャー・ペンタトニック・スケールを使用したものが多い(勿論、他の音も効果音的に使われるが)。このスケールは民謡等でも使用されており、日本人にもとても馴染みのあるものだ。基本的にこのスケールを使用しているところに彼らの作る音楽が日本で流行った理由がある。

勿論、単に音階が馴染みがあるだけでは駄目だ。それを音階を効果的な順番で、リズムで並べる感覚が必要となってくる。ここで注目したいのが彼らのカヴァーのセンスだ。基本的にカヴァーの多いバンドだが、彼らがヒット曲をカヴァーする場合、チャートに入っている曲を一通り聴いてその中からヒットしそうな(そして彼らの演奏スタイルに合うような)楽曲を選んで演奏していたという。その選曲センスは山下達郎も認めるほどのものだ(山下はベンチャーズのライヴのパンフレットにクレジットされていた楽曲のライター陣を分析することが自身の音楽に大きな影響を与えていることを述べている)。ザ・ベンチャーズが日本の企画でテクノ・アルバム「カメレオン」(1980年)を出した際、ギタリストのノーキー・エドワーズに最も気にいっている曲を聴いた際、高橋ユキヒロ作曲の「スイミングスクールの美人教師」と答えている。実際このアルバムのなかでもこの曲は出色の出来なのだ。そしてとてもベンチャーズにはまった曲でもある。という感じでいわゆるポップ・センスに勝れたバンドであったわけだが、加えて日本の誇るポップス・シンガーにしてライターである加山雄三とかなり早い段階から友好的な関係であったことも重要だ。この関係によって彼らは加山から"日本的なポップス"を知らず知らずに学んだと考えられる。

そして、ベンチャーズは(前述したように)数多く来日しており、日本の風土にも馴染んでいた(最近ではどこの県のどこのスーパーがいいというところまで熟知している)。勿論住んでいるわけではないから、あくまでそれは表層的なものではあるが、それが逆に日本人の作曲者には出せなかった"日本らしさ"を醸し出している。ベンチャーズの基本はカントリーにあることは先に書いたが、そのカントリー的なものをベンチャーズが"加工"した結果、とても日本的な音になったことは興味深い。

かなりメンバーが変わった今でも毎年来日している彼ら。もう一度歌謡曲を書いてもらいたいものだ。

『ベンチャーズ・オン・ステージ72』
ザ・ベンチャーズ

72年9月、渋谷公会堂での収録。欧陽菲菲がゲスト出演。

CamScannerでスキャン

ベンチャーズ作曲作品

東芝／1966年9月

二人の銀座

和泉雅子・山内賢

作詞：永六輔
作曲：ザ・ベンチャーズ
編曲：川口真
B面：踊りたいわ

ベンチャーズ歌謡の初ヒットは彼らが銀座の夜景をイメージして作ったインスト曲「GINZA LIGHTS」に永六輔が歌詞を付けた「二人の銀座」。和泉雅子と山内賢のデュエット曲としてリリースされ大ヒット。ヒットを受け和泉、山内主演の同名映画も制作された。日本的ではあるがいかにもギター・インストといった感じ（途中で「パイプライン」のフレーズが出てくる）の曲にぴったりとした歌詞を付けた永の技量が光る。

東芝／1967年8月5日

北国の青い空

奥村チヨ

作詞：橋本淳
作曲：ザ・ベンチャーズ
編曲：川口真
B面：愛の真珠貝

黛ジュン・小川知子とともに東芝3人娘の一人だった奥村チヨは1965年に東芝から「あなたがいなくても」でデビュー。当時は和製シルヴィ・ヴァルタンとして売り出されていた。「北国の青い空」は、奥村の11枚目のシングル。ベンチャーズは奥村に哀愁感溢れる楽曲を提供（インスト「Hokkaido Skies」のカヴァー）。奥村はその楽曲を醒めた歌唱で歌い、まさに「北国の青い空」の情景が見えるような作品となっている。

東芝／1970年12月1日

京都慕情

渚ゆう子

作詞：林春生
作曲：ザ・ベンチャーズ
編曲：川口真
B面：女の指輪

やはりベンチャーズの手による「京都の恋」に続く渚ゆう子のベンチャーズ歌謡第2弾。この時のメンバーはジョン・ダリル、ジェリー・マギー、メル・テイラー、ドン・ウィルソン。）元は「Reflections In A Palace Lake」というインスト。イントロの琴の音はアレンジを担当している川口真のアイデアだがそれもベンチャーズの書いたメロディが琴の音を想起させるものであったればこそ。ベンチャーズ歌謡の最高峰の一つ。

東芝／1971年9月5日

雨の御堂筋

欧陽菲菲

作詞：林春生
作曲：ザ・ベンチャーズ
編曲：川口真
B面：愛のともしび

台湾出身の歌手・欧陽菲菲の日本でのデビュー曲。チャートの1位を記録。この曲で日本レコード大賞新人賞を受賞した菲菲の代表曲の一つ。台湾出身の菲菲は、リズムを含む日本語の解釈に日本人にはない独自のものがあり、それがこの曲のエキゾティックな魅力を引き立たせている。メロディ自体はかなり歌謡曲的なものだが、そのビートの効いたリズムは紛れもなくロック。ベンチャーズ歌謡の中で最もロック色の強い一曲だ。

ひまわり君

田中美智子

作詞：なかにし礼
作曲：ザ・ベンチャーズ
編曲：三木たかし
B面：さようならは私から

田中美智子はのちに柳みちこの名前でテクノ歌謡の名曲「スパイラルワールド」をリリース。夫（後に離婚）の美樹克彦と小林幸子にデュエット歌謡の名曲「もしかしてPART II」を提供する等波乱万丈の人生を送っている。「ひまわり君」はインスト「SANFLOWER'76」の歌詞入りカヴァー。三木たかしの編曲はチープなシンセの音色等もあり一寸テクノ風。歌謡冒頭のメロディもどこかテクノ風味を感じさせる。

CamScannerでスキャン

PART 4

戦後世代の作曲家たち

GSブームの余波から、ロック・バンド出身のソングライターたちが、70年代に入り大活躍をみせる。ビートルズの洗礼を受けた直撃世代の彼らは、最初からビートとグルーヴの感覚を備えていた。

CamScannerでスキャン

PART 4

戦後世代の作曲家たち

text：馬飼野元宏

第4章で紹介するのは、主に戦後生まれの作曲家と、グループ・サウンズから登場してきた作曲家たちである。

馬飼野俊一が1946年生まれ、実弟の馬飼野康二は1948年生まれ。都倉俊一、穂口雄右も同じく1948年である。森田公一は1940年生まれ、加瀬邦彦、井上大輔は1941年、大野克夫は1939年と戦中派である。

彼らに共通するものは、バンド経験者という点。大野克夫はザ・スパイダース、井上大輔はジャッキー吉川とブルー・コメッツ、加瀬邦彦はワイルド・ワンズと名門グループ・サウンズの出身で、60年代後半のGSブーム期に、プレイヤーとして活躍したほか、ソングライターとしての才能も既にこの時期に発揮している。GS最大のヒットとなったブルー・コメッツの「ブルー・シャトウ」の作曲者は井上大輔（当時は井上忠夫名義）であり、加瀬邦彦もワイルド・ワンズの名曲「想い出の渚」を作曲している。

森田公一は、GSのムーヴメントとは無縁に、コーラス・グループの原トシハルとB&B7に参加し、この時点で作曲とピアニストを両立させていた。これが源流となり、69年には自身がリーダーとなった「森田公一とトップギャラン」を結成、76年には「青春時代」のミリオン・ヒットを飛ばしている。森田はバンマスとしての活動と並行して作曲家としても活躍、天地真理「ひとりじゃないの」、アグネス・チャン「ひなげしの花」、そして「はじめての出来事」「夏にご用心」など桜田淳子の一連のヒット曲の作曲者として70年代前半には既に売れっ子作曲家となっていた。天地真理、桜田淳子の全盛期を一手に引き受けていたことを考えても、森田公一は70年代アイドル・ポップスの保守本流の流れに呼応した作曲家といえるだろう。

都倉俊一は、学習院大学在学中に、フォーク・グループ「ザ・パニックメン」のヴォーカリストを経験している。GSの一大ブームと並行して、60年代後半にはフォークのムーヴメントが静かに進行しており、都心の各大学では、カレッジ・フォークと呼ばれるアマチュアのフォーク・グループが活躍し、彼らの何組かはレコードを発表

CamScannerでスキャン

する機会も多かった。都倉の音楽活動の最初はそういったムーヴメントからスタートしている。

森田公一、都倉俊一といった70年代に大活躍する作曲家の成功には、作詞家の阿久悠の存在があった。阿久悠は広告代理店での仕事をへてフリーの作詞家に転身、GS全盛時代に大ブレイクしたなかにし礼、橋本淳といった先行するフリー作詞家に続く存在として、70年代に入ると、時代の空気を敏感に読むヒット・メーカーとしての才能をフルに発揮する。鈴木邦彦や筒美京平らとも数多くのヒットを飛ばしたが、森田、都倉、あるいは大野克夫や三木たかしらとも組み、70年代の歌謡曲シーンに巨大な裾野を広げていった。阿久悠は都倉俊一とは山本リンダ、ピンク・レディーで、大野克夫とは沢田研二で、三木たかしとは西城秀樹やあべ静江で、森田公一とは桜田淳子や、トップギャランの諸作で継続してコンビを組み、秀逸なヒット曲を数多く生み出している。

馬飼野俊一・馬飼野康二の兄弟は、ともにアレンジャーとしてまずその名を馳せ、その後作曲家として名を成していった。兄・俊一は和田アキ子「笑って許して」やピーター「夜と朝のあいだに」の編曲を手がけてから、チェリッシュや野口五郎の諸作で作曲活動も始める。弟の康二はコーラス・グループからGSに転じたブルー・シャルムのメンバーを経て、西城秀樹の編曲で注目され、秀樹の「ちぎれた愛」「傷だらけのローラ」などで作曲家としても大ヒットを飛ばす。近年はジャニーズ事務所のアイドル・グループの作品を継続的に手がけており、職業作曲家といわれる人たちの中で、現在に至るまで唯一、ヒット・チャートの最前線で活躍している作家である。

穂口雄右も、GSのアウト・キャスト出身であるが、作曲家として名を成したのは「年下の男の子」「春一番」などに代表されるキャンディーズの一連のヒット曲である。

先に、彼らの共通項としてバンド経験者であることを挙げたが、これは言い換えるなら、ビートルズの登場とそれによるバンド・サウンドの咀嚼とビート感覚の吸収にある。それ以前の職業作曲家が基本、ジャズ出身であったことからも分かる通り、ビートルズやエレキ・ブームの衝撃をダイレクトに体験した世代が作曲を始めた場合、既に最初からビートの概念が音に現れていることが、それ以前の世代との大きな違いなのだ。歌謡曲とは洋楽トレンドの日本化であり、必然的に時代を経るに従いポップスへと進化していく結果になるが、彼らの作り出す「バンド・サウンドを背景にしたビート感覚による歌謡曲」が、70年代歌謡曲の主流がポップスになっていくことを後押ししたのは間違いないだろう。

CamScannerでスキャン

都倉俊一

70年代を席巻したヒット・メーカー バラードにも名曲多数

70年代に、山本リンダ、フィンガー5、山口百恵、ピンク・レディーなどの楽曲を手がけてヒットを連発。また『スター誕生！』(71年)の審査員や、『レッツゴーヤング』(74年。77年より出演）の司会でも活躍していた都倉俊一。70年代のオリコン作曲家別年間売り上げで、2度以上1位に輝いたのは、筒美京平（5回）と都倉俊一（77年度、78年度）の2人のみだ。

都倉俊一は、1948年6月21日に東京都で生まれた。4歳よりヴァイオリンを始め、幼稚園では日常的に音楽に触れ、合唱の指揮もしていた。7歳になると父の仕事の関係でドイツに渡り、基本的な音楽教育を受ける。また、家にピアノがあったことから、普段から触れており、12歳になり帰国後中学校に入るとギターもいじるようになった。中学校卒業後、再びドイツに渡り音楽教育を受けながらも、ビートキャッツという名のデイヴ・クラーク・ファイヴ・スタイルのバンドで活動。18歳で帰国後、学習院大学法学部に入学。

68年には、フォーク・グループのザ・パニック・メンに参加。谷村新司が在籍していたザ・ロック・キャンディーズとのカップリング・シングル「思い出の小径」でデビュー。本楽曲ではコーラスを担当している。その後ジュリアンズに参加、69年5月に発売された「雨上がり」の作曲を担当した。平行して、ポニーパックの歌のない歌謡曲のアレンジに携わる。そのうち、『不思議な旅』や『信じられない大冒険』という中山千夏が詞を読んだり演技したりするオリジナル作品をリリース。その挿入歌として「あなたの心に」を提供、9月に発売されるとオリコン・シングル・チャート最高第2位、売り上げ約42万枚の大ヒットを記録した。その後、ピーター「愛の美学」(70年)、井上順之「昨日・今日・明日」(71年)、和田アキ子「天使になれない」(71年) などのヒットを放つ傍ら、『全国コンクール』(71年）の審査員を半年ほど務め、その後『スター誕生！』にも審査員として出演。72年には「どうにもとまらない」「狂わせたいの」「じんじんさせて」と山本リンダへの提供曲が連続ヒット、低迷していた彼女を復活させた。同年には、ザ・ドリフターズ正式メンバー以前の志村健（現：志村けん）が参加していたマックボンボンと共に『ぎんぎら!ボンボン!』(72年）の司会も担当した。その後も、ペドロ＆カプリシャス「ジョニィへの伝言」(73年)、「五番街のマリーへ」(73年)、フィンガー5「個人授業」(73年)、山口百恵「ひと夏の経験」(74年）など、膨大な数のヒット曲を提供。

76年からはピンク・レディーに携わり、「ペッパー警部」(76年)、「S・O・S」(76年)、「カルメン'77」(77年)、「渚のシンドバッド」(77

text：ガモウユウイチ

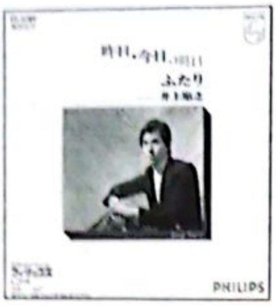
CamScannerでスキャン

年)、「ウォンテッド（指名手配）」(77年)、「UFO」(78年)、「サウスポー」(78年)、「モンスター」(78年)、「透明人間」(78年)などのヒットを放った。また、77年より『レッツゴーヤング』の司会を担当、太川陽介、川崎麻世、狩人、渋谷哲平、倉田まり子などを育成した。その傍ら、イージーリスニング・オケの都倉俊一サウンドオーケストラを編成、数々のLPを発表し、全国で演奏活動を行い、約5年余りに渡って活動した。

83年からはLAに活動の拠点を移し、ジョン・トクラの名前で、作曲、プロデュース活動を開始。シルヴィ・バルタン、ジョン・シュナイダー、少女隊、鈴木雄大などの作品に携わる。中でも作曲とプロデュースを担当したレイフ・ギャレットのアルバム『My Movie Of You』は、Billboard 200（アルバム・チャート）最高第28位を記録した。88年にはロンドンに移住、本格的なミュージカル作曲や舞台制作に従事。『黒い眼の女』(91年)、『An Inspector Calls』(93年)などを担当する。94年には、日本人作曲家として初めてのオリジナル・ミュージカル『Out Of The Blue』が公演された。その後も、『GALAXY EXPRESS 999』(97年)、『風と共に去りぬ』(02年)などのミュージカルの作曲を担当。ほか、映画音楽として『夢一族／ザ・らいばる』(79年)、『X（クロス）-Roads』(00年)などを担当。ドラマ音楽では、『源氏物語』(80年)、『センセイの鞄』(03年)、『夏目家の食卓』(05年)などを担当。アニメ作品では、『デビルマン』(72年)、『ピンク・レディー物語 栄光の天使たち』(78年)、『フレンドリー・アベニュー』(05年)などの音楽や主題歌を担当している。14年に取り壊された国立競技場ファイナル・イベントでは、4万人大合唱の編曲と指揮を担当した。

彼の楽曲スタイルは、ピンク・レディーや山本リンダの一連のヒット曲のようなアッパーなノベルティ風の楽曲、ペドロ＆カプリシャスのヒット曲のようなバラード、歌手の歌唱力を活かせる歌う曲、そして器楽的な曲と、大きく分類出来、そこから細かく枝葉が広がり都倉サウンドを生み出している。そして、サウンドやリズムが特徴的なため、どうしても耳がいってしまうが、彼の大きな強みはしっかりとしたメロディ・ラインにつきる。そのことは、作曲家デビュー作である「あなたの心に」からすでに完成している。現在も人気のある彼のスタンダード・ナンバーが多いのは、どんなアレンジを施しても最終的にはメロディの良さがあるということだ。ジャンルを問わず、多くの楽曲を生み出してきた都倉メロディは今後も多くの大衆を魅了し続けることだろう。

「This is my Song 都倉俊一の世界」
73年に発表された全編英語詞によるソロ・アルバム。



フィリップス／1971年4月25日

昨日・今日・明日

井上順之

作詞：阿久悠
作曲・編曲：都倉俊一
B面：ふたり

ザ・スパイダース解散後、ソロになった井上順之
井上順）の初シングル。タイトルの元ネタは、ヴィ
リオ・デ・シーカ監督の63年の同名映画。ベース
インにビートルズ「オブ・ラ・ディ、オブ・ラ・ダ
影響を感じさせるポップ・ナンバーで、ポジティヴな
セージとキャッチーなメロディで、オリコン・シング
チャート最高第7位の大ヒットに。ソロとなって唯
ベスト10入り楽曲で、彼の代表作となった。

キャニオン／1972年6月5日

どうにもとまらない

山本リンダ

作詞：阿久悠
作曲・編曲：都倉俊一
B面：青い月夜は

ヒットから遠ざかっていた山本リンダの復活作とな
た楽曲で、オリコン・シングル・チャート最高第3
約38万枚を売り上げた。山本リンダの映像を思い浮
べながらサンバをベースに作曲を行い、阿久悠が後か
言葉をはめ込んだ。当初は「恋のカーニバル」のタイ
ルだったが、発売前には「どうにもとまらない」と変
演奏は、水谷公生（Gt）、栗林稔（Key）、江藤勲（B
田中清司（Dr）などが担当した。

CBS・ソニー／1972年1月

花のある坂道

大石悟郎

作詞：阿久悠
作曲：都倉俊一
編曲：馬飼野俊一
B面：君に涙としあわせを

寺内タケシとバニーズやジ・エドワーズの大石悟
（現：大石吾朗）のソロ・デビュー・シングル。ボサノヴァ
風のアプローチのAメロから、サビは同主調のメジャー
キーに転調。一気に世界観が変わるドラマティックな手
法だ。後半部分では、モーダル・インターチェンジ、ダ
ブル・ドミナントと、音楽理論に裏付けられた展開に。
オリコン・シングル・チャートは最高第54位だったが、
73年から「コッキーポップ」のDJとして活躍した。

ワーナー／パイオニア
1973年3月10日

ジョニィへの伝言

ペドロ&カプリシャス

作詞：阿久悠
作曲・編曲：都倉俊一
B面：ある日・出逢い

前野曜子に代わり、新たに高橋まり（現：高橋真梨子）
が加入した新生ペドロ&カプリシャスの第1弾シング
ル。オリコン・シングル・チャート最高第24位ながらも、
約25万枚の売り上げ。42週に渡ってチャート・インす
るロング・ヒットとなった。ドリアン・スケールがその
まま登場するメロディ、さり気なく組み込まれるモーダ
ル・インターチェンジや「6th」コードなど、音楽的に
もセンス溢れたアプローチが多い。

フィリップス／1973年8月25日

個人授業

フィンガー5

作詞：阿久悠
作曲・編曲：都倉俊一
B面：恋の研究

ベイビー・ブラザーズとしてデビューしていた彼らが
レコード会社を移籍して改名、その移籍第1弾シングル。
同じく都倉俊一が作曲を担当していた山本リンダ「もっ
といいことないの」（72年）のメロディを改変、作詞も
同曲を担当していた阿久悠がリメイクした。「もっとい
いことないの」で多用されていたリフを無くし、Bメロ
にキャッチーなブレイクを導入、約72万枚の売り上げ
の大ヒットとなり一躍人気グループとなった。

text：ガモウユウイチ

CamScannerでスキャン

キャニオン／1973年

白い羽の勇士

ザ・キャラクターズ

作詞：阿久悠
作曲・編曲：都倉俊一
B面：悲しい恋の物語

原田信夫とファイヴ・キャラクターズを母体に69年に「港町シャンソン」でデビューしたキャラクターズ。本曲は、71年にアメリカを中心にヒットしたマーク・リンゼイとレイダース「嘆きのインディアン」のリズム・パターンを引用した楽曲で、独特のシャッフルのリズムが印象的。このリズムは、都倉俊一提供楽曲の幾つかでブラッシュ・アップされており、完成形としてピンク・レディー「UFO」(77年)に受け継がれた。

キャニオン／1974年

目かくし

石江理世

作詞：阿久悠
作曲・編曲：都倉俊一
B面：青春期

「スター誕生！」出身の石江理世のデビュー曲。畳み掛けるかのようなメロディ・ライン、ブラッド・スウェット&ティアーズやシカゴに触発されたアレンジ、そして14歳とは思えぬパンチのある歌声で一部で高い評価を得たが、オリコン・シングル・チャート最高第79位に留まった。77年に、黒木真由美、目黒ひとみと、ギャルを結成して「薔薇とピストル」で再デビューを果たすもシングル2枚を残して引退した。

キャニオン／NAV
1974年7月25日

人魚の夏

小林美樹

作詞：阿久悠
作曲：都倉俊一
編曲：小谷充
B面：太陽と恋と夢

「スター誕生！」出身の小林美樹のデビュー・シングル。キャッチーでポップなメロディ・ラインと、実力派を感じさせる歌唱力の隠れた佳曲。「可愛いし、性格もいい子だから何とかしてやりたいと思って書いた」と都倉俊一は語ったが、オリコン・シングル・チャート最高第69位に留まった。74年下期の銀座音楽祭ではテレサ・テンと共に熱演賞を受賞。引退後は、開局したばかりのテレビ新潟のアナウンサーとして活躍した。

キャニオン／1974年8月25日

闇夜にドッキリ

山本リンダ

作詞：阿久悠
作曲：都倉俊一
編曲：穂口雄右
B面：きっとまた

ザ・キャラクターズ「白い羽の勇士」(73年)をブラッシュ・アップさせたジャッキー吉川とブルー・コメッツ「シンデレラ」(73年)。さらに同曲をブラッシュ・アップしたのが本楽曲だ。シンセが大胆に使用されているが、「第25回NHK紅白歌合戦」ではブラスに置き換えられており、パワフルなブラス・ロック・サウンドにアレンジされていた。後年にピンク・レディー「UFO」(77年)にリズム・パターンが流用される。

キング／1975年6月25日

感情線

黒木真由美

作詞：阿久悠
作曲・編曲：都倉俊一
B面：可愛い反抗

「スター誕生！」をきっかけにスカウトされた黒木真由美の2枚目のシングル。通常の8ビートと2ビート風の2つのリズムを包括したポップ・ナンバーで、感情に訴えてくる黒木真由美の歌も15歳とは思えぬ表現力。本楽曲が収録されたアルバム「12のらくがき」は、山下達郎の初期提供楽曲が収録されているため、近年中古市場で高騰を見せている。現在はアパレル・ブランド、ルアンジュのブランド・プロデューサー。

CamScannerでスキャン

ビクター／1976年8月25日

ペッパー警部

ピンク・レディー

作詞：阿久悠
作曲・編曲：都倉俊一
B面：乾杯お嬢さん

ピンク・レディーのデビュー曲。レコード会社の意向としては、最終的にB面に収録された「乾杯お嬢さん」をA面にプッシュしてきたが、都倉俊一の要望により「ペッパー警部」がA面として発売された。Aメロがダブル・テンポの8ビート、Bメロが白玉、サビが16ビートと目まぐるしくリズム・チェンジするアレンジが斬新で、徐々に売り上げを伸ばし、オリコン・シングル・チャート最高第4位ながら、約61万枚を売り上げた。

ビクター／1977年3月10日

カルメン '77

ピンク・レディー

作詞：阿久悠
作曲・編曲：都倉俊一
B面：パイプの怪人

ブラス・ロックの影響を感じさせる楽曲で、イントロから怒濤のブラス・ワークが登場。音符が踊りまくる難易度の高いスコアに、名だたるスタジオ・プレイヤーたちが戸惑ったという。全員汗だくになり疲労困憊で何度も録り直したサウンドは、同時代の海外のバンドと比較しても遜色の無い素晴らしい仕上がり。後藤次利（Bs）や宗谷春男（Dr）のリズム・セクションもファンキーなグルーヴを生み出している。

ビクター／1977年9月5日

ウォンテッド（指名手配）

ピンク・レディー

作詞：阿久悠
作曲・編曲：都倉俊一
B面：逃げろお嬢さん

ピンク・レディーの中で、都倉俊一の8ビート的傾向が最も出ている楽曲で、作曲は彼がギターで行った。Aメロ部分ではハード・ロック的なアプローチ、Bメロではスラップによるファンク的なアプローチと、ジャンルを越えたサウンドが展開。スラップが導入されたヒット歌謡曲としては最初期のもので、金田一昌吾（Bs）がプレイ。ほか、津村泰彦（Gt）、井上鑑（Key）、宗台春男（Dr）などが参加している。

ビクター／1978年3月25日

サウスポー

ピンク・レディー

作詞：阿久悠
作曲・編曲：都倉俊一
B面：アクセサリー

初のオリコン初登場1位を獲得した7枚目のシングル。一旦は楽曲が完成したが、ディレクターの飯田久彦から作り直しが願い出され、編曲も含めて2日間で新たにスコアを書き上げた。完成したのは、レコーディング予定時刻の数時間前だったという。ダブル・テンポの8ビートから始まり目まぐるしくリズムが変化していく、「ペッパー警部」（76年）と同路線のナンバーで、ピンク・レディーらしさが浮き出ている。

フィリップス／1980年6月1日

No.1

柏原よしえ

作詞：阿久悠
作曲・編曲：都倉俊一
B面：何でもない何でもない

「スター誕生！」出身の柏原よしえ（現：柏原芳恵）のデビュー曲。80年デビュー組では、後に松田聖子、河合奈保子と並ぶ人気を得たが、デビュー当初は、三原順子（現：三原じゅん子）、岩崎良美らに、チャートで大きく差を広げられていた。クロマティックなイントロや、トニックのルート音で終らないメロディなど、それまでに無いほど実験的な試みをした楽曲で、オリコン・シングル・チャート最高76位を記録した。

CamScannerでスキャン

RCA／1972年7月25日

犯ちは一度だけ

恵美

作詞：千家和也
作曲・編曲：都倉俊一
B面：愛の教え子

台湾国籍で東京都出身の恵美（フィミー）は、72年に本名の蕭恵美（シャウ・フィミー）名義で「雨、そして別れ」でデビュー。2枚目のシングルとなった本楽曲では、ポップス路線から山本リンダ風のグルーヴ歌謡路線に変更した。イントロの激しいワウ・ギター、欧陽菲菲のようなダイナミックなギター、都倉作品では珍しい同主調転調と半音上のキーへの転調など、高い完成度を持つ楽曲だったがチャート・インはならず。

ビクター／1973年7月20日

シンデレラ

ジャッキー吉川とブルー・コメッツ

作詞：千家和也
作曲：都倉俊一
編曲：龍崎孝路
B面：緑の乙女

マーク・リンゼイとレイダース「嘆きのインディアン」（69年）のリズム・パターンを引用したザ・キャラクターズ「白い羽の勇士」（73年）を発展させたのが本楽曲。同年リリースのアルバム『ブルー・コメッツの素晴らしき音の殿堂』に、「シンデレラの脚」のタイトルで収録、コーラスを追加して「シンデレラ」と改題されてシングル・カットされた。この路線は、後のピンク・レディー「UFO」（77年）へと受け継がれた。

CBS・ソニー／1974年6月1日

ひと夏の経験

山口百恵

作詞：千家和也
作曲：都倉俊一
編曲：馬飼野康二
B面：太陽の友達

デビュー当初から「甘い誘惑」というタイトルであたためられていた楽曲で、時期を見て満を喫しての5枚目のシングルとしてリリースされた。結果、3作品ぶりのベスト10入りを記録して、最終的には当時自己最高位のオリコン・シングル・チャート最高第3位を記録、第16回日本レコード大賞大衆賞などを受賞し。この年にスタートした『赤い』シリーズの『赤い迷路』も高視聴率を記録して、一躍トップ・アイドルに躍り出た。

CBS・ソニー／1974年12月10日

冬の色

山口百恵

作詞：千家和也
作曲：都倉俊一
編曲：馬飼野康二
B面：伊豆の踊子

山口百恵初のオリコン・シングル・チャート第1位獲得楽曲で、6週に渡り首位を守った。当時15歳11ヵ月で、1位獲得女性ソロ最年少記録だった。マイナー・キーのミディアム・ナンバーで、通常4＋4小節で展開する部分に、あえて1小節ずつ付け足して5＋5小節で展開したりと、細かな部分に配慮が行き届いた楽曲に仕上げている。彼女の4曲のチャート第1位楽曲中、「横須賀ストーリー」に次ぐ53万枚を売り上げた。

ソニー／エピック
1974年2月21日

逃避行

麻生よう子

作詞：千家和也
作曲：都倉俊一
編曲：馬飼野俊一
B面：泪は紅い

猪俣公章の門下生としてレッスンを積んでいた麻生よう子のデビュー曲。たたみかけるようなAメロ、広い音域を使用したメロディ・ラインのサビ、「Ⅳm」コードの印象的な使用など、ペドロ&カプリシャス「ジョニィへの伝言」（73年）と同路線の雰囲気を持つ楽曲。オリコン・シングル・チャートは最高第32位に留まったが、第16回日本レコード大賞最優秀新人賞を受賞、彼女最大のヒット曲となった。

text：ガモウユウイチ

CamScannerでスキャン

その他の組み合わせ

ビクター／1969年9月1日

あなたの心に

中山千夏

作詞：中山千夏
作曲：都倉俊一
編曲：大柿隆
B面：ZenZen ブルース

都倉俊一にとっての事実上の作曲家デビュー曲。元はカセット・テープ制作会社のポン・ミュージックが中山千夏の朗読アルバムの挿入歌としての依頼で、曲はフォーク調でという要望だった。都倉俊一のメロディメーカーの才が発揮された印象的なメロディと、中山千夏の澄んだ歌声で、オリコン・シングル・チャート最高第2位、売り上げ約42万枚の大ヒットを記録。演奏は江藤勲（Bs）や石川晶（Dr）が担当した。

ソニー／エピック
1973年10月1日

わたしの宵待草

浅田美代子

作詞：小谷夏
作曲：都倉俊一
編曲：高田弘
B面：恋のシンデレラ

デビュー曲の「赤い風船」（73年）が約48万枚の大ヒットを記録した浅田美代子3枚目のシングル。Aメロ部分はメジャー・キーだが、Bメロ部分で平行調のマイナー・キーへ移調。サビはサブドミナントから始まり、メジャー・キーともマイナー・キーともどちらにも解釈できる進行楽曲で、明るさと暗さが両方入り混じった独特のサウンドだ。オリコン・シングル・チャートは最高第11位で、ベスト10入りを逃した。

CBS・ソニー／1974年4月1日

ヘイベイビー

フォーリーブス

作詞：宮下康仁
作曲・編曲：都倉俊一
B面：ひとつぶの幸福

フォーリーブス流のブルース・ナンバー。ダブル・テンポの高速8ビートという点では、後のピンク・レディー「ペッパー警部」（76年）にも通じるリズムを持つ楽曲。コード進行は前半部分はブルース進行で、全てのコードがドミナントと同様の「7th」が付く。そのため、メジャー・キーでありながらも明るさは余り無い。中間部は、ブルース進行をベースにした進行で、「♭Ⅶ7」コードが登場するのがユニークだ。

キング／1974年4月25日

いとこ同士

有田美春

作詞：安井かずみ
作曲・編曲：都倉俊一
B面：朝の電車

『全日本歌謡選手権』で10週勝ち抜いたのをきっかけにスカウトされた有田美春のデビュー曲。軽快なホーンが印象的なハッピー・ポップで、童謡歌手の様な丁寧な歌唱に好感が持てる。デビュー直後の74年に鈴木ヒロミツなどと共に『レッツゴーヤング』の司会を担当。作曲を担当した都倉俊一も77年から同番組の司会を担当している。その後加原夏美と改名、『ウィークエンダー』のレポーターとして人気を博した。

キャニオン／NAV
1975年5月10日

ひとりごと

岡田奈々

作詞：松本隆
作曲・編曲：都倉俊一
B面：ひとりぼっちの幸福

『あなたをスターに！』で優勝、スカウトされた岡田奈々のデビュー・シングル。フォーク・スタイルのシンプルな楽曲ながら、Aメロ部分はコード構成音の1箇所を変化させるクリシェによるコード進行と、凝ったサウンド・アプローチを行っている。エンディングにはメンデルスゾーンの「結婚行進曲」風のメロディを挿入。オリコン・シングル・チャート最高第38位に留まったが、岡田は同年に始まったドラマ『俺たちの旅』で人気を得た。

text：ガモウユウイチ

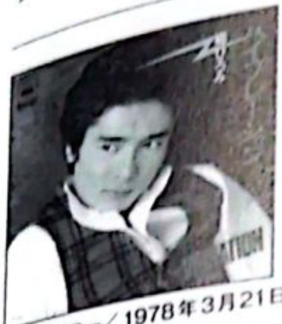
ワーナー／1977年3月25日

あずさ2号

狩人

作詞：竜真知子
作曲・編曲：都倉俊一
B面：季節が変わる前に

加藤久仁彦と加藤高道による兄弟デュオの狩人のデビュー曲。竜真知子が先に書いた歌詞を読んだとたんに都倉俊一の頭の中をメロディが浮かんだという。オリコン・シングル・チャートでは最高第4位を記録。約51万枚を売り上げ、第19回日本レコード大賞新人賞を受賞した。現在は、狩人と同時にお互いにソロでも活動。加藤久仁彦は、森田公一に代わりトップギャランに加入。加藤久仁彦＆トップギャランとしても活躍している。



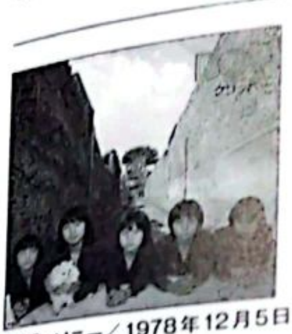
CBS・ソニー／1978年3月21日

バイブレーション（胸から胸へ）

郷ひろみ

作詞：島武実
作曲：都倉俊一
編曲：船山基紀
B面：光る河

CBS・ソニーの酒井政利から「郷ひろみの新たな一面を引き出したい」との依頼で制作された25枚目のシングル。シャッフルのハード・ロック的なアプローチのサウンドで、ハードなギターは矢島賢が担当。ポルタメントを多用したアナログ・シンセも印象的。1コーラス7ブロックにも渡る複雑な構成でありながらも、サビへ向かっての盛り上がりが素晴らしく、オリコン・シングル・チャート最高第6位のヒットを記録。



CBS・ソニー／1978年12月5日

BOY

クリッパー

作詞：島武実
作曲：都倉俊一
編曲：都倉俊一、田辺信一
B面：プリズムの午後

フィリピン出身の兄弟グループ、クリッパーの3枚目のシングル。フィンガー5の晃を彷彿とさせるデニスのハイトーンと、洗練されたコード進行を持つキャッチーなメロディで、ポスト・フィンガー5の呼び声も高かったが、オリコン・シングル・チャート最高第86位と売り上げは振るわなかった。フィリピンに帰国後は、ネイルクリッパーズと改名して活動。声変わりしたデニスに代わり、姉のダイアナが「BOY」を引き継いだ。

コロムビア／1978年7月10日

Deep

渋谷哲平

作詞：松本隆
作曲・編曲：都倉俊一
B面：ファイヤー

『スター誕生！』で最優秀賞を受賞してデビューした渋谷哲平の3枚目のシングル。ダブル・テンポの高速8ビートのダンサブルなナンバーで、コーラスとのコール＆レスポンスのAメロと楽器とのユニゾンのBメロに心を持っていかれる。オリコン・シングル・チャート最高第52位と、売り上げ的には「標的」（79年）や「ヤング・セーラーマン」（79年）の方が上だが、渋谷哲平といえば本楽曲をイメージする人も多い佳曲だ。

RCA／1978年7月25日

地獄の天使

レイジー

作詞：なかにし礼
作曲・編曲：都倉俊一
B面：レイジーのテーマ

LOUDNESSの高崎晃や樋口宗孝が在籍していたレイジーの5枚目のシングル。それまでアイドル風の楽曲が多かった彼らだが、アイドルからの脱却を図ったナンバー。西城秀樹にも合いそうな情熱型歌謡ロックで、景山浩宣（現：影山ヒロノブ）のパワフルなヴォーカルにクラクラする。オリコン・シングル・チャート最高第7位と、初のベスト10入りを果たした。B面の「レイジーのテーマ」では、都倉俊一が作詞も兼任している。

CamScannerでスキャン

キング / 1979年8月21日

HOW！ワンダフル

倉田まり子

作詞：山上路夫
作曲・編曲：都倉俊一
B面：翼のない鳥

当時「レッツゴーヤング」の司会を務めていた都倉俊一が自ら「倉」を与えた芸名を持つ倉田まり子の3枚目のシングル。マイナー・キーのAメロから始まって、モーダル・インターチェンジを挟み平行調のメジャー・キーに転調。サビ後半は「IV－IVm」という進行を経て解決。一聴しただけでは分かりにくいほど凝ったコード進行を持った本曲で、第21回日本レコード大賞新人賞や第10回日本歌謡大賞放送音楽新人賞などを受賞した。

SMS / 1979年1月25日

私のハートはストップモーション

桑江知子

作詞：竜真知子
作曲：都倉俊一
編曲：萩田光雄
B面：たずねびと

桑江知子のデビュー曲で、ポーラ化粧品のCMソングとして使用され、オリコン・シングル・チャート最高第12位、約15万枚の売り上げを記録。サビのサブドミナントからダイアトニック・コードで下降するパターンは、ミニー・リパートン「ラヴィング・ユー」(74年) などで使用されている、ソウルで好んで使用されるウォークダウンなコード進行。サビの16ビートのリズムなど、ソウル・ミュージックの影響が多く感じられる楽曲だ。

コロムビア / 1983年3月21日

決心

原真祐美

作詞：友井久美子
作曲・編曲：都倉俊一
B面：ときめきING

不作といわれた83年デビュー組の中でも、第2回メガロポリス歌謡祭新人賞を受賞するなど健闘した原真祐美のデビュー・シングル。オリコン・チャート・イン(100位内) は果たせなかったが、洋楽のエッセンスと歌謡曲的メロディが絶妙なバランス感覚で融合。バーティ・ヒギンズの雰囲気も感じさせる和製AORの隠れた名曲だ。歌唱力も申し分無い上にルックスも良く、売れなかったのが不思議なほど。

フォノグラム / 1984年8月28日

FOREVER ～ギンガムチェック story～

少女隊

作詞：亜伊林
作曲：都倉俊一
編曲：John D'andrea, David Wheatly
B面：ピンクのタオル

鳴り物入りでデビューした少女隊のデビュー曲。オズモンド・ブラザーズなどの仕事で知られるジョン・ダンドリアを共同プロデューサーに迎え、ダン・ハフ (Gt)、ヴィニー・カリウタ (Dr) などによる本格的なウェスト・コースト・サウンドを展開。1番と2番で展開が違う部分も当時としては斬新だ。85年に新メンバーによる編成で「Forever2001」がリリースされた。なお、作詞を担当した亜伊林は、三浦徳子の別名義。

CBS・ソニー / 1985年6月5日

恥ずかしすぎて

南野陽子

作詞：康珍化
作曲：都倉俊一
編曲：大村雅朗
B面：さよなら、夏のリセ

都倉俊一の事務所、S-Oneカンパニーのタレント第1号だった南野陽子のデビュー・シングル。元々は「天使のハンカチーフ」というタイトルだったが、南野がレコーディング時に恥ずかしくて顔を真っ赤にして歌ったので、康珍化が彼女の目の前で書き直した。リフが効果的に使用されており、ポップスでありながらもロック的な要素も含んだ楽曲だ。なお、「天使のハンカチーフ」というタイトルは、井森美幸の楽曲に流用された。

text：ガモウユウイチ

山本リンダ

雑誌「装苑」のモデルやNHK「夢のセレナーデ」のカヴァー・ガールとして人気を博していた山本リンダは、15歳の時に遠藤実作詞・作曲によるシングル「こまっちゃうナ」(66年) で歌手デビューした。舌ったらずでところどころひっくりかえるキュートな歌唱が話題となり、約50万枚を越えるヒットを記録した。ところがその後は、「夢見るわたし」(66年)、「涙がとまらない」(67年)、「ミニミニデート」(67年)、「フリ・フリ5」(68年) などをリリースするが、セールス的には低迷。オリコン・シングル・チャート・インさえもならなくなった。

その後、20枚目のシングルは、当時ピーター「愛の美学」(70年)、井上順之「昨日・今日・明日」(71年)、和田アキ子「天使になれない」(71年) などのヒットを放っていた都倉俊一が起用された。この楽曲は、山本リンダの映像を思い浮かべながら作曲を行い、リズムはサンバに決定された。そして「恋のカーニバル」というタイトルでオケも完成したが、問題は山本リンダの歌にあった。それまでの舌ったらずの歌い方だとどうしてもサンバのリズムに乗らない。そこで、彼女に母音を強調して歌わせてみたところ、とたんにノリがよくなってレコーディングも無事終った。そしてその時のレコーディング・スタッフたちが何となく口ずさんでいたのが「どうにもとまらない」という部分で、結局「どうにもとまらない」(72年) というタイトルでリリース。オリコン・シングル・チャート最高第3位を記録、見事復活を果たした。

都倉俊一作曲の第2弾「狂わせたいの」(72年)、第3弾「じんじんさせて」(72年) もリズムを強調したアッパーなノヴェルティ路線で、それぞれチャート最高第6位と第10位を記録した。同路線はのちのピンク・レディーの諸作に受け継がれる。第4弾となった「狙いうち」(73年) は、都倉俊一が「ウダダ、ウララ、ウラウララ」と借り歌で吹き込んだデモを作詞の阿久悠に渡したが、出来上がった歌詞はそれがそのまま使用されていた。チャート最高第13位ながら、山本リンダの代表作といえば本楽曲を挙げる人も多い。

そして、「どうにもとまらない」からの山本リンダは、美女がセクシーな振り付けや衣裳で歌を歌うという、成人男性をターゲットにしたものだったが、大人よりも子供たちに人気を呼んだ。全ての振り付けをあっという間に覚えてしまい、テレビに山本リンダが登場すると一緒に歌って踊っていた。この予想外の現象は、その後、フィンガー5、ピンク・レディーへと受け継がれていく。その後、セールス的には右肩下がりとなるが、近田春夫&ハルヲフォンがカヴァーした「きりきり舞い」(73年)、ピンク・レディー「UFO」(77年) の元ネタの「闇夜にドッキリ」(74年) など、後の都倉サウンドの礎を築いた楽曲が、歌：山本リンダ／作詞：阿久悠／作曲：都倉俊一のトリオによって生み出されていった。

「都倉俊一を歌う」
山本リンダ

森田公一

キャッチーなメロディ・ラインを持つパワー・ポップの作り手

1940年2月25日、北海道留萌市出身。日本大学芸術学部に入学して作曲を学び、65年に原トシハルとBアンドB7にピアニストとして参加。のちにピンキーとキラーズに加入するジョージ浜野も参加していた。66年にシングル「雨が降ってきた」でデビュー後は、ピアノのみならず作曲や編曲も担当、ジャズ、カンツォーネ、シャンソン、フォークなど、オール・ジャンルな楽曲を演奏するコンボだった。68年にはメンバーを入れ替え、原トシハルとB&Bに発展、シングル「こころの恋人」などをリリースする。また、この時期に森山良子「愛する人に歌わせないで」の作詞・作曲も担当している。

ムード歌謡化する原トシハルとB&Bを佐々木洋一と共に脱退後は、佐々木洋一をリーダーとして、荒木一郎のバック・バンドだったマグマックス・ファイブやスカイ・ホークスの小原重彦などとクリエイティブ（ス）を結成。正式メンバーではないが、日劇ダンシング・チーム出身で、エイト・ポピーズの一員として活躍後、ソロ歌手として「太陽がほしい」(67年) や「サイケな街」(68年) などをリリースしていた万里れい子こと渡部玲子(現：渡部れい子)も参加していた。その後、同コンボがナイト&デイズへ発展。そして、ナイト&デイズにマグマックス・ファイブの原田正美が参加して、森田公一、渡部玲子、小原重彦、原田正美の編成で森田公一とトップギャランを結成。71年には、レモン・ルーツの北村勝彦が加入して、シングル「恋のグアム島」でデビュー。同年に、同じくレモン・ルーツの岩田ヤスオ（岩田康男）が参加し、「時は変わる（キープ・クリーン）」をリリース。

バンド活動の傍ら、72年にドラマ『時間ですよ（第2期）』(71年) に出演していた天地真理の劇中歌「ひとりじゃないの」の作曲を担当、オリコン・シングル・チャート第1位の大ヒットを記録する。なお、作詞を担当したのは同ドラマの演出家であった小谷夏（久世光彦）だった。同年にはほかに、和田アキ子「あの鐘を鳴らすのはあなた」(72年)、天地真理「虹をわたって」(72年)、アグネス・チャン「ひなげしの花」(72年) などを提供、一躍人気作曲家となった。その後も、天地真理「若葉のささやき」(73年)、「恋する夏の日」(73年)、「空いっぱいの幸せ」(73年)、「恋人たちの港」(74年)、「恋と海とTシャツと」(74年)、「想い出のセレナーデ」(74年)、アグネス・チャン「小さな恋の物語」(73年)、キャンディーズ「あなたに夢中」(73年)、「そよ風のくちづけ」(74年)、「危い土曜日」(74年)、「ハートのエースが出てこない」(75年)、桜田淳子「黄色いリボン」(74年)、「はじめての出来事」(74年)、「十七の夏」(75年)、「天使

text：カモウユウイチ

CamScannerでスキャン

のくちびる」(73年)、「ゆれてる私」(75年)、「夏にご用心」(75年)、ダ・リリーで「好きよキャプテン」(75年)、岡田奈々「青春の坂道」(76年)など、ヒット曲を連発。キャッチーでありながらも叙情的で日本情緒溢れたメロディは、多くの女性歌手に好まれた。

73年に森田公一とトップギャランでリリースした「下宿屋」がヒット、76年にリリースした「青春時代」は8月に発売され、ジワジワと人気を得て、翌年には約102万枚のミリオン・セラーを記録。77年の「第28回NHK紅白歌合戦」にも出演して、彼らを代表する楽曲となった。その後も、トップギャランで「思い出のピアノ」(77年)や、「過ぎてしまえば」(77年)などのヒットを生んだ。作曲家としても、桜田淳子「気まぐれヴィーナス」(77年)、新井満「ワインカラーのときめき」(77年)、榊原郁恵「わがまま金曜日」(77年)、石野真子「春ラ!ラ!ラ!」(80年)、石川秀美「恋はサマー・フィーリング」(83年)、菅原洋一&シルヴィア「アマン」(83年)、河島英五「時代おくれ」(86年)などのヒット曲を放った。また、76年に大森亜土「南の島のハメハメハ大王」がNHK「みんなのうた」でオンエアされ、大きな反響を呼び早くも放送2ヶ月後に再放送される。大森亜土版のほか、堀江美都子・こおろぎ'73版、小鳩くるみ版、上條恒彦版などがレコード会社各社から同時リリースされるという国民的ヒット曲に。同曲の好評を得て、同年にはトップギャランの小原重彦と藤本房子による「ゴクロウサン」の作曲も担当。藤本房子とこおろぎ'73の歌唱によりレコード化された。そのシンプルで一般の人でも気軽に口ずさめるメロディ・ラインは多くの人に愛され、その後はアニメ主題歌を手がけることも多くなり、『ドン・チャック物語』(75年)、『スターウルフ』(78年)、『サイボーグ009 超銀河伝説』(80年)、『小公女セーラ』(85年)などの主題歌を担当した。ほか、長らくCMソングで使用されている日本香堂「青雲のうた」は、童謡のような流れる旋律で、多くの日本人の記憶に残っている楽曲の一つだろう。

なお、森田公一とトップギャランは81年に解散後、90年にシュガーのミキ(笠松美樹)などを加え、森田公一&トップギャランIIとして一時再結成。その後は01年に、小原重彦、北村勝彦、原田正美らが結成したフレンズを母体としてトップギャランが復活。10年からは狩人の加藤久仁彦が加入して話題を呼んだ。現在では、小原重彦、渡部れい子、原田正美、北村勝彦の編成で活動中。11年にリリースしたシングル「青春紙風船」の作曲も森田公一が担当している。

「ファースト・アルバム」
森田公一とトップギャラン

「下宿屋」「乳母車」など、阿久悠とのコラボによるトップギャランの1st

DISC GUIDE 阿久悠×森田公一

東芝 1971年12月1日

気ままなジーナ

松尾ジーナ

作詞：阿久悠
作曲・編曲：森田公一
B面：背中見せないで

ドラマ『シルバー仮面』（71年）に夏純子と共に出演、人気を博していた松尾ジーナの歌手デビュー曲。ドイツ系アメリカ人と日本人のハーフということから外国人歌手風のノヴェルティな楽曲。ブラスによる洋楽ナイズされた部分と、歌謡曲色の強いギターのオブリガートが同居したユニークなサウンド。『シルバー仮面』は病気を理由に途中降板。もし最終話まで出演していたら人気特撮ヒロインの一人になっていたかもしれない。

フィリップス／1973年

虹

井上順

作詞：阿久悠
作曲：森田公一
編曲：高田弘
B面：何も言わなくても

芸名を井上順之から井上順に戻して3枚目のシングル。黒柳徹子と一緒に司会を担当していた『火曜歌謡ビッグ・マッチ』の主題歌で、スタックス風のサウンドが心地よいバブルガム・ソウル・ナンバー。全然黒っぽくない井上順の歌が、却って楽曲にオリジナリティを生み出している。同番組終了後は、黒柳徹子が『ザ・ベストテン』、井上順が『夜のヒットスタジオ』と、ライバル関係の人気音楽番組の司会をそれぞれ担当した。

RCA／1972年3月25日

あの鐘を鳴らすのはあなた

和田アキ子

作詞：阿久悠
作曲・編曲：森田公一
B面：誰もいない朝

前作「夜明けの夢」（71年）のオリコン・シングル・チャート最高第10位から、最高第53位と大きく順位を落としてしまった楽曲だが、阿久悠が時代と孤独をテーマに作詞した歌詞などが高い評価を受け、第14回日本レコード大賞最優秀歌唱賞を受賞。その後も、和田アキ子の代表曲としてNHK『紅白歌合戦』でも6回に渡って歌唱した。指板を広く使用した寺川正興のベースが驚異的で、エレベーター奏法と称されている。

東宝／DAN
1973年8月20日

虹色の夢

あさかまゆみ

作詞：阿久悠
作曲：森田公一
編曲：馬飼野康二
B面：少女の胸に

ドラマ『ウルトラマンタロウ』（73年）などで女優として活躍していたあさかまゆみのデビュー曲。アグネス・チャンや天地真理にも通じるようなポップなメロディ・ラインのカントリー・ナンバーだが、歌唱力という点では彼女たちに劣るせいか、リヴァーブが相当かけられているのが印象的。その後朝加真由美と改名、6枚のシングルをリリース後に女優に専念。傍ら、ジャズ・シンガーとして、2枚のアルバムをリリースしている。

ビクター／1974年12月5日

はじめての出来事

桜田淳子

作詞：阿久悠
作曲：森田公一
編曲：竜崎孝路
B面：特別な気持

全18曲のオリコン・シングル・チャート・ベスト10入りを記録している桜田淳子だが、第1位を獲得したのは本楽曲のみ。メジャー・キーと平行調のマイナー・キーによる構成で、メジャー・キーでは8ビート、マイナー・キーでは16ビートと、竜崎孝路のリズム・アレンジが効果的で、彼女自身最高記録の約53万枚を売り上げた。テレビの音楽番組では、メジャー・キー部分をダブル・テンポで演奏することもあった。

text：カモウユウイチ

CamScannerでスキャン

ビクター／1976年2月25日

若草のデート

北村優子

作詞：阿久悠
作曲：森田公一
編曲：細田ヒロ、萩田光雄
B面：学園祭

「スター誕生！」でグランドチャンピオンに輝き、芸能界入りした北村優子のデビュー曲。森田公一らしい覚えやすいシンプルなメロディ・ラインのバブルガム・ポップ・チューンで、細田ヒロと萩田光雄によるリズム・アレンジが効果的にメリハリを加えている。北島三郎と村田英雄の2文字を芸名として期待の新人として将来を嘱望されたが、シングル4枚を残して約1年ほどで歌手活動を休止、女優業に専念した。

CBS・ソニー／1976年8月21日

青春時代

森田公一とトップギャラン

作詞：阿久悠
作曲・編曲：森田公一
B面：別れ煙草

71年に自ら結成した森田公一とトップギャランを代表する楽曲で、オリコン・シングル・チャート第1位、約102万枚の売り上げを記録。リリースしたのは76年8月だが、77年にミリオン・セラーとなり大ヒット。77年の「第28回NHK紅白歌合戦」にも出場した。ロック・サウンドだが、流れるようなメロディ・ラインは森田公一節たっぷり。アイドル・ポップスだけでなく、大人の情緒を感じさせる楽曲の才をも知らしめた。

ビクター／1977年5月15日

気まぐれヴィーナス

桜田淳子

作詞：阿久悠
作曲：森田公一
編曲：船山基紀
B面：若い人のテーマ

マリリン・モンローをイメージして阿久悠が歌詞を書いた楽曲で、途中のスキャット部分はモンローが歌った「アイ・ワナ・ビー・ラヴド・バイ・ユー」（59年）をイメージしたもの。前作「あなたのすべて」（77年）まではロング・ヘアだったのが、本楽曲ではショート・ヘアにイメージ・チェンジ、楽曲もアップ・テンポの快活なサウンドへと変化。オリコン・シングル・チャートは最高第7位で、約21万枚を売り上げた。

キング／POPSHOP
1977年8月5日

ワインカラーのときめき

新井満

作詞：阿久悠
作曲：森田公一
編曲：船山基紀
B面：あぶない季節

前年に森敦の「月山」をテーマにしたアルバム「組曲・月山」をリリース、高い評価を得ていた新井満のセカンド・シングルで、カネボウのCMソングとして制作された。アンティシペーションが多用されたAメロこそ森田公一らしくないが、サビは彼らしい流れるメロディ・ライン。新井満は、近年では自ら歌った「千の風になって」を作曲。秋川雅史ら多くの歌手がカヴァーして、第49回日本レコード大賞作曲賞を受賞した。

CBS・ソニー／1986年8月27日

時代おくれ

河島英五

作詞：阿久悠
作曲：森田公一
編曲：チト河内、福井峻
B面：人生

CBS・ソニー（現：ソニーレコード）移籍第1弾として制作。オリコン・シングル・チャートは最高第77位止まりだったが、同年の日本有線大賞で特別賞を受賞した。マイナー・キーでスタートするも、いつの間にか平行調のメジャー・キーに移調しているというユニークなコード進行を持った楽曲で、覚えやすいメロディ・ラインと曲構成は森田公一の真骨頂。後に、森田公一とトップギャランⅡでセルフ・カヴァーした。

CamScannerでスキャン

その他の組み合わせ

CBS・ソニー／1972年5月21日

ひとりじゃないの

天地真理

作詞：小谷夏
作曲：森田公一
編曲：馬飼野俊一
B面：ポケットに涙

天地真理のサード・シングルで、前作「ちいさな恋」(72年）に続いてオリコン・シングル・チャート第1位を獲得。流れるようなメロディ・ラインを持つバブルガム・ポップで、シャッフルの弾むようなリズムと天地真理の持つ天真爛漫な雰囲気がマッチ、約60万枚の売り上げは彼女のキャリアの中でも最高を記録した。この後も多くの作品を森田公一が担当、彼女のシングル全23作中12作品を担当している。

ワーナー／1972年11月25日

ひなげしの花

アグネス・チャン

作詞：山上路夫
作曲：森田公一
編曲：馬飼野俊一
B面：初恋

すでに香港で、アルバム『Will The Circle Game Be Unbroken』（71年）などをリリースしていたアグネス・チャンの日本デビュー曲。カントリーをベースにしながらも、リズムは16ビートという洋楽ナイズなサウンド。中国語訛りのカタコト日本語による歌唱が斬新で、オリコン・シングル・チャート最高第5位の大ヒットを記録。数多くいた外国人歌手の中でも最も成功した一人となった。

テイチク／ユニオン
1972年

ひみつのお別れ

五十嵐じゅん

作詞：落合恵子
作曲・編曲：森田公一
B面：その時あなたは

バラエティ仕立てのドラマ「日曜8時、笑っていただきます」（70年）でデビューした五十嵐じゅんの4枚目のシングル。作詞は当時ラジオ「セイ!ヤング」で人気絶頂だった落合恵子が担当。リフ的なメロディを紡いでいくスタイルで、何度も繰り返していくうちに自然とリスナーの耳に残る純歌謡曲。その後五十嵐淳子と改名、女優として活躍するも、中村雅俊と結婚して活動を一時休止。現在も女優として活躍中。

ワーナー／1973年2月10日

太陽のくちづけ

栗田ひろみ

作詞：山口あかり
作曲：森田公一
編曲：馬飼野俊一
B面：ほほえみの天使

映画「夏の妹」（72年）、「放課後」（73年）、ドラマ「伊豆の踊子」（73年）で、女優として活躍していた栗田ひろみのデビュー曲。森田公一にしては音飛びも多く、難易度が高いメロディ・ライン。危うい歌唱力ながら、はにかんだ表情で一所懸命歌う栗田ひろみの健気な姿に人気が集まった。オリコン・シングル・チャート最高第45位ながら約5万枚のセールスを記録。彼女の代表作となった。

テイチク／ユニオン
1973年

夢の世界に帰りたい

中津川みなみ

作詞：小谷夏
作曲：森田公一
編曲：竜崎孝路
B面：かわいい女

上条英男に発掘されて芸能界デビューした中津川みなみ。本楽曲は彼女の歌手デビュー曲で、キャッチーなメロディが印象的なバブルガム・ポップ・スタイルのナンバーながら、倍テンと半テンを使い分けた竜崎孝路のアレンジが秀逸。オリコン・シングル・チャート最高第48位ながら約5万枚のセールスを記録した。同年に「恋はノンノン」をリリース、映画「暴力街」（74年）でも共演するが、その後引退した。

text：カモウユウイチ

CBS・ソニー／1973年9月1日

あなたに夢中

キャンディーズ

作詞：山上路夫
作曲：森田公一
編曲：竜崎孝路
B面：なみだ草

キャンディーズのデビュー・シングル。冒頭から一人ずつ振り向きながら、3度のハーモニーを積み上げていくというコーラス色が強い楽曲で、グループならではの考え抜かれた楽曲。当時は田中好子がリード・ヴォーカルを担当、伊藤蘭と藤村美樹はサイド・ヴォーカルで、4枚目の「なみだの季節」(74年) までこの体制が続く。MMPが演奏していたライヴではクラヴィネットを導入、よりファンキーな演奏になっていた。

東芝／1975年9月20日

好きよキャプテン

ザ・リリーズ

作詞：松本隆
作曲：森田公一
編曲：萩田光雄
B面：恋する三秒間

燕奈緒美と燕真由美の双子のデュオ、ザ・リリーズのセカンド・シングル。森田公一の覚えやすいメロディ・ラインと萩田光雄のシンプルなアレンジで、彼女たちのハーモニーを引き立てている。オリコン・シングル・チャート最高第39位ながら約8万枚のセールスを売り上げ、彼女たちの代表作となった。85年に一度活動休止をしたが05年に再結成、デビュー40周年を越えた現在でも精力的にライヴを行っている。

キャニオン／NAV
1976年3月10日

青春の坂道

岡田奈々

作詞：松本隆
作曲：森田公一
編曲：瀬尾一三
B面：恋はかくれんぼ

ドラマ「俺たちの旅」(75年) に出演していた岡田奈々の4枚目のシングルで、同ドラマでも劇中歌として使用された。歌詞は、雑誌「明星」で一般公募され、中司愛子の歌詞が入選。それを原案に松本隆が作詞した。メジャー・キーで始まり、サビで平行調のマイナー・キーに移調。さり気ない場面展開を施す森田公一らしい流れるメロディ・ラインと、岡田奈々の瑞々しい歌が、良き時代のアイドル・ポップスの世界観を形成している。

ビクター／1980年1月1日

春ラ！ラ！ラ！

石野真子

作詞：伊藤アキラ
作曲：森田公一
編曲：竜崎孝路
B面：恋のジョギング

オリコン・シングル・チャート最高第16位で、石野真子のシングル至上最大の約16万枚を売り上げた。オールディーズ・スタイルのシンプルなメロディ・ラインのポップ・ナンバーながら、「Ⅳ－Ⅳm」というノン・ダイアトニック・コードを交えた進行など、モーダル・インターチェンジを巧みに挿入、サウンドに個性を生み出している。人気絶頂ながら、翌年に長渕剛と結婚して引退。現在は女優として活躍中。

RCA／1983年6月21日

恋はサマー・フィーリング

石川秀美

作詞：伊藤アキラ
作曲：森田公一
編曲：萩田光雄
B面：ブルー・ネイビー・ブルー

石川秀美の6枚目のシングル。オリコン・シングル・チャート最高第10位で、前作「Hey！ミスター・ポリスマン」(83年)に続いて2作連続の10入り。サビで「サマー」と「様」をかけた「あなたサマ、サマー」の駄洒落的な部分や、「モーレツにドキリ！」というユニークな歌詞に耳が行きがちだが、実はオールディーズ・スタイルのファニーなリズムとポップなメロディを持つ名曲。

CamScannerでスキャン

佐々木勉

「あなたのすべてを」をはじめ今も歌い継がれる名曲揃い

60年代後半から登場してきた作曲家には、クラシック出身の川口真、都倉俊一、ジャズ出身の筒美京平、鈴木邦彦、村井邦彦、ラテン出身の三木たかし、森田公一など、専門的な音楽理論や音楽素養を身につけて作曲家活動を開始した人が多い。そんな中、専門的な音楽理論を必要としないシンガー・ソングライター的なポジションで登場してきたのが佐々木勉（ささきべん）だ。

本名は佐々木勤（ささきつとむ）。1938年12月26日に東京都杉並区荻窪で生まれた。幼少の時にはヴァイオリンを習っており、自然と音楽に親しむようになる。成城学園高校在学中にはラジオ番組『素人ジャズのど自慢』で日本一となり、カントリー・ケーパーズなるバンドを結成して米軍キャンプを巡った。成城大学在籍中には小坂一也と知り合い、彼のバンドである小坂一也とワゴン・マスターズに参加した。卒業後には証券会社や広告代理店などに勤めながら作曲を続け、64年に清原タケシ「夜空の星」の作詞・作曲を担当して作家デビュー。「夜空の星」は、66年にザ・ブロード・サイド・フォーが「星に祈りを」と改題してヒットさせた。同年にはザ・サベージのデビュー曲「いつまでもいつまでも」も提供しておりカレッジ・フォーク・ソングの作曲家として一躍人気を得た。

67年からはホリ・プロダクションに所属して、「あなたのすべてを」でシンガー・ソングライターとしてデビューした。73年からは、東京音楽出版にプロデューサーとして入社して、作曲家をメインとして活動を行う。その後は、プロデューサーとしても携わった榊原郁恵や荒木由美子などのアイドル・ポップス、『愛LOVEナッキー』主題歌「夢みる想い」（80年）や『メチャン子・ミッキー』主題歌「メルシ・ボク」（82年）などのドラマ、『まいっちんぐマチコ先生』主題歌「私はマチコ」（81年）や『魔法のプリンセスミンキーモモ』主題歌「ラブ・ラブ・ミンキーモモ」（82年）などのアニメなど、幅広く活躍。また、覆面ユニットのエコノミック・アニマルズを結成して「帰って来た港のヨーコ」（75年）をリリースしたり、アンクルベンやMr. BEN名義で自らのアーティスト活動も行った。中でも、「別れても好きな人」（79年）と「3年目の浮気」（82年）は、デュエット・ムード歌謡のスタンダードとして、今も人気の楽曲となっている。

85年3月11日の急性肝不全のため46歳で急逝。シンガー・ソングライターの走りとして、シンプルなコード進行でありながら個性の強いメロディを持つ数々の楽曲は多くの人から愛されている。「あなたのすべてを」が30組以上のカヴァーを生んでいることからもそれは実証できるだろう。

text：ガモウユウイチ

CamScannerでスキャン

ィリップス／1967年

あなたのすべてを

佐々木勉

作詞・作曲：佐々木勉
編曲：林一
B面：ひとりにしないで

ザ・サベージやザ・ブロード・サイド・フォーなどへ楽曲を提供していた佐々木勉の歌手としてのデビュー曲。もともとは徳永芽里に書き下ろしたナンバーで、ダイアトニック・コードのみを使用したシンプルなメロディ・ライン。ほかに、尾崎紀世彦、布施明、美空ひばりなど、30組以上がカヴァーしている。「佐々木勉アンソロジー あなたのすべてを」のディスク2には、本楽曲が全19ヴァージョン収録されている。

ップス／1966年9月

星に祈りを（夜空の星）

ザ・ブロードサイド・フォー

作詞・作曲：佐々木勉
B面：なんて幸せなんだろう

ドラマ『若者たち』の主題歌「若者たち」がヒットしていたザ・ブロード・サイド・フォーだったが、リリース時にはすでに解散が決まっていた。メンバーの黒澤久雄の成城大学の先輩だった佐々木勉による「星に祈りを」をラスト・シングルとしてリリース。もともとは、64年に竹村次郎の編曲により、清原タケシがリリースしたナンバーだった。基本は「I－VIm－IIm－V」を繰り返すだけのシンプルなフォーク・ソング。

／1979年7月1日

ラブジャック サマー

榊原郁恵

作詞：笠間ジュン
作曲：佐々木勉
編曲：井上鑑
B面：トロピカル・ハネムーン

岩崎宏美「夏に抱かれて」、河合奈保子「夏のヒロイン」など、アイドルにはなんちゃってサンバの名曲が多いが、本楽曲もそのひとつ。作詞を担当した笠間ジュンは、佐々木勉夫人。ノヴェルティな歌詞に惑わされがちだが、サウンドはラテン＋ファンクで、「ルビーの指環」を手がける以前の井上鑑が編曲を担当している。ライヴ・ヴァージョンでは、スラップを導入。アップ・テンポの中でのスラップはほとんどレッチリのようだ。

979年9月21日

別れても好きな人

ロス・インディオス&シルヴィア

作詞・作曲：佐々木勉
編曲：若草恵
B面：別れても好きな人
（カラオケコーラス入り）

もともとは松平ケメ子が69年6月にリリース、次いでパープル・シャドウズが同年11月にリリースしたナンバーで、共に渋谷毅の編曲によるもの。75年にはロス・インディオスがリリース。さらに79年にはシルヴィアを加え、ベースの棚橋静雄とのデュエット・ナンバーとしてリメイク。オリコン・シングル・チャート最高第4位、約90万枚の売り上げの大ヒットを記録した。佐々木勉自身も、ベン&あかね名義でリリースしている。

8月21日

3年目の浮気

ヒロシ&キーボー

作詞・作曲：佐々木勉
編曲：櫻庭伸幸
B面：愛し合うなら…今

もともとは三浦弘とハニー・シックスに書かれるも、結局ヒロシ&キーボーのデビュー曲として発売。オリコン・シングル・チャート第1位の大ヒットを記録した。ヒロシ&キーボーは、黒沢年雄の実弟で、寺内タケシとバニーズの黒沢博と、新人のキーボーによるデュオ。当初は黒沢年雄がデュオの候補に挙がっていた。ハニー・シックスも「三年目の浮気」のタイトルでリリースしたが、チャート・インはならなかった。

ユウイチ

大野雄二

ジャズ、フュージョンをベースにスタイリッシュなサウンド・メイク

text ガモウユウイチ

『ルパン三世』(77年)、『24時間テレビ「愛は地球を救う」』(78年)、『小さな旅』(83年)など、現在も続く長寿シリーズの音楽を担当している大野雄二。ジャズ、フュージョン、ソウル、映画音楽などの影響が感じられる時代を先取りした洗練されたスコアは、一般のリスナーからクラブDJまで幅広く支持されている。

大野雄二は、1941年5月30日静岡県熱海市出身。小学校でピアノを始め、慶應義塾高等学校時代にジュニア・ライト・ミュージックを結成、独学でジャズを学ぶ。慶應義塾大学に進学後、ライト・ミュージック・ソサエティに在籍。在学中に渋谷毅の推薦で藤家虹二クインテットに加入、プロ・ピアニストとして活躍する。その後、白木秀雄クインテットを経て、自らの大野雄二トリオを結成。

70年代前半にピアニストを休業して職業作曲家に専念。ユニオン映画制作シリーズ『おひかえあそばせ』(71年)より『気まぐれ本格派』(77年)まで全7作品、『火曜日の女』(71年)～『土曜日の女』(73年)～『愛のサスペンス劇場』(75年)シリーズ、『おふくろさん』(75年)、NHK少年ドラマシリーズ『明日への追跡』(76年)など、ドラマ音楽やCMなどを多数手がけ、バート・バカラックやセルジオ・メンデスなどの影響を感じさせる洗練されたサウンドで人気を博した。76年に角川映画の初作品である『犬神家の一族』の音楽を担当したのをきっかけに、『人間の証明』(77年)、『最も危険な遊戯』(78年)、『野性の証明』(78年)、『殺人遊戯』(78年)、『黄金の犬』(79年)など、多数の映画作品にも携わった。なお、06年に製作された『犬神家の一族』でも、音楽は谷川賢作が担当しているが、テーマ曲は大野雄二の楽曲が使用されている。

同時期に、現在も続くアニメ『ルパン三世』(77年)の音楽も担当。クロスオーヴァー／フュージョンの先駆けとなるスコアを多数生み出した。また、サンドラ・ホーン(現：サンディー)、ソニア・ローザ、河合奈保子、Kehimi Karie、DOUBLE、今井美樹、原田知世、中納良恵(EGO-WRAPPIN')など主題歌に起用されたシンガーに新たな魅力を吹き込み、一般リスナーはもとより、音楽家やクラブDJからも高い人気を得ている。

近年は、作曲活動は『ルパン三世』と『小さな旅』を中心に絞り、再びジャズ・ピアニストとしての活動を開始。大野雄二トリオに加え、06年にYuji Ohno & Lupintic Fiveを、16年にはYuji Ohno & Lupintic Sixを結成。毎年数枚以上の精力的な作品リリースに加え、ジャズ・クラブ、ライヴハウス、ホールでの公演、ロック・フェスまで多彩に積極的にライヴを行っている。

CamScannerでスキャン

馬飼野康二

今も第一線で活躍する きらびやかなポップスの担い手

text：ガモウユウイチ

70年代の郷ひろみ、川崎麻世から始まり、80年代は近藤真彦、シブがき隊、少年隊、男闘呼組、光GENJI、90年代以降は、SMAP、TOKIO、嵐、KinKi Kids、関ジャニ∞、KAT-TUN、Hey! Say! JUMP、Sexy Zoneなど、長年に渡ってジャニーズ事務所所属のアーティストへ楽曲を提供してきた馬飼野康二。彼の作品を聴けば、男性アイドルの楽曲の歴史が一望できるといっても過言ではない。

馬飼野康二は1948年1月26日に愛知県豊橋市で生まれた。大津美子のバック・バンドにいた父の馬飼野昇（馬飼野のぼる）の影響で、兄の馬飼野俊一とともに幼少のころから家族でバンドを組むなど音楽に親しむ環境にいた。68年には、GSバンドのブルー・シャルムを結成。西郷輝彦に認められて、69年にCBS・ソニーより「抱きしめたくて」でデビュー（馬飼野睦名義）。

解散後は、いち早く編曲家として活動していた兄の馬飼野俊一の影響で、作曲・編曲家に転身。西城秀樹「チャンスは一度」（72年）の編曲を手掛けたのをきっかけに、作曲家としても活躍。西城秀樹「ちぎれた愛」（73年）、「激しい恋」（74年）、「傷だらけのローラ」（74年）、「ブルースカイブルー」（78年）、和田アキ子「古い日記」（74年）、松崎しげる「愛のメモリー」（77年）、榊原郁恵「いとしのロビン・フッドさま」（78年）、石野真子「ワンダー・ブギ」（79年）、河合奈保子「大きな森の小さなお家」（80年）、「スマイル・フォー・ミー」（81年）、小泉今日子「艶姿ナミダ娘」（83年）、「渚のはいから人魚」（84年）、葵司朗・日野美歌「男と女のラブゲーム」（87年）、KinKi Kids「愛されるより 愛したい」（97年）、嵐「A・RA・SHI」（99年）、Hey! Say! JUMP「Come On A My House」（13年）など、多くの歌手の作曲を手掛けた。その中には、Mark Davis、Jimmy Johnsonなどのペンネームもある。

70年代末からは、アニメの主題歌も多数担当。代表作に、『ベルサイユのばら』主題歌「薔薇は美しく散る」（79年）、『The かぼちゃワイン』主題歌「Lはラブリー」（82年）、『忍たま乱太郎』主題歌「勇気100%」（93年）、『新機動戦記ガンダムW』主題歌「JUST COMMUNICATION」（95年）などがある。

現在でも新しい機材や録音機器が出るとすぐに入手。テクノロジーの進化にも敏感で、流行をスピーディに取り入れられる柔軟なスタンスこそが、若者の琴線をくすぐる多くの名曲を生んできた秘訣だろう。キャッチーでポップなメロディと、ドラマティックでありながらもビート感にあふれたサウンドで、70年代から現在まで、常に第一線で活躍をしている。

CamScannerでスキャン

CBS・ソニー／1974年1月21日

人間狩り

ピーター

作詞：なかにし礼
作曲・編曲：馬飼野康二
B面：私の心を売りましょう

ピーターの13枚目のシングル。タイトルはフィリップ・K・ディックの同名の短編からのインスパイア。ドープでシリアスなAメロに続き、ロック・テイスト溢れるギターのリフ。サビでは、ソウルフルなグルーヴ歌謡に一転。静と動を対比させた、ドラマティックに展開していくプログレッシヴ歌謡の名曲。怪唱ともいえるピーターの歌手としての魅力も如何なく発揮している。近年、和モノとしてもDJたちにも再評価されている。

RCA／1974年2月25日

古い日記

和田アキ子

作詞：安井かずみ
作曲・編曲：馬飼野康二
B面：女の純情

和田アキ子の18枚目のシングルで、リリース当初はオリコン・シングル・チャート最高第44位、約5万枚の売り上げに留まったが、80年代半ば以降に吉村明宏が和田アキ子の物まねをする際に本楽曲を取り上げ知名度が増した。ラテン・パーカッション、ブラス・セクション、ディストーション・ギターをフィーチャーしたサウンドはこの時期の馬飼野サウンドの特徴。ソウル・シンガーとしての和田アキ子の魅力を存分に引き出している。

RCA／1974年5月25日

激しい恋

西城秀樹

作詞：安井かずみ
作曲・編曲：馬飼野康二
B面：悪夢

西城秀樹の9枚目のシングルで、「ちぎれた愛」(73年) に続く安井かずみと馬飼野康二による楽曲。テレビやコンサートでは、Aメロでファンとのコール&レスポンスがお約束だったが、あらかじめ計算して作曲。チェイスの影響を感じさせるブラス・サウンド、パーカッションの激しいリズム、ディストーションとファズによるギターのロック・テイスト、指板を自在に動き回るベース。和モノ・ロックとしても再評価したい楽曲。

キング／1974年6月25日

夏のせいかしら

夏木マリ

作詞：安井かずみ
作曲・編曲：馬飼野康二
B面：砂の女

馬飼野康二が初めて提供した夏木マリの5枚目のシングル。コンガとカウベルの畳みかけるようなアッパーなイントロからスタート。これほどまでに高速なBPMの歌謡曲はほとんど稀だ。ここでもブラスを大胆にフィーチャー、チェイスの影響を感じさせるサウンドを構築している。Bメロで四度進行を用いて、攻撃的でありながらも日本人好みの楽曲に仕上げている。オリコン・シングル・チャート最高第24位、約10万枚を売り上げた。

ビクター／1974年6月25日

甘い経験

シェリー

作詞：山上路夫
作曲・編曲：馬飼野康二
B面：昼さがりの秘密

フランス系ハーフ美少女としてデビュー、モデルやタレントとして活動していたシェリーの16歳のデビュー・シングル。当時の愛称は本名の安部玲子からレコちゃん。オールディーズ・スタイルのロックンロール・ナンバーで、どこかやけっぱちな歌が魅力的。オリコン・シングル・チャート最高第84位だったが、その後バラエティ・タレントとして人気を博した。娘のLissaは推定少女のメンバーとして活躍していた。

text：ガモウユウイチ

CamScannerでスキャン

RCA／1975年7月25日

アイ・ラブ・ユー

リトル・ギャング

作詞：たかたかし
作曲・編曲：馬飼野康二
B面：幼な友だち

リトルリーブスの松原秀樹と曽我泰久がコンビで活動を開始、75年に本楽曲でレコード・デビュー。フィンガー5を彷彿とさせるかのようなキッズ・ソウル・ナンバーで90年代以降再評価された。76年には、2人のメンバーが参加してギャングスと改名。それぞれが楽器を持ちバンドへと発展、川崎麻世のバック・バンドとして活動した。現在では松原秀樹は角松敏生などのベースを担当、曽我泰久はTHE GOOD-BYEとソロで活躍中。

ビクター　1977年8月10日

愛のメモリー

松崎しげる

作詞：たかたかし
作曲：馬飼野康二
編曲：小野崎孝輔
B面：フライング・バード

もともとはスペインで開催されるマジョルカ音楽祭用の楽曲として制作。馬飼野康二は、ヘンリー・マンシーニ「ひまわり」をイメージして楽曲を完成させ、当初は「愛の微笑み」と名づけられる。その後、コマーシャル・ソングとして注目を浴び、「愛のメモリー」に改題されレコードがリリースされた。スケール感の大きなバラードで、オリコン・シングル・チャート最高第2位を記録した。12年には全14曲すべて本楽曲のCDもリリースされた。

RVC　1978年8月25日

ブルースカイブルー

西城秀樹

作詞：阿久悠
作曲・編曲：馬飼野康二
B面：アイムチャンピオン

西城秀樹の26枚目のシングル。76年リリースの「若き獅子たち」や、78年1月リリースの「ブーツを脱いで朝食を」など、アイドルから脱皮して本格的な歌手へイメージ・チェンジするための楽曲で、「傷だらけのローラ」(74年) を提供した馬飼野康二を起用。スケール感の大きなドラマティックな楽曲に仕上がり、バラード・シンガーとしてもその実力を如何なく発揮。第20回日本レコード大賞では金賞を受賞した。

NAV　1978年9月5日

くるみ割り人形

石川ひとみ

作詞：三浦徳子
作曲：馬飼野康二
編曲：大村雅朗
B面：タイトロープ

「君こそスターだ！」出身で、78年5月に「右向け右」でデビューした石川ひとみの2枚目のシングル。Aメロはマイナー・キーでスタート。Bメロは平行調のサブドミナントから始まり調整が曖昧に。サビでその平行調のメジャー・キーへ移調するという鮮やかな展開を持つ構成。自身によるコール＆レスポンスのサビも印象的だ。06年には、弦楽器"一五一会"での演奏によるセルフ・カヴァーもリリースされた。

ビクター　1979年7月5日

ワンダー・ブギ

石野真子

作詞：阿久悠
作曲・編曲：馬飼野康二
B面：空とぶお嬢さん

石野真子6枚目のシングル。ほぼメジャー・コード中心で構成されたタイトル通りシャッフルのブギ・ナンバーで、ノヴェルティな彼女の魅力を引き出した。頭サビの「ブギウギ・シュワッチ ブギ・ドゥワー」の部分は、当初の歌詞には無く、馬飼野康二が自ら付け加えた。テレビ出演時には、子供たちのバック・ダンサーと一緒に出演。冒頭で子供たちがはしゃぎ、「やめなさい！」と3回叫ぶセリフが加えられている。

ビクター／1979年9月15日

万華鏡

岩崎宏美

作詞：三浦徳子
作曲・編曲：馬飼野康二
B面：泣きながら目覚めて

岩崎宏美の18枚目のシングルで、ミディアム・テンポのAOR風のナンバー。ヴァース部分の「Ⅳ－Ⅲm－Ⅱm」とウォーク・ダウンしていく進行は、ミニー・リパートン「ラヴィング・ユー」(74年)や、パティ・オースティン「愛してると言って(Say You Love Me)」(76年)など、ソウルで好んで使われるコード進行。オリコン・シングル・チャート最高第10位を記録。第21回日本レコード大賞金賞を受賞した。

ワーナー・パイオニア
1980年5月25日

クィーンメリーで朝食を

パティー・リン

作詞：さがらよしあき
作曲・編曲：馬飼野康二
B面：HAJIMEMASHITE

映画化もされたトルーマン・カポーティの「ティファニーで朝食を」をもじったタイトルの「クィーンメリーで朝食を」でデビューしたパティー・リン。タイトルの「クィーンメリー」は、元豪華客船で現在はホテルのクイーン・メリーのこと。Aメロではツー・ファイヴを多用して、ストーリー性を感じられるコード進行に。16分を強調したサビも疾走感たっぷりで、カタコト具合もキュート。売れなかったのが不思議な名曲。

コロムビア／1981年6月1日

スマイル・フォー・ミー

河合奈保子

作詞：竜真知子
作曲：馬飼野康二
編曲：大村雅朗
B面：セレネッラ

「ヤング・ボーイ」(80年)制作時にはすでに出来ていたという河合奈保子の5枚目のシングル。当初は船山基紀が編曲を担当していたが、シングル・リリースの際は大村雅朗が新たに担当した(船山版はアルバム「Angel」に収録)。船山版では、頭サビのメロディの譜割りが違い落ち着いたサウンドだったが、大村版はブラスやストリングスを多用。溌剌とした河合奈保子の魅力を引き出したカラフルなサウンドに生まれ変わった。

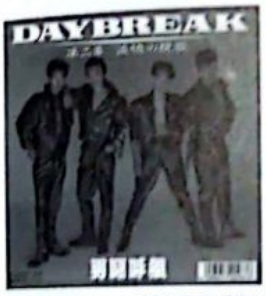
ビクター／1983年11月1日

艶姿ナミダ娘

小泉今日子

作詞：康珍化
作曲・編曲：馬飼野康二
B面：乱れるハート

小泉今日子の7枚目シングル。83年5月リリースの「まっ赤な女の子」で清純派アイドルから元気印の個性派アイドルに路線変更。アース・ウインド&ファイアー「ブギー・ワンダーランド」やマイケル・センベロ「マニアック」を彷彿とさせるメロディも登場するノリノリのナンバーで、派手で下世話なテクノ・ポップ・サウンドがはまっている。以降も、「渚のはいから人魚」(84年)や「100%男女交際」(86年)など馬飼野康二作品を歌った。



BMGビクター／1988年8月24日

DAYBRAEK

男闘呼組

作詞：大津あきら
作曲：Mark Davis
編曲：松下誠、Mark Davis
B面：第二章 追憶の挽歌
(など)

男闘呼組のデビュー曲で、カップリング曲違いで4種類のジャケットがリリースされた。馬飼野康二は、EVE「PASSION」(87年)で使用したMark Davis名義で作曲を担当。キーはC#マイナーだが、Bメロでは遠隔調である平行調の全音下のDメジャー・キーへ転調。大サビでは平行調のEメジャー・キーへ移調と、キーが目まぐるしく変化する凝った構成。それでいてシンプルに聴こえるという専業作家ならではの技術が凝縮。

CamScannerでスキャン

馬飼野俊一

洗練と大衆性の狭間で 幾多の歌謡ポップスを送り出す

text：馬飼野元宏

馬飼野俊一は1946年10月16日生まれ。父は大津美子のバック・バンドや、ご当地ソングの作曲なども手がけていた馬飼野昇。実弟の馬飼野康二も作曲家である。ギタリストとして活動していた父に借り出され、兄弟ともども幼少期から家族でタンゴのバンドを組んでいたという。

同郷の斉藤恒夫に師事し、斉藤恒夫とニュー・タンゴ・メロディアンズのフルート奏者として活躍したのち、1969年にピーター「夜と朝のあいだに」の編曲で、最初はアレンジャーとしてデビューする。

編曲を手がけた作品には、レコード大賞編曲賞を受賞した和田アキ子「笑って許して」や、ヘドバとダビデ「ナオミの夢」のようなタテノリ、ソウルフルな楽曲から、天地真理「恋する夏の日」やアグネス・チャン「ひなげしの花」などリリカル・メロディの随所に派手さを取り入れたアイドル・ポップスらしい華やかさに満ちたもの、ジローズ「戦争を知らない子供たち」のようにフォーク・ソングのメジャー化など、歌謡曲の変革期にあたる70年代前半、多彩な音楽性で活躍した。フォークをメジャーな楽曲に仕立てるという意味では森進一の「襟裳岬」や西島三重子の「池上線」の編曲にその力量が発揮されている。またアルフレッド楽団によるドイツ・レコーディングを敢行した加藤登紀子「愛のくらし」のように、タンゴ・バンドの経験が活きたアレンジも特筆すべきものがある。

作曲家として多くの作品を担当したアーティストの代表にチェリッシュがいるが、ビクターの高橋隆ディレクターが、ヘドバとダビデの「ナオミの夢」のアレンジを聴いて、チェリッシュの5作目のシングル「若草の髪かざり」の作編曲を依頼。オリコン・チャート7位まで上がるヒットとなり、これ以降「避暑地の恋」「てんとう虫のサンバ」「白いギター」と連続して作曲を担当し、いずれも大ヒットに導いている。また、カントリーの本場、ナッシュビルで録音された彼らのアルバム『ナッシュビル』にも全面的に参加。

いっぽう、野口五郎にも、72年6月1日発売の「青い日曜日」を皮切りに、「めぐり逢う青春」「君が美しすぎて」「告白」などを提供し、初期のブレイクに貢献している。チェリッシュ、野口五郎ともに、馬飼野俊一は筒美京平と数作おきに入れ子で楽曲提供している。2人（組）とも、歌謡曲のフィールドでありながらミュージシャンシップの強いアーティストであったが、彼らに提供された馬飼野メロディは尖ったところが少なく、歌謡曲のドメスティックさとポップスの洗練の中間で、絶妙の落としどころに着地しているのだ。洗練と大衆性の狭間で70年代歌謡曲を支えた重要な作曲家であった。

CamScannerでスキャン

RCA／1971年3月5日

卒業させてよ

和田アキ子

作詞：阿久悠
作曲・編曲：馬飼野俊一
B面：天使の告白

和田アキ子の通算7作目。前年の「笑って許して」を編曲し、日本レコード大賞編曲賞を受賞した馬飼野俊一が、お礼にと書き下ろした曲で、派手なブラスが全編に響き渡る明朗な歌謡ポップス。それまでの黒っぽいフィールは控えめで、和田得意のタテノリ的なタメの魅力と、歌謡曲的な聴きやすさがブレンドされており、彼女の陽性のキャラクターが活かされ、時に甘えたように、時に弾けた歌い方が新たな魅力を放っている。

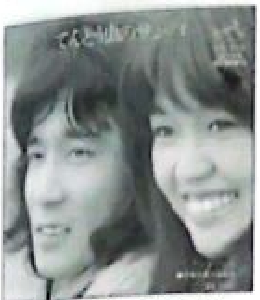
ビクター／1973年1月15日

若草の髪かざり

チェリッシュ

作詞：阿久悠
作曲・編曲：馬飼野俊一
B面：花のかなしみ

元ソルティー・シュガーで、チェリッシュのディレクターとなった高橋隆が、馬飼野俊一を指名して、本作でチェリッシュのシングルに初起用。筒美京平作「ひまわりの小径」で確立されたマイナー・コードの叙情的なメロディをよりフォーク的に、ウェットに寄せている。A-A'-サビ-A''の構成で、サビ後のメロディを少し変え、サビで美しく響く松井悦子のハイトーンをきれいに着地させているあたりがさり気ない職人芸。



ビクター／1973年7月5日

てんとう虫のサンバ

チェリッシュ

作詞：さいとう大三
作・編曲：馬飼野俊一
B面：落葉の森の晩餐会

元はアルバム「春のロマンス」収録曲で、森山加代子の「白い蝶のサンバ」のような曲を狙って制作されたもの。ラジオでリクエストが殺到しシングル・カットされた。16ビートのテンポによるシンプルなコードで構成され、ペンタトニック・スケールも多用した親しみやすいメロディ。曲調はサンバではないが、サビ部分が16分音符の小刻みなメロディで、それ風の味付けが。結婚式の定番曲として長く親しまれている。

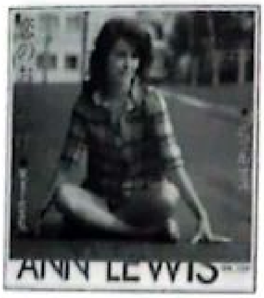
ポリドール／1973年7月1日

君が美しすぎて

野口五郎

作詞：千家和也
作曲・編曲：馬飼野俊一
B面：ぬれた瞳

初期の野口五郎を筒美京平とともに支えた馬飼野俊一が手がけた9作目。歌い出しで既にテーマを語っている千家和也の詞に合わせるようにパワフルなAメロ、ドラマティックな展開と哀愁味のあるメロディが聞き手に強いインパクトを与え、それまでの内省的な文学路線から一転して、歌唱力と高音域の伸びを活かしたスケールの大きな作品となり、五郎にとって初のオリコン・トップ3入りを果たし、以降の方向性を明確にした。



ビクター／1975年4月25日

恋のおもかげ

アン・ルイス

作詞：さいとう大三
作曲・編曲：馬飼野俊一
B面：気まぐれな私

まだヤサグレ路線に転向する前の、清楚なバラード・シンガーといったイメージのアン・ルイスのシングル9作目。前年のヒット「グッド・バイ・マイ・ラブ」のイメージそのままに、よりオールディーズ路線を極めた1作といえる。それまでの平尾昌晃によるメロディを踏襲しながらも、洋楽的な音の運びになったAメロ、だがサビでは思い切り歌謡曲調になるあたりが面白い。甘い声質と伸びのある歌い方を活かした佳曲だ。

text：馬飼野元宏

CamScannerでスキャン

C O L U M N S

GS出身の作曲家たち

text：[illegible]

60年代当時、歌謡曲は、各レコード会社別に専属の作曲家が曲を作る不文律があり、他の作家や自作の曲を自由に使うことは、できなかった。そんな業界に、新風を吹き込んだのは、洋楽レーベルから発売することで専属作家のくびきからはずれることができたGSだった。専属作家に代わって、GSに曲を提供した若手の作曲家は、すぎやまこういち、筒美京平、村井邦彦などその後の日本歌謡界をリードしてゆく錚々たる顔ぶれだった。そのためGSは、自作よりも作家に与えられた曲を演奏していたイメージが強いが、自分たちで作曲、演奏するバンドもいろいろあり、ブーム終了後、作曲家、編曲家として活動した者もいた。

元スパイダース**井上堯之**は、井上堯之バンドで、「太陽にほえろ!」「傷だらけの天使」などドラマ、映画のサントラを多く手がけたほか、萩原健一、近藤真彦の競作になった「愚か者」が話題になった。井上と共に、井上バンドで活動し、作曲も担当していた元スパイダースの大野克夫は、沢田研二の「勝手にしやがれ」「カサブランカ・ダンディ」「サムライ」、西城秀樹「ブーツをぬいで朝食を」等、ヒット曲を作曲したほかテレビや映画の音楽も多く作曲。近年では、「名探偵コナン」のサントラを担当している。スパイダース時代に「フリフリ」「ノーノーボーイ」などオリジナル曲を作っていたのは、ムッシュかまやつ（かまやつひろし）だった。なかでも「バンバンバン」は、今も若いバンドがカヴァーする人気曲だ。彼は、同じ事務所だったビーバーズに「君なき世界」「WHY BABY WHY」、テンプターズに「帰らなかったケーン」を作曲している。70年代には、チャコとヘルスエンジェル、DO. T. DOLL、ロック・パイロットなどGSの残党を結集したアイドル・バンドに曲を書いているほか、'ミッグ・スティワード' 名義でタニヤ・タッカーに「ハロー・ミスター・サンシャイン」「アラスカロックの星が輝く」を提供した。

元アウト・キャストのキーボード、**穂口雄右**は、スタジオ・ミュージシャンとして活動後72年に作・編曲家へ転向。アウト・キャストのヴォーカル、轟健二こと松崎澄夫が担当していたキャンディーズの4thシングル「なみだの季節」から作曲を担当、5thの「年下の男の子」で、ブレイクさせた。続いて「春一番」「夏が来た」とヒットさせた後、しばらくキャンディーズとは離れるが、解散前の「わな」「微笑みがえし」の作曲・編曲をした。穂口の存在がなければキャンディーズの歴史は、まったく違ったものになっていただろう。このほか、郷ひろみの「林檎殺人事件」、小泉今日子「素敵なラブリーボーイ」をヒットさせ、天地真理、ローズマリーなどにも曲を作っている。同じく元アウト・キャスト（のちにアダムス）の水谷公生は、ギタリストとしてスタジオで活躍する傍ら、河合奈保子「ヤングボーイ」、西城秀樹「南十字星」、レイジー「感じてナイト」などを作曲。歌謡曲からロックまで多くの編曲を手掛けた。彼は、浜田省吾のプロデューサーとしても知られている。

元フローラル、エイプリルフールのキーボード、**柳田ヒロ**は、70年代初期に水谷と何枚かサイケデリック、ジャズ・ロックのアルバムを何枚か出している。これらの先鋭的なサウンドは、近年になって海外でも知られ高く評価されるようになった。その後は、桜田淳子、杉田二郎に曲を提供したほか、子供向けの楽曲や、TV、映画、舞台用の楽曲やCMソングを多く作曲している。

CamScannerでスキャン

「傷だらけの天使
主題曲集」
井上堯之バンド
作曲：大野克夫、井上堯之

「君なき世界」
ザ・ビーバーズ
作詞・作曲：藤樹弦
編曲：ザ・ビーバーズ

「なみだの季節」
キャンディーズ
作詞：千家和也
作曲・編曲：穂口雄右

「都会」
ザ・タイガース
作詞：山上路夫
作曲・編曲：クニ河内

「神様お願い！」
ザ・テンプターズ
作詞・作曲：松崎由治

　モップスの星勝は、ザ・ハプニングス・フォーのクニ河内から譜面の読み書きを教わり、モップスのレコーディングを通して、独学で管弦楽のアレンジを覚えていった。そして72年に親交の深かった井上陽水の『断絶』で、アレンジ・プロデュースを手がけた。このアルバムのバックの演奏は、ヴォーカルの鈴木ヒロミツを除いたモップスだった。更に陽水の『氷の世界』でもプロデュースを担当。もともと陽水が作曲していた「あかずの踏切り」には、別のメロディをつけた。このアルバムは、74年、75年と2年続けて年間1位を取る記録的な大ヒットになった。井上堯之と共に手がけた『太陽を盗んだ男』、スタジオジブリのアニメ『おもひでぽろぽろ』など映画の音楽も担当している。編曲では、来生たかお、安全地帯、浜田省吾、小椋佳の多くの作品を手掛けている。

　クニ河内は、デビュー曲の「あなたが欲しい」他ザ・ハプニングス・フォーの多くの曲を作曲、タイガースのために「都会」「誓いの明日」も作った。また布施明、伊東きよ子などに曲を提供、編曲では、因幡晃の「わかってください」、野口五郎「女友達」を手がけた。映画やテレビ、舞台の劇伴を担当したほか、NHK教育の音楽番組『ワンツー・ドン』『うたって・ゴー』に"クニさん"として出演し、『ひらけポンキッキ』『みんなのうた』等幼児番組でおなじみの曲も多く作曲している。CMでは、「ピッカピッカの一年生」も彼の作曲だ。

　この他、GSで曲作りに評価が高かったのは、「忘れ得ぬ君」「神様おねがい」を作ったテンプターズの松崎由治がいる。彼は、作曲だけでなく作詞もこなした。解散後は、東京キッドブラザーズに曲を作ったり、ドルフィンと池田ひろ子の競作で、76年のホリプロタレントスカウトキャラバン・テーマになった「友達から恋人に」を残しているが残念ながら早い時期に引退してしまった。

CamScannerでスキャン

加瀬邦彦

爽やか湘南サウンドは時代を超えて愛された

加瀬が最初に作った曲は、寺内タケシとブルージーンズに所属していた時に、ベンチャーズと共演に合わせ作曲したインスト・ナンバー「ブルージーンNO.1」だった。65年には、ヴォーカル入りの「ユア・ベイビー」を作曲、小ヒットさせた。GSブーム前夜のこの曲は、その後のGSスタイルの基本形をすでに完成させていた。このころから作曲家の宮川泰は、加瀬の才能を高く買い、作曲を続けるように進言したそうだ。その後、加瀬は、ブルージーンズを脱退、旧来のバンドマンでなく、アマチュアでバンド活動していた若者たちを選抜して、ザ・ワイルドワンズを結成した。デビュー曲の「想い出の渚」は、GSブームをけん引したヒット曲の一つであり、今も多くの人に愛されている。

このあとも「青空のある限り」「愛するアニタ」「バラの恋人」などワイルドワンズのシングル曲だけでなくLPでも多くの曲を作曲している。またザ・タイガースの「シーシーシー」も作曲している。この曲は、もともとタイガースの新曲として用意していた別の曲の出来が良くなかったため、急遽加瀬が新曲を依頼されて、レコーディングまでの数時間で作り上げ採用された。このエピソードからも加瀬の作曲能力が高く評価されていたことがわかる。

加瀬は、70年代に小柳ルミ子の「冬の駅」、布施明の「甘い十字架」アンルイスの「女はそれを我慢できない」など渡辺プロダクション所属の歌手を中心に多くの曲を作曲している。また、ロックパイロット、ローズマリー、レイジー、メッツ、レオナルドなどアイドル系バンドにも曲を提供した。沢田研二には、曲の提供だけでなくプロデューサーも担当し、「危険なふたり」、「追憶」、ロック・ナンバー「気になるお前」などを作曲、一等賞を狙ってセンセーショナルな演出を担った。なかでもパラシュートを背負って歌った「TOKIO」は、話題を呼んだ。沢田とは、2010年に一年限定のJULIE with THE WILD ONESを結成、全国ツアーを敢行、シングル曲「渚のシャララ」を含むアルバムの半数の曲は、加瀬の手によるものだ。

また、ももクロの百田夏菜子には「渚のラララ」を提供し、ワイルドワンズで共演した。81年には、オズモンド・ブラザーズの末っ子で日本で人気の高かったジミー・オズモンドに、日本語のオリジナル「君はプリティー」を作った。この他人気テレビ番組で元シャープホークスの安岡力也が扮したホタテマンのために「ホタテのロックンロール」、元は、GSの流れを組むバンドで活動していたこともある宮内タカユキが歌う戦隊シリーズ「超電子バイオマン」の主題歌など異色な作品もある。

text：大森眸

CamScannerでスキャン

加瀬邦彦作曲作品

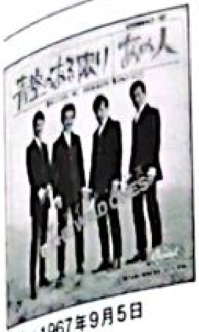
東芝／1966年11月5日

想い出の渚

ザ・ワイルドワンズ

作詞：鳥塚繁樹
作曲：加瀬邦彦
編曲：森岡賢一郎
B面：ユア・ベイビー

加瀬邦彦が書いたメロディに全員で歌詞を書きあげ完成したザ・ワイルドワンズのデビュー曲。作詞は最も多くの部分を書いたということで、鳥塚繁樹がクレジットされ、リード・ヴォーカルも彼が担当した。ロジャー・マッギンの影響を感じさせる12弦ギター（ヤマハ・ブルージーンズ・モデル）のオクターヴの広がりのある響きは、本楽曲のイメージを決定付け、GSスタンダードとなった。



東芝／1967年9月5日

青空のある限り

ザ・ワイルドワンズ

作詞：安井かずみ
作曲・編曲：加瀬邦彦
B面：あの人

ザ・ワイルドワンズの4枚目のシングルで、前作「夕陽と共に」につづく、ドラムの植田芳暁のリード・ヴォーカル。12弦ギターにファズをかました和モノ・ガレージの名作。代表曲の「想い出の渚」のイメージが無ければ、ガレージ・バンドとして正当に評価されていたのかもしれない。後半のコール＆レスポンス・パートなど、ライヴで盛り上がること必至の構成も見事。オリコン・シングル・チャート最高第72位を記録した。

ポリドール／1968年7月5日

シー・シー・シー

ザ・タイガース

作詞：安井かずみ
作曲：加瀬邦彦
B面：白夜の騎士

それまでのシングルはすぎやまこういち作品で、当初はA「南の島のカーニバル」（作詞：橋本淳／作曲：すぎやまこういち）が用意されていたが、初めて加瀬邦彦作品が採用された。「花の首飾り／銀河のロマンス」に続いてタイガース2枚目のオリコン・シングル・チャート第1位を獲得したが、最後の1位獲得楽曲となった。「♭Ⅲ」コードが効果的に使用されており、当時のR&Bやソウル・ミュージックで好まれた進行だ。

ワーナー／1971年

マンジョキ ロックンロール

内田裕也と1815 ロックンロールバンド

作詞：城悠輔
作曲：加瀬邦彦
編曲：水谷公生
B面：ジョギ安ブギ

71年から75年まで毎週月曜日から土曜日に放映されていた子供向け番組「まんがジョッキー」のテーマ・ソング。内田裕也の本領発揮の、「ジョニー・B・グッド」風のフレーズから始まる、ブルース進行のロックンロール。のちに、バラエティ番組「オレたちひょうきん族」にて、「ホタテのロックンロール」（作詞：城悠輔、横澤彪、内田裕也／編曲：SQUAT）として安岡力也がリメイクした。編曲のSQUATは、小室哲哉の変名だ。

ポリドール／1973年4月21日

危険なふたり

沢田研二

作詞：安井かずみ
作曲：加瀬邦彦
編曲：東海林修
B面：青い恋人たち

沢田研二の6枚目のシングルで、ソロとなってからは初めてのオリコン・シングル・チャート第1位獲得曲。テレビなどでは井上堯之バンドが演奏していたが、本楽曲の演奏は東海林修のファースト・コール・ミュージシャンによるもの。イントロの印象的なギターは松木恒秀。ほか、栗林稔（Org）、武部秀明（Bs）、田中清司（Dr）が担当している。大サビ部分は、サブドミナント・サブドミナント・マイナー・ケーデンスを導入している。

text：ガモウユウイチ

CamScannerでスキャン

CBS・ソニー／1972年4月21日

青い麦

伊丹幸雄

作詞：有馬三恵子
作曲：加瀬邦彦
編曲：青木望
B面：抱きしめたい

一時は野口五郎、郷ひろみ、西城秀樹と共に新御三家ならぬ四天王と称されたこともある伊丹幸雄のデビュー曲。ジャクソン5の「ママの真珠」の影響を感じさせるモータウン風ポップ・ナンバーながら、黒さを全く感じさせない端整なヴォーカルとの対比がユニーク。彼の作品の中でも最高となる、オリコン・シングル・チャート最高第22位、約10万枚を売り上げた。その後、ローズマリー、風来坊に参加して活躍した。

キング／1973年7月25日

甘い十字架

布施明

作詞：安井かずみ
作曲：加瀬邦彦
編曲：馬飼野康二
B面：君の素顔

「愛の園」以来約5年ぶりベスト10入りを果たし、オリコン・シングル・チャート最高第10位ながら、約20万枚のロング・ヒットを記録したナンバー。トム・ジョーンズの「ラブ・ミー・トゥナイト」の影響を感じさせる曲調で、布施明のダイナミックな歌唱が存分に活かされている。翌年には「積木の部屋」で第4位を、翌々年には「シクラメンのかほり」で第1位を獲得する、再度の全盛期の足がかりとなった。

ポリドール／1980年1月1日

TOKIO

沢田研二

作詞：糸井重里
作曲：加瀬邦彦
編曲：後藤次利
B面：I am I（俺は俺）

歌番組では、パラシュートを背負いながら歌い話題となった。ただ、過激になるヴィジュアル・パフォーマンスに方向性の違いを感じた井上堯之は、井上堯之バンドを、80年1月に解散して袂を分けた。その為、急遽バック・バンドのオールウェイズが結成され、1月以降の歌番組では彼らが演奏を担当した。Aメロはメジャー・コードのみで構成、ノンダイアトニック・コードの「♭Ⅶ」が独特の浮遊感を生み出している。

RCA／1981年12月16日

アップル・パップル・プリンセス

竹内まりや

作詞：柴田陽平
作曲：加瀬邦彦
編曲：大村憲司
片面：NATALIE

竹内まりやの活動休止前の最後のシングルで、「NATALIE」との両A面でリリース、NHK「みんなのうた」でオンエアされた。特徴としては、メジャー・コードのみで構成されていること。スリー・コード以外は、「♭Ⅶ」や「Ⅱ」など、必然的にダイアトニックから外れるので独特の浮遊感を生み出す。この手法は「TOKIO」のAメロ部分のアプローチで、同楽曲のAメロのアプローチを曲全体に広げたコード進行とも分析できる。

ビクター／1978年5月5日

女はそれを我慢できない

アン・ルイス

作詞・作曲：加瀬邦彦
編曲：佐藤準
B面：湘南の男たち

オリコン・シングル・チャート最高第12位を記録。「グッド・バイ・マイ・ラブ」以来、約5年ぶりにベスト20入りしたナンバー。それまで約4年間に渡って、チャート・インすらならなかったアン・ルイスの起死回生の一枚となった。Aメロの「Ⅰm－♭Ⅶ－♭Ⅵ－Ⅴ」というコード進行は、デル・シャノン「悲しき街角」や、グランド・ファンク・レイルロード「ハートブレイカー」などで使用されているロックの定番進行だ。

CamScannerでスキャン

井上大輔

ロックンロールを歌謡曲に導入した名ソングライター

text：大森諄

ブルーコメッツの初のオリジナルは、1966年3月にリリースされた、英語詞に、井上が作曲した日本人好みの哀愁のあるメロディと洋楽っぽいサウンドが融合した「青い瞳」で、日本コロムビアの洋楽レーベルCBSから発売、10万枚を超えるセールスを記録した。この曲は、のちに日本語詞で再発され、50万枚以上のヒットになった。また井上は、ブルーコメッツがビートルズ来日公演に出演するにあたり「ウェルカム・ビートルズ」という曲を作り、他の前座のバンドと合同演奏した。そしてブルーコメッツ最大のヒット曲であり、GSで唯一レコード大賞を受賞したのが「ブルーシャトウ」だった。この曲は、もともと木の実ナナのために依頼され和風な旋律を意識して作られたのだが、ブルーコメッツが歌ったほうが良いだろうと判断されてシングルでリリースされた。しかしこの曲のヒットにより、GSの方向性が彼がもともと目指していたものより歌謡曲化した方向で定着してしまったことには、後悔があったとも言われている。69年には、内田裕也とフラワーズに「ラストチャンス」、江見早苗に「花の誘惑」を提供。ブルーコメッツ時代の曲は、「北国の二人」「さよならのあとで」等ムード歌謡寄りの曲が多いが、その中のひとつ「こころの虹」は、来日したブラジルのバンド、オス・インクリヴェイスが気に入り、カヴァーして帰国後レコードを出してブラジルでヒットさせている。

井上の作曲したものは、歌謡曲からポップス、CMソングと多岐にわたっているが、彼の本領は、ビートのあるロックンロールっぽさや60年代ポップスの香りと歌謡曲のツボを押さえたキャッチーなメロディが同居した曲にあるだろう。フィンガー5の人気を不動のものにした「学園天国」「恋のダイアル6700」、シャネルズ（のちにラッツ&スター）の「ランナウェイ」は、その代表的なものだ。顔を黒塗りして黒人のドゥーワップをカヴァーしていたシャネルズにその黒っぽい雰囲気を生かした「ランナウェイ」は、もともとCM用に作られたが、話題になりそのままデビュー曲としてリリース、オリコン1位のヒットになった。彼らには、その後も「街角トワイライト」「め組のひと」などオールディズのフレーヴァーをかんじさせる多くのヒット曲を作っている。また沢田研二の「きめてやる今夜」、西城秀樹の「一万光年の愛」、フォーリーブス「踊り子」をはじめ尾崎紀世彦、テレサ・テン、中森明菜などいろんな歌手に曲を提供した。このほか、フレンズ「あつい贈り物」、JEFF「恋は、燃えている」などアイドル系バンドの曲、近年妖怪ウォッチの「祭り囃子でゲラゲラポー」で話題になったキング・クリームソーダ

CamScannerでスキャン

の生沢祐一が、弾ともや名義でデビューした「土曜の午後のロック」「青春の日のマリー」も作曲している。76年に井上がリリースし77年に倍賞千恵子がカヴァーした「水中花」は、もの悲しく胸に沁みる名曲だ。

井上といえばキャッチーなメロディとフックの効いた曲作りが得意だったが、郷ひろみ「2億4千万の瞳」、シブがき隊「NAI・NAI 16」、葛城ユキ「ボヘミアン」など一度聴いたら忘れられないインパクトの強い曲も多い。シブがき隊には、他に「100%…SOかもね！」「処女的衝撃！（ヴァージンショック）」などシングル・ヒットを作っているほか、ファースト・アルバムでは、井上が半数の曲を作・編曲している他、ディレクターの一人が元ヴィレッジ・シンガーズの小松久だったこともあり、沢田研二作詞・作曲が2曲、水谷公生作曲・渡辺茂樹編曲が2曲とGSファンには、注目すべき内容になっている。

CM企画などをきっかけに、マッドネスの「シティ・イン・シティ」、元モンキーズのデイビー・ジョーンズ「魔法でダンス」、ダニエル・ビダル「こなゆき舞う夜」、ザ・ポッパーズ「恋のアンブレラ」、ベン・E・キング「I FEEL YOUR LOVE」、レオ・セイヤー「タキシード・ボディ」、ストロベリー・スウィッチブレイド「エクスタシー」など海外の歌手への提供曲も多いのも井上の洋楽テイストとの相性の良さゆえだろう。

81年、本名の井上忠夫から、かねてからの愛称「大ちゃん」にちなんだ井上大輔に改名した。ブルーコメッツ再結成時でもあったのだが元GSというレッテルから離れ、一から出直すという意図もあった。そして『ガンダム劇場版II、III』で主題歌を作曲、自ら歌った「哀戦士」はオリコン9位、「めぐりあい」は13位のヒットになった。これは、ガンダムの総監督、富野由悠季が、井上と大学の同級生だった縁で依頼したものだが、今までとは違う場でやってみたいという井上自身の意欲もあった。この成功で井上は、GS時代を知らない若いファンをつかむことが出来た。「哀戦士」は、のちにGACKTや及川光博もカヴァーしている。70年代にも『マッハバロン』『レッドバロン』の主題歌を作曲していた井上だが、ガンダムをきっかけに、サンライズのロボットアニメ『機甲戦記ドラグナー』、『機甲界ガリアン』や特撮もの『光戦隊マスクマン』の曲も作っている。CMソングは、ブルーコメッツ時代に作った「ハチハニーのうた（ハチハニーワイン）」を皮切りに、「I feel coke（コカ・コーラ）」「ネコ大好きフリスキー」など数多くのCM曲を作曲、これらの多くは、『井上大輔主題歌&CMワークス』というCDで聴くことができる。

「水中花」
井上忠夫

76年発表のファースト・ソロ・アルバム。本人にも思い入れのあるアルバムだったという

CamScannerでスキャン

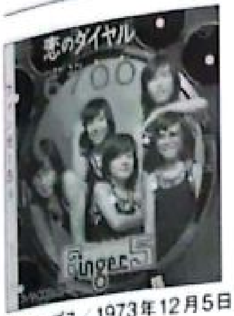
コロムビア／1971年11月

ブルー・モーニング・ブルース

沢知美

作詞：阿久悠
作曲：井上忠夫
編曲：小谷充
B面：ある夜の慕情

中野味和子名義で65年に女優デビュー、67年に改名して女優や歌手として活動していた沢知美。彼女の中でも特に人気なのがこの14枚目のシングル。アップ・テンポのグルーヴ歌謡で、メロディ自体は井上忠夫らしい歌謡情緒に満ちたものだが、サビの寺川正興の動きまくるベースが驚異的。翌年に2枚のシングルをリリース後に引退した。なお､70年には「モーニング･ブルース」というタイトルのシングルもリリースしている。



フィリップス／1973年12月5日

恋のダイヤル6700

フィンガー5

作詞：阿久悠
作曲・編曲：井上忠夫
B面：初めてのクラス会

「個人授業」(73年）に続くオリコン・シングル・チャート第1位を獲得。ブルー・コメッツの全盛期にはまだオリコンが無かった為、井上忠夫としても初めての第1位を獲得楽曲となった。「ダンス天国」(66年）風のイントロから、ファンキーなリフ、サックスによる間奏など、R&Bの影響を感じさせるサウンド。Aメロのコード進行は完全なブルース進行だ。結果、日本中でブームになり、彼ら自身最高の約84万枚を売り上げた。

フィリップス／1974年3月5日

学園天国

フィンガー5

作詞：阿久悠
作曲・編曲：井上忠夫
B面：フィンガー5のテーマ

ゲイリー・U.S.ボンズの「ニューオリンズ」(60年）の「ヘーイヘイヘイ」という掛け声を引用。イントロは「ジョニー・B.グッド」(58年）を下敷きにフレージング。晃のファンキーなハイ・トーンのほか、ライヴでは光男のブルース・ハープや正男のタップ・ダンスも取り入れ、見せ所満載。オリコン・シングル・チャート最高第2位ながら高い人気を誇り､のちに小泉今日子や慎吾ママ(香取慎吾）などがシングルでリリースした。

フィリップス／1974年10月25日

朝までナタリー

ナル

作詞：阿久悠
作曲：井上忠夫
編曲：馬飼野俊一
B面：愛する人に捧げる詩

劇団ひまわりに所属していたナルこと坂井成紀のデビュー曲。ヴァース的なバラード・パートから、いきなりの歌唱力をみせつけ、ポスト・フィンガー5として期待された。サビではメジャー・キーからマイナー・キーに平行調の移調。セカンダリー・ドミナント・コードの「Ⅲ7」が切なさを盛り立てるキッズ・ソウルの名曲。のちに「レ・ミゼラブル」(94年ほか）など、舞台を中心に活躍した。

フィリップス／1974年7月

土曜の午後のロックンロール

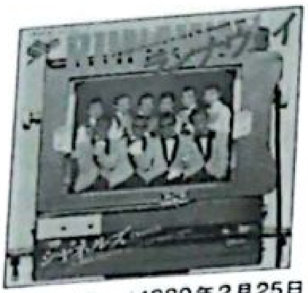
弾ともや

作詞：阿久悠
作曲：井上忠夫
編曲：馬飼野俊一
B面：涙のバースディ

近年では70年代から活躍する和製レインボー・BLAZEのヴォーカルとして、また「妖怪ウォッチ」主題歌「ゲラゲラポーのうた」(14年)を歌うキング・クリームソーダのZZROCKとして活躍の生沢佑一のデビュー曲。バラードのヴァース、60年代ロックンロールなAメロ、歌謡曲風のBメロと、さまざまなサウンドを詰め込んだパーティ・チューン。セリフ入りの「涙のバースデイ」も、オールディーズ風の佳曲。

text：ガモウユウイチ

CamScannerでスキャン



EPIC・ソニー／1980年2月25日

ランナウェイ

シャネルズ

作詞：湯川れい子
作曲・編曲：井上忠夫
B面：夢見るスウィート・ホーム

もともとはパイオニアのCMソングとして制作された楽曲で、そのまま歌っていたシャネルズのデビュー曲となった。ヴォーカル・スタイルはドゥー・ワップながら、サウンドはオールディーズと井上忠夫らしいユニークなセンスを発揮。イントロ無しでいきなり歌メロが始まるというのもCM作品を多く手がけてきた彼ならではの方法論だ。オリコン・シングル・チャート1位を獲得、本楽曲を期に多くのヒット曲を手がけた。

キング／1981年8月20日

哀 戦士

井上大輔

作詞：井荻麟
作曲・編曲：井上大輔
B面：風にひとりで

映画『機動戦士ガンダムⅡ 哀・戦士編』（81年）の主題歌。自身のサックスもフィーチャー、ジム・スタインマンを元ネタにしたサウンドは、ゴージャスかつドラマティック。モーダル・インターチェンジなどの専門的な音楽手法を織り交ぜながらも、ポップでキャッチーなメロディ・ラインが特徴。『ガンダム』の世界観ともマッチして、オリコン・シングル・チャート最高第9位、約22万枚の売り上げを記録した。

キャニオン／アードバーグ
1981年4月21日

PASSION-LADY

クリスタルキング

作詞：及川恒平
作曲：井上大輔
編曲：佐藤準
B面：祈り

76年に「カモン！ハッスル・ベイビー」でデビューしたクリスタルキングの6枚目のシングル。彼らのルーツのひとつであるハード・ロックをベースにした楽曲で、田中昌之のハイ・トーンが存分に活かさたナンバー。最高音は「hi D」まで出している。同年には「PASSION-LADY (ENGLISH VERSION)」もリリースされた。彼らにしては珍しい外部ライターによる楽曲で、本曲以降はまたメンバーによる楽曲が中心となった。

CBS・ソニー／1983年10月13日

挑発∞

シブがき隊

作詞：売野雅勇
作曲：井上大輔
編曲：馬飼野康二
B面：XYZ

デビュー曲「NAI・NAI 16」から4枚続けて作曲を担当していた井上大輔が3枚ぶりに担当した7枚目のシングル。ブラスがフィーチャーされたロック・サウンドで、中間部にはメンバーそれぞれのセリフが配置されるギミックも。彼らとして当時最高位だったオリコン・シングル・チャート最高第2位を記録した。ラジオ「井上大輔の音楽ってなんだ」では、井上大輔自身による英語ヴァージョンがオンエアされた。

ワーナー／1983年

AZUR

TAO

作詞：J.Tsujino
作曲：井上大輔
編曲：井上大輔、TAO
B面：DO YOU REMEMBER

実弟のルーベン辻野（現：辻野リューベン）とバンドやユニットを組み、渡辺プロやジャニーズ事務所に所属していたデビッド辻野（David Mann、後に翔）が結成したプログレ・ハード・バンド、TAOのデビュー曲。カンサスの影響を感じさせるポップ・ナンバーで、歌モノでありながらヴァイオリンのリフによるインスト・パートがサビを担うという個性的な構成の楽曲。翌年、デビッド以外のメンバーが脱退してEUROXを結成した。

Text：ガモウユウイチ

CamScannerでスキャン

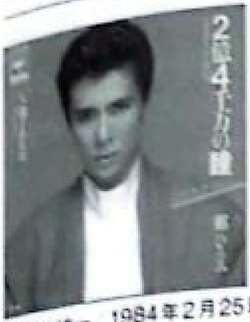
ワーナー／リプリーズ
1984年3月21日

プロフィール

倉沢淳美

作詞：売野雅勇
作曲・編曲：井上大輔
B面：内気なくらい優しくどうぞ

「欽ちゃんのどこまでやるの!?」で、人気者となった倉沢淳美のソロ・デビュー曲。生年月や身長などを盛り込んだ彼女のパーソナルな内容の歌詞が話題になったが、NHKでは宣伝になるということで歌唱できなかった。サビでのロング・トーンは、アイドル系楽曲で井上大輔が多用する手法。オリコン・シングル・チャート最高第4位を記録。松田聖子や中森明菜でも成し遂げられなかったデビュー曲でベスト10を記録した。



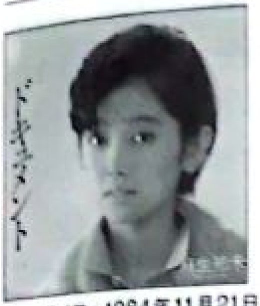
CBS・ソニー／1984年2月25日

2億4千万の瞳 ーエキゾチック・ジャパンー

郷ひろみ

作詞：売野雅勇
作曲・編曲：井上大輔
B面：抱きあえば

オリコン最高第7位を記録。「素敵にシンデレラ・コンプレックス」以来3作品ぶりにベスト10入りを果した50枚目のシングル。「億千万」をコーラスの中心に据えるなど、当時シブがき隊で実践していたノヴェルティでありながらも洋楽的ロック・センスを取り入れたサウンドと、CM作品を多く手がけてきた井上大輔ならではの印象的な言葉をメロディのピークに持ってくる手法など、名曲ならではのアイデアが満載。



フォーライフ／1984年11月21日

ドキュメント

麻生祐未

作詞：峰岸未来
作曲：井上大輔
編曲：瀬尾一三
B面：引けぎわ

樹由美子名義で女優として活動していた麻生祐未の歌手デビュー曲。同時期に、グラビア、「オールナイトフジ」の司会、カネボウのキャンペン・ガールなどを担当して、一気に注目を集めた。演奏こそ80年代に流行したゲート・リヴァーブを使用したサウンドだが、メロディ・ラインは井上忠夫時代の作風を思い起こさせるような古き良き時代の歌謡曲スタイル。山口百恵の面影を思わせるルックスと相まって、70年代の空気が漂う。

テイチク／1985年3月21日

白いバスケット・シューズ

芳本美代子

作詞：松本隆
作曲：井上大輔
編曲：井上大輔、深町純
B面：海辺のテレフォン・ボックス

石川秀美の妹分として売り出された芳本美代子のデビュー曲で、オリコン・シングル・チャート最高第22位ながら、約6万枚の売り上げを記録。オールディーズ・スタイルのポップ・ナンバーで、メジャー・キーながらBメロでは平行調のマイナー・キーに移調。サビでは井上大輔が多用するロング・トーンを活かしたメロディ・ラインを展開。瑞々しい歌声も相まって、これぞ王道アイドル・ポップスというナンバーに仕上げている。

コロムビア／1989年2月22日

春だから

島田奈美

作詞：有川正沙子
作曲：井上大輔
編曲：入江純
B面：SPRING FOOL まさか?!

島田奈美の12枚目のシングルで、オリコン・シングル・チャート最高第32位ながら人気の高い楽曲。演奏こそ時代を感じさせるシンセを多用したサウンドだが、核はオールディーズ・サウンド。モーダル・インターチェンジなど音楽理論的にも凝った作りの中、井上大輔らしいロング・トーンを活かしたメロディ・ラインが印象的な王道アイドル・ポップス。現在は島田奈央子名義で、音楽ライター、プロデューサーなどとして活躍中。

CamScannerでスキャン

大野克夫

スパイダースのマルチ奏者は作風の幅広さも特筆もの

text：ガモウユウイチ

70年～80年代前半に放送していたドラマ『太陽にほえろ!』（72年）と90年代半ばから現在まで続くアニメ『名探偵コナン』（96年）。日本を代表する長寿番組の音楽を担当。多くの日本人が無意識に耳にしていたであろう劇伴のコンポーザーが大野克夫だ。

大野克夫は、1939年9月12日京都府京都市生まれ。京都の老舗の呉服屋の5人兄弟の末っ子。父親は本業のかたわら尺八の名手、母親は箏の奏者、姉はピアノをたしなみ、兄達は大のジャズ好きという、音楽に囲まれた環境で育つ。家には、ピアノはもちろん、マンドリン、アコーディオン、ヴァイオリン、ラッパ、尺八、三味線、箏から、サーカスの道具まで置いてあったという。楽器という楽器がゴロゴロしていたため、どういう音がするのかという興味で触っているうちに、ほとんどの楽器をこなせるようになった。小学校1年生の頃に音楽の基礎を学んだのをきっかけに、小学校4年生の時には当時の「卒業生を送る歌」の作詞・作曲をした早熟だった。

高校に入学と同時に軽音楽部に入部、ピアノを担当する。3年になるとウエスタン・バンドを結成、スチール・ギターを担当。コンテストの「京都ジャズ合戦」に出場、見事に優勝する。それがきっかけとなりプロからも注目を浴び、ゲーリー石黒にスカウトされた。卒業後と同時に、サンズ・オブ・ウエストのスチール・ギター奏者としてプロ入りする。

そして61年5月に、たびたび対バンしていたスウィング・ウエストの田邊昭知（田辺昭知）が新バンドの田辺昭知とザ・スパイダース（ザ・スパイダース）を結成。大野克夫も田邊昭知から誘われるが、「徹底的に腕をみがいてから」という理由で断った。2度目に誘われた際に加入を決意、ザ・スパイダース結成から1年半後の62年にメンバーに加わった。ザ・スパイダースではスチール・ギターのほか、マルチ・プレイヤーの才を活かして、オルガンやピアノも担当した。また、ヴォーカル・グループのスリー・ジェット出身の井上孝之は、ザ・スパイダース加入後にギターを習得したので、当時はテクニックがいまひとつだった。ベンチャーズを演奏するときにはテケテケ部分は大野克夫のスチール・ギターで代用していた。

71年にザ・スパイダース解散後は、元ザ・スパイダースの井上堯之と元ザ・タイガースの沢田研二と岸部修三（岸部一徳）、ザ・テンプターズの萩原健一と大口広司と、スーパー・バンドのPYGを結成。じきに、沢田研二と萩原健一が脱退して、井上堯之バンドへと移行した。井上堯之バンド時代にはキーボーディスト以外に作曲家としても活躍。ドラマ『太陽にほえろ!』、『傷だらけの天使』（74年）、『

CamScannerでスキャン

寺内貫太郎一家」(74年)、『悪魔のようなあいつ』(75年)、『祭ばやしが聞こえる』(77年)などの作編曲のほか、バック・バンドを担当していた沢田研二には、「時の過ぎゆくままに」(75年)、「立ちどまるなふりむくな」(76年)、「憎みきれないろくでなし」(77年)、「サムライ」(78年)、「ダーリング」(78年)、「ヤマトより愛をこめて」(78年)、「カサブランカ・ダンディ」(79年)、「OH! ギャル」(79年)、「ロンリー・ウルフ」(79年)、「灰とダイヤモンド」(85年)など、多くの楽曲を提供。中でも、77年の「勝手にしやがれ」では第19回日本レコード大賞、78年の「LOVE(抱きしめたい)」では第20回日本レコード大賞最優秀歌唱賞を受賞した。沢田研二以外にも、桜田淳子「ねえ!気がついてよ」(76年)、三木聖子「三枚の写真」(77年)、西城秀樹「ブーツをぬいで朝食を」(78年)、木之内みどり「横浜いれぶん」(78年)、柏原よしえ、「めらんこりい白書」(81年)など多数のヒット曲を生んだ。いわゆるポップス系だけでは無く、石川さゆり「沈丁花」(78年)、「春一輪」(79年)、五木ひろし&木の実ナナ「居酒屋」(82年)、八代亜紀「日本海」(83年)など、演歌も多く書いている点は、同時代のポップス系の作曲家の中でも稀有な存在だ。

『Free Ways』(77年)、『ウィンドワード・ヒル』(78年)の2枚のソロ・アルバムのリリースを挟み、井上堯之バンドは80年に解散、同時に沢田研二のバック・バンドも交代した。その後、井上堯之バンドのメンバーを中心にしたフリーウェイズでの活動を経て、『太陽にほえろ!'81』(81年)のリリースと川島恵のプロデュースをきっかけに本格的に大野克夫バンドを始動させた。96年からは、アニメ『名探偵コナン』の音楽を担当、20年以上に渡って現在も続く長寿アニメとなった。

さまざまなバンドで演奏してきた彼だけあって、その音楽性は、ジャズ、ポップス、カントリー、ロックなど幅広い。マルチ・プレイヤーということもあり、楽器的に聴いても興味深い楽曲が多い。打ち込み作品もあるが、いわゆるデータを打ち込むのではなく、手弾きした音を多重録音しているそうだ。『名探偵コナン』でも、未来の子供たちに生楽器や手弾きの音楽を伝えたい気持ちで生演奏にしたとのこと。同主調の移調を好み、メジャー・キーとマイナー・キーが巧みにブレンドされたユニークな楽曲を多く生み出してきた。ヴァラエティ豊かなサウンドと楽器の個性を充分に発揮した楽曲群は、他の作曲家には余り無い彼ならではの個性であり、今後も幅広い音楽性を披露してくれることだろう。

『Windward Hill』
大野克夫

「勝手にしやがれ」をはじめ阿久悠とのコラボ作をセルフ・カヴァーした78年作

CamScannerでスキャン

DISC GUIDE 阿久悠 × 大野克夫

ポリドール/1975年8月21日

時の過ぎゆくままに

沢田研二

作詞:阿久悠
作曲:大野克夫
編曲:船山基紀
B面:旅立つ朝

沢田研二主演のドラマ『悪魔のようなあいつ』(75年)の挿入歌。本作では、阿久悠の歌詞に、大野克夫、井上堯之、井上忠夫、加瀬邦彦、荒木一郎、都倉俊一の6人がコンペで競った。大野克夫は打ち合わせの段階から頭にメロディが充満していたといい、翌日には仕上げて同ドラマの演出を担当していた久世光彦から驚かれたという。最終的に大野克夫の楽曲が選出され、オリコン・シングル・チャート第1位の大ヒットを記録した。

ビクター/1976年8月25日

ねぇ!気がついてよ

桜田淳子

作詞:阿久悠
作曲・編曲:大野克夫
B面:かかとの折れた靴をさげ

前作「夏にご用心」に続いて2作連続のオリコン・シングル・チャート最高第2位を記録。それまでのメイン作曲家の森田公一から大野克夫に変更。メロディの方向性こそあまり変化は無いが、16分音符でのギターのオブリガートや、裏拍を強調したドラム・パターンなど、バックがクロスオーヴァー・スタイルの洗練されたサウンドに。サビでメジャー・キー、Aメロでマイナー・キーという平行調の移調は、大野克夫の得意な手法だ。

ビクター/1976年4月5日

みかん

大竹しのぶ

作詞:阿久悠
作曲:大野克夫
編曲:細野晴臣、萩田光雄
B面:音楽

映画「青春の門(筑豊篇)」(75年)で注目された女優の大竹しのぶの歌手デビュー曲。アルバム「白鳥を見たことがありますか」(76年)のジャケットや、テレビ番組出演時でアコギを抱えていたためフォーク・ソング的な印象だが、実際の音はエレピを活かしたクロスオーヴァー風のサウンド。女優らしい感情込められた歌との相性がとても良い。81年には同じ女優出身の杉田かおるが「鳥の詩」のB面でカヴァーした。

ポリドール/1977年5月21日

勝手にしやがれ

沢田研二

作詞:阿久悠
作曲:大野克夫
編曲:船山基紀
B面:若き日の手紙

タイトルは映画「勝手にしやがれ」(59年)から。レコーディング前日まで曲が完成せず、スタジオをキャンセルかという状態だったが、家に帰ってピアノに向かうと、あっという間にイントロが出てきたという。Aメロ前半は2コードの繰り返し、ラストはロックで多用されるウォーク・ダウンの進行というシンプルなコード進行でありながらも、飽きさせないメロディ・ラインで、第19回日本レコード大賞など賞レースを独占した。

東芝/1982年2月21日

ミスター不思議

川島恵

作詞:阿久悠
作曲:大野克夫
編曲:船山基紀
B面:結婚したなら

80年に開催された第2回東芝EMIスカウトキャラバンで優勝した川島恵のデビュー曲。当初はまだ発表前の大滝詠一「君は天然色」でのデビューが予定されていたが、さまざまな事情でデビューが遅れ、最終的には本作品でデビュー。さわやかなポップス路線で、大野克夫が全面的にバック・アップ。歌の上手さに加え、伸びのあるハイトーンが美しい。ヒットに至らなかったのが不思議なほどの完成度の楽曲だ。

text:ガモウユウイチ

CamScannerでスキャン

キャニオン／NAV
1977年1月25日

三枚の写真

三木聖子

作詞：松本隆
作曲：大野克夫
編曲：船山基紀
B面：哀しみ専科

三木聖子の3枚目のシングル。メジャー・キーのイントロに続いて、歌では平行調のマイナー・キーに移調するのは大野克夫の得意とするパターン。本楽曲のリリースを最後に引退してしまった三木聖子だが、ラスト・シングルになってしまったのがもったいないほどの感情的なヴォーカルと、メロディ・メーカーとしての大野克夫のセンスが発揮された渾身の名バラードだ。81年に石川ひとみが、86年に松本典子がカヴァーした。

徳間／バーボン
1977年10月1日

「祭りばやしが聞こえる」のテーマ

柳ジョージ&Nadjaバンド

作詞：東海林良
作曲・編曲：大野克夫
B面：ドリームレーサー

萩原健一主演ドラマ『祭ばやしが聞こえる』（77年）の主題歌。Nadjaバンドは、萩原健一が同年にリリースしたアルバム『Nadja～愛の世界』のバック・バンドだが、本作品の演奏は事実上は井上堯之バンドによるもので同アルバムのメンバーとは違う。ロック系では珍しい「メジャー7th」コードをメインにしており、コード進行も3つのキーのコードが順に登場して調性を分かりにくく感じさせ、浮遊感たっぷりに響く。

キャニオン／NAV
1978年2月25日

横浜いれぶん

木之内みどり

作詞：東海林良
作曲：大野克夫
編曲：船山基紀
B面：悪魔になれない

木之内みどりの11枚目のシングルで、オリコン・シングル・チャート最高第28位は彼女のキャリア・ベスト・セールス。それまでの清純路線から路線変更され、次作「無鉄砲」（78年）と、最終シングルとなった「一匹狼（ローン・ウルフ）」（78年）まで続いた。イントロはメジャー・キーだが、歌メロ導入部は平行調のマイナー・キーに移調という、大野克夫が好んで使用するコード・ワークを本作品でも聴くことが出来る。

徳間／1979年

恋のジャイロ

池田典代

作詞：荒川みどり
補作詞：橋本淳
作曲：大野克夫
編曲：船山基紀
B面：サマーオレンジの恋

下北沢ロフトなどで活動していた美人シンガーのシングルで、岡沢茂（Bs）と田中清司（Dr）の生み出すグルーヴが心地よい16ビートのラテン・フュージョン・ナンバー。アルバム『DREAM IN THE STREET』（80年）やアルフィーと共演した「ごあいさつのうた」（82年）をリリースしたが引退。近年再評価著しく、15年にアルバム・タイトル曲が発売から約35年を経て初シングル・カットされた。

トリオ／1981年4月25日

マンガチックロマンス

島田歌穂

作詞：岡田冨美子
作曲：大野克夫
編曲：船山基紀
B面：恋するシャボン・ギャル

ドラマ『がんばれ!!ロボコン』（74年）などに出演、女優として活躍していた島田歌穂の歌手デビュー作。マイナー・キーのイントロから一転、歌メロは平行調のメジャー・キーに。ダイアトニック・コードを使用したシンプルな楽曲ながら、モーダル・インターチェンジによる「Ⅳm」コードの挿入など、こだわりを感じさせるコード進行に、大野克夫らしい魅力的なメロディ・ラインが連なる。

text：ガモウユウイチ

CamScannerでスキャン

穂口雄右

キャンディーズを支え続けた名ソングライター

text：岩切浩貴

穂口雄右の作る楽曲群は当然の事ながら様々なパターンがあるが彼の性格によるものかある種の“気骨”を感じられる作品が多い。

穂口は1984年11月24日に東京で生まれる。14才でウクレレを始め、15才でギターとピアノを同時に開始。その頃1ヵ月だけ近所の音楽教室に通うもののその後は全くの独学で音楽を学んだ。1ヵ月とはいえ正規の音楽教育を学び譜面等を学んだことはその後独学で音楽理論を習得する際にも大きなプラスになっただろう。

アマチュアの頃は、寺尾聡（のちのサベージ、現在は俳優業の一方ヴォーカリストとしても独自の地位を築く）、大野良二（のちに穂口とアウト・キャストでも行動を共にする）とテディーボーイズというバンドを組みギターを担当。プロとしての最初の仕事は田中清司（ドラム）に誘われてジャニーズ・ジュニアにオルガンで参加するが、穂口氏曰く「全くのアマチュア感覚でやっていた」とのこと。

穂口が本格的にプロの世界に足を踏み入れたのはGSのアウト・キャストへの参加からだ。ここには前述の大野の他、ギターに水谷淳（後の水谷公生）、ヴォーカルに轟健二（後の松崎澄雄）等、後の穂口の音楽活動にも重要な関わりを持つメンバーがいた。

アウト・キャスト脱退後は、当時ナンバー・ワンのスタジオ・ベーシストだった江藤勲（2015年に逝去。同年レコード大賞特別功労賞を受賞）の江藤勲オールスターズワゴンに参加。他にも、猪俣猛とサウンドリミテッド、稲垣次郎とソウル・メディア等すご腕のバンドを掛け持ちする。ここで演奏力は勿論様々な音楽を演奏することでのちに作曲・編曲を行う際の“幅”が広がったことは想像に難くない。その傍ら1967年から1971年までスタジオ・ミュージシャンとしても10,000曲以上のレコーディング・セッションに参加している。

そして1972年（24才）にはスタジオ・ミュージシャン等を止めて作曲編曲家として活動するための準備期間に入る、1973年から1978年まで作曲編曲家として5年間の著作活動に入り約500曲の作曲及び編曲を手懸ける。初期の編曲でヒットしたものにRCサクセション（当時のメンバーは忌野清志郎＝ギター&ボーカル、破廉ケンチ＝ギター、小林和生＝ベース）の「僕の好きな先生」がある。基本アレンジはバンド・メンバーが行なったものと思われるが、コンガを効果的に使ったり色々なお遊びの音を（もちろん楽曲を生かす形で）入れる等の試みを行なっている。

作曲に関しては初期から様々なパターンの曲を書いている。あいざき進也の「気になる17歳」（アレンジも穂口）ではファンキー&ソウルフル、アグネス・チャンの「ポケットいっぱいの秘密」では

CamScannerでスキャン

……ッチといった具合に。因みに「ポケットいっぱいの
……の演奏はキャラメル・ママ（後のティン・パン・アレー）が行
……ているが、ほぼ同じ時期に発売されたやはり同じティン・パン・
……演奏である南沙織の「夏の感情」（こちらは筒美京平が作曲
……が同じメンバーのキャラメル・ママの演奏でありながら、
……ている）が同じメンバーのキャラメル・ママの演奏でありながら、
……ディとバックがどこかぎくしゃくしているのに対して、「ポケッ
……いっぱいの秘密」はとても馴染んでいる。そうなったのは「ポケッ
……いっぱいの秘密」はアレンジもキャラメル・ママ自身（と東海林
……が行なっていることも大きいが、いわゆるバンド上がりの穂口
……の方が（この時点では）筒美よりバンド・サウンドに合うメロディ
……を書く技術には長けていたということもできるだろう（筒美もその
……後、「木綿のハンカチーフ」辺りからバンド・サウンド向きのメロディ
……も書けるようになるが）。

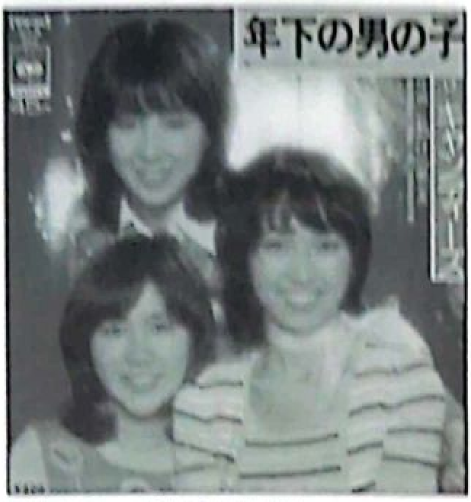
実際、穂口のヒット曲は基本的にキャンディーズのヒット曲を初
……めバンド・サウンド向きのメロディが多い。そして、そういった楽
……曲に携わったスタジオ・ミュージシャンは、特に初期はギターでは
……水谷公生、ドラムでは田中清司といった、かつて一緒にバンドをやっ
……ていた仲間が多い（もちろんその他のミュージシャンも色々起用は
……しているが）。特に（後期を除く）キャンディーズではその傾向が
……強い。もちろんかつての仲間だから起用しているわけではない。穂
……口の作りたい音を再現する技量をもっていたから起用されたのだ。

実際、自身が凄腕のスタジオ・ミュージシャン穂口はミュージシャ
……ンには拘る人だ。後に夫人となる神田広美に携わった時、穂口はそ
……れまでの自分と違ったサウンドを構築しようとするが、その際集め
……たメンバーは、ギターに水谷はいたもののもう一人のギターが松原
……正樹、ピアノが佐藤準、ベース後藤次利、ドラム林立夫、パーカッショ
……ン斎藤ノブという当時の最新型の音が作れるスタジオ・ミュージシャ
……ンだった（このメンバーが基本となってキャンディーズの最後の2曲
……も作られる）。そしてメンバーのうち佐藤、後藤（二人ともロック・
……バンド出身）は穂口と同じく作・編曲者としても名を成していくの
……は単なる偶然とは思えない。作・編曲家として活動していても、穂
……口はどこかにバンドマン的なところを持っている。

最初に穂口の音楽に"気骨"を感じると書いたが、今でも彼は気
骨のある音楽を作っている。2015年には山崎美貴、片岡聖子とい
う第1期オールナイターズの歌姫二人を起用して「春を待ってこい」
（当然「春一番」のアンサー・ソング、作詞・作曲、そしてアレンジ
も穂口自身が行なっている）を発表した。

「君も僕も友達になろう」
アウト・キャスト

穂口が在籍したGSアウト・キャスト唯一のアルバム。2011年に紙ジャケ復刻された



CBS・ソニー／1975年2月21日

年下の男の子

キャンディーズ

作詞：千家和也　作・編曲：穂口雄右
B面：私だけの悲しみ

キャンディーズにとって初めてのベストテン・ヒットとなった曲。それまでスー（田中好子）がメイン・ヴォーカルだったがこの曲からラン（伊藤蘭）がメインとなる。穂口によるとドラムにポンタ（村上秀一）、ベースに岡沢章を起用したもっと洒脱なテイクもあったそうだが、リリースされた音源もカントリー・フレーヴァー溢れるギター、途中でマーチング・バンド風になるドラムと遊び心に溢れた音になっている。ランは声量が無かったためデビュー当時はメイン・ヴォーカルから外れていたそうだがこの曲ではランはその弱点を声を張り上げる歌唱でカヴァー、その結果"気の強い年上のお姉さん"らしさが前面に出た形となり曲にぴったりとマッチしている。

CBS・ソニー／1975年6月1日

内気なあいつ

キャンディーズ

作詞：千家和也
作・編曲：穂口雄右
B面：恋の病気

歌詞は前作に引き続いて"ちょっと弱気な男の子が彼氏の女の子"を歌ったもの。曲調も前作を踏襲しているが、前作でも感じられたカントリー・フレーヴァーを基本としながらもファンク、チャールストン等様々な要素を盛り込んでいながらもすっきりとした聴き心地。穂口によるとドラムはポンタ（村上秀一）と田中清司によるツイン・ドラム。穂口自身と思われるクラヴィネットのファンキーなフレーズもいい味をだした作品。

CBS・ソニー／1975年9月1日

その気にさせないで

キャンディーズ

作詞：千家和也
作・編曲：穂口雄右
B面：一枚のガラス

キャンディーズとしては「危い土曜日」以来のセクシー路線。だが田中好子がメイン・ヴォーカルだった「危い土曜日」が突っ走る青春を感じさせる曲だったのに対して伊藤蘭がメインのこの楽曲は大人の色気を感じさせる。楽曲的には当時流行っていたディスコ&ソウル・ミュージックをおもいきり取り入れた曲調。キャンディーズによるスタイリスティックスっぽいコーラスもかなり前面に出ており、楽曲の艶っぽさに華を添えている。

キャニオン／1975年9月10日

素敵なラブリー・ボーイ

林寛子

作詞：千家和也
作・編曲：穂口雄右
B面：何故あなたは

林寛子の6枚目のシングル。彼女にとってオリコン最高順位（31位）を記録。のちに小泉今日子がカヴァーしてこちらもヒット。歌詞はやはり千家和也が手掛けた「年下の男の子」を感じさせるもの。ストレートなロックンロールだが途中スローになって緩急を付けているところに穂口の技を感じる。林のドライヴ感のあるヴォーカルが心地よい。2番辺りから微妙に走りはじめてバックとずれがでてくるのだがそれが逆にスリリング。

text：岩切浩貴

CamScannerでスキャン

ワーナー／1974年6月10日

ポケットいっぱいの秘密

アグネス・チャン

作詞：松本隆　作曲：穂口雄右
編曲：東海林修、キャラメル・ママ　B面：しあわせの白い砂

アグネス・チャンの6枚目のシングル。イギリス領だった頃の香港に育った彼女は、姉と一緒に歌ったジョニ・ミッチェルの曲がヒットする等、歌手としてはフォーク&カントリーの資質が強い歌手だった。だが日本ではいわゆるアイドル歌手としてデビューしたため、元のリズム感と楽曲との組合せが若干ちぐはぐな部分があった。そんな彼女にとってカントリー色の強いこの楽曲はそのリズム感を存分に発揮できる曲だったのだろう。水を得た魚のようにいきいきと歌っている。ティン・パン・アレイの演奏もいい。松本隆は一番の歌詞を縦読みするとア・グ・ネ・スになるという遊びを行なっているが、実は結構書き直しさせられたという話もある。

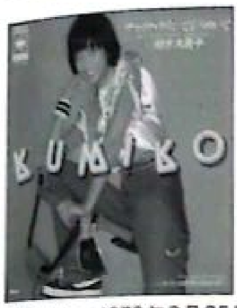
ポリドール／1977年1月21日

人見知り

神田広美

作詞：松本隆
作・編曲：穂口雄右
B面：霧景色

穂口の作曲家生活の中で、キャンディーズと共に大きな位置を占めるといっていい神田広美のデビュー曲。彼女のためにキャンディーズ時代とは基本的に一新したミュージシャン（ギター：松原正樹、キーボード：佐藤準等）を用意。いわゆるニュー・ミュージック色の強い作品に仕上がっている。とは言っても穂口の作品なので、上品な香りは濃厚ながら、何処か野太さが感じられる。それは神田の歌唱に負うところも大きい。



CBS・ソニー／1979年2月25日

チャイナタウンでよろめいて

相本久美子

作詞：松本隆
作曲：穂口雄右
編曲：矢野誠
B面：あの日、雨が降らなければ…

相本は、もともと本名の近藤久美子の名前で活動し森田公一作曲の「小さな抵抗」でデビューしている。その後芸名を相本久美子と改名し、日本テレビの「TVジョッキー」や雑誌・プレイボーイのグラビア等で人気を博していた。「チャイナタウンでよろめいて」は、近藤時代も含めて8枚目のシングルとなる。穂口の曲はタイトルもあってか、若干中国音階を意識しや曲づくりを行なっており、エキゾティックな雰囲気を演出している。

ビクター／1979年4月25日

スカイ・ピクニック

BIBI

作詞：松本隆
作・編曲：穂口雄右
B面：風の誘惑

女性デュオのアイドルBIBIのデビュー曲。メンバーだった早坂あきよと小西直子はMCシスター等ファッション雑誌等で活躍していたモデルだった。二人とも身長160cm台後半と当時としては長身でスタイリッシュなイメージがあった。二人組ということでいわゆるピンク・レディ・フォロワーではあるのだが、松本隆の詞も穂口の曲もピンク・レディーに通じる下世話さも感じさせながらも、どこか上品な仕上がりになっている。

text：岩切浩貴

CamScannerでスキャン

CBS・ソニー／1976年3月1日

春一番

キャンディーズ

作詞・作曲・編曲：穂口雄右
B面：二人だけの夜明け

今でも春になるとラジオから流れる彼女たちの代表曲。元々はアルバム『年下の男の子』A面1曲目に収録されていたものだが、ライヴでの反応が良かったため、当時のマネージャー大里洋吉の仕掛けによりシングル・カット。歌詞は穂口が仮で入れていたものを見た千家和也（作詞予定だった）の助言で作詞も穂口が担当。アルバム・ヴァージョンに入っていたブラスは取り払われ、ギター（水谷公生）、ドラム（田中清司）、キーボード（穂口雄右）の3人によるベースレスの演奏だが、そんなことは感じさせないドライヴ感溢れるものとなっている。キャンディーズの歌も疾走感があり演奏と一体化し。バック・バンド＋歌手というより"バンド"の音になっている。

ワーナー／1974年1月25日

気になる17才

あいざき進也

作詞：安井かずみ
作・編曲：穂口雄右
B面：ひとつちがい

あいざき進也はオーディション番組「スター・オン・ステージ あなたならOK！」第1回グランドチャンピオン大会で優勝してデビュー。その女の子のようなルックスとは裏腹に「8時だョ！全員集合」では体操コーナでスポーツ万能であることを披露していた。そのあいざきのデビュー曲は、当時やはりユニセックスなルックスで人気のあった郷ひろみを意識したような曲作りではあるが更にファンキーでグルーヴィだ。

ビクター／1978年2月25日

二十才前

岩崎宏美

作詞：阿久悠
作・編曲：穂口雄右
B面：ザ・マン

岩崎宏美の12枚目のシングル。岩崎は高校時代に「ロマンス」等の阿久－筒美コンビによる学生生活をリアルに感じさせる楽曲群で人気を博し、その後三木たかし等様々な作家と組んで色々可能性を試していた時期。「二十歳前」はそのタイトル通り岩崎の成人前に発売された。スローなテンポで始まるオープニング、サビでの岩崎の伸びる声を活かした箇所等、歌手・岩崎宏美の魅力を過不足なく伝える楽曲。

CBS・ソニー／1978年6月21日

林檎殺人事件

郷ひろみ・樹木希林

作詞：阿久悠
作・編曲：穂口雄右
B面：また会える？
（郷ひろみ）

TBSで放映されていた人気番組「ムー一族」のテーマ・ソング。この前年に同じ郷・樹木コンビで発売された「お化けのロック」（TBS系「ムー」のテーマ。当初は郷のシングル「帰郷」のB面だった）のヒットを受けて制作されたシングル。阿久悠のユーモラスながらペーソスを感じさせる歌詞が光る歌詞に、穂口は基本メジャー進行ながら歌の頭はマイナーを使用して、阿久の歌詞を引き立たせることに成功している。

text：岩切浩貴

CamScannerでスキャン

作家とシンガー

text：岩切浩貴

キャンディーズ

穂口雄右の作家活動の中で最も重要な位置を占めるのがキャンディーズであることに異論をはさむ人はいないだろう。キャンディーズと穂口の物語はキャンディーズがデビューする前、穂口のプロ・デビュー時から始まっている。

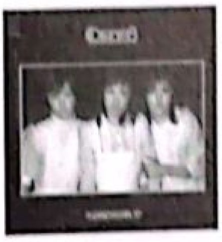
穂口は渡辺プロダクションからデビューした実力派のGS、アウト・キャストのメンバーだった。このアウト・キャストには後にキャンディーズを担当する松崎澄夫（当時は轟健二）や、キャンディーズの多くの音源でご機嫌なギターを聴かせる水谷公生（当時は水谷淳）が在席していたのだ（他にもアウト・キャストには、後にトライアングルプロを作る藤田浩一等が在籍していた）。

キャンディーズの結成は1972年の4月。NHKの歌番組「歌謡グランドショー」のマスコットガールとして抜擢、番組プロデューサーから「食べてしまいたいほどかわいい女の子たち」の意味で「キャンディーズ」と命名されたという。当初歌手デビューの予定はなかったが、松崎澄夫に認められ歌手デビューすることになる。それとほぼ時を同じくしてテレビでキャンディーズを見て可能性を感じた穂口が、その後松崎にあった時に「いい3人組がいるからプロデュースしてみては？」と提案したところすでに松崎が担当していたという。

それから穂口はキャンディーズのレッスンを担当。レコーディングにもセカンド・シングルの「そよ風のくちづけ」から参加することになる（この時はアレンジのみ）。そして「年下の男の子」や「春一番」等ヒットを飛ばすことになるのだが、両曲ともギターは水谷、そしてドラムも穂口とは稲垣次郎とソウルメディアで行動を共にした田中清司だった。

穂口とキャンディーズは、事務所が「春一番」の2番せんじを狙った「夏が来た！」（これも作詞も穂口が担当）をリリースしたことに不信感を抱き、一旦（基本的に）キャンディーズから離れるが、解散が決定した時に久しぶりに組む。その時の楽曲は「わな」（唯一藤村美樹がリード・ヴォーカル）で、穂口は以前とは違う新しいスタジオ・ミュージシャン（ギター松原正樹、ドラム林立男等）を起用。新しいサウンドと島武実の独特な詞世界の「わな」は新しいキャンディーズの世界観を提示した（この延長戦が、やはり島が作詞し穂口が作曲した初期トライアングル）。そしてラスト・シングルの「微笑みがえし」。この曲は3人が初見でレコーディングしたことで知られているが、バックも当時の穂口お気にいりのミュージシャン（前述の林立夫等）以外に、ギターに初期キャンディーズに欠かせない存在だった水谷公生が松原正樹と共に参加。この曲でキャンディーズは念願のオリコン1位を獲得する。

穂口はその後、「わな」で出会った作詞家の島とキャンディーズ（「わな」以降）の路線を更に押し進めたトライアングルを担当するが、"キャンディーズの妹" というキャッチフレーズが逆に足かせとなったのか、苦しい成果があがらないままフェイド・アウトする。



「その気にさせないで」
キャンディーズ

春一番

作詞 作曲 編曲 穂口雄右

1976年 キャンディーズ

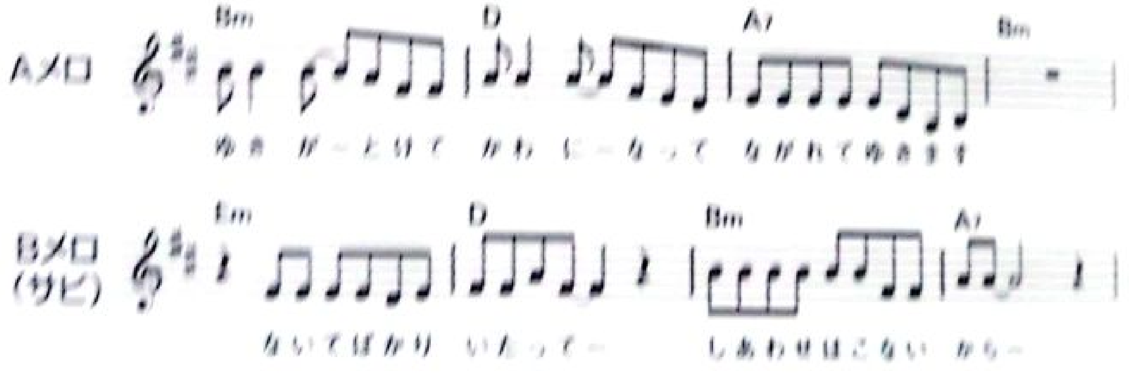
アルバム『年下の男の子』('75年)に収録されていた楽曲で、作曲と編曲のみならず、作詞も穂口雄右が担当している。彼自身が本作品のメロディーには、ある特定の情景をもった歌詞が必要だと感じていた為、作詞家に参考にしてもらうために仮の歌詞を五線紙に全部ひらがなで書いておいた。それを、当初作詞を担当する予定だった千家和也が読み、「これは穂口氏が最後まで作らせた方が良い」と助言してくれた為に、穂口雄右が歌詞も担当することになったという。

本楽曲の大きな特徴はまずはテンポだ。元々アルバム楽曲ということもあり、当時のシングルとしては異常に早い。そのスピードに、演奏を担当した武部秀明(Bs)、田中清司(Dr)、ラリー寿永(Per)らも戸惑ったという。アルバム・ヴァージョンでは、リズム・セクションが前面に出ており、まるでバンドのようなグループ感だ。ほかシングル用に、新たにホーン・セクションが追加された。

まずはリード・ギターとシンセの掛け合いフレーズからスタート。1小節で1オクターヴ上まで駆け上がり、すぐさま下降。そしてさらにその1オクターヴ下でのロック・フィーリングに溢れたフレージングという水谷公生のギターと、ギターのフレーズに呼応する穂口雄右自身によるアナログ・シンセがなんともスリリングだ。なお、クラヴィネットも穂口雄右がプレイしている。

Aメロ「雪解け間近の」は「Bm→D→A7→Bm」を3回繰り返すという、至ってシンプルなコード進行。12小節のAメロが終ったら、その後サビとなるが、今度はシンセが主旋律を弾き、ギターがシンセに呼応するというように、役割が入れ替わる。サビにあたるBメロ部分「泣いてばかり」は、Bマイナー・キーから一時的に平行調のDメジャー・キーに移調。Dメジャー・キーの場合のドミナント「A7」は、通常トニック「D」もしくは「F#m」「Bm」に進行して落ち着きを与えるという効果を出すコードだが、ここではサブドミナントの「Em」へ進行、リスナーの予想をさらりとかわすコード進行だ。

ところでキャンディーズといえば、ハーモニーを売りにしていたグループだが、本楽曲では全編3人のユニゾンで歌われている。実は彼女たちの作品の中では、本楽曲は異色作なのだ。このアーティキュレイションはヴォーカル・ディレクションを担当した松崎澄夫によるもの。水谷公生と武部秀明と松崎澄夫はGSバンドのアダムスの出身。穂口雄右と水谷公生と武部秀明と田中清司とラリー寿永はニュー・ロック・バンドのビーブル出身。バンドのようなグループ感は、長年に渡って一緒に演奏してきたミュージシャン同士故の結果だろう。



CamScannerでスキャン

PART 5

シンガー・ソングライターたちの隆盛

自作自演者たちの音楽が、日本の音楽シーンの傍流から主流へと流れ込んできた時代、彼らの多くは歌謡曲の歌手たちに請われ、新時代のメロディとサウンドを書き下ろす。彼らもまた職業作曲家の手腕を備えていた。

CamScannerでスキャン

PART 5

シンガー・ソングライターたちの隆盛

text：馬飼野元宏

70年代中盤まで、フォークやロックといった「非歌謡曲」ジャンルの音楽は、日本のポピュラー音楽の傍流という位置づけが一般的であった。音楽シーンにおいて歌謡曲は「メジャー」であり、ロックやフォークは「マイナー」の音楽だったのである。

だが、そういった歌謡曲の立ち位置や制作プロセスは、時代とともに変化を余儀なくされていく。平たく言えば、例えば若者向けの音楽にしても、歌謡曲の場合は大人の作家が書いて若者のシンガーが歌う、というものであった。逆にフォークやロックのジャンル、ことにシンガー・ソングライターと呼ばれる自作自演者の音楽は、若者が作り自分で歌うといったスタイルであり、少なくとも70年代以降の若い世代のリスナーにとっては、後者の作り出す音楽のほうがリアリティを感じられるようになっていくのである。これらの音楽を総称して「ニューミュージック」という呼び方が生まれた。

こういった自作自演者がシーンに数多く登場してくるのが70年代に入ってからである。グループ・サウンズの時代は、一部を除いて職業作曲家が書いた楽曲を歌うことは普通であったから、まさに70年代突入と当時に、少しずつシーンは変貌をみせていく。

そのきっかけはフォーク・クルセダーズを解散した後の加藤和彦だろう。ベッツィ＆クリスの「白い色は恋人の色」の大ヒットを契機として、その繊細で洗練されたメロディ・ラインは従来の歌謡曲を聴いてきた一般層にも新鮮に映り、作曲家としても幾多の作品を世に送り出した。

この傾向がさらに進んでいく上で、決定的なコラボレーションとなったのが、吉田拓郎が作曲した森進一の「襟裳岬」である。吉田拓郎は70年代のフォーク・シーンに彗星のごとく現れた「フォーク界のプリンス」で、彼が演歌のトップ・スターである森進一と組んだことは歌謡史的な大事件であった。その「襟裳岬」は74年の日本レコード大賞を受賞し、翌年のレコード大賞もまた小椋佳が布施明に提供した「シクラメンのかほり」であった。この75年には荒井由実、宇崎竜童率いるダウン・タウン・ブギウギ・バンドがシーンに

CamScannerでスキャン

ほかにも、翌76年に「時代」でブレイクする中島みゆき、77年に「マイ・ピュア・レディ」でヒットを飛ばす尾崎亜美といった自作自演系の作家陣も、歌謡曲シーンと接点を持ち始める。宇崎竜童が夫人の阿木燿子と組んだ一連の山口百恵のヒット曲、女性アイドル歌手に絶大な信頼を置かれていた尾崎亜美の提供曲、研ナオコや桜田淳子のイメージ・チェンジを成功させた中島みゆき作品、さらに80年代に入るとユーミンが松本隆と組んで松田聖子に断続的に楽曲提供するなど、歌謡曲の中でも若者世代のニーズが強いアイドル・ポップスを中心に、自作自演系作家の楽曲が数多く登場し、80年代からはこの傾向がいっそう顕著になる。だが、自作自演系といっても、ニーズがあり、ディレクターからの発注があり、それを書く時点では彼らも既に職業作曲家的な視点を持っているということである。

いっぽうで従来の職業作曲家たちも、相変わらずの活躍をみせていた。ことに筒美京平は80年代に突入してもヒット請負人としての力量は衰えず、作詞家では松本隆とコンビを組むことが多くなり、近藤真彦や少年隊といった大型新人を成功に導いたほか、早見優、小泉今日子らのブレイク作を手がけ、松本伊代、本田美奈子、斉藤由貴、中山美穂といった女性アイドルも一手に引き受けている。

こういった音楽シーンの顕著な変化は、80年代に入り、音楽の聴かれ方がシングルからアルバム中心になったこと、ウォークマンやカー・ステレオの普及によって、音楽の聴かれる現場が変わっていったことと無縁ではない。ニューミュージックやロック、あるいはシティ・ポップといったジャンルの音楽が若者層を中心に愛聴されるようになるのと並行して、歌謡曲シーンはアイドルと演歌に二分されていき、従来の大人が聴いていた歌謡曲は次第にAOR、シティ・ポップ、あるいはフォーク寄りの音楽にその座を取って代わられるようになる。大衆音楽の洋楽化、が歌謡曲の進化過程であるなら、これもまた必然的な流れと呼べるかもしれない。こういった流れの中から登場してきた作曲家が林哲司である。林哲司の書くメロディは、70年代初頭では（歌謡曲としては）時代的に早すぎるようなものであったが、聴き手の耳がセブンス・コードに慣れてくる時代になると、まさしくど真ん中直球の洗練されたポップスとして人々に愛されるようになるのである。同様に長戸大幸率いるビーイング系アーティストの楽曲の大衆性、それを経て登場してきた小室哲哉の作るポップスが、一時代を築くようになる。彼らの音楽もまた、「歌い手の個性に合わせ」「音楽的技巧を凝らして」「ヒットに結びつけるための作風を貫く」作曲法であるのだ。ヒット曲を生み出すという意味で、60年代、70年代の歌謡曲の作り手たちと、制作の本質は変わらない。違うのはその作風が世に受け入れられるようになった、ということだ。長い英語のセンテンスや、意表を突く転調なども、カラオケで一般の人々が普通に楽しめるような時代になったのである。

CamScannerでスキャン

宇崎竜童

カタカナ演歌のビート感覚
独自のブルージーなメロディ

宇崎竜童はダウン・タウン・ブギウギ・バンドで、74年に「スモーキン・ブギ」、翌75年に「港のヨーコ・ヨコハマ・ヨコスカ」を大ヒットさせたことだけで、十分、歌謡史に名を残したことだろう。

野暮を承知で「たら・れば」話を持ち出すならば、そのダウン・タウン・ブギウギ・バンドが76年に発売したバラード曲「涙のシークレット・ラヴ」を17歳の山口百恵が気に入ったことがきっかけで、同曲の作者である阿木燿子と宇崎竜童のコンビに曲依頼をしなかったなら、歌謡曲の作曲家として宇崎竜童がこうして本書に採り上げられただろうか、と考える。同時に、阿木&宇崎コンビがいなければ、山口百恵も「菩薩」と喩えられる存在になったであろうか。

阿木燿子作詞、宇崎竜童作曲、山口百恵の13枚目のシングルとなる「横須賀ストーリー」は作家にとっても、歌手にとっても、それぞれの運命を変える大きな曲となった。まずは、それまでの宇崎竜童の歩みを振り返ってみる。

本名、木村修司。46年、京都で生まれ、生後まもなく東京へ。明治大学法学部在籍中に軽音学部で阿木燿子と出逢う。69年、阿木の作詞、宇崎が作曲というコンビによる（末期GSの）ジュリーとバロン「ブルー・ロンサム・ドリーム」でプロ作家としてデビュー。その後、芸能プロでマネージャー業を務め、バンド時代の松崎しげるを発掘する。73年、ダウン・タウン・ブギウギ・バンドを結成。「知らず知らずのうちに」でデビュー。74年12月のシングル「スモーキン・ブギ」は、ユニークな歌詞（作詞はベーシストの新井武士）と、リーゼント、サングラスに、白いツナギ姿で統一した風貌が話題を呼び、70万枚の大ヒットとなる。翌75年4月に発売された「港のヨーコ・ヨコハマ・ヨコスカ」は当初、「カッコマン・ブギ」のB面曲だったが、サビ以外がすべてセリフという大胆な構成と、「あんたあの娘のなんなのさ」というキメ台詞が流行語となり、累計百万を越える大ヒットとなり、この年の紅白歌合戦にも出演した。

この75年には和田アキ子「もっと自由に－Set Me Free－」、ダ・シェラ・スサーナ「別に…」、菅原文太&愛川欽也「一番星ブルース」と、職業作曲家、宇崎竜童への依頼が集中する。この3曲だけをとっても、それぞれリズム&ブルース、ヨーロッパ風味のバラード、泥臭い演歌ブルースと、歌手のニーズの完璧に応えて余りある仕事ぶりに唸らされる。研ナオコが本格的な歌手として認知されるきっかけとなった「愚図」もこの年の発売だ。

76年、山口百恵「横須賀ストーリー」は当初、アルバム『17才のテーマ』に収録される予定がオミットされ、シングルとして発表

text：安田謙一

CamScannerでスキャン

された。以後、「夢先案内人」「イミテイション・ゴールド」「乙女座宮」「プレイバックPart2」「絶体絶命」「美・サイレント／曼珠沙華」「しなやかに歌って」「ロックンロール・ウィドウ」「さよならの向う側」など、引退までの4年の間に発売された13枚のシングルを、このコンビが手掛け、歌手と作家が一体となって、作品ごとの目まぐるしい変化とともに、表現の幅を広げていった。全曲を阿木&宇崎コンビが手がけたコンセプト・アルバム『百恵白書』（77年）、特に「I CAME FROM 横須賀」の凄みを忘れてはいけない。

76年の内藤やす子「想い出ぼろぼろ」の主人公は藤圭子や北原ミレイが歌ってきた女たちと同じ風景に生きながら、重荷を捨てて、より都会的な振る舞いを身につけている。

アイドル歌手への提供曲も少なくない。77年の高田みづえ「硝子坂」（作詞は島武実）は木之内みどりのアルバム曲だったものをカヴァーし、ヒットさせたものだ。太田裕美（「シングル・ガール」）、荒木由美子（「渚でクロス」）、大沢逸美（「ジェームス・ディーンみたいな女の子」）、柏原芳恵（「ちょっとなら媚薬」）、渡辺典子（「晴れ、ときどき殺人」）、SCANDAL（「スキャンダルなんかブッ飛ばせ」）、℃-ute（「江戸の手毬唄II」）……と世代を越えて需要は尽きない。

宇崎竜童の作風について考えるとき、思い出すのがダウン・タウン・ブギウギ・バンドのライヴ・アルバム『あゝブルース　vol.3』だ。アナログ盤のA面は「セント・ルイス・ブルース」や「サムタイム・アイ・フィール・ライク・ア・マザーレス・チャイルド」など“あちら”のブルース、B面には「山谷ブルース」「恍惚のブルース」「昭和ブルース」など、“こちら”のブルースが並ぶ。これら和洋両方のブルースを分け隔てなく血肉化したのが作曲家、宇崎の基本だろう。

歌手として、ミュージシャンとして、比較的、“無理のない”表現である「ブルース歌謡（歌謡ブルース）」と対照的に、構造的にケレン味に満ちた表現にも宇崎の個性が見て取れる。ジェロのデビュー曲「海雪」（08年）のサビのアクロバティックな譜割りなどは決して、ギター片手の弾き語りで生まれるものではない。「プレイバックPart2」もまた然り。そこには表現者のエゴなど微塵も感じさせない。すべて大衆のココロを掴むためのメソッドである。長く芸能の中で生きる宇崎が持ち得たカンであり、コツなのだ。

ソロ・アルバム『しなやかに したたかに～女たちへ』（94年）は女性歌手への提供曲を自身が歌う、セルフ・カヴァー集だが、このアルバムを監修したのが、同じ“バンドマン出身の作家”である井上堯之と井上大輔ということになにか腑に落ちるものがあった。

「しなやかに
したたかに～女たちへ」
宇崎竜童

「曼珠沙華」「謝肉祭」などの百恵作品から「とまどいトワイライト」など渋い楽曲までを集めたセルフ・カヴァー集。

CamScannerでスキャン

東芝／1969年6月1日

ブルー・ロンサム・ドリーム

ジュリーとバロン

作詞：阿木燿子
作曲：宇崎竜童
B面：涙で書きたい

阿木燿子、宇崎竜童ともにこの曲が作家デビュー作。尾藤イサオのバック・バンドだったバロンに新人歌手、鍵山珠里を組ませた大橋プロのグループで、ジュリーがヴォーカルにバロンがコーラスを被せている。ジュリーが大橋プロ在籍時の仕事で、ウェスタン風の曲調だが随所に宇崎節とでもいうべきブルージーな旋律がある。メンバーの河内広明と若子内悦郎はその後「ワカとヒロ」となり、河内は井澤慶明として作曲家に転身。

RCA／1975年5月30日

もっと自由に ～セット・ミー・フリー

和田アキ子

作詞：阿木燿子
作曲：宇崎竜童
編曲：馬飼野康二
B面：別れたあなたに

DTBWBブレイク直後に、和田アキ子に提供した傑作歌謡ソウル。比較的ウェットな女性像が多かった和田に、阿木燿子は乾いた世界を描き、宇崎も和田の個性を研究し尽くした「タテノリ」の魅力を打ち出している。ことに♪セット・ミー・フリーイ・イ・イ～のタメとフェイクは完璧で、日本人では作り手がまだ少なかったソウル・ミュージックの日本化に成功している。その後このコンビでの楽曲提供がなかったのが惜しまれる出来。

キャニオン／1975年9月10日

愚図

研ナオコ

作詞：阿木燿子
作曲：宇崎竜童
編曲：竜崎孝路
B面：サヨナラは嫌いな言葉

お笑いタレント的なイメージが強かった研ナオコが、東宝レコードからキャニオンに移籍して発表した第1弾作品。曲想はフォーク調だが、サビ終わりでsus 4を使うなど小技が効いたメロディで、失恋の痛みを独り言のように淡々と歌う姿は、それまでの彼女のイメージを一新するものであった。この曲でふられ歌の名手となった研ナオコは、続いて同コンビによる「一年草」を発表、以降は中島みゆき作品の歌い手となっていく。

東芝／1975年

一番星ブルース

菅原文太・愛川欽也

作詞：阿木燿子
作曲：宇崎竜童
編曲：ダウン・タウン・ブギウギ・バンド
B面：文太のひとり寝の子守唄

菅原文太主演、相棒に愛川欽也という東映映画「トラック野郎」シリーズの主題歌。ダウン・タウンの諸作にも通じるカタカナ演歌のレイジーな匂いが漂う。歌詞も七五調で固められ、本職ではない歌い手のためか、狭く設定された音域の中で得意のブルース感覚を出しているのはさすがで、「あああ～」と駆け上がるメロディが典型宇崎節。1・3番が文太で2番がキンキンのソロ、最後のサビ部分だけ2人のデュエットになる。

CBS・ソニー／1976年6月21日

横須賀ストーリー

山口百恵

作詞：阿木燿子
作曲：宇崎竜童
編曲：萩田光雄
B面：GAME IS OVER

山口百恵の第2期の幕開けを飾るオリコン1位の大ヒット曲。基調となっているのは、歌謡曲と親和性の高いイタリアン・ツイスト。ことにベース・ラインが映画「太陽の下の18才」挿入歌「ゴーカート・ツイスト」を意識したもので、哀愁味に加えスピード感を発揮している。阿木＝宇崎コンビは基本、詞先で作られることもあって、「これっきり」という発音には、もうこのメロディしか乗らないというほどのマッチング。

text：馬飼野元宏

CamScannerでスキャン

コロムビア／1976年9月1日

想い出ぼろぼろ

内藤やす子

作詞：阿木燿子
作曲：宇崎竜童
編曲：馬飼野康二
B面：ひとりぼっち

宇崎はアマチュア時代の内藤やす子と交流があり、デビュー3作目に初提供したこの楽曲のヒットで、内藤は同年のレコード大賞最優秀新人賞を獲得。符割りや曲構成が同年に発表した「横須賀ストーリー」とほぼ同じだが、内藤のハスキーな声質を活かしたハイテンポなロック・ビート+カタカナ演歌色が強くなっている。阿木・宇崎コンビはその後も内藤に「ふるさと心中」「やさしさ尋ね人」など随所で秀作を提供した。

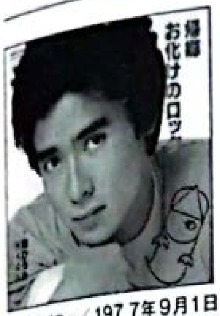
キャニオン／1977年6月10日

渚でクロス

荒木由美子

作詞：阿木燿子
作曲：宇崎竜童
編曲：馬飼野康二
B面：季節風

ホリプロタレントスカウトキャラバンで審査員特別賞を受賞し、この「渚でクロス」でデビューした荒木由美子。ストレートのロングヘアに、眼力の強いシャープなルックスの持ち主で、同じホリプロの先輩・山口百恵の後継イメージで売り出された。本家百恵より早く「坊や」と歌わせているがこの時、弱冠17歳。ヤンキー的な世界は宇崎メロディと相性が良く、ビートの強いアレンジを施した馬飼野康二の手腕も光る。



CBS・ソニー／197 7年9月1日

お化けのロック

郷ひろみ

作詞：阿木燿子
作曲：宇崎竜童
編曲：萩田光雄
A面：帰郷

阿木=宇崎コンビでは数少ない、ストレートなロックンロールの曲。とはいえドラマ「ムー」の挿入歌で、同ドラマで共演している郷ひろみと樹木希林のデュエットとあって、コミカルな内容が郷の独特の声質にはよく合う。臨時発売ながらオリコン2位まで上昇する大ヒットとなった。山口百恵と同じ酒井政利ディレクター担当でもあり、その後阿木=宇崎コンビは郷ひろみに「禁猟区」を提供、同系列の川崎麻世にも楽曲提供している。

RCA／1977年11月5日

面影平野

藤圭子

作詞：阿木燿子
作曲：宇崎竜童
編曲：馬飼野俊一
B面：圭子のドンデン節

宇崎竜童が最初に提供する楽曲は、そのシンガーの生い立ちや背景まで浮かび上がらせるようなナンバーが多いが、低迷期から方向性を変えつつあった藤圭子に提供したこの曲などはまさしくその代表格。演歌的なメロディにロッカ・バラード的なビート感を導入し、巻き舌唱法の藤圭子は、捨て鉢というより諦念に近いムード。ダウン・タウン・ブギウギ・バンドをバックに歌ったテレビ・パフォーマンスは完全にロックであった。

CBS・ソニー／1978年5月1日

プレイバック PART 2

山口百恵

作詞：阿木燿子
作曲：宇崎竜童
編曲：萩田光雄
B面：賭け

沢田研二「勝手にしやがれ」のアンサーソング風の歌詞に、物語性の強い内容と凝ったシチュエーションに呼応するように、細かい音節、16分音符やシンコペーションの多用をもって、ポルシェのスピード感を演出しており、大胆なストップ・タイムで聴くものをドキッとさせる。宇崎竜童が一晩で作曲、翌日レコーディングまで終えたというが、タイトなスケジュールを微塵も感じさせない萩田アレンジも神がかっている。

CamScannerでスキャン

ポリドール　1979年2月1日

とまどい トワイライト

豊島たづみ

作詞：阿木燿子
作曲：宇崎竜童
編曲：大村雅朗
B面：寝た子を起こす子守唄

豊島たづみの4作目で、ドラマ主題歌となりチャートのTOP20入りするヒットに。ジャジーで気だるいムードを持ったシンガーだが、力を抜いた歌い方と宇崎の演歌的なメロディの運びがマッチして、退廃的なニュアンスも。2014年には米国ヒップホップ・アーティスト、ヤング・ジージーの「Seen It All」にサンプリングされ話題を呼んだ。B面「寝た子を起こす子守唄」は寺島まゆみらにカヴァーされた、隠れた名曲。

CBS・ソニー　1979年3月1日

曼珠沙華

山口百恵

作詞：阿木燿子
作曲：宇崎竜童
編曲：萩田光雄
片面：美・サイレント

もとは同名アルバムのリード・トラックで、その後「美・サイレント」と両A面で収録。ブルージーなメロディ・ラインで書かれ、アコースティックなギターの音色で静かに始まり、Bメロで切迫感溢れる盛り上がりをみせるが、サビではさらにアグレッシヴに。百恵はダイナミックなパワー唱法で女の情念を表現、ハード・ロックの如き矢島賢のギター・プレイ、プログレのようなエンディングまで息もつかせぬ展開は圧巻。

CBS・ソニー　1979年7月21日

シングルガール

太田裕美

作詞：阿木燿子
作曲：宇崎竜童
編曲：大村雅朗
B面：想い出達の舞踏会

宇崎夫妻の太田裕美への初提供作は、76年12月のアルバム「12ページの詩集」収録の「あさき夢みし」だが、シングルA面では本作が初。それまでの繊細なお嬢様イメージから一転、大人っぽいセクシー路線を意識した楽曲。スローな歌い出しで始まり、宇崎作品としては、79年頃に多かったラテン～スパニッシュ系の雰囲気（山口百恵「愛の嵐」など）に、大村アレンジによるスーパートランプ風のサウンドという組み合わせが面白い。

CBS・ソニー　1980年5月21日

ロックンロール・ウィドウ

山口百恵

作詞：阿木燿子
作曲：宇崎竜童
編曲：萩田光雄
B面：アポカリプス・ラヴ

引退を前に宇崎竜童が百恵にぶつけてきたのは、基本3コードのロックンロール。ブルー・ノート進行やイントロのハードなギター・リフなど、レッド・ツェッペリン「ロックンロール」を髣髴させる、まったく百恵に寄せていないタイトなロック・チューン。百恵もこういった傾向の曲は初挑戦だったが、見事なシャウトをきかせ、女性ロッカーに成り切って歌う。その後も宇崎自身のライヴ定番曲となったほか多くのカヴァーが存在する。

コロムビア　1984年1月1日

少年ケニヤ

渡辺典子

作詞：阿木燿子
作曲：宇崎竜童
編曲：萩田光雄
片面：花の色

79年の映画「白昼の死角」以来、宇崎竜童は角川映画の主題歌に重用されており、本作も角川映画の新人女優・渡辺典子の歌手デビュー曲、及び同名アニメの主題歌として制作された。「花の色」と両A面だが、実質的にはCMスポットで頻繁に流れていた「少年ケニヤ」の認知度が高い。曲想はフォルクローレだが、ハネた3拍子で作られており、途中で変拍子も登場するなどなかなかの難曲だが渡辺典子は正確に歌いこなしている。

CamScannerでスキャン

ポリドール／1979年2月1日

とまどいトワイライト

豊島たづみ

作詞：阿木燿子
作曲：宇崎竜童
編曲：大村雅朗
B面：寝た子を起こす子守唄

豊島たづみの4作目で、ドラマ主題歌となりチャートのTOP20入りするヒットに。ジャジーで気だるいムードを持ったシンガーだが、力を抜いた歌い方と宇崎の演歌的なメロディの運びがマッチして、退廃的なニュアンスも。2014年には米国ヒップホップ・アーティスト、ヤング・ジージーの「Seen It All」にサンプリングされ話題を呼んだ。B面「寝た子を起こす子守唄」は寺島まゆみらにカヴァーされた、隠れた名曲。

CBS・ソニー／1979年3月1日

曼珠沙華

山口百恵

作詞：阿木燿子
作曲：宇崎竜童
編曲：萩田光雄
片面：美・サイレント

もとは同名アルバムのリード・トラックで、その後「美・サイレント」と両A面で収録。ブルージーなメロディ・ラインで書かれ、アコースティックなギターの音色で静かに始まり、Bメロで切迫感溢れる盛り上がりをみせるが、サビではさらにアグレッシヴに。百恵はダイナミックなパワー唱法で女の情念を表現、ハード・ロックの如き矢島賢のギター・プレイ、プログレのようなエンディングまで息もつかせぬ展開は圧巻。

CBS・ソニー／1979年7月21日

シングルガール

太田裕美

作詞：阿木燿子
作曲：宇崎竜童
編曲：大村雅朗
B面：想い出達の舞踏会

宇崎夫妻の太田裕美への初提供作は、76年12月のアルバム「12ページの詩集」収録の「あさき夢みし」だが、シングルA面では本作が初。それまでの繊細なお嬢様イメージから一転、大人っぽいセクシー路線を意識した楽曲。スローな歌い出しで始まり、宇崎作品としては、79年頃に多かったラテン～スパニッシュ系の雰囲気（山口百恵「愛の嵐」など）に、大村アレンジによるスーパートランプ風のサウンドという組み合わせが面白い。

CBSソニー／1980年5月21日

ロックンロール・ウィドウ

山口百恵

作詞：阿木燿子
作曲：宇崎竜童
編曲：萩田光雄
B面：アポカリプス・ラヴ

引退を前に宇崎竜童が百恵にぶつけてきたのは、基本3コードのロックンロール。ブルー・ノート進行やイントロのハードなギター・リフなど、レッド・ツェッペリン「ロックンロール」を髣髴させる、まったく百恵に寄せていないタイトなロック・チューン。百恵もこういった傾向の曲は初挑戦だったが、見事なシャウトをきかせ、女性ロッカーに成り切って歌う。その後も宇崎自身のライヴ定番曲となったほか多くのカヴァーが存在する。

コロムビア／1984年1月1日

少年ケニヤ

渡辺典子

作詞：阿木燿子
作曲：宇崎竜童
編曲：萩田光雄
片面：花の色

79年の映画「白昼の死角」以来、宇崎竜童は角川映画の主題歌に重用されており、本作も角川映画の新人女優・渡辺典子の歌手デビュー曲、及び同名アニメの主題歌として制作された。「花の色」と両A面だが、実質的にはCMスポットで頻繁に流れていた「少年ケニヤ」の認知度が高い。曲想はフォルクローレだが、ハネた3拍子で作られており、途中で変拍子も登場するなどなかなかの難曲だが渡辺典子は正確に歌いこなしている。

CamScannerでスキャン

赤い青春

[illegible]ゆたか

[illegible]

デビュー[illegible]の新人アイドルの中でも、やや演歌寄りの[illegible]な世界を歌っていた[illegible]ゆたか。デビュー曲の「赤い青春」は宇崎竜童のブルージーなメロディー、[illegible]フォーク的な処理ながらカタカナを[illegible]ユニーク。ダウン・タウン・ブギウギ・バンドの[illegible]といった曲もあり、特異な個性を[illegible]。シングル3作で引退したが、この3枚6曲すべてが宇崎作品で固められている。

[illegible]

[illegible]

「[illegible]」で知られるフーフィーの[illegible]といい[illegible]な男性4人組ヴォーカル・グループの3作目。[illegible]で活躍したが、むしろそのアクティヴなパフォーマンスと抜群の4声ハーモニーで通好みの評価を受けていた。宇崎作曲のロックンロール・リ[illegible]が面白い味を出している。B面もロッ[illegible]ややムード歌謡的。レオナルドは樋口[illegible]作曲の「木曜日の片想い」も秀作。

[illegible]

由紀さおり

[illegible]

由紀さおりがイメージ・チェンジを図って宇崎竜童作[illegible]。持ち味だった艶っぽい歌い方をあえて前面に[illegible]、[illegible]のように軽々と歌うヴォーカルは[illegible]過去の路線を回顧していく。軽いファンキー[illegible]「何をしてもダメなもの」の部分は典型[illegible]。由紀さおりは続く「う・ふ・ふ」でも再び宇崎作品に挑んだほか「宇崎竜童を歌う」というアルバムも残している。

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]はもともと[illegible]のアルバムに収録されていた楽曲[illegible]がデビュー曲として発表した。消え[illegible]ヴォーカルの[illegible]版に比べ、アップテンポ[illegible]高田版は、ホーンを派手に起用[illegible]のアレンジも相まって、同じ曲でもこれ[illegible]。元のメロディにブルー[illegible]。こういったイメージの転換も可能なのが宇崎メロディの特徴といえそうだ。

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]作曲の「ひまわり君」でデビューした田中[illegible]が、[illegible]と改名し大胆にイメージ・チェンジ[illegible]通算5作目となるこの曲。宇崎[illegible]メロディの骨格はしっかりしているが、萩田[illegible]のアレンジで、エッジの利いたニュー・[illegible]。[illegible]は引き続き同[illegible]セクシー度を増した続編[illegible]も発表している。

作家とシンガー

山口百恵

text：馬飼野元宏

山口百恵がダウン・タウン・ブギウギ・バンドの「涙のシークレット・ラブ」を聴いて宇崎の曲を歌いたいと言った話は有名だが、宇崎としても「横須賀出身の少女」に思いを寄せるものがあったという。また、宇崎の私感では、それまでの百恵の曲は、背伸びした世界を歌わされている印象もあったそうである。かくして、アルバム「17才のテーマ」への3曲提供を経て、初のシングル「横須賀ストーリー」が誕生したのだが、百恵はこの曲で初めて阿木燿子の詞を得て、等身大の17歳の心情を歌うこととなった。だが、それ以上にこの起用の成功を決定づけたのは、カタカナ演歌と呼ばれた宇崎メロディと百恵の相性の良さ、明らかにスピード感が加わり鮮烈な印象を残す楽曲、そしてホーンを加えたバンド・サウンドのタイトでスリリングなインパクトの強さである。意外に思われるかもしれないが、この楽曲がそれまでの百恵作品にあったある種の重さを解放し、従来の歌謡曲から一歩踏み出した軽さとスピード感を与えている。言い換えれば百恵はこの曲で初めて「ノリ」というものを体得したのだと思う。

宇崎メロディのもつ演歌的でありながらブルージーな音符の運び、ロックのビート感が、百恵のクセがない真っすぐなヴォーカルと好一致をみせるのは当然で、2人の出会いはある意味必然ともいえるだろう。百恵は宇崎メロディを得て、その歌唱法に揺れ落ちるようなブルース感覚を手に入れたともいえる。それは「これっきりぃ、ですかぁー」の語尾の歌いまわし1つとってもわかるのだ。

阿木燿子による等身大の少女の感性＋ロックのビート感という意味では77年の「夢先案内人」も同様である。宇崎の曲想はイーグルスなどの西海岸サウンドであったそうだが、結果的に吉永小百合的な清純派イメージの側面を打ち出すことに成功した。ブルース感覚でいえば、アルバム収録曲だが「オレンジ・ブロッサム・ブルース」「想い出のミラージュ」といった傑作ナンバーが挙げられる。

78年の「プレイバックPART 2」以降は、歌に演劇的な要素が加わるようになるが、その中で根幹を成していったのが、ラテン・スパニッシュ系のナンバーだ。「美・サイレント」「謝肉祭」や、レゲエに挑んだ「横須賀サンセット・サンライズ」などが百恵の新たな側面として提示されていくが、その中ではトロピカル＋和モノ風の曲に独自のヴィブラートを加える歌い方で挑んだ「娘たち」を白眉に挙げたい。また、「曼珠沙華」以降、音を広げるような分厚く力強い歌い方に変わってきたが、このパワー唱法と語りかけるような歌い方のギア・チェンジを駆使し、ダイナミックでスケールの大きな世界を歌ったのが「イントロダクション・春」であった。そしてロックを完全に自分のものにしたのが「ロックンロール・ウィドウ」と、ラスト・アルバムに収録された「神様のおぼし召し」だろう。ことに後者のファンクなノリは圧巻で、最後の最後、引退まで百恵と宇崎は、阿木燿子、萩田光雄も含めた四つ巴の真剣勝負を繰り広げたのだった。

『百恵白書』
山口百恵
全曲阿木燿子＝宇崎竜童コンビの作品。

CamScannerでスキャン

text：ガモウユウイチ

横須賀ストーリー

1976年　山口百恵

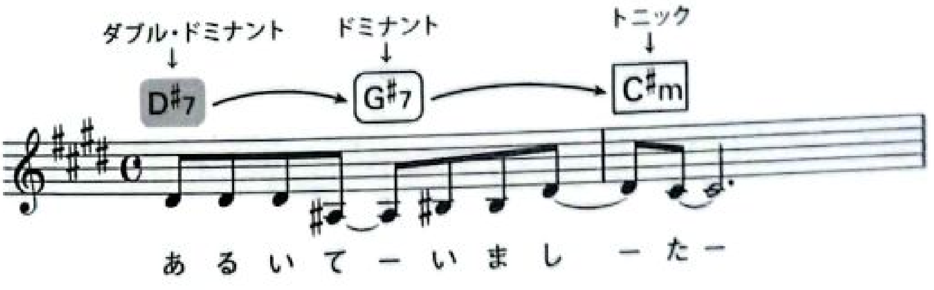
作詞：阿木燿子
作曲：宇崎竜童
編曲：萩田光雄

それまで都倉俊一や三木たかしなどがメイン・ライターとして楽曲を提供してきた山口百恵だったが、本作品より宇崎竜童が作曲を担当、「冬の色」(74年) に続いて2作品目のオリコン・シングル・チャート第1位を記録した。編曲は萩田光雄が担当している。

本書で楽曲分析したジャズマン出身の作曲家は、メロディとアレンジを絡めながら楽曲を構築していく過程が多かったが、本楽曲は、ロック出身の宇崎竜童作曲ということで、あくまでも弾き語りを核にしたメロディがまずあり、そのメロディに萩田光雄が彩りを施したという行程となっている。コード進行はいわゆる定石のダイアトニック・コードを軸にしたナチュラルな展開で、コード理論的に難しい部分は特に無い。逆にそれがキャッチーであり、一般のリスナーには耳なじみが良く、また山口百恵の表現力の幅を広げてくれたのだろう。

そんな中、ダブル・ドミナントの多用には注目だ。トニックに解決する際、セカンダリー・ドミナント・コードに対して、そのコードに向けて進行するドミナント・コードを置くことが出来、そのドミナントのことをダブル・ドミナントと呼ぶ。本楽曲では、Aメロの最後、サビの後半部の中盤、サビの後半部のラストに登場する「D#7・G#7－C#m」の「D#7」がダブル・ドミナントに当たる。「G#7」を「I」と見立てて発生した「V7（D#7）」が、ダブル・ドミナント（譜例）となる。このダブル・ドミナント「D#7」と定石である「D#m7」との違いは、「3rd」音が「D#7」は「F𝄪＝G」音、「D#m7」は「F#」音という違い。作曲時点からダブル・ドミナントを使用した場合は、メロディ・ラインもダブル・ドミナントの特徴の「3rd」音を使用することが多いが、本楽曲では使用していない。もちろん最初からダブル・ドミナントを配置して、メロディ・ラインに「3rd」音を使用しないこともあるが、このダブル・ドミナント「D#7」は萩田光雄による判断という可能性も推測可能だ。根底には宇崎竜童のメロディの強さがあるからゆえ、メロディ・ラインに「3rd」音を使用していなくとも、ダブル・ドミナント「D#7」が効果的に響く。萩田光雄は当時一番多忙だった編曲家の一人で、そのコード感覚や楽器の特性を活かしたサウンド・センスは当時の歌謡曲作曲家の中でも群を抜いていた。

また、リズム・アレンジも絶妙だ。サビは16ビートでシェイカーを振り疾走感を感じさせるパートに。対して、Aメロ部分は8ビートながら、1拍ごとにベースを刻ませそれまでの疾走感をぶった切るように、動と静の的確なコントラストを提示する。また、1番と3番のAメロではオブリガートをサックスとエレクトリック・ギターが担当していたのに対し、2番Aメロではオルガンが担当と役割を変えたりするなど、各楽器の音色や役割を的確にまとめあげた編曲が効果的に響いている。



CamScannerでスキャン

RCA／1978年7月25日

夢で逢えたら

吉田美奈子

作詞・作曲：大瀧詠一
編曲：多羅尾伴内・山下達郎
B面：ラスト・ステップ

70を超えるカヴァーを持つ名曲の初出は吉田美奈子のLP『FLAPPER』にて。シュレルスの「フーリッシュ・リトル・ガール」を下敷きにした本格ガール・ポップだが、必然的に音数が減る日本語との絡みがきちんと考慮されているのは、アン・ルイスによる英語版「Dreams」と聴き比べるとよくわかる。マイナー・コードの響きに日本人好みの気品、美意識を埋め込む正攻法がその後の曲の運命を決めたのだろう。

CBS・ソニー／1981年10月7日

風立ちぬ

松田聖子

作詞：松本隆
作曲：大瀧詠一
編曲：多羅尾伴内
ストリングス・アレンジ：井上鑑
B面：Romance

LP『風立ちぬ』からの先行シングル。ダイアン・リネイの「キス・ミー・セイラー」を一聴すれば明らかだが、無数のネタ元から引き継がれた曲想が、メロディはもちろん、歌い手に要求されるイメージに至るまで完全に固められているため、歌入れはさぞ苦戦を強いられたことだろう。結果としてデビュー以来のフル稼働がたたり、かすれ声になってしまった松田聖子の分岐点となった１曲。

東芝／1983年5月25日

探偵物語

薬師丸ひろ子

作詞：松本隆
作曲：大瀧詠一
編曲：井上鑑
両A面：すこしだけやさしく

薬師丸ひろ子主演の同名映画主題歌。感傷的な短調のメロディで、大瀧作品の特徴のひとつであるシンコペーションを、極力避けた譜割りは、まるで翌年発表された大瀧のLP『EACH TIME』の前哨戦。いつでも余技的な位置づけであった提供曲が自身の作品にフィード・バックされた稀有な例であり、作曲者本人の分類によるところの〝メロディ・タイプ〟の完成形にあたる曲ではないだろうか。

ビクター／1982年11月21日

冬のリヴィエラ

森進一

作詞：松本隆
作曲：大瀧詠一
編曲：前田憲男
B面：駅灯り

LP『紐育物語（New York Story）』の収録曲で、「森進一がニューミュージックに挑戦」と話題になった。ただ、この曲に関しては低めに始まる歌い出しや、押しの強いサビなど演歌歌手への曲提供を意識した歩み寄りが見られ、それが独特の情感を生んでいる。詞に対して完全に字あまりのメロディは作曲者による英語詞のセルフ・カヴァーでは淀みなく歌われているが、その意図は今となっては永遠の謎だ。

ポリドール／1985年11月20日

熱き心に

小林旭

作詞：阿久悠
作曲・編曲：大瀧詠一
ストリングス・アレンジ：前田憲男
B面：さらば冬のカモメ

コーヒー「マキシム」のCMがきっかけで実現した小林旭への提供作。「渡り鳥シリーズ」を初めとする日活での主演映画のイメージを組曲風にまとめたこの曲は、時に崩れ、時に伸びる歌い手のクセを熟知して作られているのだから、ハマらぬはずはない。この後、本格的に音楽活動から退いてしまう大瀧の、スターへの憧れと畏敬の念の具現化であり、本当の意味での集大成といえる超大作となった。

text：真鍋新一

CamScannerでスキャン

フォーライフ／1981年6月5日

ハイスクールララバイ

イモ欽トリオ

作詞：松本隆
作曲：細野晴臣
編曲：細野晴臣
B面：欽ドン良い子悪い子普通の子のテーマ

「欽ドン！」のコント「良い子悪い子普通の子」から生まれたデビュー曲。トリオであったことが幸いしてYMOのセルフ・パロディとなった。冒頭から「ライディーン」のリズムを拝借したとにかく飛び切りわかりやすいテクノポップであり、ヨシオとワルオの当て振り芸も手伝い大いにウケた。その後、YMOの3人が手ぶらで並んで歌う「君に、胸キュン。」が生まれるとは一体誰が想像しただろう。

CBS・ソニー／1983年4月27日

天国のキッス

松田聖子

作詞：松本隆
作曲：細野晴臣
編曲：細野晴臣
B面：わがままな片想い

細野晴臣が初めてシングル曲を手掛けた松田聖子の13枚目。「夏の扉」「渚のバルコニー」と続いた、夏までのロング・ヒットを見込んだ4月のリリース曲として、ここで新たな夏らしさが要求されることになったわけだが、そこで細野が提示したのは転調の気持ちよさ。歌い出しから何度も入る転調の嵐と、それを感じさせない涼しげな歌唱。作り手、歌い手がともに高いレベルで結実したアイドル・ポップスの名曲だ。

徳間ジャパン／1983年2月1日

夢・恋・人。

藤村美樹

作詞：松本隆
作曲：細野晴臣
編曲：細野晴臣
B面：春 mon amour

キャンディーズ解散から5年、一時的に復帰した藤村美樹の再デビュー曲。YMOが自ら歌謡路線に向かっていった「君に、胸キュン。」とほぼ同時期にあたるこの曲は高橋幸宏と大村憲司が参加のほぼYMO体制。わかりやすくテクノしているメカニックなメロディはテクノ歌謡の王道を行くもので、大人になったミキちゃんが情感を持って歌い上げることで、電子音楽に付きまとう暗く冷たいイメージから曲を救っている。

ワーナー・リプリーズ
1983年9月7日

禁区

中森明菜

作詞：売野雅勇
作曲：細野晴臣
編曲：細野晴臣、萩田光雄
B面：雨のレクイエム

早くもあだっぽさを身につけた中森明菜6枚目のシングル。こちらは一転していかにも歌謡曲らしいケレン味のあるメロディで、修羅場を思わせる内容とテクノ・サウンドが無理なくシンクロしているあたり、90年代の先取りと言おうか、テクノポップの一般化が新たな段階を迎えていたことがうかがえる。編曲クレジットが萩田光雄との連名になっているのは、細野によるベーシック・リズムを元に録音されたため。

徳間ジャパン／1984年1月25日

風の谷のナウシカ

安田成美

作詞：松本隆
作曲：細野晴臣
編曲：萩田光雄
B面：風の妖精

同名アニメ映画のイメージ・ソングで、安田成美のデビュー曲。歌の上手い下手を超越したという意味では80年代アイドルの代表的な1曲といえるが、にもかかわらず今日まで愛され続けているのは、いわゆる良い歌い方とされる感情の起伏とまるで無縁のメロディに秘密があるのではないか。そこから繰り出される浮遊感はまったく現代のボーカロイド向きで、打ち込みと生楽器の見事な絡みも含め、未来永劫語り継がれてほしい。

text：真鍋新一

CamScannerでスキャン

谷村新司

長く親しまれるスタンダード

アリス時代はチンペイの愛称で親しまれた谷村新司。解散後のソロでの活躍はもとより、作詞・作曲家としても「いい日旅立ち」(78年)をはじめ数多くの名曲を生み出している。中でも、作詞を担当した「サライ」(92年)は、日本テレビ『24時間テレビ「愛は地球を救う」』のテーマ・ソングとして現在に至るまで長きに渡り歌い継がれている。

谷村新司は、1948年12月11日大阪府河内長野市出身。島津ちづ子や山本峰行とフォーク・グループのロック・キャンディーズを結成、68年に「どこかに幸せが」でデビュー。片面は、都倉俊一が在籍していたザ・パニック・メンの「想い出の小径」だった。71年には、元愚の松田幸一や、後にサディスティック・ミカ・バンドに参加するポール今井(現:今井裕)を加え、アルバム『讃美歌』をリリースするも解散。元フーリッシュ・ブラザーズ・フットの堀内孝雄と、元ブラウン・ライスのゲスト・ドラマーだった矢沢透のトリオで新たにアリスを結成、72年に「走っておいで恋人よ」でデビューした。

アリスでは堀内孝雄とほぼ交互にシングルの作曲を担当し、「帰らざる日々」(76年)、「さらば青春の時」(77年)、「涙の誓い」(78年)、「チャンピオン」(78年)、「美しき絆〜Hand in Hand」(79年)、「エスピオナージ」(81年)などのヒットを放った。アリス在籍中の74年にはソロ・アルバム『蜩』をリリース。その後、山口百恵に「いい日旅立ち」(78年)を提供するなど、ソロでの活動も多くなる。80年にリリースした「昴」は、オリコン・シングル・チャート最高第2位の大ヒット、堀内孝雄もソロ活動が活発化していたこともあり、アリスは81年に活動を停止した。

82年に、シングル「スーパースター —MY SUPERSTAR—」、アルバム『JADE/翡翠』をリリースして本格的にソロ活動をスタート。その傍ら、作曲家としても、やしきたかじん「砂の十字架」(81年)、高田みづえ「ガラスの花」(82年)、柏原芳恵「花梨」(82年)、ルー・フィン・チャウ「スター誕生」(82年)、オユンナ「花」(91年)、鬼束ちひろ「いい日旅立ち・西へ」(03年)、松浦亜弥「風信子(ヒヤシンス)」(04年)などを提供。シンプルで美しいメロディ・ラインとバラードを中心としたサウンドで、国内はもとより台湾、中国ほか多くのアジア諸国でも人気を誇っている。中でも「昴」は、「另一種郷愁」、「号角」、「星」などの訳詞で、テレサ・テン、鳳飛飛、羅文、關正傑など、多くのアジア圏の歌手たちにカヴァーされており、アジアを代表するスタンダード・ナンバーとなっている。

ユウイチ

恋の悩みは不思議なもの

シモンズ

作詞　作曲　谷村新司
編曲　[illegible]
歌　[illegible]

[illegible]

いい日旅立ち

山口百恵

作詞　作曲　谷村新司
編曲　[illegible]
歌　[illegible]

[illegible]

砂の十字架

やしきたかじん

作詞　作曲　谷村新司
編曲　[illegible]
歌　[illegible]

[illegible]

花梨

柏原芳恵

作詞　作曲　谷村新司
編曲　[illegible]
歌　[illegible]

1982年12月1日

[illegible]

スター誕生

ルー・フィン・チャウ

作詞　作曲　谷村新司
編曲　[illegible]
歌　[illegible]

1982年12月

[illegible]

コロムビア／1969年10月

白い色は恋人の色

ベッツィ＆クリス

作詞：松山猛
作曲：加藤和彦
編曲：若月明人
B面：パピルスの船に乗って

サウンズ・オブ・ヤング・ハワイのメンバーとして来日した際にスカウトされたベッツィ＆クリスのデビュー曲。シンプルな楽曲ながら、Bメロをドミナント・コードから始めるなど、加藤和彦のさり気ない音楽センスを垣間見られる。結果、オリコン・チャート最高第2位の大ヒットを記録。シモンズ、ピンク・ピクルスなど多くの女性フォーク・デュオがデビューした。ベティ・ブーカ、河田純子、五島良子がシングルでカヴァーした。

CBS・ソニー／1970年10月

花にさえ鳥にさえ

アンドレ・カンドレ

作詞：松山猛
作曲：加藤和彦
編曲：土持城夫
B面：さあ、おぬぎ

アンドレ・カンドレ名義でデビューした井上陽水の第3弾シングル。それまでは、アンドレ名義で自らが作詞・作曲した楽曲だったが、チャート・インはならず。12/8拍子のロッカ・バラード形式で、キーはDマイナーで、コード進行は「Ⅰm－bⅦ－bⅥ－V」。のちに井上陽水の代表曲となる「傘がない」と全く同じスタイルながら、本作もチャート・インはならず、アンドレ・カンドレ名義では最後の作品となってしまった。

テイチク／1971年7月25日

冒険

牧葉ユミ

作詞：北山修
作曲：加藤和彦
編曲：小山恭弘
B面：バイ・バイ

井上順之（井上順）「昨日今日明日」と並ぶ「オブ・ラ・ディ、オブ・ラ・ダ」歌謡の傑作。「オブ・ラ・ディ、オブ・ラ・ダ」歌謡の特徴として、オクターヴ程度の狭い音域、ポップなメロディ、シンプルなコード進行というのがあり、それまで会社勤めをしていてスカウトされた牧葉ユミには、本格的なレッスンを受けなくても歌えるピッタリの楽曲だった。サビでの指板狭しと動き回るエレベーター奏法は寺川正興によるもの。

ワーナー／1973年4月10日

妖精の詩

アグネス・チャン

作詞：松山猛
曲：加藤和彦
編曲：馬飼野俊一
B面：いじわる雨の日曜日

アグネス・チャンのセカンド・シングルとして、オリコン・シングル・チャート最高第2位のヒットを記録。フォーク路線のシンプルなメロディ・ラインながら、Bメロ後半部では一時的に平行調へ移調。「Ⅲ7」への進行をスムースにする「Ⅶm7（b5)」の次に、「V7」を置き元の平行調に戻る部分は、プロの作曲家ではなかなか思いつかない独自性に溢れた進行。加藤和彦の天性のコード・センスを垣間見ることができる。

RCA／1980年2月5日

不思議なピーチパイ

竹内まりや

作詞：安井かずみ
作曲：加藤和彦
編曲：加藤和彦、清水信之
B面：さよならの夜明け

当時、各化粧品メーカーが毎年キャンペーン・ソングを制作していたが、この年は竹内まりや、渡辺真知子「唇よ、熱く君を語れ」、庄野真代「Hey Lady 優しくなれるかい」の各キャンペーン・ソングがリリース。3人とも同時にヒットを記録、3Mとも称された。シャッフルのオールディーズ・スタイルのポップなナンバーで、加藤和彦のメロディ・メーカーとしての才能が存分に発揮されており、河合奈保子、清水香織などがカヴァー。

text：ガモウユウイチ

CamScannerでスキャン

東芝／1989年10月

ドゥー・ユー・リメンバー・ミー

YUKI

作詞：安井かずみ
作曲・編曲：加藤和彦
B面：ジャマイカン・アフェアー

岡崎友紀がYUKI名義でリリースしたナンバーで、ロネッツ「ビー・マイ・ベイビー」を意識して作曲したといわれる。現代J-POPの定番進行のひとつの「Ⅱm－V－Ⅲm－Ⅵm」や、ウォーク・ダウン進行の「Ⅱm－m－Ⅱm」といった定番のコード進行満載。人によってはありきたりなメロディにもなりそうだが、加藤和彦のメロディ・センスで至極のポップ・ナンバーに仕上げている。フローレンス芳賀、キタキマユもカヴァー。

キャニオン／1982年1月21日

愛してモナムール

岩崎良美

作詞：安井かずみ
作曲：加藤和彦
編曲：清水信之
B面：ふれて風のように

同期の松田聖子、河合奈保子、柏原よしえがヒットを飛ばす中、セールス面で苦戦していた岩崎良美の8枚目のシングル。イントロはメジャー・キーだが、歌に入ると平行調に移調。そして、サビで再び元のメジャー・キーに。サビ後半では、サブドミナント・サブドミナント・マイナー・ケーデンスという進行で、明るさの中にもたそがれ感を増幅させる。結果、オリコン・シングル・チャート最高第25位と、3作ぶりにベスト30に返り咲いた。

東芝／1983年

だいじょうぶ マイ・フレンド

広田玲央名

作詞：安井かずみ
作曲：加藤和彦
編曲：清水信之
B面：気がいきそうな空

村上龍が原作・脚本・監督を担当した映画「だいじょうぶマイ・フレンド」の主題歌。歌は、出演していた広田玲央名（現：広田レオナ）、乃生佳之、渡辺裕之の3人のほか、加藤和彦自身も歌い、4人の競作となった。イントロやAメロで「Ⅳm」を置くのは、モーダル・インターチェンジという手法。「Ⅳm」部分であえてメジャーとマイナーを決定付ける3rd音をメロディに組み込み、そこはかとなく漂う切なさを演出している。

ビクター／1984年6月5日

愛・おぼえていますか

飯島真理

作詞：安井かずみ
作曲：加藤和彦
編曲：清水信之
B面：天使の絵の具

アニメ「超時空要塞マクロス」でリン・ミンメイ役を担当していた飯島真理の3枚目のシングルで、映画「超時空要塞マクロス 愛・おぼえていますか」主題歌。いきなりサブドミナント・コードから始まるAメロ、パッシング・コードでは無くハーモニーの一つとしてディミニッシュ・コードを多用したBメロと、当時としては凝りまくったコード進行を包括していながらも、その響きはポップという、加藤和彦らしさが出たナンバー。

ビクター／1988年4月30日

真夜中のサブリナ

高岡早紀

作詞：安井かずみ
作曲・編曲：加藤和彦
B面：NON! NON! NON!

15歳でデビューした高岡早紀のファースト・シングル。同時代に人気を博していたフランスの作曲家／プロデューサーであるロマーノ・ムスマッラの影響を感じさせるフレンチ・ポップ・サウンドの中、デビュー曲とは思えないほどの落ち着いた歌唱で、エレガントでアンニュイな世界観を演出。同年にデビューしたWink同様に笑わないアイドルとして、その後もポップな曲よりもサウンド指向の楽曲をリリースしていく。

CamScannerでスキャン

東芝／エキスプレス
1973年3月1日

ルーム・ライト（室内灯）

由紀さおり

作詞：岡本おさみ
作曲：吉田拓郎
編曲：木田高介
B面：それは季節のかわりめに

当時としては珍しかったニューミュージックのアーティストから歌謡曲歌手への提供楽曲。AメロとBメロは、ほとんど2拍ごとにコードが変化。突然、モーダル・インターチェンジの「Ⅳm」を1小節分聴かせて、サビは1小節ずつのコード・チェンジでゆったりとした流れを感じさせる。分析すると考え抜かれた構成だが、一聴すると鼻歌で作ったかのようなポップでメロディアスなメロディ。作曲家・吉田拓郎の魅力が凝縮されている。

ビクター／1974年1月15日

襟裳岬

森進一

作詞：岡本おさみ
作曲：吉田拓郎
編曲：馬飼野俊一
B面：世捨人唄

吉田拓郎の曲を森進一が歌うというアイデアは、元ソルティー・シュガーでビクターのディレクターだった高橋隆によるもの。「たき火」という仮タイトルがついていた「襟裳岬」は、事務所の方針から当初はB面曲の予定だったが、森進一自身の直訴により両A面という扱いに変更。発売直後は売れ行きはいまひとつだったが、最終的には日本レコード大賞と、日本歌謡大賞の大賞をダブル受賞するという大ヒットとなった。

キング／1976年9月21日

メランコリー

梓みちよ

作詞：喜多條忠
作曲：吉田拓郎
編曲：萩田光雄
B面：雪どけ

AメロとBメロはE♭マイナー・キー、CメロはG♭メジャー・キー、サビはG♭メジャー・キーでありながら「E♭m」で解決という、吉田拓郎らしい平行調を巧みに行き来する、明るさと暗さが同居した雰囲気を持った楽曲。オリコン・シングル・チャート最高第11位を記録、「二人でお酒を」と並ぶ自己最高チャートを記録した。リリースは9月ながら、翌年になってもロング・セラーを続け、翌年も最高第59位を記録している。

S・ソニー／1977年3月1日

やさしい悪魔

キャンディーズ

作詞：喜多條忠
作曲：吉田拓郎
編曲：馬飼野康二
B面：あなたのイエスタデイ

オリコン・チャート最高第4位で、3作品ぶりにベスト10入りを果たした。AメロとCメロはCマイナー・キー、BメロとサビはE♭メジャー・キーと、平行調をパート毎に移調していく。明るさと暗さを交互に感じさせるどっちつかずの雰囲気は、それまでの専業作曲家ではあまり見かけないタイプの曲調。50～60年代のアメリカン・ポップスに影響されたコーラス・パートも吉田拓郎によるもので、エンディングでは自身も参加。

1976年11月25日

東京メルヘン

木之内みどり

作詞：松本隆
作曲：吉田拓郎
編曲：石川鷹彦
B面：ゆめまくら

木之内みどり7枚目のシングル。前作「グッドフィーリング」は、オリコン最高第60位に食い込んだが、本作はチャート・インはならなかった。本楽曲も、頭サビとBメロはB♭マイナー・キー、AメロはD♭メジャー・キーと、平行調の移調を上手く使用した構成となっている。吉田拓郎節満載のシンプルなコード進行と個性の強いメロディ・ラインで根強い人気を持ち、84年には瀬尾一三の編曲で松尾久美子がカヴァーした。

ガモウユウイチ

CamScannerでスキャン

1979年3月21日

失恋魔術師

太田裕美

作詞：松本隆
作曲：吉田拓郎
編曲：萩田光雄
B面：さよならのワルツ

それまでシングルは筒美京平が作曲を担当していたが、初めて外部作曲家を起用。もともとは、鈴木茂の編曲によりアルバム『背中あわせのランデブー』に収録されていた楽曲だった。ブラスがフィーチャーされたイントロのアルバム・ヴァージョンに比べて、シングル・ヴァージョンはフォーキーで70年代SSWの雰囲気のサウンドに。ここでも同主調でメジャー・キーとマイナー・キーを行き来する吉田拓郎節満載のコード進行だ。

1978年3月25日

狼なんか怖くない

石野真子

作詞：阿久悠
作曲：吉田拓郎
編曲：鈴木茂
B面：ひとり娘

番組『スター誕生！』出身の石野真子のデビュー・シングルで、同番組の審査員だった阿久悠が歌詞を担当した。ディレクションも吉田拓郎が担当、編曲を手がけた鈴木茂と共にレコーディングに付き添ったという。本楽曲でも、Cメジャー・キーとAマイナー・キーをパート毎に変化させるという吉田拓郎ならではの楽曲構成。最後の一番おいしい部分にモーダル・インターチェンジを挿入するところも彼らしい無意識の音楽センスだ。

年3月21日

私のサタン

ザ・チェリーズ

作詞：喜多条忠
作曲：吉田拓郎
編曲：馬飼野康二
B面：いじわる

NHK『花のステージ』のマスコット・ガールだった3人組、ザ・チェリーズの7枚目のシングルでありラスト作。NHKの番組出身だからか、他のキャンディーズ・フォロワーにみられるようなキワモノっぽい要素は余り無く、本家キャンディーズに肩を並べるほどの高い歌唱力を持った実力派グループ。本楽曲でも、Eメジャー・キーとC#マイナー・キーの平行調を巧みに移調、吉田拓郎節ともいえる個性的なコード展開がされている。

1983年5月21日

僕 笑っちゃいます

風見慎吾

作詞：欽ちゃんバンド
森雪之丞
作曲：吉田拓郎
編曲：後藤次利
B面：OTONA BIRTHDAY

バラエティ番組『欽ちゃんの週刊欽曜日』で人気を博していた欽ちゃんバンド。そのベースを担当していた風見慎吾（現：風見しんご）のデビュー曲。同番組に吉田拓郎がゲスト出演した際、番組のテーマ曲を作って欲しいと、直接依頼した。Aメロ部分ではC#マイナー・キーでスタートするも、サビではEメジャー・キーでポップに展開、平行調を巧みに操る。30年後譚として、15年に「今さらFall in love」がリリースされた。

全部だきしめて

KinKi Kids

作詞：康珍化
作曲：吉田拓郎
編曲：武部聡志
C/W：青の時代

元々は、KinKi Kidsと吉田拓郎が司会を務めていた『LOVE LOVE あいしてる』の主題歌として吉田拓郎が書き下ろして、97年に吉田拓郎とLOVE2 ALL STARS名義でリリースされたナンバー。翌年にKinKi Kidsの4枚目のシングルとして、「青の時代」との両A面でリリースされた。初期の拓郎を思い起こさせる早口字余りのアプローチは、拓郎を知らない世代には新鮮に響き、昔からのファンには好意的に受け入れられた。

フィリップス／1971年

愛は突然に

加橋かつみ

作詞：加橋かつみ
作曲：荒井由実
編曲：玉木宏樹
B面：風のささやき

ユーミンの作家デビュー作。まだ17歳だった荒井由実は村井邦彦が主宰するアルファミュージックに楽曲を持ち込んでおり、これが初採用となって歌手デビューより前に作曲家として世に出た。この時期加橋が傾倒していたヨーロピアン・スタイルの楽曲で、メロディは「翳りゆく部屋」と同傾向、教会音楽＋プロコル・ハルムの影響下にあったユーミンの作風が既に現れている。77年には深町純の編曲で再録されシングル発売された。

ワーナー／1975年8月25日

白いくつ下は似合わない

アグネス・チャン

作詞・作曲：荒井由実
編曲：あかのたちお
B面：愛を告げて

ユーミンと歌謡曲の最初の遭遇といえるアグネス・チャン11枚目のシングル曲。それまでのハネたカントリー・ポップ調の作風から一転して、20歳を迎えるアグネスらしいしっとりした失恋ソングとなっており、随所でシンコペーションを配したメロディの動きは、短調ながら歌謡曲色のまったくない、洗練されたものとなっている。翌年に太田裕美のアルバムに提供した「青い傘」とは姉妹曲と呼べる作り。オリコン最高12位を記録。

NAV／1976年6月25日

まちぶせ

三木聖子

作詞・作曲：荒井由実
編曲：松任谷正隆
B面：少しだけ片想い

アグネス・チャンで渡辺プロとの接点ができたユーミンが、同社の新人アイドル・三木聖子のデビュー曲を任されることとなり、完成したのがこの楽曲。フランソワーズ・アルディ「さよならをおしえて」をベースに、A-A'-サビ-A' の構成が、2番ではA' に戻らずサビを2回繰り返してコーダにつなぐ構成が全く不自然にならないのが職人技。チャート40位前後の成績に留まったものの、81年に石川ひとみのカヴァーがヒットした。

東芝／1976年7月29日

二人は片想い

ポニーテール

作詞・作曲：荒井由実
編曲：鈴木慶一、中村弘明
B面：瞳をとじて

小島康子と桜庭由子の2人組女性グループの2作目で、それ以前は相馬淳子（後のラジ）を含む女性4人組だった。キラキラとしたポップ・チューンながら随所にみられる半音使いや、Bメロの転調で心理状態の変化を表すなど凝ったつくりで、作詞と作曲を同じ作家が手がけた曲ならではの構成。その後、82年にユーミン自身がアルバム『パール・ピアス』で「昔の彼に会うのなら」と改題・改詞して全く異なるアレンジでリメイクした。

クター／1977年8月5日

甘い予感

アン・ルイス

作詞・作曲：松任谷由実
編曲：松任谷正隆
B面：青春の一ページ

「アン・ルイスに曲を書いてみたい」というユーミンの雑誌での発言に、アンがリクエストして完成した楽曲。曲想やコーラス・ワークなどはビーチ・ボーイズを意識したもので、助詞を省いた歌詞、外国人の喋る日本語特有のイントネーションを活かした音符の配列など、歌い手の個性を研究した成果がみられる。同じメロディながら歌い終わりだけコードを変えて余韻を残す手法も見事。自身もレゲエ調アレンジでセルフ・カヴァーした。

ext：馬飼野元宏

CamScannerでスキャン

ワーナー／1978年6月

サマー・ブリーズ

川崎龍介

作詞・作曲：松任谷由実
編曲：戸塚修
B面：愛は星座をめぐるように

加山雄三の付き人を経て、「第二の加山」的に売り出された川崎龍介のデビュー曲。メロディ先行で書かれ、譜割がうまく行かず何度かメロと詞を直して完成した楽曲。夏のビーチをイメージした楽曲で、リゾート・ムードの楽しい曲調で軽やかに進行していくものの、歌い終わり部分などいささかアレンジがしまらない感がある。だが、この曲もまた80年にユーミン自身が改題・改詞し「サーフ天国、スキー天国」として蘇った。

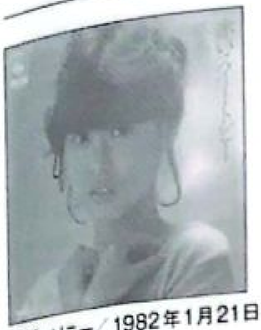
コロムビア／1980年3月1日

イエ！イエ！お嬢さん

榊原郁恵

作詞：伊達歩
作曲：呉田軽穂
編曲：船山基紀
B面：愛の旅立ち

ユーミンは呉田軽穂のペンネームを使用することも多いが、作曲のみを手掛けたこの曲もその1つ。榊原郁恵のシングル15作目にあたり、作詞はこの時期、ユーミンのステージ演出を手がけていた伊集院静のペンネーム。前サビで始まるオールディーズ・スタイルで、榊原郁恵の弾けたキャラクターにあったポップ・ナンバーだが、Bメロに差し掛かる直前でのマイナーへのコード・チェンジなど、さりげなく凝った作りが光る。



CBS・ソニー／1982年1月21日

赤いスイートピー

松田聖子

作詞：松本隆
作曲：呉田軽穂
編曲：松任谷正隆
B面：制服

松田聖子への初提供曲で、彼女の代表作ともなった。元々Bメロやサビは下がって終わるメロディだったが、若松宗雄ディレクターの意向でリテイクが行われ現在の形になった。Am7/Dの使用で心理的な揺らぎを表現していたり、メジャー7thの洗練、「よりそう」「にぎらない」部分でのドッペルドミナントの使用などはユーミンならではのセンス。以降、松田聖子には「秘密の花園」「瞳はダイアモンド」など数々の傑作を提供していく。

キャニオン／1983年4月21日

時をかける少女

原田知世

作詞・作曲：松任谷由実
編曲：松任谷正隆
B面：ずっとそばに

角川映画の新進女優・原田知世のシングル3作目で、彼女の初主演映画の主題歌でもある。彼女がこの時期得意としていたSF・宇宙モノの一環で、「消えたりしないでね」の「ね」など数ヵ所で原田にファルセットを使わせ、神秘的な浮遊感を表現した秀逸なメロディを提供。イントロのフレーズがそのままAメロのバックに導入され、素朴で単調なヴォーカルを立てるハネたリズムになっている。オリコン最高2位の大ヒットとなった。

東芝／1984年10月24日

Woman
Wの悲劇より

薬師丸ひろ子

作詞：松本隆
作曲：呉田軽穂
編曲：松任谷正隆
B面：冬のバラ

薬師丸ひろ子のシングル4作目にあたり、3度目のオリコン1位獲得曲となった。Aメロはユーミンらしい4度進行のメロディだが、サビ前からサビのメロディは一度しか上がっていないのに世界がガラリと変わるような印象を受けるのは効果的な転調のおかげで、サビでの9thコードの使用により、独特の浮遊感に加え、不安定な色彩が加わった。クラシック的な歌唱法をもつ薬師丸のファルセットが、一層荘厳な空気を生み出している。

中村八大

CamScannerでスキャン

キャニオン／1976年9月25日

あばよ

研ナオコ

作詞・作曲：中島みゆき
編曲：クニ河内
B面：強がりはよせよ

研ナオコの12枚目のシングルであり、オリコン・シングル・チャート第1位を獲得した唯一のシングル。「美人しか写さない」のキャッチフレーズで有名になった研出演のミノルタSR-Tスーパーの CMを中島みゆきが観て、「あれだけ人を笑わせることができるんだから、泣かせることもできるんじゃないか」と思い作った3/4拍子のマイナー・ワルツ。第18回日本レコード大賞歌唱賞、日本歌謡大賞放送音楽賞などを受賞した。

ビクター／1977年11月5日

しあわせ芝居

桜田淳子

作詞・作曲：中島みゆき
編曲：船山基紀
B面：晩秋

それまで多くのシングル楽曲を提供してきた森田公一に変わり、中島みゆきが初めて桜田淳子に提供したシングル楽曲。コードの分散和音を活かした上下降の激しいAメロと、少ない音域の中で展開されるサビとのバランスが絶妙なメロディ・ライン。オリコン・シングル・チャートでは最高第3位を記録。「ねぇ！気がついてよ」(77年)以来約1年ぶりにトップ3入りを果たしたが、本楽曲が最後のトップ3入りシングルとなった。

ワーナー・パイオニア／1981年11月28日

すずめ

増田けい子

作詞・作曲：中島みゆき
編曲：青木望
B面：前夜祭（イヴ）

ピンク・レディー解散後に増田けい子（現：増田恵子）がリリースしたソロ・デビューのシングル。ピンク・レディー時代に共演していた桜田淳子の「しあわせ芝居」を聴き、「いつかはあんな歌を歌いたい」と思い、中島みゆきに依頼することとなった。リフレインされるモチーフが印象的なメロディで、オリコン・シングル・チャートでは最高第9位を記録。彼女のシングルでは唯一のベスト10入り、ソロで最大のヒット曲となった。

フィリップス／1983年1月11日

春なのに

柏原芳恵

作詞・作曲：中島みゆき
編曲：服部克久、J.サレッス
B面：渚便り

柏原芳恵の14枚目のシングルで、初めて中島みゆきが作曲を担当。マイナーのナンバーながら、最後はメジャー・キーのドミナント・コードからマイナー・コードに解決するため、暗い雰囲気は弱めでセンチメンタルな雰囲気が漂う。オリコン・シングル・チャートでは自己最高の第6位を記録、約33万枚を売り上げた。その後も、「カム・フラージュ」(83年)、「ロンリー・カナリア」(85年) などの中島みゆき作品を歌った。

ユニバーサル／2006年8月23日

宙船

TOKIO

作詞・作曲：中島みゆき
編曲：船山基紀
c/w：do! do! do! ほか

長瀬智也主演ドラマ「マイ☆ボス マイ☆ヒーロー」主題歌。当初は中島みゆき自身のアルバム「ララバイSINGER」(06年) に収録予定だったが、ジャニーズ事務所よりTOKIO用の楽曲依頼を受けて先にリリースされた。ロック色の強いアップ・テンポのナンバーで、中島みゆきのヴァージョンも同アルバム中、最もロック色が強い。オリコン・チャートでは初登場第1位、TOKIOとして5枚目の第1位獲得シングルとなった。

text：ガモウユウイチ

CamScannerでスキャン

尾崎亜美作曲作品

CBSソニー／1978年1月21日

春の予感 －I've been mellow

南沙織

作詞・作曲：尾崎亜美
編曲：大村雅朗
B面：もどかしい夢

尾崎亜美が初めて他のアーティストに楽曲提供をしたナンバーで、資生堂春のキャンペーン・ソングとしてオリコン最高第25位を記録。ドミナント・マイナー・コードやオン・コードといった当時としては珍しいコード・アプローチを使用しており、洗練されたサウンドを持つ。サビは小悪魔コード進行や黄金進行と呼ばれる、90年代以降J-POPで大流行したこの進行をいち早く取り入れて、ポピュラリティを醸し出している。

キャニオン／1978年6月20日

パステルラヴ

金井夕子

作詞・作曲：尾崎亜美
編曲：船山基紀
B面：パーフェクト ゲーム

金井夕子のデビュー曲を制作するにあたり、当時人気だったシンガー・ソングライターへ依頼することとになり、尾崎亜美が抜擢された。サブドミナント・コードの「IIm7」から始まる意外性たっぷりのAメロに対して、Bメロは4度進行という日本人が好むコード進行を持ってくるしたたかさ。オリコン・シングル・チャート最高第35位のヒットを記録した。87年には松本典子もカヴァー。B面曲ながら、音楽番組でたびたび披露した。

フォーライフ／1978年11月5日

オリビアを聴きながら

杏里

作詞・作曲：尾崎亜美
編曲：瀬尾一三
B面：So Long

杏里のデビュー曲としてリリース。オリコン・シングル・チャート最高第65位と記録上は平凡な記録ながら、のちに徳永英明、稲垣潤一、ハナレグミなど多くのカヴァーが生まれた。歌手を目指す河合奈保子がオーディション用に選んだ曲も本楽曲だった。タイトルにある「オリビア」は、オリビア・ニュートン・ジョンの事で、サビの「making good things better」という歌詞は、彼女の同名の楽曲から引用されている。

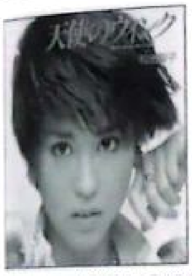
コロムビア／1984年3月1日

微風のメロディー

河合奈保子

作詞・作曲：尾崎亜美
編曲：大村雅朗
B面：プリズム・ムーン

河合奈保子の16枚目のシングルで、初めて尾崎亜美を起用。歌入り部分から1拍半ごとへのコード・チェンジという斬新なアプローチに続き、「IIIm（♭5)」コードの使用やオン・コードの多用など、随所に洗練されたサウンドが垣間見られる。レコーディングでは、尾崎亜美のサジェスチョンに河合奈保子がすぐに咀嚼して反応。のちに河合奈保子のことを「私の中ではすごいアーティストっていう感じ」と語っている。



CBS・ソニー／1985年1月30日

天使のウインク

松田聖子

作詞・作曲：尾崎亜美
編曲：大村雅朗
B面：七色のパドル

松田聖子の20枚目のシングルで、シングルでは初めて尾崎亜美を起用。年末に曲の依頼を受けた尾崎亜美は、大掃除をしながら曲のモチーフを考えたという。バッハの対立法を参考にしながら、それまでの松田聖子＝スウィートというイメージを崩すようなアップ・テンポのナンバーを1日で書き上げた。4度マイナー・コードやオン・コードなど、尾崎亜美らしい洗練されたコード感が松田聖子の新しいイメージを生み出している。

text：ガモウユウイチ

CamScannerでスキャン

DISC GUIDE 来生たかお作曲作品

マイ・ラグジュアリー・ナイト
しばたはつみ

作詞 来生えつこ
作曲 来生たかお

[illegible]

シルエット・ロマンス
大橋純子

作詞 来生えつこ
作曲 来生たかお

フィリップス 1981年11月5日

[illegible]

セーラー服と機関銃
薬師丸ひろ子

作詞 来生えつこ
作曲 来生たかお
編曲 星勝

キティ 1981年11月21日

[illegible]

スローモーション
中森明菜

作詞 来生えつこ
作曲 来生たかお

ワーナー・パイオニア 1982年5月1日

[illegible]

レースのカーディガン
坂上香織

作詞 松本隆
作曲 来生たかお
c/w Privacy

東芝

[illegible]

text：[illegible]

キング／1979年1月17日

君は薔薇より美しい

布施明

作詞：門谷憲二
作曲・編曲：ミッキー吉野
B面：セ・ラ・ヴィ
―人生なんてそんなものさ―

オリヴィア・ハッセーの出演したカネボウCMキャンペーン・ソング。布施にとっては「落葉が雪に」以来のオリコン・トップ10となった。同時期のゴダイゴ曲と通じる派手なブラス・アレンジ、当時の歌謡曲としては珍しいディミニッシュ・コードの使用、サビ部分での変拍子など、作曲者兼アレンジャーとしてミッキー吉野の持つ音楽的技巧を存分に発揮したダイナミックな1曲。それを受けて唄う布施の伸びやかな高音も印象に残る。

コロムビア／1977年9月1日

君は恋のチェリー

ゴダイゴ

作詞：H.E.R.BARNES
作曲・編曲：ミッキー吉野
B面：イエス、アイ・サンキュー

大林宣彦監督『ハウス』挿入歌。劇中主人公たち一行が軽井沢に出発するシーンで使用され強い印象を残した。当時アルバムでは海外進出も睨んで壮大なプログレッシヴ・ロックを志向していたゴダイゴだが、ここではタケカワヒデユキ作曲の「僕のサラダガール」にも通じる軽やかなオールディーズ・サウンドを聴くことが出来る。98年にはハードコア・バンド、BRAHMANがカヴァー。そのメロディの普遍性を改めて知らしめた。

CBS・ソニー／1979年6月21日

いつも心に太陽を

郷ひろみ

作詞：阿久悠
作曲・編曲：ミッキー吉野
B面：ジゴロ

「地上の恋人」「ナイヨ・ナイヨ・ナイト」と続いた筒美京平によるマイナー・キーのシングルから打って変わったスポーティな逸品。賑やかなブラス・セクション、ビー・ジーズ「愛はきらめきの中に」を思わせる歌い出しから始まり、♪Lookin' for Tomorrow～のコーラスが入るサビに至るまで一点の曇りもない爽やかなナンバーで、筒美作品を脱皮した郷の模索期を象徴する1曲となった。B面「ジゴロ」も隠れた名ディスコ曲。

コロムビア／1980年

遥かなる旅路 -Wandering Man-

ポプラ

作詞：竜真知子
作曲：ミッキー吉野
編曲：川上了
B面：男と女のメロディ

ミュージカルやCMソングの分野で活躍してきたポプラによる『Gメン'75』80年ED曲。『いろはの"い"』『男たちの旅路』とシリアスな社会派ドラマのサントラを手がけてきたミッキー吉野はここでもシンセサイザーを駆使し、菊池俊輔の音世界にマッチした哀愁漂うバラード・ナンバーを提供している。『Gメン』主題曲を数多く歌ってきたしまざき由里によるカヴァー・ヴァージョン（81年アルバム曲）との聴き比べも一興。

ビクター／1977年

小さなスーパーマン ガンバロン（ガンバロン'77）

ザ・バーズ、ジャニーズ少年団

作詞：千家和也
作曲・編曲：ミッキー吉野
B面：友達のガンバロン

77年に日本テレビ系列で放映された特撮ドラマの主題歌。ゴダイゴの演奏によるせわしない16ビートとミッキー自身の弾くクラヴィネットにより当時の子ども向け番組の水準を遥かに超えた本格的ファンク・サウンドを聴かせている。意表を突く後半のプログレッシヴ・ロック的展開も翌年の『西遊記』への布石と見ることができるかもしれない。B面「友達のガンバロン」は打って変わった6/8拍子の童謡調バラード。

text：ベラ氏

CamScannerでスキャン

インタビュー

林 哲司

[illegible]

はやしてつじ

[illegible]

[illegible]

CamScannerでスキャン

的なベースになりました。実は子どもの頃、最初に買ったレコードは西部劇の音楽だったんです。それ以前は、当時の西部劇スターのステージが繰り返され、ブックレットになったソノシートを買っていて聴いていました。『荒野の七人』だとか「コマンチェロ」だとか、西部劇のテーマが好きですね。そうした映画音楽特集のものには、ニーノ・ロータの『太陽がいっぱい』だとかヨーロッパ系のものが入ってきたりして必然的に世界のポピュラー音楽を知ることになるんですね。自分で最初にレコード盤を買ったのは、映画『リバティ・バランスを射った男』のイメージ・ソング。非常に地味なのですが作詞作曲がハル・デヴィッドとバート・バカラックの作詞作曲コンビの作品でした。そうした映画音楽などの哀愁感のあるものが好きでしたから、もしかしたら自分の作品の原点になっているかもしれませんね。

—— その後、大きな影響を与えた音楽というと、ビートルズでしょうか。

林　そうですね。中学3年のときにビートルズと出会い、それまで聴いていたものと全く違うというショックがありました。ただ彼らの奏でる"音"はそれまで聴いていたものと違って異端だった。正直な話、音よりもまずニュース、映像が先に入ってきて、実態はよく分からないけれどもブームになっている、というのが地方の少年の受け止め方でした。そのうちに音の方も入ってきたのですが、同じロックでも僕はクリフ・リチャードなどが好きだったので、クリフよりエッジの効いた音でコード感覚も以前のものとも違うし、何だこりゃ、って感じなんですよ。自分もこういうバンドやりたいな、と思ったけどクラリネットじゃできないぞと（笑）。それで近所に住む知人からギターを借り、コード・ネームの書いてある楽譜を買い、循環コードを覚えると歌い始めてました。

—— 最初にオーケストレーションの音楽に親しんだ後に、バンド・サウンドが自分の中に入ってきた。

林　そうですね。ビートルズとベンチャーズは、サウンドの魅力に取りつかれたというのもあって、でも、曲に関してはその後にきた加山（雄三）さんの影響がいちばん大きいのかな。日本人がバンドを従えて自分のオリジナルを唄ってる、すごく現実的でした。身近な憧れのモデルとして……。日本人によるこうしたスタイルを僕はそれまで見たことがなかったので、電流が走るような感じでした。僕らぐらいの世代のアーティストってほとんど影響を受けているんでしょうね。加山さんの影響で自分も曲を作り出したら、クラスの仲間が騒ぎ出したので気分がよかった。当時、教師や親たちが眉をひそめたエレキ・バンドもやっていたのですが、先輩が進学の準備に入って解散してしまい、自分1人になってしまいましたが、曲作りだけは続けていたんです。家に帰るとギターを抱え作曲し、テープレコーダーに録音するというような習慣がついて、高校を卒業するまでには200曲ほど吹き込んでいました。今振り返ると他愛もない曲なのですが、メロディを作って記録しておく、ということに関して礎になったという感じはあります。

ヤマハ時代、そしてシンガー・ソングライターとしてデビュー

—— ヤマハではどういったことを学ばれたのですか。

林　当時はポピュラー・ミュージックを教えるところが全くない、（教則）本もないという状況で、音楽をやりたいという漠然とした気持ちはあったのですが、そこまで強い意志はなかったんですよ。大学に進学しても、学校にもあまり行かないで名画座とかジャズ喫茶に入り浸りになっている状態で、そんな矢先にちょうどヤマハ音楽振興会がポピュラー・ミュージックの作曲講座を始めるという広告が目に入って、そこに村井邦彦さんや鈴木（邦彦）さんだったかな、プロの作曲家の名前も特別講師としてクレジットされていました。さっそく申し込んで参加しました。その作曲編曲コー

CamScannerでスキャン

スは3ヵ月単位くらいで期が改まるんです。僕が入ったときは4期でしたが、3期には萩田光雄さんがいて、1期には佐藤健とか、その後、僕が声をかけ結成したバンド、オレンジを一緒にやる増尾元章がいて。実際にそこで作曲の勉強をするんですけど、作曲法を学ぶというより単に曲を作る連中の集まりというか、サークル的な感じでした。でもそこでは実践的な現場として必要なことが把握できて有効でした。例えばポピュラー、ジャズにおいては、すべての小節に音符をきちんと書かなくてもいいとか（笑）。僕は最初アレンジしたときは全部の楽器の譜面を書かなければいけない、と思っていましたからね。例えばギターだと毎小節書いていかなければいけないと思っていたんですが、その省略の仕方だとか、そうした“現場”で必要なことを学んだわけですね。

とはいえ、まだプロとして仕事が出来ていたわけでもなく、当然生活のことも考えなくてはいけません。そこで生徒という立場からバイトとして在籍することになったんです。そのバイトの口添えをしてくれたのが萩田光雄さんで、萩田さんはそのちょっと前に同じようにバイトで入っていました。そうした優秀な音楽仲間が身の回りにいたんですよね。

―― ヤマハの後にシンガー・ソングライターとして「BRUGES～ブルージェ」でデビューされます。

林　バイトをやりながら音楽活動をやっていました……そうすると僕のいたフロアにはミュージシャンの卵といった連中がいっぱいいるわけです。彼らとの交流もできて、発表の場だとかもあって音楽活動も充実してくる。そうこうしているうちにポリドールに紹介してくれた人がいて、レコードを作らないか、という話が来ました。当時はポプコン以前でまだヤマハによる音楽制作の場というのが全くなかった時代でしたからね。

―― それでアルバムを制作されるんですね。自分で唄われる、という選択肢はあったんですか。

林　最初は作曲家になろう、という発想がなかったので、とにかく自分で曲を作って自分で唄う、ということを考えていましたね。シンガー・ソングライターという言葉も出てきた時代でしたから、自分で歌うことの選択肢は自然なんですよね。当時はシンガー・ソングライターといってもフォーク一色でしたから、自分の目指すものは違うと思っていました。

―― 「BRUGES」はリバプール・サウンドという印象を受けます。

林　レコード・デビューと言ってもまだ何をやったらいいのかわからなかったんでしょうね。自分の作品をアルバムでどうまとめたらいいのか――プロデューサー的な客観性も持ち得ないとセルフ・プロデュースは出来ませんから、何かを核にしなくてはならないところで、影響を強く受けていたビートルズ色が出たんだと思います。すでにチューリップがデビューしていて、やられたな、みたいなことは感じはありましたね、仲間内でも……。

―― 最初に他人に曲を提供する、というのはいつでしょうか？

林　プロとして人に書く、ということだと僕はデビューが73年4月ですが、作曲家デビューの方が早かったんですよ。ポリドールでレコーディングをし始めた頃、担当ディレクターから当時「ステージ101」に出ていた黒沢裕一さんに曲を提供してくれないか、と話がありました。担当の若手ディレクターも新しいタイプの作品を求めていたこともあって、眼の前にいる若手に頼んだのでしょう（笑）。ちょうどチリの音楽祭で発表した曲があったので歌って頂きました。そのシングルのB面用に書き下ろしたのが作詞作曲した「傷心旅行」で、デビューの半年前だったわけです。だから、自分は唄うということを活動の前提に置いていたわけですが、出発は作曲だったということで、運命的なものを今となっては感じますね。

―― アレンジャーとしてのお仕事はいつから。

林　アーティスト・デビューはしたものの、最初はもう本当に仕事がなくて……。ただソロ・アルバムを

CamScannerでスキャン

出したことで、他の音楽関係者から、こいつ何か新しいもの持ってるな、みたいな感じで少しずつ仕事が舞い込むことも出てきました。新しい作家を求めて起用してくれたのがPMP（現・フジパシフィックミュージック）だとか、後にキティレコードを立ち上げるポリドールの多賀（英典）さんでした。当時の音楽シーンはまだまだ歌謡曲が主流ですから、作曲というよりサウンドに新しさを求める傾向からアレンジの依頼の方になっていってしまうんですね。しかし多賀さんのような実績あるディレクター・プロデューサーが起用してくれると作家としての信頼が高まり、周りにいる人たちも僕を使ってみようかな、という広がりが出てくるんですね。あるいは、それが筒美京平さんだったりすると。京平さんに起用されるアレンジャーだから、となってまた他の人からもアレンジを持ち込まれたりして広がっていくわけです。ということで最初はアレンジャー林哲司です（笑）。

――75年には、太田裕美さんの「袋小路」や「ひぐらし」にも参加されていますね。

林 ユーミンの曲のアレンジですね。ソニーに白川隆三さんというヒット・メーカーのディレクターがいて、京平さんとの仕事の流れなどで段々アレンジの間口が広がっていきました。同時に現場を踏むことによって少しずつですが作曲する場面も出てくるようになっていきます。

――布施明さんの仕事も数多く手がけていますが。

林 布施さんの場合は渡辺音楽出版との繋がりで関わるようになりました。布施さん自身が作品を書き始めた時期でしたが、とても素朴なメロディだったのでアレンジでかなり変化を施したんです。そうしたら布施さんがとても気に入ってくださって、1年間ほどお抱えアレンジャーみたいな形でお付き合いしました。当時宝塚に初めて入った男性ということで、「すみれの花咲く頃」のような宝塚オリジナルの楽曲、それを布施さんがすべて自分で唄うことになったんです。その企画アルバムに際して、オリジナルからかけ離れた全く新しいアレンジを施しました。そうしたらTVで「初めて女の園に男が入った！」とニュースになり、「もしこのアルバムが評価されるのだったら林哲司のおかげです」というようなことを布施さんが言ってくれたのが嬉しかったですね。それでアレンジから作曲も手掛ける機会を頂くことになっていきました。次第にアレンジャーから作曲家へ、という次元になっていきました。

海外での作家活動を目指した時期

―― この時期、ジグソーに「If I Have To Go Away」という曲を提供されています。

林 あれは当時、新しい日本のポップスを書く作曲家として、フジパシフィック音楽出版（PMP）の方々が自分を評価してくれていたんですね。当時僕はキティ・ミュージックの契約作家でしたが、当時のキティは井上陽水、小椋佳に代表されるように、ちょっと僕のテイストとは違う音楽組織でした。なんとなく自分のいる場所ではないのかな、という感じがして、活動を別の場所に求めていくことになっていったんだと思います。だから当時としては、いちばんポップスにアンテナを張っていた会社である、PMPの方で作品を発表し始めることになったんですね。PMPの方でも、日本の作品をいつかは輸出したい、という意識を朝妻一郎さんや笹島斌さんたちがもっていたわけです。ポップスで育ち影響を受けてきた自分ですから、それは大きな夢ですよね。それで自分がメロディ書いて外国人の作詞家に詞を書いてもらい、ラジオ収録が空いたスタジオでデモテープを制作しました。「If I Have To Go Away」はそのうちの1曲ですね。そこで歌を入れてくれたのが、デビュー前の大橋純子なんです。

―― なんと贅沢な。

林 ヤマハ時代からの友人ですし、英語の発音もいいし唄も巧い。最高のデモ・テープになりました。ジグソー側からアルバムの1曲になることは

CamScannerでスキャン

聴いていたのですが、まさかシングルになるとは思っていなくて。(シングルに) 決まったという話は肝心のPMPも知らなくて、僕は「新譜ジャーナル」という雑誌の人に聞かされました (笑)。

―― 向こうの人も向こうの音楽として聴いてくれた、ということですよね。

林 自分はやはりオリジナル曲を海外で発表したいという思いがあり、レコーディングでロスに同行させてもらった機会に、紹介状持参で音楽出版社をいくつか訪ねました。自分の曲を売り込んだんですが、面談してくれたもののそっけない態度でした。それで亀淵 (友香) さんが唄ってくれたデモ曲だったと思いますが、そのアレンジとメロディ・スキャットを聴いた瞬間に社長の態度がガラリと変わりました。机に投げ出していた両足を収め、立ち上がり「グレイト!」と言って握手を求めてきました (笑)。そこで初めて、アメリカでも自分の曲は通用する、と実感できました。ジグソーでそういう結果になったのは凄く嬉しかったんですけど、でも当時の僕たちの感覚ではアメリカはまだ遠かったですね。まさに"遠いアメリカ"でした。向こうで活動するのは強い決意が必要だった。今は後悔してますけど。行ってたら1、2曲はチャートに入っただろうと。そういう思いはあるんですが、やっぱりそれは時代の所為かもしれないし、行っていたらこちらでのヒットは生まれていなかったかもしれない。生活の舞台を向こうに持って行くことの踏ん切りがつかなかったんですね。

―― 洋楽ではないですが、洋楽的なものを作るという意味で、イースタン・ギャングのお仕事も印象に残ります。

林 あれはビクターの、ハッスル・ホンダさんの発案です。僕とタッグを組む前に、彼は筒美京平さんとオリエンタル・エクスプレスをやってヒットを出していました。

新しいプロジェクトを進めるにあたって、洋楽的なメロディ、サウンドを構築できる作家として僕に白羽の矢を立てたのだと思います。僕にとっても凄くいい経験でした。「踊る」ということは人間の本能ですからね。歌い、踊るということは、太古の昔から祭りがあり、いつの時代にでも形を変え継承されていくことですから、それをリードする音楽を担うことはこちらもワクワクします。そういう意味で本多さんに連れ回されてディスコ見聞をしたことはとても貴重な経験でした。六本木と新宿では踊りに反応する曲が全く異なるとかね。

―― 六本木は割とサーファー・ディスコ的で。

林 そうです、スノッブなんですよ。新宿はもっとわかりやすい、「ジンギスカン」とか「ハロー・ミスターモンキー」とか (笑)。僕は踊らないんだけど、フロアの片隅で見ていて、どういう曲で人がダンスフロアに出て行くとかがわかるんですよ。「キックの4ツ踏みは絶対止めないで」、と本多さんはいつも言ってましたね。曲がブレイクしてもそこで鳴っている感覚が欲しいと。変なブレイクの仕掛けしちゃったらそこで踊りがズレちゃって、踊れなくなる論理があるんです。それは近年の曲、それこそEDMでも絶対にありますよね。何かを残す、パーカッションだけでも残すとか、ハイハットの刻みだけでも、とか。それは当時とても勉強になりました。あとはキャッチーなフレーズを必ずどこかに置かなければいけない、とか。バカバカしくても、誰の耳にも残るフレーズですよね。それは自分の中に残りました。フレーズなんだ、と。ディスコの曲に関しては、構成というか、1曲ホールドしたものとして強く考えなくても、どこかインパクトのあるものがあれば成り立つ、ということですよね。そういう勉強をして……非常に参考になりましたね。

大橋純子、竹内まりや、松原みき
日本のポップス黎明期での活躍

―― 初期の作曲では大橋純子さんの「キャシーの噂」があります。

CamScannerでスキャン

林 洋楽の影響を受けた日本のポップスというの
は、いつの時代でもあったとは思いますが、当時、
僕たち世代が感じるポップスは少なかったよう
に思います。僕たち世代のポップスを歌う歌手が
いなかったんですね。ユーミンのようなシンガー・
ソングライターは別として、竹内まりやが出てく
るまでは、大橋純子や矢沢エイコくらい。他には
[illegible]ポップスっぽくするとか、そうい
[illegible]なので作曲の需要がないわけです（笑）。
[illegible]には需要がありましたが、メロディ的に
[illegible]ものはまだ求められていなかった。
[illegible]くしても中身は従来の作曲家の方々で
[illegible]ているというような感じで、ちょうどターニ
ング・ポイントのような時期でした。まず僕らの
[illegible]から大橋純子さんがアーティストとして躍り
[illegible]。鳥山雄司や土屋昌巳がいた美乃家セントラル・
ステイションが結成され、ヤマハ時代の仲間がサ
ポートしていましたね。あとは作詞家の竜真知子
さんとかでしょうか。今振り返ると僕らの青春時
代でしたね。公園通りにPARCOができた当時、
[illegible]の前に「ララ」という夜遅くまで開いて
[illegible]があって、そこが僕ら若手音楽家の溜
まり場のようになっていて、みんなそこに集まっ
てきて、竜さんともそこで打ち合わせしてました
ね。竜さんはすでに横文字を入れるようなスタイル
をもう確立していました。90年代に渋谷系なん
て言葉が生まれましたが、若者が新宿から渋谷に
移ってきた初代渋谷系なのかもしれませんね（笑）。

——その頃、西田佐知子さんのアルバムに提供されていますよね。「ジャスミン・ティーとゴロワーズ」、すごく洗練された良い曲でした。

林 好きですか？ 僕も好きなんですよ（笑）。
僕は西田さんの声が好きなんですが、京平さん
[illegible]さんとディレクターの渡辺忠孝さんが西田さ
んを担当することになって作曲の依頼を受けま
した。西田さんで洋楽的なソフィスティケートさ
れたものをやりたい、ということになったんで
す。自分としては当時流行っていたフィラデル
フィア・ソウルの感じを出したかったんですよ。

——79年に作曲された竹内まりやさんの「SEPTEMBER」と松原みきさんの「真夜中のドア〜Stay With Me」、この2曲はかなり大きかったのではないでしょうか。

林 本当に自分にとってもベルエポックという感じでしたね。音楽シーンもまた新たな変革の兆しを見せ始めていました。この2曲、時代的には同時期ですが、作り方は全く違うんです。当然でしょうが、彼女たちの歌声、それぞれの個性に合づけられたポップスになりました。竹内まりやさんのような、まさにポップスを歌うべくした歌声のヴォーカリストには、いかにもシングル曲というような分かりやすいメロディを書きました。少し自分でも照れるくらいの……。それがアレンジと本人の歌によって、見事にポップスに仕上がっていくという一つの構図を見ることが出来ました。そして松原みきさんはまったく違う作り方で、もう本当に、洋楽を書いていいと言われて作ったんですが、日本語詞が入って、彼女独特の濡れた声質によって新しいポップスに仕上がっていく。また別の構図を見てどっちも勉強になったんです。メロディはわかりやすくて唄いやすいけれど、それを包むアレンジによって新しさを感じさせる、ということをアレンジャー時代に認識しましたが、「SEPTEMBER」はまさにその典型。もう1つの「真夜中のドア」は洋楽っぽいメロディでも日本語がはまるとまた新たな作風の日本の曲になるというロジックですよね。その2つが自分の中で確立できたような気がします。この2つのヒットによって新進作曲家というレッテルが貼られるようになるんですよね。もう業界にいて10年経っていましたが（笑）。

「歌」にならないものは
人の心を打つことはできない

——この2曲を皮切りに80年代に数々のヒット

CamScannerでスキャン

曲を生み出されるわけですが、まず、上田正樹さんの「悲しい色やね」についてお伺いします。関西弁のイントネーションがそのまま歌になっているような曲ですが。

林　この曲は最初アルバムの1曲として書いたものでした。シングルを決定したスタッフの英断が大きな決め手だったと思います。それから関西を舞台に描いた詞の力、そして上田正樹さんの個性的な歌の力が大きいと思いますね。ジョー・コッカーが「ユー・アー・ソー・ビューティフル」のようなバラードを歌ったように、上田さんのあの声質で、美しいメロディを歌わせる、それがアルバムの1曲だったらいいだろうというような感じで書いたんです。

——**当時のインパクトは凄いものがありました。**

林　僕も「泣いたらあかん」というフレーズを仕上がり前のデモで聴いて「これはあかん」と（笑）。自分の描いた世界からほど遠い作品になったと思いました。だから歌って、結局予定調和にしちゃうとダメなんですね。それでいいものができる場合もあるんですが、それぞれ別の個性がくっついて化学変化が起こって面白いものが出来る。普通あのメロディにああいう詞ははめ込んで書かない。いかにいいメロディであっても、あの詞とあの声でなかったら多分聞き流されていたでしょうね。

——**杏里の「悲しみがとまらない」はいかがでしたか。**

林　「SEPTEMBER」「真夜中のドア」、相反する作曲法のヒットにより、自分なりに作曲のロジックを捉えたものが結晶していく時期ですが、「悲しい色やね」で歌とは何なのか、ということを学ばされました。単にいいメロディがあってもダメなんだ。それにいい詞がはまり、いい作品があがる。そして最後は、歌が息吹を吹き込み作品を決定づける。まさにそれが歌。ヒット曲、人の心を打つものって「歌」にならないものはダメなんだということが分かりました。もちろんサウンドで面白くさせたり、企画性の高いものだったり、アピールポイントが別のところにある作品もありますが……。

それで自分の書くメロディの中にドメスティック＝日本人の琴線に触れる哀愁感、ということを意識したパーツを入れることにしたんです。どこで哀愁感を入れるか、テクニカルな面からも感情面からも曲の中に織り込むということを意識し始めたのが「悲しみがとまらない」辺りからでしたね。

——**この時期は康珍化さんとずっとコンビを組まれていますね。コンビネーションとしてはいかがでしたか。**

林　結果として相性はとてもよかったんだと思います。作家本人たちが切望してコンビを組んだというより、2～3のヒットの後は、ゴールデン・コンビとして周囲が求めて共作を続けていた感があります。だから今お話しした作品に関しても流れの中でセッティングされていた部分が大きいです。

——**中森明菜の「北ウイング」はいかがでしたか。**

林　の曲は杉山清貴＆オメガトライブがチャートに登場してきた直後の83年に書いてるんです。後から聞いた話ですが、明菜さん本人からオメガトライブを聴いて「この人に書いて欲しい」と進言があったとディレクターから聞きました。既にヒットを連発しているメジャー・アイドルを自分が継承して作品を提供する、っていうのは相当なプレッシャーがありました。「少女A」のツッパった女性像と「セカンド・ラブ」で見せたナイーヴな女性像があったと思うのですが、どちらにすればいいんですか？とディレクターに訊いたんです。そしたら「真ん中を行ってください」と。真ん中行ってくれというのは詞の世界ではあるかもしれないけど、作曲で真ん中ってどうすればいいのか難しくて（笑）。ボクの作曲はほぼ曲先行でしたから……。

——**たしかに、初めて中森明菜にニュートラルな感じを受けました。**

林　なんであああいった旅立つ詞になったか、これは後付けかもしれないですけど僕のアレンジ

CamScannerでスキャン

きっかけだったとディレクターから聞きました。アレンジには非常に神経を使いました……イントロなんてとても長いですよね。あとは当時の洋楽的な匂いを歌謡曲にどう入れようか、ということで、1番こだわったのはベース・ラインでしたね。ほとんど書き譜です。

―― イントロがあって前サビ、サビの後でまたちょっと長い間奏が入りますよね。

林　そこの弦の駆け上がりを聴いてディレクターは飛行機が飛び立つイメージを持たれたらしいですね。最初は「ミッドナイト・フライト」というタイトルだったらしいんです。それを明菜さんが「北ウイング」にしたいと希望されたと聞きました。僕ら作家は反対したんですが、今考えてみるとそれキャッチーだよね、直球だよね、と思えますね。

―― 曲を書かれてアレンジもされる際は同時に作るような形でしょうか。

林　いえ、曲をとにかく作って、という感じでした。もちろんサウンドが聴こえてくる作品作りもありましたが、ディレクターに納得してもらう作品を翌日までに作らなきゃいけない。まずそちらの方が先でアレンジを考えるのは後ですね。

ニューミュージックと遜色ないものをアイドルに歌わせる

―― 杉山清貴&オメガトライブと菊池桃子という存在は80年代の歌謡曲をポップス化したキーマンではないかと思います。

林　菊地桃子とオメガトライブとではもちろん作品作りは違って、まずオメガトライブの場合、シングルはかなり分かりやすさを意識しました。アルバム曲は自分のやりたいことをやっていたという感じでしたね。このバンドに関しては自分が今やりたいものを書いていればそれでアルバムができあがるんだと思っていたので、僕もバンド・メンバーのような意識で作品を書いてましたね。

―― 林さんの曲は洋楽的ですが、決して日本人が聴いていて音がとれないメロディではない、大変聴きやすいものですよね。

林　そういっていただくとすごく有り難いのですが、唄うと難しいって言われるんですよ（笑）。

―― たしかに、カラオケで素人が唄うには非常に高度ですよね。

林　そういう面では確かに歌手泣かせですね。ただその音の取り方って自分の個性だと思いますが、いままで好んで聴いてきた洋楽の影響が多分にあると思います。例えばバート・バカラックとかね。僕が学んだ音楽スクールでは、セオリーとしてメロディがテンションをとる音の飛び方はあまり良くない、という教え方をされたんです。でもバカラックのメロディを聴いているとそういう飛び方あるの!?みたいな。そういう彼のナンバーを聴いてると気持ちいい、そういうメロディの飛び方の感性を持っているのかな、という気がします。多分、ユーミンなんかもそうだと思いますが、そういうメロディの感性を持った作家なんですよ。結局は音に酔うナルシシズムですから、作品を書くという行為は。

―― オメガトライブのように、継続して書いていくといろいろ苦労もあったのではないでしょうか。

林　最初の「SUMMER SUSPICION」が36万枚のヒットになりましたが、次のシングル（「ASPHALT LADY」）で6万枚になっちゃって。「ASPHALT LADY」は大衆に媚びたドメスティックな作品になりすぎていた。その差30万人はどこいっちゃったんだ、という疑問にぶち当たるんです。これはありがちなことですが、杉山清貴&オメガトライブが認知されていたわけじゃなくて、「SUMMER SUSPICION」という楽曲が認知されていたということですよね。そこを見誤っていて次の曲では彼らについてこなかった。そこの問題を解消しなきゃいけない、ということで満を持した3作目「君のハートはマリンブルー」を書いたんです。

―― それで「ふたりの夏物語 −NEVER ENDI

NG SUMMER-」などに繋がっていくと。
林　初夏のキャンペーン・ソングということで2月にレコーディングしました。CMソングというのでかなり急がされて、スタジオの中で作品を待ってるクライアントがいる状態でやりました。一日で作って一日でアレンジし、一日でレコーディングをしたという、最短で作り上げた曲ですね。皮肉なことにいちばん売れた曲になってしまったわけです。だから力を入れれば売れるっていうことでもないんですよね（笑）。

―― その一方で菊池桃子さん、出てきたときは典型的なアイドルでしたが、曲は従来のアイドル・ポップスではなく、いわゆるシティ・ポップに思えました。

林　オメガトライブもそうですが、菊池桃子の場合もプロデューサーの藤田浩一を軸としたプロジェクトで、その中で僕が作曲を担っていたわけです。従来のアイドルじゃないものを作りたい、という思いが藤田さんにはありましたね。それが僕ら作家の作風と結果的にコンセプトが一致したというところだと思います。僕は僕で、日本のアイドルの音楽にも、キラキラした曲ばかりでなく、もう少しナイーヴなものがあってもいいと思っていたんです。詞の世界にも共通することですが、1人の女の子としてスポットライトから外れたときに感じる部分、寂しかったり、悲しかったり、一人の女の子としての実像をきちっと描きたかったんです。だから当時の呼称で言うところのニューミュージックと遜色のないようなものをアイドルが唄えばいいじゃないか、と。そこでプロデューサーの思惑と僕の考えが一致してそこに彼女のハスキーで声量のない声質が、僕の持っている世界観と上手く一致したんじゃないか、と思います。ヘタウマ？　それはフレンチポップスに通じるようなところかもしれませんが。

―― 音域とかも苦労されましたか？

林　正直、音域がないんですよね。それを解消したのが楽曲の中の転調だったんです。小室哲哉さんの作品以降って転調は当たり前じゃないですか。でもあの当時の楽曲で転調するものはあまりありませんでした。盛り上げるための策として、音域がないものをどうやって聴かせるかで、そこを転調することによって解消し変化を与えているんです。

―― 80年代の楽曲制作のプロジェクトについては、どう思われていましたか。

林　例えば竹内まりやさんなんかの場合は、ディレクターの宮田茂樹さんとどんなものやろうか、などと話し合うわけです。たとえばオールディーズっぽいものだとか、一緒になってブレインストーミングしながら1つのものを作っていく良さが当時はありました。今みたいにコンペ形式でデモ作品を提供するところで終わってしまう、作品の作り手が知らないところで作られるのではなくて、打ち合わせの場で、プロデューサーも彼なりに意見を持っていて、作家サイドからも意見が出される。まったく白紙の状態からはじまって、それが今度は音の現場になっていくプロセスを、苦しくも楽しめた時代があったと思うんですよ。それが今は、ひどい時には顔も知らないディレクターに作品を提出し、気に入られたら使われ、気に入られなかったらそれで終わり、という現実があります。ちょっと現場があまりにも違いすぎるのかなと思いますね。ある意味今の人たちって自分だけの世界で作っていて、それが採用になるかならないかだけでしょ？　チームとして1つのものを作り上げようっていうことがあって、だからこそヒットしたときに共通の喜びがあったり、そのプロセスで仕上がっていくことに対して、こんなカッコいい曲になったんだ、とか良い作品になったね、という喜びをみんなで共有する良さがあったと思うんです。一概に時代でまとめられるわけではないですが、僕は明らかに過去の時代の方が、音を愉しむという意味でよかったなと思います。

映画音楽の仕事について

――「ハチ公物語」「刑事物語」など、映画音楽も

CamScannerでスキャン

なさっていますが、ジャッキー・チェン映画の日本語版も何作かやっていらっしゃいますね。

林　あれをやった理由はオリジナルの中国版の音楽があまりにもひどかったからです（笑）。中国的古典劇伴という感じで、東映の担当者がこれをこのまま出しても音楽の影響でマイナスに作用するという判断をしたんです。最終的に日本サイドで劇伴を入れ替えて主題歌を出すことになりました。つまり音楽に関しては日本版リメイク、まるまる中の音楽を差し替えているわけです。ここのシーンにこの音楽を入れる、というのは通常監督が決めるんですが、その代わりに日本版の音楽担当者がそれを担い日本公開版とするわけです。その方がジャッキー・チェンが日本ではカッコよく映るわけです（笑）。

―― なかなか例のないお仕事ですよね。一度付けたものに改めて付け直すというのは。

林　明らかに日本マーケットを意識しているんですが、実際に主題歌として書いたものはイメージ・ソングとしてヒットを狙い、チャートには入ったような記憶があります。

―― 映画音楽とポップスではまったく作り方が違いますか。

林　違いますね。映画音楽にこだわっていたのは、僕らはラジオのチャート番組やリクエスト番組に育てられ、あらゆるカテゴリーの音楽がヒット曲として番組の中に混在していました。もちろん映画音楽に影響されたし、映画そのものも大好きでした。そんなことから映像に対する音楽のあり方は自分もこだわりがありました。

60年代の日本ではバート・バカラックとフランシス・レイが映画音楽作曲家として人気がありました。2人の作風は全く違い、片方はメロディ・モチーフを連携して、片方はどんどん新たなモチーフで流れていくというタイプでした。アレンジも含めて非常に学ぶところが多かったですね。それからもう一つは、確かに日本の作曲家でもメロディ・メイカーはいると思うんですが、自分の作品をどう包むか、アレンジも含めて表現することが大事だとも思っているんです。中世は作曲家というのはアレンジまで含めて出すことが役割でしたが、今は分業化してしまいましたよね。それはそれで違った人の個性も加味され面白くもあるんですが、自己表現の延長としてオーケストレーションを極めることもまた面白いですよね。勉強しなければいけないことは今でもいっぱいあります。

―― 最近のお仕事でアニメの『少年ハリウッド』について伺いたいのですが。

林　アニメに関しては、主題歌は今までも『ドラゴンボール』『キテレツ大百科』とか何作かやらせてもらったんですが、劇伴からどっぷり浸かってやった経験はなかったんです。自分の引き出しとしてそういうことをやるのも大事なのかな、と思ってやったんですが。アニメのストーリーがアイドル・グループを作るという話だったので、ワン・ダイレクションとか、一昔前のテイク・ザットだとか、そういうものをイメージしながら作品作りをやってました。このプロジェクトから派生したコーラスまでしっかりできるボーイズ・グループを作りたいんですね。カッコいい曲をやりたいな。

―― それまで男性アイドルにはほとんど関わられていなかった印象があるので、珍しいと思ったのですが。

林　自分では意識してないですが、なぜか女性の方が多くなるんです。それはディレクターの人が僕に感じてくれているテイストなのかもしれませんね。自分で言うのも何ですが、僕って中間色系なんですよ。たとえば悲しい曲といわれても、どマイナーではなくて、メジャーの中で哀愁感を出していくとか。自分の好みもそうですが、楽しくてもどこかにセンチなところが感じられるような作風が、個性として皆さんに映っているのかな、と感じています。

CamScannerでスキャン

林 哲司

メランコリックな哀愁味と中間色のメロディ・ライン

林哲司の携わる楽曲は、程度の差こそあれとても洒落た作風のものが多い。私事で恐縮だが、筆者が林を初めて認識したのは中学1年生の時。太田裕美の3枚目のアルバム「心が風邪をひいた日」(1975年12月5日ソニー）に収められている「袋小路」「ひぐらし」のアレンジャーとしてだった。林の担当した楽曲はいずれも荒井（現・松任谷）由実が作曲している。他の曲は筒美京平が殆ど書いており（他に萩田光雄、佐藤健、太田自身が一曲ずつ書いている）アレンジはいずれも萩田が担当している。太田のアルバムとしてはまだ方向性を模索していた頃。かなり歌謡曲色が強いアレンジが主だった、がその中で林がアレンジを担当した2曲はその後の太田の音楽的方向性（洗練されたニューミュージック風味とでも言おうか）を示したものとなっている。特に「ひぐらし」はアル・クーパーを思わせる（羽田健太郎と思われる）パワフルなピアノや随所で出てくるスライドのツイン・ギター。基本パターンはあるものの楽曲が進むごとに細かく変化していく各楽器のフレーズ等、当時の邦楽としてはかなり画期的なことを行なっていた（恐らくヘッド・アレンジで、基本的なキメ以外は参加ミュージシャンのフィーリングで演奏しているものと思われるが）。今にして思えばアメリカは西海岸のサウンドの影響が色濃いと分かるのだが、とにかく田舎の中学1年生にはとても新鮮に、そして洒落て聞こえて何百回も聴いたものだ。

閑話休題。アレンジャーとしての林の代表曲というと、しばたはつみの「マイ・ラグジュアリー・ナイト」ということになるだろう。「ひぐらし」は基本的にシンプルなアレンジだったが、こちらは頭からストリングスで始まるゴージャスなもので、やはり"お洒落"なサウンドに仕上がっている。そして、「ひぐらし」も「マイ・ラグジュアリー・ナイト」もどちらかというとアメリカっぽいサウンドであることは注目に値する。実際、林はもちろんビートルズ等イギリスの音楽の影響も大きいと思われるが（林は後に「悲しい色やね」を書く上田正樹がネム音楽院の音楽室で「レット・イット・ビー」の弾き語りをしていたのに感動し、「ビートルズが好きなの?」と話し掛け意気投合したと語っている）基本的にアメリカン・テイストをもった作品を（作曲にしてもアレンジにしても）得意とする。

林は1949年8月20日に静岡県富士市に生まれる。小さい頃から兄の影響で米国のポップスを聴いて育ったという。20歳の頃ヤマハが主催する音楽スクール（同スクールには、萩田光雄、船山基紀等も通っていた）に入学し、その後ヤマハが出版していた音楽雑誌「ライトミュージック」の編集等に携わる。林の著書「ポップス作曲講

text：岩切浩貴

座 ヒット曲の作り方教えます」(発行元・シンコーミュージック・エンタテイメント)には"1972年チリ音楽祭をきっかけに、翌年シンガー・ソングライターとしてデビュー。以後作曲家としての活動を中心に作品を発表。洋楽的なポップス・センスをベースにしたメロディやサウンドは、いち早く海外で高い評価を得て、UKポップ・ロック・グループ、ジグソー(プロレスラーであるミル・マスカラスのテーマ・ソング「スカイハイ」で有名)に提供した「If I Have To Go Away」が全米チャート、UKチャートをはじめ欧米でヒット。その後舞台を日本に移し、80年代の音楽シーンに数々のヒット曲を送り込む"とある。この中ではジグソーに提供した楽曲が英米で受け入れられたということが特筆に値する。この件で自信をつけたのか「If I Have To Go Away」がヒットした1978年の翌年、1979年には竹内まりやの「セプテンバー」、松原みきの「真夜中のドア」という林の名を一躍世に知らしめる2曲を書いている。そして1980年代に突入してからは上田正樹の「悲しい色やね」、杉山清貴とオメガトライブの「二人の夏物語」等々数々のヒットを飛ばす。

そんな林の楽曲の特色を林自身は"中間色的な曲調にある"といっている。中間色的な曲調とは、メジャー・キーの曲の中でもどこかマイナー感を感じさせる曲調のこと。「真夜中のドア」等でこの手法は用いている。林にとってこのマイナーな感じ、いわゆる"哀愁色"を曲のどこかにもりこむということは日本人の感性に訴えかける作品を作りやすいという意識があるようだ。実際「ヒット曲の作り方教えます」の中で、杏里の「悲しみがとまらない」に関して"このサビにはこだわったポイントがあります。(中略)僕は常々日本人のメランコリック好きな気性を感じていたので、哀愁感を感じさせる部分を曲に盛り込みたいと思っていました"と語り、洋楽だったらB#m7→F#m7となるのが一般的なところをF#m7をしようするところにあえてC#7を用いドメスティックな哀愁感を表現したとしている。そして実際、林の曲には明るい曲調なのにどこか哀愁を感じさせるものが多い。スタイリッシュな洋楽センスを持ちながらそこに微妙な匙加減でドメスティックな感覚を持ち込むのが林の曲の特徴といえるだろう。

そんな林だが、実は"哀愁感"を色濃く出した、いわゆるマイナー調の曲にも勝れた楽曲が沢山ある。面白いことにそれは何故だか青春を描いたものが多い。菊地桃子の「青春のいじわる」(作詞・秋元康)、酒井美紀の「永遠に好きといえない」(作詞・売野雅勇)等がそれだ。

「Back Mirror」
林哲司

シンガー・ソングライターとしてのセカンド・アルバム。現在ではライト&メロウの名盤として評価が高い

CamScannerでスキャン

康珍化 × 林哲司

CBS・ソニー／1982年10月21日

悲しい色やね

上田正樹

作詞：康珍化
作・編曲：林哲司
B面：Night Train to the Sky

上田正樹とサウス・トゥ・サウス等で日本屈指のソウルフルなシンガーとして知られていた上田。そんな彼に林はカナダのバンド・スカイラーク（デヴィッド・フォスターが在籍）の「ワイルドフラワー」にオマージュを捧げつつ、そこに日本人好みの哀愁を薄く加えた「悲しい色やね」を提供したのだ。上田の代表曲となった。林自身は関西弁の歌詞が付いたことに違和感を感じていたようだ。

フォーライフ／1983年11月5日

悲しみがとまらない

杏里

作詞：康珍化
作曲：林哲司
編曲：角松敏生、林哲司
B面：Remember Summer Days

「オリビアを聴きながら」でデビュー以降、基本的に一貫してアメリカ的なサウンドを歌い続けた杏里。そんな杏里の初のナンバーワン・ヒット「CAT'S EYE」（同名アニメの主題歌）の次に発売されたのが「悲しみが止まらない」。ソウル・ミュージックを意識しながらも林らしく若干ドメスティックな要素を加味。ある意味下世話ですらあるのだがそれが逆に耳に残る感じとなっている。アレンジは林と角松敏生が行っている。

ワーナー／1984年1月1日

北ウイング

中森明菜

作詞：康珍化
作・編曲：林哲司
B面：涙の形のイヤリング

「少女A」に続く「セカンドラブ」が首位になって以降、出す曲全てが1位と絶好調が続いていた中森明菜が、自らライターを指名して作られたのが「北ウイング」。洗練された楽曲を得意とする林だが、それまでの明菜の中で一番歌謡曲テイストの高い楽曲を提供（それまではバラードかロックに二別できた）。とはいっても林なので、当然品は保っており、結果、"歌手" 中森明菜の魅力を前面に押し出した1曲となった。

徳間ジャパン／1984年5月5日

パジャマ・じゃまだ！

成清加奈子

作詞：康珍化
作曲：林哲司
編曲：椎名和夫
B面：おしゃれフリーク

成清加奈子のデビュー曲。当時大人気だったアニメ「うる星やつら」のオープニング。同番組の主題歌といえば小林泉美作曲によるおもちゃ箱を引っ繰り返したような「ラムのラブソング」が印象に残るが、成清の「パジャマ・じゃまだ！」も、林の書く浮遊感のあるメロディ、元ムーンライダーズの椎名和夫による途中に一瞬変拍子が入る遊び心のあるアレンジ、そして成清の可愛いヴォーカルもありキュートな作品に仕上がっている。

キャニオン／1984年7月5日

くちびるから サスペンス

岩崎良美

作詞：康珍化
作・編曲：林哲司
B面：Manhattan Morning

時代に恵まれなかった歌姫・岩崎良美。初期文芸路線は、完成度は高かったが、ニューミュージック以降のサウンドに移行しつつあった日本のポップスからはずれていた。その後尾崎亜美、加藤和彦等による歌謡曲、ポップス、ロックの枠組みにとらわれない作品群をリリース。「くちびるからサスペンス」はそんな良美の絶頂期の作品。ある種凄味のある洗練を聴かせてくれる。この曲の他も彼女の康ー林コンビの楽曲はどれも一聴の価値あり。

xt：岩切浩貴

CamScannerでスキャン

RCA / 1979年8月21日

SEPTEMBER

竹内まりや

作詞：松本隆
作・編曲：林哲司
B面：涙のワンサイデッド・ラヴ

竹内まりやはデビューから2曲続けて作曲・加藤和彦、作詞・安井かずみによる作品をリリース。アメリカン・オールディーズのテイスト香る作品を歌っていた。林の「SEPTEMBER」は、その路線を踏襲しつつも若干同時代（1979年）向きにアップデイト。当時のアメリカ西海岸サウンドを思わせる林自身によるアレンジ。松本隆のいかにもキャンパス・ソングといった歌詞もあり、当時現役の大学生だったまりやにぴったりの曲。

キャニオン / SEE-SAW
1979年11月5日

真夜中のドア

松原みき

作詞：三浦徳子
作・編曲：林哲司
B面：そうして私が

松原みきのデビュー曲。彼女はジャズ・シンガーの母の影響で高校時代から大阪のライヴハウスで歌い、上京後世良譲に見いだされるという実力派。林はその松原にキャロル・ベイヤー・セイガーの「恋をしましょう」にインスパイアされたジャジーな曲を提供。実力を垣間見せながらも過剰に歌いすぎない松原。松原正樹（ギター）等のミュージシャンのタイトなバッキングもあり国内AORの最高峰の一つとなっている。

ワーナー / 1984年2月22日

してみたい

中川勝彦

作詞：嶋崎政樹、
松尾由紀夫
作曲：林哲司
編曲：白井良明
B面：愛じゃない

夭折したシンガー中川勝彦（中川翔子の父親）のデビュー曲。本田恭章と並ぶ耽美系美少年として人気だった中川のデビュー曲は、当時流行っていたデュラン・デュラン等のニュー・ロマンティックを意識しており、ムーンライダーズの白井良明によるアレンジもかなりそれ風。林の書いた曲はかなり淡泊な作りで、それが透明感のある美少年であった中川のイメージにぴったりと当てはまりさらりとしながらも味のある曲となっている。

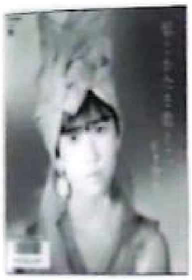
バップ / 1984年4月21日

青春のいじわる

菊池桃子

作詞：秋元康
作・編曲：林哲司
B面：MAY SICK

雑誌「Momoko」のイメージ・ガールだった菊地桃子のデビュー曲。林の提供した曲は、菊地の持つ柔らかい声質を活かしたもので、マイナーな曲調でありながらどこか温かみがある作風となっている。秋元康のほぼ最初期のヒット曲だが、“青春”と“いじわる”というどこか違和感がある言葉を並べてタイトルにする手法は、その後の彼の作品（乃木坂46の「ぐるぐるカーテン」「おいでシャンプー」等）でも多用されている。



ビクター / 1986年8月5日

信じかたを教えて

松本伊代

作詞：川村真澄
作曲：林哲司
編曲：船山基紀
B面：きれいな涙

“情景”を見せるという意味では、松本伊代ほど歌でそれを表現できる歌手は少ないのではないのだろうか？（上手いという意味ではない）。それはデビュー曲の「センチメンタルジャーニー」から一貫している。「サヨナラは私のために」は“サヨナラ三部作”と呼ばれる作品群の1曲。林は淡々としたシンプルなメロディを提供しているが、それが歌詞の持つ繊細な世界観に合致。加えて松本の歌唱により心に染みる。

text 岩切浩貴

CamScannerでスキャン

佐瀬寿一

日本最大のヒット曲「およげ！たいやきくん」の作者

シングルで国内最大の売り上げ記録を保持している作曲家こそが佐瀬寿一だ。子門真人「およげ！たいやきくん」となぎらけんいち（なぎら健壱）「いっぽんでもニンジン」（75年）の両A面シングルは、オリコン調べにて累計454万枚の大ヒットとなり、ギネス・ワールド・レコーズから「日本の最も売れたシングル・レコード」に認定された。発売から40年以上たった現在でも不朽の記録として破られていない。

佐瀬寿一は、1949年3月30日千葉県勝浦市出身。日本大学芸術学部在学中、ギタリストとしてバンド活動中にピオニーズ「消えた想い出」（69年）で作詞・作曲家デビュー。72年に竹尾智晴（現：中尾隆聖）に「あこがれ」（「たたかいのうた」のB面）を提供したのをきっかけに、自ら歌手として「俺は今」でデビュー。当時は、ネム音楽院に通い、村井邦彦や森岡賢一郎に作曲や編曲を学んでいた。74年に、ずうとるびに提供した「みかん色の恋」が約15万枚のスマッシュ・ヒット、人気作曲家に。同年からはテレビ『ひらけ！ポンキッキ』の楽曲も担当。なぎらけんいち「いっぽんでもニンジン」（75年）、「ママの右手は魔法の手」（76年）、子門真人「およげ！たいやきくん」（75年）、「ホネホネ・ロック」（76年）、のこいのこ「パタパタママ」（76年）、若子内悦郎「パップラドンカルメ」（78年）、フーコ（藤本房子）「サンデーパパ」（79年）など、子供にもわかりやすいキャッチーでポップなメロディ・ラインを活かした楽曲を多く手がける。歌謡曲作品でも、山口百恵「パールカラーにゆれて」（76年）が日本レコード大賞作曲賞ノミネート、松崎しげる「ワンダフル・モーメント」（79年）が東京音楽祭銀賞、新沼謙治「幸せの坂道」（89年）が古賀政男賞受賞。ほか、山口百恵「赤い衝撃」（76年）、キャンディーズ「暑中お見舞い申し上げます」（77年）、小柳ルミ子「思い出にだかれて」（77年）、片平なぎさ「私のいちばん美しい時を」（77年）、畑中葉子「後から前から」（80年）などを提供した。

80年からは、茅蔵人のペンネームも平行して使用。火薬とランドの合成語で、爆発するような危なっかしい名前をイメージしてつけられ、たいらいさお「トライダーG7のテーマ」（80年）やパワーズ「領収書」（89年）などを提供した。自らがビックリ・エレクトリック・カンパニー名義で制作した「おふろのかぞえうた」（80年）では、テクノに最接近。児童音楽でありながらもザ・バグルズの影響を感じさせ、80年代の『ひらけ！ポンキッキ』を代表する楽曲となった。09年にはアンクル☆させ名義で、『みんなのうた』の加藤清史郎&アンクル☆させ「かつおぶしだよ人生は」を担当した。

text：ガモウユウイチ

CamScannerでスキャン

CBS・ソニー／1976年9月21日

パールカラーにゆれて

山口百恵

作詞：千家和也
作曲：佐瀬寿一
編曲：船山基紀
B面：雨に願いを

「横須賀ストーリー」に次ぎ3作目のオリコン・シングル・チャート第1位を獲得、自身初のオリコン初登場1位でもあり、約47万枚を売り上げた。8ビートを基調としているが、ギターのカッティングは16ビート。フュージョンというよりクロスオーヴァーと言った方が合う、洗練されたサウンド・プロダクションの中、淡々とした山口百恵のヴォーカルとのバランスがユニーク。次作の「赤い衝撃」も佐瀬寿一が作曲を担当した。

キャニオン／1976年6月25日

ホネホネ・ロック

子門真人

作詞：喜多條忠
作曲：佐瀬寿一
編曲：馬飼野康二
片面：パタパタママ

「およげ!たいやきくん」（75年）の大ヒット後にリリースされた子門真人のシングル。前作同様『ひらけ！ポンキッキ』挿入歌だが､高中正義のリード･ギターなど、大人が聴いても楽しめるサウンドだ。「およげ！たいやきくん」の二番煎じを狙わず、全く違った曲調なのも攻めている感じが伝わってくる。カップリングはのこいのこの「パタパタママ」で、A面B面の表記は無く、それぞれに「片面」と記述されている。

CBS・ソニー／1977年6月21日

暑中お見舞い申し上げます

キャンディーズ

作詞：喜多條忠
作曲：佐瀬寿一
編曲：馬飼野康二
B面：オレンジの海

「やさしい悪魔」に続き、2作品連続オリコン・シングル・チャート・ベスト10入りを果たした楽曲で、最終的には最高第5位まで上りつめた。彼女たちの明るさを象徴するようなメジャー・キーのポップ・ロック・ナンバーで、「ワォ」や「ウッフン」などのメロディに同化した掛け声や、ウクレレによる間奏など遊び心満載のサウンド。常富喜雄が作曲した没ヴァージョン、「暑中お見舞い申し上げます Part 2」もある。

東芝／1977年10月20日

私のいちばん美しい時を

片平なぎさ

作詞：藤公之介
作曲：佐瀬寿一
編曲：矢野立美
B面：田園調布の喫茶店

同じホリプロの山口百恵が出演していた『赤い』シリーズと対になっていた『白い』シリーズのドラマ『白い波紋』（77年）主題歌。主演の片平なぎさの11枚目のシングルで、オリコン・シングル・チャートは最高第82位に留まった。マイナーのフォーク調のAメロから、サビでは平行調のメジャー・キーへ移調。そしていつしかマイナー・キーへ戻っているという、明るさと暗さが同居した独特の楽曲で、佐瀬寿一の隠れた佳曲。

ビクター／インビテーション
1979年9月25日

WONDERFUL MOMENT

松崎しげる

作詞：三浦徳子
作曲：佐瀬寿一
編曲：小笠原寛、植田芳暁
B面：BEAT SENSATION

松崎しげる主演のドラマ『噂の刑事トミーとマツ』（79年）の主題歌。平行調の移調を巧みに使用、パート毎にメジャー・キーとマイナー・キーが混在するフォーキーな名曲。オリコン・シングル・チャート最高第53位、約6万枚を売り上げ、同ドラマ主題歌で最も好セールスを記録した。コーラス・アレンジは、ザ・ワイルドワンズの植田芳暁が、コーラスは彼が在籍していたサーフ・ライダースが担当している。

text：ガモウユウイチ

澤廣明

ロックンロー

[illegible]名義でアルバム『CHANGES』、シングル「じゃじゃ馬ならし」（後に原順子がカヴァーする）をリリースしている。当時芹澤はすでに30歳。同年の月刊明星8月号にインタビューが掲載されている。そこではヤマハ・ギター・コンテストで日本一になったこと、CMソングを10年間で1,500曲歌っていたこと等が明らかにされている。掲載されている写真の芹澤はビシッとリーゼントを決め、「ムダないコードができてんですよ！ 今の連中はプロとアマの区別が全然ない！（中略）譜面も読めないヤツが音楽やるなんて、信じられないんだよねえ」と怪気炎をあげている。その発言及びルックスからいかにもロックンローラーという雰囲気で、後にチェッカーズ等で懐かしいロックンロールやロカビリー感覚の楽曲を提供するのもむべなるかなという感じだ。

もっとも、「じゃじゃ馬ならし」は基本ロックっぽいのだがどことなくスパニッシュな雰囲気も感じられる楽曲に仕上がっており、この当時から芹澤がロックンロールを核としながらも幅広い音楽性を持っていたことを窺わせる。

さて、ロックンロールというと芹澤が脚光を浴びる少し前にロックンロール・バンドである横浜銀蝿が一大ブームを巻きおこした。銀蝿、そしてそのファミリー（銀蝿一家）の岩井小百合やJohnnyの楽曲群は、今聴くと芹澤と近いものがある。とはいえ銀蝿は楽曲として余りにもシンプルすぎた感がある。そこに登場したのが芹澤だ。銀蝿の提示したロックンロールのアップ・トゥ・デイト版が芹澤と言ってもいいだろう。

芹澤は高校時代にバンド開始。プロとしては幼馴染の清須邦義（内田裕也とザ・フラワーズに在席していた麻生京子のバンド・麻生京子とブルー・ファイアのギタリストだった）達とグループ・サウンズのバンド「ザ・バロン」（1967年）を結成しギターを担当。当初は主に尾藤イサオのバック・バンドがメイン。1969年2月に独立してライヴ活動を行っていたが、同年6月にNHKの『ステージ101』に合格しメンバー全員が同番組内で結成されたグループ・ヤング101に在籍した。『ステージ101』は邦楽洋楽、マイナー・メジャーを問わず様々な上質な音楽を提供しつづけた伝説の番組だ。

その経歴からもわかるように芹澤の本質はロックンロールだが、CM歌手、そしてヤング101での活動が音楽性の幅を広げ、それが作家活動の幅を広げた。

ワーナー／1982年7月28日

少女A

中森明菜

作詞：売野雅勇
作曲：芹澤廣明
編曲：萩田光雄
B面：夢判断

中森明菜のセカンド・シングルとして発売され大ヒット。明菜人気を決定付けた。いわゆる百恵フォロワー的な楽曲ではあるが、百恵よりヘヴィーでルーズな音となっており“いかにも”といった感じではなく自然にロックした楽曲となっている。それは矢島賢による当時歌謡曲では珍しかったクォーター・チョーク等を使用したギターに負うところも大きい。突っ張った感じながらも、どこか哀愁味のある明菜のヴォーカルが光る一曲。

キャニオン／1983年9月21日

ギザギザハートの子守唄

チェッカーズ

作詞：康珍化
作曲・編曲：芹澤廣明
B面：恋のレッツダンス

「涙のリクエスト」（これも芹澤の作曲）でブレイクしたチェッカーズのデビュー曲。「涙のリクエスト」が、いわゆるオーソドックスなオールディーズ・タイプの曲だったのに対して、「ギザギザハートの子守唄」はスカのリズムを取り入れるなど比較的意欲的な作りを行っている。康珍化の描くどこかヒリヒリした歌詞の世界とあいまって、“青春”時代の持つ固有の行きどころの無さを見事に表現した楽曲に仕上がっている。

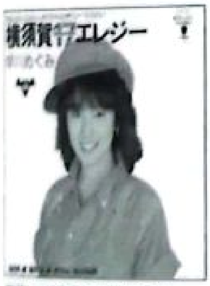
キャニオン／1984年7月18日

東京 sugar town

堀ちえみ

作詞：三浦徳子
作曲：芹澤廣明
編曲：大谷和夫
B面：I Love Youはパラシュート

デビュー時の鈴木茂アレンジによる楽曲郡をはじめ、鮎川誠の手によるロックンロールから、白井良明の手によるテクノまで様々なタイプの優れた曲を歌ってきた堀ちえみだが、素朴な世界観を歌った方がその歌が活きる。そういった意味で芹澤の提供した「東京Sugar Town」のようなシンプルな構造のオールディーズを意識したナンバーが一番ちえみらしいと言える。彼女はこの曲で自身唯一となる紅白歌合戦出場をはたした。



東芝／1985年1月19日

横須賀17エレジー

早川めぐみ

作詞：売野雅勇
作曲：芹澤廣明
編曲：中島正雄
B面：ROCK'N ROLL QUEEN

「踊るポンポコリン」でブレイクする前のビーイングが展開していた頭文字ヘヴィ・メタル歌手（HM、他に浜田麻理等）の中で一番アイドル的要素が強かった早川。「横須賀17エレジー」は売野・芹澤コンビの楽曲の中でもかなり哀愁味が強い作風。早川のあまり上手くはないヴォーカル及びバックの完璧メタルの演奏がその切なさに拍車を掛ける。ある意味早すぎたBABTMETAL。衣裳はミニスカポリスを先取っていた。

キャニオン／1985年3月21日

タッチ

岩崎良美

作詞：康珍化
作曲・編曲：芹澤廣明
B面：君がいなければ

アニメ番組『タッチ』の主題歌として大ヒット、岩崎良美の代表曲として今でも歌われている。若干ブラスやキーボードの音が聴こえるものの基本はベース、ドラム、ギターのスリー・リズムで突っ走るシンプルなロックンロール・ナンバーに仕上がっている。編曲も芹澤自身が行っているが、ギタリスト出身の芹澤らしく印象的なイントロやハーモナイズド・チョーキングを使用したシンプルながらも印象に残るギター・ソロなどが光っている。

text：岩切浩貴

CamScannerでスキャン

織田哲郎

短冊CD時代を支えたミリオン・ヒット請負人

1958年3月11日東京都出身。少年時代よりウクレレやピアノを始める。父の仕事の関係で中学校時代をイギリス・ロンドンで過ごし、15歳で帰国。帰国後は高知県高知市でギターと出会い、東京都立大学附属高校に編入後は、同級生だった北島健二とバンド活動を行う。

78年にスピニッチ・パワーにコーラスとして参加後、同バンドの多くの楽曲を手がける。なお、スピニッチ・パワーには、のちにBOØWYを結成する寺西修一（現・氷室京介）や木村マモルらが在籍していた。79年に北島健二とWHYを結成、アルバム『WHY』でデビュー。80年に北島健二やのちにBOØWYを結成する松井恒二（現：松井常松）らと織田哲郎&9th IMAGEを結成、アルバム『DAY & NIGHT』をリリースも81年に解散。83年にはアルバム『VOICES』でソロ・デビュー。TESTU名義で歌ったアニメ『装甲騎兵ボトムズ』主題歌「炎のさだめ」が人気に（作曲は乾裕樹）。その傍ら作曲家としても活躍、当時低迷していたTUBEに提供した「シーズン・イン・ザ・サン」（86年）がオリコン・シングル・チャート第1位を獲得、近藤真彦がカヴァーした「Baby Rose」もヒットして一躍人気作曲家に。

89年にはTOUGH BANANAを結成、作詞に外添要一が参加したアルバム『TOUGH BANANA』をリリースした。90年には、アニメ『ちびまる子ちゃん』主題歌「おどるポンポコリン」がミリオン・セラーの大ヒット、第32回日本レコード大賞ポップス・ロック部門などを受賞した。92年には、自ら歌った「いつまでも変わらぬ愛を」が大ヒット、自身唯一のオリコン・シングル・チャート第1位獲得楽曲となる。その後も、中山美穂&WANDS「世界中の誰よりきっと」（92年）、ZARD「負けないで」（93年）、「揺れる想い」（93年）、大黒摩季「チョット」（93年）、T-BOLAN「すれ違いの純情」（93年）、WANDS「愛を語るより口づけをかわそう」（93年）、DEEN「瞳そらさないで」（94年）、酒井法子「碧いうさぎ」（95年）、相川七瀬「夢見る少女じゃいられない」（95年）などのヒット曲を連発。特に93年は、オリコン年間チャート作曲家部門にて年間売上1,000万枚超えの新記録を達成、小室哲哉と並んで90年代を代表する作曲家となった。これまでに4,000万枚を超えるCDシングル・セールスを記録し、歴代作曲家売上げランキングは第3位。98年にはDON'T LOOK BACKを、15年にはROLL-B DINOSAURを結成。近年は作曲業よりも歌手及び演奏家としての活動に重点を置き、精力的に活動中。

text：ガモウユウイチ

CamScannerでスキャン

CBS・ソニー／1986年4月1日

シーズン・イン・ザ・サン

TUBE

作詞：亜蘭知子
作曲・編曲：織田哲郎
B面：今夜はハートエイク -HEARTACHE TONIGHT-

The TUBEからTUBEに改名後第1弾シングル。前田亘輝のハイ・トーンを活かしたさわやかなナンバーで、スラップ・ベースや16ビートのギター・カッティングなど、さり気なくブラック・フィーリングが漂う。作曲は織田哲郎が担当、本作品以降夏といえば彼らというイメージが定着。「SUMMER DREAM」(87年)、「Beach Time」(88年)など、その後も夏のシングルは織田哲郎が担当した。

BMGビクター／Rhizome
1990年4月4日

おどるポンポコリン

B.B.クィーンズ

作詞：さくらももこ
作曲・編曲：織田哲郎
B面：ゆめいっぱい

アニメ『ちびまる子ちゃん』の初代エンディング・テーマ曲として制作。歌と演奏は、坪倉唯子、近藤房之助、増崎孝司(DIMENSION)など、ビーイング所属のミュージシャンにより編成されたB.B.クィーンズが担当した。さくらももこの独特な歌詞と織田哲郎のキャッチーなメロディが相まって日本中でブームに。アニメ主題歌としては異例の大ヒットを記録、第32回日本レコード大賞ポップス・ロック部門を受賞した。

キング／1992年10月28日

世界中の誰よりきっと

中山美穂&WANDS

作詞：上杉昇、中山美穂
作曲：織田哲郎
編曲：葉山たけし
B面：世界中の誰よりきっと PART II

中山美穂とWANDSによるコラボレーション・シングル。ミディアム・バラードのポップ・ナンバーで、1番を中山美穂が、2番を上杉昇がリード・ヴォーカルを担当。約183万枚の大ヒットを記録した。本楽曲のヒットにつられるように、先にリリースされていたWANDSの「もっと強く抱きしめたなら」も、オリコン・シングル・チャート登場第29週目にして第1位を獲得、ミリオン・セラーを記録、一躍人気グループへと躍り出た。

ポリドール／b-gram
1993年1月27日

負けないで

ZARD

作詞：坂井泉水
作曲：織田哲郎
編曲：葉山たけし
B面：Stray Love

ZARDとして初のオリコン・シングル・チャート第1位を獲得した楽曲で、彼らの知名度を上げると共に代表曲となったナンバー。ダリル・ホールの「ドリームタイム」(86年)の影響を感じさせるサウンドに、織田哲郎らしいキャッチーなメロディで、『24時間テレビ「愛は地球を救う」』内のチャリティー・マラソンなど、応援歌として現在でも多くのメディアで使用されている。コーラスは、大黒摩季、栗林誠一郎、生沢佑一が担当。

エイベックス／motorod
1995年11月8日

夢見る少女じゃいられない

相川七瀬

作詞・作曲・編曲：織田哲郎
B面：Miss You

相川七瀬のデビュー曲で、織田哲郎は作詞・作曲・編曲以外にもプロデュースも担当、彼が全面プロデュースした最初の作品だ。ほぼ1コードで押し通すAメロ、平行調へ移調するBメロ、長調の3コード+マイナー・トニック・コードのみによるサビという、ロック・スピリットにあふれたシンプルなサウンド。その上で織田哲郎らしいキャッチーなメロディ・ラインが躍動感たっぷりに融合。結果、約37万枚を売り上げた。

text：ガモウユウイチ

長戸大幸

ビーイング総帥は
ヒットの法則を熟知していた

TUBE、B'z、B. B.クィーンズ、ZARD、Mi-Ke、T-BOLAN、WANDS、大黒摩季、DEEN、FIELD OF VIEW、小松未歩、倉木麻衣、GARNET CROW、愛内里菜など、90年代から00年代にかけてオリコン・チャート上位を独占。ビーイング・ブームと呼称され、J-POPの中心的音楽プロダクションとして音楽業界を牽引したビーイングの設立者が長戸大幸だ。

1948年4月6日に滋賀県大津市で生まれた長戸大幸は、高校生時代に元ザ・カーナビーツのポール岡田らとWEEDSを結成。大学中退後に結成したFeedBackでは、ジョン・メイオール&ブルース・ブレイカーズのオープニング・アクトを担当した。その後、FeedBackは赤と黒と改名、72年に自らが作詞・作曲を担当したシングル「Mr. D.J.」でデビューした。

75年には音楽事務所のオフィス・トゥ・ワンに入社して作曲家活動へと入り、元上田正樹とサウス・トゥ・サウスの井上茂率いるシーチャン・ブラザーズ「愛の翼」（76年）で作曲家デビューを果たす。78年にはスピニッチ・パワーの「ポパイ・ザ・セーラーマン」をダニー・ロング名義で月光恵亮らと制作してオリコン・シングル・チャート最高第21位のヒットを記録、同年にビーイングを設立した。ビーイングの初期には、実弟の長戸秀介と織田哲郎と北島健二によるバンドのWHY、マライア、ラウドネス、BOØWYなどのレコードを制作。また、アイドル女優だった三原順子（現：三原じゅん子）や、アイドル・ジャズ・シンガーの秋本奈緒美、イニシャルがH.M（ヘヴィ・メタル）となる本城未沙子、浜田麻里、橋本ミユキ、早川めぐみなど、女性シンガーの作品も多く制作した。その他エマニエル「シティ・コネクション」(81年)、井上陽水「悲しき恋人」(84年）など別名義の楽曲も提供、ダニー・ロング・プロジェクト名義で「Zoku! Zoku! Hot Graphity」(81年）などをリリースした。ブルースやロックの影響を強く感じさせる楽曲は、当時の歌謡曲／ニューミュージック・シーンの中では特異な魅力を放っていた。その後も、85年にザ・チューブ（現：TUBE)、88年にB'zをプロデュース。90年にはアニメ『ちびまる子ちゃん』のエンディング・テーマ「おどるポンポコリン」でB.B.クィーンズをデビューさせて、日本レコード大賞（ポップス・ロック部門）を受賞、ビーイング・ブームの始まりだった。そして、一時は業界の7%の売り上げを占めるほどのプロダクションへと発展させ、企業家としての才を発揮した。また、小室哲哉よりもいち早く音楽プロデューサーという職業を世間に認知させ、本格的なロックを一般の人の耳に届けた功績も大きい。

text：ガモウユウイチ

CamScannerでスキャン

FUNKY DISCO PRINCESS

CamScannerでスキャン

長戸大幸作曲作品

キング／1977年

朝まで踊ろう

舘ひろしとセクシー・ダイナマイツ

作詞：たちひろし
作曲：長戸大幸
編曲：アラン・ムーア
B面：マンハッタン・ブルース

舘ひろしとセクシー・ダイナマイツ名義による2枚目のシングル。レコーディングは、ナッシュビルのエーカフ・ローズ・スタジオで、アラン・ムーアが編曲を担当した。クールスのイメージをそのまま移行させたロカビリー・スタイルのマイナー・ロックン・ロールで、ディスコ・ブームだった当時を思うと、潔いまでのシンプルなサウンドだ。のちに、TROUBLE（現：THE 虎舞竜）や、Mi-Keもカヴァーした。

キング／1979年1月21日

FUNKY DISCO PRINCESS

スピニッチ・パワー

作詞：亜蘭知子
作曲・編曲：長戸大幸
B面：DON'T STOP LOVIN'

後にBOØWYを結成する氷室京介やトランザムの西濱鉄男などが参加していたプロジェクト、スピニッチ・パワーの3枚目のシングル。メンバーは楽曲ごとに流動的で、本楽曲では織田哲郎がヴォーカルを担当。また、亜蘭知子の作詞家としてのデビュー作でもある。演奏は、桑名正博＆ゴーストタウンピープルの野村哲也や、ウエスト・ロードの小堀正などが担当。当時ブームだったディスコ・サウンドで、近年ではクラブ・シーンで再評価。

キング／1980年9月21日

セクシーナイト

三原順子

作詞：亜蘭知子
作曲・編曲：長戸大幸
B面：ミステイク

ドラマ「3年B組金八先生」で一躍人気となった三原順子（現：三原じゅん子）のデビュー・シングル。山口百恵を思わせるマイナー・歌謡ロック・サウンドで、演奏はマライアの土方隆行、WHYの北島健二、美乃家セントラル・ステイションの見砂和照などが担当。ドラマの人気に引っ張られて、オリコン・シングル・チャート最高第8位を記録。約33万枚を売り上げ、長戸大幸としても初のヒット曲となった。

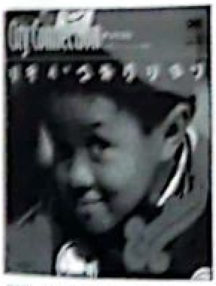
キング／1978年

ダウンタウンベイビー

岩城徳栄

作詞：千家和也
作曲：長戸大幸
編曲：馬飼野俊一
B面：乙女恋

日本テレビ系「スター誕生！」で50組目の合格者となった岩城徳栄のデビュー・シングル。ファンキーなトラックにドスを効かせたやさぐれヴォーカルで、オリコン・シングル・チャート最高第70位を記録。チャート・インしたのは本シングルのみだったが、同年からスタートした『笑アップ歌謡大作戦』にレギュラー出演。ピー子の愛称で、元祖おバカタレントとして人気を博した。近年では使える和モノとしてDJにも再評価されている。



SMS／1981年7月5日

シティ・コネクション

エマニエル

作詞：ミッキー・シュガー
訳詞：佐藤由佳
作曲：ダニー・ロング
編曲：ミシェル・シミーン
B面：City Connection（英語版）

クラリオンのコマーシャルに出演して、一躍人気者となったエマニエル坊やことエマニエル・ルイスの日本デビュー・シングル。ダニー・ロングは長戸大幸のペンネームで、長戸大幸はダニー・ロング名義で楽曲を提供している。メジャー・コード中心のコード進行で、「ⅣM7」と「Ⅳ7」を使い分け、「Ⅳ7」部分でブルーノートを使用。ブラック・フィーリング溢れるメロディを生み出している。

text：ガモウユウイチ

CamScannerでスキャン

宮下智

トシちゃん黄金期を支えた 自由度の高い作風は群を抜いて斬新

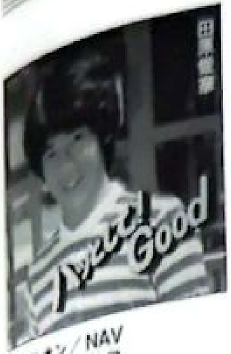
宮下智は1956年、東京都で生まれた。本名は盛岡夕美子。母親がピアノ教室を開いていたこともあり、3歳9ヶ月のときから音楽教育を受け、5歳でピアノを習い始める。学習院初等科1年で作曲を師事するなど、早熟な音楽脳を発揮する。その後、数々のコンクールで優秀な成績を収め、71年の学習院女子高等科1年生のときにアメリカに留学。[illegible]に師事。同年にリセントリット・ジュニア・[illegible]・コンテストで第1位を獲得。73年にはショパン・ヤング・ピアニスト・コンテストで全米2位に。その後も、クラシックのみならず、ロック、ジャズ、映画音楽などにも興味を持ち、多くの関係者とふれあい音楽センスを吸収。75年にはサンフランシスコ音楽学院大学、79年に同学院を主席で卒業後に帰国。クラシック・ピアニストの盛岡夕美子として活動する傍ら、宮下智名義でポピュラー音楽の作曲を開始。

田原俊彦のデビュー曲「哀愁でいと」のB面だった「君に贈る言葉（ディアー・スター）」（80年、歌：田原俊彦、近藤真彦、野村義男）を提供したのを皮切りに、「ハッとして！Good」（80年）、「ブギ浮ぎI LOVE YOU」（81年）、「キミに決定！」（81年）、「原宿キッス」（82年、作詞のみ担当）、「NINJIN娘」（82年）、「誘惑スレスレ」（82年、作詞のみ担当）、「チャールストンにはまだ早い」（84年）など、彼の多くの作品を提供。本場アメリカ仕込みのジャズやオールド・ポップスの影響を感じさせるルーツ・アメリカンなサウンドを取り入れた楽曲群は田原俊彦の黄金期に大きく貢献した。また、当時は昼間は日本のレコード会社のアルバイトを行い夜にスタジオ・ワークを行ったり、子供たちにクラシック・ピアノのレッスンをしたりと、絶頂時にも関わらず芸能界に染まらなかった。シャンプーのCMに出演の依頼もあったそうだ。また、ピアノのレッスンの際に教え子たちにリクエストされると、しぶしぶながらも田原俊彦の曲を弾いてあげることもあったそう。

ほか、少年隊、スラップスティック、南野陽子などに楽曲を提供したが、だんだんとクラシックやニューエイジ・ミュージックでの活動が中心となる。彼女が本当にやりたかったのはショービズな音楽ではなくて、お金とは無縁な精神世界をピアノで表現することだった。84年には、そっとボーチェを結成。87年には盛岡夕美子名義でオリジナル・アルバム『命韻（レゾナンス）』をリリース後、アメリカ人コンピューター・デザイナーと結婚してアメリカに移住、芸能界から離れた。

text：カモウユウイチ

CamScannerでスキャン



キャニオン／NAV
1980年9月21日

ハッとして！Good

田原俊彦

作詞・作曲：宮下智
編曲：船山基紀
B面：青春ひとりじめ

田原俊彦のセカンド・シングルで、初のオリコン・シングル・チャート第1位を獲得。当初のタイトルは「Sweet Situation」だったが、ジャニー喜多川のアイデアからタイトルが「ハッとして！Good」に決定した。グレン・ミラー・サウンドとモータウン・サウンドが融合したかのようなどこか懐かしさを感じさせるサウンド。ちょっと頼りなさげな田原俊彦の歌も魅力に変えてしまう、それまでの歌謡界には無かったタイプの名曲。

キャニオン／1981年4月1日

ブギ浮ぎ I LOVE YOU

田原俊彦

作詞・作曲：宮下智
編曲：船山基紀
B面：センチはやめろよ

田原俊彦の4枚目のシングル。コーラスのBUZZとの掛け合いによるモータウン・フレイヴァーなAメロに続き、中盤では「自慢のギターを」という歌詞と共にエレキ・ギターをフィーチャー。ガラリとロックンロール・スタイルにサウンドが変化。「笑うしかない」という歌詞では田原俊彦自身の笑い声が歌メロとなる斬新なアイデアは宮下智によるもの。ノヴェルティなサウンドが田原俊彦のキャラクターに見事にはまっている。

キャニオン／1981年7月1日

キミに決定！

田原俊彦

作詞・作曲：宮下智
編曲：船山基紀
B面：愛の神話

デモの段階では「Kiss Kiss Good Timing」というタイトルだった田原俊彦の5枚目のシングル。ポップ・ディスコ・サウンドの楽曲で、「キミに決定！」という歌詞のあとに合格の鐘が鳴るのも宮下智のアイデア。間奏には「南京豆売り」を引用している。編曲を担当した船山基紀は、あまりに違ったタイプの個性的な楽曲を生み出す宮下智について、本当に実在するのかとディレクターの羽島亨に問いただしたという。

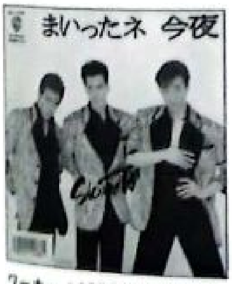
CBS・ソニー／1988年10月8日

抱きしめて もう一度

南野陽子

作詞：平出よしかつ
作曲：宮下智
編曲：萩田光雄
A面：秋からも、そばにいて

シングル「秋からも、そばにいて」のB面に収録された楽曲。作曲を担当した宮下智はジャニーズ事務所専属を離れ、前年より南野陽子のスタッフとして参加を始めており、アルバム『garland』（87年）では「雪の花片」を提供していた。「抱きしめて もう一度」は、生楽器とデジタル楽器が調和良くブレンドされた60年代ポップスの影響を感じさせる楽曲で、彼女のメロディ・メーカーとしての才が発揮された隠れた人気曲。



ワーナー／1989年6月19日

まいったネ今夜

少年隊

作詞・作曲：宮下智
編曲：石田勝範
B面：Sea and island

少年隊15枚目のシングルで、オリコン1位を獲得した楽曲としては現時点で本作品が最終楽曲。リズムは4ビート、イントロはウッド・ベースによるランニングと、ビッグ・バンド・スタイルのスウィング・ジャズ。宮下智のオールド・アメリカンなセンスが炸裂した佳曲だが、現時点では彼女の歌謡曲作曲家としての最終提供楽曲。編曲を担当した石田勝範は、自ら率いたゼロ戦が近年和ジャズ界隈で再評価されている。

text：ガモウユウイチ

CamScannerでスキャン

小田裕一郎

アメリカン・ポップスを歌謡曲に
洋楽ナイズされた秀逸なナンバー

text：ガモウユウイチ

80年代のアイドル・ポップスに興味ある人なら、小田裕一郎の名前を見たことがない人はいないであろう。松田聖子、田原俊彦、石川秀美などの多くの楽曲を作曲、80年代前半のアイドルたちを影で支えた作曲家、音楽プロデューサーだ。

小田裕一郎は、1950年3月25日年鹿児島県生まれ。10歳のときにフラメンコ・ギターに興味を持ちギターを始める。14歳のときにはプロのバンド、リズム&ボーイズでアルバイトをしたのをキッカケにプロ・ギタリストに。初めて正式メンバーとして加入したバンドは、ザ・タイガース結成以前の沢田研二も参加していたザ・ジョーカーズで、その後も20以上のバンドで活躍した。70年代に入り、ゴダイゴのプロデューサーだったジョニー野村の下でオリジナル曲を作り始め、レコード会社にデモ・テープを送り始める。77年には、ガールズの「野良猫」で作曲家デビュー。

79年にサーカスに提供した「アメリカン・フィーリング」が約48万枚のヒットを記録、一躍人気作曲家となる。その後は、石川優子「クリスタル モーニング」(79年)、田原俊彦「恋＝Do!」(81年)、「グッドラックLOVE」(81年)、「エル・オー・ヴイ・愛・N・G」(83年)、桜田淳子「ミスティー」(81年)、榊原郁恵「シャイニング・ラブ」(81年)、松原みき「ニートな午後3時」(81年)、沢田富美子「ちょっと春風」(81年)、杏里「CAT'S EYE」(83年) など、多くの楽曲を作曲した。中でも、松田聖子には、「裸足の季節」(80年)、「青い珊瑚礁」(80年)、「風は秋色」(80年) ほか、初期2枚のアルバムの大半の楽曲を提供、デビュー直後の彼女のサウンド・イメージを形成した。また石川秀美にもデビュー曲から多数の楽曲を提供。「妖精時代」(82年)、「ゆ・れ・て湘南」(82年)、「哀しみのブリザード」(82年)、「涙のペーパームーン」(83年)、「バイ・バイ・サマー」(83年)、「めざめ」(84年)、「夏のフォトグラフ」(84年) など、10作目までのうち7作品を担当している。

彼の登場は、それまでに無かった英詞に英語の発音に合わせた、いわゆる洋楽ナイズされたメロディをつけた最初期の作曲家として、林哲司と並んで新しい作曲家の時代を感じさせた。そして、そのポップ・センスは80年代のアイドル・ポップスの雛形となった。また自身でも、84年にアルバム『ODA』でソロ・デビュー。作曲デビュー曲を提供したイリアにも、イリア&小田裕一郎名義で「グッド ラック」(85年) をリリースしている。現在はニュージャージーにスタジオを構え、マルチ・プレイヤーとして自らミュージシャンとしても活動している。

CamScannerでスキャン

コロムビア／1980年2月

地球へ

ダ・カーボ

作詞：竜真知子
作曲：小田裕一郎
編曲：川上了
B面：愛の惑星

アニメ映画『地球へ…』（80年）の主題歌で、セールス的に低迷していたダ・カーポの起死回生となった楽曲。アメリカン・ポップスの影響を感じさせるディスコ・ナンバーで、オブリガートや間奏にフィーチャーされたアナログ・シンセの太い音色がノスタルジックな思いを呼び起こしてくれる。サビ最後の「♭Ⅵ－♭Ⅶ－Ⅰ」のコード進行がスペイシーな雰囲気を増幅。オリコン・シングル・チャート最高第22位、約12万枚のヒット。

CBS・ソニー／1980年7月1日

青い珊瑚礁

松田聖子

作詞：三浦徳子
作曲：小田裕一郎
編曲：大村雅朗
B面：TRUE LOVE
～そっとくちづけて

デビューから、松田聖子のほとんどの楽曲を提供していた小田裕一郎。中でも2枚目のシングルの本作品は、初めてベスト10にランク・イン、オリコン・シングル・チャート最高第2位を記録、彼女の出世作となった楽曲だ。サビやAメロのモーダル・インターチェンジなど、ポピュラリティにあふれながらも楽典的な進行をさり気なく導入したセンスが光る。矢島賢（Gt）、金田一昌吾（Bs）らの洗練された演奏も素晴らしい。

キャニオン／1981年10月16日

グッドラックLOVE

田原俊彦

作詞：小林和子
作曲：小田裕一郎
編曲：大谷和夫
B面：スターダストに夜は更けて

田原俊彦が主演の映画『グッドラックLOVE』（81年）主題歌で、オリコン・シングル・チャート最高第3位を記録、約50万枚を売り上げ、第1回日本作曲大賞協会賞を受賞した。F#マイナー・キーのセンチメンタルなナンバーで、「Ⅳm」では「6th」を強調したメロディが個性的。一気にオクターブ飛躍するメロディ・ラインなど、ダイナミックなアプローチでドラマティックな楽曲に仕上がっている。

RCA／1983年1月1日

涙のペーパームーン

石川秀美

作詞：麻木かおる
作曲：小田裕一郎
編曲：大谷和夫
B面：恋はパニック

石川秀美もデビュー以来多くの楽曲を小田裕一郎が担当。その数は、85年までにリリースしたシングル17枚中8曲を作曲し、中でも最も売上を伸ばしたのが本作で、約13万枚を売り上げた。Aメロではオン・コードを使用してダイアトニックにベース・ラインを下降させるなど、歌メロ部分は疾走感たっぷりのキャッチーなアメリカン・ポップ・サウンドで、間奏部分では60年代オールディーズ・スタイルになるユニークなナンバー。

フォーライフ／1983年8月5日

CAT'S EYE

杏里

作詞：三浦徳子
作曲：小田裕一郎
編曲：大谷和夫
B面：Dancing with the sunshine

アニメ『キャッツ・アイ』（83年）のオープニング・テーマ。アニソンということで、当初は歌うことに難色を示し、録音直前にドタキャン騒動まで起こしたが、結果的に自身唯一のオリコン・シングル・チャート第1位を記録、約82万枚を売り上げた。アニメ主題歌で第1位はオリコン史上本楽曲が初めての快挙だった。シングルでは和田アキラが、アルバムでは角松敏生がギターを担当している。

text：ガモウユウイチ

CamScannerでスキャン

鈴木キサブロー

ブルージーなロック・テイスト

ポップス全盛の80年代前半、ロック・テイストの楽曲を書くことが出来る数少ない作曲家としてシーンに登場、沢田研二、堀大二郎、近藤真彦、本田恭章、伊藤さやかなど、アイドル・ポップスからロックへと内性を展開されるシンガーに多く起用されていたのが鈴木キサブローだ。

出身は青森県弘前市で、1953年2月14日生まれ。15歳のころから兄にギターやウクレレを習う。B.B.キングを聴いたことをきっかけにブルースに目覚めギタリストを目指して72年に上京後、数々のバンドにギタリストとして参加。73年より、布施明、中村雅俊、岡林信康、ちあきなおみなどのバック・ギタリストとして活躍。77年には作詞家の岡本おさみと出会い、彼の推薦により作曲家デビューする。

80年に、沢田研二に提供した「酒場でDABADA」が約14万枚のスマッシュ・ヒットで日本レコード大賞金賞を受賞、人気作曲家に。西城秀樹「センチメンタルガール」(81年)、三好鉄生「涙をふいて」(82年)、渡辺徹「約束」(82年)、SALLY「バージンブルー」(84年)、近藤真彦「夢絆」(85年)、「大将」(85年)、堀ちえみ「青春の忘れ物」(85年)、The TUBE「ベストセラー・サマー」(85年)、中森明菜「DESIRE －情熱－」(86年)、南野陽子「悲しみモニュメント」(86年)など、多くの楽曲を提供した。87年には徳永英明をプロデュース、「輝きながら…」のヒットを生んだ。また、アニメ・特撮関連でも、「未来警察ウラシマン」(83年)、「宇宙船サジタリウス」(86年)など、多くの主題歌を担当している。中でも、「みゆき」(83年)主題歌のH_2O「想い出がいっぱい」は、近年は教科書に掲載されるほどのスタンダード・ソングとなった。「ウルトラ」シリーズでも、「ウルトラマンダイナ」(97年)、「ウルトラマンコスモス」(01年)、「ウルトラマンメビウス」(06年)など、90年以降の中心作曲家の一人として活躍している。

キャッチーでありながらも、そこはかとなく漂うブルースやR&Bの影響が、他の作曲家のロック・テイストの楽曲とは一味違うサウンドを生み出していたキサブロー・サウンド。ロック・フィーリング溢れる楽曲で、いい曲だなと感じたらほとんどが彼かNOBODYが作曲だったというのは、80年代ポップス・ファンには間々あることだった。ソロ・アーティストとしても、キサブロー名義でシングル「ウィンド」(81年)、アルバム『レター』(81年)をリリースしている。

：ガモウユウイチ

CamScannerでスキャン

東映／クライマックス 1981年

夢でハネムーン

斉藤智美

作詞：竜真知子
作曲：鈴木キサブロー
編曲：戸塚修
B面：ロンサム・ガール

映画『月光仮面』(81年) マスコット・ヒロイン全国大会で優勝した斉藤智美（現：斉藤巴美）のデビュー曲。Bメロ部分にシティ・ポップスの影響を多大に感じさせるポップ・ナンバーで、鈴木キサブローのサウンド・センスの幅を感じさせる隠れ佳曲。デビュー盤とは思えぬほどそつなく歌いこなす斉藤智美の歌もナカナカ。現在は女優業のほか、実姉の斉藤林子とりんともシスターズを結成。歌手としても活動中。

EPIC・ソニー／1982年8月25日

約束

渡辺徹

作詞：大津あきら
作曲：鈴木キサブロー
編曲：大村雅朗
B面：青空よメモリー

渡辺徹の2枚目のシングルで、81年より人気ドラマ「太陽にほえろ！」(72年～86年) に出演していたことと、グリコアーモンドチョコレートのCMソング起用されたことにより、瞬く間に大ヒット。オリコン・シングル・チャート最高第2位ながら、テレビ「ザ・ベストテン」では第1位を獲得、一躍アイドル的人気を確立した。ロック・テイストの中に「メジャー7th」コードをほどよくブレンドさせたサウンドが今聴いても新鮮だ。

キティ／1983年3月25日

想い出がいっぱい

H_2O

作詞：阿木燿子
作曲：鈴木キサブロー
編曲：萩田光雄
B面：10%の雨予報

アニメ『みゆき』(83年～84年) のエンディング・テーマで、UKギター・ポップの影響を受けていたH_2Oの音楽性の本質からは離れた楽曲だが、オリコン・シングル・チャート最高第6位、約34万枚を売り上げた。合唱コンクールなどで取り上げられることも多いナンバーだ。オープニング・テーマはB面の「10%の雨予報」で、アニメ・ヴァージョンではサビの「みゆき」の部分が「Everyday」に変更されている。

ワーナー／1986年2月3日

DESIRE ―情熱―

中森明菜

作詞：阿木燿子
作曲：鈴木キサブロー
編曲：椎名和夫
B面：LA BOHEME

オリコン・シングル・チャート第1位、約52万枚を売り上げ、第28回日本レコード大賞、FNS歌謡祭グランプリ、日本テレビ音楽祭グランプリなど多くの賞を独占。Aメロは2コードのみという、鈴木キサブローの真骨頂ともいえる歌謡ロック路線で、当初はB面の予定だったが、中森明菜自身の要望でA面に変更された。彼女のシングルで50万枚を越えたのは、現時点では本楽曲が最後となっている。

ワーナー／アサイラム
1986年3月25日

フォー・ユア・ラブ

柳ジョージ

作詞：トシ・スミカワ
作曲：鈴木キサブロー
編曲：長島進
B面：タイトロープ　闇に響く声

自作曲が中心だったシングル中、前作品「コインランドリィ・ブルース」より外部ライターが迎えられた。前作品はレイニーウッド時代から付き合いのある増田俊郎（トシ・スミカワ。本作では作詞のみを担当）だったが、本作品では鈴木キサブローが迎えられた。柳ジョージの個性を活かした哀愁美たっぷりのサウンドで、80年代の彼を代表するバラードとなり、生前のラスト・アルバム『Still Crazy』(06年) でもセルフカヴァーされた。

text：カモウユウイチ

CamScannerでスキャン

NOBODY

マージー・ビートを愛する
ロック系作曲家チー

相沢行夫と木原敏雄によるユニットのNOBODY。相沢行夫は、1949年北海道芦別市出身。神奈川大学在学中のアマチュア時代にはイーグルスというバンドで活躍。73年にはビートルズ・スタイルのバンド、ノラを結成。木原敏雄は49年神奈川県川崎市出身。明治大学在学中にキャロルを結成以前の矢沢永吉とYAMATOで活躍。69年には、神奈川大学学園祭に出演中のイーグルスを観て相沢行夫と出会った。75年に矢沢永吉が在籍していたキャロルが解散後、彼に誘われて相沢行夫と木原敏雄がソロ活動のバック・メンバーとなる。同年にリリースされた矢沢永吉のファースト・ソロ・シングル「アイ・ラヴ・ユー、OK」にて相沢行夫が作詞を担当して作詞家デビュー。木原敏雄も矢沢永吉のサード・アルバム『ドアを開けろ』(77年)収録の「世話がやけるぜ」と「通りすがりの恋」で作詞家デビューした。

81年に相沢行夫と木原敏雄はNOBODYを結成。まずはコンポーザー・ユニットとして、ハウンド・ドッグの「浮気なパレット・キャット」(81年)を提供。82年には、シングル「MY ROAD SHOW」とアルバム『NOBODY』を同時リリースして自らユニットとしてもデビューした。コンポーザーとしても、アン・ルイス「六本木心中」(84年)、吉川晃司「モニカ」(84年)、「サヨナラは八月のララバイ」(84年)、「You Gotta Chance ～ダンスで夏を抱きしめて～」(85年)、「にくまれそうなNEWフェイス」(85年)、早見優「Tonight」(85年)、荻野目洋子「フラミンゴ in パラダイス」(86年)、「Dance Beat は夜明けまで」(86年)、「ストレンジャー tonight」(88年)、浅香唯「C-Girl」(88年)、「セシル」(88年)、川村かおり「Big Beat」(95年)などを提供。

11年にリリースされた『NOBODY BOX』では、前出したほとんどの楽曲のデモを集めた『DEMO TRACKS』が収められており、デモの段階からかなり完成されていた楽曲に仕上げられていたことがわかる。

いわゆるポップス・スタイルの作曲家が多かった80年代において、鈴木キサブローと並んでロック・テイストの楽曲を書くことが出来る数少ない作曲ユニットとして活躍した。それでおいて、ルーツにビートルズがあるため、ポップでキャッチーなメロディで多くのヒット曲を生み出した。本格的なロック・サウンドを歌謡曲に持ち込んだ作曲家であり、彼らの登場こそが歌謡曲とニューミュージックの境目を希薄にしたといってもいいのかもしれない。

ウユウイチ

…イーストワールド

MY MARINE MARILYN

山本達彦

作詞：山川啓介
作曲：NOBODY
編曲：井上鑑
B面：LADY

83年のJALの夏のキャンペーンCMソングで、同時期にANAのCMソングだった山下達郎になぞらえてヤマタツ対決と称せられた。スティーリー・ダン風のサウンドが中心だった山本達彦の楽曲の中では異色のロック・ナンバーだが、オリコン・シングル・チャート最高第44位のヒットを記録。演奏は、井上鑑（Key）や今剛（Gt）などで、ロック・テイストの中にもそこはかとなく洗練が感じられる。

…／1984年2月1日

モニカ

吉川晃司

作詞：三浦徳子
作曲：NOBODY
編曲：大村雅朗
B面：真夜中のストレンジャー

渡辺プロの渡辺晋社長自ら陣頭指揮を執った映画「すかんぴんウォーク」（83年）で俳優デビューした吉川晃司の歌手デビュー曲。Bメロ部分がサビにあたる余り無い構成のロック・ナンバーで、オリコン・シングル・チャート最高第4位、約34万枚の売り上げを記録した。NOBODY自身も「MONICA」のタイトルで84年にセルフ・カヴァーしている。結果的に、吉川晃司は渡辺晋が手がけた最後のタレントとなった。

ビクター／1984年10月5日

六本木心中

アン・ルイス

作詞：湯川れい子
作曲：NOBODY
編曲：伊藤銀次
B面：IN PLEASURE

湯川れい子が吉川晃司をモデルに歌詞を書いた楽曲で、オリコン・シングル・チャート最高第12位、約30万枚の売り上げを記録した。100位圏内に46週もチャート・インするロング・ヒットを記録、86年には12インチ盤もリリースされるなど、アン・ルイスを代表する楽曲の一つとなった。同年にNOBODY自身も「DON'T YOU GO」のタイトルでセルフ・カヴァーした。02年には相川七瀬がカヴァーした。

ビクター／1986年3月26日

フラミンゴ in パラダイス

荻野目洋子

作詞：売野雅勇
作曲：NOBODY
編曲：船山基紀
B面：スロープに天気雨

「ダンシング・ヒーロー(Eat You Up)」(85年)のヒットを受けた、ロック・テイストのダンス・ナンバー路線。前作がアンジー・ゴールドのカヴァーだったため、本作ではNOBODYが起用され、次々作の「Dance Beatは夜明けまで」（86年）まで続いた。NOBODYのデモの段階では「Bad Girl」のタイトルで、Bメロ部分でタイトル・メロディが登場する構成だった。結果、連続ベスト10入りを記録した。

ハミングバード／1988年4月20日

C-Girl

浅香唯

作詞：森雪之丞
作曲：NOBODY
編曲：井上鑑
B面：Stay by Me

浅香唯がイメージ・キャラクターを努めたカネボウのキャンペーン・ソングとなり、オリコン・シングル・チャート最高第1位を記録、自身最大のヒット曲となった。初のNOBODYの起用だが、井上鑑のロックになりすぎないツボを付いたアレンジが功を奏して、ハードでありながらもキャッチーなパワー・ポップ的なサウンドに仕上がっている。好評を得て、次作「セシル」もNOBODYが楽曲を提供した。

text ガモウユウイチ

CamScannerでスキャン

山川恵津子

ドリーミーな旋律をもつ ポップスの魔術師

1956年11月12日、京都府生まれ。幼いころからクラシック音楽や洋邦のポップスに親しんだ。いろいろな曲を耳でコピーし、ピアノで弾いていたという。高2のときにヤマハのポピュラーソングコンテスト（ポプコン）に応募。フェリス女学院大学音楽学部の声楽科に通いながら、ヤマハ音楽振興会でアルバイトをし、萩田光雄、船山基樹、大村雅朗など、同所を出入りしていた才人アレンジャーたちからインスピレーションを受けている。

やがて谷山浩子や八神純子のバンドにキーボードやコーラスで参加。80年、八神に提供した「Be My Best Friend」（アルバム『JUNKO BEST』に収録）で作曲家としての公式デビューを飾った。プロの歌手、アレンジャーとしての第一歩は81年頃、鳴海寛と結成した“東北新幹線”にて。ジョアン・ジルベルトを敬愛し、デヴィッド・T・ウォーカーに傾倒したギターを弾く鳴海とのコンビネーションは洒脱で爽やか、山川の歌声も流麗で艶があり、男女の声の重ね方には二人が熱中していた米国のコーラス・グループ“シンガーズ・アンリミテッド”への親近感もうかがえる。LP『THRU TRAFFIC』の売り上げは芳しいものではなかったらしいが、山下達郎は83年の発表当時に聴いて感銘を受け、ふたりをツアー・メンバーに誘った（このときはスケジュールの問題で実現しなかったが、のちに何度も共演）。

ユニット解消後は、フリーランスとして活動。松田聖子、小泉今日子など当時の気鋭アイドルのガイド・ヴォーカルを務め、83年にはアグネス・チャンのLP『Girl Friends』全曲の編曲を担当した。作曲家としてアイドルと組んだのは岡本舞子「愛って林檎ですか」（85年4月）が最初だろうか。同年に結成された、おニャン子クラブの全オリジナル・アルバム（5作品）にも作編曲を提供。レコーディングでメンバーがうまく歌えなかったパートを吹き替えたこともあるという。おニャン子在籍中にソロ活動も始めた渡辺満里奈の、初期2作品『MARINA』と『EVERGREEN』は山川ファン必携、黄金のメロディとハーモニーの連続で、ぼくは山川恵津子の裏リーダー作だと思っている。86年には、小泉今日子「100%男女交際」で、女性として初めて「日本レコード大賞編曲賞」を受賞（作曲は馬飼野康二）。2010年代も後半に差しかかった今、アイドル界に足りないのは山川マジックだ。あの華麗な世界にふさわしい歌い手の登場を心待ちにしたい。

寺田和典

参考資料：「ラグジュアリー歌謡：80sパーラー気分で楽しむ邦楽音盤ガイド538」（DU BOOKS）、東北新幹線「THRU TRAFFIC」のCDライナーノーツ（金澤寿和）

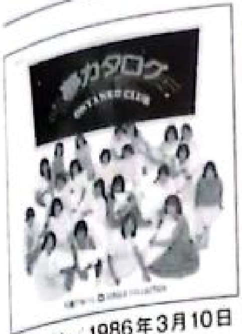
ワーナー／1986年2月25日

金のリボンでRock して

志賀真理子

作詞：麻生圭子
作曲・編曲：山川恵津子
A面：フリージアの少年

TVアニメ「魔法のアイドル パステルユーミ」オープニング・テーマ。主人公の声を担当した志賀真理子が歌っている。録音当時まだ16歳。声優／アイドル歌手の両面で売り出されたが、実はホイットニー・ヒューストンやヘレン・メリルに憧れ、ジャズが好きだったともきく。山川サウンドも彼女の心を捉えたはずだ。パート・バカラックの作風ばりに自在に変化する、ロマンティックな旋律を危なげなく歌いこなしてゆく。



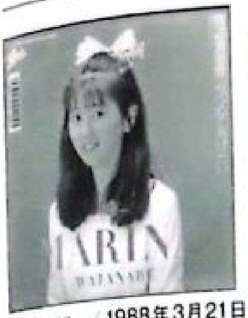
キャニオン／1986年3月10日

アンブレラ・エンジェル

おニャン子クラブ

作詞：秋元康
作曲・編曲：山川恵津子
※アルバム「夢カタログ」収録

なんでこんなに新鮮なのだろう、本当に30数年前の録音なのか？　ぼくはおニャン子クラブのアルバムを聴くたび、山川恵津子の楽曲が持つ不老ぶりに驚く。どれも珠玉の出来だが、ここでは高井麻巳子（88年に秋元康と結婚）がリード・ヴォーカルをとるアルバム収録曲を。フリューゲルホーンをフィーチャーしたイントロから魅力的な和音や旋律全開、高井と他メンバーの掛け合いパートも絶品。アレンジ込みで賞味してほしい。



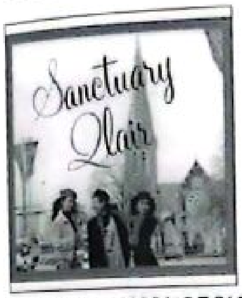
EPIC・ソニー／1988年3月21日

見つめてあげたい

渡辺満里奈

作詞：川村真澄
作曲・編曲：山川恵津子
B面：白いアドレス

おニャン子解散の翌年に出たソロ・シングル第6弾。いささかもっさり気味の歌声が、山川のクリスタル・クリアというべき音作りと融合すると、他に類を見ないアイドル・ポップスの世界へと昇華する。初期2アルバム『MARINA』『EVERGREEN』における山川の貢献も特筆すべきだが、このシングル曲も両者の相性の良さを示す好例。長調も短調もわけへだてない、という感じのメロディ・ラインが心を揺さぶる。



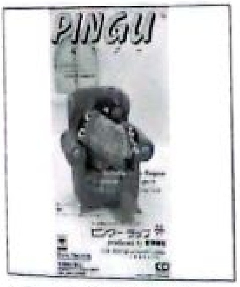
キューン・ソニー／1992年6月21日

リボンのないプレゼント

Qlair

作詞：工藤順子
作曲・編曲：山川恵津子
※アルバム「Sanctuary」収録

3人組女性アイドル・グループ数あれど、ここまで一貫して、高貴なまでに品のある音作りを続けたのはQlairぐらいではないだろうか。その点では、さすがのTomato n' Pineも一歩譲る。三声ハーモニーの美しさ、息の合ったユニゾン、シンセ・ベースやチューブラー・ベルズの躍動感。ゆったりした音符をしっとりと連ねながら、聴き手をドリーミーな世界に運ぶ。5分48秒という長さは歌謡曲としては異例だがまさに一瞬だ。



ソニー／1993年7月1日

SEEDS of HAPPINESS —しあわせのたね—

M-Rie

作詞：田久保真見
作曲・編曲：山川恵津子
c/w：ピングーラップ

クレイ・アニメ『ピングー』の日本版エンディング・テーマ。ヴォーカルを担当するM-Rieとはコーラス・グループ"MILK"の宮島理恵のこと。歌声も旋律も編曲も限りない優しさに溢れているが、いっぽうで鳥肌の波が押し寄せることも抑えることができない。2回目に登場する「あげる」という箇所の音使い、「風と空と太陽」の箇所での滑らかすぎるコードの変化も、感動の一部。音のじゅうたんに包まれているような気分になる。

text：原田和典

CamScannerでスキャン

小室哲哉

歌謡曲からJ-POPへ
その進化は小室哲哉とともにあった

1958年11月27日東京都生まれ。プリンス、マイケル・ジャクソン、大沢誉志幸、小森田実、秋元康と同じ年に生まれた。好きな鍵盤奏者にはキース・エマーソン、デイヴ・スチュワート、キース・ジャレット、ジョー・ザヴィヌールらの名をあげている。

3歳でヴァイオリンのレッスンを始め、小学校のときから曲作りを開始。小学5年生のとき、家にエレクトーンが来たことを契機に鍵盤楽器にのめりこみ、70年の大阪万博で作曲家・冨田勲（72年頃からシンセサイザーを演奏）の楽曲を聴いて感銘を受けた。高校2年のとき、国産初のアナログ・シンセサイザー「ローランドSH-1000」（73年発売）を購入している。

早稲田大学在学中にプロのキーボード奏者として活動を開始し、80年から81年にかけては木根尚登がキーボード、宇都宮隆がリードヴォーカルを務めるロックバンド"SPEEDWAY"に参加。アルバム『BASE AREA』(80年)に5曲のオリジナルを提供。「CLOSE YOUR EYES」は文字通り小室メロディのルーツといえる作である。だがヒットに結びつくことなく、バンドは活動休止同然の状態に。小室は宇都宮、木根を誘い、自身がリーダーを務めるユニット"TM NETWORK"を結成した（木根はギターに転向）。84年、アルバム『RAINBOW RAINBOW』とシングル「金曜日のライオン」を同時リリース。85年には岡田有希子の『十月の人魚』に2曲が採用される。これがアイドル歌手への初めての作品提供であるようだ。

86年には渡辺美里に提供した「My Revolution」が見事、オリコン週間シングル・チャート第1位に輝く。TM NETWORKも87年にシングル「Get Wild」、アルバム『Self Control』をヒットにつなげ、名実共にトップ・アーティストの仲間入りを果たした（90年から、いったん解散する94年にかけてはTMNと名乗る）。いっぽうアイドル好きとしても名をはせていたようで、雑誌「PLUM」には、こういう記事もある。"アイドル博士といわれている小室哲哉先生が、みずから公言していた「好みのタイプ・ナンバー1」のキララさん（"キララとウララ"の大谷香奈子）とついに念願の対談をしたのでした"。ふたりは88年に結ばれた（92年離婚）。

88年4月からの約1年に及ぶロンドン滞在後（ここでテクノやハウスを主体としたダンス音楽のパーティ・イベント"Rave"に触れる）、89年10月にはソロ・シンガーとしてもデビュー。「Running To Horizon」「GRAVITY OF LOVE」と連続でオリコン第1位を獲得した。91年にはXのYOSHIKIとのユニット、V2を結成。92年には初の全面プロデュース・ユニットであるtt(Tetsuya Komuro

text 濱田和典

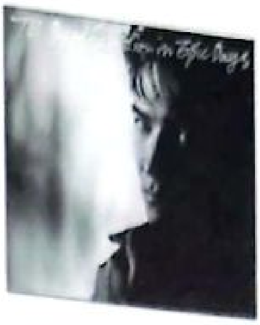
CamScannerでスキャン

Rave Factory、96年からTRF)を立ち上げた。

時代を追い風に、ソングライター・プロデューサー・パフォーマーとしての八面六臂の活躍がさらに加速した。94年7月、篠原涼子with t. komuro名義でリリースされた「恋しさと せつなさと 心強さと」は200万枚以上の売り上げを記録。95年には、お笑いコンビ"ダウンタウン"の浜田雅功と組んだH Jungle with t「WOW WAR TONIGHT ~時には起こせよムーヴメント」がまたしてもダブル・ミリオンに輝く。96年は、まさしく小室イヤーとなった。globe(95年結成)のシングル「DEPARTURES」が売り上げ200万枚、アルバム『globe』が400万枚突破(後者はオリコン歴代アルバム記録を更新)、"恋人"華原朋美(グラビア・アイドルの遠峯ありさ時代に、小室から猛烈にアタックした由)のアルバム『LOVE BRACE』が250万枚を突破。安室奈美恵のアルバム『SWEET 19 BLUES』が300万枚を突破、シングル「Don't wanna cry」は第38回日本レコード大賞のグランプリに。シングル・チャートで、小室の作詞・作曲・プロデュース楽曲がトップ5を独占したこともある。CD全体の売り上げがうなぎのぼりだった時代に、最もセールスが見込める錬金術師として小室は我が国の音楽シーンの頂点に立った。

99年にはTM NETWORKを再始動、元dosの吉田麻美と「TRUE KiSS DESTiNATiON」を結成し、2001年には彼女と入籍。9ヵ月で離婚後、2002年11月にglobeのKEIKOと、通算3度目の結婚をした。2008年には著作権譲渡詐欺の容疑で逮捕されたが(執行猶予5年)、2010年にはAAAの「逢いたい理由/ Dream After Dream ~夢から醒めた夢~」で久々のオリコン1位を獲得。tofubeats、TeddyLoidなど気鋭クリエイターとのコラボレーションでも耳目を集めた。

楽曲の音域は決して広くないけれど、数小節に1回ぐらいピョンと音程が高くなるところがある。曲中でリズム・パターンがあまり変わらず、歌のメロディもリフ(短いフレーズ)の繰り返し的なものが目立つ。バラードではシンセによるストリングス(弦楽器の音)のロング・トーンを多用する、このあたりが個人的には小室サウンドの旨みだと思っている。2018年1月19日には引退を表明したが、このハード・ワーキン・マンの新曲が永遠に聴けなくなるのだとしたらそれは音楽文化における損失でしかない。ぼくは彼の次なるマジックを、いつまでも待ち続ける。



「TK BEST SELECTION IN EPIC DAYS」
小室哲哉

小室哲哉のEPIC在籍時に発表したソロ名義の作品を集めたベスト・アルバム。映画「天と地と」など映画音楽も収録

参考資料:「小室哲哉インタビューズ Tetsuya Komuro Interviews Complete from 1984 to 2014」リットーミュージック

CamScannerでスキャン

EPIC・ソニー／1986年1月22日

My Revolution

渡辺美里

作詞：川村真澄
作曲：小室哲哉
編曲：大村雅朗
B面：みつめていたい

作曲家、小室の出世作。編曲もキーボードもプロデュースも担当していない。歌のバックは打ち込みではなくバンド編成、島村英二が演奏しているのはシモンズ・ドラムか。当初はアナログ盤のみの発売で、3年後にシングルCDとして出し直された。いまや古典だが、半音を効果的に使った細かい譜割りのAメロBメロから、目の前の風景がパッと広がっていくような大らかなサビ部分への流れは永遠に聴く者を鼓舞し続けることだろう。

EPIC・ソニー／1987年4月8日

GET WILD

TM NETWORK

作詞：小室みつ子
作曲・編曲：小室哲哉
B面：Fighting
（君のファイティング）

TVアニメ『シティーハンター』のエンディング・テーマ。TM NETWORKとして（つまり作曲家ではなくパフォーマーとして）、小室は初めてオリコン・トップ10に顔を出した。TMはこの曲を2016年までに計11回アップデート、総売上高は28億円に及ぶという。忙しいメロディ・ラインを一息で歌う宇都宮隆と、勢いたっぷりにピュンピュン鳴り響く小室のキーボード。テンションは次第に高まり、サビの箇所で爆発する。

キング／1987年7月7日

50/50

中山美穂

作詞：田口俊
作曲：小室哲哉
編曲：船山基紀
B面：斜めな愛を許して

アイドル好きの小室が、当時のトップ・アイドルに曲を書いた。中山美穂へのシングル盤楽曲の提供は4枚目のシングル「JINGI・愛してもらいます」（86年7月リリース）以来、約1年ぶり。カッサヴやマラヴォワなど、当時のワールド・ミュージック熱を彷彿とさせる編曲。小室のメロディに、こういうトロピカルなバックグラウンドがつけられることは稀ではないかと思う。華原朋美が最初に買ったレコードであるそうだ。

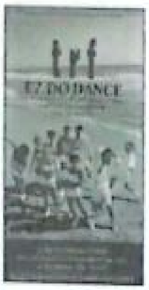
CBS・ソニー／1989年9月15日

ドリームラッシュ

宮沢りえ

作詞：川村真澄
作曲・編曲：小室哲哉
c/w：秘密がいっぱい

初出演映画『ぼくらの七日間戦争』（88年）の音楽を担当したのが小室だった。翌年の歌手デビュー曲も彼が書いている。アイドル好き冥利に尽きよう。昭和末期から平成初期にかけての宮沢りえは、もはや社会現象といえるほどのスーパーアイドルだったからだ。息継ぎのことなど考えてもいないようなメロディ展開だが、それにしては宮沢は健闘している。テレビ出演の時には小室も横で嬉しそうにシンセを演奏していた記憶がある。



avex trax／1993年6月21日

ez to dance

TRF

作詞・作曲・編曲：小室哲哉
c/w：ez do dance
(instrumental)
／DO WHAT YOU WANT

オリコンでは最高15位だったが、最終的にゴールド・ディスクを獲得する売り上げを示した。個人的には小室時代の本格的な幕開けを告げるプレリュードという印象を持つ。日本人発音をむき出しにした男性の英語ラップから始まり、深くリヴァーブをかけた女声へ。各フレーズ最後の音が細くゆるやかに上昇していくところは、踊らずにただ聴いていても快感。「I' ve got～」というところから曲調ががらりと変わりさらに盛り上がる。

text：原田和典

CamScannerでスキャン

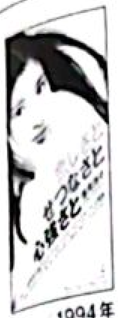
EPIC・ソニー 1993年11月10日

ダイヤモンドは傷つかない

東京パフォーマンスドール

作詞：売野雅勇
作曲：小室哲哉
c/w：涙のパラダイス

ハイレベルで歌って踊る大人数ガール・グループの先駆的存在、（先代）東京パフォーマンスドールの代表曲。彼女たちはTMN「LOVE TRAIN」（91年）のMVにもモノクロ画像で登場している。小室の提供作はアルバム収録のものも含めてどれも白眉そのものだが、最も知られているのはこれか。売野雅勇の文学的な歌詞に、哀感4：諦念3：希望3という感じの、心かきむしるメロディが乗る。ベース・ラインにも注目してほしい。



EPIC・ソニー 1994年7月21日

恋しさと せつなさと 心強さと

篠原涼子

作詞・作曲・編曲：小室哲哉
c/w：GooD－LucK／恋しさと せつなさと 心強さと（オリジナル・カラオケ）

小室のTPD内での推しは篠原涼子だったようだ。「虜になってしまった」という発言も残している。最高の曲で推しメンを最大限に輝かせたいという気合が、このダブル・ミリオンにつながったのか。タイトルをそのまま歌い上げる冒頭のフレーズは超絶キャッチー、"恋しさ"を"いとしさ"と読ませるセンスもこの場合は決してかっこ悪くない。篠原は以降、忌野清志郎、市村正親などとコラボする。中年を引き付ける何かがあるのだろう。

avex trax／1995年3月15日

WOW WAR TONIGHT ～時には起こせよムーヴメント

H Jungle with T

作詞・作曲：小室哲哉
編曲：小室哲哉、久保こーじ
c/w：WOW WAR TONIGHT ～時には起こせよムーヴメント（2 Million Mix）ほか

ダウンタウン司会のテレビ番組「HEY!HEY!HEY! MUSIC CHAMP」で依頼を受けたことから生まれたナンバー。メイン・ヴォーカルは同コンビの浜田雅功が務める。フォーク・ソング風メロディがゆったりしたレゲエ的なリズムに乗り、途中からテンポ・アップ、その発展形というべき"ジャングル"（32ビート）へと移行して壮大なリフレインへと収録する。大きく分けて2部構成、6分近い曲だが、浜田の歌声は一貫して丁寧だ。

avex trax／1995年10月25日

Body Feels EXIT

安室奈美恵

作詞・作曲・編曲：小室哲哉
c/w：Body Feels EXIT（X-TENDED MIX）ほか

「TRY ME ～私を信じて～」のヒットでトップ・アーティストの仲間入りを果たした安室奈美恵が、小室プロデュースで出した最初のシングル。まだSUPER MONKEY'S（現・MAX）がバックについていた。もはや小室語としか言いようのないフリーフォームな英文の使い方はここでも冴えわたり、快速テンポにのったメロディはなにかに急き立てられているかのよう。「よかった」という言葉を投げ捨てるように歌う安室の貫録！

avex globe／1996年1月1日

DEPARTURES

Globe

作詞・作曲・編曲：小室哲哉
c/w：DEPARTURES（INSTRUMENTAL）ほか

曲名をきいただけで「どこまでも～」と歌い込むKEIKOのイメージが浮かび、あたりいちめんが冬景色に染まってゆく感覚に陥る。これまた小室がバラード系楽曲において、いかに雄弁なストーリーテラーであるかを示す一例。汗や涙という概念からは無縁そうな、プラグにつながれたテクノロジーと二人三脚を続けていた彼が、思いっきり"泣き"のメロディを書き、アレンジした。ここ20数年間の、"日本の心"は演歌ではなくこれだ。

CamScannerでスキャン

I'm Proud

華原朋美

作詞・作曲・編曲：小室哲哉
c/w：I'm Proud
(Radio Edit) ほか

ORUMOK RECORDS
1996年3月6日

小室哲哉はすごく正直な人物なのではないか。好きな子の前では張り切ってしまうのだ。というか好きな子にインスパイアされて、どんどんインスピレーションが湧いてくるタイプなのか。この曲が出た当時、小室は「自分のベスト5に入る」と語っていたらしい。華原のかすみがたなびくような高音、心の揺らぎを音像化したかのようなヴィブラートが、小室の端麗なメロディを崇高なまでに輝かせる。まさに"ミュージカル・ロマンス"だ。

FACE

Globe

作詞・作曲・編曲：小室哲哉
c/w：FACE
(INSTRUMENTAL)
ほか

avex globe / 1997年1月15日

「鏡に映った　あなたと2人　情けないようで　たくましくもある」というパートを初めて耳にしたときには、ひたすら驚いた。こういう日本語表現があってもいいんだ、俺の観点が狭すぎたんだと、当時すでに文章で食っていた自分は勝手に小室の歌詞を仮想ライバルに仕立てた。だが小室はさらにその詞にとんでもなく強力なメロディを当てはめ、激越なアレンジを施す。その曲が百数十万の人々をレコード店に走らせたのだ！

Can you celebrate?

安室奈美恵

作詞・作曲・編曲：小室哲哉
c/w：Can you celebrate?
(SEVENTH AVENUE SOUTH MIX)
ほか

vex trax / 1997年2月19日

小室がいかに印象的なバラード・コンポーザーであるか、Aメロで直ちに印象付けられる。このメガ・ヒット曲で、人々が鼻歌で歌う率が最も高いパートであろう。だが彼はその後に、「永く～」から始まるアーバンR&B的なBメロもしっかり用意し、AとBを交互に出してこの曲に尋常ではない厚みをもたせる。「失って」のところでコードがBフラット→Gフラットに変化するところ、ここに出会いたくてぼくは繰り返しこれを聴く。

Hate tell a lie

華原朋美

作詞・作曲・編曲：小室哲哉
c/w：Hate tell a lie
(Late Nite Dub Mix)
ほか

OK RECORDS
年4月23日

主語がコロコロ入れ替わっているとしか思えない歌詞、メロディアスであることを拒否するような、音符だらけでひたすらくねくねする旋律は今もインパクト十分のはずだ。小室にとっては、愛しの彼女であっても、楽曲の実験台にすることをいとわないのである（自身が留守中の同棲部屋に俳優を連れ込んだことに怒りながら作った曲、という説もあるようだが）。間奏部分でブヒーと鳴るフリーキーなハーモニカも華原が吹いている。

BE TOGETHER

鈴木あみ

作詞：小室みつ子
作曲・編曲：小室哲哉
c/w NIGHT SKYほか

DISC
14日

TM NETWORKが87年に出したアルバム『humansystem』に収められ、その12年後に人気アイドル・鈴木あみのカヴァー・ヴァージョンが登場した。音程の比較的確かな、高音のよく伸びる女性歌手と組むことが多い小室にとって、彼女は毛色の違うコラボレーターだったかもしれないが、野太いモノトーン・ヴォイスで、呪文のように繰り返される"BE TOGETHER"というフレーズは決してインパクトを失っていない。

CamScannerでスキャン

索引

あ
愛川欽也 226
相川七瀬 266,267,277
あいざき進也 146,212,216
相本久美子 215
アイリーン 29
青い三角定規 32
赤い鳥 107,109,112,113
アグネス・チャン 29,69,70,91,93,182,
186,196,213,215,238,242,278
麻丘めぐみ 77,92,96,138
朝丘雪路 68,76,90
浅丘ルリ子 145
あさかまゆみ(朝加真由美) 64,184
浅香唯 276,277
朝倉理恵 93
浅田美代子 77,92,178
浅野ゆう子 83
梓みちよ 9,10,68,69,71,72,78,139,240
麻生祐未 207
麻生よう子 177
アダムス 106,109,198,218
あべ静江 142,143
安倍律子(安倍里葎子) 140,141
天地真理 22,63,69,109,113,138,
182,184,186,196,198
安室奈美恵 281,283,284
新井満 183,185
荒井由実 106,107,242,243
荒木由美子 188,225,227
有田美春 178
アルフィー(ALFIE) 86,211
安西マリア 49,63,81,123
アンドレ・カンドレ 238
杏里 245,248,254,259,260,272,273
アン・ルイス 69,72,197,202,234,242,276,277

い
飯島真理 239
五十嵐じゅん 49,186
池田典代 211
石江理世 126,175
石川さゆり 10,142,143,147,155,209
石川秀美 183,187,207,272,273
石川ひとみ 192,194,211,242
いしだあゆみ 76,80-82,90,103,132,134,136
石野真子 69,77,85,183,187,192,194,241
石原裕次郎 19,52,152,154
泉アキ 142,145
いずみたく 12,26-33,121,124,137
いずみたくシンガーズ 32,108
和泉雅子 61,124,137,168
伊丹幸雄 202
五木ひろし 68,71,72,133,154,155,165,164,209
伊東きよ子 19,199
伊東ゆかり 25,68,70,87,103,117,137,140,141
井上順(井上順之)93,172,174,181,184,238
井上大輔(井上忠夫) 203-207,225
猪俣公章 55,154,156,157,177
イモ欽トリオ 235
岩城徳栄 269
岩崎宏美 24,77,79,84,85,87,124,
142,143,189,195,216
岩崎良美 176,239,260,265

う
ウィレッジ・シンガーズ 76,80,117,132,204
植木等 19,23,24,118,119
上田正樹 248,253,258-260,268
宇崎竜童 133,138,224,229,231,233,237
内田あかり 124,128
内田裕也と1815ロックンロールバンド 201
内山田洋とクール・ファイブ 140,134,
147,154,156,162,163

え
H Jungle with T 281,283
H_2O 274,275
エマニエル 269
エミー・ジャクソン 123
M-Rie 279
江利チエミ 49,64,107,111,138,248
遠藤実 150,154,158,159,160,161,181

お
欧陽菲菲 82,83,91,103,123,138,168,177
大石悟郎 174
大信田礼子 63
大瀧詠一 118,234
大竹しのぶ 210
太田裕美 77,79,86,91,138,225,228,
241,242,251,258
大野克夫 109,117,132,139,198,208-211
大野雄二 190,191
大橋純子 85,246,251-253
岡崎友紀 63,77,82,239
岡田奈々 179,183,187
小川知子 137,140,141,168
小川寛興 42,43
小川みき 92
沖田浩之 78,94
荻野目洋子 78,276,277
奥村チヨ 48,50,53,55,60,93,124,
132,138,162,163,168
尾崎亜美 245,260
尾崎紀世彦 10,76,82,84,124,125,127,189,203
小沢深雪 73
織田哲郎 266-269
小田裕一郎 272,273
落合恵子 186
オックス 76,80,92,132,145
男闘呼組 192,195
おニャン子クラブ 278,279
小畑ミキ 132,134
オフ・コース 75

か
海道はじめ 151,153
鍵山珠里 81,226
風見慎吾(風見しんご) 241
梶芽衣子 72
柏原よしえ(柏原芳恵) 78,126,139,
144,176,209,225,236,237,239,244
春日八郎 150,152,154
加瀬邦彦 25,70,200,201,202,210
片平なぎさ 43,49,146,262,263
克美しげる 119
加藤和彦 238,239,260,261
金井克子 124,127,128,138
金井夕子 245
加橋かつみ 111,242
華原朋美 281,284
狩人 68,69,173,179,183
ガリバーズ,ザ 81
GARO 107,109,117
河合奈保子 78,124,176,189-191,
198,238,239,245
川口真 24,60,63,108,110,111,
124-128,137,141,144,168,188,237
川崎龍介 243
河島英五 183,185
川島恵 209,210
神田広美 213,215

き
樹木希林 85,216,227
菊池桃子 255,256,261
岸洋子 26,28,31
来生たかお 199,248
北島三郎 151,153,154,185
喜多條忠 245,263
北原ミレイ 105,152,153,225
北村優子 185
吉川晃司 139,276,277
木之内みどり 209,211,225,229,240
木村カエラ 120,121
キャラクターズ,ザ 175,177
ギャル 126,175
キャンディーズ 22,126,136,142,146,172,182,
187,198,213-218,235,236,240,241,282,283
KinKi Kids 79,192,241

く
久美かおり 75,108
倉沢淳美 144,207
倉田まり子 173,180
クリケッツ 64
クリスタルキング 206
栗田ひろみ 186
クリッパー 179
Qlair 279
呉田軽穂 89,243
Globe 281,283,284
黒木真由美 126,175
桑江知子 180
桑名正博 77,87,269
桑名正博&ティアードロップス 87
桑原一郎 86

け
研ナオコ 85,136,139,224,226,244

こ
小泉今日子 78,139,192,195,198,205,214,278
郷ひろみ 77,79,80,83-85,92,139,179,
192,195,198,202,204,207,216,227,247
ゴールデン・カップス,ザ 48,50,54,60,
62,84,106,110
ゴールデン・ハーフ 125
古今亭志ん朝 119
小坂忠&ウルトラ 191
ゴダイゴ 247,272
小林旭 152,153,159,234
小林麻美 77,82,92,138
小林美樹 123,175
こまどり姉妹 159,160
小室哲哉 124,201,256,266,268,280-284
小柳ルミ子 63,68,70,71,78,137,200,262
近藤真彦 78,88,192,198,266,270,274

さ
ZARD 266-268
西郷輝彦 11,19,48,124,125,138,165,192
西城秀樹 49,50,55,56,64,125,142,143,
146,179,192-194,198,202,203,209,274
斉藤智美 275
斉藤由貴 78,89
堺正章 19,77,95,162
坂上香織 246
榊原郁恵 77,88,183,188,189,192,243,272
榊みちこ 168,229
坂本九 9-13,18,23,24,26,28,30
坂本スミ子 10,25,90
坂本冬美 139,155,157
佐良直美 26,29-31,33,121,162
佐川満男 76,81,103,132,134,136
佐久間浩二 164,165

CamScannerでスキャン

桜田淳子　84,87,133,135,138,182,185,198,209,210,244,272
ささきいさお　24
佐々木早苗　165
佐々木勉　188,189
佐瀬寿一　262,263
佐藤由梨　78,88
沢田研二　22,23,70,108,134,139,198,200-204,208-210,227,272,274
沢たまき　26,28
沢知美　205

し
C-C-B　78,88,139
シェリー　193
志賀真理子　279
篠原涼子　281,283
篠ヒロコ(篠ひろ子)　28,32
しばたはつみ　49,64,191,246,258
シブがき隊　192,204,206,207
渋谷毅　30,31,121,189,190
渋谷哲平　173,179
島倉千代子　19,20,34,35,152,154,158,160
島田歌穂　211
島田奈美　207
清水由貴子　142,143
シモンズ　237,238
子門真人　76,262,263
シャープ・ホークス　48,54,117
ジャガーズ、ザ　43,48,54,61,76
ジャッキー吉川とブルー・コメッツ　51,54,80,83,111,123,127,137,175,177,205
Jack Diamond　83
シャデラックス、ザ　28,31,37
ジャニーズ　11,18
ジャニーズ少年団　247
シャネルズ　203,206
ジュディ・オング　18,77,94
ジュリーとバロン　224,226
朱里エイコ　49,56,63,252
じゅん&ネネ　68,71
ジェット・ブラザース、ザ　62
ジェリー藤尾　9,10
東海林修　70,75,109,111,201,213,215
少女隊　173,180
少年隊　78,89,139,192,270,271
庄野真代　77,87,96,139,238
ジョー山中　191
ジョニー・ティロットソン　18,48,51,61
ジョニー広瀬　159,161
シング・アウト　9,11

す
ズー・ニー・ヴー　84,108,191
菅原文太　224,226
すぎやまこういち　25,34,76,116,117,198,201
スクール・メイツ　61
鈴木あみ　284
鈴木キサブロー　274-276
鈴木邦彦　10,25,48-67,123,188
鈴木淳　55,136,140,141
鈴木道明　34,35
スパイダース、ザ　19,51,54,106,161,174,198,208
スピニッヂ・パワー　267-269
スリー・キャッツ　18
スリー・ディグリーズ　92

せ
芹澤廣明　75,226,264,265
千昌夫　154,159,160

そ
曽我町子　37
園まり　22,23,25,117,118,132

た
タイガース、ザ　23,106,108,111,116,117,200,201,208,272
ダイナマイツ、ザ　48,54,62
ダウン・タウン・ブギウギ・バンド　224-227,230
TAO　206
ダ・カーポ　273
高岡早紀　239
高田恭子　20
高田みづえ　225,229,236
竹内まりや　202,238,252,253,259,261
竹山逸郎　40
田代美代子　18
舘ひろしとセクシー・ダイナマイツ　269
田中美智子　168,229
ダニー・ロング　268,269
ダニエル・ビダル　49,60,204
谷村新司　112,172,236,237
田原俊彦　78,85,89,135,270-273
弾ともや　204,205

ち
ちあきなおみ　9,10,34,35,79,124,126,132,135,136,138,140,141,153,274
チェッカーズ　264,265
チェリーズ、ザ　241
チェリッシュ　77,113,196,197
チェルシア・チャン　91
TUBE　266-268,274
チョー・ヨンピル　144

つ
津川晃　127
筒美京平　48,52,76-105,127,138,139,172,188,196,197,198,213,241,247,258
つなき&みどり　77,83
壺井むつ美　73
鶴田浩二　38,41,154

て
TRF(trf)　280-282
TM NETWORK　280-282
デューク・エイセス　26,30
寺内タケシとバニーズ　26,28,175,189
テレサ・テン　72,77,93,124,138,142,144,155,157,175,203,236
テンプターズ、ザ　106,110,124,198,199,208

と
東京パフォーマンスドール　283
TOKIO　79,90,192,244
都倉俊一　55,172-181,188,210,231,236
Toshi&Naoko　85
殿ゆたか　229
豊川誕　70,146
豊島たづみ　228
トワ・エ・モア　106,108,109,111

な
内藤やす子　225,227
中尾ミエ　25,127,138
中川勝彦　261
中川翔子　79,89,261
中島みゆき　87,139,144,226,244
中島安敏　123
中条きよし　72
中津川みなみ　186
長戸大幸　64,268,269
中原理恵　77,87
中村晃子　42,43,137
中村耕造　38,40
中村泰士　126,132-136,138
中村八大　8-15,21,24,27,48,50-52,54,56,61,63
中村雅俊　32,186,274
中森明菜　133,139,203,206,207,235,246,249,254,260,265,274,275
中山恵美子　35
中山美穂　78,89,267,282
中山美穂&WANDS　266,267
渚まゆみ　20
渚ゆう子　138,168
夏木マリ　124,125,138,193
成清加奈子　266
ナル　206

に
新沼謙治　126,262
西川峰子　145,155
にしきのあきら　20
西崎みどり　73,138
西田佐知子　9,24,34,35,76,81,140,253

の
NOVO　33,109
NOBODY　274,276,277
野口五郎　75,77-79,82,85,93,96,138,196,197,199,202
野村真樹　156,163

は
バーズ、ザ　247
倍賞千恵子　11,43,204
萩田光雄　77,85-87,92,128,138,139,143,180,187,210,226-231,235,240,241,246,250,258,265,271,275,278
萩原哲晶　24,30,118,119
橋幸夫　39-41,48,61,159
旗照夫　36,37
畑中葉子　69,73,262
パティー・リン　195
ハナ肇とクレージーキャッツ　119
浜口庫之助　16-21,38,110,132
浜圭介　162,163
早川めぐみ　265,268
林哲司　246,248-261,272
林寛子　49,214
原田知世　190,243
原真祐美　180
ハリー・ウィリアムス　52,61

ひ
ピーター　106,111,172,181,193,196
ピーナッツ、ザ　21-23,25,49,74,116,117,132,134,160
B.B.クィーンズ　267
ヒデとロザンナ　74-76,81,103,132
一節太郎　159-161
日野てる子　34,35
BIBI　215
ビョルン・アンドレセン　125
平岡精二　21,36,37
平尾昌晃　55,68-73,132,138,141,154,197
平山三紀　77,78,82,83,96,99,102
ヒロシ&キーボー　189
弘田三枝子　11,31,76,80,82,102,124,127,138
広田玲央名　239
ピンキーとキラーズ　26,29,33,111,121,182
ピンク・レディー　172,173,175-178,181,215,244

ふ
フィフィ・ザ・フリー　107,108
恵美(フィミー)　177
フィンガー5　172,174,179,181,194,203,205
フォー・セインツ　26,31
フォーリーブス　26,29,30,48,55,61,95,178,203
藤井隆　89
藤圭子　34,35,70,154-156,163,225,227
藤村美樹　187,217,235
藤本卓也　132,164,165
藤山ジュンコ　32

CamScannerでスキャン

布施明 28.68.71.74.91.124.127.128.
137.189.199.200.202.247.251.274
舟木一夫 41.159.160.161
船村徹 142.150.154.159
フランク永井 36.38.40.41.119
ブルーインパルス、ザ 110
ブロードサイド・フォー、ザ 189
フローラル、ザ 106.108.196

へ ペギー葉山 36.37.68
ペティ&クリス 113.238
ペドロ&カプリシャス 74.138.172-174.177
ベンチャーズ、ザ 65.82.124.137.138.
166-168.200.208.229.249
辺見マリ 106.110
ベン・ミラー 159.161

ほ 樋口雄右 43.175.198.212-220
細川たかし 133.135.153
細野晴臣 81.108.210.235
ボニー・ジャックス 11.31
ボニーテール 242
ポプラ 247
堀ちえみ 265.274

ま マーガレット・ポー 128
マイク真木 18.20
馬飼野康二 55.64.86.88.96.126.128.
146.177.184.192-196.202.206.226.
227.229.237.240.241.263.278
馬飼野俊一 37.55.70.109.111.113.
135.144.163.174.177.186.192.
196.197.205.227.238.240.269
牧葉ユミ 238
槇みちる 22.24.127
増田けい子(増田恵子) 244
町田義人 108.191
松尾和子 36.38.40
松尾ジーナ 184
松崎しげる 96.192.194.224
松田聖子 69.88.89.135.139.176.207.
234.235.239.243.245.272.273.278
松任谷由実 242.243
松原みき 252-254.259.261.272
松本伊代 78.261
松本めぐみ 43
マモル・マヌー 62.84
黛ジュン 48.50-54.60.65.122.123.142.145.168
マルシア 155.157

み 三木聖子 209.211.242
三木たかし 53.93.142-149.168.188.216.231
水谷豊 73
Mistral, Le 90
水原弘 8-10.12.20.147.154.156.165
美空ひばり 36.41.122.151-154.189
三田明 39.41
ミッキー吉野 247
南沙織 77.79.82.85.86.91.92.103.
138.213.245
南野陽子 180.270.271.274
三波春夫 9.11.12.39.154
三浜鉄平 91
三原順子 176.264
宮川泰 21-25.69.70.117.124.127.137.200
都はるみ 133.135.154.155
宮沢りえ 282
宮下智 270.271
三善英史 163
村井邦彦 106-115.188.198.242.249.263

む 村田英雄 150.152.154.159.165

望月浩 78.119
も モップス、ザ 106.115.188.189
森進一 78.126.137.147.154.157.
164.198.234.240
森田健作 55.56.62
森田公一 138.179.182.198.210.215.244
森田公一とトップギャラン 38.179.182.185.186
森昌子 159.161.162
守屋浩 18
森山加代子 11.36.162.197
森山良子 107-109.113.120.142.145.182

薬師丸ひろ子 78.89.191.234.243.246
や やしきたかじん 236.237
八代亜紀 138.140.141.152.153.209
安田成美 235
柳ジョージ 275
柳ジョージ&Nadja バンド 211
矢吹健 164.165
山内賢 61.124.137.168
山川恵津子 78.278.279
山口いづみ 49.56.63
山口百恵 69.96.124.133.138.139.
172.177.207.224.225.227.228.230.
231.236.237.262.263
山本達彦 277
山本リンダ 11.33.81.159.161.172-175.177.181
ヤン・シスターズ 49.123

ゆ 優雅 77.91
YUKI 239
由紀さおり 26.31.81.120.121.124.127.229.240

よ 吉沢京子 23
吉田拓郎 96.240.241
吉田正 38-41.158.159
吉田真梨 146
吉田美奈子 234
吉永小百合 11.40.61.230
芳本美代子 69.78.207

ら ライオンズ、ザ 122.123

り リード、ザ 48.54.62
李木蘭 49.157
リトル・ギャング 194
リリーズ、ザ 183.187

る ルー・フィン・チャウ 236.237

れ レイジー 179.198.200
レオナルド 200.229

ろ ロイヤルナイツ 24
ロス・インディオス&シルヴィア 189

わ ワイルドワンズ、ザ 74.137.200.201.263
ワカとヒロ 74.75.226
和田アキ子 60.128.172.181.182.
184.192.193.196.197.224.226
渡辺たかし 143.145
渡辺徹 274.275
渡辺典子 225.228
渡辺満里奈 278.279
渡辺美里 280.282
和田弘とマヒナスターズ 18.35.40
鰐淵晴子 28
わらべ 144.207

執筆者プロフィール

[illegible] [illegible]
[illegible]

大[illegible] [illegible]
[illegible]

小川[illegible]一 [illegible]
[illegible]

ガモウユウイチ
音楽ライター／ベーシスト。[illegible]

[illegible]ひろと [illegible]
[illegible]「リメンバー」[illegible]

鈴木啓之 (すずき・ひろゆき)
アーカイヴァー。1965年東京生まれ。テレビ番組制作、中古レコード店勤務を経て、ライター及びプロデュース業。著書に[illegible]「昭和歌謡レコード大全」など。

原田和典 (はらだ・かずのり)
日本のロックンロールの草分け「ブーツ・ブラザーズ」の原田[illegible]を父に持つ。[illegible]音楽雑誌編集長を経て、[illegible]エンタテインメント[illegible]の道へ。

ベラ氏 (べらし)
現在の本業・ギター流し。Suri Yamuhi & The Babylon Bandの一員として「[illegible]ナイツ」「バビロン2 －THE OZAWA－」等の空間作品で演奏・作曲を手がける。[illegible]他64～66年の米ポップスにも精通している。

馬飼野元宏 (まかいの・もとひろ)
本書監修人。月刊映画雑誌「映画秘宝」編集部所属。編著に「昭和歌謡ポップスアルバムガイド1959-1979」(シンコーミュージック・エンタテイメント)など。

真鍋新一 (まなべ・しんいち)
昭和62年生まれ。アマチュア編集者。ライターとしては「ビートルズ・ストーリー」(音楽出版社)、「週刊てりとりぃ」などに寄稿。中古レコード屋さんと名画座を愛する青二才です。

安田謙一 (やすだ・けんいち)
ロック漫筆家。著作に「ピントがボケる音」「なんとかとなんとかがいたなんとかズ」「神戸、書いてどうなるのか」がある。

CamScannerでスキャン